滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事

図面リスト

番号	図面名称	縮尺
A-01	建築改修工事特記仕様書（1）	NOSCALE
A-02	建築改修工事特記仕様書（2）	NOSCALE
A-03	建築改修工事特記仕様書（3）	NOSCALE
A-04	工事区分表	NOSCALE
A-05	配置図　附近見取図	1/1500,4000
A-06	環境科学部棟　1階平面図	1/300
A-07	環境科学部棟　2階平面図	1/300
A-08	環境科学部棟　3階平面図	1/300
	B0　中央棟	
A-09	B0　1階便所平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
A-10	B0　2階便所平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
A-11	B0　1階便所展開・天井伏図（改修前）	1/50
A-12	B0　1階便所展開・天井伏図（改修後）	1/50
A-13	B0　2階便所展開・天井伏図（改修前）	1/50
A-14	B0　2階便所展開・天井伏図（改修後）	1/50
A-15	B0　矩計図（改修前・改修後）	1/50
	B4　環境資源管理学科棟	
A-16	B4　1～3階便所平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
A-17	B4　1～3階便所展開・天井伏図（改修前）	1/50
A-18	B4　1～3階便所展開・天井伏図（改修後）	1/50
A-19	B4　矩計図（改修前・改修後）	1/50
	B6　環境生態学科棟	
A-20	B6　1～3階便所平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
A-21	B6　1～3階便所展開・天井伏図（改修前）	1/50
A-22	B6　1～3階便所展開・天井伏図（改修後）	1/50
A-23	B6　矩計図（改修前・改修後）	1/50
A-24	建具リスト	1/50
A-25	建具詳細図	1/5
A-26	ピクトサイン詳細図（1）	1/2
A-27	ピクトサイン詳細図（2）	1/2

建築工事改修特記仕様書

Ⅰ 工事概要

工事名称	滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事
工事場所	滋賀県彦根市八坂町2500　　敷地面積　303.260　㎡
用途規制	第１種低層　第２種低層　第１種中高層　第２種中高層　第１種住居　第２種住居 準住居　近隣商業　商業　準工業　工業　工業専用　指定なし
防火規制	防火地域　準防火地域　法22条指定区域　指定なし
その他の規制	風致地区　自然公園　宅造規制区域　市街化区域　市街化調整区域 風速　Ｖｏ（　３４　）ｍ／ｓｅｃ　地表面粗度区分（　Ⅲ　） ・多雪区域　垂直積雪量（　　）ｃｍ
工事期間・限	１５０　日
工事種目	新築　増築　改修　解体　改築

NO	名称	工種	構造	床面積（㎡） 1階	2階	3階	塔屋	棟別合計	備考
1	環境科学部棟　B0棟	改修	ＲＣ						1階2階男女便所
2	環境科学部棟　B4棟	改修	ＲＣ						1～3階男便所
3	環境科学部棟　B6棟	改修	ＲＣ						1～3階女便所

概要説明　本工事は滋賀県立大学の「環境科学部棟　B0棟」「環境科学部棟　B4棟」「環境科学部棟　B6棟」にある便所の改修工事を行う。
上記に付随する電気設備、機械設備も本工事とする。

別途工事

Ⅱ 建築工事仕様

1　図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書　最新版」（以下「標仕」という）および「公共建築改修工事標準仕様書　最新版」（以下「改修標仕」という）による。
（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事監理指針　最新版」および「建築改修工事監理指針最新版」を参考とする。）

2 特記仕様　1　項目は番号に ◯ 印のついたものを適用する。
2　特記事項は ⊙ 印のついたものを適用する。
⊙ 印のない場合は ※ 印のあるものを適用する。
⊙ 印と ※ 印のある場合はともに適用する。
3　特記事項に記載の（　）内表示番号は、標仕の当該項目、当該表、当該図を示す。

章	項目	特記事項

① 一般共通事項

① 施工基準

本工事は、滋賀県建設工事執行規則に基づき、工事請負契約書及び同約款を遵守し、本特記仕様書を含む図面　２７　業、標仕により完全に施工する。
上記相互間に相違のある場合の優先順位は、記載の順序とする。　(1.1.1)

② 完成図

完成図の種類、記入内容および様式は標仕により作成し、原図、ＣＡＤデータおよび焼付製本（縮小版Ａ４サイズ）３　部を提出するものとする。なお、標仕の表1.7.1の完成図に本特記仕様書を加えたものとする。
(1.7.1.1.7.2)

③ 保全に関する資料

保全に関する資料は標仕により作成し、監督職員に指示された必要部数の原本、複写図および電子データを提出するものとする。なお、作成に際しては、国土交通省作成の「建築物等の利用に関する説明書作成の手引き」を参考とし、詳細については監督職員の指示による。　(1.7.3)

④ 工事写真

工事管理写真はカラーとし、その内容が明確に判別できるものとする。デジタル写真とする場合、使用するデジタルカメラの総画素数は200万画素以上、記録画素数は640×480画素以上とする。

区分	分類・規格	撮影箇所	部数	備考
着工前	サービス版	・　・ 9 ⊙ 30	1	状況によりつなぎ写真
工事中	サービス版		1	必要に応じ適宜
完成時	サービス版	・　⊙ 9 ・ 12	3	完了届提出用
定期提出	サービス版	※ 3 ・ 6 ・ 9	1	工事月報用
竣工写真	※ サービス版 ・ キャビネ版	・　・ 5 ⊙ 7	2	主として外観
	サービス版	・　⊙ 10 ・ 20	2	主として内観
	竣工写真については、銀版写真の場合はネガ、デジタル写真の場合はファイル形式をＪＰＥＧとし、ＦＤ、ＭＯ、またはＣＤ-ＲＯＭにて提出すること。			

工事写真の撮影要領は、「工事写真の撮り方・建築編」(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)による。
完成写真の撮影場所は監督職員の指示による。 工事写真キャビネ版はアルバム台紙に、サービス版は工事写真帳に貼り付けて提出すること。

⑤ 技術検査

工事施工途中において、適宜中間技術検査を行う。　(1.6.2)

⑥ 現場代理人

原則として、現場代理人は他の工事と重複して従事することはできない。
契約約款第10条第3項の規定に基づく現場代理人の常駐義務を緩和する期間および本工事における現場代理人が他の工事の現場代理人を兼務できる条件は、別に定める「現場代理人の常駐に関する運用基準（滋賀県土木交通部）」による。
①現場代理人の常駐を要しない期間
・請負契約の締結日の翌日から令和＊＊年＊＊月＊＊日までの期間については現場代理人の工事現場への常駐は要しない。
⊙請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、現場代理人の常駐を要しない。
なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。
②工事が完成し、事務手続き、後片付け等のみが残っているなど、工事現場において作業等が行われていない期間については、現場代理人の工事現場への常駐を要しない。
現場代理人は、受注者との直接的な雇用関係が確認できる資料を監督職員に提出すること。

⑦ 技術管理

受注者は、建設業法に定める専任の技術者の任命を行い、現場に派遣し技術管理にあたらせること。
①　技術者の専任を要しない期間
・　請負契約の締結の日の翌日から令和　　年　　月　　日までの期間については、主任技術者または監理技術者の工事現場への専任は要しない。
⊙　請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。
なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。
②　滋賀県建設工事請負契約約款（以下「契約約款」という）第31条第2項の規定に基づく検査を完了した日から契約期間満了までの期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。
なお、検査を完了した日とは、発注者が契約約款第31条第2項に基づく当該検査の結果を通知した日（契約約款第31条第6項に該当するものを含む）とする。
また、日程の都合上、契約工期満了後に検査が行われる場合は、契約工期満了後の監理技術者等の工事現場への専任を要しない。

8 技能士

各工種の作業については、極力技能士の資格を有する者に作業をあたらせること。　(1.5.2)
また、受注者は、○印のついた工事種別および技能検定の職種について、職業能力開発促進法による一級技能士または単一等級の資格を有する者を、１職種１名以上該当工事作業中工事現場（資材製作加工の場合は製作所）に常勤させるとともに、作業に先立ち事前にその氏名等を監督職員に届け出なければならない。
・仮設工事(とび)　・鉄筋工事(鉄筋)　・コンクリート工事(・型枠 ・ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送)
・鉄骨工事(構造物鉄工)　・ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ/ALCﾊﾟﾈﾙ工事(・CB積 ・ALCﾊﾟﾈﾙ施工)
・防水工事(・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水 ・合成ｺﾞﾑﾘｰﾄ防水 ・ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水 ・塩ビシート防水 ・ｾﾒﾝﾄ系防水 ・ｼｰﾘﾝｸﾞ)
・石工事(・石張り ・石積み ・石材加工)　・タイル工事(タイル張り)　・木工事(建築大工)
・屋根及びとい工事(・屋根金属薄板葺きおよびとい設置 ・かわらぶき ・石綿スレート葺き)
・金属工事(鋼製下地)　・左官工事(・金こて仕上,ﾓﾙﾀﾙ塗り,吹付 ・断熱硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付)
・建具工事(・ｻｯｼ施工 ・ｶﾞﾗｽ加工取付 ・木製建具加工取付 ・自動ドア取付)　・塗装工事(塗装)
・カーテンウォール工事(金属製カーテンウォール施工)
・内装工事(・表具 ・壁装 ・畳製作施工 ・ﾌﾞﾗｽﾁｯｸ系床施工 ・ｶｰﾍﾟｯﾄ系床施工 ・ｶｰﾃﾝ施工 ・ﾎﾞｰﾄﾞ仕上)
・排水工事(配管)　・植栽工事(植栽)　・外壁改修工事(樹脂接着剤注入施工)

⑨ 建築材料等

建築材料等は、極力県内産品を選定することとし、製品等は特記されたものまたは同等品以上とする。
ただし、同等品以上とする場合は監督職員の承諾を受けること。
工事で使用する各種塗料類、接着剤類、その他の材料のホルムアルデヒド放散量はＦ☆☆☆☆とする。
あわせて、その他室内空気汚染（揮発性有機化合物）対策として、その原因となる物質の含有量が低濃度である材料を極力選定する。（標仕を参考とすること。）　(1.4.1)
さらに、環境配慮の視点から、以下の材料の利用に努めること。
（1）グリーン購入法に基づくエコマーク商品
（2）建設リサイクル法により再資源化されたリサイクル製品、材料
（3）滋賀県リサイクル製品認定制度に基づく滋賀県リサイクル製品
（参考URL http://www.pref.shiga.jp/d/haikibutsu/gomizero/h2112reeflet.pdf）　(1.4.1)
工事に使用する材料は、アスベストを含有しないものとすること。　(1.4.1)
製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（林野庁　平成18年2月15日）に準拠した証明書を、監督職員に提出すること。
(1.4.2)

⑩ 材料の検査に伴う試験

試験は、原則として公的試験場で行うものとし、その場所の決定にあたっては監督職員の承諾を受けること。

⑪ 特殊な材料の工法

標仕に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。

⑫ 各種検査合格書等

各種検査を必要とするもの、責任施工のもの等は、各合格書又は保証書およびその写し各１部を提出すること。なお、責任施工のものは、受注契約者・施工下請業者・材料製造所の連名書とする。

⑬ 設備工事との取合

各設備工事によるコンクリート部分の梁、壁、床の貫通補強及び仕上げ部分、軽量鉄骨天井下地、同壁下地の開口補強は建築工事とする。その他　A-04図　工事区分表による。　(1.3.11)

⑭ 下請け業者の選定

各種下請業者、製造所等県下で供給出来るものについては、極力県内業者を選定すること。

⑮ 公害対策

工事着手前に付近の状況を調査し、騒音、振動、塵埃の発生、土壌汚染、排水汚染等公害発生のなきよう、工事竣工まで万全の対策を講ずること。　(1.3.8)

⑯ 産業廃棄物の処理

受注者は、産業廃棄物を適正に処理するにあたり下記事項を含め、事前に監督職員に施工計画書を提出して承諾を受けること。
(1) 本工事に使用する特定建設資材及び排出する特定建設資材廃棄物については、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）を厳守し、分別解体及び再資源化等実施すること。
(2) 「資源の有効な利用の促進に関する法律」（リサイクル法）及び建設副産物適正処理推進要綱を厳守し、建設副産物の発生抑制および再利用の促進に努めること。また再生資源利用【促進】計画書および同実施書を作成し速やかに報告のこと。
(3) 受注者は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を厳守し、同法第１２条の３によるマニフェストシステムにより的確に実施すること。

17 発生材の処理

引渡しを要するもの：

18-1 保険の付与及び事故の補償（法定外の労災保険の付保）

本工事において、受注者は法定外の労災保険に付きなければならない。

18-2 保険等

受注者は工事の内容に応じた火災保険、建設工事保険等を工事目的物に付するものとする。

⑲ 安全対策

※　工事車両の出入りについては、速度制限を厳守し、危険防止に努めること。また、必要に応じて交通整理員を配置するとともに、近隣家屋に騒音、振動等の公害が発生しないよう留意し、工事全般に万全の対策を講ずること。また、施設運営についても担当者と協議を行い、支障のないよう努めること。
※　別添仮設計画図・配置図等により示された仮設計画を参考に、受注者にて構造、施工方法について十分検討のうえ、関係法令に従い安全堅固に設置すること。

⑳ 総括安全衛生管理義務者

労働安全衛生法第３０条第２項の総括安全衛生管理義務者には、（※建築工事　・　電気設備工事　・　機械設備工事）　の請負人を指名する。

㉑ シンナー等の保管

シンナー等については、工事現場に放置することなく、保管を厳重に行い盗難を防止するとともに、保管数量についても、作業前、作業終了後の確認等確実な管理を行うものとする。

㉒ 火気の管理

敷地内は、工事ヤード内、車両内を含めて終日全面禁煙とする。

㉓ 過積載防止の措置

受注者は過積載等の違法運行防止を図るため、道路交通法を遵守する旨を記載した施工計画書を提出すること。

㉔ 騒音振動の防止

受注者は、「低騒音・低振動型建設機械の指定に関する規程（平成13年国土交通省告示第487号）」に基づき指定された建設機械（“97ラベル”）を使用すること。

㉕ 工事実績情報の作成及び登録

受注者は、工事請負代金500万円以上の工事について、工事実績情報サービス（CORINS）入力システムに基づき、「登録のための確認のお願い」を作成し、監督職員の確認を受けた後、（一財）日本建築センター（JACIC）に登録を行うこと。
登録申請の期限は以下のとおりである。
(1) 受注時登録データの提出期限は、契約締結後10日（土、日、祝日、年末年始を除く）以内とする。
(2) 完了登録データの提出期限は、工事完了後10日（土、日、祝日、年末年始を除く）以内とする。
(3) 施工中に受注時登録データの内容に変更があった場合は、変更があった日から10日以内に変更データを提出しなければならない。
登録後は速やかにセンター発行の「登録内容確認書（工事実績）」を監督職員に提出すること。

26 余裕期間制度（任意着手方式）

1．本工事は、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間（契約締結日から工事開始日の前日までの期間）を設定した工事であり、発注者が示した工事開始期限日までの間で、受注者は工事開始日を任意に設定することができる。
なお、受注者は、契約を締結するまでの間に、所定の様式により、工事開始日を通知すること。
取り扱いについては、「工事における余裕期間制度実施要領（令和２年２月）（滋賀県）」および「建設工事における余裕期間制度 運用マニュアル（令和２年２月）（滋賀県土木交通部）」に基づくものとする。
2．余裕期間内は、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入、仮設物の設置等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。
3．余裕期間内は、主任技術者または監理技術者を配置することを要しない。また、現場代理人は工事現場に常駐しないものとする。
4．コリンズ へ登録する技術者の従事期間は、実工期をもって登録するものとする。（余裕期間を含まないことに留意するものとする。）
5．受注者は工事開始日の前日までに現場代理人等を定め、所定の様式により届け出るものとする。
6．実工期：工事開始日から＊＊＊日間
（ただし、令和＊＊年＊＊月＊＊日（工事開始期限日）までに工事を開始すること。）

契約締結後において、工事開始日の変更の必要が生じた場合は、監督職員と協議の上、工期に係る契約を変更することにより、工事開始日の変更をすることができる。
なお、低入札価格調査等により、上記の工事開始期限日以降に契約締結となった場合には、余裕期間は適用しない。

㉗ 施工体制点検

「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」に従い、施工体制を講じること。

㉘ 設計ＧＬ

※　図示　・　監督職員が現場にて決定する。　⊙既設建築物ＦＬから導き出されるＧＬ

㉙ 揮発性有機化合物の室内濃度測定

平成18年国土交通省告示第1130号に基づく「評価方法基準　第5 6-3 (3)」に定められた方法によること。
測定箇所：　(1.5.9)
（計　　か所）
測定化学物質：ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ、ｽﾁﾚﾝ、ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ

㉚ 不法無線局の排除

受注者は電波法を遵守し、不法無線局を搭載した工事車両を使用しないものとし、工事現場において、不法無線局を搭載していると疑わしい車両を発見したときは、速やかに監督職員にその旨報告すること。

㉛ 取扱説明書の作成

竣工引渡し時に取扱説明書等必要書類を必要部数作成し、ファイリングして提出すること。　(1.7.3)
（部数、詳細については、監督職員の指示による。）

32 近隣住民等への説明

受注者は、施工に先立ち地元自治会、近隣住民等に工事施工内容の説明を行うこと。

33 近隣家屋の調査

受注者は、工事の着手前および完了後に、図示部分の近隣家屋・工作物等の調査を実施し、工事に起因する損傷等の有無を確認すること。万一、損傷等が生じた場合は受注者の責任において現状に復旧すること。
また、受注者自ら必要と思われる図示以外の近隣家屋・工作物等についても調査を行うこと。

㉞ ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ

バリアフリー化にあたっては、「だれもが住みたくなる福祉滋賀のまちづくり条例」を遵守すること。

35 住宅性能評価

受注者は、「住宅の品質確保の促進等に関する法律」を遵守し、住宅性能評価書に示された品質を確保すること。

㊱ 暴力団員等による不当介入の排除

滋賀県の発注する建設工事等における暴力団員等による不当介入の排除について（「不当介入に関する通報制度」の徹底について）
1 受注者は、暴力団員等（暴力団の構成員および暴力団関係者、その他県発注工事等に対して不当介入をしようとするすべての者をいう。）による不当介入（不当な要求または業務の妨害）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うものとする。
2 受注者は、前項により通報を行った場合には、速やかにその内容を記載した通報書（別記様式第１号）により所轄警察署に届け出るとともに、監督職員に報告するものとする。
また、受注者は、以上のことについて、下請負人に対して十分に指導を行うものとする。
3 受注者は、暴力団員等による不当介入を受けたことが明らかになり、工程等に被害が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

37 環境配慮指針

公共建築に係る環境配慮指針実施要領に基づく、チェックシートを作成し提出しなければならない。

38 週休２日取組促進型工事

・　発注者指定方式
本工事は、発注者が工事着手日から工事完了日までのうち、非対象期間を除いた期間において４週８休以上の現場閉所に取り組むことを指定する週休２日取組促進型工事（発注者指定方式）である。費用の計上等の運用等にあたっては、「（営繕工事版）週休２日取組促進型工事実施要領」により行う。
4週8休以上の現場閉所（現場休息）を前提に労務費を補正して予定価格を作成しており、4週８休に満たない場合は、請負代金額のうち労務費補正分を減額変更する。
受注者が明らかに週休２日に取り組む姿勢が見られず、発注者からの再三の指示に対しても従う意思が見られなかった場合は、実施状況に応じて工事成績を減ずる措置を行うものとする。
なお、学校の長期休暇（夏休み、冬休み、春休み）は、監督職員と協議の上、非対象期間とすることができる。
・　発注者希望方式
本工事は、発注者が工事着手前に発注者に対して週休2日に取り組む旨を協議した上で工事を実施する週休２日取組促進型工事（発注者希望方式）である。費用の計上等の運用にあたっては、「（営繕工事版）週休２日取組促進型工事実施要領」により行う。
４週８休以上の現場閉所（現場休息）を前提に労務費を補正して予定価格を作成しており、４週８休に満たない場合は、現場閉所（現場休息）の状況に応じて請負代金額のうち労務費補正分を減額変更する。
週休２日の取り組みを実施しない場合は、請負代金額のうち労務費補正分を減額変更する。

39 各種申請業務

工事に必要な各種申請業務はすべて受注者の責任において申請を行うこと。
許可申請・届出書等の変更が必要な場合は本工事において手続きを行うこと。
また、その費用（手数料等）は、一切受注者負担とする。

40 新型コロナウイルス対策

※　施工計画書の提出を求める工事
受注者は、施工計画書の作成にあたり、「その他」の事項として新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を記載するものとする。
必要と認める拡大防止対策のうち共通仮設および現場管理の範囲を超え、受注者が追加で費用を要する拡大防止対策を行う場合は、受発注者間で設計変更の協議を行うこととする。
協議における資料は受注者の負担により作成するものとする。
・　施工計画の提出を求めない工事
受注者は、施工計画の提出を要しない。
ただし、「施工計画書作成要領（案）」の基づき、「実施工程表」および「緊急時の体制及び対応」は提出するものとする。また、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策」についても提出するものとする。
必要と認める拡大防止対策農地共通仮設および現場管理の範囲を超え、受注者が追加で費用を要する拡大防止対策を行う場合は、受発注者間で設計変更の協議を行うこととする。協議における資料は受注者の負担によるものとする。

41 建設工事公衆災害防止対策要綱

建設業法（昭和24年法律第100号）第25条の27第2項の規定に基づき「建設工事公衆災害防止対策要綱（国土交通省告示第496号　令和元年9月2日、以下「新要綱」）」が告示されたため、公共建築工事標準仕様書に位置付けのある「建設工事公衆災害防止対策要綱」は新要綱に読み替える。

42 別途工事との連絡協議

受注者は、別途施工する工事の業者間で互いに連絡を取り、定期的に協議を行い、工事施工上の調整を図ること。また、工事区分の取合いについて、図示がある場合においても施工時に必要に応じて協議を行い連絡を密にすること。

43 その他調査等

本工事に関連して実施される国、県又は関係機関の調査等に協力すること。

44 特例監理技術者

1．本工事において、建設業法第26条第３項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「特例監理技術者」という。）の配置を行う場合は以下の（１）～（８）の要件を全て満たさなければならない。
（１）建設業法第26条第３項ただし書きによる監理技術者の職務を補佐するもの（以下、「監理技術者補佐」という。）を選任で配置すること。
（２）監理技術者補佐は、一級施工管理技士補又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条規定に基づく技術検定種目は、特例監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。
（３）監理技術者補佐は入札参加者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。
（４）同一の特例監理技術者が配置できる工事の数は、本工事を含め同時に２件までとする。
（ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるもの（当初の請負契約以外の請負契約が随意契約により締結される場合に限る。）については、これら複数の工事を一の工事とみなす。）
（５）特例監理技術者が兼務できる工事は同一土木事務所管内（土木事務所、支所）の工事でなければならない。
（６）特例監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回および主要な工程の立会等の職務を適正に遂行しなければならない。
（７）特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。
（８）監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。
2．本工事の監理技術者が特例監理技術者として兼務する事となる場合、前項（１）～（８）の事項について確認できる書類を下記により提出すること。
（１）監理技術者補佐の資格を有する書類（一級施工管理技士等の国家資格者などの合格証など）
（２）（１）の提出書類と同じ
（３）監理技術者補佐の直接的かつ恒常的な雇用関係を証明する書類（３ヵ月以上の雇用関係を証明できる健康保険被保険者証の写しなど）
（４）特例監理技術者が兼務する工事のＣＯＲＩＮＳの写し等
（５）（４）の提出書類と同じ
（６）業務分担、連絡体制等を記載した書類（施工計画書など）
（７）（６）の提出書類と同じ
（８）（６）の提出書類と同じ
3．本工事において、特例監理技術者および監理技術者補佐の配置を行う場合または配置を要さなくなった場合は適切にＣＯＲＩＮＳへの登録を行うこと。

㊺ その他

本工事に関連して実施される国、県または関係団体の調査等に協力すること。

㊻ 作業時間等について

作業日の制限について
（１）次の日は現場作業を実施しないこと。
・共通仕様書を参照のこと。
（２）（１）以外にも作業の制限を要請する場合があるため、協力するよう努めること。
作業時間の制限について
（１）作業時間については本学の運営に十分配慮した時間帯とする。
解体工事、貫通工事等の騒音、振動作業は原則、授業時間帯は出来ないものとする。
（２）建物により利用時間が異なるため、本学監督員と調整を行う事。
その他
（１）斫り解体などの騒音を伴う工事については、講義を実施しない8/6~8/23（8/18,19を除く）に集中して行うこと。

② 仮設工事

1 監督員事務所

監督員事務所の規模　（　・１０㎡・２０㎡・３５㎡・６５㎡・１００㎡）程度
備品　机、いす、書棚、黒板、ゴム長靴、雨ガッパ、保護帽、安全帯、衣類ロッカー
請負人加入電話の子機、冷暖房機器、消火器等監督職員の指示による。

② 仮囲い

図示による他、万能鋼板、金網、フェンスバリケード等の仮設計画を立案し、施設管理者、監督職員らと協議の上設置する。

③ 工事用水

構内既存の施設　⊙ 利用できる （ ※ 有償 ⊙ 無償 ）　・ 利用できない
（但し現場事務所にかかるものは有償）

④ 工事用電力

構内既存の施設　⊙ 利用できる （ ※ 有償 ⊙ 無償 ）　・ 利用できない
（但し現場事務所にかかるものは有償）

⑤ シート養生

必要に応じて室内外の壁、天井、床等シートで養生する。
溶接作業を行う場所については、防災シートを使用し、防火対策を講ずる。

⑥ 足場

⊙「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。
内部足場　※脚立、足場板等　・ ローリングタワー　・ 枠組棚足場
防護シート等　・防音パネル　・防音シート　・養生シート　・ネット及び養生シート
材料、搬去材等の運搬方法　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種　[表2.2.1]

⑦ 既存部分の養生

既存部分の養生　※行う（　※ビニールシート　・　　）
・行わない
既存家具等の養生　・行う（　※ビニールシート　・　　）
・行わない
既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管　・行う　・行わない
養生の方法　・取り外しのうえ清掃

⑧ 仮設間仕切り

⊙設ける　・Ａ種　⊙Ｂ種　※Ｃ種
・設けない

⑨ 交通誘導員

交通誘導員を工事車両の出入口など必要と思われるところに適宜配置すること。
工事期間中の交通誘導員を延べ30人程度計上すること。

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称：滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事 図面名称：建築工事特記仕様書（１）　NOSCALE 図面No. A-1 設計日 2024年3月

3 土工事

1 埋戻し及び盛土　　種別　・Ａ種　※Ｂ種（不足分は良質土搬入のこと）・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)（表3.2.1）
・建設汚泥から再生した処理土

2 建設発生土の処理　　※現場説明書による　・構外搬出適切処理　(3.2.5)
・構内指示の場所にたい積　・構内指示の場所に敷き均し

3 山留め　　・自立鋼矢板　・切梁腹起鋼矢板　・松矢板　(3.3.1)
・その他（　法付けオープンカット工法　）
施工箇所

4 騒音・振動の防止　　低騒音型、低振動型建設機械指定要領に基づき指定された建設機械を使用する。

4 地業工事

1 床下防湿層　　施工箇所　※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下　(4.6.6)
ポリエチレンフィルム　t=0.15

2 砕石　　※ＲＣ-40　・C-40

3 地盤調査　　表面波探査法による地盤調査

4 基礎支持地盤の確認　　根切完了後、監督職員の確認、承諾を得ること。また、支持地盤が設計支持力が得られないと見込まれる場合は、監督職員と打合せの上適切な処置をとること。

上記以外は構造特記仕様書による

⑤ 鉄筋工事

図示による

⑥ コンクリート工事

図示による

7 鉄骨工事

1 耐火被覆　　(7.9.2～7)

種　別		所要性能及び適用構造部位
・ラス張りモルタル塗り		・耐火１時間
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール	・耐火１時間（比重0.28以上、厚さ25mm）
	・半乾式吹付けロックウール	／１号検多目的便所　見え隠れ部分柱・梁
	・湿式ロックウール	
	・	
・耐火板張り　ALC平板パネル　t=50		
・繊維混入ケイ酸カルシウム板（１号）張　t=20　／１号検多目的便所　見え掛部分柱		

上記以外は構造特記仕様書による

8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造　　※空洞ブロック16　・空洞ブロック16ーW　(8.2.2)

2 コンクリートブロック帳壁及び塀　　※標仕表8.3.1及び下表による　(8.3.2)

適用箇所		厚さ（mm）
・間仕切壁　・地下二重壁　・外壁		・150　・120　・100
・塀	高さ　２m以下	・
	高さ　２mを超える	・
・衛生配管用裏積みブロック		・100

3 ＡＬＣパネル　　(8.4.2～6)（表8.4.2～4）

種　類	単位荷重（N/m²）	厚さ（mm）	取付け工法種別
・外壁パネル	・1180　・1960	・100（平ﾌﾟﾗｰﾅｰﾊﾟﾈﾙ）	・Ａ種　・Ｂ種
		・125（ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ）	・Ａ種　・Ｂ種
		・150	・Ａ種　・Ｂ種
・間仕切壁パネル		※100　・	・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種
・屋根パネル	・980	※100　・	・Ｆ種　・
・床パネル	・2350　・3530	・100　・150	

外壁パネル：１号棟　多目的便所外壁、接続部１号棟外壁開口閉塞部
・床パネルの耐火性能（・1時間　・2時間）

4 押出成形セメント板（ECP）　　(8.5.2～6)（表8.5.1～2）

種　類	表面形状	厚さ（mm）	幅（mm）	工法種別
・外壁パネル	※F　・F－R			・Ａ種
	・D　・D－R			・Ｂ種
	・T　・T－R			
・間仕切パネル	※F　・F－R			・Ｂ種
	・D　・D－R			・Ｃ種
	・T　・T－R			

耐火性能　・有り（　）
・無し

⑨ 防水工事

1 アスファルト防水　　(9.2.2～3)（表9.2.3～8）

種　別	施工箇所
・ＡＩ－２	
・Ａ－２	
・Ｄ－２	
・ＢＩ－２	
・Ｅ－２	

アスファルト　※３種　・４種　(9.2.2)
断熱工法の断熱材　厚さ（mm）　・25　・　(9.2.2)
ただし、特定フロンを含まないもの。
立上り部の保護
・乾式保護材　・押出成形セメント板（厚さ　15mm）　(9.2.5)

2 改質アスファルトシート防水　　(9.3.2～4)（表9.3.1）

種　別	・ＡＳ－１　・ＡＳ－２	厚　さ	（　）
施工箇所	・		

3 合成高分子系ルーフィングシート防水　　(9.4.2～3)（表9.4.1）

種　別	厚さ（mm）	施工箇所	仕上げ塗料塗り	使用分類
・Ｓ－Ｆ１	※1.2　・		・シルバー	・非歩行
・Ｓ－Ｆ２	※2.0　・		・カラー	・軽歩行
・Ｓ－Ｍ１	※1.5　・			
・Ｓ－Ｍ２	※1.5　・		・防滑性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ張	
・Ｓ－Ｍ３	※1.2　・			

4 金属下地断熱防水工法　　金属下地　JEF建材　QLルーフ
断熱材　面材付ポリスチレンフォーム３種ｂ　t=35mm
一部
防水工法　非歩行用　機械固定式塩ビシート防水（立上り共）　t＝1.5mm

5 塗膜防水　　・ウレタン塗膜防水　Ｘ－２　(9.5.3)（表9.5.1）
施工箇所：

6 塗布防水　　・無機質浸透性塗布防水材　（ケイ酸質系塗布防水材）
施工箇所：１号棟多目的便所増築部　外部巾木

⑦ シーリング　　下表以外は、標仕表9.6.1による　(9.6.2)（表9.6.1）

種　別（記　号）	施工箇所
MS-2（ﾉﾝﾌﾞﾘｰﾄﾞﾀｲﾌﾟ）	換気扇ﾌｰﾄﾞ周囲
SR-1	内部壁洗面カウンター取合い、ライニング天板

※施工に先立ち簡易接着性試験を行う。　(9.6.5)

8 責任施工及び保障期間　　防水工事は責任施工とし、保証期間は次のとおりとする。
・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水　10年
・合成高分子ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水　10年
・塗膜防水　10年

10 石工事

1 天然石　　石の種類・表面仕上げ　(10.2.1)（表10.2.1～2）

施工箇所	種　類	産地・名称	断面寸法(mm)	仕上げの種類

2 壁の石張り工法　　外壁石張り　(10.3.2～3)（10.5.2～3）
工法

内壁石張り　(10.4.2～3)（10.5.2～3）
工法

3 床及び階段の石張り　　床石張りの裏面処理　・行う　(10.6.2)
屋内のワックス掛け　・行う　(10.1.5)

11 タイル工事

1 陶磁器質タイル　　タイルの種類　(11.2.1)

施工箇所	形状寸法（mm）	きじ：磁器	きじ：せっ器	きじ：陶器	うわぐすり：施ゆう	うわぐすり：無ゆう	役物：あり	役物：なし	色：標準	色：特注	再生材の適用 G	備考 参考品番
小便器防汚ﾀｲﾙ	600×800											TOTO ﾊｲﾄﾞﾛｾﾗﾌﾛｱPU

※ハイドロセラフロアＰＵ：＃ＨＢ１（ブラック）
役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする
タイルの見本焼き　※行わない　・行う（※外壁タイル　・　）

2 張り付け用材料　　既成調合モルタル

保水率（%）	単位容積質量（kg/l）	接着強さ（N/mm²）標準時	接着強さ（N/mm²）温冷繰返し後	長さ変化率（%）	曲げ強さ（N/mm²）
70.0以上	1.80程度	0.60以上	0.40以上	0.20以下	4.0以上

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種　(11.2.3)

3 壁タイル張りの工法　　内装タイル　※壁タイル接着剤張り　・積上げ張り　(11.3.3)（表11.3.2）

12 木工事

1 木材の品質　　※標仕12.2.1　・市販品　(12.2.1)
・保存処理木材を適用する箇所（　）

2 樹種　　※標仕表12.2.3による　(12.2.1)（表12.2.3）
・米栂（集成材）：サッシ額縁・木製建具枠・見切材等

(12.2.2)

3 集成材等 G

品　名	規格・品質	芯材の種類	化粧単板の樹種
※集成材	※一般材	・たも　・なら　・しおじ	
・構造用集成材	・１種　※２種　・３種	・	
・造作用集成材(積層材)	※１等　・２等	・米栂　・カバ　・たも	
・化粧ばり造作用集成材	※１等　・２等	・	・

ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種

4 接着剤　　接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。　(12.2.6)
ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外　・第三種

5 防腐・防蟻処理　　行う箇所（　）
防腐処理　※行う（※図示　・　）　(12.2.8)
防蟻処理　・行う（※図示　・　）　(12.2.9)
防腐、防蟻処理の種類、品質
表面処理用木材保存剤（防腐・防蟻剤）は監督職員の承諾するものとする。

13 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺　　(13.2.2～3)（表13.2.1）

屋根葺形式	長尺金属板の種類	板厚（mm）
・嵌合式瓦棒葺き（竪ﾊﾞﾄ葺き）	※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150）	※0.5　・

・下葺材料　（　アスファルトルーフィング940　）
・断熱材　（　無機質高充填ﾌｫｰﾑﾌﾟﾗｽﾁｯｸ断熱材　）
・屋根下地　（　硬質木片セメント板　t=18mm　）
・雪止金物　（　SUSt=1.5 2段(千鳥)　）

2 折板葺　　(13.3.2～3)（表13.2.1）

形　式	・重ね形　・はぜ締め形　・かん合形
形状（mm）	山高（　88　）　山ピッチ（　200　）　板厚・0.6　・0.8
材　料（規格等）	※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150）
軒先面戸板	・有り　・無し　（化粧フレーム付）
断　熱　材	・有り（種別：無機質(ｶﾞﾗｽ繊維系)断熱材　厚さ：５mm）　・無し
耐火性能	・30分耐火　・無し

3 とい　　材　種　・配管用鋼管　・硬質塩化ビニル管(ｶﾗｰ)（φ75）　(13.5.2)（表13.5.1）
・排水用リサイクル硬質塩化ビニル管（REP-VU）G
・硬質塩化ビニル樹脂製角樋　（　前高角樋 W120　）

とい受金物の材質　・ステンレス製
とい受金物の取付間隔　※標仕表13.5.3による　(13.5.2)（表13.5.3）

鋼管製といの防露　※標仕表13.5.5による　(13.5.3)（表13.5.5）
防露材のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種
揚　除　口　※有り　・無し

14 金属工事

① ステンレスの表面仕上げ　　(14.2.1)

種　類	施工箇所
※ＨＬ程度	下記以外の見え掛かり全て
Ⓒ No. 2Ｂ程度	下地用アングル、チャンネル等
・鏡面仕上げ	

2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　　(14.2.2)（表14.2.1）

種　別	施工箇所
・Ｂ－１種（無着色）	笠木、水切、ジョイナー類
・Ｂ－２種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）	

3 鉄の亜鉛めっき　　表面処理方法　：　溶融亜鉛めっき　(14.2.3)（表14.2.2）
種　別　：　２種Ｂ
施工箇所　：　屋外階段

④ 軽量鉄骨天井下地　　※野縁等の種類は表14.4.1により、屋内は19形、屋外は25形とする。　(14.4.2)（表14.4.1）
※野縁受の間隔900mm程度とし、野縁の間隔は表14.4.2による。　(14.4.3)（表14.4.2）
※天井懸が1.5m以上の場合は、縦横1.8m程度に、吊ボルトと同材又は、[-19×10×1.2(mm)以上を用いて、吊ボルトの水平補強と斜め補強を行う。　(14.4.4)

⑤ 軽量鉄骨壁下地　　※スタッド、ランナー等の種類は表14.5.1よる。　(14.5.3)（表14.5.1）
・50形　⊙65形　・90形　・100形　⊙25形（JIS規格外）　・40形（JIS規格外）

6 金属成形板張り　　(14.6.2)（表14.2.1）

形　状	製　法	材　種	寸法（mm）	厚さ（mm）	表面処理
・スパンドレル形（目隠しﾙｰﾊﾞｰ）	・押出し ・ロール	※アルミニウム製 ・	100×25		・Ｂ－１種 ・Ｂ－２種（　）
・パネル形	※プレス ・			2.0	・ｱｸﾘﾙ樹脂焼付塗装

伸縮調整継手　※設けない　・設ける（施工箇所は図示）
・スパンドレル：リブタイプ又は小波タイプ程度（一部脱着式スパンドレル）

7 アルミニウム製笠木　　(14.7.2)（表14.2.1）（表14.7.1）

種　類	呼称肉厚（mm）	表面処理	固定間隔	備　考
・150形	1.6以上	※Ａ－１又は Ｂ－１種	固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。
・300/325形	1.8以上			
・350/400形	2.0以上	・Ｂ－２種（　）		
・ｴｯｼﾞﾝｸﾞ材	1.2以上			

8 手摺り及びタラップ　　(14.2.1)（14.8.2～3）（表14.2.2）

種　類	材料の種別	表面処理
手すり	・ｽﾃﾝﾚｽSUS304(内・外部)	※ＨＬ程度　・鏡面程度　・
	・鉄(内・外部)	※ＳＯＰ塗装(内部)　・熔融亜鉛ﾒｯｷ(外部)
タラップ	※ステンレスSUS304(外部)	※ＨＬ程度　・鏡面程度　・
	・鉄(内部)	※ＳＯＰ塗装

9 鋼製床下地　　施工箇所　デッキ床下地
材質、形状　高耐食メッキ仕様

15 左官工事

① モルタル塗り材料　　吸水調整材　(15.2.2)

全固形分（%）	吸水量（g）	接着強度（N/mm²）	界面破断率（%）
表示値±1.0	30分で1g以下	0.98以上	50以下

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

防水剤（防水モルタル塗りの混入剤）　(15.2.2)
防水剤の種類　建築用のモルタルに用いるセメント防水剤

混合割合	凝結時間	曲げ及び圧縮強度比	吸水比	透水比
セメント重量の5%以下	JIS R 5201の試験において 始発　1時間以上 終結　10時間以内	70%以上	95%以下	80%以下

膨張性のひび割れ及びそりがないこと。

2 床コンクリートの直均し仕上げ　　下表以外は標仕表6.2.4及び標仕15.3.2による　(表6.2.4)（15.3.1～2）

施工箇所	平たんさ（mm）	備　考
フリーアクセスフロア（パネル構法）範囲	1mにつき10以下	塗料塗りの場合も含む
フリーアクセスフロア（溝構法）範囲	3mにつき7以下	

3 セルフレベリング材塗り　　※セメント系　・せっこう系　(表15.4.1)（15.4.1～5）

4 仕上塗材仕上げ　　(15.5.2)（表15.5.1）

種　類	呼び名	仕上げの形状等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ	・
	・可とう形外装薄塗材Ｓｉ	・
	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・着色骨材砂壁状
	・内装薄塗材Ｅ	砂壁状じゅらく
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状　・さざ波形　・凹凸状
	・外装薄塗材Ｓ	砂壁状
	・内装薄塗材Ｃ	・
	・内装薄塗材Ｌ	・
	・内装薄塗材Ｓｉ	・
	・内装薄塗材W	京壁状じゅらく
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	※ゆず肌状　・凸部処理　・凹凸模様
	・可とう形複層塗材ＣＥ	耐候性　※3種　・
	・複層塗材Ｓｉ	上塗材
	※複層塗材Ｅ（ﾛｰﾗｰ施工）	溶媒　※水系　・溶剤系
	・複層塗材ＲＥ	樹脂　・エポキシ系（ＲＥ）
	・複層塗材ＲＳ	※アクリル系（Ｅ）
	・防水形複層塗材ＣＥ	外観　※つやあり　・つやなし
	・防水形複層塗材Ｅ	・メタリック
	・防水形複層塗材ＲＥ	
	・防水形複層塗材ＲＳ	防水形の増塗材　・行う
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	砂壁状
	・こて塗用軽量塗材	平たん状

・可とう形改修用仕上塗材Ｅ　アクリルシリコン系
下地調整材　・セメント系（C-1）　・合成樹脂エマルジョン系（E）

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種
防火材料の指定
※屋内の壁、天井の仕上げ材は防火材料とする。

⑯ 建具工事

1 見本の製作等　　・特殊な建具の仮組（建具符号：　）　(16.1.4)

2 アルミニウム製建具　　外部に面するアルミニウム製建具の性能等級　(表5.2.1)

性能等級	※Ａ種	・Ｂ種	・Ｃ種
耐風圧性	※Ｓ－４　・	※Ｓ－５　・	※Ｓ－６　・
気密性	※Ａ－３	・Ａ－３	※Ａ－４　・
水密性	※Ｗ－４	・Ｗ－４	※Ｗ－５　・
枠見込み（mm）	※　７０	・１００	※１００　・

3 網戸　　防虫網　(16.2.3)
網の種別　・ガラス繊維入り合成樹脂製　・合成樹脂製　・ステンレス製（SUS316）
形　式　※外部可動式　・固定式

4 鋼製建具　　簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　(16.3.2)（表16.3.1）
耐風圧性の適用は建具表による
特定防火設備の戸　・適用あり

⑤ 鋼製軽量建具　　簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　(16.4.2)
気密性　・Ａ－２

6 ステンレス製建具　　簡易気密型ドアセットの適用は建具表による
耐風圧性の適用は建具表による
表面仕上げ　※ＨＬ程度　・鏡面仕上げ　・　(16.5.4)
曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（補強あり）　(16.5.5)
特定防火設備の戸　・適用あり　(表16.5.1)

7 自動ドア開閉装置　　(16.8.2～3)（表16.8.1～3）

開閉方法	センサの種類
※スライディングドア ・スイングドア	・マットスイッチ　・電子マットスイッチ ※光線スイッチ　・音波スイッチ ・熱線スイッチ　・光電スイッチ　・非接触タッチセンサー

・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）

⑧ 自閉式上吊り引戸装置　　品質規格　※標仕表16.9.1による　(16.9.2～3)
・製造所標準仕様による

9 木製建具　　框戸　仕上（　自然塗料塗り　）　表面材（　タモ集成材　）　(16.6.2)
フラッシュ戸　仕上（　自然塗料塗り　）　表面材（　天然木化粧合板　）
戸ぶすまの上張り　(表16.6.3)
※新鳥の子又はビニル紙程度（押入等の裏面は除く）　・鳥の子
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量　(16.6.2)
※規制対象外　・第三種

⑩ 建具用金物　　マスターキー　・製作する　⊙製作しない（新設キーを既存マスター合わせとする）　(16.7.4)
建具用金物　(16.3.6)（16.4.6）
錠類はシリンダー箱錠（ステンレス製レバーハンドル）とする
なお、錠前類は建具製作所の指定するものとし、監督職員の承諾を受ける　(16.7.2)
吊金物
⊙丁番（内部建具については、軸を鉄芯としてもよい）
・ピボットヒンジ

⑪ トイレブース　　表面仕上げ材　(20.2.5)
※高圧メラミン樹脂系化粧板
（色：内装工事の壁化粧板に合わせてる　アルミ製コーナーエッジ付き）
・ポリエステル樹脂系化粧板
足形状　⊙幅木型　・足金物型　⊙　入口戸（非常開放装置付）
厚さ　⊙　見込　４０mm　⊙　見込　３８mm
形状　天井までのハイパネルタイプ
小松ウォール工業㈱　及び　コマニー㈱　同等品

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社　総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-2
図面名称	建築工事特記仕様書（２）　NOSCALE	設計日 2024年3月

⑯ 建具工事

11 ガラス

※建具表による (16.13.2)
・ガラスブロック　標仕16.13.5による (16.13.5)

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	防火性能
・正方形 ・長方形	・145×145×95	・	・クリア ・ｶﾗｰｶﾗｰ	・無し ・有り

12 ガラス留め材及び溝

ガラス留め材 (16.13.2)（表9.6.1）

建具の種類	材　種
アルミニウム製	※シーリング材　・ガスケット（FIX部はシーリング材）
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。
板ガラスをはめ込む溝の大きさ (16.13.3)
　標仕16.13.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は（社）日本建築学会
JASS 17ガラス工事「3.1納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を
監督職員に提出する

13 ガラス用フィルム

名　称	種　類	張り面	性能値
・高透明遮熱フィルム		※内張り　・外張り	
・目隠しフィルム(フロスト)			

品質　飛散防止：JIS A 5759に準拠

14 重量シャッター (16.10.2)

シャッターの種類	
・一般重量シャッター	耐風圧性能（　　）N/㎡
・外壁用防火シャッター	耐風圧性能（　　）N/㎡
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	

開閉機能　　・上部電動式（手動併用）　・上部手動式 (16.10.2)（表16.10.1）

・危害防止機構取付
　・障害物感知装置（自動閉鎖型）　　・シャッターの二段降下方式
　・鋼板パネル形可動座板式　（大臣認定品）　サンユウテック　Ｓガード　又は同等品
一般重量シャッターのシャッターケース　・設ける　・設けない (16.10.2)

15 軽量シャッター

開閉形式
　※手動式　　・上部電動式（手動併用）
スラット　材質　・塗装溶融亜鉛めっき鋼板　　・アルミ型材
　　形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形
ガイドレール等
　・鋼板製　　・ステンレス製ＳＵＳ３０４（厚さ1.5mm）　　・アルミ型材
耐風圧性能（　　）N/㎡

⑰ カーテンウォール工事

1 メタルカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。
カーテンウォール材料の種類 (17.2.2)

種　類	規格等
※アルミニウム製	※標仕16.2.3のアルミニウム製建具の材料による
・	・

2 PCカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS 14による。
コンクリートの種類及び品質 (17.3.2)
　※標仕17.3.2による
　・下表による。ただし、下表以外は標仕17.3.2による。

コンクリートの種類	設計基準強度（Ｆｃ）	所要スランプ（cm）

⑱ 塗装工事

① 材料

屋内の壁及び天井仕上げ材は、防火材料とする。
建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量
　※規制対象外　　・第三種
仕様・規格を充たす環境配慮型対応製品がある場合はそれを使用すること。
用途による規格外の製品を使用する場合は、監理者の承諾を得ること。

② 素地ごしらえ

亜鉛めっき面の素地ごしらえの種別 (18.2.4)（表18.2.3）（表18.3.4）

種　別	施工部位及び塗料種別
Ａ種	鋼製の建具及び、2液形ポリウレタンエナメル塗り、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りの場合
Ｂ種	Ａ種、Ｃ種以外
Ｃ種	下塗りに変成エポキシ樹脂塗料を塗装する場合

せっこうボード及びその他のボード面の素地ごしらえの種別 (18.2.7)（表18.2.7）
　種別　・Ｂ種　・Ａ種（施工箇所：壁・天井　　）

③ 下地調整 [7.2.2～7]［表7.2.1～7］

下地面の種類	下地調整の種別	備　考
木部	・ＲＡ種　※ＲＢ種	
鉄鋼面	・ＲＡ種　※ＲＢ種	
亜鉛めっき面	・ＲＡ種　※ＲＢ種	
亜鉛めっき面（鋼製建具）	※ＲＢ種　・ＲＣ種	
モルタル、プラスター面	・ＲＡ種　※ＲＢ種	新規塗の場合：Ｂ種
コンクリート、ＡＬＣパネル面	・ＲＡ種　※ＲＢ種	新規塗の場合：Ｂ種
せっこうボード、その他ボード面	・ＲＡ種　※ＲＢ種	新規塗の場合：Ｂ種

既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修 [表7.2.4～6]
　※行わない　・行う（　　）
既存塗膜の劣化部分の除去、目粗しなど、入念に行うこと。

④ 錆止め塗料塗り

種別	鉄鋼面	亜鉛めっき面
Ａ種	※鉛ｰｸﾛﾑﾌﾘｰ錆止めペイント(1種)	※一液形変性ｴﾎﾟｷｼ樹脂錆止めﾍﾟｲﾝﾄ
Ｂ種	・水系錆止めペイント　・鉛ｰｸﾛﾑﾌﾘｰ錆止めペイント(2種)	・変性エポキシ樹脂プライマー
Ｃ種		・水系錆止めペイント

⑤ 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)

新規鉄面、亜鉛めっき面の塗りの種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種 [7.4.2～5]［表7.4.1～3］
木部の塗りの種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種

6 フタル酸樹脂エナメル塗り(FE)

新規木部の塗りの種別　・Ａ種　※Ｂ種 [7.6.2.3]［表7.6.1.2］
新規鉄面、亜鉛めっき面の塗りの種別　・Ａ種　※Ｂ種

7 アクリル樹脂系非水分散形塗料(NAD)

新規の塗りの種別　・Ａ種　※Ｂ種 [7.7.2]［表7.7.1］
塗り替えの種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種

8 耐候性塗料塗り(DP) [7.8.2～4]［表7.8.1～3］

下地の種類	新規塗りの種別	塗り替えの種別	備　考
鉄面	※Ａ種・Ｂ種・Ｃ種	・Ａ種⊙Ｂ種・Ｃ種	（3級）
亜鉛めっき面	※Ａ種・Ｂ種・Ｃ種	・Ａ種⊙Ｂ種・Ｃ種	（2級）
ｺﾝｸﾘｰﾄ及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・Ａ種・Ｂ種・Ｃ種	・Ａ種・B-2種・Ｃ種	

9 つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)

新規の塗りの種別　・Ａ種　※Ｂ種 [7.9.1～5]［表7.9.1～4］
塗り替えの種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種

10 合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)

新規の塗りの種別　・Ａ種　※Ｂ種 [7.10.2]［表7.10.1］
塗り替えの種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種

11 合成樹脂エマルション模様塗り(EP-T)

新規の塗りの種別　・Ａ種　※Ｂ種 [7.11.1]［表7.11.1］
塗替えの場合

既存塗膜	下地調整	種　別
合成樹脂エマルション模様塗り	※ＲＢ種	※Ａ種
	・ＲＣ種	※Ｃ－３種
平滑な塗料塗り	※ＲＢ種	・Ａ種　・Ｂ種
	・ＲＣ種	・Ｃ－１種　・Ｃ－２種

12 ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)

新規の塗りの種別　・Ａ種　※Ｂ種 [7.12.2]［表7.12.1］

13 木材保護塗料塗り(WP) [7.14.2]［表7.14.1］

新規の塗りの種別　・Ａ種　※Ｂ種　・屋内用　木材保護着色（　　）
塗り替えの種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・塗り工程は標仕またはメーカーの仕様による

14 オイルステイン塗り(OS)

上塗りニス　※行う（メーカー仕様による）　・行わない

⑲ 内装工事

① 接着剤 (19.2.2)（19.3.3）

壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量
　※規制対象外　　・第三種
※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

② ビニル床シート張り (19.2.2)

種　類	JISの記号	色　柄	厚さ（mm）
※発泡層のないもの	※ＮＣ　・	・無地　・マーブル柄　・木目柄 ・無地　・マーブル柄	・2.5 ⊙2.0
・発泡層のあるもの	FS	※柄物　・無地	※2.3　・2.0
・硬質骨材入り防滑床材	※ＮＯ　・	※柄物　・無地	※2.0　・2.5
・ﾌﾞｰﾙﾍﾟｲﾄﾞ用防滑性床材		※無地　・マーブル柄	※2.5

工法　※熱溶接工法
超防汚性ビニル床シート　ロンシール工業㈱　サニタリウム アルファ　SLA-8002（抽象柄）　同等品

③ ビニル幅木

高さ（mm）　・60　・75　⊙100　・300 (19.2.2)

6 カーペット敷き

・タイルカーペット (19.3.3)（表19.3.2）

パイル形状	種　類	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備　考
※ループパイル	※第一種 ・第二種	※500×500 ・	※6.5 ・	
・カットパイル				
・カット、ループ併用				

耐電性　・人体帯電圧3kV以下（フリーアクセスフロア敷設範囲）

4 合成樹脂塗床 (19.4.2～3)（表19.4.1～7）

種　別	仕上げの種類
・弾性ウレタン塗床材	・平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗床材	・薄膜流し展べ仕上げ ・厚膜流し展べ仕上げ（・平滑　・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（・平滑　・防滑） ・防滑仕上げ
・水性硬質ウレタン系塗床材	・耐熱水仕様（ＡＢＣ商会　タフクリートＨＭ　又は同等品） ・厚膜流し展べ仕上げ（・標準　・高防滑）

ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量 (19.4.2)
　※規制対象外　　・第三種

8 フローリング張り (19.5.2～7)（表19.5.1～4）

種　別	樹　種	工　法	仕上げ塗装等	備　考
※天然木化粧複合フローリング（複合１種）化粧単板t=3mm	※なら ・松	⊙釘どめ工法（Ａ種） ⊙直張り	⊙塗装品 ・無塗装品	床暖房対応品
	・	・	・	
	・	・	・	

ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種 (19.5.2)

9 畳敷き (19.6.2)（表19.6.1）

下地の種類	畳の種別
標仕表12.5.1による床組	・Ｂ種　・
上記以外	・Ｃ種　・化学畳床

畳表及び畳床はVOC含有量が少ないものとする

10 ポリスチレンフォーム床下地材

和室用　　厚さ（mm）　・33　・40　・50　・65　・78　・93
洋室用　　厚さ（mm）　・33　・40　・50　・65　・78　・93
　油化三昌建材　ネダフォーム　洋室用　LDK455-40　又は同等品

⑪ せっこうボードその他のボード張り (19.7.2)（表19.7.1）

種　類	JISの記号	厚さ（mm）、規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・15　・20　・25　・
・普通木毛セメント板	NW	・15　・20　・25　・
⊙けい酸カルシウム板	0.8ＦＫ	タイプ2（無石綿）（・5　⊙6　⊙10　）
・化粧けい酸カルシウム板	0.8ＦＫ 1.0ＦＫ	タイプ2（無石綿）（・6　・8　・　） タイプ2（無石綿）（・6　・8　・　）
⊙ロックウール化粧吸音板	ＤＲ	⊙フラットタイプ（・9（不燃）⊙12　・　） ・凹凸タイプ（・12・15（不燃）・19・　）
・ロックウール化粧吸音板（軒天井用）	ＤＲ ＤＲ（凹凸） ＤＲ（軒天） ＤＲ（軒天凹凸）	・フラットタイプ 9（不燃） ・凹凸タイプ（・12・15）（不燃）
⊙せっこうボード	ＧＢ－Ｒ	※12.5（不燃）　⊙9.5（準不燃）
・普通硬質せっこうボード	ＧＢ－Ｒ－Ｈ	9.5（不燃）
・不燃積層せっこうボード	ＧＢ－ＮＣ	9.5（不燃）　化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
⊙シージングせっこうボード	ＧＢ－Ｓ	12.5（不燃）
・強化せっこうボード	ＧＢ－Ｆ	15.0（不燃）　21.0（不燃）
・せっこうラスボード	ＧＢ－Ｌ	9.5
・化粧せっこうボード（木目）	ＧＢ－Ｄ	12.5（不燃）幅440mm程度 模様（※柾目　・板目）専用下地材付き
・化粧せっこうボード（直貼りタイプ）	ＧＢ－Ｄ	9.5（準不燃）910mm×910mm
・化粧吸音せっこうボード（直貼りタイプ）	ＧＢ－Ｄ	9.5（不燃）910mm×910mm
・難燃合板	Ｇ	・生地、透明塗料塗り（ラワン合板程度） ・不透明塗料塗り（しな合板程度）
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903による　厚さ1.2
・ミディアムデンシティファイバーボード	ＭＤＦ　Ｇ	・3　・7　・9　・12　・
・単板張りパーティクルボード	Ｇ	・無研磨板　・研磨板 ・10　・12　・15　・18　・
・ハードボード（素地）	ＨＢ　Ｇ	・無研磨板（・スタンダード　・テンパード） ・硬質板　（・スタンダード　・テンパード）
・インシュレーションボード	ＩＢ　Ｇ	Ａ級（・天井仕上　・内装仕上　・　） ・9　・12　・15　・18　・

⊙メラミン系不燃化粧板　t=3mm　（出隅専用見切共）　目地・取合部シール
　アイカ　セラール、セラール消臭
　縦目地シリコンシーリング（SR-1　防カビ）
　　色：一般色（白）FKM6003ZMN
　　指定色（緑または橙）KM6600ZMNｽﾞはFJ6502ZNN74
　　柄（桃）FDA1995ZMN
合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
　※規制対象外　　・第三種

12 吸音材 (表19.7.1)

種　類	JISの記号	厚さ（mm）
・ロックウール吸音ボード1号（ガラスクロス貼品）	ＲＷ－Ｂ	・25　・50
・グラスウール吸音ボード32Ｋ	ＧＷ－Ｂ	※25　・
・グラスウール吸音材24Ｋ	ＧＷ－Ｆ	※50　・

13 壁紙張り (19.8.2)

施工箇所	壁紙の種類：紙	繊維（織物）	プラ（ビニル）	その他（化学繊維）	無機質	防火性能	備　考
各室壁	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	仕上表参照
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	

素地ごしらえ (表18.2.4)（表18.2.7）

14 断熱材 (19.9.2～3)

種　類		施工箇所	厚さ（mm）	品質等
・押出法ポリスチレンフォーム保温板	※２種ｂ	※土間下	※30 ・	特定フロンを使用しないもの
	※３種ｂ（スキン層付）	※金属下地断熱防水工法部分	※35 ・30	
	・水勾配用	・ﾊﾞﾙｺﾆｰ屋根部分	・5-10,10-15	JSP ﾐﾗﾌﾛｰﾌﾞ同等品
・高性能グラスウール断熱材		※最上階天井面	※100 ・	高性能　24kg／m3
		製造所　性能の確認できる資料を監督職員に提出する		

ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した
断熱材のホルムアルデヒドの放散量　　※規制対象外　・第三種

15 乾式二重床下地材

※乾式遮音二重床システム

16 多孔質セラミックスタイル

LIXIL　エコカラット　シルクリーネ　同等品

⑳ ユニット及びその他の工事

① 天井点検口

材　質　アルミニウム製（※額縁タイプ　・目地タイプ）　⊙450mm角　・600mm角

2 床点検口(化粧蓋)

材　質　オールステンレス製　　600mm角　ボルト固定式　密閉型（防水・防臭型）

3 壁点検口

材　質　塩ビ製　300mm角　ケンドン式

④ パブリック用手摺

本体：機械設備工事　　取付下地補強：本工事

⑤ 室名札・ピクトサイン

室名札　　⊙　面付型　　・　点字型　　※文字書入共
ピクトグラフ　⊙:便所標識　　・　車イス標識
材質　　⊙　アクリル製　　⊙　アルミ製　　⊙　ステンレス製

6 エキスパンション・ジョイント金物

材質　・アルミ（内部壁、天井）　・ステンレス（屋根-外壁、外壁-外壁、内部床）
クリアランス　　・50　　・100　・150
耐火性能　　・有り（外部のみ）　・無し
防水型　・適用する　　・適用しない

7 鏡

※クリアーミラー　t=5mm（耐食鏡）　四方ステンレスフレーム仕様 (20.2.9)
　施工箇所　　男女便所　手洗流し前

⑧ 人工大理石製甲板

施工箇所　　配管ライニング天板
材質、形状　　ポリエステル系人工大理石　寸法、形状は図示による
　TOTO　マーブライトカウンター　甲板　MLK　又は同等品

9 造り付け家具

家具詳細図による (12.2.2),(19.7.2)
家具製作所にて製作するものとし、製作に先立ち施工図作製のうえ、監督職員の承諾を得る。
　　ヤガミ　　又は同等品

10 生徒用仮設トイレ設備

生徒用仮設トイレ機器　リース（４カ月）
　トイレハウス（水洗式）　小便器×　棟、洋便器×　棟
　ステンレス流し㎡1600（３水栓）×　台

⑪ ｶﾞｽﾄﾌｫｰﾑ面台

カウンター・棚：アイカ　ＭＤメラミン板仕上　ＫＥＡタイプ　又は同等メーカー品
面台：アイカ　ＭＤメラミン板仕上　ＫＥＡタイプ　又は同等メーカー品

⑫ 汚垂石

ＴＯＴＯ　ハイドロセラ・フロＰＵ（薄型）　ｔ＝７　又は同等メーカー品
（材料は機械設備工事より支給、取付は建築工事）

⑬ 床見切

㈱アシスト　バスタライン　20-412S　又は同等品

21 排水工事

1 排水管

排水管用材料 (21.2.1)（表21.2.1）(21.2.2)

材　種	管の種類	管形状（接合方法）
・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※１種　・２種）	Ｂ形（ゴム接合）
・硬質塩化ビニル管	※ＶＰ　・ＶＵ	
・排水用リサイクル硬質塩化ビニル管	・ＲＥＰ－ＶＵ	

車道部の排水管の敷設 (21.1.1) (21.2.2)
　・図示
　・砂基礎（地業厚さ20cm以上　材料　山砂の類）

2 排水桝及びふた

鋳鉄製マンホールふた (21.2.1(e))

種　類		適用荷重
・水封形	・密閉形（テーパー・パッキン式）	・Ｔ－２用
・簡易気密形（パッキン式）	・中ふた付密閉形	・Ｔ－６用 ・Ｔ－１４用 ・Ｔ－２０用

グレーチングふた (21.2.1(f))

材　質	形　式	種　類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
・鋼製 ・ステンレス製	※受枠付き ・ ボルト固定 ・無し ・有り	・溝ふた用 ・桝ふた用 ・かさ上げ用 ・Ｕ字溝用	・歩行用 ・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－１４用 ・Ｔ－２０用	※細目 ・普通目 ・細目	※凹凸形 ・平形 ・凹凸形

3 埋戻し土

・Ａ種　・Ｂ種 (21.2.1)（表3.2.1）

4 浸透管及び浸透桝

製造所　監督職員の承諾する製造所

22 舗装工事・外構工事

1 盛り土に用いる材料

・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種 (22.2.3)（表3.2.1）

2 路盤材料

※再生クラッシャラン（RC-40） (22.3.3)
・クラッシャラン（C-40）又はクラッシャランスラグ（CS-40）
　透水性アスファルト舗装にもちいる場合は透水性の高いもの

3 カラー舗装 (22.6.2)

舗装の種類	工法	備考
※加熱系カラー舗装	※加熱系混合物　・樹脂系混合物	・A-5-15　標準詳細図　9-21-5
・常温系カラー舗装	・ニート工法　・塗布工法	・

4 縁石

※地先境界ブロックC（150*150*600）
　標準詳細図　9-11-10　タイプ２

23 アスベスト含有建材の除去及び処理

1 石綿含有の恐れある建材について

既存建築物の施工対象部分に施工されているアスベストの含有量が0.１％（重量%）を超える
恐れのある建材についての状況は下記の通りとする。

材　料　名	使用箇所	備考
仕上塗材		分析済　不検出
同上　下地調整材		分析済　不検出
吹付ロックウール		非含有　∵1990年までに出荷停止
ケイ酸カルシウム板		非含有　∵2004年までに出荷停止
ｴﾎﾟｷｼ樹脂系接着剤		2001年までに出荷停止
酢酸ﾋﾞﾆﾙ樹脂系接着剤		2001年までに出荷停止
ｳﾚﾀﾝ樹脂系接着剤		2001年までに出荷停止
ﾋﾞﾆﾙ共重合樹脂系接着剤		ﾌｸﾋﾞ製品のみ2005年まで出荷

※解体工事、改修工事等における大気汚染防止法及び石綿障害予防規則による事前調査
　解体工事開始前に工事対象となる全ての部材について、石綿が含まれているかを設計図書などの
　文書と目視で調査し、調査結果の報告書を作成の上発注者に説明すること。
　なお、上記事前調査は建築物石綿含有建材調査者等、一定の知見を有する者が実施するよう努める事。
※大気汚染防止法、労働安全衛生法、石綿障害予防規則、その他石綿処理に関する諸法令等に基づき
　実施すること。
※事前調査結果を作業場に備え付け、掲示すること。

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課		株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事
				図面名称	建築工事特記仕様書（３）　NOSCALE
				図面No.	A-3
				設計日	2024年3月

工　事　区　分　表

下記の項目は◯印部分を区分して施工する。但し図面その他に特記のあるものは、それに従う。

Ｎｏ	工　事　項　目	建築	電気	機械			別途	備　考
1	躯体貫通スリーブ入・箱入、躯体貫通コア抜き、開口新設	◯	◯	◯				・貫通ｺｱ抜きは鉄筋探査実施後施工すること
2	躯体貫通孔・箱入れ部の施工後の孔埋め	◯	◯	◯				
3	設備用躯体貫通の補強筋及び開口部補強筋	◯						
4	ＡＬＣ板の補強を要しない貫通用の穴開け							
5	ＡＬＣ板の設備貫通用の開口補強、機器取付用下地補強							
6	ＬＧＳ壁下地の設備貫通用の開口補強、機器取付用下地補強	◯						手摺・衛生器具取付下地補強含む
7	地下ピットの躯体内外防水仕上、マンホール、タラップ並びに連通管							
8	点検口の製作取付（床、壁、天井）	◯						
9	吹出口、吸込口等の埋込器具取付のための墨出し							
10	吹出口、吸込口等の埋込器具取付のための孔開・補強							
11	建物外壁に取付く給・排気ガラリの製作取付							
12	建具ガラリの製作取付	◯						
13	機械・機器類の基礎（建築図面記載のものに限る）							
14	機器用アンカーボルト（　　〃　　）							
15	消火用充水槽							
16	受水槽・消火用充水槽基礎							
17	流し台							
18	便所廻りの手摺			◯				取付下地補強建築工事 補強はメーカー仕様による
19	換気機器			◯				
20	同上取付枠							
21	天井扇・ダクト・ガラリ・ベントキャップ			◯				
22	フードの製作・取付							
23	電動シャッターの一次側配管配線							
24	電動シャッターの二次側配管配線・調整							
25	防火・防煙シャッターの煙感知器・連動装置・制御盤							
26	防火扉の一次側配管配線							
27	防火扉の二次側配管配線・調整、開放装置							
28	同上煙感知器・連動装置・制御盤							
29	液面電極棒の取付及び調整（消火用充水槽）							
30	加圧ポンプユニット 電源配管配線							
31	同上 制御・警報用配管配線							
32	給湯設備の一次側配管配線及びリモコン用配管							
33	同上二次側配管配線及びリモコン用配線・調整							
34	洗面カウンター	◯						取付下地補強建築工事 補強はメーカー仕様による
35	洗面カウンター用洗面器			◯				
36	消火ポンプユニット 電源配管配線							
37	同上 制御・警報用配管配線							
38	照明器具・配管・ライティングダクト等吊ボルト用インサート		◯					
39	ダクト・給排水管等吊りボルト用インサート			◯				
40	厨房器具							
41	同上接続配管・電源接続工事							
42	消火器							
43	消火器ボックス							
44	化粧鏡（一般単体鏡　既製品）			◯				
45	化粧鏡（大型鏡）							
46	電気錠の取付							

Ｎｏ	工　事　項　目	建築	電気	機械			別途	備　考
47	電気錠の操作盤・制御盤							
48	電気錠の電源・配管・配線							
49	昇降機の一次側配管配線							
50	昇降機の出入口・三方枠・カゴ内インターホン取付・制御盤・二次側配管配線							
51	鉄骨構造階の出入口三方枠・敷居・押しボタン等の固定用鋼材の設置							
52	鉄骨構造階の出入口機器と壁面の耐火処理							
53	鉄骨構造階における中間ビームの設置							
54	鉄骨構造階におけるレールブラケット・ポストアングル固定用ファスナの設置及び錆止メ塗装							
55	昇降機のインターホン用配線							
56	昇降機のインターホン用配管（シャフト内）							
57	昇降機のインターホン用配管（シャフト外）							
58	昇降機監視室等のインターホン取付調整							
59	昇降機監視用モニターの設置							
60	昇降機ピット内点検用コンセント							
61	昇降路・ピットモルタル防水仕上げ							
62	昇降機機械室内ホイスティングフック							
63	昇降機各出入口・インジケーター押ボタン等の孔明工事							
64	昇降機機械室床嵩上げコンクリート打設及び防塵塗装							
65	空調機への電源配管配線工事							
66	同上内～外機への渡り配線（冷媒配管共巻き）							
67	空調機及び全熱交換器のリモコン用配線・取付・調整							
68	既設土間コンクリートはつり、復旧	◯						設備図記載のものは除く。
69	犬走り・側溝部分の撤去及び復旧							
70	設備配管改修に伴う下階既設天井仕上の撤去、復旧	◯						
71	建具に設置する換気扇取付または配管貫通用のアルミパネル							（建）…配管貫通用ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙ(開口共) （機）…換気扇取付
72	既存換気扇開口部の閉塞							
73	機械警備用空配管（既設配管利用）							
74	構内舗装の撤去及び仮復旧	◯						
75	構内舗装復旧	◯						
76	既存汚水貯留槽　汚泥抜取り・清掃消毒							
77	既存浄化槽　機器・配管・槽撤去							
78	既存グリストラップ　土工事・躯体撤去							
79	既存浄化槽　一次側電源撤去							
80	諸官庁等検査･申請手続き及び、それに伴う費用	◯	◯	◯				
81	監督員事務所							
82	工事範囲の仮囲い、ゲート及び敷き鉄板等	◯						
83	工事中に於ける水道、下水、ガス、電気の使用料金	◯						現場事務所のみ適用
84	既設高圧受変電設備・非常用発電機廻りフェンス工事							
85	生徒用仮設トイレ本体工事							
86	生徒用仮設トイレ照明器具及び電源工事							
87	生徒用仮設トイレ給排水配管及び接続工事							
88								
89								
90								

設　備　用　の　開　口　補　強　数　量　表

１．設備用躯体貫通補強筋及び開口補強筋

１）梁貫通補強筋（貫通孔Ｄ／３以下、梁巾＝４００以下の場合、Ｄは梁せい）

貫　通　内　径　（　φ　）	数　　量	備　　考
100＜H≦200		
200＜H≦300		
300＜H≦400		

※貫通内径１００φ未満の時は補強を必要としない。　　Ｈ：貫通内径㎜

２）スラブ開口補強筋

開　口　面　積　（　㎡　）	数　　量	備　　考
Ａ≦０．３		
０．３＜Ａ≦１．０		
１．０＜Ａ≦２．５		

※スラブ筋を切断しない場合は補強を必要としない。　　Ａ：開口面積㎡

３）壁開口補強

開　口　寸　法　（　㎜　）	数　　量	備　　考

※壁面を切断しない場合は補強を必要としない。

２．設備用下地材開口補強

１）壁開口補強　軽量鉄骨下地、木軸等

開　口　寸　法　（　㎡　）	数　　量	備　　考
0.0　～　0.5　（床）		
0.0　～　0.5　（壁）		
1.1　～　1.5		
1.6　～　2.0		
2.0　～　2.5		

２）天井開口補強

開　口　面　積　（　㎡　）	数　　量	備　　考
0.0　～　0.5	７５	埋め込み照明（ダウンライト）
0.0　～　0.5		埋め込み照明
0.0　～　0.5	２８	機械設備用
0.6　～　1.0		埋め込み照明
1.1　～　1.5		天井カセットエアコン
600×600　天井点検口		
450×450　天井点検口	１０	

特記事項

１．この表（工事区分表）及び図面その他に記載がなく工事区分が不明なもの、または必要な工事については、協議の上監督員の指示により区分を決定する。　この場合、工事費の増減の対象とはしない。

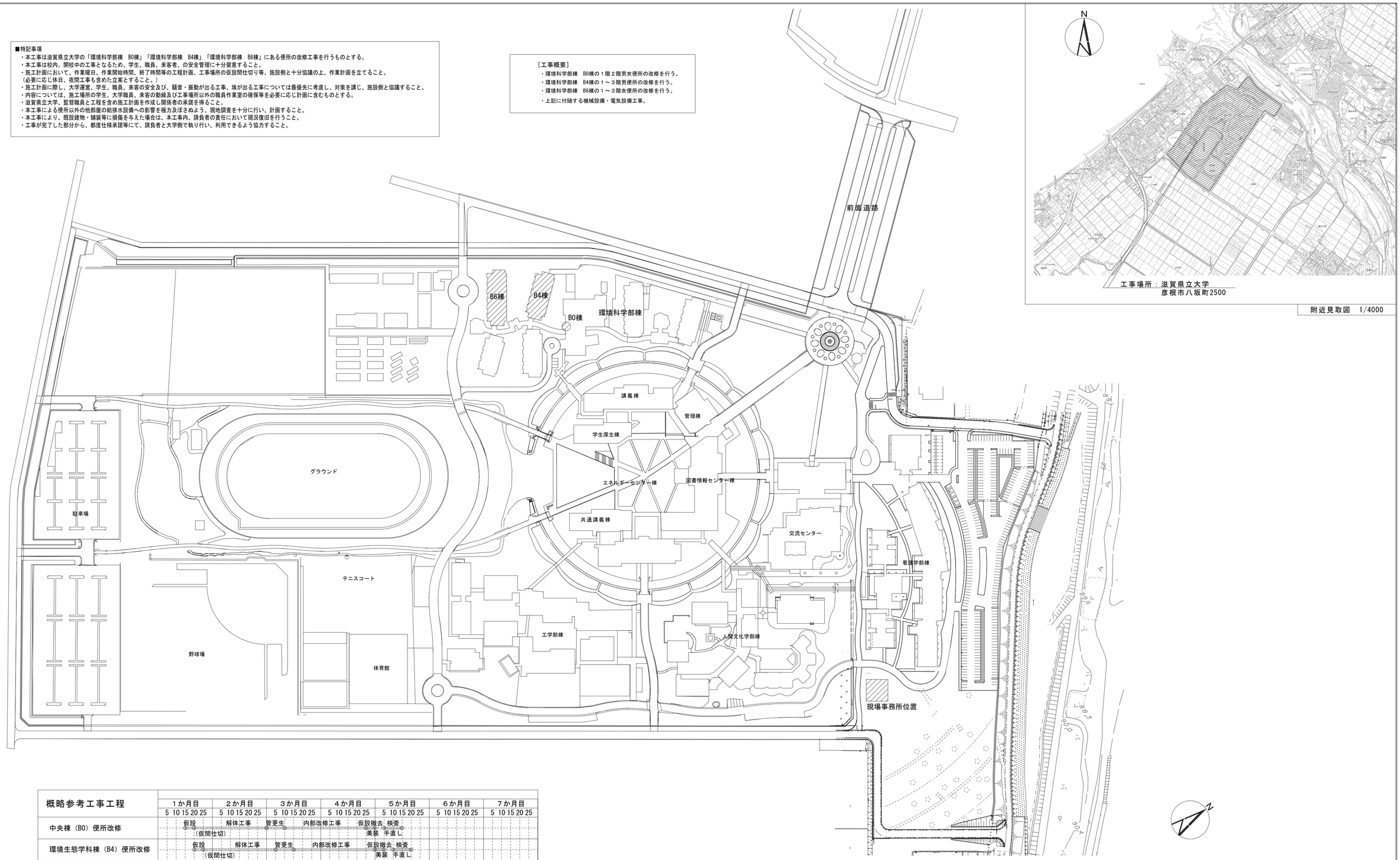
令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-4
							図面名称	工事区分表　NOSCALE	設計日 2024年3月

■特記事項

・本工事は滋賀県立大学の「環境科学部棟　B0棟」「環境科学部棟　B4棟」「環境科学部棟　B6棟」にある便所の改修工事を行うものとする。
・本工事は校内、開校中の工事となるため、学生、職員、来客者、の安全管理に十分留意すること。
・施工計画において、作業曜日、作業開始時間、終了時間等の工程計画、工事場所の仮設間仕切り等、施設側と十分協議の上、作業計画を立てること。
（必要に応じ休日、夜間工事も含めた立案とすること。）
・施工計画に際し、大学運営、学生、職員、来客の安全及び、騒音・振動が出る工事、埃が出る工事については最優先に考慮し、対策を講じ、施設側と協議すること。
・内容については、施工場所の学生、大学職員、来客の動線及び工事場所以外の職員作業室の確保等を必要に応じ計画に含むものとする。
・滋賀県立大学、監督職員と工程を含め施工計画を作成し関係者の承諾を得ること。
・本工事による便所以外の他部屋の給排水設備への影響を極力及ぼさぬよう、現地調査を十分に行い、計画すること。
・本工事により、既設建物・舗装等に損傷を与えた場合は、本工事内、請負者の責任において現況復旧を行うこと。
・工事が完了した部分から、都度仕様承諾等にて、請負者と大学側で執り行い、利用できるよう協力すること。

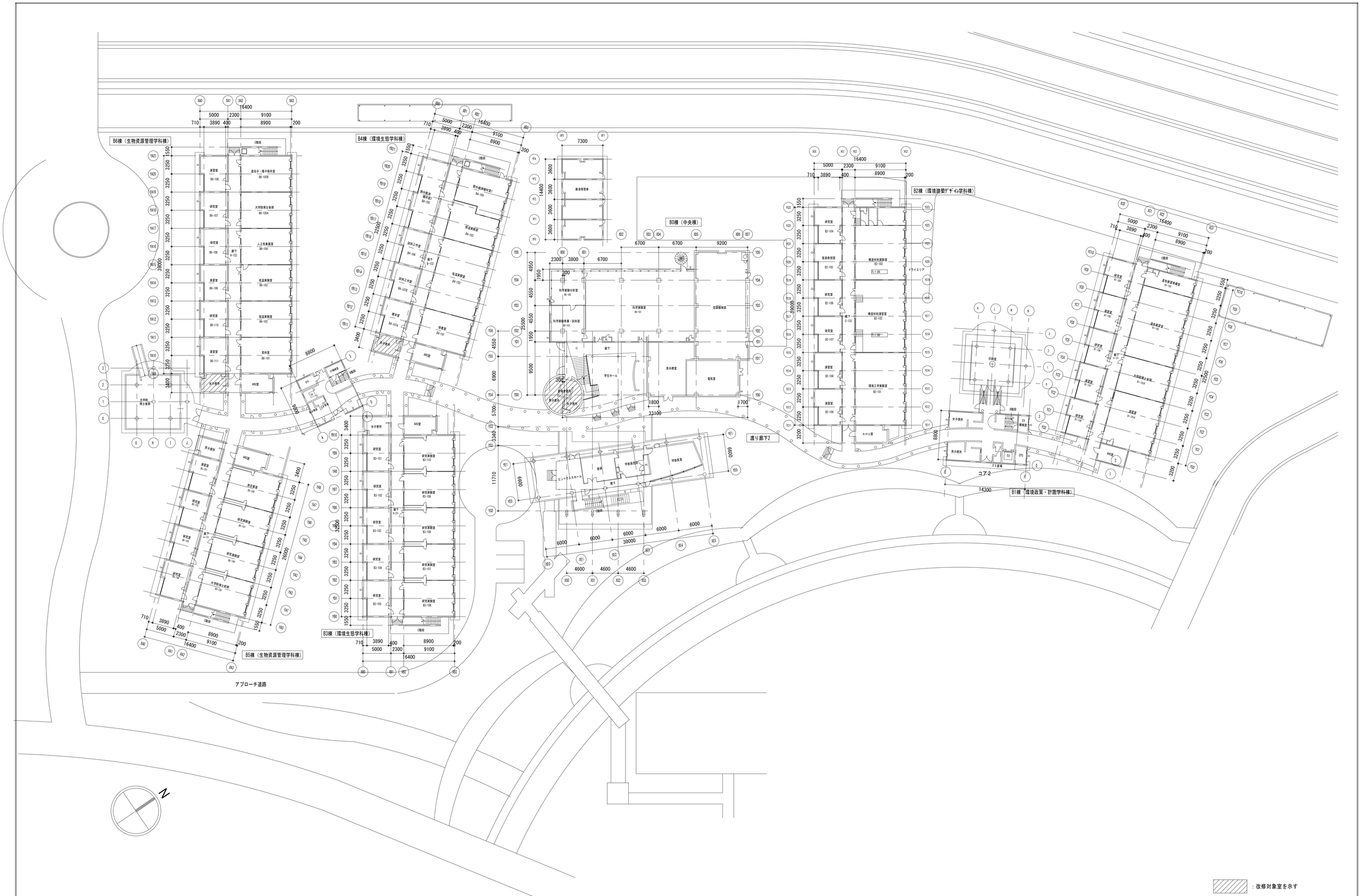
［工事概要］

・環境科学部棟　B0棟の１階２階男女便所の改修を行う。
・環境科学部棟　B4棟の１～３階男便所の改修を行う。
・環境科学部棟　B6棟の１～３階女便所の改修を行う。
・上記に付随する機械設備・電気設備工事。



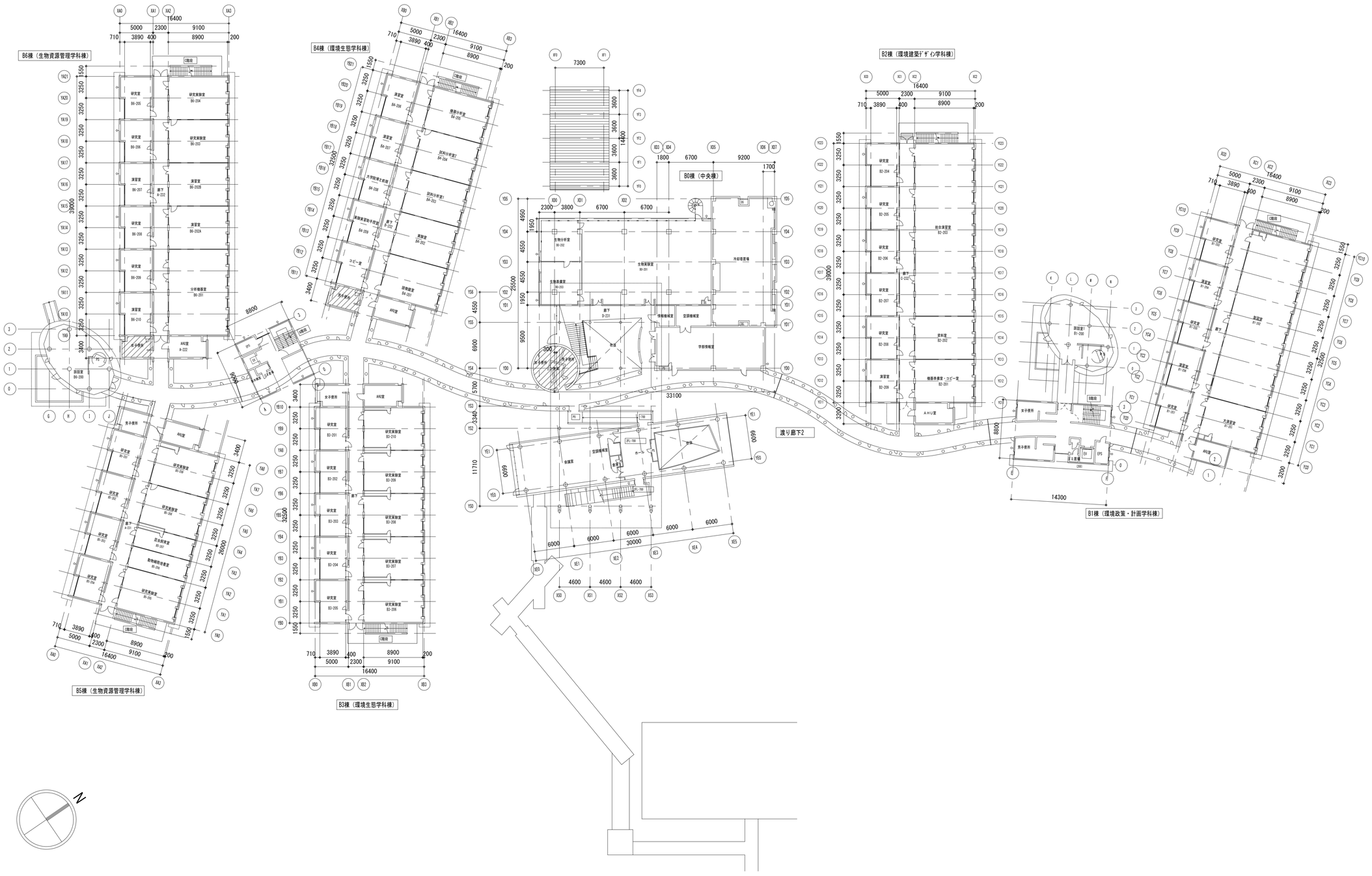
概略参考工事工程	1か月目	2か月目	3か月目	4か月目	5か月目	6か月目	7か月目
	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25
中央棟（B0）便所改修	仮設	解体工事	管更生	内部改修工事	仮設撤去 検査 美装 手直し		
	（仮間仕切）						
環境生態学科棟（B4）便所改修	仮設	解体工事	管更生	内部改修工事	仮設撤去 検査 美装 手直し		
	（仮間仕切）						
環境資源学科棟（B6）便所改修	仮設	解体工事	管更生	内部改修工事	仮設撤去 検査 美装 手直し		
	（仮間仕切）						
共通仮設他	工事ﾔｰﾄﾞ設置			工事ﾔｰﾄﾞ供用		工事ﾔｰﾄﾞ撤収	
備考							

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. A-5
							図面名称	配置図　付近見取図　S = 1/1500	設計日 2024年3月



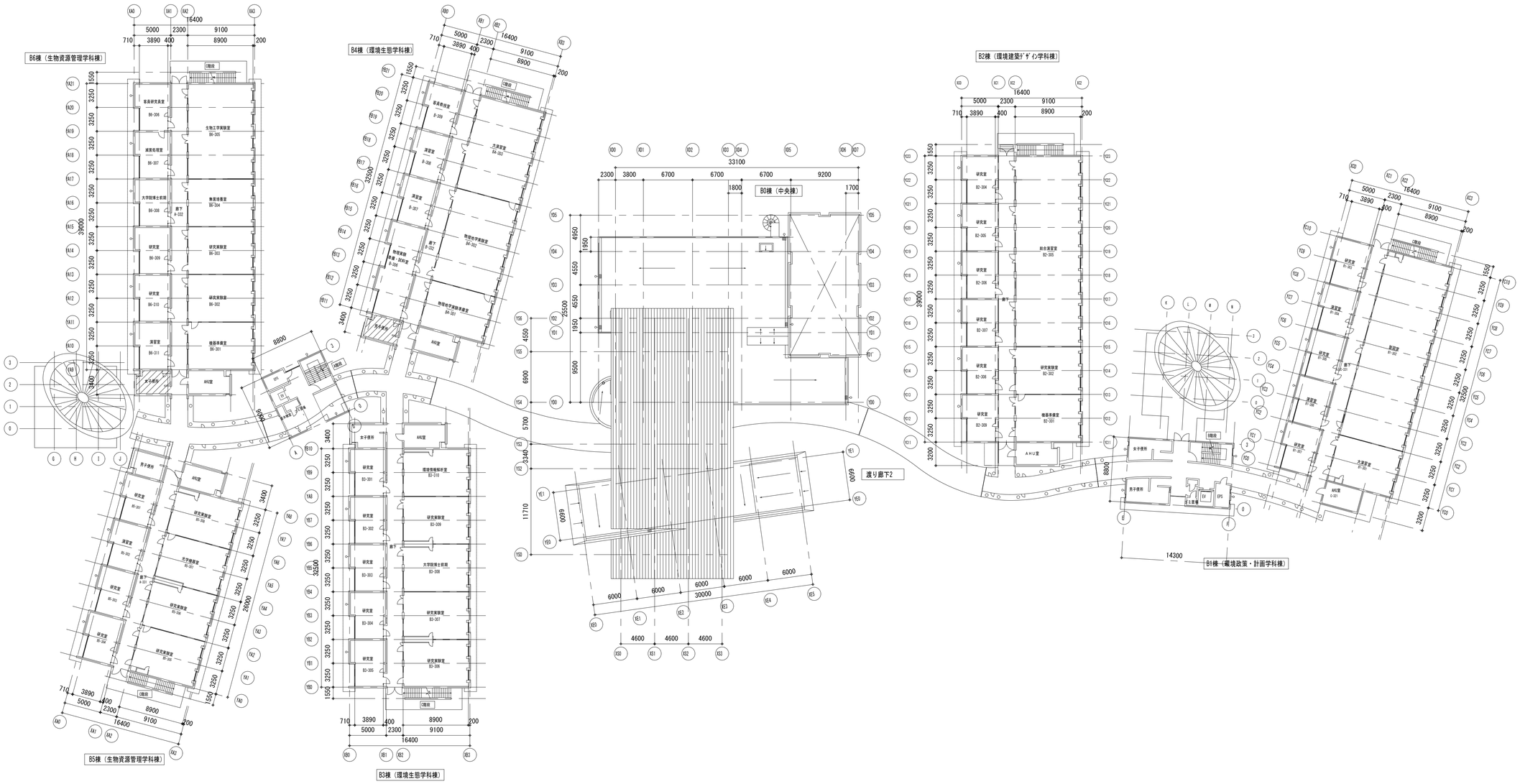
：改修対象室を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. A-6
							図面名称	環境科学部棟　1階平面図　S = 1/300	設計日 2024年3月



：改修対象室を示す

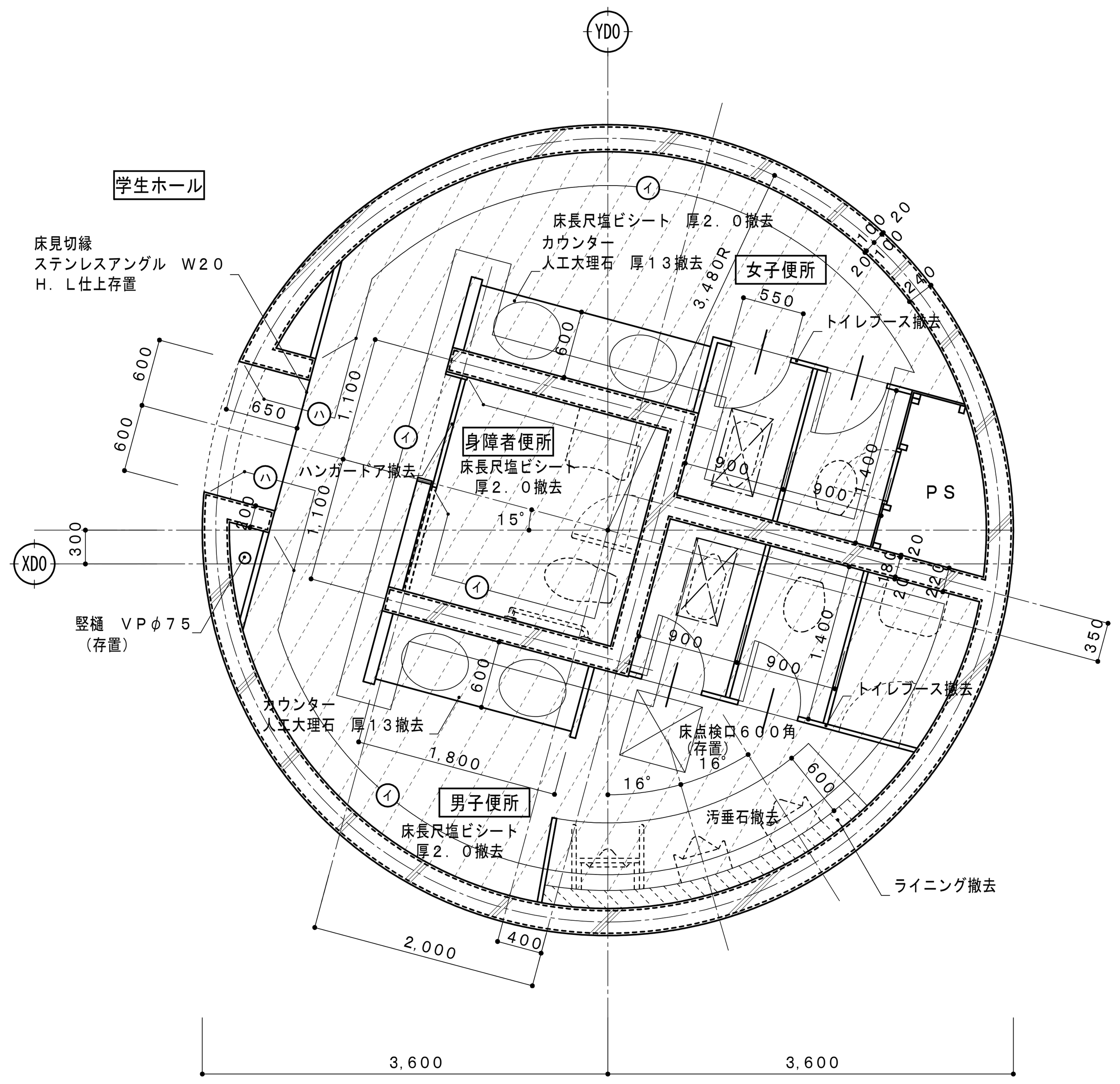
令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. A-7
							図面名称	環境科学部棟　2階平面図　S = 1/300	設計日 2024年3月



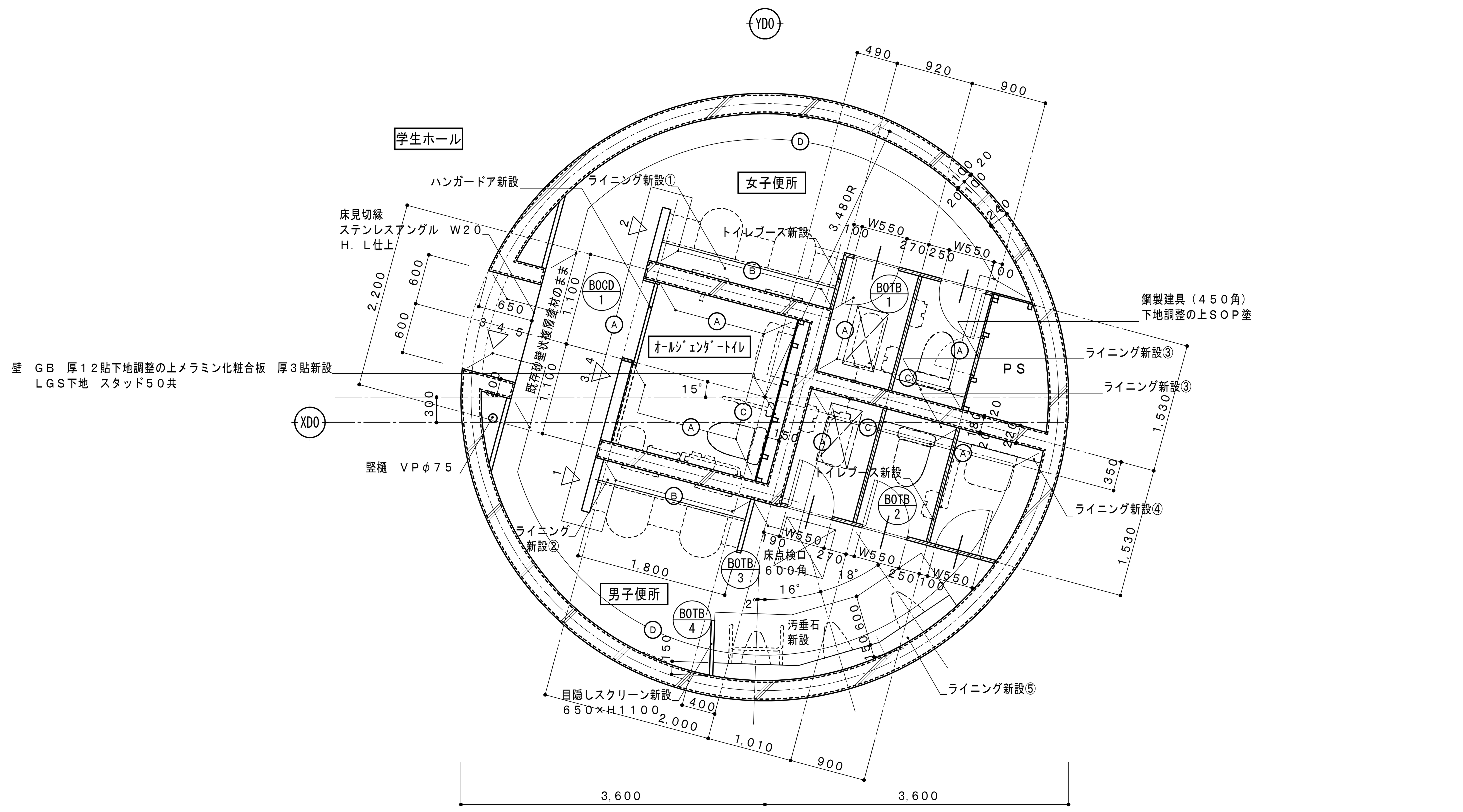
N

：改修対象室を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント		工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No.	A-8
								図面名称	環境科学部棟　3階平面図　S = 1/300	設計日	2024年3月



B0 1階便所平面詳細図（改修前）



B0 1階便所平面詳細図（改修後）

略号表示
- ㋑ AEP塗（塗膜除去）
- ㋩ 砂壁状複層塗材（清掃）

略号表示
- Ⓐ 壁下地調整の上メラミン化粧合板 厚3貼（一般色）（新設）
- Ⓑ 壁下地調整の上メラミン化粧合板 厚3貼（指定色）（新設）
- Ⓒ 壁下地調整の上メラミン化粧合板 厚3貼（柄）（新設）
- Ⓓ 壁下地調整の上化粧シート貼

※ライニング新設
①2120×250×H 900
②1800×250×H 900
③860×150×H 800
④1025×150×H1100
⑤1000×150～190×H1100×3
（天端一体 メラミンポストフォーム）

解体撤去範囲を示す

ライニング腰壁撤去：天端人工大理石、CB 厚100下地 タイル貼

和便器撤去部
コンクリートスラブ 厚150斫り撤去
（710×380）を示す（四周カッター切）

△ サイン設置位置を示す（サイン詳細図参照）

和便器撤去部開口閉塞（710×380）
コンクリート(21N/m3)厚150直押え
後施工アンカー（差筋アンカー D13
薬液固定型）@200（1ヵ所につき14本）

※トイレブース全撤去、洗面カウンター撤去
※衛生器具等撤去(機械設備)
（衛生陶器、配管、手摺、鏡）
※照明器具等撤去(電気設備)
※仮設間仕切壁（LGS50 GB-R t12.5程度）、
工事用出入口を係員と協議の上適宜設置する事

内部仕上表

階数	室名		床高 基準FL±	天井高 FL±	床 下地	床 仕上	巾木 仕上	腰壁 下地	腰壁 仕上	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	廻り縁 仕上	室名		備考
1階	男子便所	改修前	±0	2,400	C	ビニル床シート 厚2.0貼(撤去) 汚垂石 磁器質タイル張(撤去)	ビニル巾木 H=100(撤去)	MO	100角タイル貼(撤去)	MO.C.LGS	コンクリート打放し補修の上砂壁状複層塗材（存置） AEP塗(塗膜除去)、GB 厚12の上AEP塗(塗膜除去)	LGS(撤去)	フレキシブルボード 厚4 EP吹付（撤去）	塩ビ製(撤去)	男子便所		建築：トイレブース撤去、洗面カウンター撤去、ライニングCB積撤去 機械設備：衛生器具、手摺、鏡撤去
		改修後	±0	2,400	下地調整	超防汚性ビニル床シート 厚2.0貼(新設) 汚垂石(新設)	床材巻上げ巾木 H=100(新設)	－	－	下地調整	メラミン化粧合板 厚3貼(新設) 化粧シート貼	LGS(新設)	GB 厚9. 5捨貼、岩綿吸音板 厚12(新設)	塩ビ製(新設)			建築：ライニング天板 人口大理石甲板t12、トイレブース新設 機械設備：小便器手摺
	身障者便所	改修前	±0	2,400	C	ビニル床シート 厚2.0貼(撤去) 汚垂石 磁器質タイル張(撤去)	ビニル巾木 H=100(撤去)	MO	100角タイル貼(撤去)	MO.LGS	AEP塗(塗膜除去)、GB 厚12の上AEP塗(塗膜除去)	LGS(撤去)	フレキシブルボード 厚4 EP吹付（撤去）	塩ビ製(撤去)	身障者便所		機械設備：衛生器具、手摺、鏡撤去
	オールジェンダー便所	改修後	±0	2,400	下地調整	超防汚性ビニル床シート 厚2.0貼(新設) 汚垂石(新設)	床材巻上げ巾木 H=100(新設)	－	－	下地調整	メラミン化粧合板 厚3貼(新設)	LGS(新設)	GB 厚9. 5捨貼、岩綿吸音板 厚12(新設)	塩ビ製(新設)	オールジェンダー便所		機械設備：L型手摺/可動手摺(機械設備)
	女子便所	改修前	±0	2,400	C	ビニル床シート 厚2.0貼(撤去)	ビニル巾木 H=100(撤去)	－	－	MO.C.LGS	コンクリート打放し補修の上砂壁状複層塗材（存置） AEP塗(塗膜除去)、GB 厚12の上AEP塗(塗膜除去)	LGS(撤去)	フレキシブルボード 厚4 EP吹付（撤去）	塩ビ製(撤去)	女子便所		建築：トイレブース撤去、洗面カウンター撤去、ライニングCB積撤去 機械設備：衛生器具、鏡撤去
		改修後	±0	2,400	下地調整	超防汚性ビニル床シート 厚2.0貼(新設)	床材巻上げ巾木 H=100(新設)	－	－	下地調整	メラミン化粧合板 厚3貼(新設) 化粧シート貼	LGS(新設)	GB 厚9. 5捨貼、岩綿吸音板 厚12(新設)	塩ビ製(新設)			建築：ライニング天板 人口大理石甲板t12、トイレブース新設

下地凡例

C	コンクリート下地		
MO	モルタル塗		
LGS	軽量鉄骨下地		
CB	コンクリートブロック		
SL	セルフレベリング		
W	木下地		

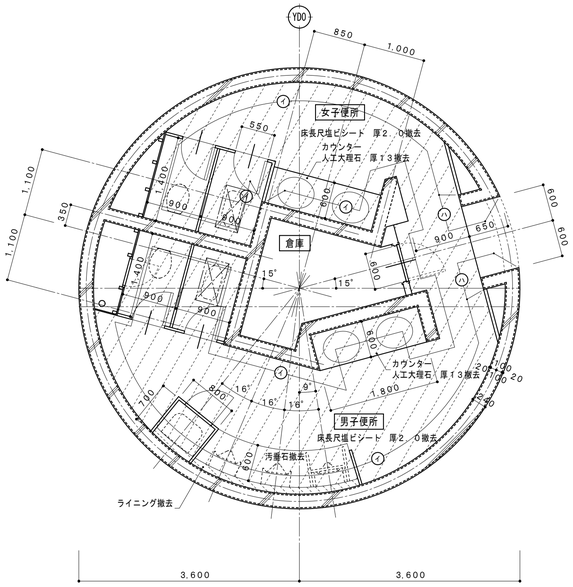
防火材料認定番号(認定番号は参考)

EP塗・EP-G塗	不燃 NM-8585		
石膏ボード(GB-R) 厚9.5	準不燃 QM-9828		
石膏ボード(GB-R) 厚12.5	不燃 NM-8619		
岩綿吸音板 厚12	不燃 NM-8599		
メラミン化粧板 厚3.0	不燃 NM-2183		

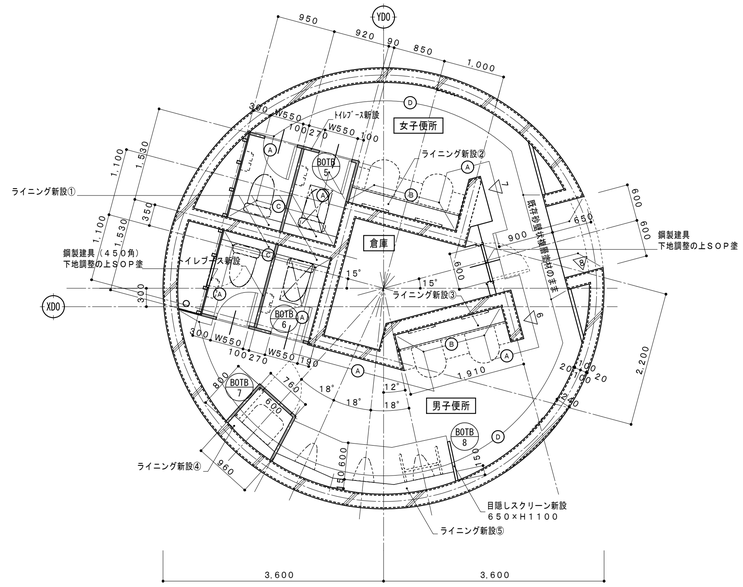
特記事項

床既設面下地調整については、速硬型調整材にて下地を行うこと。	天井点検口450角を適宜設けること。	天井点検口 内部450角とする。	
塩ビ製廻り縁は目透かしタイプとする。	メラミン化粧合板下地材については十分な養生期間を持ち、施工要領による乾燥状態にて施工を行うこと。	化粧シートは3Mのダイノックフィルム抗菌・防カビ/水廻り用 又は同等品とし、品番は係員と協議の上決定する	
メラミン化粧合板貼端部及び巾木取合部にはアルミ製見切りを取り付けること。	内装仕上げ材は、F☆☆☆☆仕様とする。	手洗部ライニング腰壁 シージングGB 厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板 厚3貼（一般色）	
衛生器具等の壁取付部分には補強材またはGB-Sに替え構造用合板にて補強を行うこと。	天井裏・小屋裏の使用材料は、F☆☆☆仕様とする。	小便器、大便器部ライニング腰壁 シージングGB 厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板 厚3貼（柄）	

令和6年 3月 日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	
工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No.	A-9
図面名称	B0 1階便所平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日	2024年3月



BO　2階便所平面詳細図（改修前）



BO　2階便所平面詳細図（改修後）

略号表示

- Ⓐ 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板　厚３貼（一般色）（新設）
- Ⓑ 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板　厚３貼（指定色）（新設）
- Ⓒ 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板　厚３貼（柄）（新設）
- Ⓓ 壁下地調整の上化粧シート貼

※ライニング新設
- ①　８８０×１５０×Ｈ　８００
- ②１８１０×２５０×Ｈ　９００
- ③１８００×２５０×Ｈ　９００
- ④　９２０×１５０～１９０×Ｈ１１００
- ⑤１０００×１５０～１９０×Ｈ１１００×３
  （天端一体　メラミンポストフォーム）

略号表示

- ✓ AEP塗(塗膜除去)
- ハ 砂壁状複層塗材（清掃）

解体撤去範囲を示す

ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端人工大理石,CB 厚100下地 ﾀｲﾙ貼

和便器撤去部
ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ 厚１５０斫り撤去
（７１０×３８０）を示す（四周カッター切）

△ サイン設置位置を示す（サイン詳細図参照）

和便器撤去部開口閉塞（７１０×３８０）
ｺﾝｸﾘｰﾄ(21N/m3)厚１５０直押え
後施工アンカー（差筋アンカー　Ｄ１３
薬液固定型）＠２００（１ヵ所につき１４本）

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ全撤去、洗面カウンター撤去
※衛生器具等撤去(機械設備)
（衛生陶器、配管、手摺、鏡）
※照明器具等撤去(電気設備)
※仮設間仕切壁（LGS50 GB-R t12.5程度）、
工事用出入口を係員と協議の上適宜設置する事

内部仕上表

階数	室名		床高	天井高	床		巾木	腰壁		壁		天井		廻り縁	室名		備考
			基準FL±	FL±	下地	仕上	仕上	下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上	仕上			
２階	男子便所	改修前	±0	2,400	C	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ　厚2.0貼(撤去) 汚垂石　磁器質ﾀｲﾙ張(撤去)	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100(撤去)	MO	100角ﾀｲﾙ貼(撤去)	MO.C.LGS	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上砂壁状複層塗材（存置） AEP塗(塗膜除去)、GB　厚12の上AEP塗(塗膜除去)	LGS(撤去)	フレキシブルボード　厚４　ＥＰ吹付（撤去）	塩ﾋﾞ製(撤去)	男子便所		建築：ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ撤去、洗面カウンター撤去、ﾗｲﾆﾝｸﾞCB積撤去 機械設備：衛生器具、手摺、鏡撤去
		改修後	±0	2,400	下地調整	超防汚性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ　厚2.0貼(新設) 汚垂石(新設)	床材巻上げ巾木 H=100(新設)	－	－	下地調整	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板　厚３貼(新設) 化粧シート貼	LGS(新設)	ＧＢ 厚９．５捨貼、岩綿吸音板 厚１２(新設)	塩ﾋﾞ製(新設)			建築：ﾗｲﾆﾝｸﾞ天板　人口大理石甲板t12、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ新設 機械設備：小便器手摺
	女子便所	改修前	±0	2,400	C	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ　厚2.0貼(撤去)	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100(撤去)	－	－	MO.C.LGS	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上砂壁状複層塗材（存置） AEP塗(塗膜除去)、GB　厚12の上AEP塗(塗膜除去)	LGS(撤去)	フレキシブルボード　厚４　ＥＰ吹付（撤去）	塩ﾋﾞ製(撤去)	女子便所		建築：ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ撤去、洗面カウンター撤去、ﾗｲﾆﾝｸﾞCB積撤去 機械設備：衛生器具、鏡撤去
		改修後	±0	2,400	下地調整	超防汚性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ　厚2.0貼(新設)	床材巻上げ巾木 H=100(新設)	－	－	下地調整	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板　厚３貼(新設) 化粧シート貼	LGS(新設)	ＧＢ 厚９．５捨貼、岩綿吸音板 厚１２(新設)	塩ﾋﾞ製(新設)			建築：ﾗｲﾆﾝｸﾞ天板　人口大理石甲板t12、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ新設

下地凡例

C	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地		
MO	ﾓﾙﾀﾙ塗		
LGS	軽量鉄骨下地		
CB	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ		
SL	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ		
W	木下地		

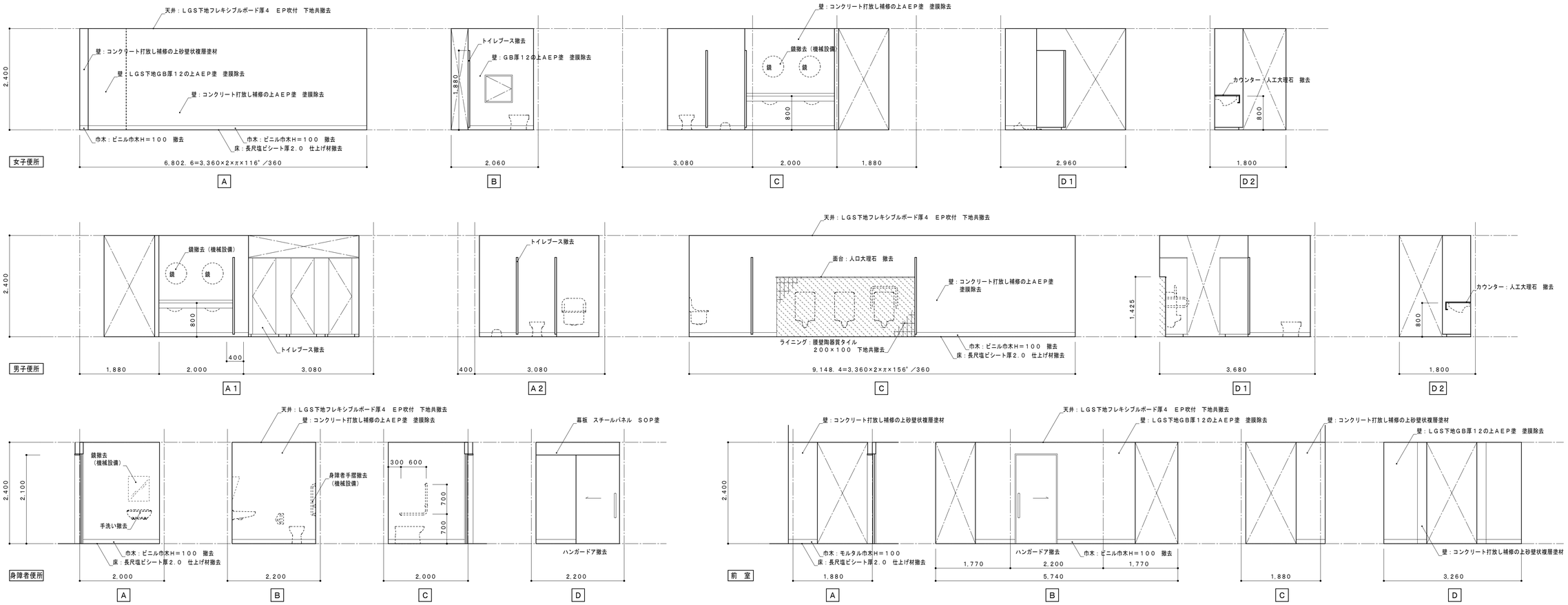
防火材料認定番号(認定番号は参考)

EP塗・EP-G塗	不燃　NM-8585		
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚9.5	準不燃　QM-9828		
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚12.5	不燃　NM-8619		
岩綿吸音板 厚12	不燃　NM-8599		
ﾒﾗﾐﾝ化粧板 厚3.0	不燃　NM-2183		

特記事項

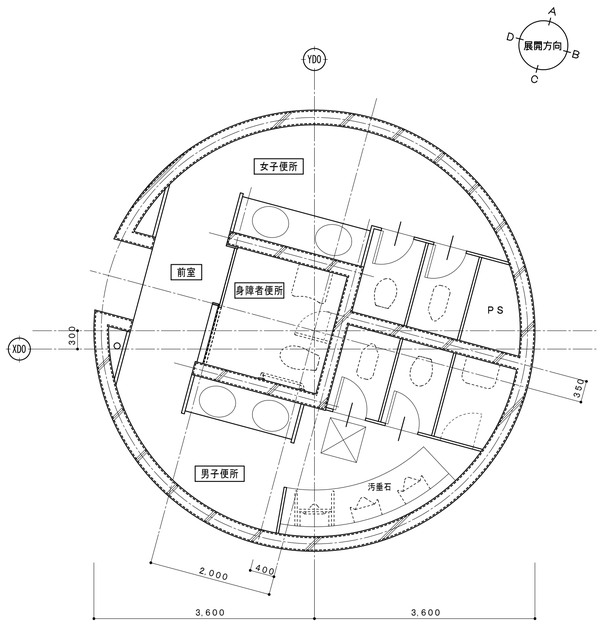
床既設面下地調整については、速硬型調整材にて下地を行うこと。	天井点検口450角を適宜設けること。	天井点検口　内部450角とする。	
塩ﾋﾞ製廻り縁は目透かしﾀｲﾌﾟとする。	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板下地材については十分な養生期間を持ち、施工要領による乾燥状態にて施工を行うこと。	化粧シートは３Ｍのダイノックフィルム抗菌・防カビ/水廻り用 又は同等品とし、品番は係員と協議の上決定する	
ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼端部及び巾木取合部にはｱﾙﾐ製見切りを取り付けること。	内装仕上げ材は、F☆☆☆☆仕様とする。	手洗部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB　厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板　厚３貼（一般色）	
衛生器具等の壁取付部分には補強材またはGB-Sに替え構造用合板にて補強を行うこと。	天井裏・小屋裏の使用材料は、F☆☆☆仕様とする。	小便器、大便器部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB　厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板　厚３貼（柄）	

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称：滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事
			図面名称：BO　2階便所平面詳細図（改修前・改修後）　S = 1/50
			図面No.：A-10
			設計日：2024年3月

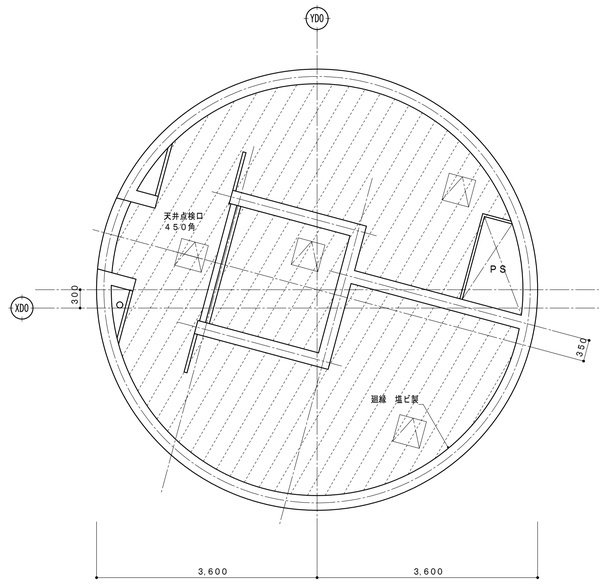


ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端人工大理石、CB 厚100下地 ﾀｲﾙ貼

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽは全撤去、洗面ｶｳﾝﾀｰ撤去
※衛生器具等撤去（機械設備）
　（衛生陶器、配管、手摺、鏡）
※照明器具等撤去（電気設備）



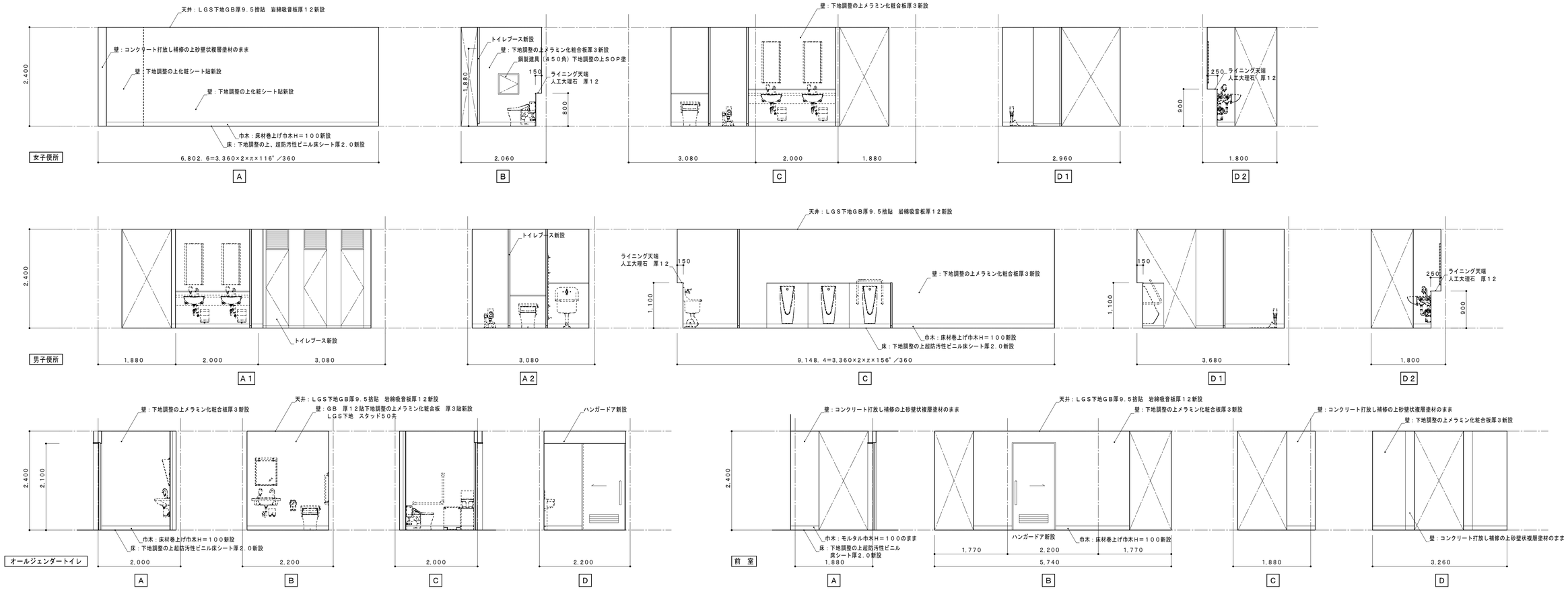
1階キープラン



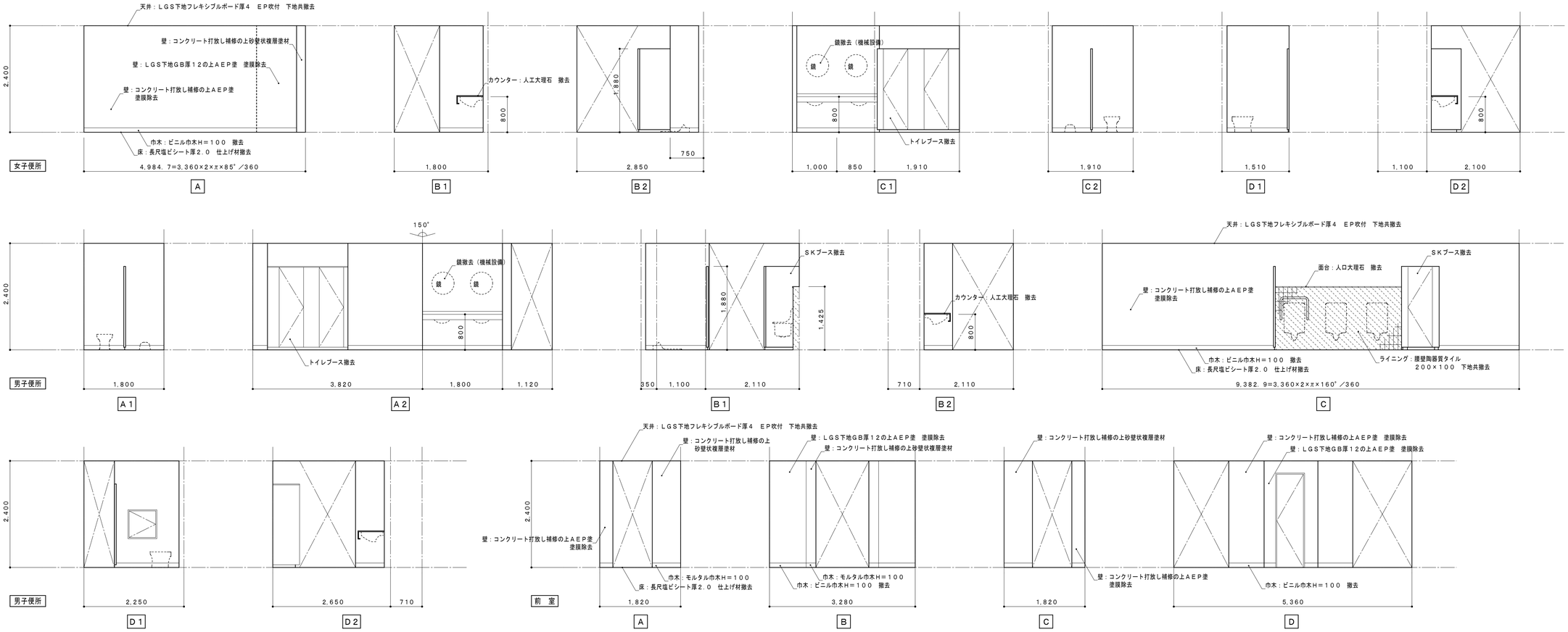
1階天井伏図

解体撤去範囲を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. A-11
							図面名称	B0　1階便所展開・天井伏図（改修前）　S = 1/50	設計日 2024年3月

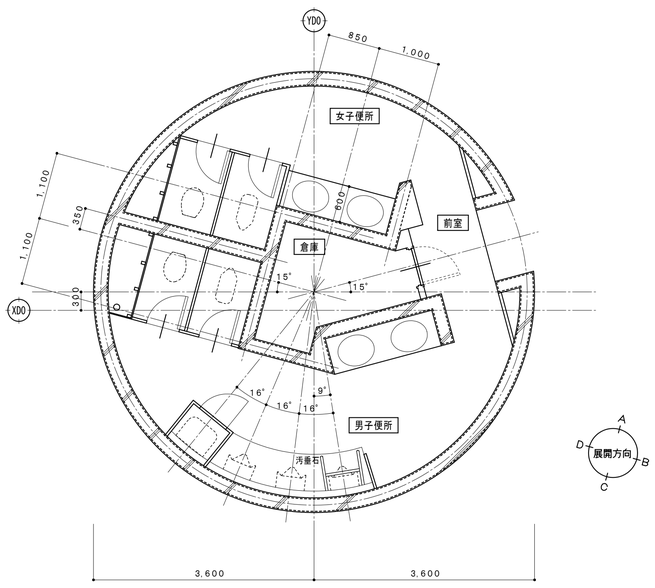


令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. A-12
						図面名称	B0　1階便所展開・天井伏図（改修後）　S = 1/50	設計日 2024年3月

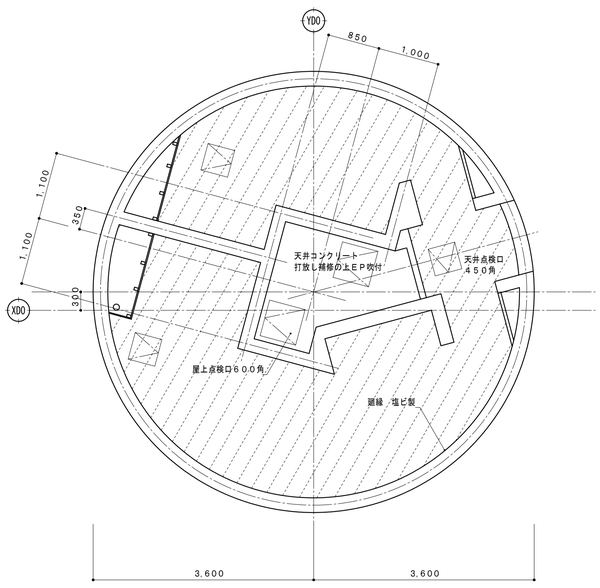


ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端人工大理石、CB 厚120下地

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽは全撤去、洗面ｶｳﾝﾀｰ撤去
※衛生器具等撤去（機械設備）
　（衛生陶器、配管、手摺、鏡）
※照明器具等撤去（電気設備）

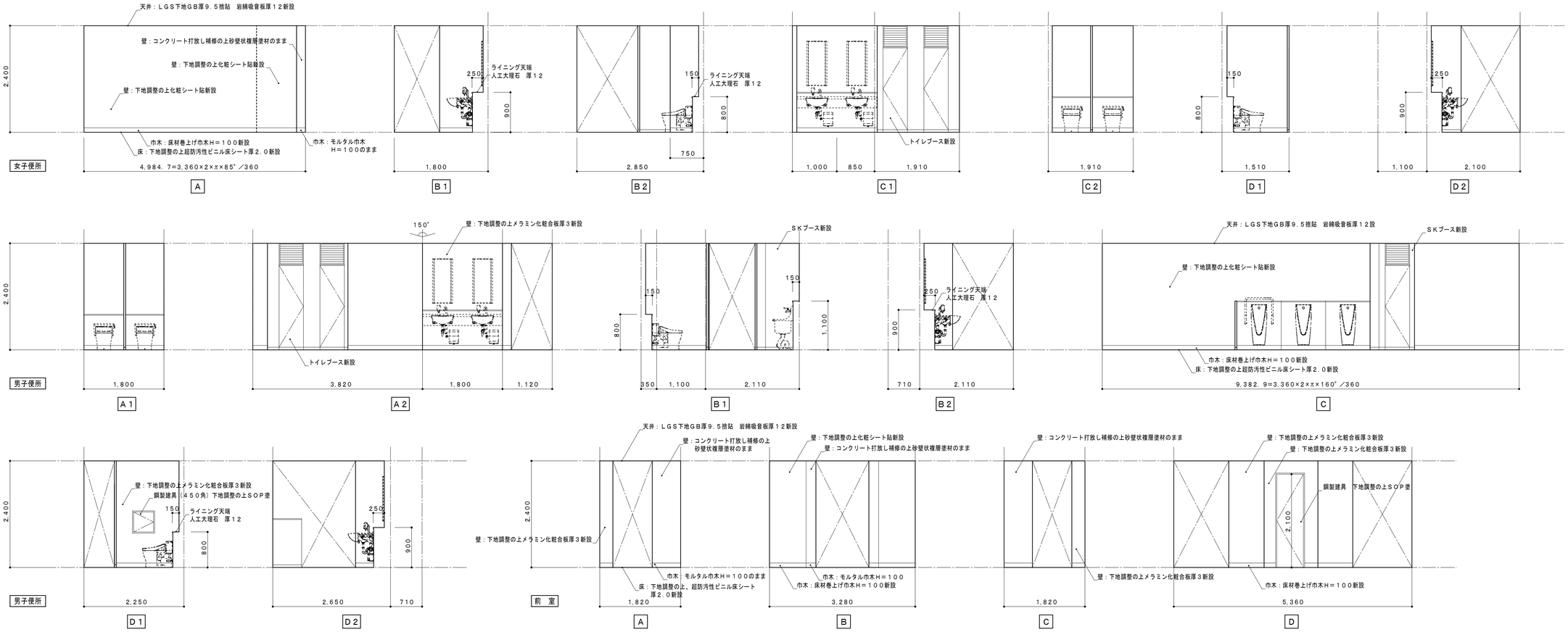


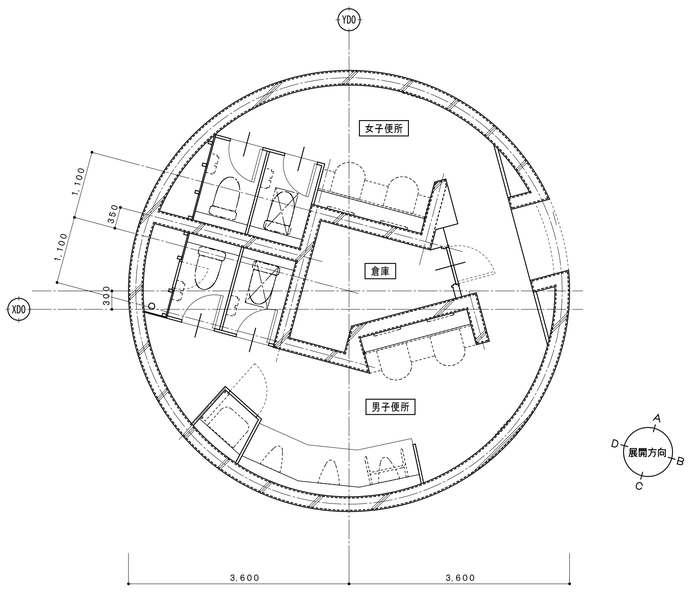
２階キープラン



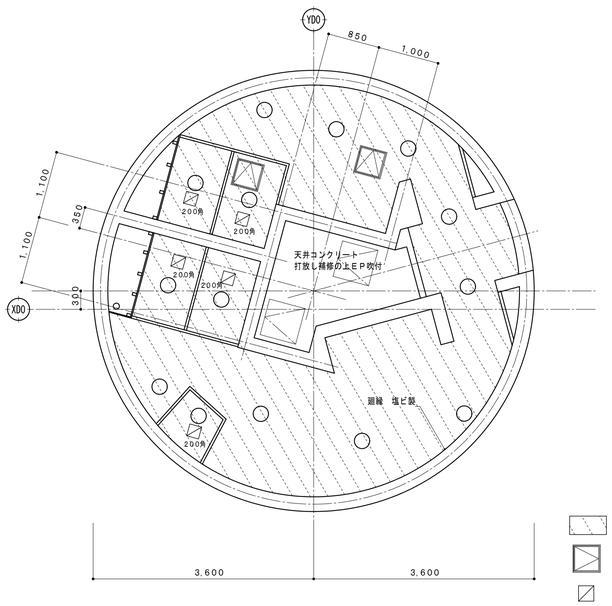
２階天井伏図　　解体撤去範囲を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. A-13
							図面名称	B0　2階便所展開・天井伏図（改修前）　S = 1/50	設計日 2024年3月





２階キープラン



２階天井伏図

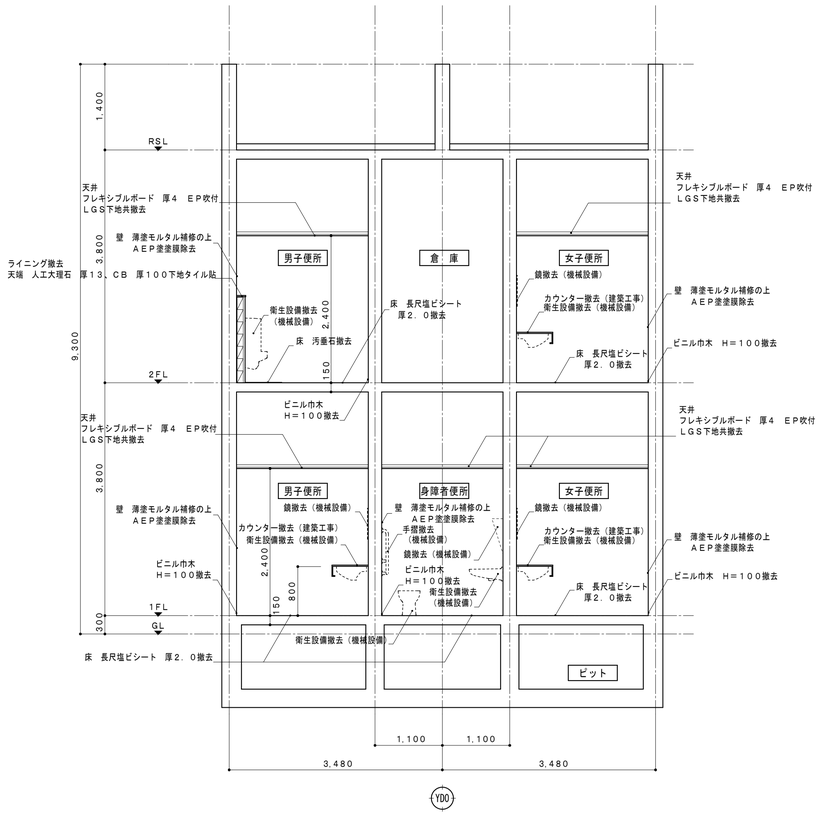
新設範囲を示す

天井点検口　アルミ製４５０角（開口補強共）を示す

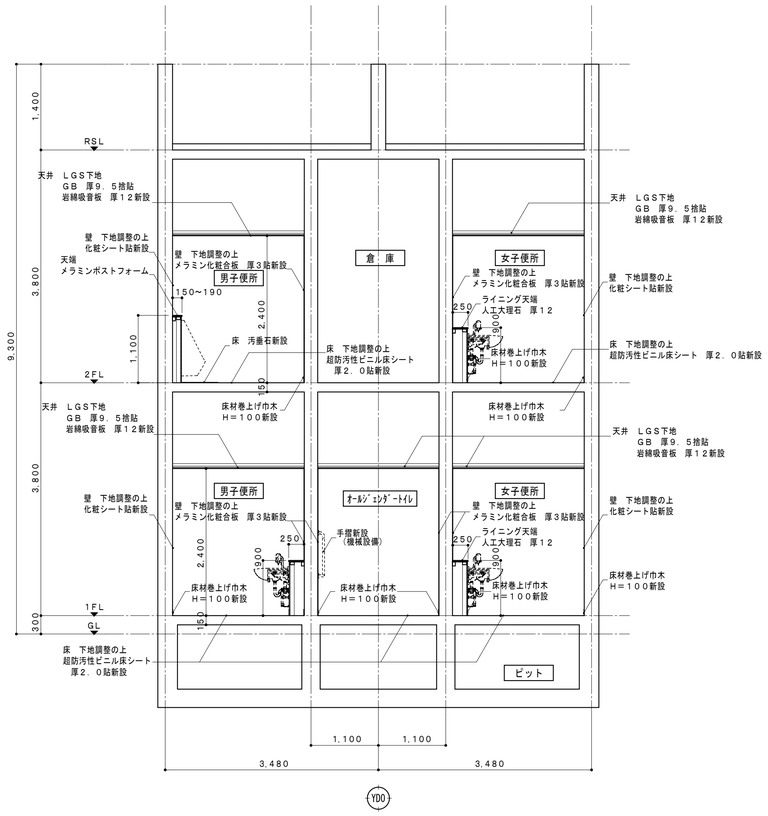
機械設備用天井開口（開口補強共）を示す
（寸法は図示）

電気設備用天井開口φ１５０（開口補強共）を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. A-14
							図面名称	B0　2階便所展開・天井伏図（改修後）　S = 1/50	設計日 2024年3月



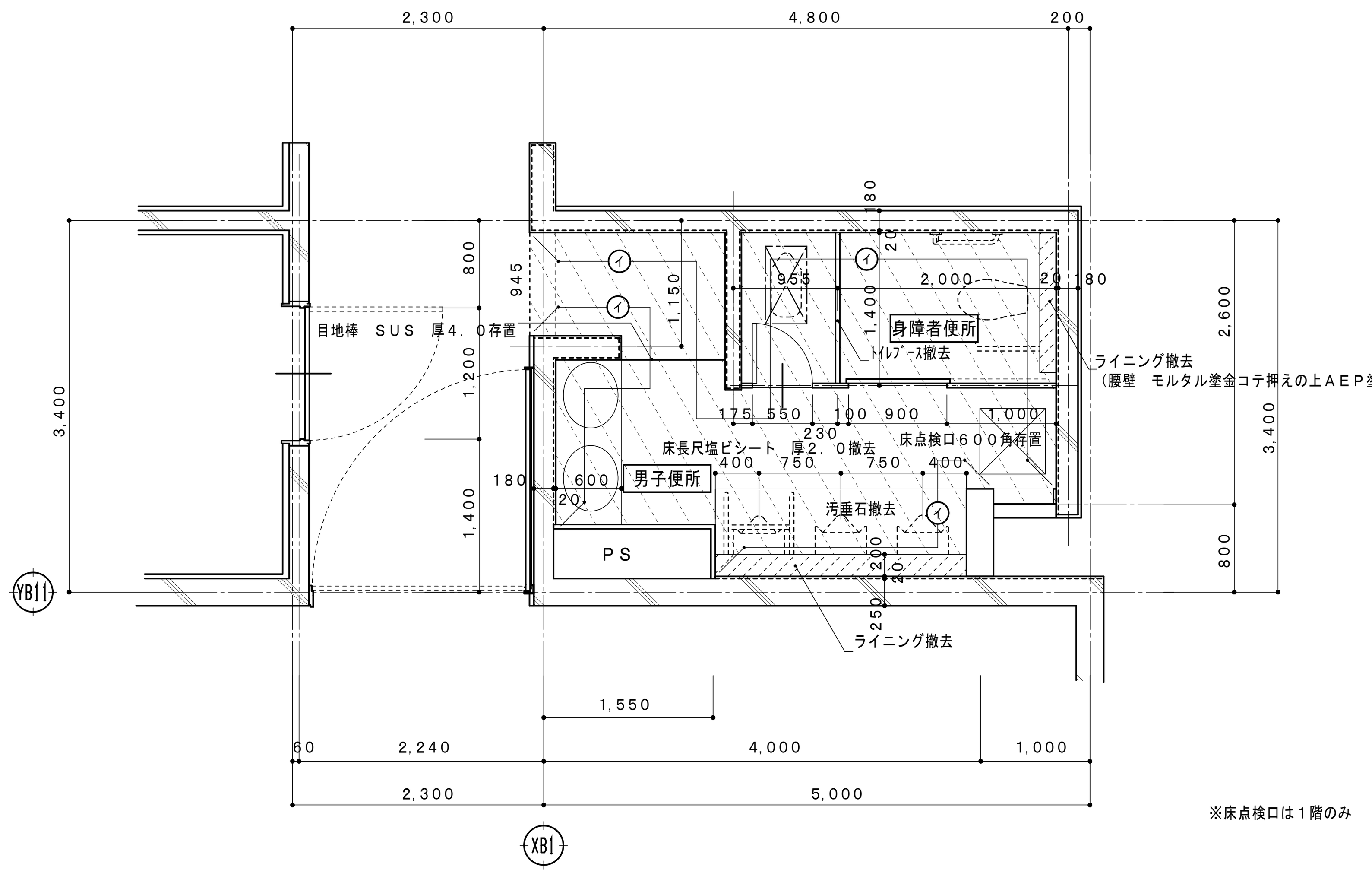
B0　矩計図（改修前）　　１：５０



※ライニング撤去跡の壁面は薄塗モルタル補修とする

B0　矩計図（改修後）　　１：５０

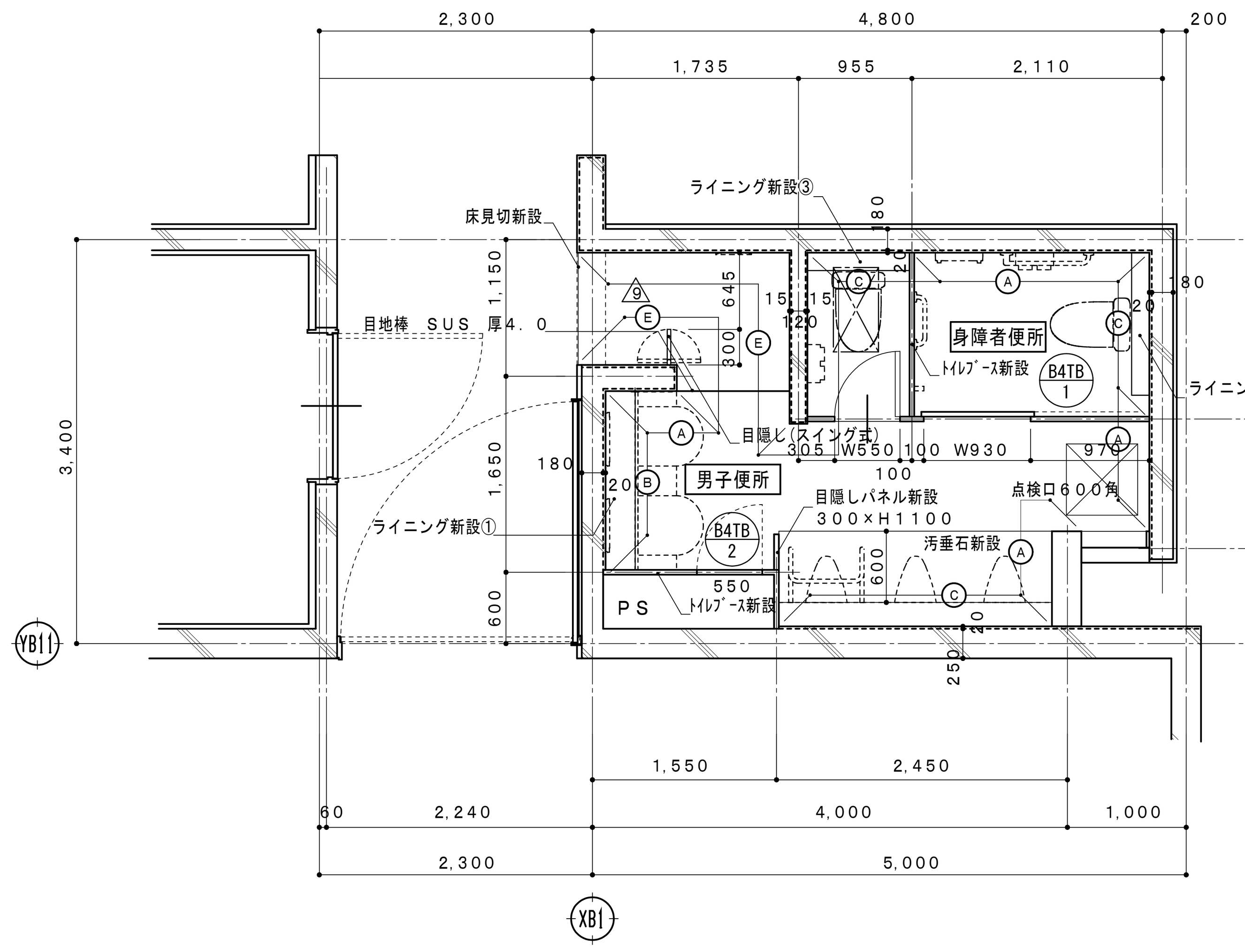
令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社　総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事	図面No.	A-15
							図面名称	B0　矩計図（改修前・改修後）　S = 1/50	設計日	2024年3月



※床点検口は1階のみ

B4 1～3階便所平面詳細図（改修前）

略号表示
(イ) AEP塗(塗膜除去)



※床点検口は1階のみ

※目隠し(スイング式)は㈱ユニフローの
ミニスイングMP－２又は同等品とし、
フレーム焼付塗装、カラークロス貼（指定色）とする。

略号表示
(A) 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼（一般色）(新設)
(B) 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼（指定色）(新設)
(C) 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼（柄）(新設)
(E) 壁下地調整の上EP塗

B4 1～3階便所平面詳細図（改修後）

※ライニング新設
①１５００×２５０×Ｈ ９００
②１２００×１５０×Ｈ ８００
③ ８６０×１５０×Ｈ ８００

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ全撤去、洗面カウンター撤去
※衛生器具等撤去(機械設備)
（衛生陶器、配管、手摺、鏡）
※照明器具等撤去(電気設備)
※仮設間仕切壁（LGS50 GB-R t12.5程度）、
工事用出入口を係員と協議の上適宜設置する事

解体撤去範囲を示す

ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端人工大理石、CB 厚120下地 ﾀｲﾙ張

和便器撤去部
ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ 厚１６０斫り撤去
（７１０×３８０）を示す（四周カッター切）

△ サイン設置位置を示す（サイン詳細図参照）

和便器撤去部開口閉塞（７１０×３８０）
ｺﾝｸﾘｰﾄ(21N/m3)厚１６０直押え
後施エアンカー（差筋アンカー Ｄ１３
薬液固定型）＠２００（１ヵ所につき１４本）

内部仕上表

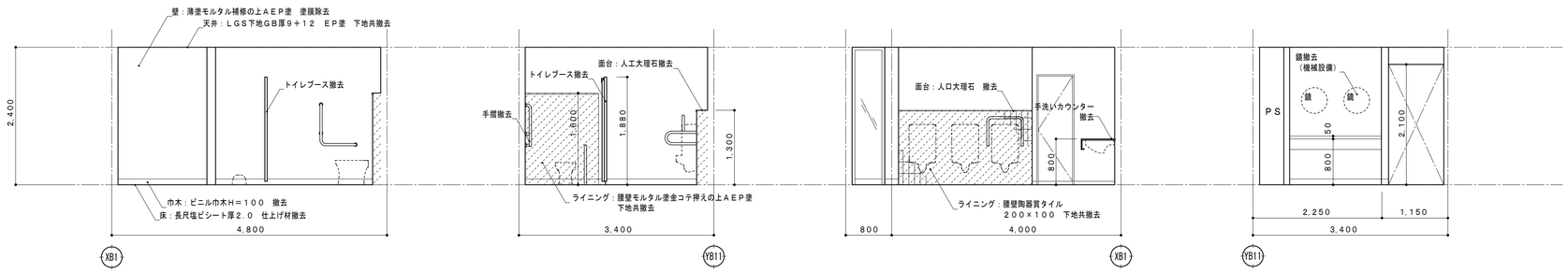
階数	室名		床高	天井高	床		巾木	腰壁		壁		天井		廻り縁	室名		備考
			基準FL±	FL±	下地	仕上	仕上	下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上	仕上			
1階 2階 3階	女子便所	改修前	±0	2,400	C	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ 厚2.0貼(撤去) 汚垂石 磁器質ﾀｲﾙ張(撤去)	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100(撤去)	MO	AEP塗(下地モルタル共撤去)	MO.LGS	AEP塗(塗膜除去)、GB 厚12の上AEP塗(塗膜除去)	LGS(撤去)	ＧＢ 厚９＋１２ ＥＰ塗（撤去）	塩ﾋﾞ製(撤去)	男子便所		建築：ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ撤去、洗面カウンター撤去、ﾗｲﾆﾝｸﾞCB積撤去 機械設備：衛生器具、手摺、鏡撤去
		改修後	±0	2,400	下地調整	超防汚性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ 厚2.0貼(新設) 汚垂石(新設)	床材巻上げ巾木 H=100(新設)	－	－	下地調整	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼(新設)	LGS(新設)	ＧＢ 厚９．５捨貼、岩綿吸音板 厚１２(新設)	塩ﾋﾞ製(新設)			建築：ﾗｲﾆﾝｸﾞ天板 人口大理石甲板t12、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ新設、目隠し(スイング式) 機械設備：L型手摺/小便器手摺

下地凡例		防火材料認定番号(認定番号は参考)	
C	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地	EP塗・EP-G塗	不燃 NM-8585
MO	ﾓﾙﾀﾙ塗	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚9.5	準不燃 QM-9828
LGS	軽量鉄骨下地	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚12.5	不燃 NM-8619
CB	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ	岩綿吸音板 厚12	不燃 NM-8599
SL	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ	ﾒﾗﾐﾝ化粧板 厚3.0	不燃 NM-2183
W	木下地		

特記事項

床既設面下地調整については、速硬型調整材にて下地を行うこと。	天井点検口450角を適宜設けること。	天井点検口 内部450角とする。
塩ﾋﾞ製廻り縁は目透かしﾀｲﾌﾟとする。	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板下地材については十分な養生期間を持ち、施工要領による乾燥状態にて施工を行うこと。	手洗部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB 厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板 厚３貼（一般色）
ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼端部及び巾木取合部にはｱﾙﾐ製見切りを取り付けること。	内装仕上げ材は、F☆☆☆☆仕様とする。	大便器部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB 厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板 厚３貼（柄）
衛生器具等の壁取付部分には補強材またはGB-Sに替え構造用合板にて補強を行うこと。	天井裏・小屋裏の使用材料は、F☆☆☆仕様とする。	

令和6年 3月 日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称 滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事 / 図面No. A-16
			図面名称 B4 1～3階便所平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50 / 設計日 2024年3月

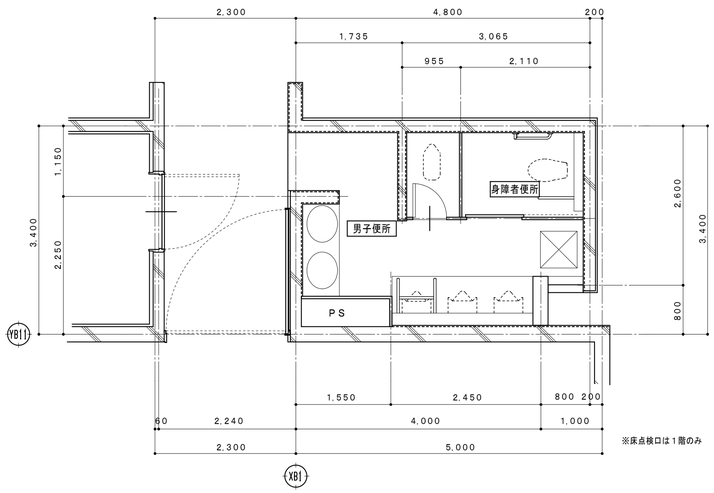


1～3階男子便所

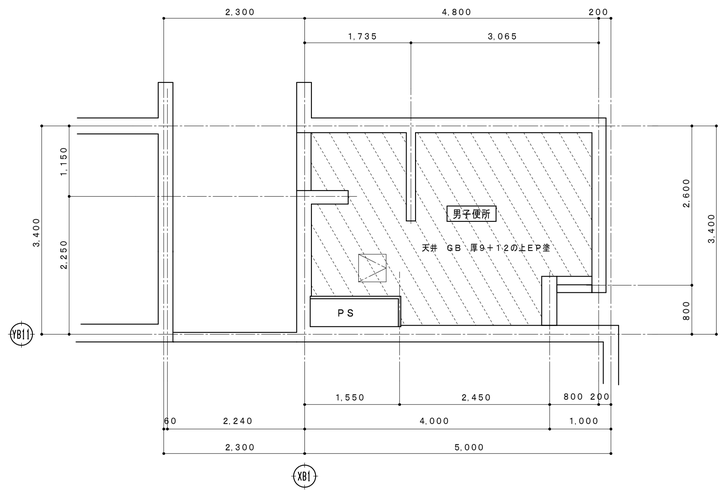
A　B　C　D

ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端人工大理石、CB 厚120下地

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽは全撤去、洗面ｶｳﾝﾀｰ撤去
※衛生器具等撤去（機械設備）
（衛生陶器、配管、手摺、鏡）
※照明器具等撤去（電気設備）



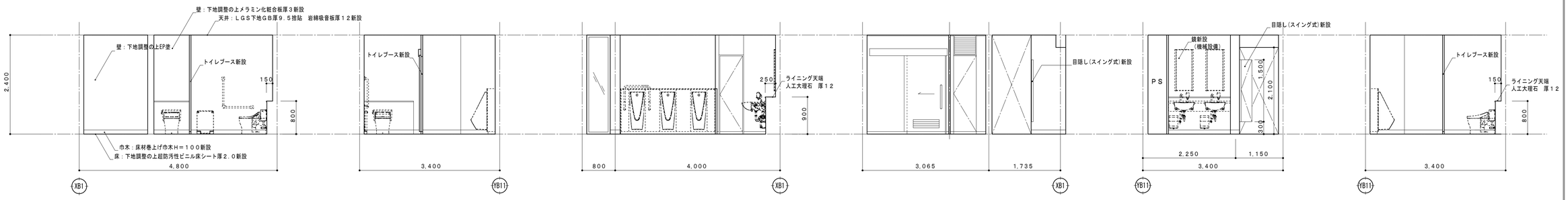
1～3階キープラン



1～3階天井伏図

解体撤去範囲を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-17
						図面名称	B4　1～3階便所展開図・天井伏図（改修前）　S = 1/50	設計日 2024年3月



1～3階男子便所

A

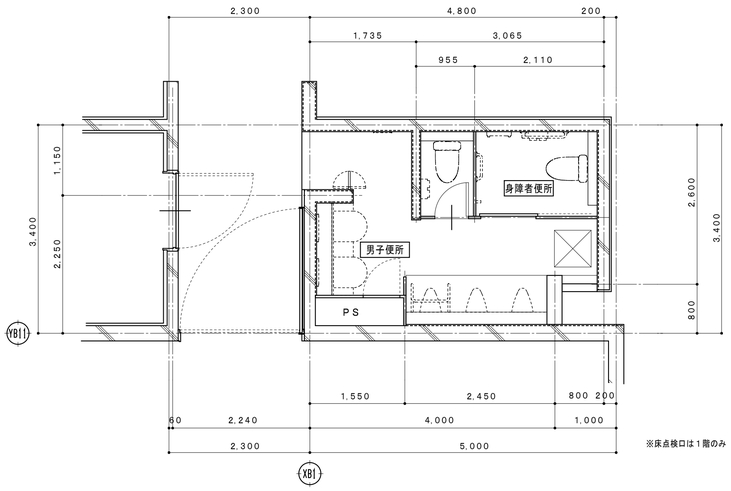
B

C１

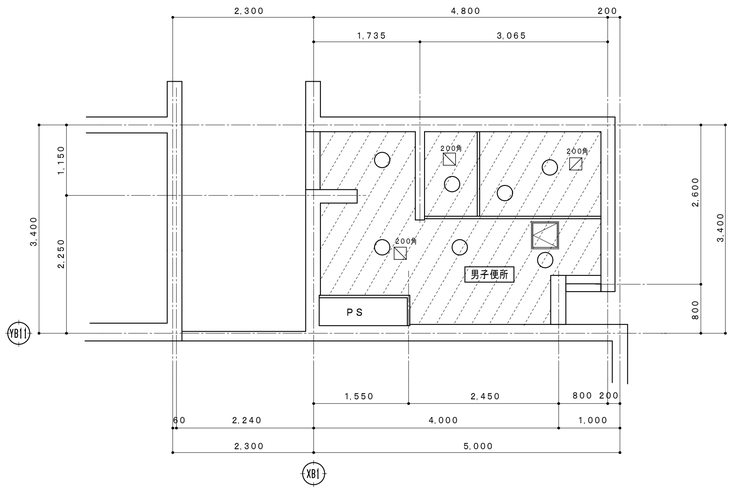
C２

D１

D２



1～3階キープラン



1～3階天井伏図

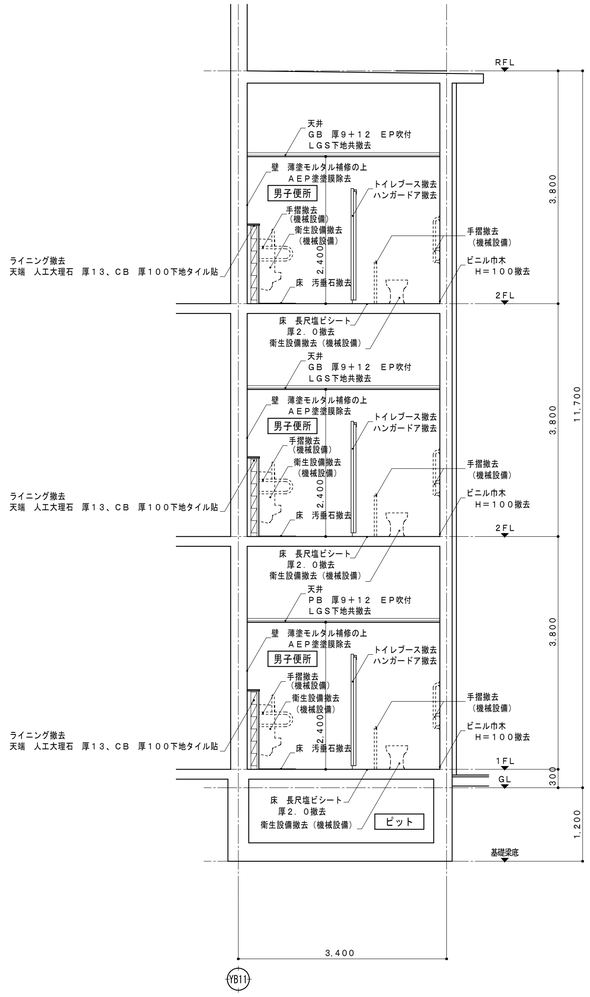
新設範囲を示す

天井点検口　アルミ製４５０角（開口補強共）を示す

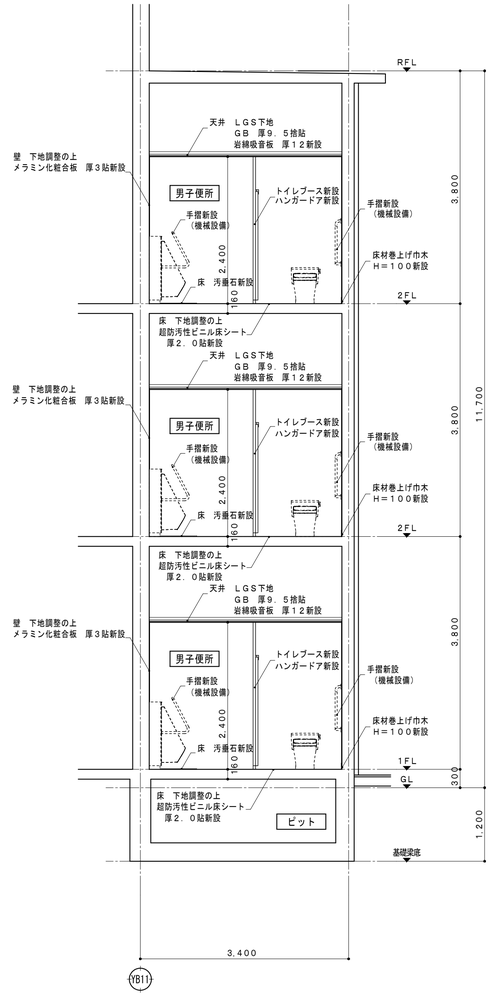
機械設備用天井開口（開口補強共）を示す
（寸法は図示）

電気設備用天井開口φ１５０（開口補強共）を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-18
							図面名称	B4　1～3階便所展開図・天井伏図（改修後）　S = 1/50	設計日 2024年3月

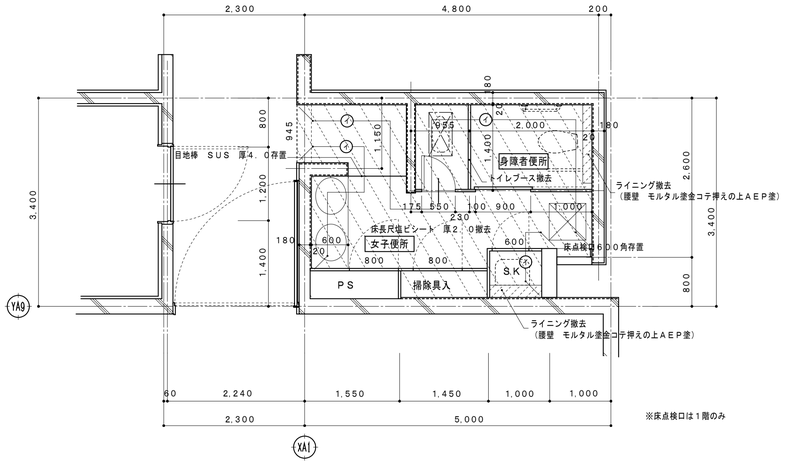


B4　矩計図（改修前）　　1：50



B4　矩計図（改修後）　　1：50

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No.	A-19
							図面名称	B4　矩計図（改修前・改修後）　S = 1/50	設計日	2024年3月



B6　1～3階便所平面詳細図（改修前）

略号表示

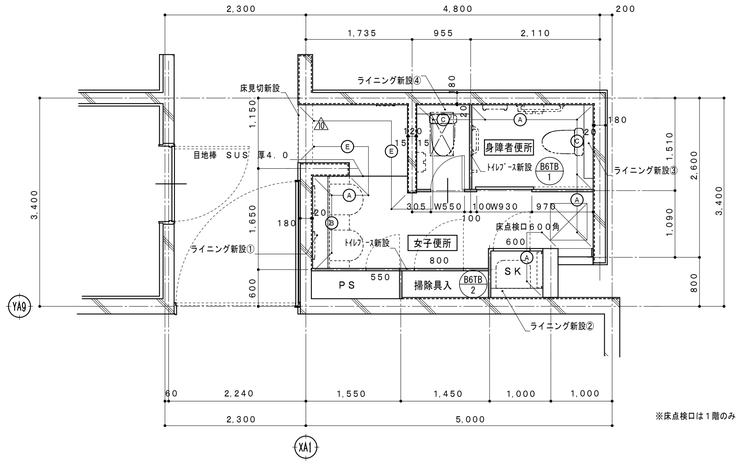
④　AEP塗(塗膜除去)

解体撤去範囲を示す

ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端人工大理石､CB 厚120下地

和便器撤去部
ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾀﾝﾄﾞ 厚１６０斫り撤去
（７１０×３８０）を示す（四周カッター切）

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ全撤去、洗面カウンター撤去
※衛生器具等撤去(機械設備)
　(衛生陶器､配管､手摺､鏡)
※照明器具等撤去(電気設備)
※仮設間仕切壁（LGS50 GB-R t12.5程度）、
　工事用出入口を係員と協議の上適宜設置する事



B6　1～3階便所平面詳細図（改修後）

略号表示

Ⓐ　壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板　厚３貼（一般色）(新設)
Ⓑ　壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板　厚３貼（指定色）(新設)
Ⓒ　壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板　厚３貼（柄）(新設)
Ⓔ　壁下地調整の上EP塗

※ライニング新設
①１５００×２５０×Ｈ　９００
②　８５０×１５０×Ｈ１１００
③１２００×１５０×Ｈ　８００
④　８６０×１５０×Ｈ　８００

サイン設置位置を示す（サイン詳細図参照）

和便器撤去部開口閉塞（７１０×３８０）
ｺﾝｸﾘｰﾄ(21N/m2)厚１６０直押え
後施工アンカー（差筋アンカー　Ｄ１３
　薬液固定型）＠２００（１ヵ所につき１４本）

内部仕上表

階数	室名		床高	天井高	床		巾木	腰壁		壁		天井		廻り縁	室名		備考
			基準FL±	FL±	下地	仕上	仕上	下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上	仕上			
1階 2階 3階	女子便所	改修前	±0	2,400	C	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ　厚2.0貼(撤去)	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100(撤去)	MO	AEP塗(下地モルタル共撤去)	MO.LGS	AEP塗(塗膜除去)、GB　厚12の上AEP塗(塗膜除去)	LGS(撤去)	ＧＢ　厚９＋１２　ＥＰ塗（撤去）	塩ﾋﾞ製(撤去)	女子便所		建築：ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ撤去、洗面カウンター撤去、ﾗｲﾆﾝｸﾞCB積撤去 機械設備：衛生器具、手摺、鏡撤去
		改修後	±0	2,400	下地調整	超防汚性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ　t=2.0貼(新設)	床材巻上げ巾木 H=100(新設)	－	－	下地調整	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板　厚３貼(新設)	LGS(新設)	ＧＢ 厚９．５捨貼、岩綿吸音板 厚１２(新設)	塩ﾋﾞ製(新設)			建築：ﾗｲﾆﾝｸﾞ天板　人口大理石甲板t12、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ新設 機械設備：L型手摺

下地凡例

C	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地		
MO	ﾓﾙﾀﾙ塗		
LGS	軽量鉄骨下地		
CB	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ		
SL	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ		
W	木下地		

防火材料認定番号(認定番号は参考)

EP塗・EP-G塗	不燃　NM-8585		
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚9.5	準不燃　QM-9828		
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚12.5	不燃　NM-8619		
岩綿吸音板 厚12	不燃　NM-8599		
ﾒﾗﾐﾝ化粧板 厚3.0	不燃　NM-2183		

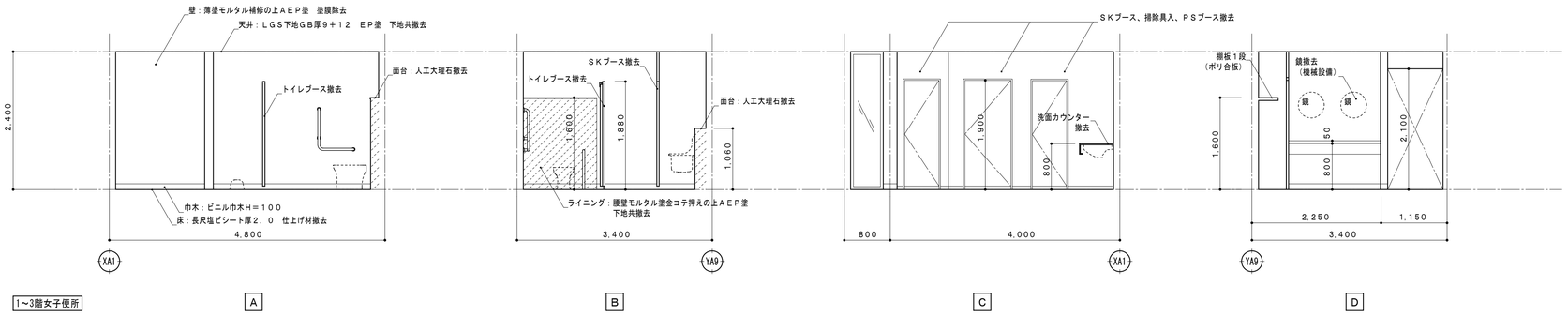
特記事項

床既設面下地調整については、速硬型調整材にて下地を行うこと。	天井点検口450角を適宜設けること。	天井点検口　内部450角とする。	
塩ﾋﾞ製廻り縁は目透かしﾀｲﾌﾟとする。	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板下地材については十分な養生期間を持ち、施工要領による乾燥状態にて施工を行うこと。	手洗、ＳＫ部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB　厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板　厚３貼（一般色）	
ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼端部及び巾木取合部にはｱﾙﾐ製見切りを取り付けること。	内装仕上げ材は、F☆☆☆☆仕様とする。	大便器部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB　厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板　厚３貼（柄）	
衛生器具等の壁取付部分には補強材またはGB-Sに替え構造用合板にて補強を行うこと。	天井裏・小屋裏の使用材料は、F☆☆☆仕様とする。		

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					

株式会社　総合設備コンサルタント

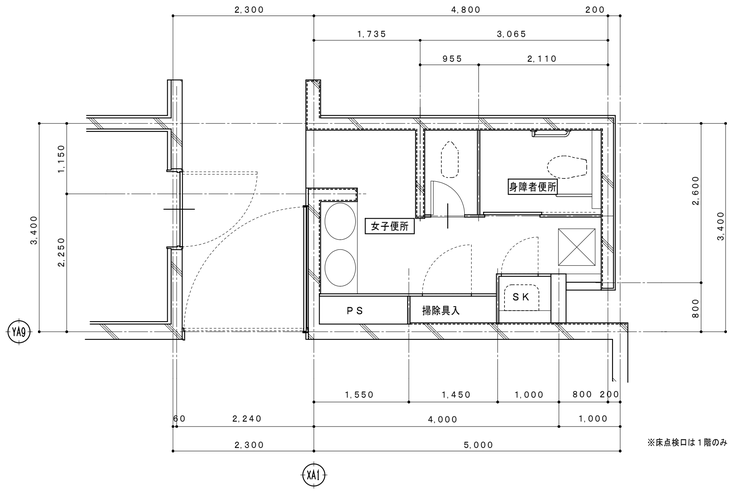
工事名称	滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-20
図面名称	B6　1～3階便所平面詳細図（改修前・改修後）　S = 1/50	設計日 2024年3月



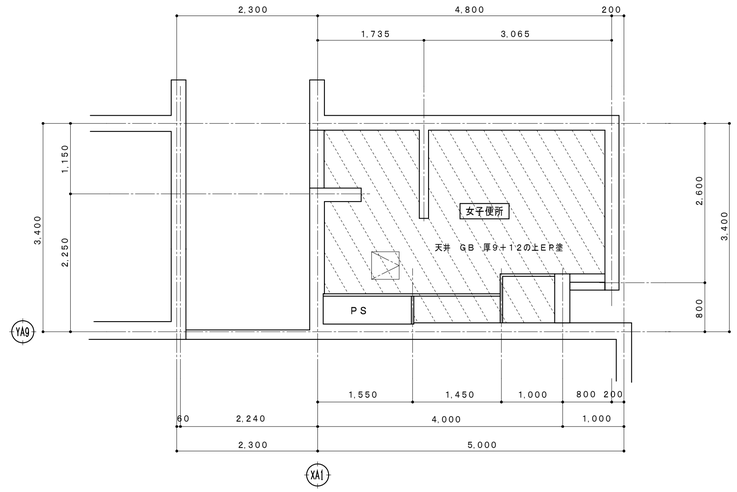
1～3階女子便所

ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端人工大理石、CB 厚120下地

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽは全撤去、洗面ｶｳﾝﾀｰ撤去
※衛生器具等撤去（機械設備）
（衛生陶器、配管、手摺、鏡）
※照明器具等撤去（電気設備）



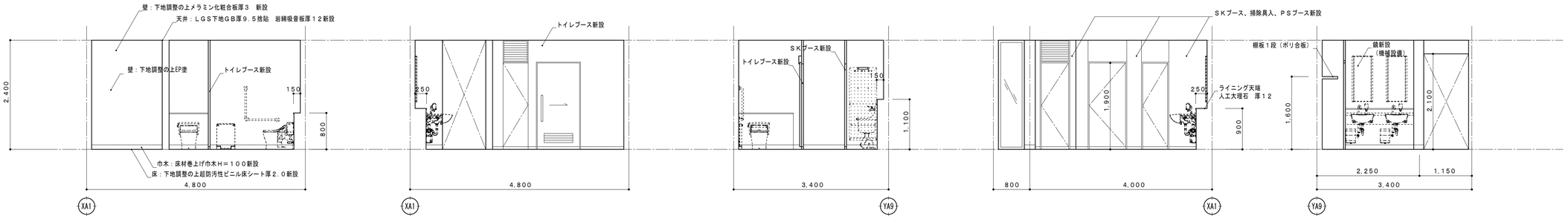
1～3階キープラン



1～3階天井伏図

解体撤去範囲を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-21
							図面名称	B6　1～3階便所展開図・天井伏図（改修前）　S = 1/50	設計日 2024年3月



1～3階女子便所

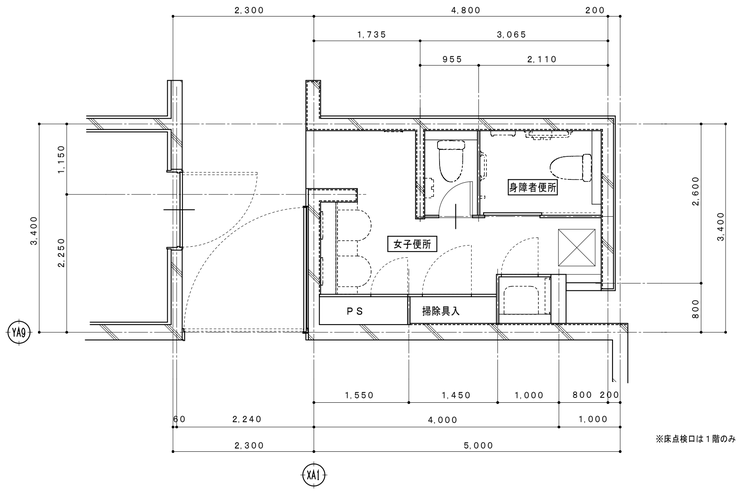
A１

A２

B

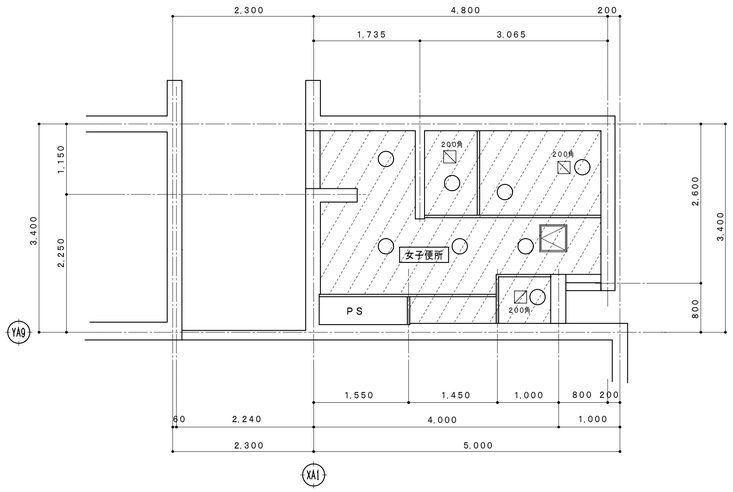
C

D



※床点検口は１階のみ

1～3階キープラン



1～3階天井伏図

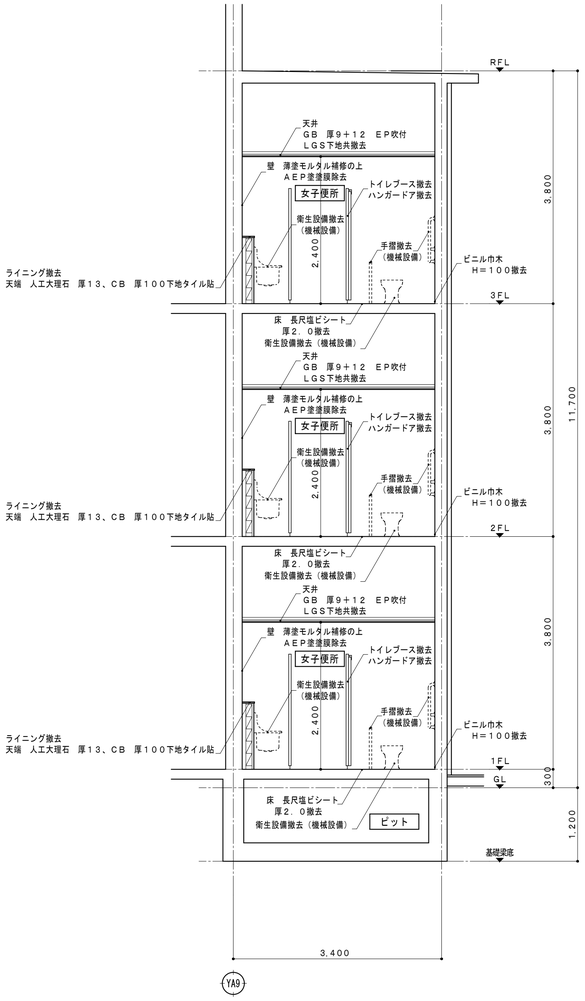
新設範囲を示す

天井点検口　アルミ製４５０角（開口補強共）を示す

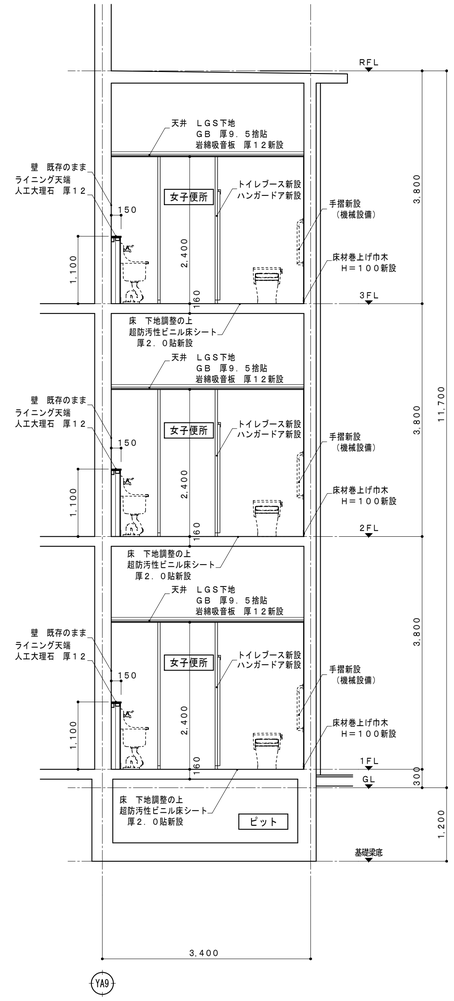
機械設備用天井開口（開口補強共）を示す
（寸法は図示）

電気設備用天井開口φ１５０（開口補強共）を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-22
							図面名称	B6　1～3階便所展開図・天井伏図（改修後）　S = 1/50	設計日 2024年3月



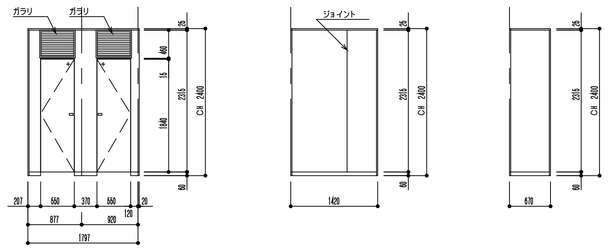
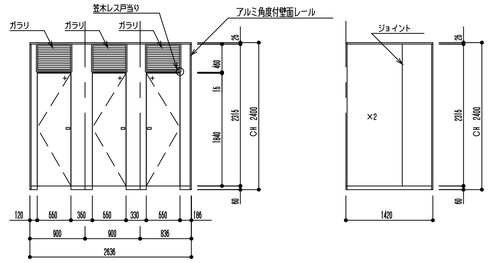
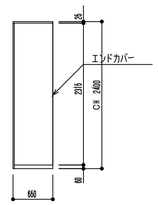
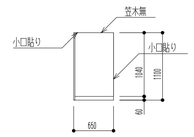
B6　矩計図（改修前）　　1：50

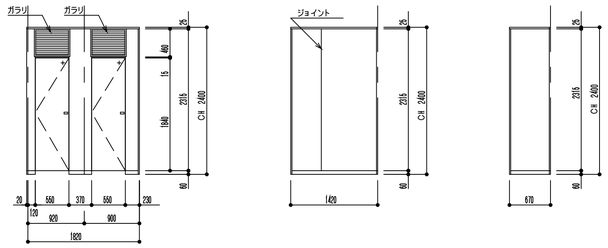
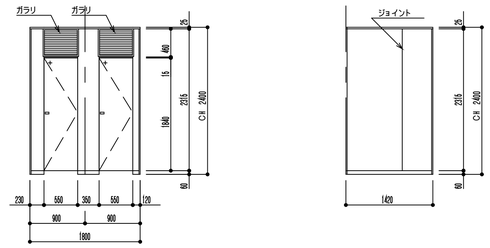
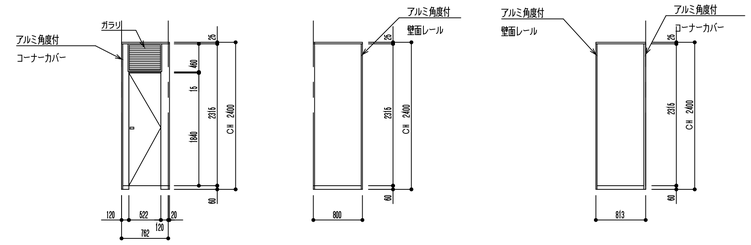


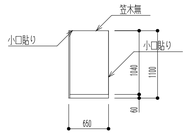
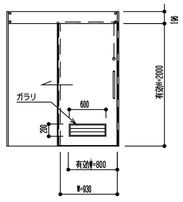
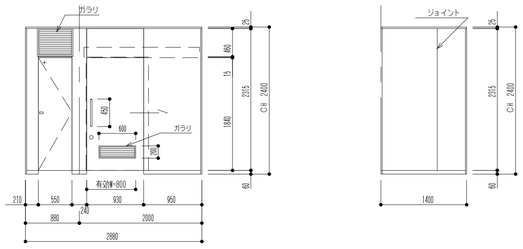
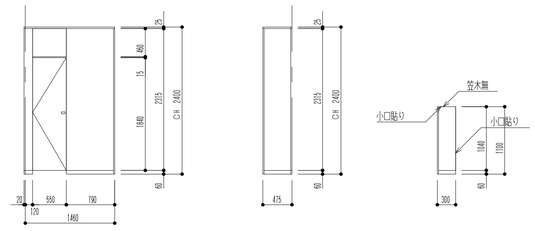
※ライニング撤去跡の壁面は薄塗モルタル補修とする

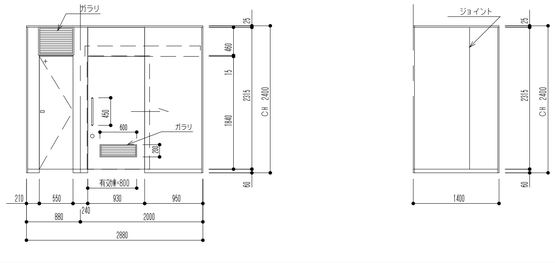
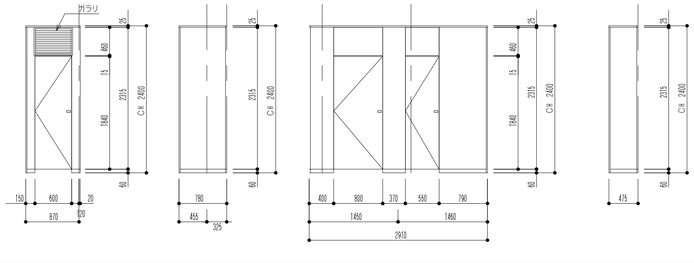
B6　矩計図（改修後）　　1：50

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称 滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. A-23
							図面名称 B6　矩計図（改修前・改修後）　S = 1/50	設計日 2024年3月

符合・数量	B0TB-1	B0TB-2	B0TB-3	B0TB-4
	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所
形式・使用箇所	トイレブース　B0棟 1階女子便所	トイレブース　B0棟 1階男子便所	トイレブース　B0棟 1階男子便所	トイレブース　B0棟 1階男子便所
姿図				
見込	40	40	40	40
材質・仕上	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN　扉:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN　扉:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN
ガラス				
金物	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り ロック・戸当り帽子掛け・巾木・床レール	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り ロック・戸当り帽子掛け・巾木・床レール	天井レール・目板 巾木・床レール	天井レール・目板 巾木・床レール
備考	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品

符合・数量	B0TB-5	B0TB-6	B0TB-7
	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所
形式・使用箇所	トイレブース　B0棟 2階女子便所	トイレブース　B0棟 2階男子便所	トイレブース　B0棟 2階男子便所
姿図			
見込	40	40	40
材質・仕上	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN　扉:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN　扉:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN　扉:K-6600KN
ガラス			
金物	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り ロック・戸当り帽子掛け・巾木・床レール	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り ロック・戸当り帽子掛け・巾木・床レール	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り 巾木・床レール
備考	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品

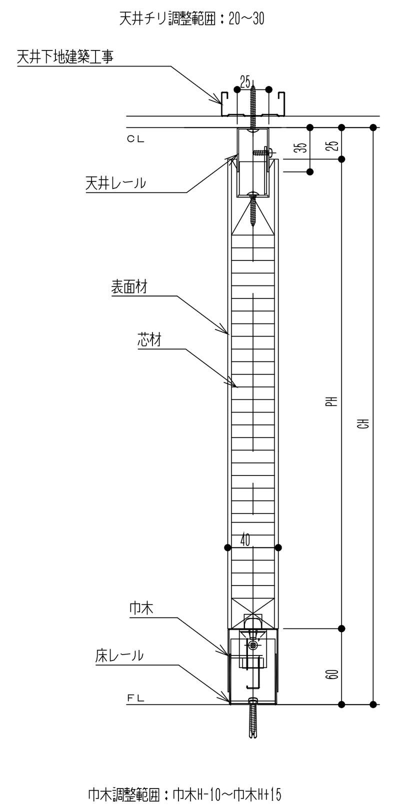
符合・数量	B0TB-8	B0CD-1	B4TB-1	B4TB-2
	1ヶ所	1ヶ所	3ヶ所	3ヶ所
形式・使用箇所	トイレブース　B0棟 2階男子便所	自閉式片引き吊戸　B0棟 1階オールジェンダートイレ	トイレブース　B4棟 1～3階男子便所	トイレブース　B4棟 1～3階男子便所
姿図				
見込	40	枠：147　扉：40	40	40
材質・仕上	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN	焼付塗装仕上げ	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN　扉:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN　扉:K-6600KN
ガラス				
金物	天井レール・目板 巾木・床レール	ハンガーレール・ステンレス鏡面ハンドル 付属金物一式	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り 点検カバー・ベース板・自閉装置・ハンドル・ロック・戸当り帽子掛け・巾木・床レール	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り 巾木・床レール
備考	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 カームドア外付け枠タイプ 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品

符合・数量	B6TB-1	B6TB-2
	3ヶ所	3ヶ所
形式・使用箇所	トイレブース　B6棟 1～3階女子便所	トイレブース　B6棟 1～3階女子便所
姿図		
見込	40	40
材質・仕上	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN　扉:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN　扉:K-6600KN
ガラス		
金物	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り 点検カバー・ベース板・自閉装置・ハンドル・ロック・戸当り帽子掛け・巾木・床レール	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り 巾木・床レール
備考	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品

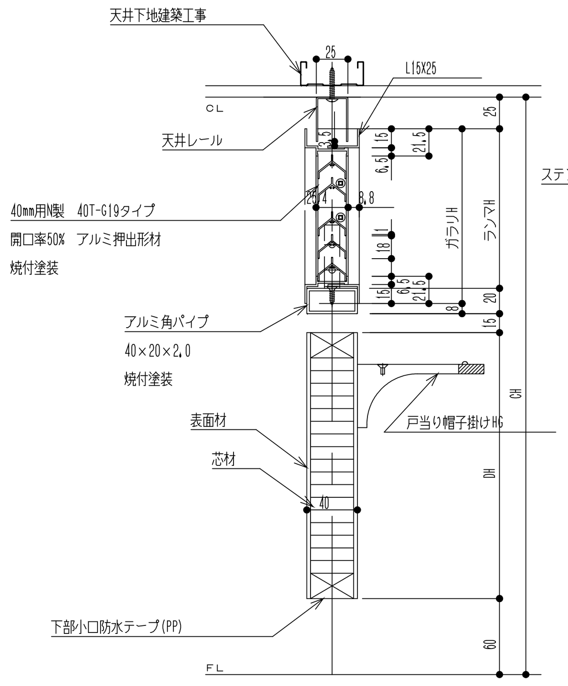
令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課		株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事
				図面名称	建具リスト　S = 1/50
				図面No.	A-24
				設計日	2024年3月

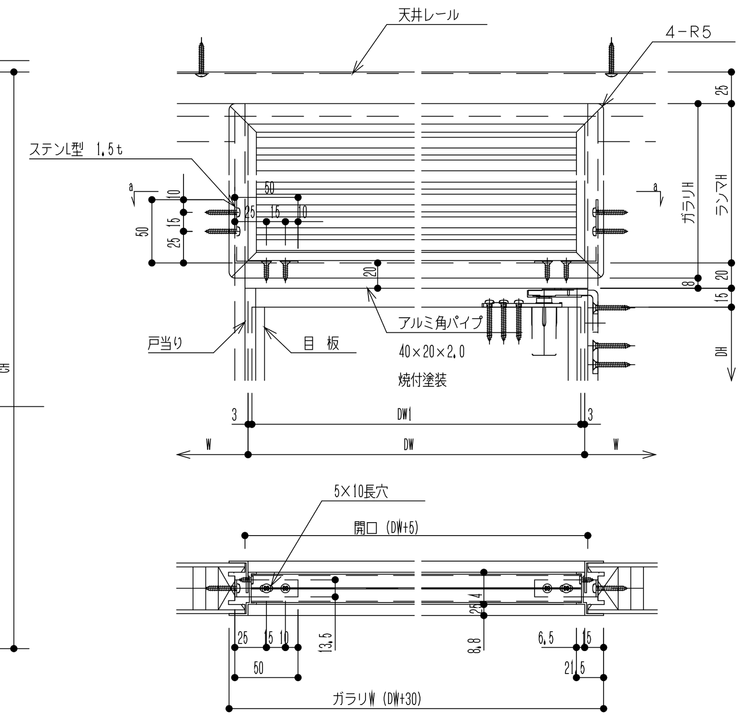
断面図（S＝1／5）

パネル詳細

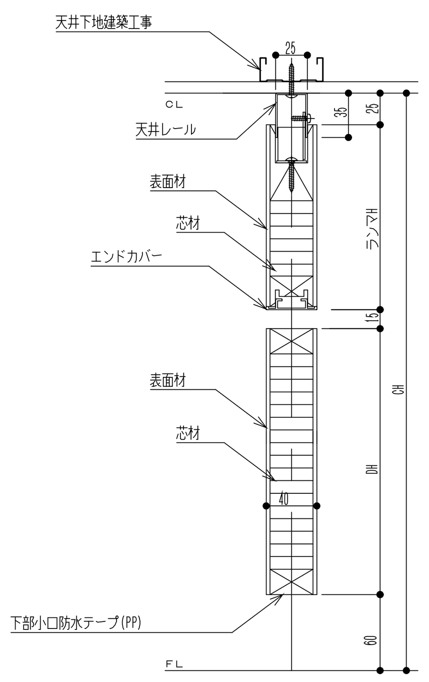


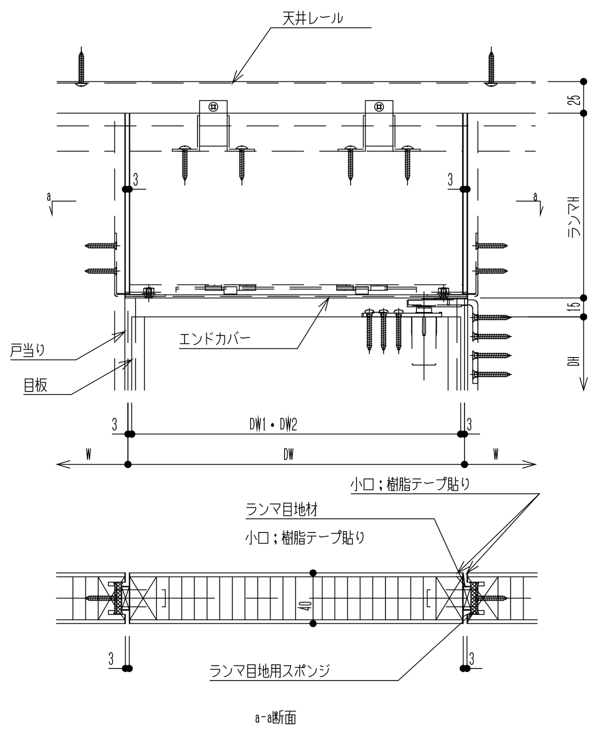
扉詳細

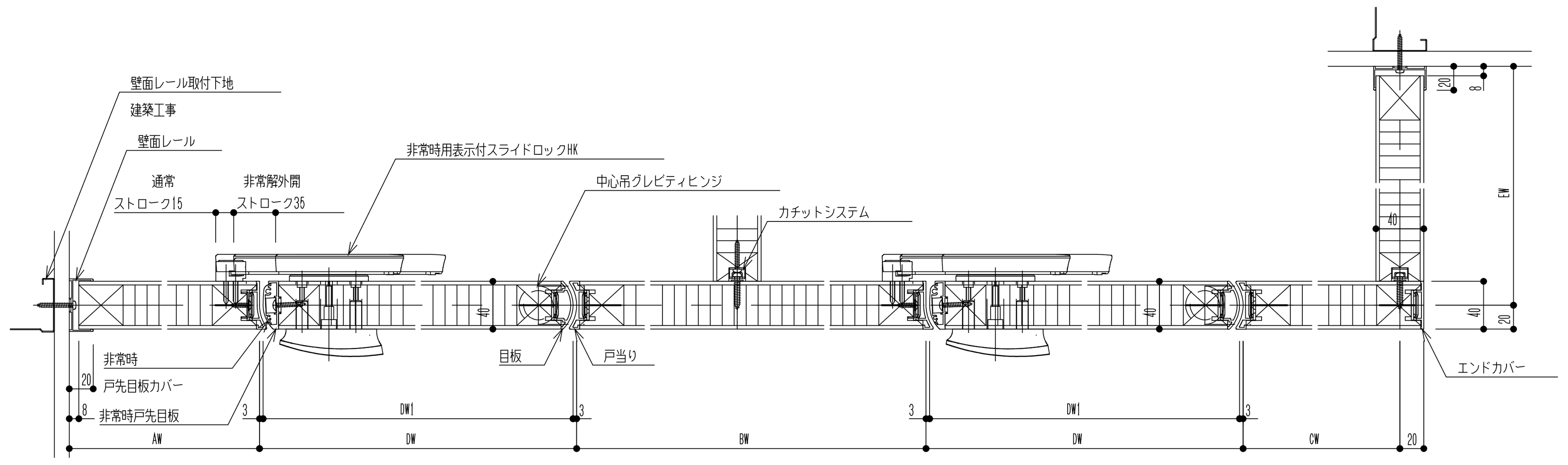




扉詳細





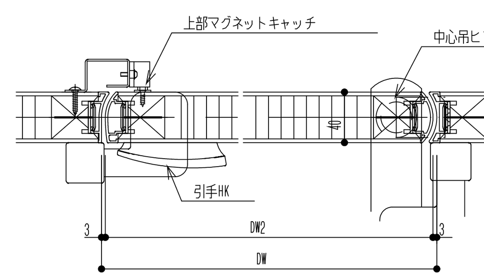


内開きトイレ用扉

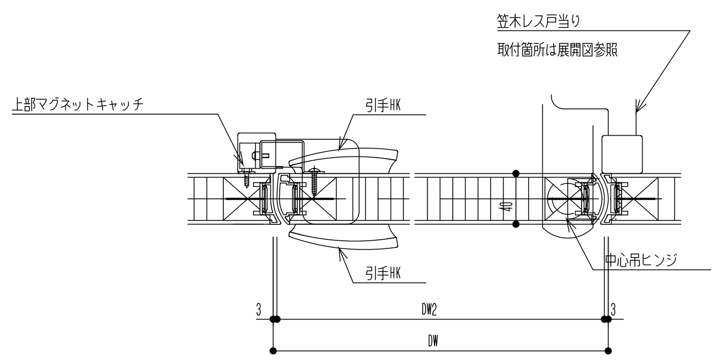
非常時外開き対応ドア

内開きトイレ用扉

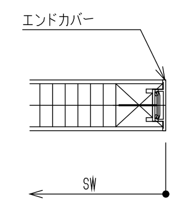
非常時外開き対応ドア



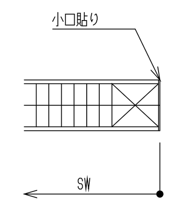
SK・物入れ用外開き扉



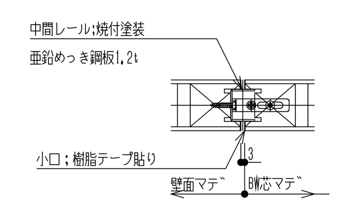
SK・物入れ用内開き扉



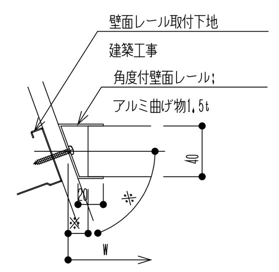
スクリーン端部



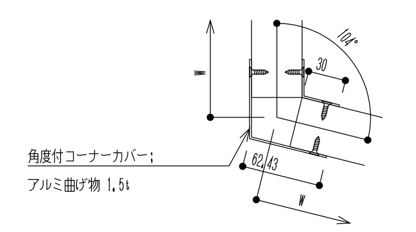
スクリーン端部



ジョイント

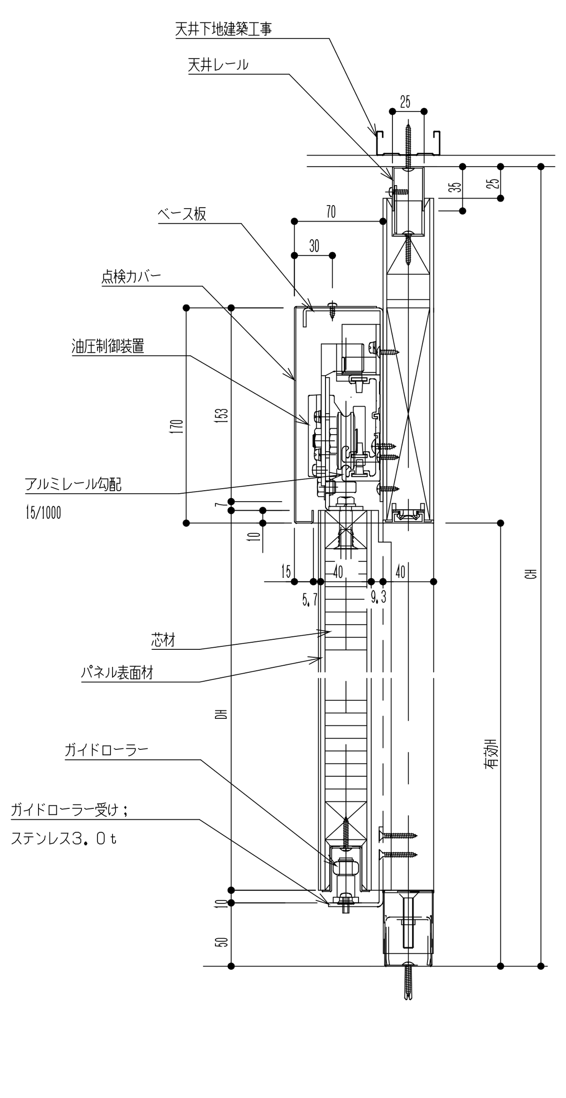


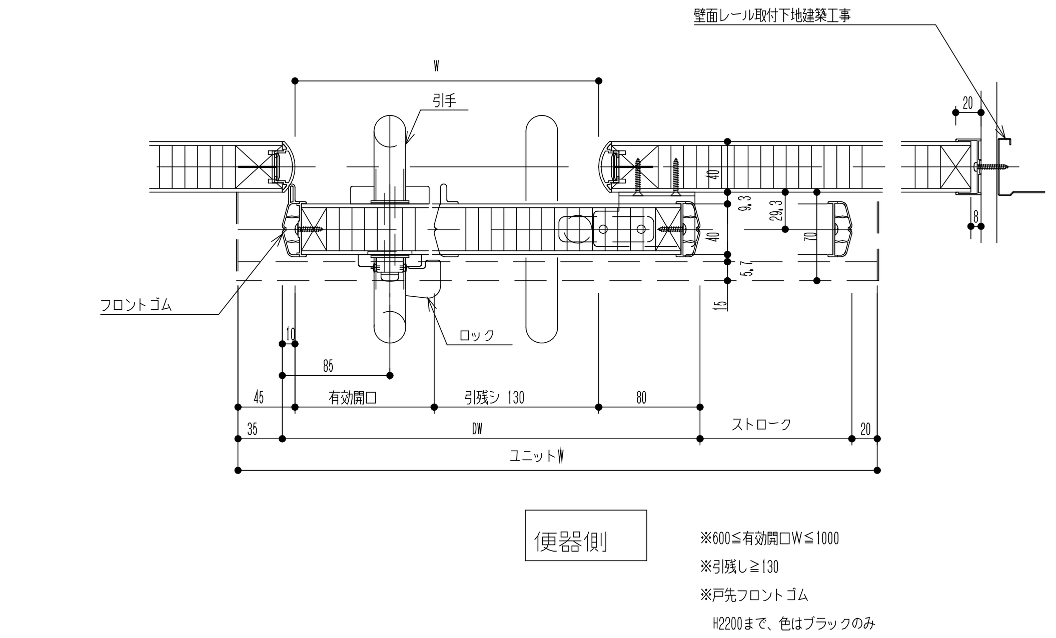
角度付壁面レール



角度付コーナーカバー

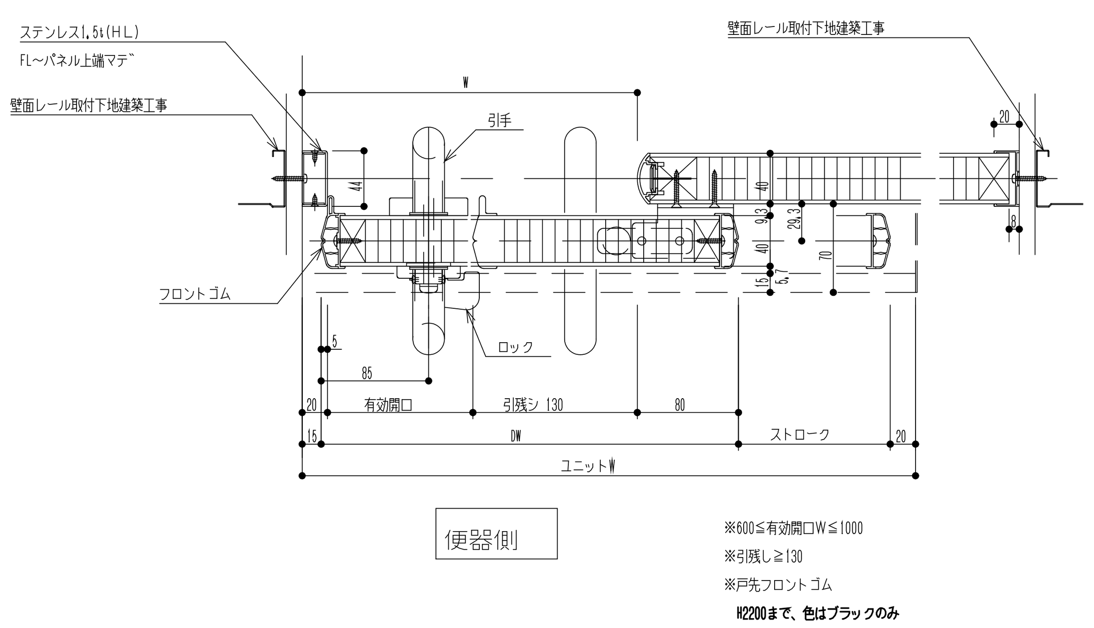
カーム詳細





便器側

※600≦有効開口W≦1000
※引残し≧130
※戸先フロントゴム
　H2200まで、色はブラックのみ



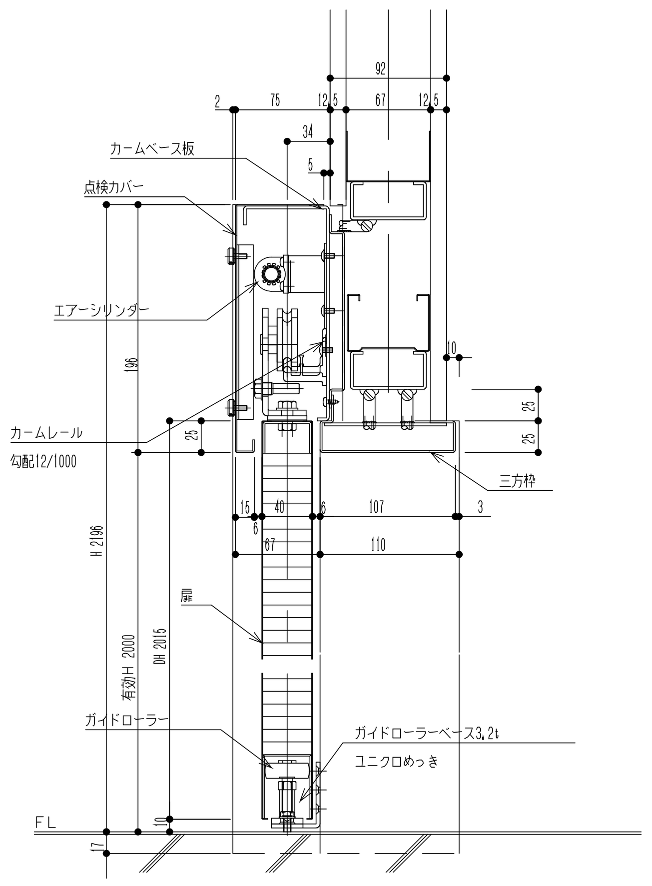
便器側

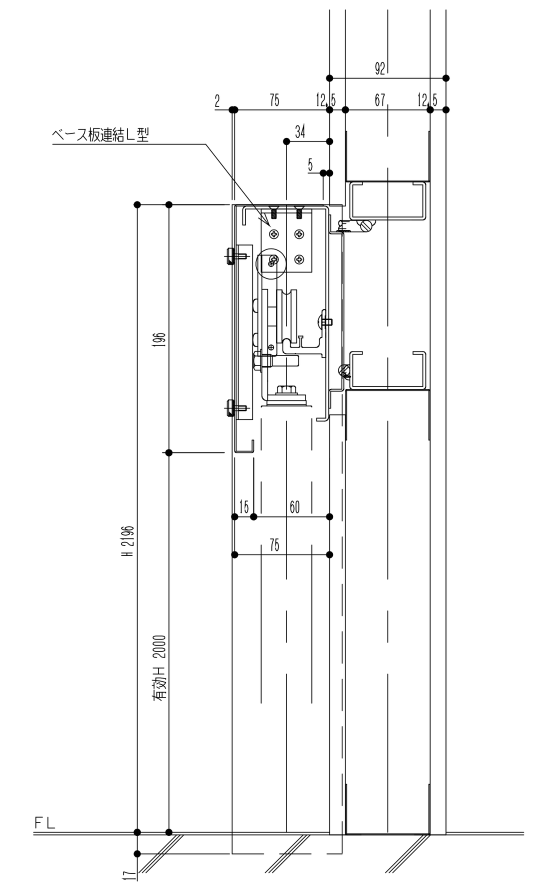
※600≦有効開口W≦1000
※引残し≧130
※戸先フロントゴム
H2200まで、色はブラックのみ

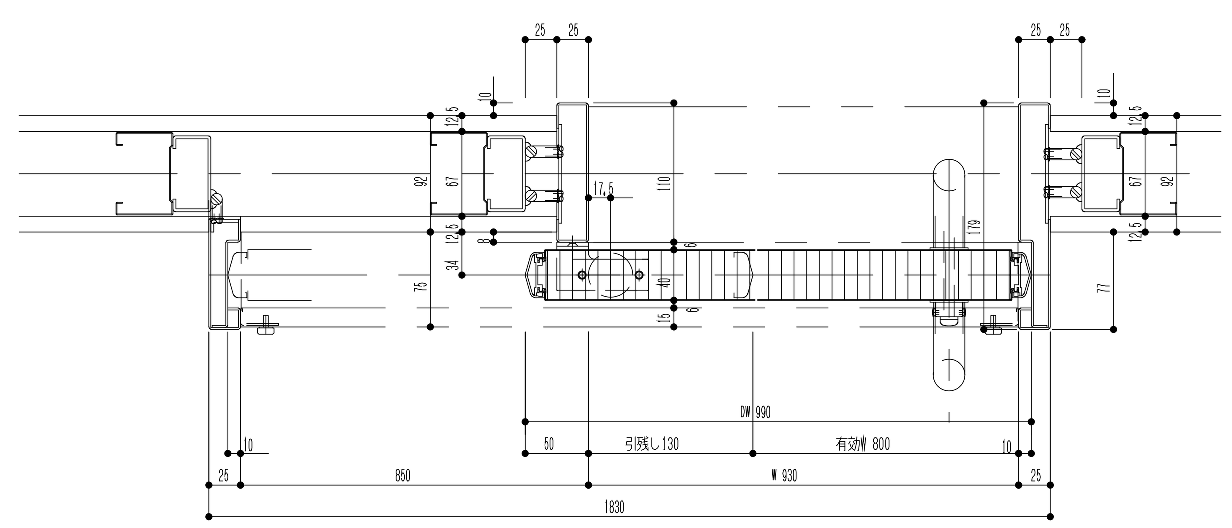
◇仕様表

(小松ウオール　サニティTB-TPタイプ又は同等品)

項　目	部　材	材　料（板厚mm）
パネル	パネル表面材	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF) 単色・木目共　20色以上
	芯　材	ペーパーコア
	目板／戸当り	アルミ押出形材　〈焼付塗装仕上〉
付属品	巾木／床レール	ステンレス　0.8mm　〈ヘアライン仕上〉
	天井レール	亜鉛めっき鋼板　1.2mm　〈焼付塗装仕上〉
	壁面レール／エンドカバー	アルミ押出形材　〈焼付塗装仕上〉
	ヒンジ　／SKヒンジ	中心吊グレビティヒンジ　　／中心吊ヒンジ
	ロック	非常時用表示付スライドロックHK
	その他金物	戸当り帽子掛けHG　　／引手HK
カーム	パネル表面材(ドアパネル)	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF) 単色・木目共　20色以上
	芯　材(ドアパネル)	ペーパーコア
	フロントゴム	ポリ塩化ビニル(PVC)
	ベース板	亜鉛めっき鋼板2.3mm
	点検カバー	冷間圧延鋼板1.2mm　〈焼付塗装仕上〉
	ロック	非常解錠付樹脂製サムターン〈SLB-20SW〉
	引手	ステンレス鏡面ハンドルφ25







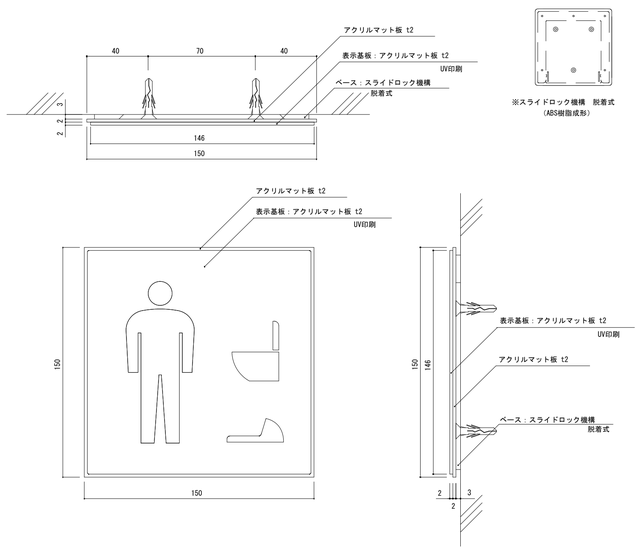
◇仕様表

(小松ウオール　カームドア外付け枠タイプ又は同等品)

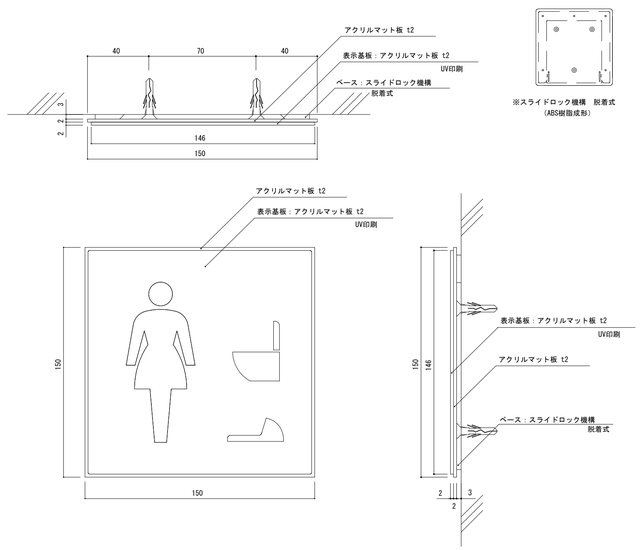
項　目	部　材	材　料（板厚mm）
駆動装置	駆動方式	傾斜レール　制御装置エアダンパ
	カームベース板	亜鉛めっき鋼板　2.3mm　〈防錆塗装仕上〉
	カームレール	アルミ押出形材　〈アルマイト処理仕上〉
	ハンガー戸車	樹脂製戸車　ブラケットはめっき仕上
枠	先付け枠	亜鉛めっき鋼板　1.6mm　〈焼付塗装仕上〉
	点検カバー	冷間圧延鋼板　1.2mm　〈焼付塗装仕上〉
扉	パネル表面材	亜鉛めっき鋼板　0.6mm　〈焼付塗装仕上〉
	芯　材	ペーパーコア
	フロントゴム	ポリ塩化ビニル　〈ブラック色〉
金物	ロック	非常解錠付樹脂製サムターンSLB-20SW(上)
	取　手	ステンレス鏡面ハンドルφ25　L=450
ガラリ	ガラリ	アルミ押出形材　〈焼付塗装仕上〉

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称 滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. A-25
			図面名称 建具詳細図　S = 1/5	設計日 2024年3月

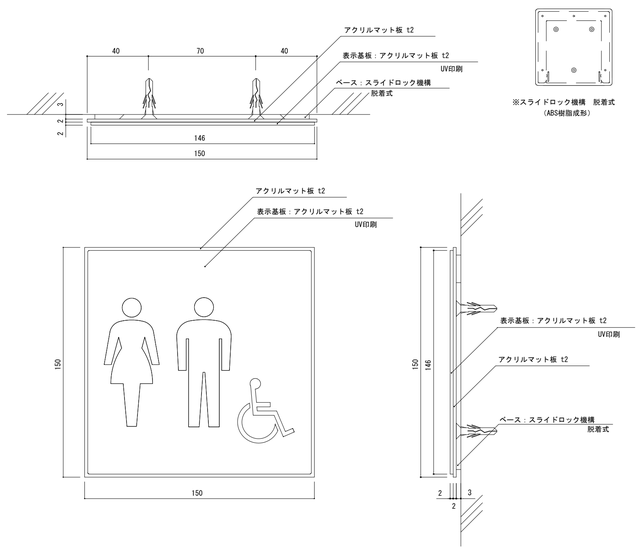
1	平付型男子トイレサイン（B0　1階）	縮尺	1:2	数量	1



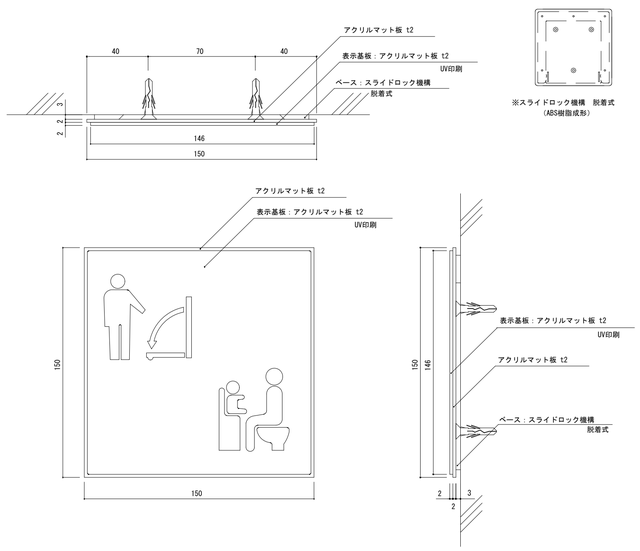
2	平付型女子トイレサイン（B0　1階）	縮尺	1:2	数量	1



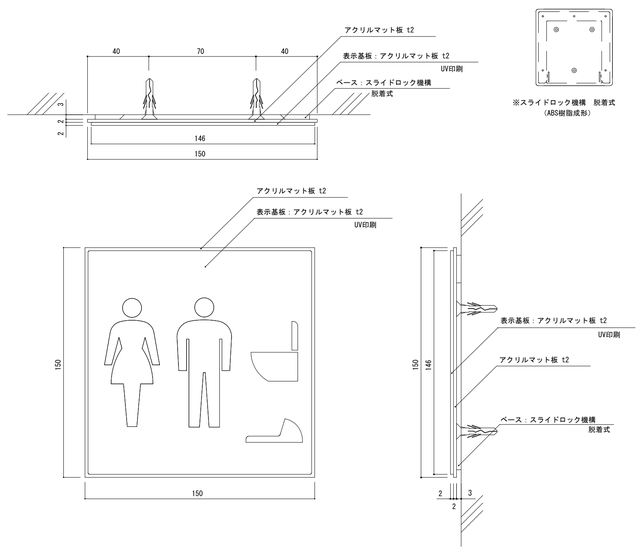
3	平付型オールジェンダートイレサイン（B0　1階）	縮尺	1:2	数量	2



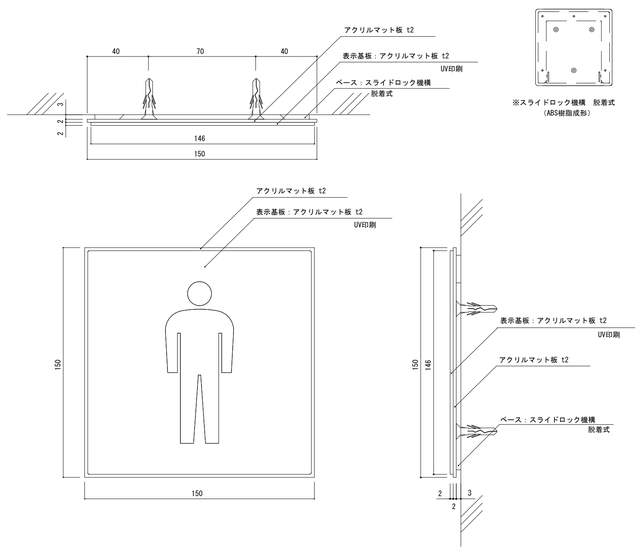
4	平付型オールジェンダートイレサイン（B0　1階）	縮尺	1:2	数量	2



5	平付型トイレサイン（B0 1階）	縮尺	1:2	数量	1



6	平付型男子トイレサイン（B0　2階）	縮尺	1:2	数量	1



■サイン特記仕様
（1）使用材料
　a．木材　　：ＶＯＣ商品（ホルムアルデヒド基準Ｆ☆☆☆☆対応）とする。
　b．アルミ　　：ＪＩＳ－Ｈ４１００　Ａ－６０６３　Ｓ－Ｔ５（アルミ押出型材）
　c．アクリル　　：ＪＩＳ－Ｋ－６７１８
　d．ステンレス　：ＪＩＳ－Ｇ４３０５　ＳＵＳ３０４、ＨＬ仕上
（2）フォント
　a．書体については、丸ゴシックは「スーラＤＢ」、角ゴシックは「新ゴＭ」を基準とする。
　　※但し、係員より特定の書体の指示があった場合はこの限りではない。

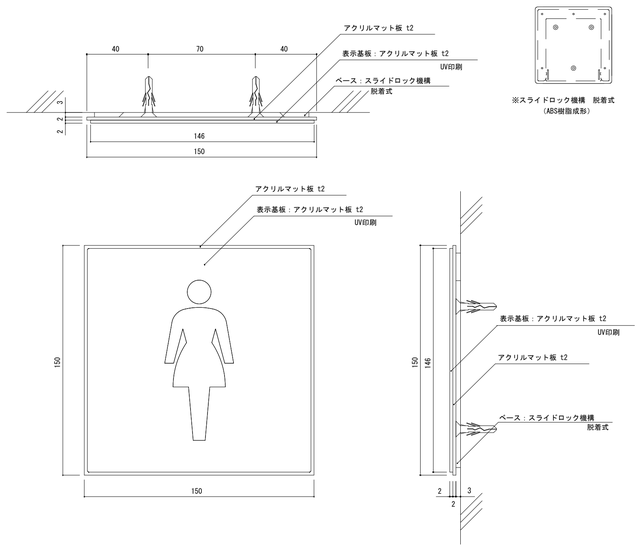
（3）ピクトグラム
　a．図柄については、原稿を作成し係員の承認を受ける事。
（4）カラーユニバーサル
　a．CUDカラー認証取得業者での制作とする。
（5）取付位置・方法
　a．取付位置については、視認性を考慮し係員と協議の上決定する。
　b．取付方法については、取付位置の下地などを考慮し適切な方法で取付を行う事。
　c．障害者用サインについては、自治体福祉要綱に基づき、係員と協議の上決定する。

（6）その他
　a．室名札については、部屋の移動・名称変更に対応できるよう脱着式を基本とする。
　　又、室名札脱着の際にはスライドロック機構、専用吸盤などを利用し
　　商品の損傷等がなくスムーズに脱着できる仕様とする事。
　b．サイン計画については、当施設の他工事と充分に調整協議をする事。

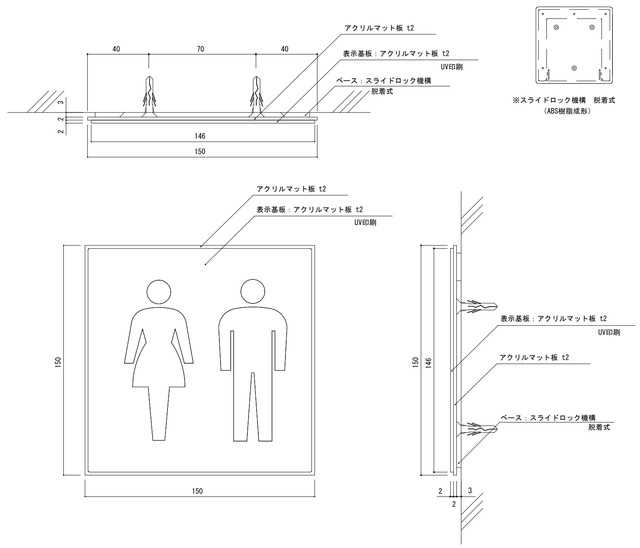
令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社	総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事	図面No.	A-26
		図面名称	ピクトサイン詳細図（1）　S = 1/2	設計日	2024年3月

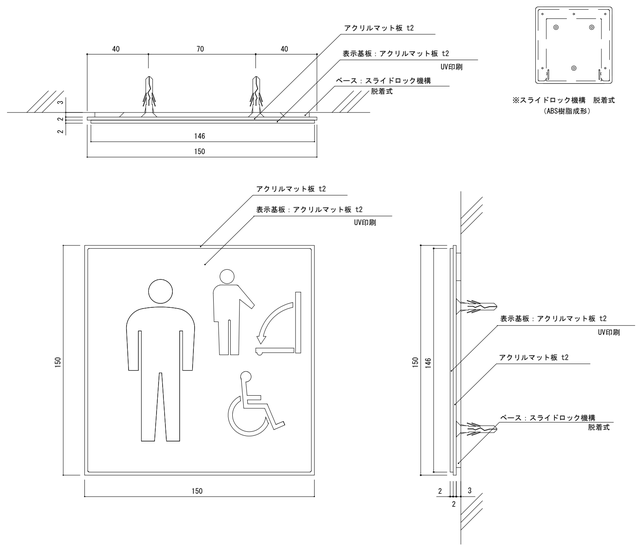
7	平付型女子トイレサイン（B0　2階）	縮尺	1:2	数量	1



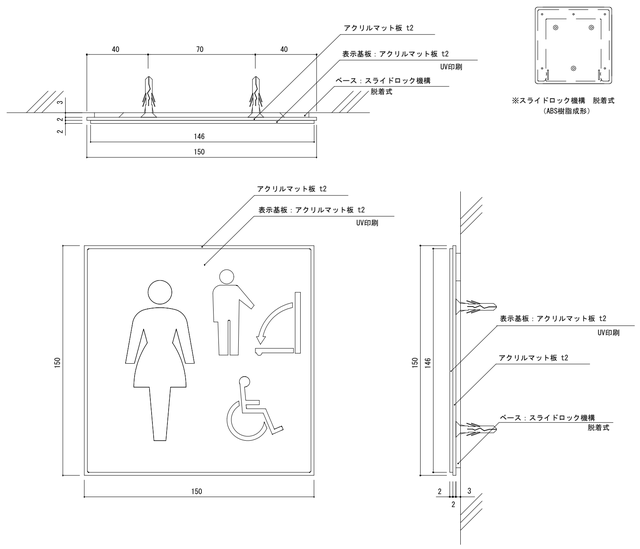
8	平付型トイレサイン（B0　2階）	縮尺	1:2	数量	1



9	平付型男子トイレサイン（B4　1～3階）	縮尺	1:2	数量	3



10	平付型女子トイレサイン（B6　1～3階）	縮尺	1:2	数量	3



■サイン特記仕様
（1）使用材料
　a．木材　　：ＶＯＣ商品（ホルムアルデヒド基準Ｆ☆☆☆☆対応）とする。
　b．アルミ　　：ＪＩＳ－Ｈ４１００　Ａ－６０６３　Ｓ－Ｔ５（アルミ押出型材）
　c．アクリル　　：ＪＩＳ－Ｋ－６７１８
　d．ステンレス　：ＪＩＳ－Ｇ４３０５　ＳＵＳ３０４、ＨＬ仕上
（2）フォント
　a．書体については、丸ゴシックは「スーラＤＢ」、角ゴシックは「新ゴＭ」を基準とする。
　　※但し、係員より特定の書体の指示がある場合はこの限りではない。

（3）ピクトグラム
　a．図柄については、原稿を作成し係員の承認を受ける事。
（4）カラーユニバーサル
　a．ＣＵＤカラー認証取得業者での制作とする。
（5）取付位置・方法
　a．取付位置については、視認性を考慮し係員と協議の上決定する。
　b．取付方法については、取付位置の下地などを考慮し適切な方法で取付を行う事。
　c．障害者用サインについては、自治体福祉要綱に基づき、係員と協議の上決定する。

（6）その他
　a．室名札については、部屋の移動・名称変更に対応できるよう脱着式を基本とする。
　　又、室名札脱着の際にはスライドロック機構、専用吸盤などを利用し
　　商品の損傷等がなくスムーズに脱着できる仕様とする事。
　b．サイン計画については、当施設の他工事と充分に調整協議をする事。

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社	総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事	図面No.	A-27
		図面名称	ピクトサイン詳細図（2）　S = 1/2	設計日	2024年3月

滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事

図面リスト

番号	図面名称	縮尺
M-01	機械設備特記仕様書	NOSCALE
M-02	共通　給排水衛生設備　衛生器具リスト	NOSCALE
	B0　中央棟	
M-03	B0　給排水衛生設備　1階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-04	B0　給排水衛生設備　2階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-05	B0　換気設備　1階平面詳細図（撤去・新設）	1/50
M-06	B0　換気設備　2階平面詳細図（撤去・新設）	1/50
	B4　環境資源管理学科棟	
M-07	B4　給排水衛生設備　1階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-08	B4　給排水衛生設備　2階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-09	B4　給排水衛生設備　3階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-10	B4　換気設備　1～3階平面詳細図（撤去・新設）	1/50
	B6　環境生態学科棟	
M-11	B6　給排水衛生設備　1階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-12	B6　給排水衛生設備　2階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-13	B6　給排水衛生設備　3階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-14	B6　換気設備　1～3階平面詳細図（撤去・新設）	1/50

機械設備工事特記仕様書

工事概要

工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事
工事場所	滋賀県彦根市八坂町2500
工事期間・限	日間　・　令和　　年　　月　　日
工事概要説明	滋賀県立大学の便所改修を行う 上記に伴う機械設備工事の一切を行う。

※該当工事には適用欄に○印を附す。

適用	No	工事種目	工種 新設	工種 改修	備考
	1	受水設備			
○	2	給水設備		○	
○	3	排水通気設備		○	既設排水管の管更生を行う。
○	4	衛生器具設備		○	
	5	ガス設備			
	6	消火設備			
○	7	給湯設備		○	洗面器付属の貯湯式電気温水器の設置を行う。
○	8	換気設備		○	
	9	排煙設備			
	10	暖房設備			
	11	冷房設備			
	12	空気調和設備			

別途工事　（建築・電気）

・工事区分表による。

機械設備工事仕様書

1．図面及び仕様書に記載されていない事項は、すべて、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書、同改修工事標準仕様書および同設備工事標準図の令和４年度版機械設備工事編（以下、「標仕」という）による。

2．項目は、○、※印の付いたものを適用する。

建物概要

No	名称	構造	階数	延面積（㎡）	棟数	備考
	計					

一般共通事項

項目	特記事項
適用項目	一般共通事項の扱いは、本工事が単独の工事又は分離発注の場合は以下の全項目を適用し、他工事に含まれる一括発注の場合は、※印を付したものを適用する。
※１ 施工基準	イ 本工事は、工事請負契約書及び同約款を遵守し、本特記仕様書、図面 14 巻及び標準仕様書により完全に施工する。なお上記相互間に相違のある場合の優先順位は記載の順序とする。 ロ 必要な関係諸官庁への申請手続き等は、全て受注者の負担とする。 ハ 本図は、工事の大要を示すものであるから、詳細位置等については監督職員と打合せの上、その指示に従い施工する。 ニ その他関係諸法規に基づき完全に施工する。
※２ 監理指針	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修機械設備工事監理指針（令和４年版）に準ずる
※３ 施工監理ﾁｪｯｸﾘｽﾄ	施工に際し、施工手引き書である機械設備工事施工監理チェックリスト（滋賀県土木交通部建築課　２０１９年度版）に従う。
４ 完成図	完成図の種類、記入内容および様式は標仕により作成し、原図、ＣＡＤデータおよび焼付製本(縮小版A4サイズ)　　部を提出するものとする。 なお、標仕1.7.2(1)図面の種類に本特記仕様書を加えたものとする。
５ 保全に関する資料	保全に関する資料は標仕により作成し、監督員に指示された必要部数の原本、複写図および電子データを提出するものとする。なお、作成に際しては、国土交通省作成の「建築物等の利用に関する説明書作成の手引き」を参考とし、詳細については監督員の指示による。
６ 工事写真	区分 / 分類・規格 / 撮影枚数 / 部数(ネガ1枚に付) / 備考 着工前 / ｶﾗｰ･ｻｰﾋﾞｽ / 3・⑤・7 / 1 / 状況によりつなぎ写真 工事中 / ｶﾗｰ･ｻｰﾋﾞｽ / / 1 / 必要に応じ 完成時 / ｶﾗｰ･ｻｰﾋﾞｽ / 6・⑩・20 / 2 / 定期提出 / ｶﾗｰ･ｻｰﾋﾞｽ / 3・⑤・7 / 2 / 月末報告用 完成写真の撮影場所は監督職員の指示による。工事写真は全て工事写真帳に貼り付け提出する。写真撮影は、国土交通大臣官房官庁営繕部整修「工事写真の撮り方-建築設備編-」に準ずる。
７ 現場代理人	原則として、現場代理人は他の工事と重複して従事することはできない。 契約約款第10条第3項の規定に基づく現場代理人の常駐義務を緩和する期間および本工事における現場代理人が他の工事の現場代理人を兼務できる条件は、別に定める「現場代理人の常駐に関する運用基準（滋賀県土木交通部）」による。 ①現場代理人の常駐を要しない期間 ・請負契約の締結の日の翌日から令和　　年　　月　　日までの期間については、現場代理人の工事現場への常駐は要しない。 ・請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、現場代理人の工事現場への常駐を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。 ②工事が完成し、事務手続き、後片付け等のみが残っているなど、工事現場において作業等が行われていない期間については、現場代理人の工事現場への常駐を要しない。 現場代理人は、受注者との直接的な雇用関係が確認できる資料を監督職員に提出すること。
８ 技術管理	請負人は、建設業法で定める専任の技術者の任命を行い、現場に派遣し、技術管理にあたらせること。 ①　技術者の専任を要しない期間 ・請負契約の締結翌日から令和　年　月　日までの期間については、主任技術者または監理技術者の工事現場への専任は要しない。 ・　請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間(現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。 ②　滋賀県建設工事請負契約約款(以下「契約約款」という）第31条第2項の規定に基づく検査を完了した日から契約期間満了までの期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、検査を完了した日とは、発注者が契約約款第31条第2項に基づく当該検査の結果を通知した日(契約約款第31条第6項に該当するものを含む）とする。 なお、日程上の都合上、契約工期満了後に検査が行われる場合は、契約工期完了後の監理技術者等の工事現場への専任を要しない。
９ 技能士	適用工事種別　・配管施工：１級　・熱絶縁施工：１級 ・冷凍・空気調和機施工：１級　・建築板金施工
※ 10 下請業者機材等の選定	各種下請業者、機器材料等県内で供給できるものについては、極力県内業者、県産品を選定することとし、製品等は特記されたものまたは同等品以上とする。ただし、同等品以上とする場合は、監督職員の承認を受ける。

項目	特記事項
※ 11 検査合格書等	各種検査を必要とするもの、責任施工のもの等は、各合格書または保証書及びその写し各一部を提出すること。なお、責任施工のものは、請負契約者、施工下請業者、材料製造所連名書とする。
※ 12 建築工事との取合い	コンクリート部分の梁・壁・床の貫通部補強及び仕上部分の軽量鉄骨天井下地、同壁下地の開口部補強は建築工事とするも、事前に施工図を作成し、監督職員、建築工事業者承認の上とする。
※ 13 既存設備関係	施工に際し、既設内容、取合いをよく調査すると共に既存施設の担当者と十分協議を行い、その機能を低下せしめてはならない。
※ 14 公害対策	工事着手前に付近の状況を調査し、公害対策は工事竣工まで講ずること。
※ 15 産業廃棄物の処理	受注者は、産業廃棄物を適正に処理するにあたり下記事項を含め、事前に監督職員に施工計画書を提出して承諾を受けること。 ①本工事に使用する特定建設資材及び排出する特定建設資材廃棄物については、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（建設リサイクル法）を遵守し、分別解体及び再資源化等を実施すること。また、着工前の同法第１１条の「通知」は受注者が提出のこと。 ②「資源の有効な利用の促進に関する法律」（リサイクル法）及び建設副産物適正処理推進要綱を遵守し、一定規模以上の工事においては、再生資源利用「促進」計画書及び同実施書を作成し速やかに報告のこと。 ③受注者は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を遵守し、同法１２条の３によるマニフェストシステムにより的確に実施すること。
16 発生材の処理	引渡を要するもの:
17-1 保険の付与及び事故の補償(法定外の労災保険の付与)	本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。
17-2 保険等	受注者は工事の内容に応じた火災保険、建設工事保険等を工事目的物に付するものとする。
18 監督職員事務所	規模　・１号　・２号　・３号　・４号　・５号　・設けない 備品　机、いす、書棚、黒板、製図板、ゴム長靴、雨がっぱ、保護帽、受注者加入電話の子機、衣類ロッカー、冷暖房機器、消火器等監督職員の指示による。
※ 19 安全対策	工事車輌の出入りについては、危険防止に努めること。又、必要に応じて交通整理員を配置すると共に、近隣家屋に騒音、振動等公害発生のなき様留意し、全般に支障なき様万全の策を講ずること。また、施設運営についても、担当者と協議を行い支障なき様に努めること。
20 統括安全衛生管理義務者	労働安全衛生法第３０条第２項の統括安全衛生管理義務者には、（　建築工事　電気設備工事　機械設備工事　）の受注者を指名する。
21 創意工夫等実施状況	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、または地域社会社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに提出することができる。ただし、工事成績評定においての高度技術、創意工夫または地域社会への貢献(以下「創意工夫等」という）に対する評価は、施工計画書にそのことが記載され、または事前に受注者から自主的に創意工夫等にかかる資料が監督員職員あて提出され、それらの項目が創意工夫等に該当すると判断し、施工等に反映されていた場合に評価するものとし、実施前に施工計画書に記載または資料等の提出がなされていない場合は評価しないものとする。
22 別途工事との連絡協議	受注者は、工事別の業者間で互いに連絡をとり、定期的に協議会を行い、工事施工上の調整を図ること。また、工事区分の取合について図示あるも、施工時に必要に応じ協議を行い連絡を密にすること。
※ 23 シンナー等の保管管理	シンナー等については、工事現場に放置することなく、保管を厳重に行い盗難を防止すると共に、保管数量についても作業前、作業終了後の確認等確実な管理を行うものとする。
24 フロンの回収等	冷媒にフロンを使用している機器の撤去においては、フロン排出抑制法に基づきフロンガスを全量回収し、大気放出をしない処理を行うこと。また、施工に当たっては特定フロンを使用した材料、工法を用いないこと。
25 工事実績情報の作成・登録	受注者は、工事請負代金　500万円以上の工事について、工事実績情報サービス(CORINS)入力システムに基づき、「登録のための確認のお願い」を作成し監督職員の確認を受けた後、(一財)日本情報総合センター(JACIC)に登録するとともに、センター発行の「登録内容確認書(工事実績)」の写しを監督職員に提出しなければならない。提出の期限は以下のとおりとする。 (1)受注登録の期限は、契約締結後10日以内とする。 (2)竣工登録の期限は、工事完成後10日以内とする。 (3)受注登録の内容に変更があった場合は、変更があった日から10日以内に変更登録を行うこと。
※ 26 工事関係車両の電波法遵守	受注者は電波法を遵守し、不法無線局を搭載した工事車両を使用しないものとする。また、現場において不法無線局を搭載していると疑わしい車両を確認したときは、速やかに監督職員にその旨報告する。
※ 27 過積載の防止措置	受注者は過積載等の違法運行防止を図るため、道路交通法を順守する旨を記載した施工計画書を提出し徹底を図ること。
28 技術検査	工事施工途中において、適宜中間技術検査を実施する。
※ 29 施工上の留意事項等	イ 液化石油ガス設備工事を施工するものは、特定液化石油ガス設備工事事業者であること。 ロ 液化石油ガス設備工事の作業に従事する者は、液化石油ガス設備士であること。 ハ 液化石油ガスの各種検査は、供給者または保安機関の検査を受け合格すること(記録紙および検査写真を提出すること)。 ニ 給水配管の接合剤は、上水道用の接合剤とする(継手指定品を除く)。 ホ 地中埋設の鋼管類は防食処置を行う。また、コンクリート貫通箇所にプラスチックテープを巻きモルタル埋めする。 ヘ 建物内埋設配管は全てスラブより吊るものとし、その要領は標準仕様書の屋内配管の支持要領に準ずる。 ト 暖房給湯設備における試運転用油量は、オイルストレージタンクの1/3以上とする。 チ 空気調和設備における仕切弁については、100A以上はバタフライ弁(JIS10K)とする。 リ コンクリート製排水桝、汚水桝、浄化槽と硬質塩化ビニル管の接続部は砂付き加工の工場製品を使用し、漏水防止を図る。 ヌ 機械設備工事内で電気設備を含む場合には、別途電気設備工事に全て準ずる。 ル 機器の据付、配管支持については、『建築設備耐震設計施工指針』を参考とする。 ヲ 風量調整ダンパー、防排煙ダンパー類は、全て工場製作品とし、(財)日本建築センターの防災認定マークを貼付されたものとする。 ワ 配管には空気だまりの無いように施工し、図示以外で施工必要箇所には自動空気抜き弁を取付ける。 カ 保温工事については、極力滋賀県保温保冷事業協同組合員等県内業者とする。 ヨ 当該工事において、既設配管、既設埋設配管があった場合は監督職員の指示により、迂回等の工事を行い、軽微なものは本工事内とする。また撤去工事は特に既設配管の行先を確認の上、安全に処理する。 タ 環境配慮の視点から、以下の材料の利用に努めること。 (1)グリーン購入法に基づくエコマーク商品 (2)建設リサイクル法により再資源化されたリサイクル製品、材料 (3)滋賀県リサイクル製品認定制度に基づく滋賀県リサイクル製品 （参考URL http://www.pref.shiga.jp/d/haikibutsu/gomizero/h2112reeflet.pdf）
※ 30 暴力団員等による不当介入の排除	滋賀県の発注する建設工事等における暴力団員等による不当介入の排除について（「不当介入に関する通報制度」の徹底について） 1 受注者は、暴力団員等（暴力団の構成員および暴力団関係者、その他県発注工事等に対して不当介入をしようとするすべての者をいう。）による不当介入（不当な要求または業務の妨害）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うものとする。 2 受注者は、前項により通報を行った場合には、速やかにその内容を記載した通報書(別記様式第１号)により所轄警察署に届け出るとともに、監督職員に報告するものとする。また、請負者は、以上のことについて、下請負人（再委託の協力者を含む）に対して、十分に指導を行うものとする。 3 受注者は、暴力団員等による不当介入を受けたことが明らかかになり、工程等に被害が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

項目	特記事項
31 環境配慮指針	公共事業に係る環境配慮指針実施要領に基づく、チェックシートを作成し提出すること。
32 週休２日取組促進型工事(受注者希望方式)	本工事は、受注者が工事着手前に発注者に対して週休２日に取り組む旨を協議した上で工事を実施する週休２日取組促進型工事(受注者希望方式)である。費用の計上等の運用にあたっては、「（営繕工事版）週休２日取組促進型工事実施要領」により行う。 ４週８休以上の現場閉所（現場休息）を前提に労務費を補正して予定価格を作成しており、４週８休に満たない場合は、現場閉所（現場休息）の状況に応じて請負代金額のうち労務費補正分を減額変更する。週休２日の取り組みを実施しない場合は、請負代金額のうち労務費補正分を減額変更する。 なお、学校の長期期間（夏休・冬休・春休）は、監督員と協議の上、非対象期間とすることができる。
33 建設工事公衆災害防止対策要綱	建設業法（昭和24年法律第100号）第25条の27第2項の規定に基づき「建設工事公衆災害防止対策要綱（国土交通省告示第496号　令和元年9月2日、以下「新要綱」）」が告示されたため、公共建築工事標準仕様書に位置付けのある「建設工事公衆災害防止対策要綱」は新要綱に読み替える。
※ 34 施工計画書	受注者は、施工計画書の作成にあたり、「その他」の事項として新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を記載するものとする。 必要と認める拡大防止対策のうち共通仮設および現場管理の範囲を超え、受注者が追加で費用を要する拡大防止対策を行う場合は、受発注者間で設計変更の協議を行うこととする。協議における資料は受注者の負担により作成するものとする。

一般事項

種目	適用	項目	特記事項
1 受水設備		工事範囲及び説明	
		負担金等	要、不要
		量水器	貸与、本工事
		受水タンク	（　　）製、容量（有効　　）m3、耐震（0.6・1.0・1.5）G
		高置タンク	（　　）製、容量（有効　　）m3、耐震（1.0・1.5・2.0）G
		揚水ポンプ	口径(　　)mmφ×(　　)mH×(　　)kW
		給水ポンプ	口径(　　)mmφ×(　　)mH×(　　)kW
		配管材料	屋外配管：硬質塩化ビニル管 HIVP･VP、ビニルライニング鋼管 VD ポリ粉体ライニング鋼管 PD 屋内配管：ビニルライニング鋼管 VA
		保温工事	施工は標準図による。
② 給水設備	○	工事範囲及び説明	既設中央棟(B0)・環境資源学科棟(B4)・環境生態学科棟（B6）の便所改修に伴う各器具への供給を行う。
	○	給水方式	直圧式、加圧式、重力式
	○	配管材料	屋外配管：硬質塩化ビニル管 HIVP、ビニルライニング鋼管 VD ポリ粉体ライニング鋼管 PD 屋内ﾋﾟｯﾄ配管：水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管　HIVP ポリ粉体ライニング鋼管 PD 屋内配管：水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管　HIVP ポリブテン管、水道用ポリブテン管、架橋ポリエチレン管
	○	保温工事	
	○	水圧試験	水圧試験を行い漏水のないようにする。
	○	継手、弁等	ライニング鋼管には管端防食継手(埋設部は外面樹脂被覆型)、管端防食型弁、ライニング弁を使用する。
		水質試験	飲適試験(１０項目+残留塩素)を行う(　　箇所)。
③ 排水通気設備	○	工事範囲及び説明	既設中央棟(B0)・環境資源学科棟(B4)・環境生態学科棟（B6）の便所改修に伴う各器具の排水を既設排水管への接続を行う。
	○	排水方式	単独式、合流式、屋内分流屋外合流式
	○	配管材料	屋外配管：硬質塩化ビニル管　VP・VU、VP(露出）VU（埋設） 硬質塩化ビニルリサイクル三層管 RF-VP 下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル管RS-VU（埋設部） 屋内配管：既設管にライニング管更生（TT-SLトルネード工法）を行う 通気管はSGP(黒)とする 耐火性硬質塩化ビニル管　FS-VP、耐火二層管（2階3階部分）
	○	保温工事	
	○	その他	曲がり部はできる限り大曲がりエルボを使用し、排水の流通を良くする。
④ 衛生器具設備	○	工事範囲及び説明	既設中央棟(B0)・環境資源学科棟(B4)・環境生態学科棟（B6）の便所改修に伴う器具改修を行う。
	○	衛生器具	器具リストによる。
	○	その他	衛生器具・手すりの取付けにあたってはメーカーが指定する補強を行うこと。
5 ガス設備		工事範囲及び説明	
		負担金等	要、不要
		ガス計量器	貸与、本工事
		配管材料	屋外配管：配管用炭素鋼鋼管（白）(露出部)、ポリエチレン被覆鋼管（埋設部）、ポリエチレン管（埋設部） 屋内埋設配管：ポリエチレン被覆鋼管、ビニル被覆鋼管 屋内配管：配管用炭素鋼鋼管（白）、フレキ管（SUS）
		試験	気密試験後、点火試験を行い燃焼の確認、機器調整を行う。
		ガスの種別	都市ガス(13A)、プロパンガス
		その他	配管については、大阪ガスの責任施工とする
6 消火設備		工事範囲及び説明	
		消火水槽	（　　）製、容量（有効　　）m3、（専用・受水槽兼用）
		消火充水槽	（　　）製、容量（有効　　）m3
		消火ポンプ	口径(　　)mmφ×(　　)mH×(　　)kW
		消火栓箱	既設（2号消火栓）
		配管材料	屋外配管：ビニル被覆鋼管　ＳＧＰ－ＶＳ・配管用炭素鋼鋼管（白） 屋内配管　：配管用炭素鋼鋼管（白）
		保温	屋外露出配管は、保温すること。

種目	適用	項目	特記事項
⑦ 給湯設備		工事範囲及び説明	既設中央棟(B0)・環境資源学科棟(B4)・環境生態学科棟（B6）の便所改修に伴う洗面・手洗い用の電気温水器の新設を行う。
	○	給湯ボイラ	鋳鉄製セクショナルボイラ、鋼製ボイラ、ガス炊きボイラ 電気温水器、給湯器
	○	熱源	Ａ重油、灯油、ＬＰガス、都市ガス(13A)、電気
		配管材料	脱酸銅管Ｍ、ステンレス鋼管、耐熱ビニルライニング鋼管
		保温工事	保温付き被覆鋼管（保温厚14mm以上）、ポリブテン管
⑧ 換気設備	○	工事範囲及び説明	既設中央棟(B0)・環境資源学科棟(B4)・環境生態学科棟（B6）の便所改修に伴う機器・ダクトの改修を行う。
	○	送風機	壁付換気扇・天井埋込換気扇・全熱交換器・ダクトファン
	○	ダクト	
	○	保温	外壁より２ｍ以内は保温すること。
	○	施工	送風機据付については、防音、防振に注意して施工のこと。
	○	機器	機器リストによる。
9 排煙設備		工事範囲及び説明	
		排煙機	
		排煙方式	Ａ方式＝手動操作 → 排煙ダンパー → 自動起動盤 → 排煙機 Ｂ方式＝煙感知器 → 中継器 ↓ 手動操作 → 排煙ダンパー → 自動起動盤 → 排煙機
10 暖房設備		工事範囲及び説明	
		冷温熱源機	直だき吸収式冷温水発生機(単効用・二重効用)、 水冷チリングユニット、空冷式ヒートポンプチラーユニット (ターボ・スクリュー・遠心・吸収)冷凍機
			鋳鉄製ボイラー、鋼製ボイラー
		空気調和機	立型ユニット型空調機、横型ユニット型空調機
		放熱器	ファンコイルユニット、ファンコンベクタ、コンベクタ、ベースボードヒータ
11 冷房設備		パッケージ型空調機	床置型、天井吊型、天井埋込型、天井カセット型、壁掛型
		配管材料	冷温水管：水道用亜鉛めっき鋼管、耐熱性ビニルライニング鋼管 冷却水管：ビニルライニング鋼管 VA、ポリ粉体ライニング鋼管 PA 冷媒配管：脱酸銅管Ｌ、断熱材被覆銅管 排水配管：硬質塩化ビニル管 VP 油配管：SUS304溶接鋼管、圧力配管用炭素鋼鋼管（黒）
		保温保冷	施工は標準図による。
		自動制御	本工事では次の制御を行なう。 ・　　・
		中央監視	中央監視盤を設け、システムの集中運転監視を行なう。
12 空気調和設備			

使用機材製造者指定

本工事に使用する機器材料は、下記に指定する製造者のものを使用のこと。ただし、同等品を使用する場合には、建築課所定の様式により承諾を得て使用のこと。

適用	機材名	製造業者		
○	配管類	ＪＩＳ規格等適合品製造者		
○	弁類	ＪＩＳ規格等適合品製造者		
	タンク			
	ポンプ			
	量水器			
	防振継手			
	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ(SUS)			
	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ(ｺﾞﾑ)			
○	排水金物類			
	樹脂製桝			
	グリストラップ			
○	衛生陶器類	TOTO	ＬＩＸＩＬ	
	消火栓箱			
	ポイラ			
○	貯湯式湯沸器	TOTO	ＬＩＸＩＬ	
	給湯器			
	厨房機器			
	ガス集合装置			
	ガスコック類			
	浄化槽			
○	送風機	三菱	テラル	荏原
	換気扇	三菱	ダイキン	東芝
	全熱交換器			
	排煙機			
	防火･防煙･排煙ダンパー			
	冷凍機			
	冷温水発生機			
	冷却塔			
	空調機			
	放熱器			
	ファンコイルユニット			
○	吹出口・吸込口	協立ｴｱﾃｯｸ	空研工業	有馬工業所
	製缶類			
	自動制御機器			
	フード			

※工事図記号（凡例）は別図（　　）による。

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. M-01
図面名称	機械設備特記仕様書　S = NOSCALE	設計日 2024年3月

（新設）衛生器具リスト

器具名	参考品番	付属品	合計	B0 中央棟					B4 環境資源管理学科棟						B6 環境生態学科棟					
				1階 1階			2階		1階		2階		3階		1階		2階		3階	
	TOTO			女子便所	身障者便所	男子便所	女子便所	男子便所	男子便所	身障者便所(男子便所)	男子便所	身障者便所(男子便所)	男子便所	身障者便所(男子便所)	女子便所	身障者便所(女子便所)	女子便所	身障者便所(女子便所)	女子便所	身障者便所(女子便所)
洋風便器	CFS498BWT（フラッシュタンク式）	便座（TCF5534＝貯湯式、擬音装置、便蓋あり、AC100V電源、消費電力311W）、センサースイッチ（HE37）、SUS製棚付2連紙巻器（YH702）	12	1		1	2	2	1		1		1		1		1		1	
洋風便器	CFS498BWT（フラッシュタンク式）	便座（TCF5534Y＝貯湯式、擬音装置、便蓋なし、AC100V電源、消費電力311W）、センサースイッチ（HE37）、SUS製棚付2連紙巻器（YH702）	7		1					1		1		1		1		1		1
便器消毒ディスペンサー		便器消毒ディスペンサー（サラヤ:SC-460C）	19	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
和風便器	C755VU（フラッシュバルブ式）	自動フラッシュバルブ（TEFV70UHA）、配管セット、電波受信ユニット（THE27）、タッチスイッチユニット（TES47WR）、擬音装置（YES412R　AC100V）、SUS製棚付き2連式紙巻器（YH702）	2	1		1														
壁掛小便器	XPU22B（マイクロ波センサー）	小便器（XPU22B）、ハイドロセラ・フロア（AB690BR＃HB4）	6			3		3												
壁掛小便器（3連）	XPU22B（マイクロ波センサー）	小便器（XPU22B）×3、ライニングパーツ（UAUN83RA1W＝3連用）、小便器用手すり（T115CU3R＃NW1）、ハイドロセラ・フロア（AB690BR＃HB4）×3	3						1		1		1							
洗面器	L270CW、壁掛型	自動水栓（TLE33SB4A＝電気温水器付、AC100V電源、消費電力0.6kW）、水せっけん入れ（TS126AR）、ブラケット共、止水栓共、排水金具共	1		1															
ボウル一体型洗面器（2連）	L830CMRU、スタンダード、ボウル2連、樹脂タイプ	L=1500、樹脂タイプ　自動水栓（REAH03B1RS26SK＝電気温水器付、AC100V電源、消費電力0.6kW）×2、水せっけん入れ（TS126AR）、ブラケット共、止水栓共、排水金具共	6						1		1		1		1		1		1	
ボウル一体型洗面器（2連）	L830CMRU、スタンダード、ボウル2連、樹脂タイプ	L=1800、樹脂タイプ　自動水栓（REAH03B1RS26SK＝電気温水器付、AC100V電源、消費電力0.6kW）×2、水せっけん入れ（TS126AR）、ブラケット共、止水栓共、排水金具共	3			1	1	1												
ボウル一体型洗面器（2連）	L830CMRU、スタンダード、ボウル2連、樹脂タイプ	L=2170、樹脂タイプ　自動水栓（REAH03B1RS26SK＝電気温水器付、AC100V電源、消費電力0.6kW）×2、水せっけん入れ（TS126AR）、ブラケット共、止水栓共、排水金具共	1	1																
掃除用流し	SK22A	横水栓（TZ3AEQ20C）、リムカバー（TK22）、バックハンガー共、止水栓共、床排水金具共	5			1		1							1		1		1	
モップ掛けパネル	UTR422S		5			1		1							1		1		1	
化粧鏡	EL80017	洗面器用450×1000、取付金具共	20	2		2	2	2	2		2		2		2		2		2	
化粧鏡	YMK50K	全身用300×16×1500、取付金具共	11	1	1	1	1	1	1		1		1		1		1		1	
傾斜鏡	LM530	車いす用傾斜型528×193×664	1		1															
フック	YKH22		7		1					1		1		1		1		1		1
手すり（小便器用）	T115CU3R＃NW1	小便器用、取付金具共	2			1		1												
手すり（L型）	T112CL9	L型、取付金具共	7		1					1		1		1		1		1		1
手すり（I型）	T112C4	I型、取付金具共	6							1		1		1		1		1		1
手すり（はね上げ型）	T112HK6R	はね上げ型、取付金具共	1		1															
フィッティングボード	YKA41R		7		1					1		1		1		1		1		1
ベビーチェア	YKA15S	平壁設置タイプ	1		1															

注記事項

1. 品番は便宜上、TOTO（株）とする
2. リストに記載なき必要な付属品は標準品を設置すること
3. ライニング、カウンター等の詳細図寸法について、建築施工図を確認したうえで発注すること
4. 色の選択が可能な器具類について、発注者と協議のうえで決定すること
5. 器具取付部分の補強は建築工事とするが、補強の必要箇所及び採用メーカーの取付要領を建築工事施工業者へ提示し、調整を行うこと
6. 採用するメーカーの仕様書を電気設備施工業者へ提示し、電源供給（器具の位置）等の調整を行うこと

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント		工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. M-02
								図面名称	共通　給排水衛生設備　衛生器具リスト　S = NOSCALE	設計日 2024年3月

撤去

B0　1階

男子便所		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
小便器	床置型	1
小便器	壁掛型	2
掃除用流し	水栓共	1
洗面器	2連壁掛型、水栓2個共	1
化粧鏡	丸形	2
手すり	小便器用	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする
　　和風大便器の撤去は建築工事とする

B0　1階

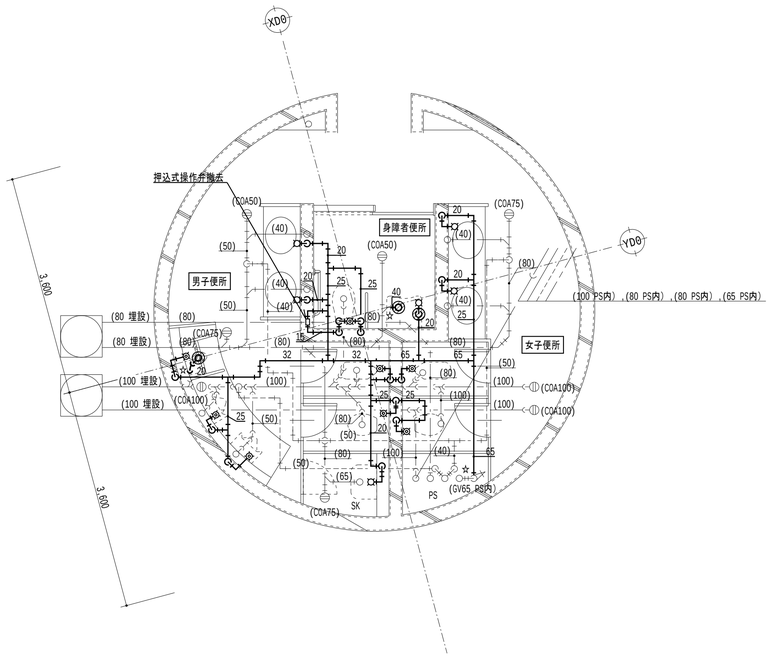
身障者便所		撤去・処分
名称	仕様	数量
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洗面器	壁掛型、水栓共	1
化粧鏡	傾斜型	1
手すり	L型	1
手すり	P型	1
手すり	I型	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする

B0　1階

女子便所		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洗面器	2連壁掛型、水栓2個共	1
化粧鏡	丸形	2

注記）付属品共、場外搬出処分とする
　　和風大便器の撤去は建築工事とする



B0　給排水衛生設備　1階平面詳細図（撤去）　S = 1/50

線種記号

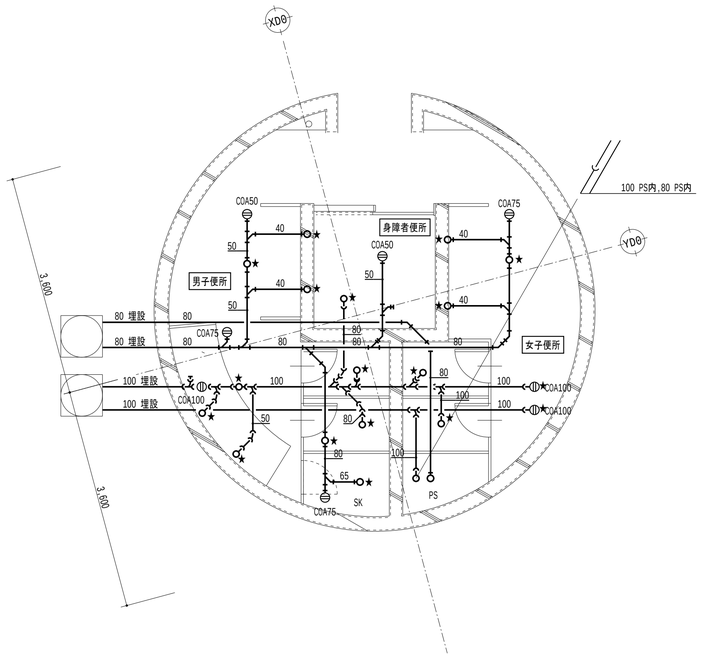
記　号	名　称	備　考
— — —	給水配管	SGP-PA
————	雑排水配管	DVLP
—>—	汚水配管	DVLP
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
⊠	洗浄弁	
⊡	水栓	
⦶	掃除口	

注記
1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．⊘ は既設穴埋め箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



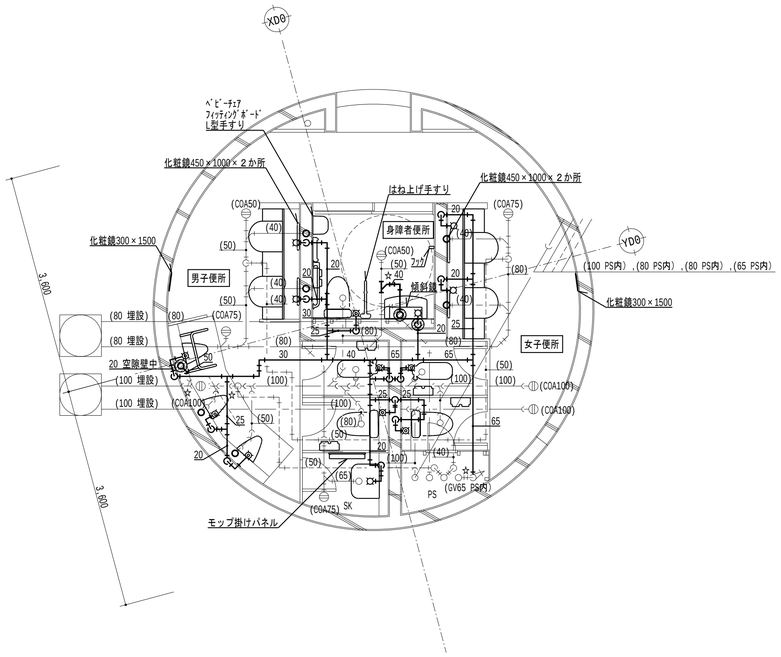
B0　給排水衛生設備　1階平面詳細図（管更生）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
————	雑排水配管	DVLP、管更生
—>—	汚水配管	DVLP、管更生
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

注記
1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
　　ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



B0　給排水衛生設備　1階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
— — —	給水配管	既：SGP-PA　新：HIVP
————	雑排水配管	既：DVLP　新：FS-VP
—>—	汚水配管	既：DVLP　新：FS-VP
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
⊠	洗浄弁	
⊡	水栓	
⦶	掃除口	

注記
1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．⊘ はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
　　鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
　　給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
　　特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. M-03
						図面名称	B0　給排水衛生設備　1階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）　S = 1/50	設計日 2024年3月

撤去

B0　2階

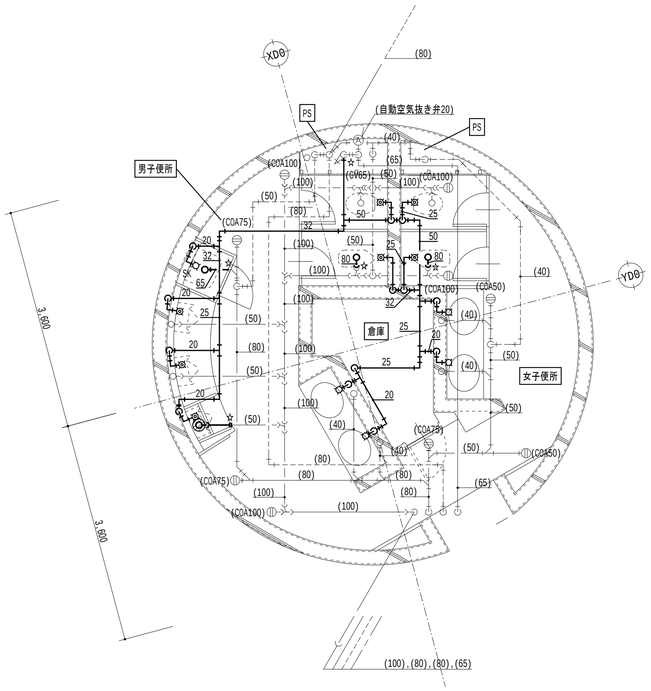
男子便所		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
小便器	床置型	1
小便器	壁掛型	2
掃除用流し	水栓共	1
洗面器	2連壁掛型、水栓2個共	1
化粧鏡	丸形	2
手すり	小便器用	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする
　　和風大便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする

B0　2階

女子便所		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洗面器	2連壁掛型、水栓2個共	1
化粧鏡	丸形	2

注記）付属品共、場外搬出処分とする
　　和風大便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする



B0　給排水衛生設備　2階平面詳細図（撤去）　S = 1/50

線種記号

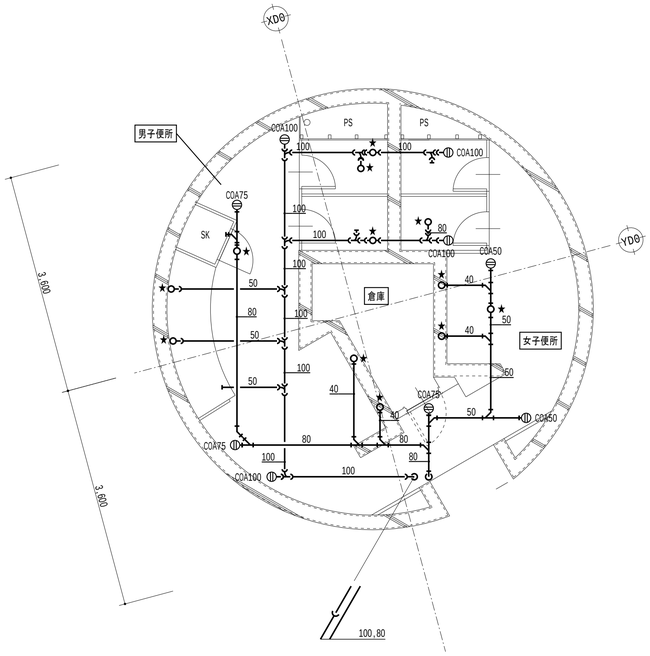
記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	SGP-PA
―――	雑排水配管	DVLP
―>―	汚水配管	DVLP
------	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
◎	洗浄弁	
⌑	水栓	
◫	掃除口	

注記
1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．⊘ は既設穴埋め箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



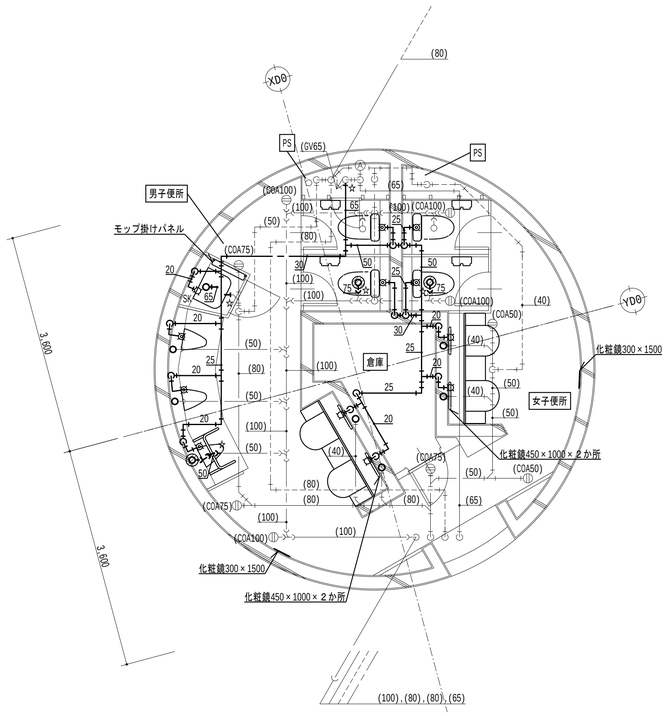
B0　給排水衛生設備　2階平面詳細図（管更生）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
―――	雑排水配管	DVLP、管更生
―>―	汚水配管	DVLP、管更生
------	通気配管	SGP(黒)

注記
1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
　ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



B0　給排水衛生設備　2階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	既：SGP-PA　新：HIVP
―――	雑排水配管	既：DVLP　新：FS-VP
―>―	汚水配管	既：DVLP　新：FS-VP
------	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
◎	洗浄弁	
⌑	水栓	
◫	掃除口	

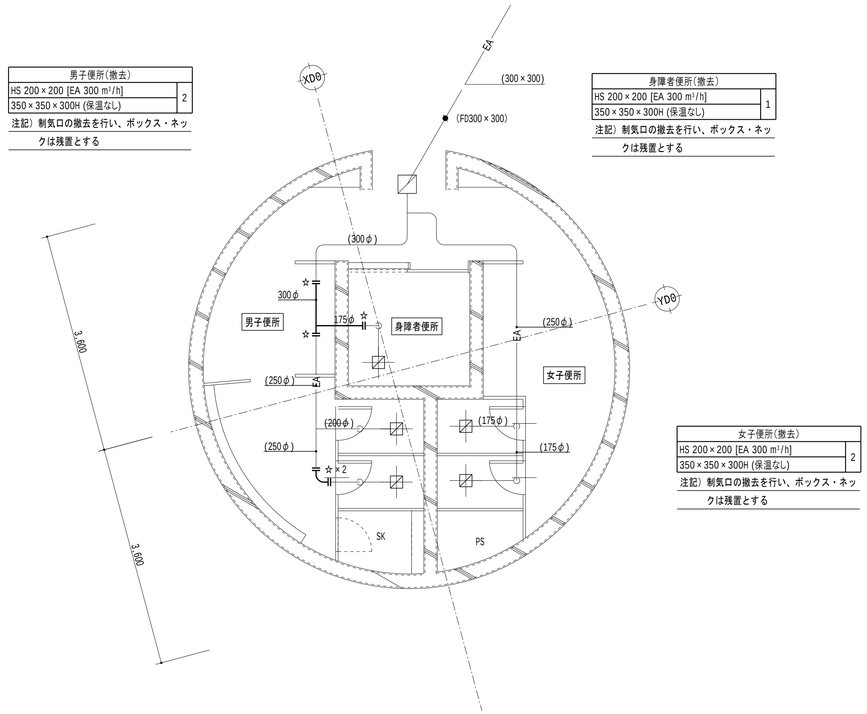
注記
1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．⊘ はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
　鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
　給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
　特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社　総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学Ｂ棟トイレ改修後期工事	図面No. M-04
図面名称	B0　給排水衛生設備　2階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）　S = 1/50	設計日 2024年3月

撤去



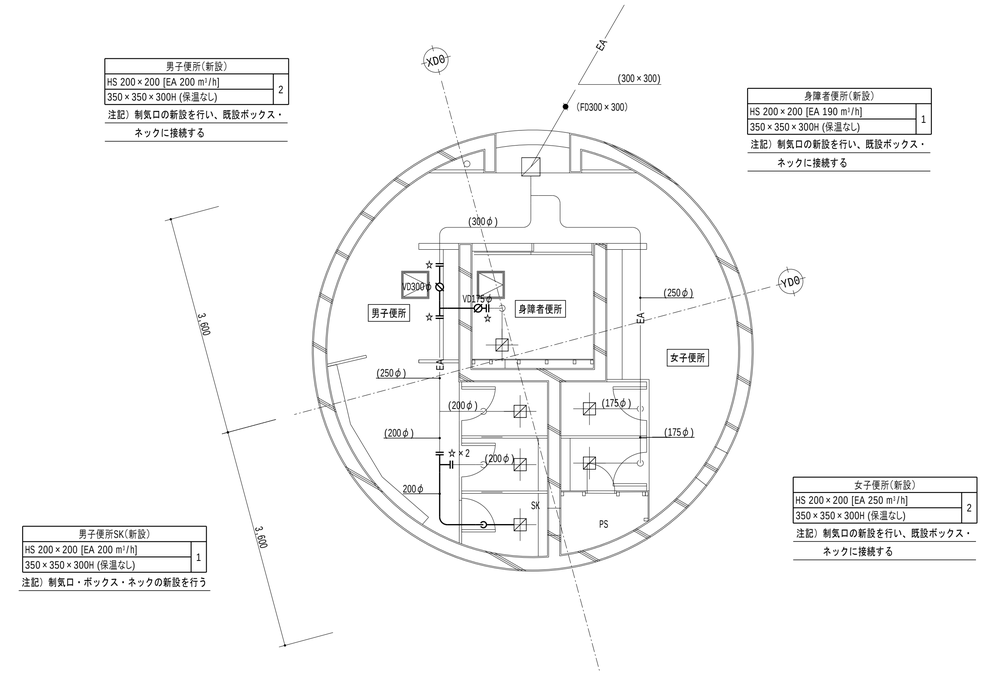
B0 換気設備 1階平面詳細図（撤去） S = 1/50

記 号	名 称	備 考
――――	ダクト	
VD	風量調整ダンパー	
FD	防火ダンパー	

記 号	名 称	備 考
	制気口	
	排気ガラリ	

注記
1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．特記なきダクトは天井内配管とする
4．☆は切断箇所を示す

改修後



B0 換気設備 1階平面詳細図（改修後） S = 1/50

記 号	名 称	備 考
――――	ダクト	
VD	風量調整ダンパー	
FD	防火ダンパー	

記 号	名 称	備 考
	制気口	
	排気ガラリ	

注記
1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．特記なきダクトは天井内配管とする
4．☆は接続箇所を示す

令和6年 3月 日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称 滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. M-05
						図面名称 B0 換気設備 1階平面詳細図（撤去・改修後） S = 1/50	設計日 2024年3月

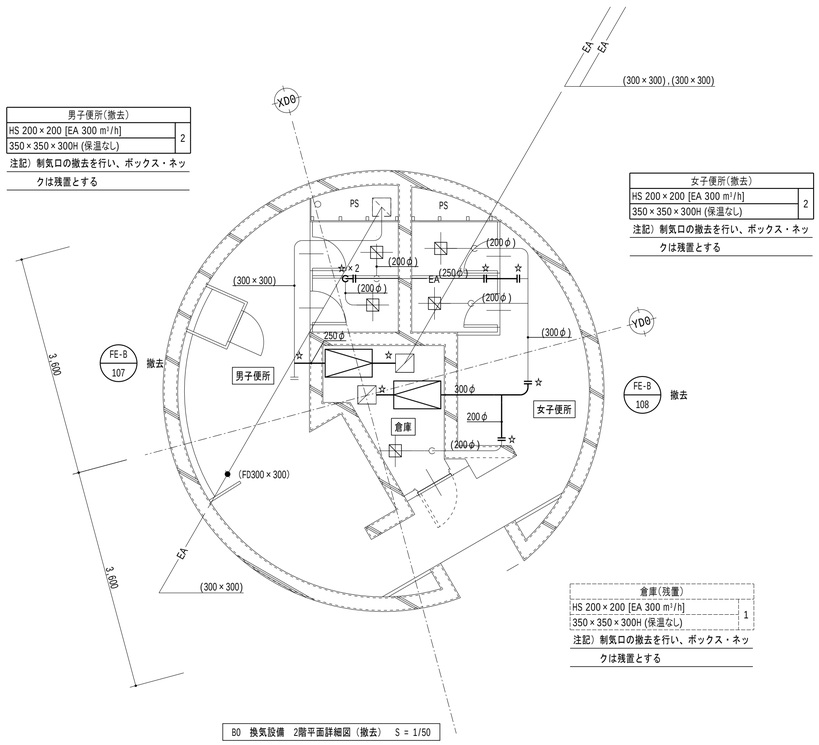
撤去

（撤去）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧 (φ-V)	動力 容量 (kW)	動力 始動方式	台数 (台)	設置室名	備考
FE-B-107	消音ボックス付送風機	型　式：消音形	1-100	0.200	LS	1	B0　中央棟　2階　倉庫	形状：770×460×350H　重量：24kg
		仕　様：250φ × 1500㎥/h × 150Pa						
FE-B-108	消音ボックス付送風機	型　式：消音形	1-100	0.200	LS	1	B0　中央棟　2階　倉庫	形状：770×460×350H　重量：24kg
		仕　様：250φ × 1500㎥/h × 100Pa						

注）撤去送風機共通事項

1.付属品共、場外搬出処分とする



B0　換気設備　2階平面詳細図（撤去）　S = 1/50

記　号	名　称	備　考
――――	ダクト	
VD	風量調整ダンパー	
FD	防火ダンパー	

記　号	名　称	備　考
	制気口	
	排気ガラリ	

注記

1．太線は撤去を示す

2．細線は残置を示す

3．特記なきダクトは天井内配管とする

4．☆は切断箇所を示す

改修後

（新設）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧 (φ-V)	動力 容量 (kW)	動力 始動方式	台数 (台)	設置室名	備考
FE-B-107	消音ボックス付送風機	型　式：消音形	1-100	0.484	LS	1	B0　中央棟　2階　倉庫	品番：（参考）BFS-150SUG2
		仕　様：250φ × 1290㎥/h × 260Pa						
		付属品：防振吊金具、他標準付属品一式						
FE-B-108	消音ボックス付送風機	型　式：消音形	1-100	0.348	LS	1	B0　中央棟　2階　倉庫	品番：（参考）BFS-120SUG2
		仕　様：250φ × 1170㎥/h × 160Pa						
		付属品：防振吊金具、他標準付属品一式						

注）送風機共通事項

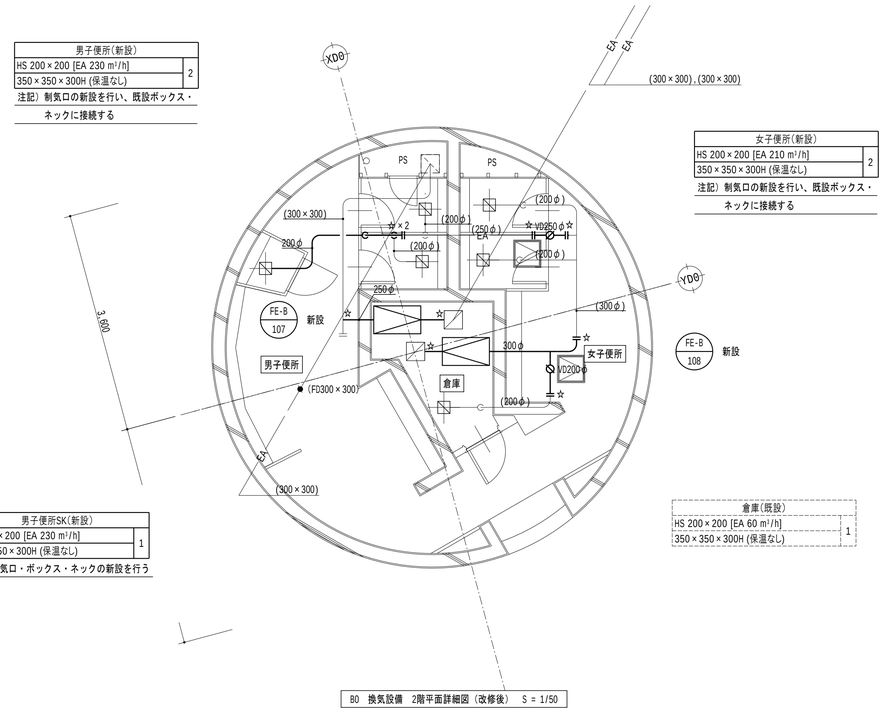
1.電気容量は参考値とし、記載以下とする

2.ファンへの接続は、たわみ継手とする

3.機器表中記載の○○Paは機外静圧を示し、参考値とする

4.その他はメーカー基準とする

5.排気送風機、天井埋込型換気扇のスイッチは別途電気設備工事とする（配線、機器接続を含む）



B0　換気設備　2階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

記　号	名　称	備　考
――――	ダクト	
VD	風量調整ダンパー	
FD	防火ダンパー	

記　号	名　称	備　考
	制気口	
	排気ガラリ	

注記

1．太線は新設を示す

2．細線は既設を示す

3．特記なきダクトは天井内配管とする

4．☆は接続箇所を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事
						図面名称	B0　換気設備　2階平面詳細図（撤去・改修後）　S = 1/50
						図面No.	M-06
						設計日	2024年3月

撤去

B4　1階

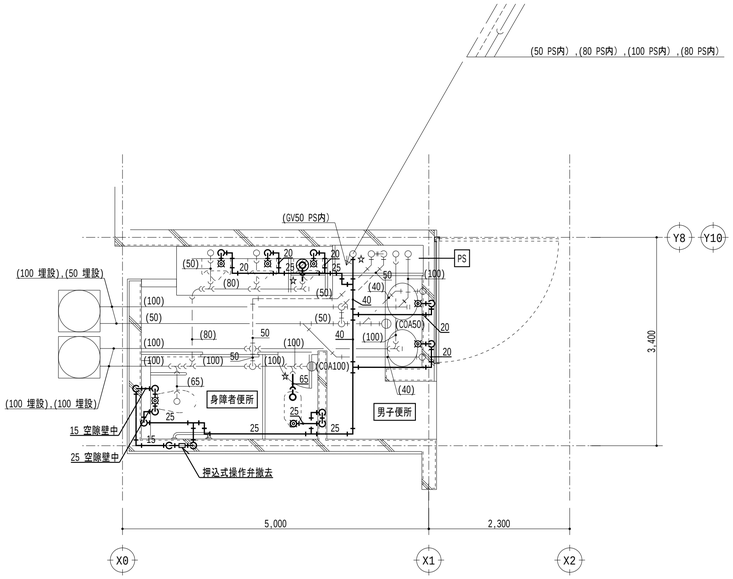
男子便所		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
小便器	床置型	1
小便器	壁掛型	2
洗面器	2連壁掛型、水栓2個共	1
化粧鏡	長方形縦型	2
手すり	小便器用	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする
　　和風大便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする

B4　1階

身障者便所（男子便所）		撤去・処分
名称	仕様	数量
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
手すり	L型	1
手すり	P型	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする



B4　給排水衛生設備　1階平面詳細図（撤去）　S = 1/50

線種記号

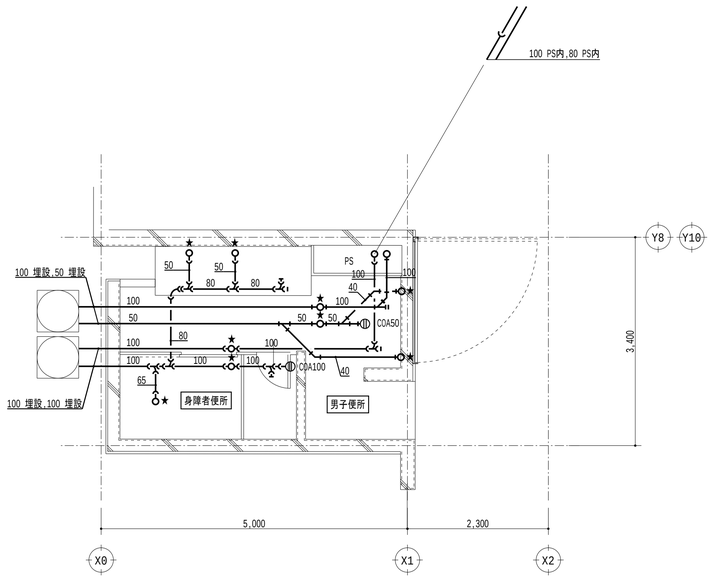
記　号	名　称	備　考
— — —	給水配管	SGP-PA
————	雑排水配管	DVLP
—>—	汚水配管	DVLP
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記
1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．　は既設穴埋め箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



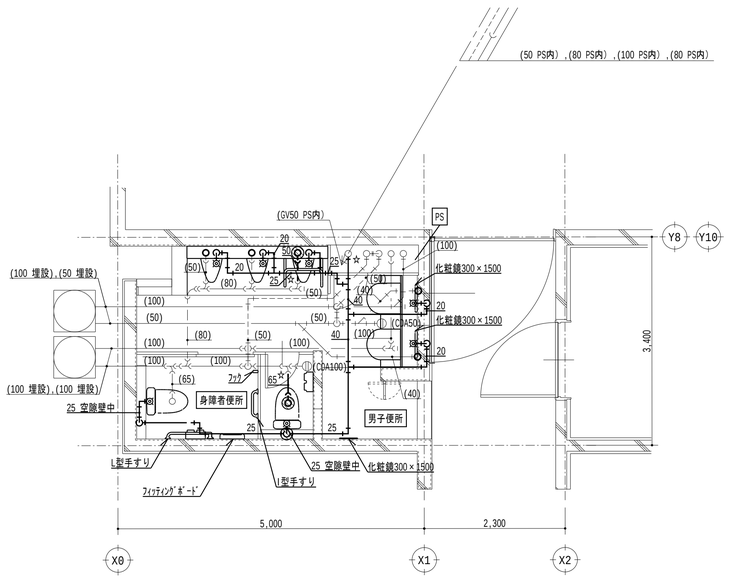
B4　給排水衛生設備　1階平面詳細図（管更生）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
————	雑排水配管	DVLP、管更生
—>—	汚水配管	DVLP、管更生
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

注記
1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
　ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



B4　給排水衛生設備　1階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
— — —	給水配管	既：SGP-PA　新：HIVP
————	雑排水配管	既：DVLP　新：FS-VP
—>—	汚水配管	既：DVLP　新：FS-VP
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記
1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．　はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
　鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
　給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
　特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社　総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No.	M-07
図面名称	B4　給排水衛生設備　1階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）　S = 1/50	設計日	2024年3月

撤去

B4　2階

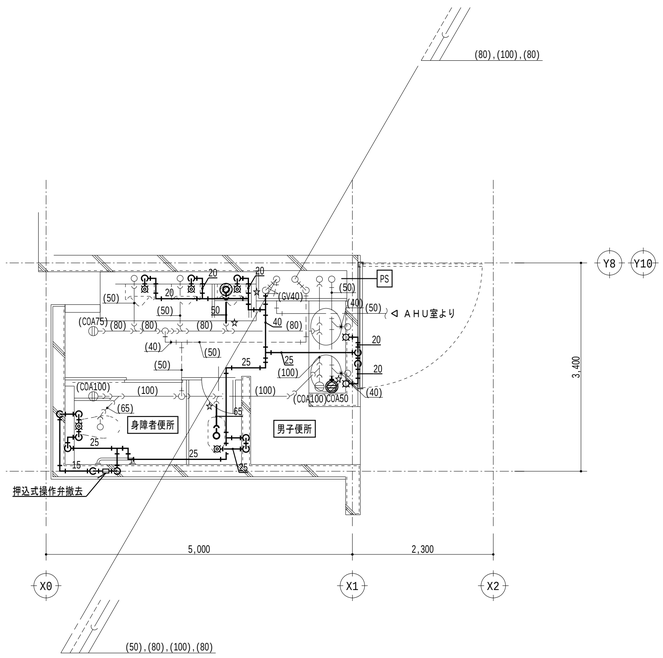
男子便所		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
小便器	床置型	1
小便器	壁掛型	2
洗面器	2連壁掛型、水栓2個共	1
化粧鏡	長方形縦型	2
手すり	小便器用	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする
　　和風大便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする

B4　2階

身障者便所（男子便所）		撤去・処分
名称	仕様	数量
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
手すり	L型	1
手すり	P型	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする



B4　給排水衛生設備　2階平面詳細図（撤去）　S = 1/50

線種記号

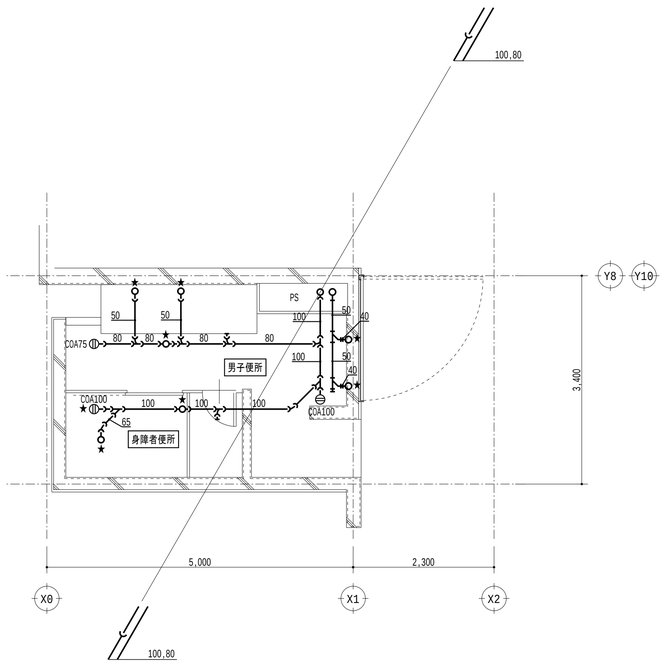
記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	SGP-PA
―――	雑排水配管	DVLP
―>―	汚水配管	DVLP
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
◎	洗浄弁	
⌑	水栓	
⦶	掃除口	

注記
1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．⊘ は既設穴埋め箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



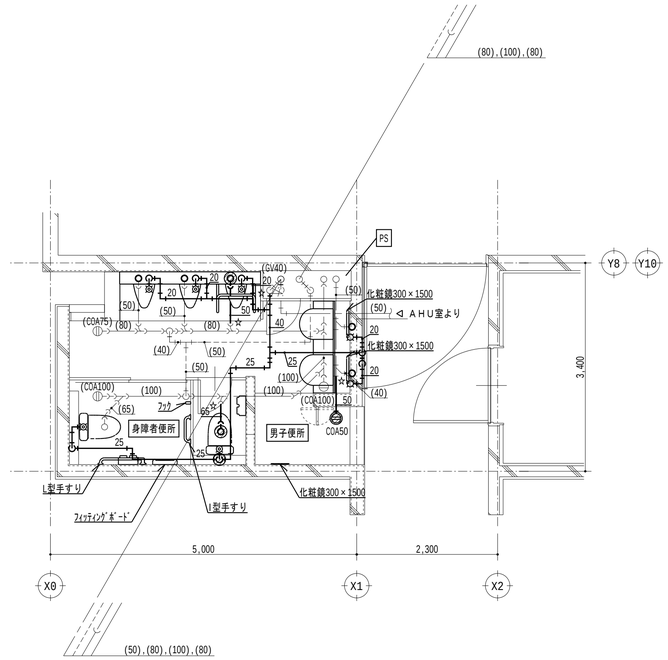
B4　給排水衛生設備　2階平面詳細図（管更生）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
―――	雑排水配管	DVLP、管更生
―>―	汚水配管	DVLP、管更生
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

注記
1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
　ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



B4　給排水衛生設備　2階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	既：SGP-PA　新：HIVP
―――	雑排水配管	既：DVLP　新：FS-VP
―>―	汚水配管	既：DVLP　新：FS-VP
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
◎	洗浄弁	
⌑	水栓	
⦶	掃除口	

注記
1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．⊘ はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
　鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
　給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
　特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. M-08
							図面名称	B4　給排水衛生設備　2階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）　S = 1/50	設計日 2024年3月

撤去

B4　3階

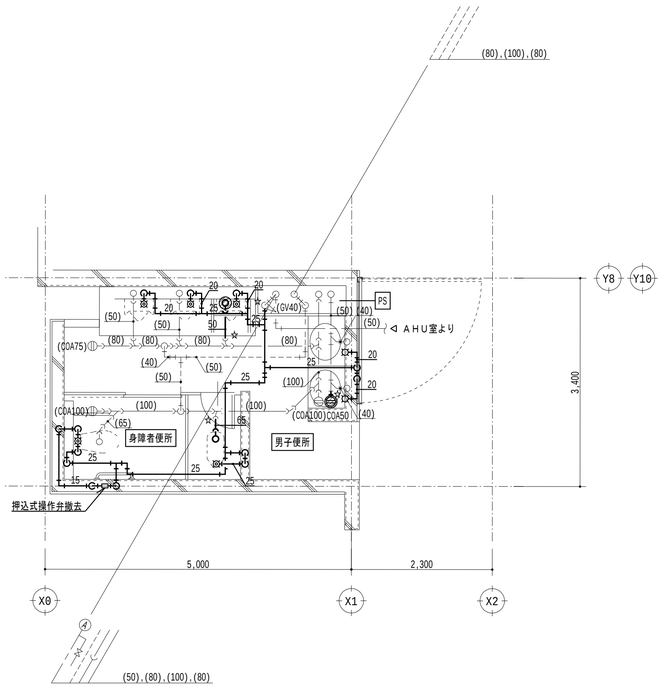
男子便所		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
小便器	床置型	1
小便器	壁掛型	2
洗面器	2連壁掛型、水栓2個共	1
化粧鏡	長方形縦型	2
手すり	小便器用	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする
和風大便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする

B4　3階

身障者便所（男子便所）		撤去・処分
名称	仕様	数量
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
手すり	L型	1
手すり	P型	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする



B4　給排水衛生設備　3階平面詳細図（撤去）　S = 1/50

線種記号

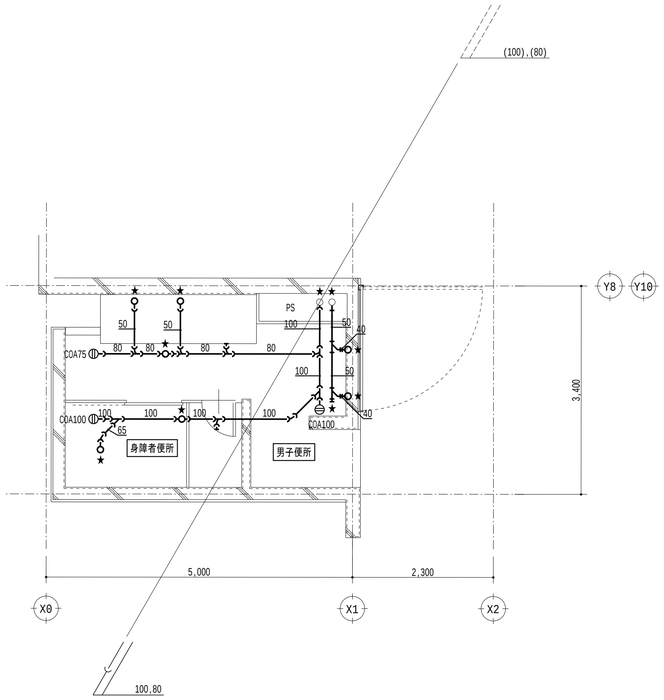
記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	SGP-PA
―――	雑排水配管	DVLP
―>―	汚水配管	DVLP
------	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記
1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．　は既設穴埋め箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



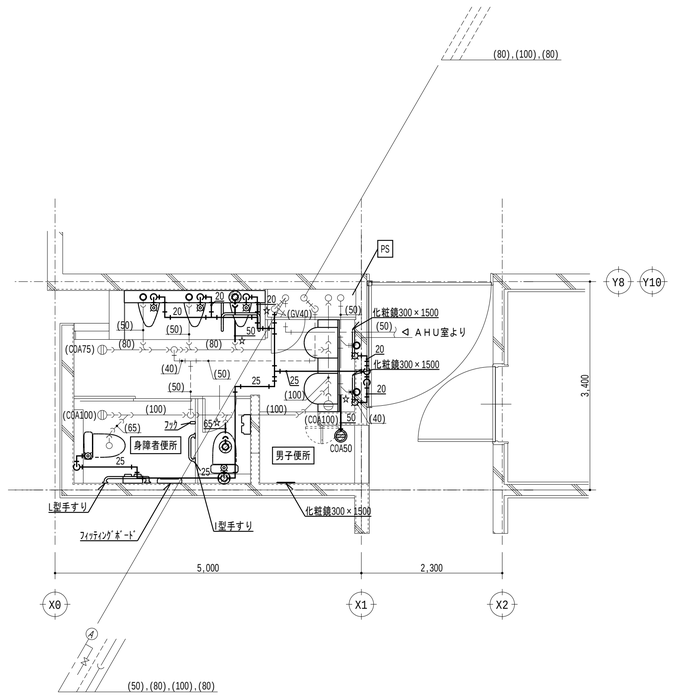
B4　給排水衛生設備　3階平面詳細図（管更生）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
―――	雑排水配管	DVLP、管更生
―>―	汚水配管	DVLP、管更生
------	通気配管	SGP(黒)

注記
1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



B4　給排水衛生設備　3階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	既：SGP-PA　新：HIVP
―――	雑排水配管	既：DVLP　新：FS-VP
―>―	汚水配管	既：DVLP　新：FS-VP
------	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記
1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．　はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社　総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No.　M-09
図面名称	B4　給排水衛生設備　3階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）　S = 1/50	設計日　2024年3月

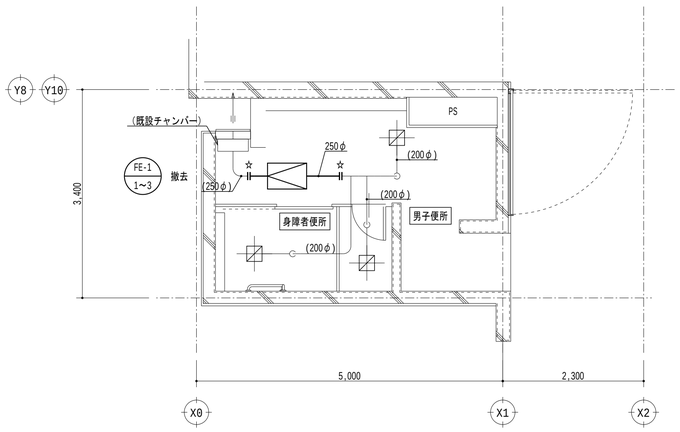
撤去

（撤去）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧（φ-V）	動力 容量（kW）	動力 始動方式	台数（台）	設置室名	備考
FE-1-1～3	消音ボックス付送風機	型　式：消音形	1-100	0.100	LS	3	B4　環境資源管理学科棟　1階　男子便所　×1	形状：640×430×310H　　重量：16.5kg
		仕　様：200φ × 700㎥/h × 80Pa					2階　男子便所　×1	
							3階　男子便所　×1	

注）撤去送風機共通事項

1.付属品共、場外搬出処分とする



男子便所（撤去）		
HS 250×250 [EA 240 m³/h]	1	×3
400×400×300H (保温なし)		
HS 250×250 [EA 230 m³/h]	2	
400×400×300H (保温なし)		

注記）制気口の撤去を行い、ボックス・ネックは残置とする

B4　換気設備　1～3階平面詳細図（撤去）　S = 1/50

記号	名称	備考
――――	ダクト	
⊘VD	風量調整ダンパー	

記号	名称	備考
	制気口	
	排気ガラリ	

注記

1．太線は撤去を示す

2．細線は残置を示す

3．特記なきダクトは天井内配管とする

4．☆は切断箇所を示す

改修後

（新設）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧（φ-V）	動力 容量（kW）	動力 始動方式	台数（台）	設置室名	備考
FE-1-1～3	消音ボックス付送風機	型　式：消音形	1-100	0.125	LS	3	B4　環境資源管理学科棟　1階　男子便所　×1	品番：（参考）BFS-65SUG2
		仕　様：200φ × 600㎥/h × 70Pa					2階　男子便所　×1	
		付属品：防振吊金具、他標準付属品一式					3階　男子便所　×1	

注）送風機共通事項

1.電気容量は参考値とし、記載以下とする

2.ファンへの接続は、たわみ継手とする

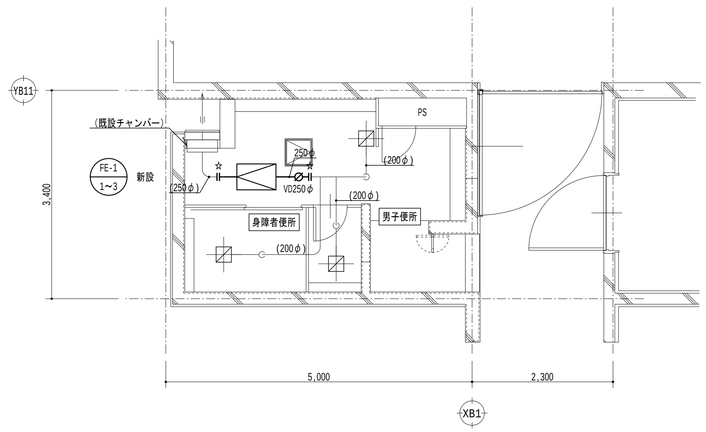
3.機器表中記載の○○Paは機外静圧を示し、参考値とする

4.その他はメーカー基準とする

5.排気送風機、天井埋込型換気扇のスイッチは別途電気設備工事とする（配線、機器接続を含む）

男子便所（新設）		
HS 250×250 [EA 200 m³/h]	3	×3
400×400×300H (保温なし)		

注記）制気口の新設を行い、既設ボックス・ネックに接続する



B4　換気設備　1～3階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

記号	名称	備考
――――	ダクト	
⊘VD	風量調整ダンパー	

記号	名称	備考
	制気口	
	排気ガラリ	

注記

1．太線は新設を示す

2．細線は既設を示す

3．特記なきダクトは天井内配管とする

4．☆は接続箇所を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				
株式会社	総合設備コンサルタント				
工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事			図面No.	M-10
図面名称	B4　換気設備　1～3階平面詳細図（撤去・改修後）　S = 1/50			設計日	2024年3月

撤去

B6　1階

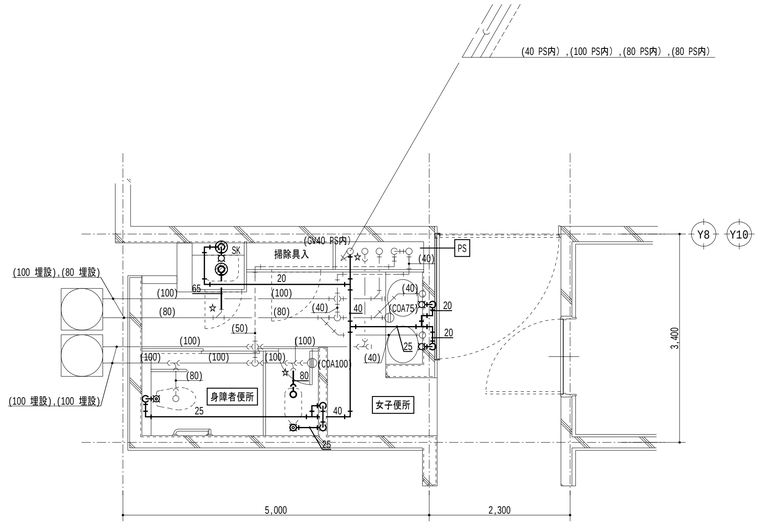
女子便所		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
掃除用流し	水栓共	1
洗面器	2連壁掛型、水栓2個共	1
化粧鏡	長方形縦型	2

注記）付属品共、場外搬出処分とする
和風大便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする

B6　1階

身障者便所（女子便所）		撤去・処分
名称	仕様	数量
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
手すり	L型	1
手すり	P型	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする



B6　給排水衛生設備　1階平面詳細図（撤去）　S = 1/50

線種記号

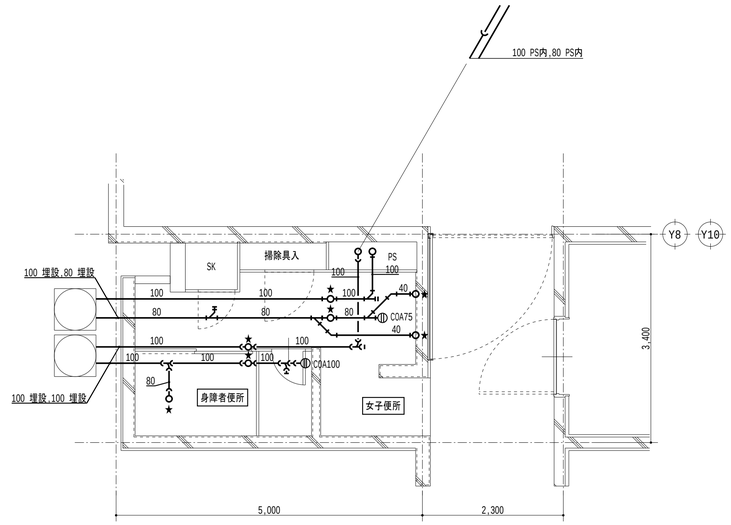
記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	SGP-PA
―――	雑排水配管	DVLP
―→―	汚水配管	DVLP
------	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
⊗	洗浄弁	
⊠	水栓	
⦶	掃除口	

注記
1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．⊘ は既設穴埋め箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



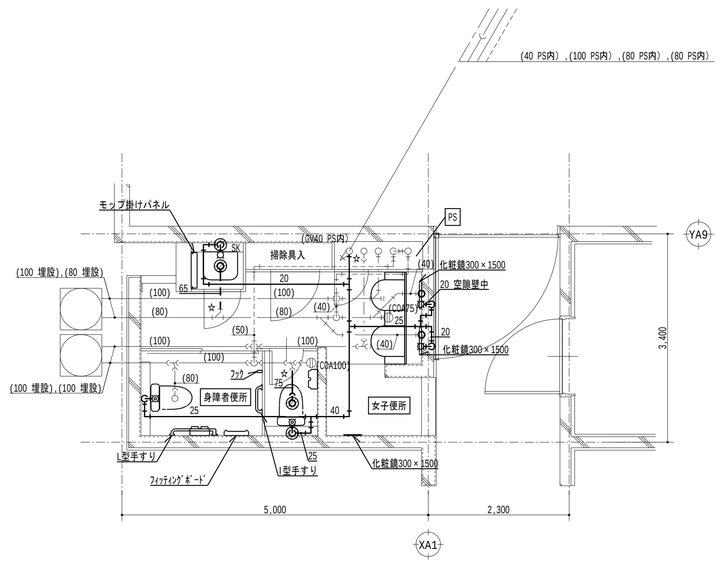
B6　給排水衛生設備　1階平面詳細図（管更生）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
―――	雑排水配管	DVLP、管更生
―→―	汚水配管	DVLP、管更生
------	通気配管	SGP(黒)

注記
1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



B6　給排水衛生設備　1階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	既：SGP-PA　新：HIVP
―――	雑排水配管	既：DVLP　新：FS-VP
―→―	汚水配管	既：DVLP　新：FS-VP
------	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
⊗	洗浄弁	
⊠	水栓	
⦶	掃除口	

注記
1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．⊘ はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No.	M-11
図面名称	B6　給排水衛生設備　1階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）　S = 1/50	設計日	2024年3月

撤去

B6　2階

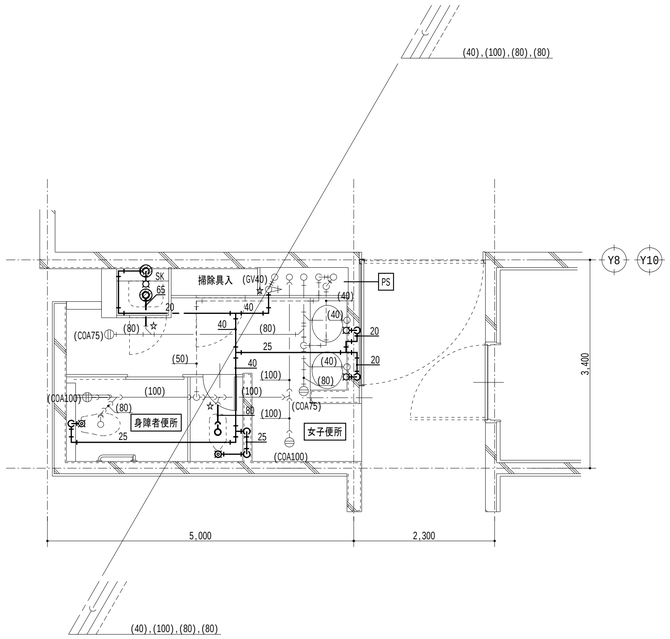
女子便所		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
掃除用流し	水栓共	1
洗面器	2連壁掛型、水栓2個共	1
化粧鏡	長方形縦型	2

注記）付属品共、場外搬出処分とする
和風大便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする

B6　2階

身障者便所（女子便所）		撤去・処分
名称	仕様	数量
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
手すり	L型	1
手すり	P型	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする



B6　給排水衛生設備　2階平面詳細図（撤去）　S = 1/50

線種記号

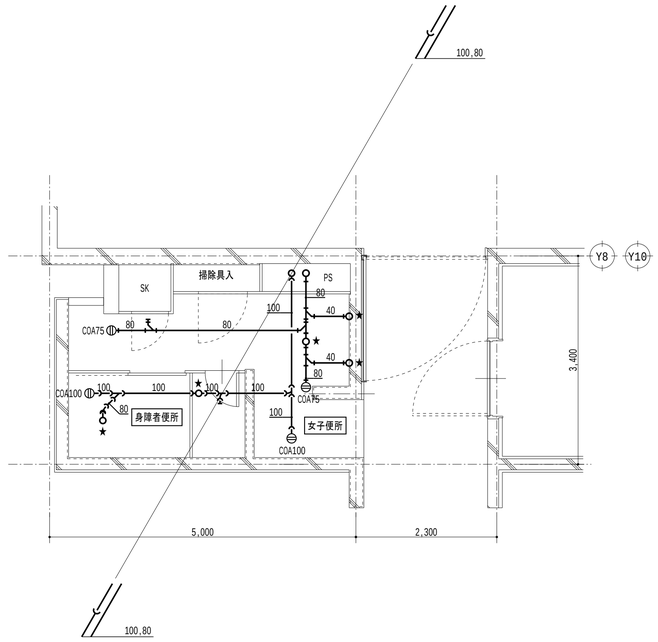
記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	SGP-PA
―――	雑排水配管	DVLP
―→―	汚水配管	DVLP
------	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
◎	洗浄弁	
⌑	水栓	
⦶	掃除口	

注記
1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．⊘ は既設穴埋め箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



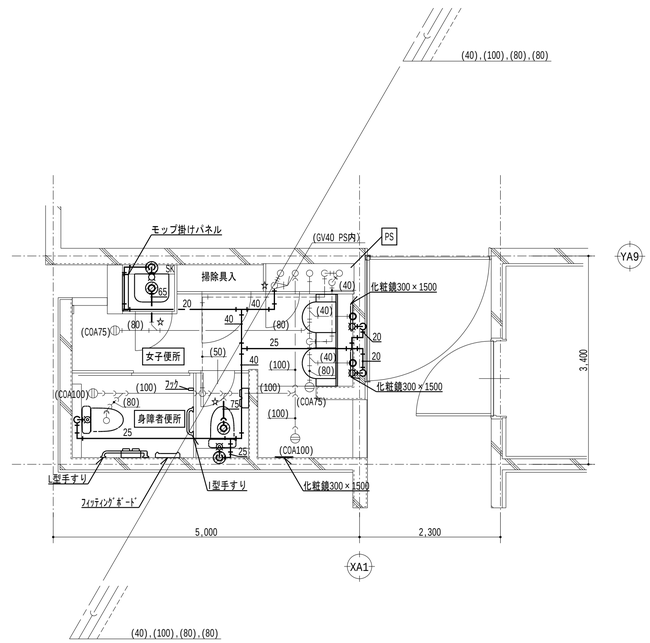
B6　給排水衛生設備　2階平面詳細図（管更生）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
―――	雑排水配管	DVLP、管更生
―→―	汚水配管	DVLP、管更生
------	通気配管	SGP(黒)

注記
1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



B6　給排水衛生設備　2階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	既：SGP-PA　新：HIVP
―――	雑排水配管	既：DVLP　新：FS-VP
―→―	汚水配管	既：DVLP　新：FS-VP
------	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
◎	洗浄弁	
⌑	水栓	
⦶	掃除口	

注記
1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．⊘ はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. M-12
図面名称	B6　給排水衛生設備　2階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）　S = 1/50	設計日 2024年3月

撤去

B6　6階

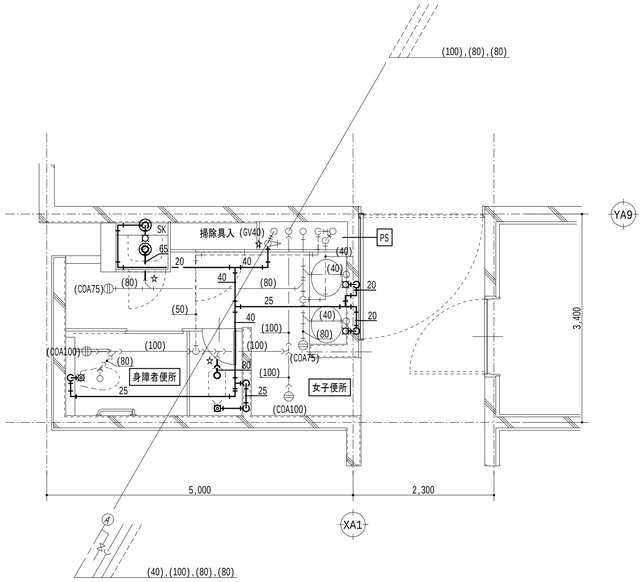
女子便所		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
掃除用流し	水栓共	1
洗面器	2連壁掛型、水栓2個共	1
化粧鏡	長方形縦型	2

注記）付属品共、場外搬出処分とする
　　和風大便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする

B6　3階

身障者便所（女子便所）		撤去・処分
名称	仕様	数量
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
手すり	L型	1
手すり	P型	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする



B6　給排水衛生設備　3階平面詳細図（撤去）　S = 1/50

線種記号

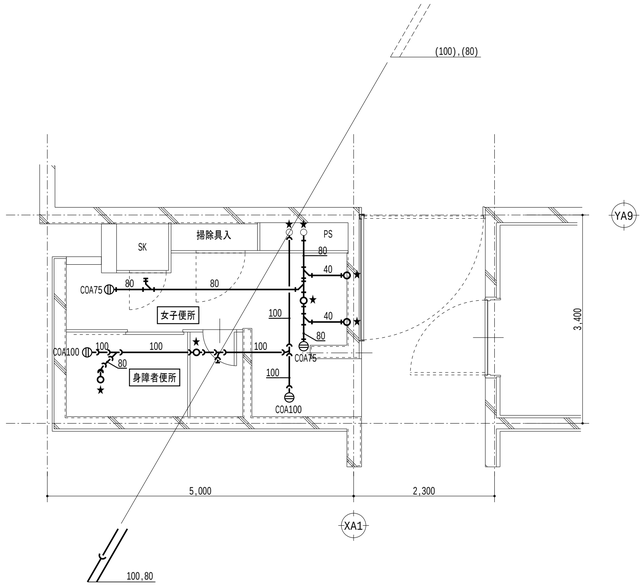
記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	SGP-PA
―――	雑排水配管	DVLP
―→―	汚水配管	DVLP
------	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記
1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．　は既設穴埋め箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



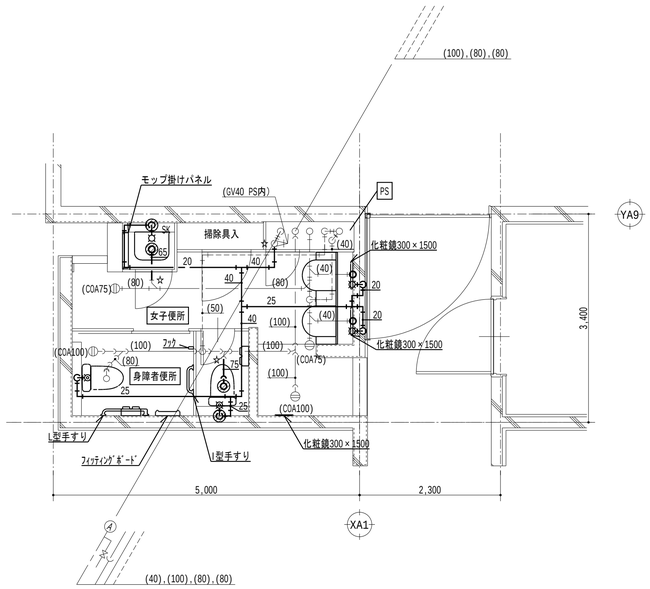
B6　給排水衛生設備　3階平面詳細図（管更生）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
―――	雑排水配管	DVLP、管更生
―→―	汚水配管	DVLP、管更生
------	通気配管	SGP(黒)

注記
1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
　ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



B6　給排水衛生設備　3階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	既：SGP-PA　新：HIVP
―――	雑排水配管	既：DVLP　新：FS-VP
―→―	汚水配管	既：DVLP　新：FS-VP
------	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記
1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．　はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
　鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
　給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
　特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管は天井内、PS内、空隙壁中配管とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社　総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. M-13
図面名称	B6　給排水衛生設備　3階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）　S = 1/50	設計日 2024年3月

撤去

（撤去）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧（φ-V）	動力 容量（kW）	動力 始動方式	台数（台）	設置室名	備考
FE-1-4～6	消音ボックス付送風機	型　式：消音形	1-100	0.100	LS	3	B6　環境生態学科棟　1階　女子便所　×1	形状：640×430×310H　　重量：16.5kg
		仕　様：200φ × 700㎥/h × 80Pa					2階　女子便所　×1	
							3階　女子便所　×1	

注）撤去送風機共通事項
1.付属品共、場外搬出処分とする

女子便所通路(撤去)	
HS 250×250 [EA 240 m³/h]	1
400×400×300H (保温なし)	

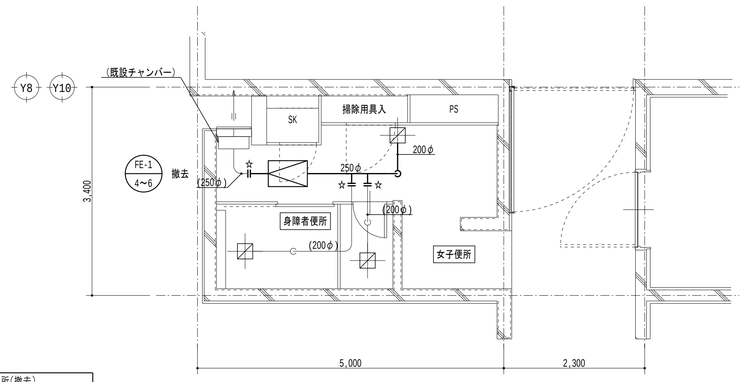
×3

注記）制気口・ボックス・ネックの撤去を行う

女子便所個室(撤去)	
HS 250×250 [EA 230 m³/h]	1
400×400×300H (保温なし)	

×3

注記）制気口の撤去を行い、ボックス・ネックは残置とする



身障者便所(撤去)	
HS 250×250 [EA 230 m³/h]	1
400×400×300H (保温なし)	

×3

注記）制気口の撤去を行い、ボックス・ネックは残置とする

B6　換気設備　1～3階平面詳細図（撤去）　S = 1/50

記号	名称	備考
――――	ダクト	
VD	風量調整ダンパー	
FD	防火ダンパー	
CD	逆流防止ダンパー	

記号	名称	備考
	制気口	
	排気ガラリ	

注記
1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．特記なきダクトは天井内配管とする
4．☆は切断箇所を示す

改修後

（新設）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧（φ-V）	動力 容量（kW）	動力 始動方式	台数（台）	設置室名	備考
FE-1-4～6	消音ボックス付送風機	型　式：消音形	1-100	0.125	LS	3	B6　環境生態学科棟　1階　女子便所　×1	品番：（参考）BFS-65SUG2
		仕　様：200φ × 600㎥/h × 70Pa					2階　女子便所　×1	
		付属品：防振吊金具、他標準付属品一式					3階　女子便所　×1	

注）送風機共通事項
1.電気容量は参考値とし、記載以下とする
2.ファンへの接続は、たわみ継手とする
3.機器表中記載の○○Paは機外静圧を示し、参考値とする
4.その他はメーカー基準とする
5.排気送風機、天井埋込型換気扇のスイッチは別途電気設備工事とする（配線、機器接続を含む）

女子便所通路(新設)	
HS 250×250 [EA 200 m³/h]	1
400×400×300H (保温なし)	

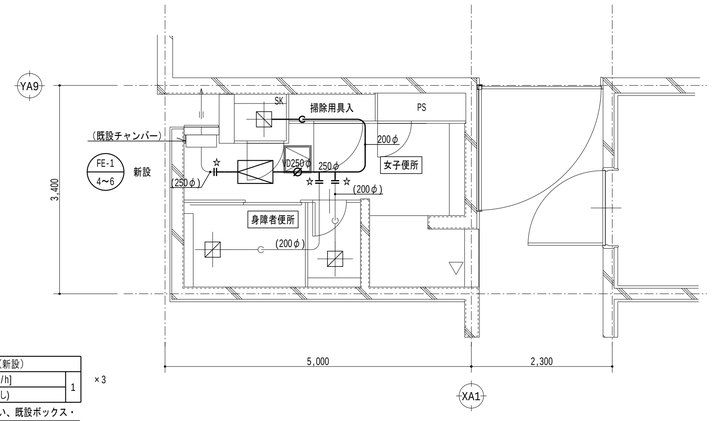
×3

注記）制気口・ボックス・ネックの新設を行う

女子便所個室(新設)	
HS 250×250 [EA 200 m³/h]	1
400×400×300H (保温なし)	

×3

注記）制気口の新設を行い、既設ボックス・ネックに接続する



身障者便所(新設)	
HS 250×250 [EA 200 m³/h]	1
400×400×300H (保温なし)	

×3

注記）制気口の新設を行い、既設ボックス・ネックに接続する

B6　換気設備　1～3階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

記号	名称	備考
――――	ダクト	
VD	風量調整ダンパー	
FD	防火ダンパー	
CD	逆流防止ダンパー	

記号	名称	備考
	制気口	
	排気ガラリ	

注記
1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．特記なきダクトは天井内配管とする
4．☆は接続箇所を示す

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社　総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. M-14
図面名称	B6　換気設備　1～3階平面詳細図（撤去・改修後）　S = 1/50	設計日 2024年3月

滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事

図面リスト

番号	図面名称	縮尺
E-01	特記仕様書	NO SCALE
E-02	照明器具参考姿図・トイレ呼出機器参考姿図	NO SCALE
	B0棟	
E-03	B0　電灯設備　1階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-04	B0　電灯設備　2階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-05	B0　コンセント設備　1階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-06	B0　コンセント設備　2階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-07	B0　コンセント・弱電設備　2階平面図（改修後）	1/50
E-08	B0　弱電設備　1階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-09	B0　弱電設備　2階平面詳細図（改修後）	1/50
	B4棟	
E-10	B4　電灯設備　1,2,3階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-11	B4　コンセント設備　1,2,3階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-12	B4,B6　コンセント設備　1,2,3階平面図（改修後）	1/75
E-13	B4　弱電設備　1,2,3階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
	B6棟	
E-14	B6　電灯設備　1,2,3階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-15	B6　コンセント設備　1,2,3階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-16	B6　弱電設備　1,2,3階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50

滋賀県電気設備工事特記仕様書

工事	工事名称	滋賀県立大学トイレ改修工事
	工事場所	滋賀県彦根市八坂町２５００
	工事期間・限	日間　・　令和　年　月　日まで
	工事概要説明	・滋賀県立大学トイレ改修工事に伴う電気設備工事の一切を行う。

※該当工事には適用欄に○印を附す。

適用	No	工事種目	工種 新設	工種 改修	備考
	1	高（低）圧引込設備			
	2	受変電設備			
○	3	電灯幹線設備		○	
○	4	電灯・コンセント設備		○	
	5	動力設備			
	6	拡声設備			
	7	電話設備			
	8	電気時計表示設備			
○	9	通信・信号設備		○	トイレ呼出表示設備
	10	テレビ共視聴設備			
	11	自動火災報知設備			
	12	ガス漏れ警報設備			
	13	防火戸自閉設備			
	14	雷保護設備			
	15	自家発電設備			
	16	機械警備設備			
別途工事		・工事区分表による。			

概要

電気設備工事仕様書	1．図面及び仕様書に記載されていない事項は、すべて、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書、同改修工事標準仕様書および同設備工事標準図（電気設備工事編）最新版（以下、「標仕」という）による。 2．項目は、○印の付いたものを適用する。

建物概要

No	名称	構造	階数	延面積（㎡）	棟数	備考
1	B0棟	RC	2		1	
2	B4棟	RC	3		1	
3	B6棟	RC	3		1	
	計					

項目　特記事項

項目	特記事項
適用項目	一般共通事項の扱いは、本工事が単独の工事又は分離発注の場合は以下の全項目を適用し、他工事に含まれる一括発注の場合は、※印を付したものを適用する。
※ 1 施工基準	イ　本工事は、工事請負契約書及び同約款を遵守し、本特記仕様書、図面１５築および標仕により完全に施工する。なお上記相互間に相違のある場合の優先順位は記載の順序とする。 ロ　必要な関係諸官庁への申請手続き等は、全て受注者の負担とし、速やかに処理する。 ハ　本図は、工事の大要を示すものであるから、詳細位置等については監督職員と打合せの上、その指示に従い入念に施工する。 ニ　その他関係諸法規に基づき完全に施工する。
※ 2 監理指針	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修電気設備工事監理指針　最新版　に準ずる
※ 3 施工監理チェックリスト	施工に際し、施工手引き書である電気設備工事施工監理チェックリスト（滋賀県土木交通部建築課　最新版）に従う。
4 完成図	完成図の種類、記入内容および様式は標仕により作成し、原図、ＣＡＤデータおよび焼付製本（縮小版A4サイズ）　部を提出するものとする。 なお、標仕の表1.7.1の完成図の種類に本特記仕様書を加えたものとする。
5 保全に関する資料	保全に関する資料は標仕により作成し、監督職員に指示された必要部数の原本、複写図および電子データを提出するものとする。なお、作成に際しては、国土交通省作成の「建築物等の利用に関する説明書作成の手引き」を参考とし、詳細については監督職員の指示による。
6 工事写真	区分：着工前／工事中／完成時／定期提出 分類・規格：ｶﾗｰ・ｻｰﾋﾞｽ　3・⑤・7 撮影枚数：1／1／2／2 部数（ネガ1枚に付）：1／1／1／2 備考：状況によりつなぎ写真／必要に応じ／／月末報告用 完成写真の撮影場所は監督職員の指示による。工事写真は全て工事写真帳に貼り付け提出する。写真撮影は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック」に準ずる。
7 現場代理人	原則として、現場代理人は他の工事と重複して従事することはできない。 契約約款第10条第3項の規定に基づく現場代理人の常駐義務を緩和する期間および本工事における現場代理人が他の工事の現場代理人を兼務できる条件は、別に定める「現場代理人の常駐に関する運用基準（滋賀県土木交通部）」による。 ①現場代理人の常駐を要しない期間 ・請負契約の締結の日の翌日から令和　年　月　日までの期間については、現場代理人の工事現への常駐は要しない。 ・請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、現場代理人の工事現への常駐を要しない。 なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。 ②工事が完成し、事務手続き、後片付け等のみが残っているなど、工事現場において作業等が行われていない期間については、現場代理人の工事現への常駐を要しない。 現場代理人は、受注者との直接的な雇用関係が確認できる資料を監督職員に提出すること。
8 技術管理	受注者は、建設業法で定める専任の技術者の任命を行い、現場に派遣し、技術管理にあたらせること。 ①　技術者の専任を要しない期間 ・請負契約の締結日から令和　年　月　日までの期間については、主任技術者または監理技術者の工事現場への専任を要しない。 ⊙請負契約締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約締結後、監督員との打合せにおいて定める。 ②滋賀県建設工事請負約款（以下「契約約款」という）第31条第2項の規定に基づく検査を完了した日から契約期間満了までの期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、検査を完了した日とは、発注者が契約約款第31条第2項に基づく当該検査の結果を通知した日（契約約款第31条第6項に該当するものを含む）とする。 なお、日程上の都合上、契約工期満了後に検査が行われた場合は、契約工期満了後の監理技術者等の工事現場費の専任を要しない。 **建設業法第26条第３項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者および監理技術者補佐の取扱いについて** **1．本工事において、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「特例監理技術者」という。）の配置を行う場合は以下の(1)～(8)の要件を全て満たさなければならない。** **(1)建設業法第26条第3項ただし書による監理技術者の職務を補佐する者（以下､「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。** **(2)監理技術者補佐は､一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定種目は、特例監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。** **(3)監理技術者補佐は入札参加者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。** **(4)同一の特例監理技術者が配置できる工事の数は、本工事を含め同時に２件までとする。** **（ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるもの（当初の請負契約以外の請負契約が随意契約により締結される場合に限る。）については、これら複数の工事を一つの工事とみなす。）** **(5)特例監理技術者が兼務できる工事は同一土木事務所管内（土木事務所、支所）の工事でなければならない。** **(6)特例監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回および主要な工程の立会等の職務を適正に遂行しなければならない。** **(7)特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。** **(8)監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。** **2．本工事の監理技術者が特例監理技術者として兼務する事となる場合、前項(1)～(8)の事項について確認できる書類を下記により提出すること。** **(1)監理技術者補佐の資格を有する書類（一級施工管理技士等の国家資格者などの合格証など）** **(2) (1)の提出書類と同じ** **(3)監理技術者補佐の直接的かつ恒常的な雇用関係を証明する書類(3カ月以上の雇用関係を証明できる健康保険被保険者証の写しなど)** **(4)特例監理技術者が兼務する工事のＣＯＲＩＮＳの写し等** **(5) (4)の提出書類と同じ** **(6)業務分担、連絡体制等を記載した書類（施工計画書など）** **(7) (6)の提出書類と同じ** **(8) (6)の提出書類と同じ** **3．本工事において、特例監理技術者および監理技術者補佐の配置を行う場合または配置を要さなくなった場合は速切にＣＯＲＩＮＳへの登録を行うこと。**
9 電気保安技術者（該当する者に○）	電気保安技術者は、次による者とし、監督職員の承諾を受けること。 ・　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修電気設備工事監理指針　最新版　の定めによる者 ・　第１種電気工事士 （電気事業法第52条第2項に規定される電気主任技術者を選任しないことができる自家用電気工作物および自家用電気工作物（需要設備）のうち、電圧六百ボルト以下で使用する電気工作物、に係る工事の場合） ・　その他（　　）
※ 10 下請業者機材等の選定	各種下請業者、機器材料等県内で供給できるものについては、極力県内業者、県産品を選定することとし、製品等は特記されたものまたは同等品以上とする。ただし、同等品以上とする場合は、監督職員の承諾を受ける。
※ 11 検査	受注者は完成検査前に関西電気保安協会等検査機関の検査を受け合格すること。 監督職員の指示により社内測定検査のみとする場合がある。（測定記録書提出）
※ 12 検査合格書等	各種検査を必要とするもの、責任施工のもの等は、各合格書または保証書及びその写し各一部を提出すること。なお、責任施工のものは、請負契約者、施工下請業者、材料製造所連名書とする。
※ 13 建築工事との収合い	コンクリート部分の染・壁・床の貫通部補強及び仕上部分の軽量鉄骨天井下地、同壁下地の開口部補強は建築工事とする、事前に施工図を作成し、監督職員、建築工事業者承認の上とする。
※ 14 既存設備関係	施工に際し、既設内容、取合いをよく調査すると共に既存施設の担当者と十分協議を行い、その機能を低下せしめてはならない。
※ 15 公害対策	工事着手前に付近の状況を調査し、公害対策は工事竣工まで講ずること。
※ 16 産業廃棄物の処理	受注者は、産業廃棄物を適正に処理するにあたり下記事項を含め、事前に監督職員に施工計画書を提出して承諾を受けること。 ①本工事に使用する特定建設資材及び排出する特定建設資材廃棄物については、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（建設リサイクル法）を遵守し、分別解体及び再資源化等を実施すること。また、着工前の同法第１１条の「通知」は受注者が提出すること。 ②「資源の有効な利用の促進に関する法律」（リサイクル法）及び建設副産物適正処理推進要綱を遵守し、一定規模以上の工事においては、再生資源利用「促進」計画書及び同実施書を作成し速やかに報告のこと。 ③受注者は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を遵守し、同法１２条の３によるマニフェストシステムにより的確に実施すること。
17 発生材の処理	引渡を要するもの：
18 保険等	受注者は工事の内容に応じた火災保険、建設工事保険等を工事目的物に付するものとする。
19 監督職員事務所	規模　1号　2号　3号　4号　5号　設けない 備品　机、いす、書棚、黒板、製図板、ゴム長靴、雨がっぱ、保護帽、受注者加入電話の子機、衣類ロッカー、冷蔵房機器、消火器等監督職員の指示による。
※ 20 安全対策	工事車輌の出入りについては、危険防止に努めること。又、必要に応じて交通整理員を配置すると共に、近隣家屋に騒音、振動等公害発生のなき様留意し、全般に支障なき様万全の策をすること。又、施設運営についても、担当者と協議を行い支障なき様に努めること。
21 統括安全衛生管理義務者	労働安全衛生法第３０条第２項の統括安全衛生管理義務者には、（ 建築工事 電気設備工事機械設備工事 ）の受注者を指名する。
22 創意工夫等実施状況	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに提出することができる。 ただし、工事成績評定においての高度技術、創意工夫または地域社会への貢献(以下「創意工夫等」という)に対する評価は、施工計画書にそのことが記載され、または事前に受注者から自主的に創意工夫等にかかる資料が監督員職員あて提出され、それらの項目が創意工夫等に該当すると判断し、施工等に反映されていた場合に評価するものとし、実施前に施工計画書に記載または資料等の提出がなされていない場合は評価しないものとする。
23 別途工事との連絡協議	受注者は、工事別の業者間で互いに連絡をとり、定期的に協議会を行い、工事施工上の調整を図ること。又、工事区分の取合について図示あるも施工時に必要に応じ協議を行い連絡を密にすること。
※ 24 シンナー等の保管管理	シンナー等については、工事現場に放置することなく、保管を厳重に行い盗難を防止すると共に、保管数量について作業前、作業終了後の確認等確実な管理を行うものとする。
※ 25 フロン類の回収等	冷媒にフロン類を使用している機器の撤去においては、フロン排出抑制法に基づきフロン類を全量回収し、大気放出をしない処理を行うこと。また、施工に当たっては特定フロンを使用した材料、工法を用いないこと。
26 工事実績情報の作成・登録	受注者は、工事請負代金　500万円以上の工事について、工事実績情報サービス(CORINS)入力システムに基づき、「登録のための確認のお願い」を作成し監督職員の確認を受けた後、(一財)日本情報総合センター(JACIC)に登録するとともに、センター発行の「登録内容確認書(工事実績)」の写しを監督職員に提出しなければならない。提出の期限は、以下のとおりとする。 （１）受注登録の期限は、契約締結後10日以内とする。 （２）竣工登録の期限は、工事完成後10日以内とする。 （３）受注登録の内容に変更があった場合は、変更があった日から10日以内に変更登録を行うこと。
※ 27 工事関係車両の電波法遵守	受注者は電波法を遵守し、不法無線局を搭載した工事車両を使用しないものとする。また、現場において不法無線局を搭載していると疑わしい車両を確認したときには、速やかに監督職員にその旨報告する。
※ 28 過積載の防止措置	受注者は過積載等の違法運行防止を図るため、道路交通法を遵守する旨を記載した施工計画書を提出し徹底を図ること。
29 技術検査	工事施工途中において、適宜中間技術検査を実施する。
※ 30 施工上の留意事項等	イ　電線管について、図示ない限り屋内露出配管はねじなし電線管（Ｅ管）、屋内いんぺい配管は合成樹脂製可とう電線管(PF管)、屋外露出配管は薄鋼電線管（CP管）、屋外埋設配管は波付硬質ポリエチレン管（FEP管）を使用する。なお、高圧配線の地中埋設配管については、ポリエチレンライニング電線管（PE管）とする。 ロ　図示ない限り配線器具プレートは新金属製またはステンレス製とする。 ハ　スイッチが多数ある場合には監督職員と協議し、ネームスイッチを使用する。 ニ　建物EXPJ部分及び機器接続箇所に使用する可とう電線管は、ビニル被覆付きとする。 ホ　照明器具は原則として、LED器具及び公共施設用器具とする。 ヘ　将来用予備空配管には、ビニル被覆鉄線(1.6㎜)を入線し、名札を取付ける。 ト　プルボックスは工場製作品を使用する。 チ　次に示す箇所以外の露出配管は、全て塗装する。(機械室、電気室内の塗装　要・㋐) （ＥＰＳ、共同溝内の塗装　要・㋐） リ　露出配管を行う場合は、施工前に素地ごしらえ（エッチングプライマー等）と下塗りを行い、配管施工後に仕上塗装を行う。 ヌ　機器据付・設置については、「建築設備耐震設計・施工指針」に準ずる。 ル　当該工事において、既設配管・既設埋設配管があった場合は、監督職員の指示により迂回等の工事を行い、軽微なものは本工事内とする。また、撤去工事は、特に既設配線の行先を調査確認の上、処理する。 オ　環境配慮の視点から、以下の材料の利用に努めること。 (1)グリーン購入法に基づくエコマーク商品 (2)建設リサイクル法により再資源化されたリサイクル製品 (3)滋賀県リサイクル製品認定制度に基づく滋賀県リサイクル製品
※ 31 暴力団員等による不当介入の排除	滋賀県の発注する建設工事等における暴力団員等による不当介入の排除について（「不当介入に関する通報制度」の徹底について） 1 受注者は、暴力団員等（暴力団の構成員および暴力団関係者、その他県発注工事等に対して不当介入をしようとするすべての者をいう。）による不当介入（不当な要求または業務の妨害）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うものとする。 2 受注者は、前項により通報を行った場合には、速やかにその内容を記載した通報書(別記様式第１号)により所轄警察署に届け出るとともに、監督職員に報告するものとする。 また、受注者は、以上のことについて、下請負人（再委託の協力者を含む）に対して、十分に指導を行うものとする。 3 受注者は、暴力団員等による不当介入を受けたことが明らかになり、工程等に被害が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。
32 環境配慮指針	公共事業に係る環境配慮指針実施要領に基づく、チェックシートを作成し提出すること。
33 建設工事公衆災害防止対策要綱	建設業法（昭和24年法律第100号）第25条の27第2項の規定に基づき「建設工事公衆災害防止対策要綱（国土交通省告示第496号　令和元年9月2日、以下「新要綱」。）」が告示されたため、公共建築工事標準仕様書に位置付けのある「建設工事公衆災害防止対策要綱」は新要綱に読み替える。
34 保険の付保及び事故の補償（法定外の労災保険の付保）	本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。
※ 35 施工計画書	受注者は、施工計画書の作成にあたり、「その他」の事項として新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を記載するものとする。 必要と認める拡大防止対策のうち共通仮設および現場管理の範囲を超え、受注者が追加で費用を要する拡大防止対策を行う場合は、受発注者間で設計変更の協議を行うこととする。協議における資料は受注者の負担により作成するものとする。
36 余裕期間制度（任意着手方式）	1．本工事は、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間（契約締結日から工事開始日の前日までの期間）を設定した工事であり、発注者が示した工事開始期限日までの間で、受注者は工事開始日を任意に設定することができる。 なお、受注者は、契約を締結するまでの間に、所定の様式により、工事開始日を通知すること。 取扱いについては、滋賀県ホームページ掲載の「工事における余裕期間制度実施要領（令和5年12月）（滋賀県）」および「建設工事における余裕期間制度 運用マニュアル（令和3年2月）（滋賀県土木交通部）」に基づくものとする。　滋賀県ホームページ 滋賀県＞事業者の方へ入札・売却・指定管理＞公共工事＞記事一覧「余裕期間制度について」 https://www.pref.shiga.lg.jp/zigyousya/nyusatsubaikyaku/kouzi/ 2．余裕期間内は、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入、仮設物の設置等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。 3．余裕期間内は、主任技術者または監理技術者を配置することを要しない。また、現場代理人は工事現場に常駐しないものとする。 4．コリンズ へ登録する技術者の従事期間は、実工期の範囲で従事する期間を登録するものとする。 （余裕期間を含まないことに留意するものとする。） 5．受注者は工事開始日の前日までに現場代理人等を定め、所定の様式により届け出るものとする。 6．実工期：工事開始日から終期日まで （ただし、令和　年　月　日（工事開始期限日）までに工事を開始すること。） 契約締結後において、工事開始日の変更の必要が生じた場合は、監督職員と協議の上、工期に係る契約を変更することにより、工事開始日の変更をすることができる。 なお、低入札価格調査等により、上記の工事開始期限日以降に契約締結となった場合には、余裕期間は適用しない。
37 週休２日取組促進型工事（受注者希望方式）	本工事は、受注者が工事着手前に発注者に対して週休２日に取り組む旨を協議した上で工事を実施する（営繕工事版）週休２日取組促進型工事（受注者希望方式）である。費用の計上等の運用にあたっては、「（営繕工事版）週休２日取組促進型工事実施要領」により行う。 ４週８休以上の現場閉所（現場休息）を前提に労務費を補正して予定価格を作成しており、４週８休に満たない場合は、現場閉所（現場休息）の状況に応じて請負代金額のうち労務費補正分を減額変更する。 週休２日の取り組みを実施しない場合は、請負代金額のうち労務費補正分を減額変更する。 なお、学校の長期休暇(夏休、冬休、春休)は監督職員と協議の上、非対象期間とすることができる。
※ 38 石綿含有建材の調査	・大気汚染防止法、労働安全衛生法、石綿障害予防規則、その他石綿処理に関する諸法令等に基づき実施すること。 ・石綿の事前調査は、建築物石綿含有建材調査者講習登録規定に規定する建築物石綿含有建材調査者等、一定の知見を有する者が実施するように努めること。 ・事前調査結果は書面で発注者に説明すること。 ・事前調査結果を作業場に備え付け、掲示すること。
※ 39 官公署その他への届出	**工事施工にあたって、建築基準法、労働基準法、労働安全衛生規則、消防法その他関係法令を適守し、工事に伴う協議や諸手続きは、発注者の承諾のもと受注者が責任をもって遅滞なく行うこと。工事完成までに必要な官庁等への諸届等は、労務・費用共、受注者の負担とする。**
※ 40 その他	**本工事に関連して実施される国、県または関係団体の調査等に協力すること。**

種目　適用　項目　特記事項

種目	適用	項目	特記事項
1 高(低)圧引込設備		工事範囲及び説明	高(低)圧引込み口より、受電設備(開閉器)に至るまでとする。
		電気方式	相　線式　V
		施工方法	地中　架空
		使用電線	6kV EM-CE　6kV EM-CET　600V EM-CE　600V EM-CET　OE　DV
		負担金	要　不要
		その他	
2 受変電設備		工事範囲及び説明	高圧引込線接続より、各機器取付け及び低圧配電盤取付け完了までとする。
		電気方式	1次側　3相3線式6,600V、2次側　3相 3線式210V　単相　線式　V
		形式	屋内型　フレーム組立開放型　キュービクル
		配電盤	高圧配電盤　低圧配電盤
		変圧器	3相　単相
		母線	KIP　PDC　銅棒
		付属品・予備品	電力ヒューズ（　組）　フック棒（大・小）　絶縁マット B種接地抵抗値は、関西電力と打合せた値とする。
③ 電灯幹線設備	○	工事範囲及び説明	便所に新設する分電盤に電源供給する。また、既設分電盤の改修も行う。
	○	電気方式	3相3線式210V　単相　3線式　210/105V
	○	分電盤	電灯分電盤（露出型　2面　埋込型　-面）
	○	施工方法	金属管工事　HIVE管工事　コロガ゛ン配線工事　ケーブルラック配線工事
	○	使用電線	EM-IE　OC　DV　600V EM-CE　600V EM-CET　EER　EEF　FP-C
	○	その他	
④ 電灯・コンセント設備	○	工事範囲及び説明	既設電灯盤及び便所に新設する電灯盤より配管配線器具取付けまでとする。 既設撤去も含む。
	○	施工方法	金属管工事　PF管工事　メタルモール配線工事　コロガ゛ン配線工事
	○	使用電線	EM-IE　600V EM-CE　600V EM-CET　EEF　FP-C
	○	照明器具	姿図による
	○	配線器具	大角埋込形
		照度測定	実施　する　しない
		その他	
5 動力設備		工事範囲及び説明	動力盤　より機器までの配管配線とする 漏電遮断器回路は、他の接地線に接続せず単独接地とする。
		電気方式	3相3線式210V　3相　線式　V
		施工方法	
		使用電線	EM-IE　HIV　OW　DV　600V EM-CE　600V EM-CET　EER　FP-C
6 拡声設備	○	工事範囲及び説明	ｽﾋﾟｰｶ、ｱﾝﾌﾟﾗｰﾀの撤去、新設、調整を行う。
	○	施工方法	金属管工事　PF管工事　メタルモール配線工事　コロガ゛ン配線工事
	○	使用電線	EM-IE　HIV　EM-HP　MVVS　EM-AE
	○	機器仕様	凡例による
		その他	
7 電話設備		工事範囲及び説明	既設ﾎﾞﾀﾝ電話機の取外し及び再取付、Wifi用ｱｸｾｽﾎﾟｲﾝﾄの取外し及び再取付、新設、調整を行う。
		施工方法	金属管工事　PF管工事　メタルモール配線工事　コロガ゛ン配線工事
		方式	電子ボタン式　電子交換式
		使用電線	CCP(市内ＣＣＰケーブル)　EM-BTIEE(電子ボタン電話用ケーブル) EM-CPEE(市内対ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル) PE-V(構内ケーブル)　EM-TIEF(屋内用通信電線)
		機器仕様	
8 電気時計表示設備		工事範囲及び説明	主装置　より子機に至る配管、配線、機器取付け、調整までとする。
		施工方法	
		使用電線	EM-IE　芯ビニルコード
		機器仕様	
⑨ 通信・信号設備	○	工事範囲及び説明	便所内のトイレ呼出機器類の撤去・新設を行う。既設端子盤より子器に至る配管、配線、機器取付け、調整までとする。既設撤去も含む。 既設端子盤より一部の配管・配線は既設流用とする。
	○	施工方法	金属管工事（PF管工事）メタルモール配線工事）コロガ゛ン配線工事）
	○	使用電線	EM-CPEE(市内対ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル) CPV(制御用EPゴム絶縁ビニルシースケーブル)　(EM-AE)　(EM-EBT)
	○	機器仕様	姿図による
10 テレビ共視聴設備		工事範囲及び説明	アンテナ　より未端整合器までの配管、配線、器具取付け、調整までとする。
		施工方法	
		使用電線	EM-S-5CFB　EM-S-7CFB
		機器仕様	地上デジタル波対応機器とする。
		電界強度測定	施工前に測定し、各局毎の電界強度測定値を提出する。 アンテナ位置は建築意匠、強度等を考え監督職員と協議する。
11 自動火災報知設備	○	工事範囲及び説明	感知器の撤去、新設、調整を行う。 メーカー責任施工とし、所轄消防署と協議の上、完全に施工する。なお、図示なくても建築構造上取付けの必要が生じたときは、監督職員の指示に従い本工事において取付ける。
	○	施工方法	金属管工事　PF管工事　メタルモール配線工事　コロガ゛ン配線工事
	○	使用電線	EM-IE　HIV　HP　EM-AE
	○	機器仕様	凡例による
12 ガス漏れ警報設備		工事範囲及び説明	ｶﾞｽ漏れ警報器の撤去、新設、調整を行う。 メーカー責任施工とし、所轄消防署と協議の上、完全に施工する。なお、図示なくても建築構造上取付けの必要が生じたときは、監督職員の指示に従い本工事において取付ける。
		施工方法	金属管工事　PF管工事　メタルモール配線工事　コロガ゛ン配線工事
		使用電線	EM-IE　EM-AE　EM-CPEE
		機器仕様	凡例による
13 防火戸自閉設備		工事範囲及び説明	連動制御盤　より未端感知器・自閉器具までの配管、配線、器具取付け、調整までとする。 なお、メーカーの責任施工とし、建築工事とよく打合せの上、施工する。
		施工方法	
		使用電線	EM-IE　HIV　HP　EM-AE　EM-HP
		機器仕様	
14 雷保護設備		工事範囲及び説明	突針取付けより接地極埋設までの配管配線接地測定を行う。 なお、メーカーの責任施工とし、建築工事とよく打合せの上、施工する。 JISA4201に準じて施工する。
		施工方法	
		突針	
		試験用端子	
		使用導線	
15 自家発電設備		工事範囲及び説明	機器据付より試運転調整までとする。
		施工方法	
		定格	容量　kVA　電圧　V　運転　時間運転
		使用電線	
		機器仕様	日本内燃力発電設備協会認定合格品とする。
		配管材料	
16 機械警備設備		工事範囲及び説明	各種ｾﾝｻｰの取外し、再取付を行う。 警備保障会社と事前に打合せを行い、支障の無いよう施工する。 なお、警備計画の変更、建築構造上の変更等により配管ルートに変更が生じた場合で軽微なものは監督職員の指示により本工事により行う。
		施工方法	金属管工事　PF管工事　メタルモール配線工事　コロガ゛ン配線工事

使用機材製造者指定

本工事に使用する機器材料は、下記に指定する製造者のものを使用のこと。ただし、同等品を使用する場合には、建築課所定の様式により承諾を得て使用のこと。

適用	機材名	製造業者				
○	電線類	ＪＩＳ規格等適合品製造者				
○	ケーブル類	ＪＩＳ規格等適合品製造者				
○	電線管類	ＪＩＳ規格等適合品製造者				
	高圧開閉器					
	高圧遮断器					
	変圧器					
	コンデンサ					
	キュービクル					
○	配分電盤	大正電機製造	日満	大日製作所	パナソニック	日東工業　内外電機
○	配線用遮断器	パナソニック	日立製作所	富士電機	三菱電機	
○	照明器具	岩崎電気　NECライティング	東芝ライテック	パナソニック	日立EGライティング	三菱電機照明
○	配線器具	神保電器　東芝ライテック	パナソニック	寺田電機製作所		
	放送機器					
	時計					
	インターホン					
○	トイレ呼出表示機器	共栄エンジニアリング	ケアコム	アイホン	パナソニック	
	テレビ共聴機器					
	火災報知機器					
	ガス漏れ警報器					
	防火戸自閉機器					
	自家発電機器					
	蓄電池					

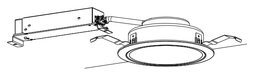
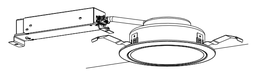
※工事図記号（凡例）は別図（　　）による。

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

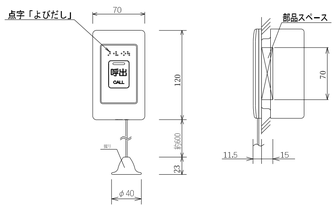
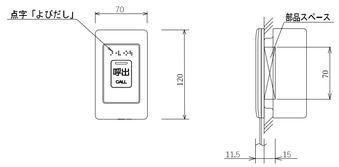
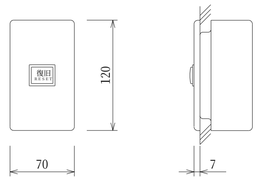
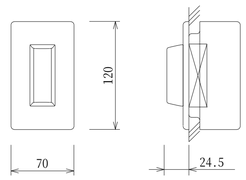
株式会社 総合設備コンサルタント

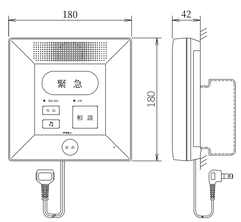
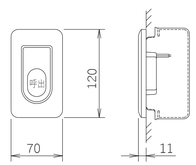
工事名称	滋賀県立大学P棟トイレ改修後期工事	図面No. E-01
図面名称	特記仕様書　S = NO SCALE	設計日 2024年3月

照明器具姿図

Ｘ１	LEDダウンライト	Ｘ２	LEDダウンライト　ブース・収納内
パナソニック　ＸＮＤ１５６７ＳＡ ＬＥ９		パナソニック　ＸＮＤ１０６７ＳＡ ＬＥ９	
 φ１５０		 φ１５０	
ＬＥＤ内蔵＜ワンコア（ひと粒）タイプ＞、電源ユニット内蔵、高演色タイプ ５０００Ｋ、Ｒａ９５、拡散タイプ 光源遮光角３０度、光源寿命４００００時間（光束維持率８５％） 器具光束：１３７５ｌｍ、消費電力：１１．６Ｗ、電圧：１００－２４２Ｖ 反射板（上部）：プラスチック（ホワイト） 反射板（下部）：アルミ（銀色鏡面仕上） 枠：鋼板（ホワイトつや消し仕上）、埋込穴φ１５０		ＬＥＤ内蔵＜ワンコア（ひと粒）タイプ＞、電源ユニット内蔵、高演色タイプ ５０００Ｋ、Ｒａ９５、拡散タイプ 光源遮光角３０度、光源寿命４００００時間（光束維持率８５％） 器具光束：８４５１ｌｍ、消費電力：7Ｗ、電圧：１００－２４２Ｖ 反射板（上部）：プラスチック（ホワイト） 反射板（下部）：アルミ（銀色鏡面仕上） 枠：鋼板（ホワイトつや消し仕上）、埋込穴φ１５０	

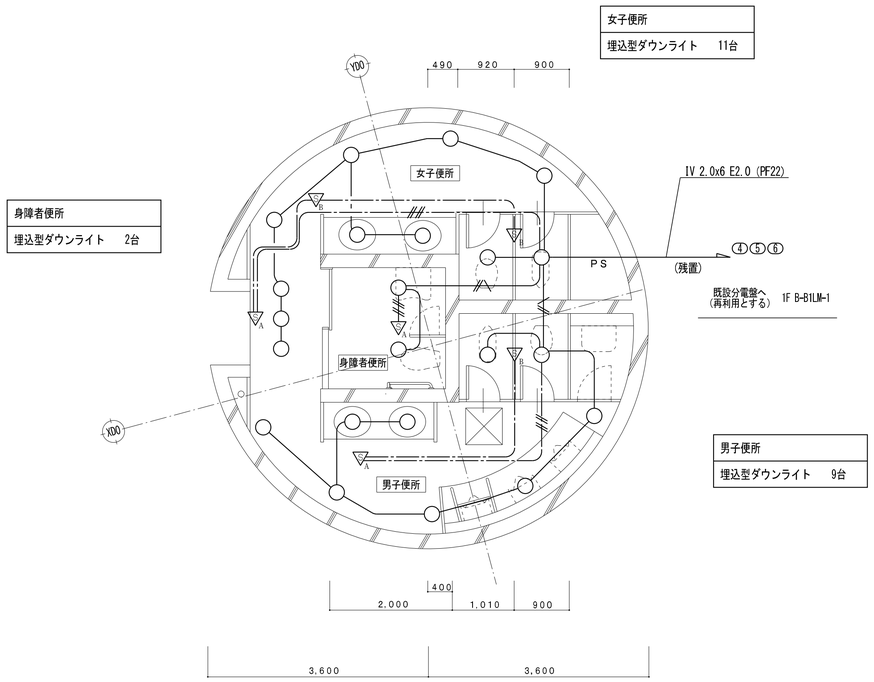
トイレ呼出機器姿図

Np	トイレ呼出押ボタン　ひも付き　取付高さ H=900	N	トイレ呼出押ボタン　取付高さ H=1500	●	復旧ボタン　取付高さ H=1300	○	廊下灯　取付高さ H=2000
ケアコム　ＢＴ－３１２ＺＲ（参考型番）		ケアコム　ＢＴ－３１１ＺＲ（参考型番）		ケアコム　ＢＲ－３０２ＲＡＵ（参考型番）		ケアコム　ＢＴ－６７３Ｕ／８（参考型番）	
							
形　状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）	形　状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）	形　状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）	形　状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）
プレート／握り	抗菌樹脂	プレート／握り	抗菌樹脂	プレート	新金属	プレート／握り	新金属
確認灯	LED（赤）	確認灯	LED（赤）	表示灯	ノンロック式		表示灯カバー：ポリカーボネート
呼出ボタン	ノンロック式	呼出ボタン	ノンロック式			表示灯	LED（赤）,DC8V
点　字	よびだし	点　字	よびだし				
備　考	JIS C-0920 IPx5（防噴流形）適合	備　考	JIS C-0920 IPx5（防噴流形）適合				

⊠	緊急通報装置	E	通報用ボタン　取付高さ H=1500
アイホン　ＦＥ－Ｍ（参考型番）		アイホン　ＱＥＷ－ＢＮＷ（参考型番）	
			
電源電圧	AC100V 50/60Hz	形　状	壁埋込型(JIS1個用スイッチボックス)
形　状	据置・壁取付型(JIS1個用スイッチボックス)	材　質	自己消火性樹脂
材　質	自己消火性樹脂	備　考	ノンロック式
通報先登録数	5ヵ所		防沫形
備　考	ワイヤレス機器 登録数 最大16個		

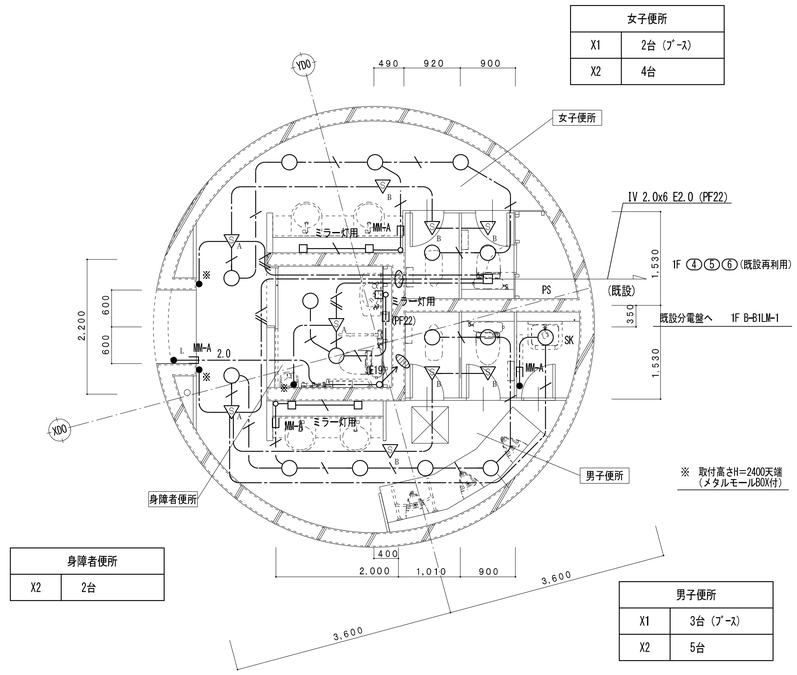
令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事
						図面名称	照明器具参考姿図・トイレ呼出機器参考姿図　S = NO SCALE
株式会社	総合設備コンサルタント					図面No.	E-02
						設計日	2024年3月

改修前



B0　1階平面詳細図（改修前）　S = 1/50

改修後



B0　1階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
●R	リモコンスイッチ	1P15Ax1
●2R+L	リモコンスイッチ	2P15Ax1
	確認表示灯付きスイッチ	1P15Ax1
□	アウトレットボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	——-——-——	VV-F 1.6-2C	(PF16)
	——-//—-——	VV-F 1.6-2C x2	(PF28)
	——-///—-——	VV-F 1.6-3C	(PF22)
	——-2.0——-——	VV-F 2.0-2C	(PF22)
	——-///2.0——-——	VV-F 2.0-3C	(PF22)
	——-//\—-——	VV-F 2.0-3C(1E)	(PF22)
	——-///\—-——	VV-F 2.0-3C E2.0	(PF28)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

———————　天井内隠蔽配管配線工事　——-——-——　天井内ころがし配線工事
－－－－－－－　床内隠蔽配管配線工事　·····　露出配管工事
——··——··——　ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称	
●	埋込型スイッチ	1P15Ax1　ネーム付
●L	確認表示灯付き埋込型スイッチ	1P15Ax1　ネーム付
▽A	天井付熱線センサ付自動スイッチ　親機・8Aタイプ・広角形	
▽B	天井付熱線センサ付自動スイッチ　子機	
▽C	天井付熱線センサ付自動スイッチ　子機・換気扇連動用・3系統連動形	
□CP取付	カバープレート取付	
□	アウトレットボックス	
◪	電灯分電盤	
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	——-——-——	EM-EEF 1.6-2C	(PF16)
	——-///—-——	EM-EEF 1.6-3C	(PF22)
	——-//\—-——	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)
	——-·\—-——	EM-EEF 1.6-3C(1E)	(PF22)
	——-2.0——-——	EM-EEF 2.0-3C	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

貫通穴はコンセント共用とする。

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

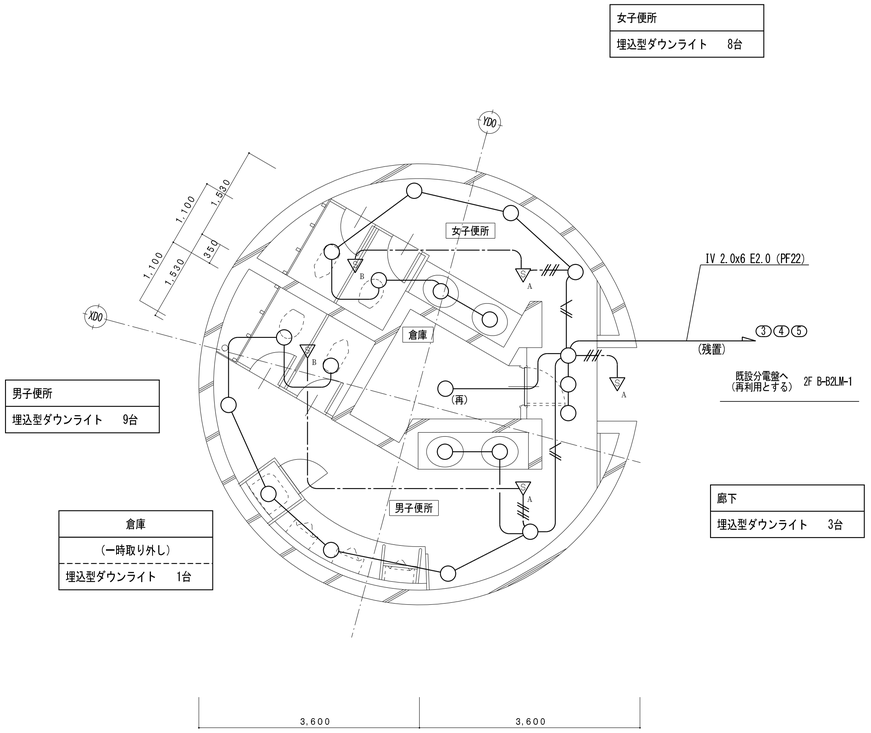
———————　天井内隠蔽配管配線工事　——-——-——　天井内ころがし配線工事
－－－－－－－　床内隠蔽配管配線工事　·····　露出配管工事
——··——··——　ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社　総合設備コンサルタント

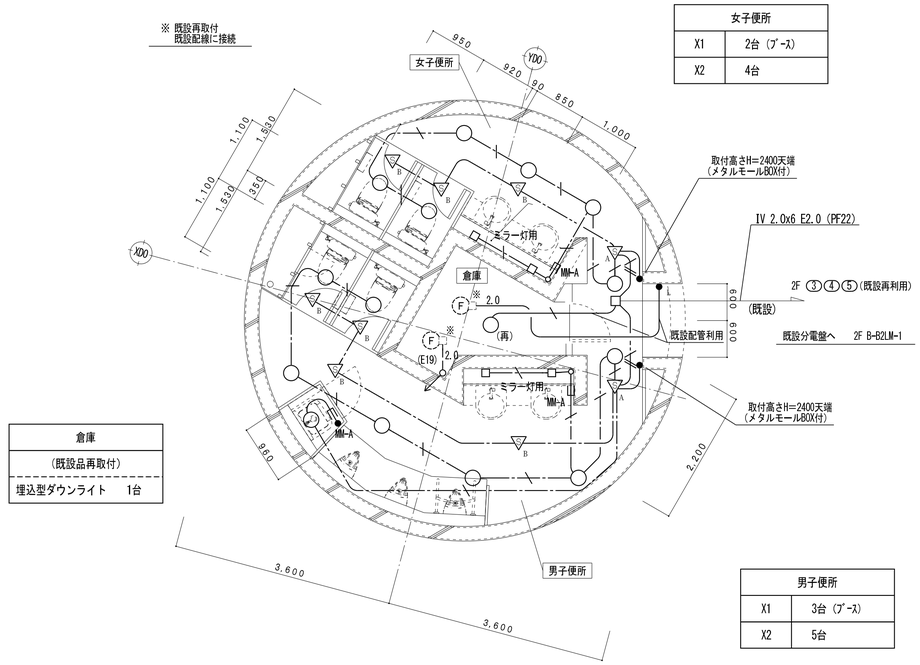
工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No.　E-03
図面名称	B0　電灯設備　1階平面詳細図（改修前・改修後）　S = 1/50	設計日　2024年3月

改修前



B0　2階平面詳細図（改修前）　S = 1/50

改修後



B0　2階平面詳細図（改修後）　S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
●R	リモコンスイッチ	1P15Ax1
●2R+L	リモコンスイッチ 確認表示灯付きスイッチ	2P15Ax1 1P15Ax1
□	アウトレットボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	——-——-——	VV-F 1.6-2C	(PF16)
	——-//-//-——	VV-F 1.6-2C x2	(PF28)
	——-///-——	VV-F 1.6-3C	(PF22)
	——-2.0——	VV-F 2.0-2C	(PF22)
	——-//2.0——	VV-F 2.0-3C	(PF22)
	——-//\-——	VV-F 2.0-3C(1E)	(PF22)
	——-//\-——	VV-F 2.0-3C E2.0	(PF28)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- ———————— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——-——-—— 天井内ころがし配線工事
- ———————— 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- ——-·-——-·-—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称	
●	埋込型スイッチ	1P15Ax1　ネーム付
●L	確認表示灯付き埋込型スイッチ	1P15Ax1　ネーム付
▽A	天井付熱線センサ付自動スイッチ	親機・8Aタイプ・広角形
▽B	天井付熱線センサ付自動スイッチ	子機
▽C	天井付熱線センサ付自動スイッチ	子機・換気扇連動用・3系統連動形
□CP取付	カバープレート取付	
□	アウトレットボックス	
◪	電灯分電盤	
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	——-——-——	EM-EEF 1.6-2C	(PF16)
	——-///-——	EM-EEF 1.6-3C	(PF22)
	——-//\-——	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)
	——-\-——	EM-EEF 1.6-3C(1E)	(PF22)
	——-2.0-——	EM-EEF 2.0-3C	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

貫通穴はコンセント共用とする。

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

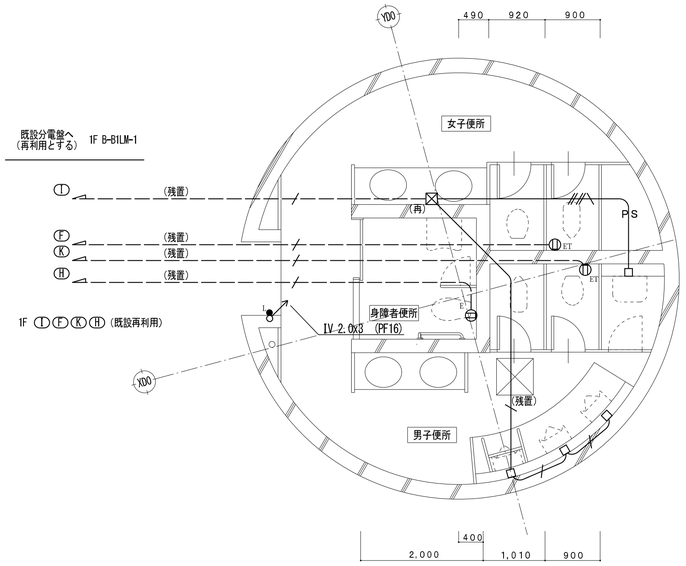
配管配線種別

- ———————— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——-——-—— 天井内ころがし配線工事
- ———————— 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- ——-·-——-·-—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	

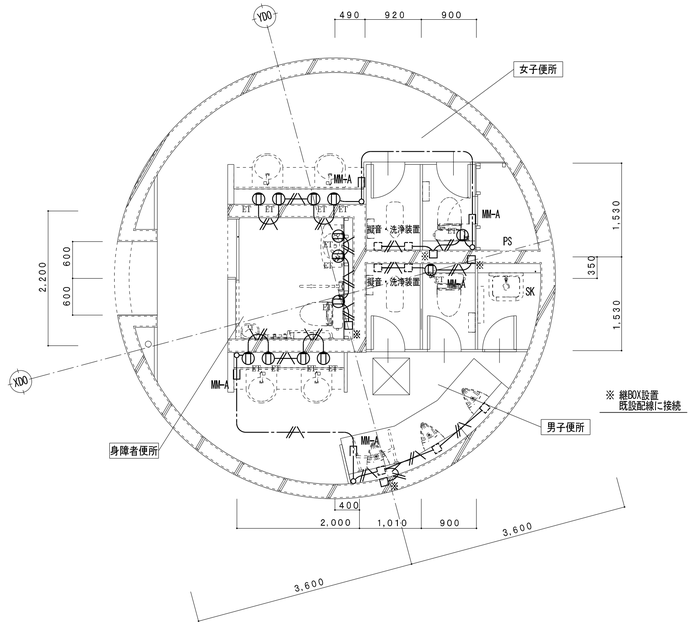
工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事		図面No. E-04
図面名称	B0　電灯設備　2階平面詳細図（改修前・改修後）	S = 1/50	設計日 2024年3月

改修前



B0 1階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



B0 1階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
ⓘ E	埋込型コンセント（接地極付）	2P15Ax1
ⓘ ET	埋込型スイッチ（接地端子付）	2P15Ax1
□	アウトレットボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	——·——·——	VVF 2.0-3C	(PF22)
	——·//^—·——	VVF 2.0-3C(1E)	(PF22)
	——·^—·——	IV 2.0x2 E2.0	(PF16)
	——·//—·——	IV 2.0x2	(PF16)
	——·///—·——	IV 2.0x3	(PF16)
	——//^—·——	IV 2.0x4 E2.0	(PF22)
	——·/—·——	IV 1.6x5	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——·——·—— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- ——··——··—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称	
ⓘ ET	埋込型スイッチ（接地端子付）	2P15Ax1
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
□	アウトレットボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	——·//^—·——	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

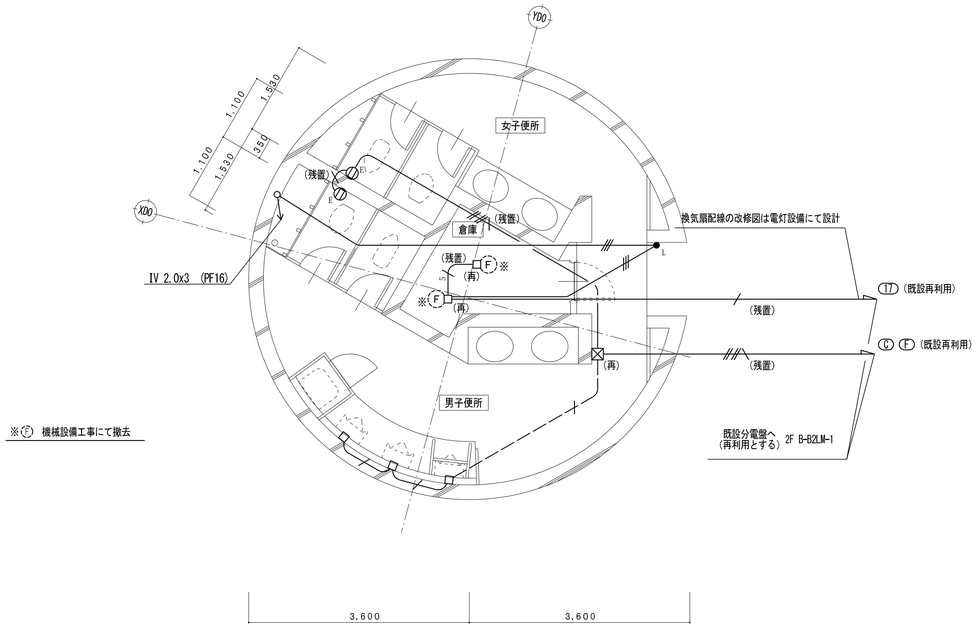
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——·——·—— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- ——··——··—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

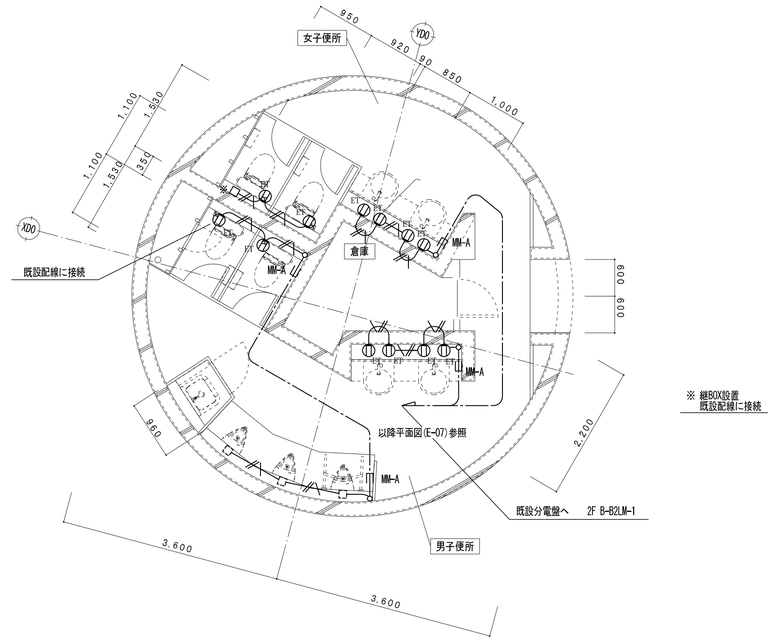
令和6年 3月 日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	
工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事					図面No.	E-05
図面名称	B0 コンセント設備 1階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50					設計日	2024年3月

改修前



B0 2階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



B0 2階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
(E)	埋込型コンセント（接地極付）	2P15Ax1
(ET)	埋込型スイッチ（接地端子付）	2P15Ax1
□	アウトレットボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	——·——·——	VVF 2.0-3C	(PF22)
	——·//—·——	VVF 2.0-3C(1E)	(PF22)
	——·—·——	IV 2.0x2 E2.0	(PF16)
	——·//—·——	IV 2.0x2	(PF16)
	——·///—·——	IV 2.0x3	(PF16)
	——//—·——	IV 2.0x4 E2.0	(PF22)
	——·—/—·——	IV 1.6x5	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——·——·—— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- ——··——··—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称	
(ET)	埋込型スイッチ（接地端子付）	2P15Ax1
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
□	アウトレットボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	——·//—·——	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

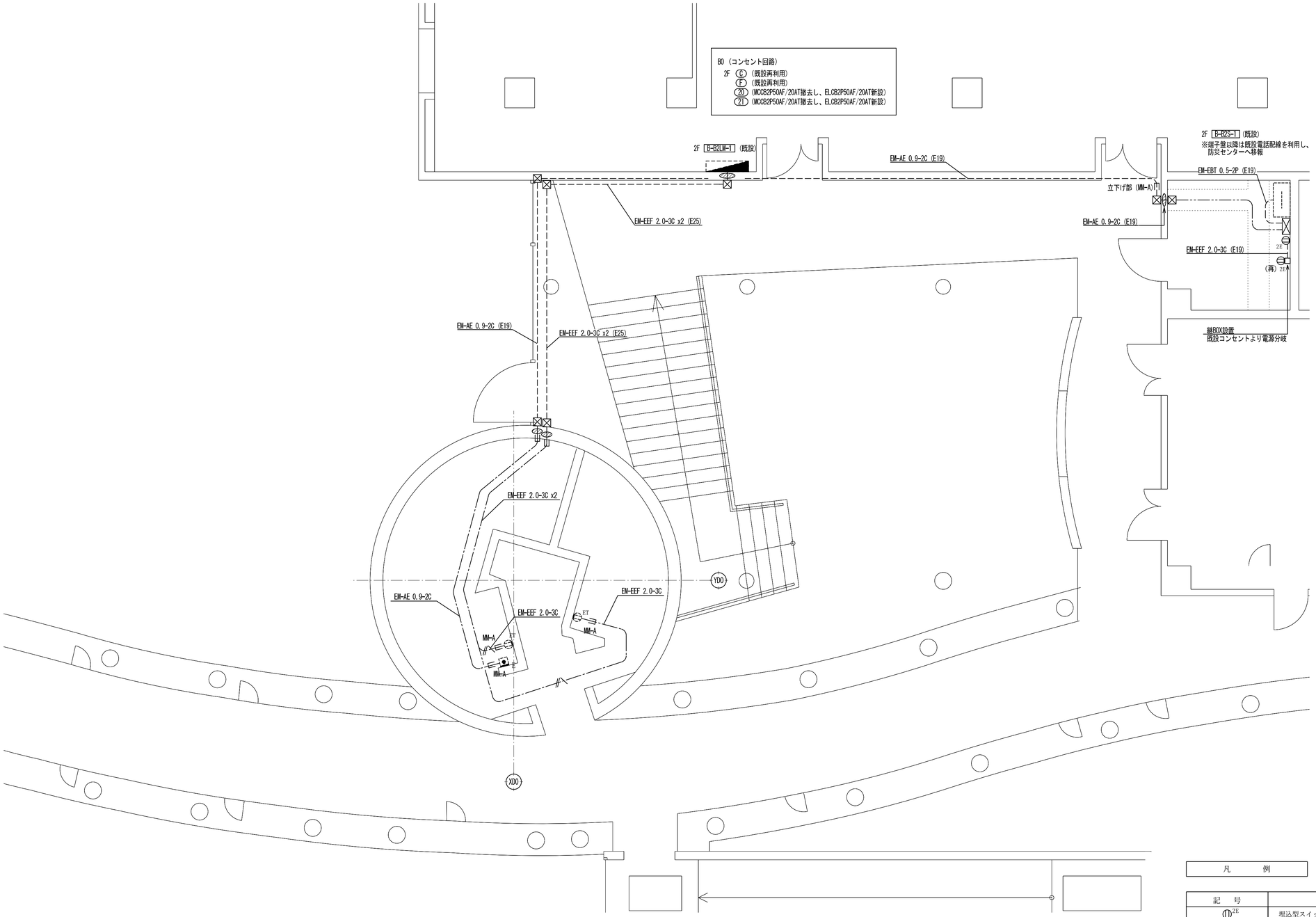
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——·——·—— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- ——··——··—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和6年 3月 日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	
工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事					図面No.	E-06
図面名称	B0 コンセント設備 2階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50					設計日	2024年3月

改修後



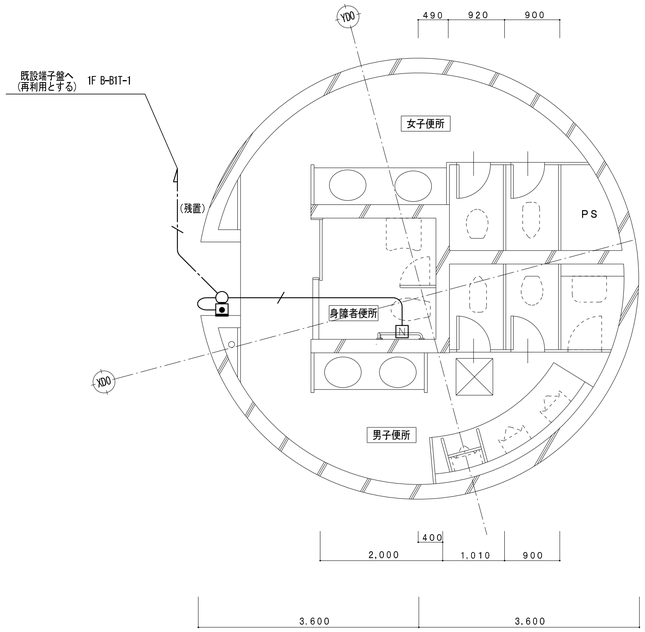
B0 2階平面図（改修後） S = 1/50

凡　　例

記　号	名　　称
2E	埋込型スイッチ（接地極付） 2P15Aｘ2
	緊急通報装置
	プルボックス　鋼板製　150×150×150
	電灯分電盤(既設)
	弱電端子盤(既設)
	天井内ころがし配線工事
	露出配管工事
	ﾀｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事
	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）
（再）	取外し再取付を示す

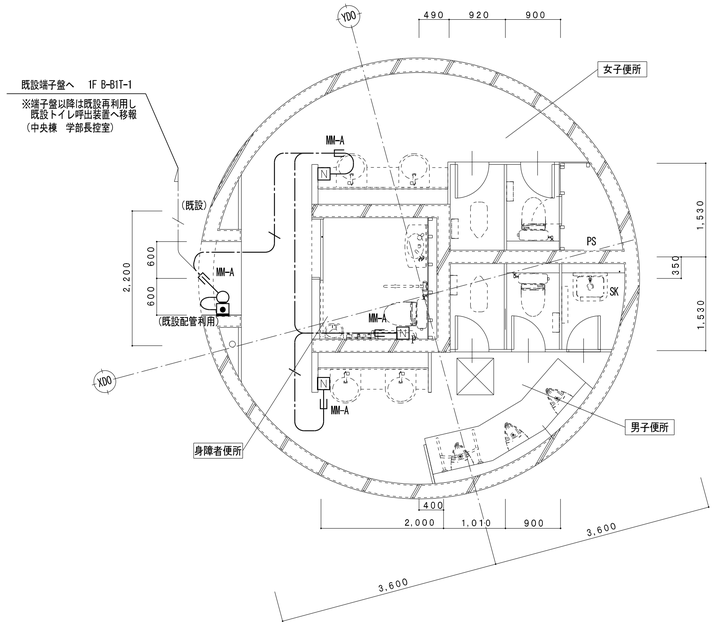
令和6年 3月 日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. E-07
							図面名称	B0 コンセント・トイレ呼出設備 2階平面図（改修後） S = 1/50	設計日 2024年3月

改修前



B0 1階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



B0 1階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　　例

記　号	名　　称
N	トイレ用呼出押しボタン
◯	廊下灯
◉	復旧ボタン
□	アウトレットボックス
▭	弱電端子盤

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。		保護管
呼　出　回　路	——·——·—— AE 1.2−2C	(PF16)
	——·—/—·—— AE 1.2−3C	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——·——·—— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- ——··——··—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　　例

記　号	名　　称
N	トイレ用呼出押しボタン
N_P	トイレ用呼出押しボタン　ひも付き
◯	廊下灯
◉	復旧ボタン
$◉_E$	通報用ボタン

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。		保護管
呼　出　回　路	——·——·—— EM-AE 1.2−2C	(PF16)
	——·—/—·—— EM-AE 1.2−3C	(PF16)
	——·—//—·—— EM-AE 0.9−2C	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

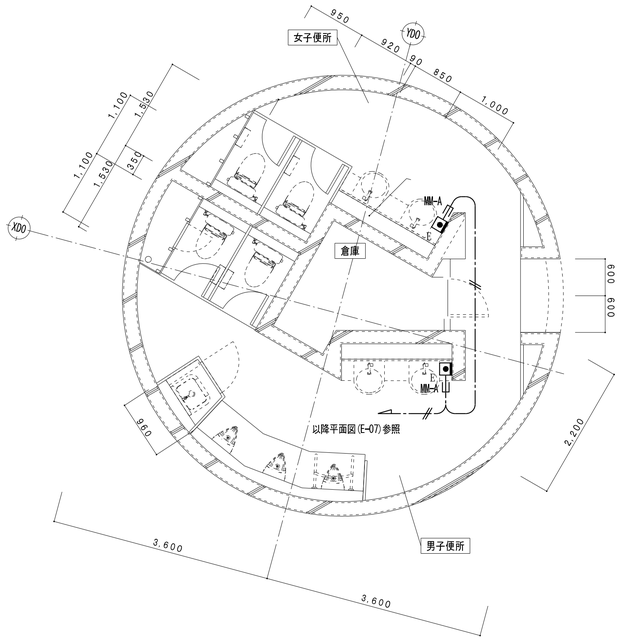
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——·——·—— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- ——··——··—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和6年 3月 日	滋賀県立大学財務課					
		株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No.	E-08
			図面名称	B0 弱電設備 1階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日	2024年3月

改修後



B0 2階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　　例

記　号	名　　称
N	トイレ用呼出押しボタン
N P	トイレ用呼出押しボタン　ひも付き
	廊下灯
	復旧ボタン
E	通報用ボタン
	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
呼　出　回　路	——-——-——	EM-AE 1.2－2C	(PF16)
	——-／—-——	EM-AE 1.2－3C	(PF16)
	——-／／—-——	EM-AE 0.9－2C	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

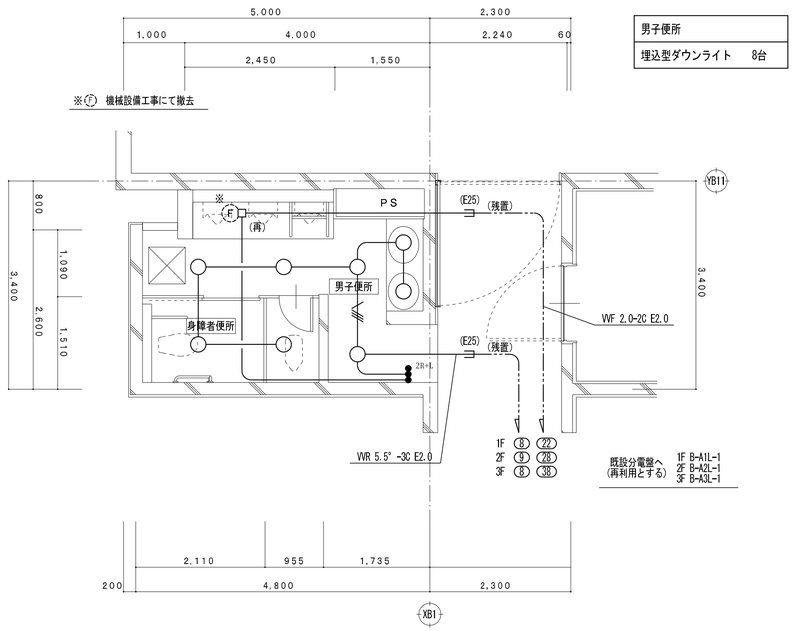
———————　天井内隠蔽配管配線工事　——-——-——　天井内ころがし配線工事

－－－－－－－　床内隠蔽配管配線工事　- - - - - - - - - - - - - - -　露出配管工事

——--——--——　ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

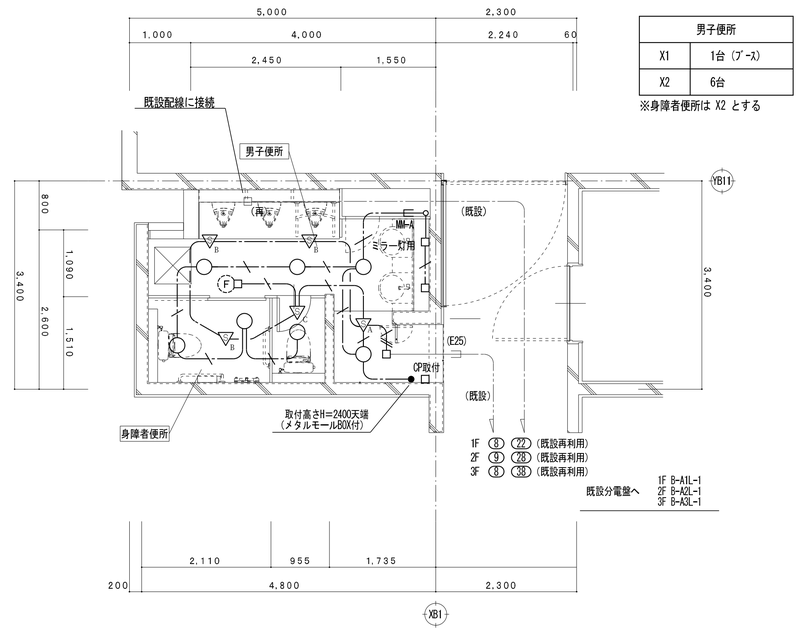
令和6年 3月 日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No.	E-09
							図面名称	B0 弱電設備 2階平面詳細図（改修後） S = 1/50	設計日	2024年3月

改修前



B4 1,2,3階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



B4 1,2,3階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
●R	リモコンスイッチ	1P15Ax1
2R+L	リモコンスイッチ	2P15Ax1
	確認表示灯付きスイッチ	1P15Ax1
□	アウトレットボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	—·—·—	VV-F 1.6-2C	(PF16)
	—//—·—	VV-F 1.6-2C x2	(PF28)
	—·//—·—	VV-F 1.6-3C	(PF22)
	—·—2.0—	VV-F 2.0-2C	(PF22)
	—·//2.0—	VV-F 2.0-3C	(PF22)
	—//\—·—	VV-F 2.0-3C(1E)	(PF22)
	—//\—·—	VV-F 2.0-3C E2.0	(PF28)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

———— 天井内隠蔽配管配線工事　—·—·— 天井内ころがし配線工事

— — — — 床内隠蔽配管配線工事　····· 露出配管工事

—··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称	
●	埋込型スイッチ	1P15Ax1 ネーム付
●L	確認表示灯付き埋込型スイッチ	1P15Ax1 ネーム付
▽A	天井付熱線センサ付自動スイッチ	親機・8Aタイプ・広角形
▽B	天井付熱線センサ付自動スイッチ	子機
▽C	天井付熱線センサ付自動スイッチ	子機・換気扇連動用・3系統連動形
□CP取付	カバープレート取付	
□	アウトレットボックス	
◪	電灯分電盤	
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	—·—·—	EM-EEF 1.6-2C	(PF16)
	—·//—·—	EM-EEF 1.6-3C	(PF22)
	—//\—·—	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)
	—·\—·—	EM-EEF 1.6-3C(1E)	(PF22)
	—·2.0—·—	EM-EEF 2.0-3C	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

貫通穴はコンセント共用とする。

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

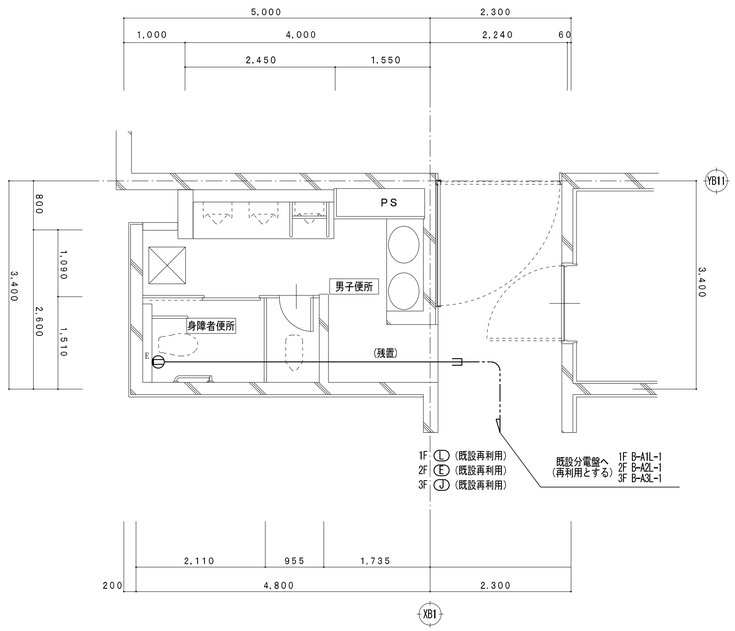
———— 天井内隠蔽配管配線工事　—·—·— 天井内ころがし配線工事

— — — — 床内隠蔽配管配線工事　····· 露出配管工事

—··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

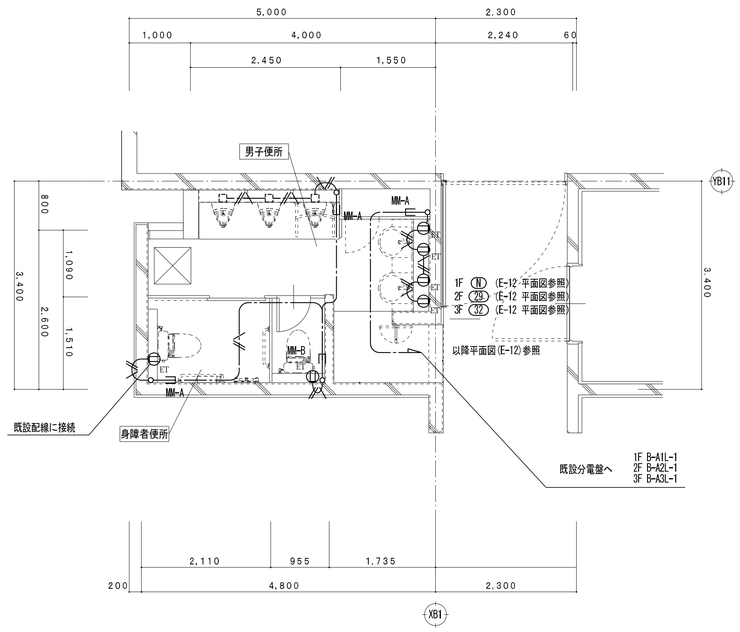
令和6年 3月 日	滋賀県立大学財務課				
株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No.	E-10	
	図面名称	B4 電灯設備 1,2,3階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日	2024年3月	

改修前



B4 1,2,3階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



B4 1,2,3階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称
(E)	埋込型コンセント（接地極付）　2P15Ax1
(ET)	埋込型スイッチ（接地端子付）　2P15Ax1
□	アウトレットボックス
◪	電灯分電盤
(再)	取外し再取付を示す

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差込回路	——·——·——	VVF 2.0-3C	(PF22)
	——·//\·——	VVF 2.0-3C(1E)	(PF22)
	——·\·——	IV 2.0x2 E2.0	(PF16)
	——·//·——	IV 2.0x2	(PF16)
	——·///·——	IV 2.0x3	(PF16)
	——//\·——	IV 2.0x4 E2.0	(PF22)
	——·/·——	IV 1.6x5	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

————	天井内隠蔽配管配線工事	——·——·——	天井内ころがし配線工事
— — — —	床内隠蔽配管配線工事	·····	露出配管工事
——··——··——	ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事		

凡　例

記　号	名　称
(ET)	埋込型スイッチ（接地端子付）　2P15Ax1
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）
□	アウトレットボックス
◪	電灯分電盤
(再)	取外し再取付を示す

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差込回路	——·//\·——	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

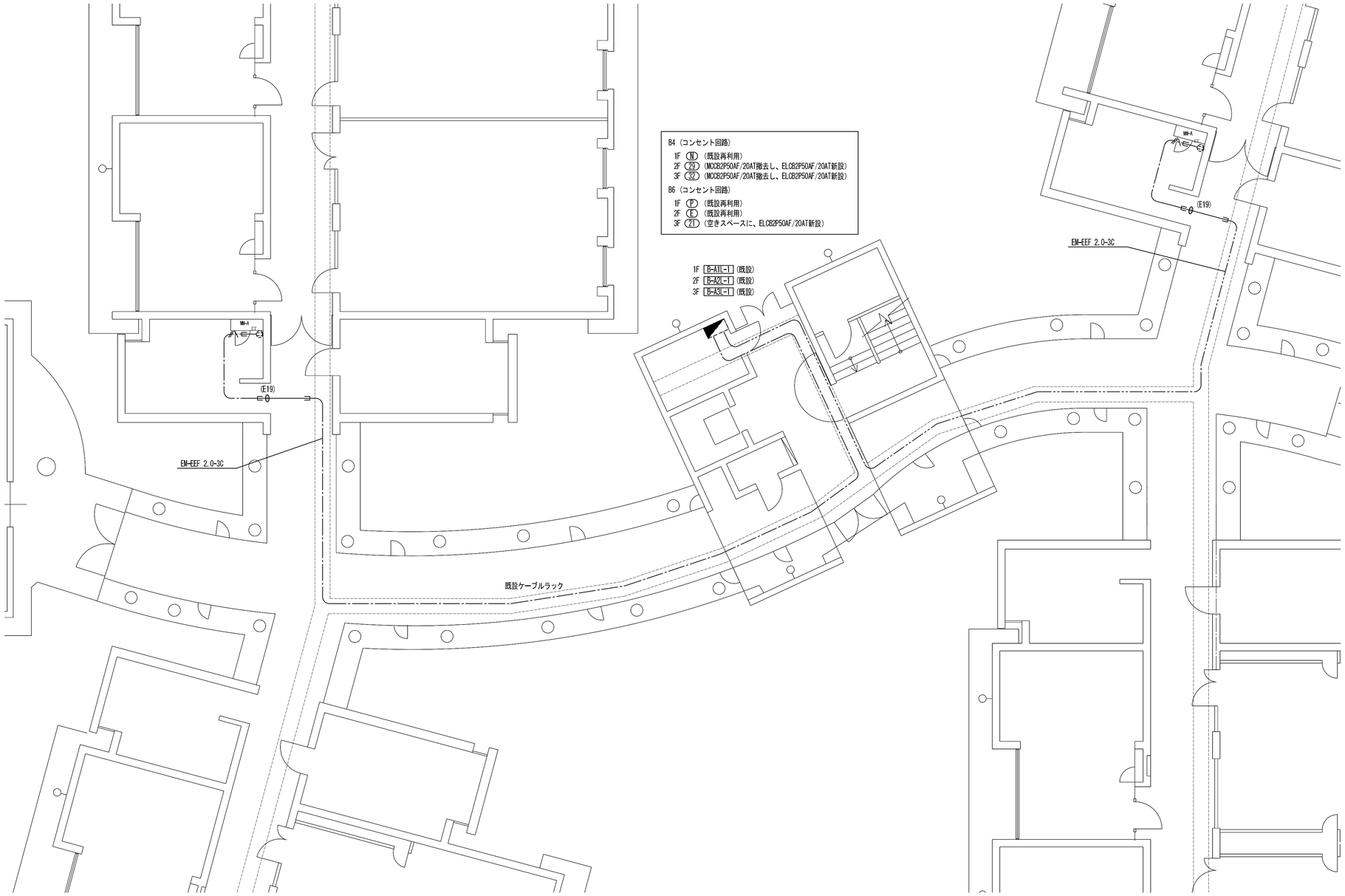
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

————	天井内隠蔽配管配線工事	——·——·——	天井内ころがし配線工事
— — — —	床内隠蔽配管配線工事	·····	露出配管工事
——··——··——	ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事		

令和6年 3月 日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. E-11
							図面名称	B4 コンセント設備 1,2,3階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2024年3月

改修後



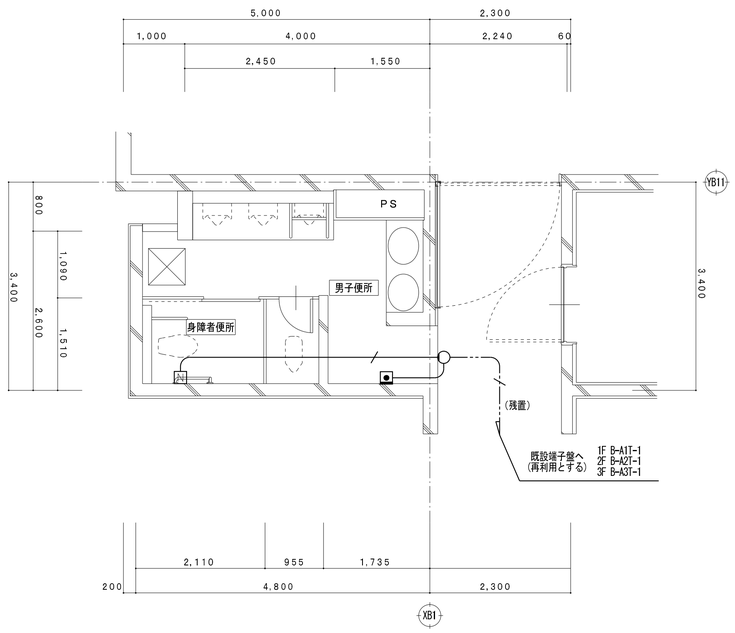
B3,4,5,6　1,2,3階平面詳細図（改修後）　S = 1/75

凡　　例

記　号	名　　称
	電灯分電盤(既設)
	天井内ころがし配線
	ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ上配線
	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）

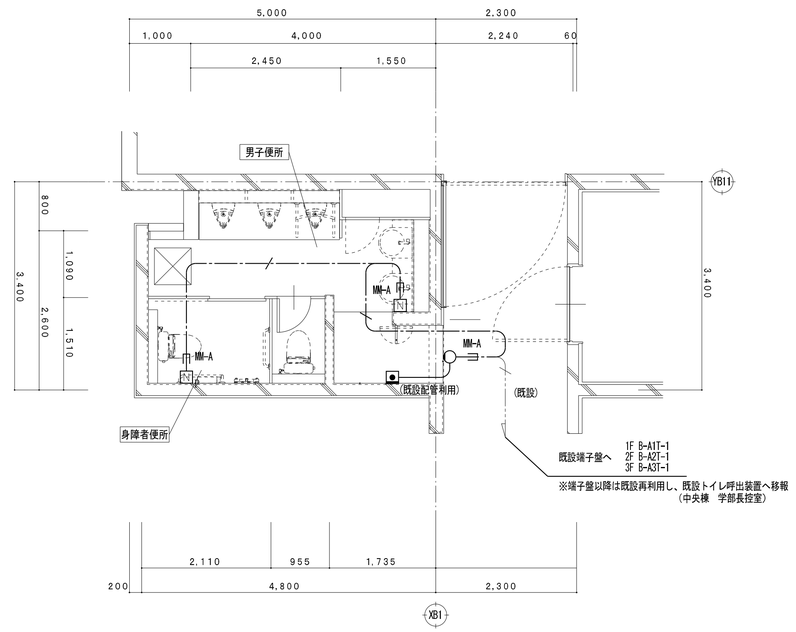
令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No.	E-12
							図面名称	B4,B6　コンセント設備　1,2,3階平面図（改修後）」　S = 1/75	設計日	2024年3月

改修前



B4 1,2,3階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



B4 1,2,3階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称
N	トイレ用呼出押しボタン
○	廊下灯
●	復旧ボタン
□	アウトレットボックス
▭	弱電端子盤

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。		保護管
呼　出　回　路	——·——·—— AE 1.2−2C	(PF16)
	——·—/—·—— AE 1.2−3C	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——·——·—— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- ——··——··—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称
N	トイレ用呼出押しボタン
N_P	トイレ用呼出押しボタン　ひも付き
○	廊下灯
●	復旧ボタン
$●_E$	通報用ボタン

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。		保護管
呼　出　回　路	——·——·—— EM-AE 1.2−2C	(PF16)
	——·—/—·—— EM-AE 1.2−3C	(PF16)
	——·—//—·—— EM-AE 0.9−2C	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

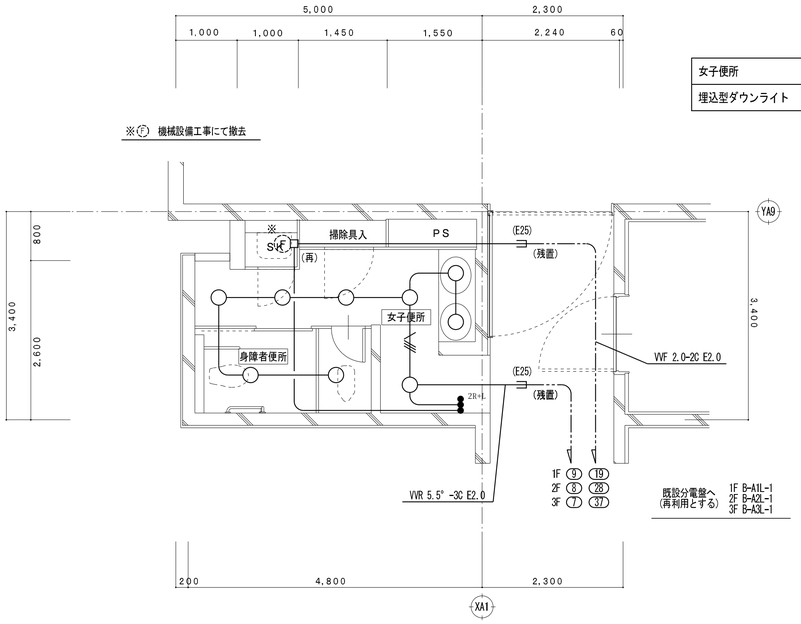
- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——·——·—— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- ——··——··—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. E-13
図面名称	B4 弱電設備 1,2,3階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2024年3月

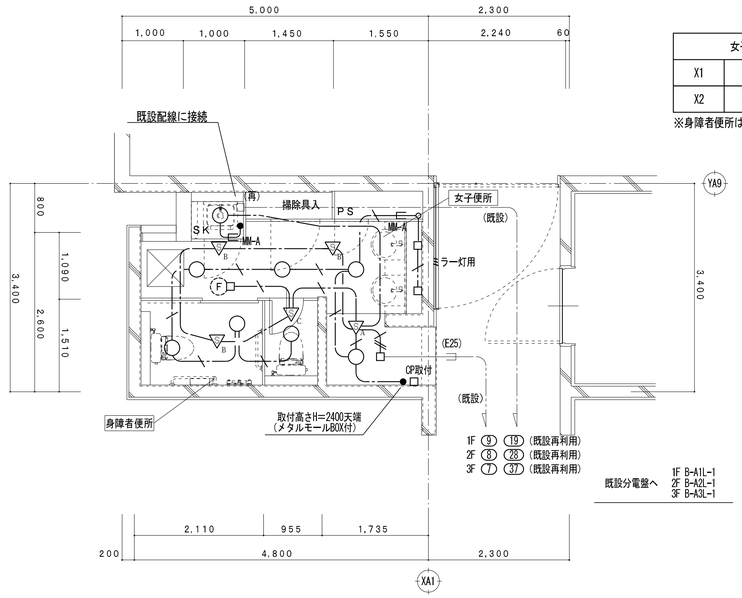
改修前



女子便所	
埋込型ダウンライト	9台

B6 1,2,3階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



女子便所	
X1	1台（ﾌﾞｰｽ）
X2	6台

※身障者便所は X2 とする

B6 1,2,3階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
●R	リモコンスイッチ	1P15Ax1
●2R+L	リモコンスイッチ	2P15Ax1
	確認表示灯付きスイッチ	1P15Ax1
□	アウトレットボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	——-——-——	VV-F 1.6-2C	(PF16)
	——-//-//-——	VV-F 1.6-2C x2	(PF28)
	——-///——-——	VV-F 1.6-3C	(PF22)
	——-2.0——-——	VV-F 2.0-2C	(PF22)
	——-///2.0——-——	VV-F 2.0-3C	(PF22)
	——-//\——-——	VV-F 2.0-3C(1E)	(PF22)
	——-///\——-——	VV-F 2.0-3C E2.0	(PF28)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- ———————— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——-——-—— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- ——-·-——-·-—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称	
●	埋込型スイッチ	1P15Ax1　ネーム付
●L	確認表示灯付き埋込型スイッチ	1P15Ax1　ネーム付
▽A	天井付熱線センサ自動スイッチ　親機・8Aタイプ・広角形	
▽B	天井付熱線センサ付自動スイッチ　子機	
▽C	天井付熱線センサ付自動スイッチ　子機・換気扇連動用・3系統連動形	
□CP取付	カバープレート取付	
□	アウトレットボックス	
◪	電灯分電盤	
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	——-——-——	EM-EEF 1.6-2C	(PF16)
	——-//-//-——	EM-EEF 1.6-3C	(PF22)
	——-//\——-——	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)
	——-\——-——	EM-EEF 1.6-3C(1E)	(PF22)
	——-2.0——-——	EM-EEF 2.0-3C	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

貫通穴はコンセント共用とする。

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

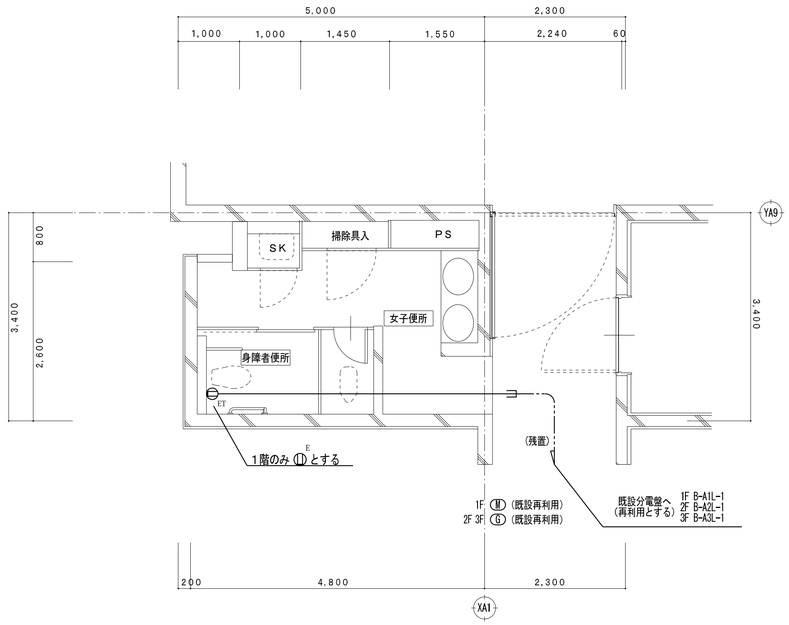
- ———————— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——-——-—— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- ——-·-——-·-—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和6年 3月 日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

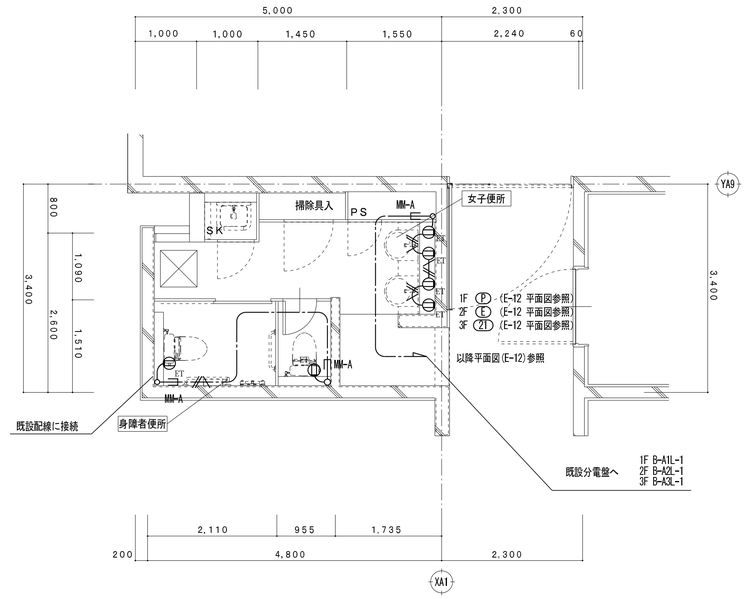
工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. E-14
図面名称	B6 電灯設備 1,2,3階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2024年3月

改修前



B6 1,2,3階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



B6 1,2,3階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
E	埋込型コンセント（接地極付）	2P15Ax1
ET	埋込型スイッチ（接地端子付）	2P15Ax1
□	アウトレットボックス	
	電灯分電盤	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。

差 込 回 路	—·—·—	VVF 2.0-3C	(PF22)
	—·//—·—	VVF 2.0-3C(1E)	(PF22)
	—·—·—	IV 2.0x2 E2.0	(PF16)
	—·//—·—	IV 2.0x2	(PF16)
	—·///—·—	IV 2.0x3	(PF16)
	—///—·—	IV 2.0x4 E2.0	(PF22)
	—·—/—·—	IV 1.6x5	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- —·—·— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称	
ET	埋込型スイッチ（接地端子付）	2P15Ax1
	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
□	アウトレットボックス	
	電灯分電盤	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。

差 込 回 路	—·//—·—	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

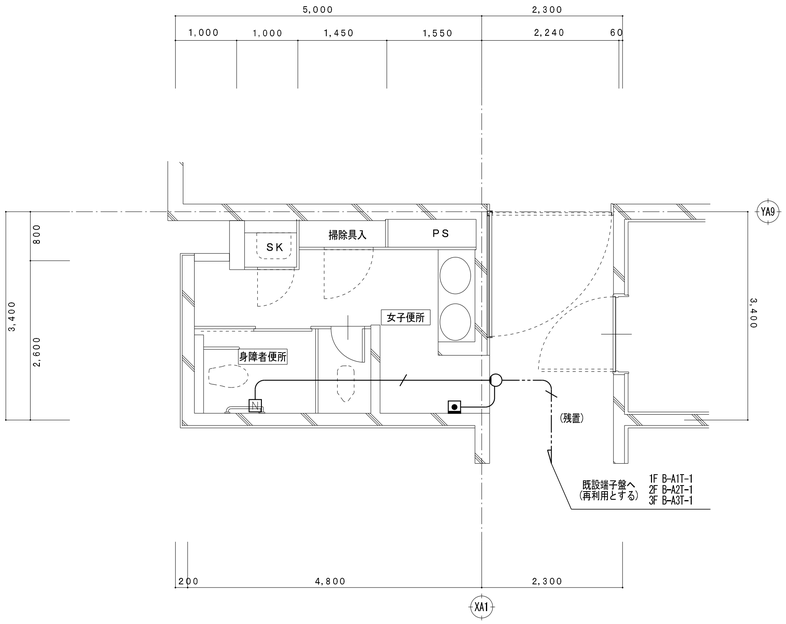
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- —·—·— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

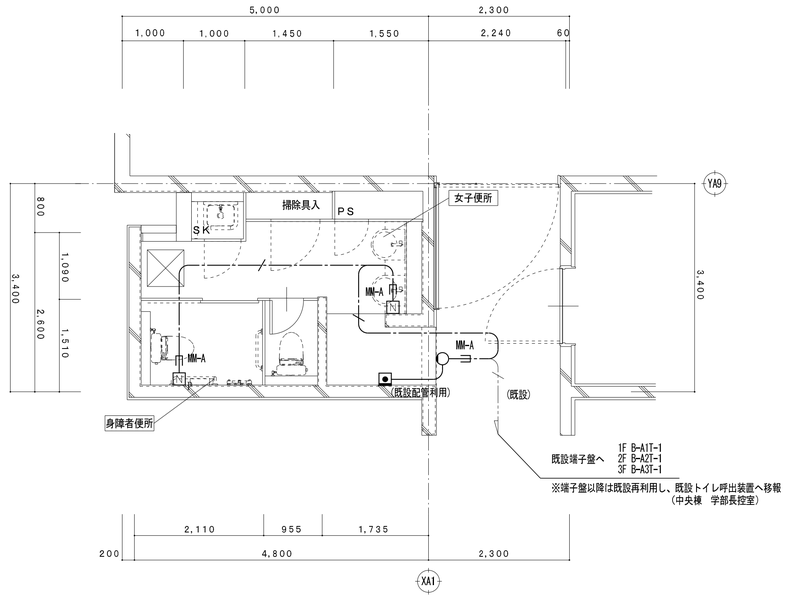
令和6年 3月 日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称 滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事
			図面名称 B6 コンセント設備 1,2,3階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50
			図面No. E-15
			設計日 2024年3月

改修前



B6 1,2,3階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



B6 1,2,3階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称
N	トイレ用呼出押しボタン
◯	廊下灯
◉	復旧ボタン
□	アウトレットボックス
▭	弱電端子盤

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。		保護管
呼　出　回　路	——·——·—— AE 1.2−2C	(PF16)
	——·／—·—— AE 1.2−3C	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

——————— 天井内隠蔽配管配線工事　——·——·—— 天井内ころがし配線工事

— — — — — — 床内隠蔽配管配線工事　····· 露出配管工事

——··——··—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称
N	トイレ用呼出押しボタン
Np	トイレ用呼出押しボタン　ひも付き
◯	廊下灯
◉	復旧ボタン
◉E	通報用ボタン

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。		保護管
呼　出　回　路	——·——·—— EM-AE 1.2−2C	(PF16)
	——·／—·—— EM-AE 1.2−3C	(PF16)
	——·／／—·—— EM-AE 0.9−2C	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

——————— 天井内隠蔽配管配線工事　——·——·—— 天井内ころがし配線工事

— — — — — — 床内隠蔽配管配線工事　····· 露出配管工事

——··——··—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和6年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学B棟トイレ改修後期工事	図面No. E-16
図面名称	B6 弱電設備 1,2,3階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2024年3月

共通　特記仕様書1

Ⅰ 工事概要

工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事
工事場所	滋賀県彦根市八坂町2500　　敷地面積　303.260　㎡
用途規制	第1種低層　第2種低層　[第1種中高層]　第2種中高層　第1種住居　第2種住居 準住居　近隣商業　商業準工業　工業　工業専用　指定なし
防火規制	防火地域　準防火地域　[法22条指定区域]　指定なし
その他の規制	風致地区　自然公園　宅造規制区域　市街化区域　市街化調整区域 風速 Vo（　34）m／sec　地表面粗度区分（ Ⅲ ） ・多雪区域　垂直積雪量（　0）cm
工事期間	契約日から　150日間　令和 ○年 ○月 ○日まで
工事種目	新築　増築　[改修]　解体　改築

NO	名称	工種	構造	床面積(㎡) 1階	2階	3階		延面積	備考
1	人間文化学部 D1棟	改修	RC						2階男女便所
									3階男女便所、身障者便所、ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ
2	人間文化学部 D2棟	改修	RC						1階男女便所、身障者便所、ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ
3	人間文化学部 D6棟	改修	RC						1階男女便所
	計								

概要説明
本工事は滋賀県立大学の「人間文化学部　D1棟」「人間文化学部　D2棟」「人間文化学部　D6棟」にある便所の改修を行う。
上記に付随する電気設備、機械設備も本工事とする。

指定部分
本工事における契約約款第38条に定める指定部分は次のとおりとする。

指定部分	引渡し時期

別途工事

Ⅱ 建築工事仕様

1 図面および特記仕様書に記載されていない事項は、すべて①の標仕類によるものとし、②の監理指針を参考とする。
① 標仕類　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書　令和４年版（以下「標仕」という。）」、「公共建築改修工事標準仕様書　令和４年版（以下「改修標仕」という。）」、「公共建築木造工事標準仕様書　令和４年版（以下「木造標仕」という。）」、「建築物解体工事共通仕様書（令和４年版）・同解説　令和５年版（以下「解体共仕」という。）」および国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修「公共建築設備工事標準図　令和４年版（以下「標準図」という。）」
② 監理指針　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事監理指針　令和4年版」、「建築改修工事監理指針　令和4年版」、「電気設備工事監理指針　令和4年版」および「機械設備工事監理指針　令和4年版」

2 特記仕様
1　項目は番号に ○ 印のついたものを適用する。
2　特記事項は　⊙ 印のついたものを適用する。
⊙ 印のない場合は ※ 印のあるものを適用する。
⊙ 印と ㊟ 印のある場合はともに適用する。
3　特記事項に記載の（　）内表示番号は、標仕の当該項目、当該表、当該図を示す。
特記事項に記載の［　］内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該表、当該図を示す。
特記事項の記載の【　】内表示番号は、木造標仕の当該項目、当該表、当該図を示す。
特記事項の記載の《　》内表示番号は、解体共仕の当該項目、当該表、当該図を示す。

章 ① 一般共通事項

①.施工基準
本工事は、滋賀県建設工事執行規則に基づき、工事請負契約書及び同約款を遵守し、本特記仕様書を含む図面　14　葉、標仕により完全に施工する。
上記相互間に相違のある場合の優先順位は、記載の順序とする。

②.完成図
完成図の種類、記入内容および様式は標仕により作成し、ＣＡＤデータおよび焼付製本（縮小版Ａ４サイズ）　部を提出するものとする。

③.保全に関する資料
保全に関する資料は標仕により作成し、監督職員に指示された必要部数の原本、複写図および電子データを提出するものとする。なお、作成に際しては、国土交通省作成の「建築物等の利用に関する説明書作成の手引き」を参考とし、詳細については監督職員の指示による。

④.工事写真
工事管理写真はカラーとし、その内容が明確に判別できるものとする。デジタル写真とする場合、使用するデジタルカメラの総画素数は200万画素以上、記録画素数は640×480画素以上とする。

区分	分類・規格	撮影箇所	部数	備考
着工前	サービス版	・4　・9　⊙30	1	状況によりつなぎ写真
工事中	サービス版		1	適宜,ｱｽﾍﾞｽﾄ撤去は工程毎
完成時	サービス版	・　⊙9　・12	3	完了届提出用
定期提出	サービス版	※3　・6　・9	1	工事月報用
竣工写真	⊙サービス版	・　・5　⊙7	2	主として外観
	サービス版	・　⊙10　・20	2	主として内観
	竣工写真については、銀版写真の場合はネガ、デジタル写真の場合はファイル形式をＪＰＥＧとし、ＤＶＤ-ＲＯＭにて提出すること。			

工事写真の撮影要領は、「営繕工事写真撮影要領（平成28年版）による工事写真撮影ガイドブック（建築工事編及び解体工事編、電気設備工事編、機械設備工事編）(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)による。
完成写真の撮影場所は監督職員の指示による。サービス版は工事写真帳に貼り付けて提出すること。

⑤.技術検査
工事施工途中において、適宜中間技術検査を行う。

⑥.現場代理人
原則として、現場代理人は他の工事と重複して従事することはできない。
契約約款第10条第3項の規定に基づく現場代理人の常駐義務を緩和する期間および本工事における現場代理人が他の工事の現場代理人を兼務できる条件は、別に定める「現場代理人の常駐に関する運用基準（滋賀県土木交通部）」による。
① 現場代理人の常駐を要しない期間
・請負契約の締結の日の翌日から令和　　年　　月　　日までの期間については、現場代理人の工事現場への常駐は要しない。
※請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、現場代理人の工事現場への常駐を要しない。
なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。
② 工事が完成し、事務手続き、後片付け等のみが残っているなど、工事現場において作業等が行われていない期間については、現場代理人の工事現場への常駐を要しない。
現場代理人は、受注者との直接的な雇用関係が確認できる資料を監督職員に提出すること。

⑦.技術管理
受注者は、建設業法に定める専任の技術者の任命を行い、現場に派遣し技術管理にあたらせること。
① 技術者の専任を要しない期間
・請負契約の締結の日の翌日から令和　　年　　月　　日までの期間については、主任技術者または監理技術者の工事現場への専任は要しない。
※請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。
② 滋賀県建設工事請負契約約款（以下「契約約款」という）第31条第2項の規定に基づく検査を完了した日から契約期間満了までの期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。
なお、検査を完了した日とは、発注者が契約約款第31条第2項に基づく当該検査の結果を通知した日（契約約款第31条第6項に該当するものを含む）とする。
また、日程の都合上、契約工期満了後に検査が行われる場合は、契約工期満了後の監理技術者等の工事現場への専任を要しない。

8.技能士
各工種の作業については、極力技能士の資格を有する者に作業をあたらせること。
また、受注者は、○印のついた工事種別および技能検定の職種について、職業能力開発促進法による一級技能士または単一等級の資格を有する者を、１職種１名以上該当工事作業中工事現場（資材製作加工の場合は製作所）に常勤させるとともに、作業に先立ち事前にその氏名等を監督職員に届け出なければならない。
・ 仮設工事(とび)　・ 鉄筋工事(鉄筋組立て)　・ ｺﾝｸﾘｰﾄ工事(・ 型枠工事 ・ ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事)
・ 鉄骨工事(構造物鉄工)　・ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ/ALCﾊﾟﾈﾙ工事(・ CB工事 ・ ALCﾊﾟﾈﾙ工事)
・ 防水工事(・ ｱｽﾌｧﾙﾄ防水 ・ ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水 ・ ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水 ・ 合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水 ・ 塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水・ ｾﾒﾝﾄ系防水 ・ ｼｰﾘﾝｸﾞ防水 ・ 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ工法防水 ・ FRP防水)
・ 石工事(石張り)　・ ﾀｲﾙ工事(ﾀｲﾙ張り)　・ 木工事(大工工事)
・ 屋根及びとい工事(・内外装板金 ・ｽﾚｰﾄ工事)　・ 金属工事(・鋼製下地工事 ・内外装板金)
・ 左官工事（左官）・ 建具工事(・ ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工 ・ ｶﾞﾗｽ工事 ・ 自動ﾄﾞｱ施工)
・ ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事(・金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事 ・ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工 ・ ｶﾞﾗｽ工事)
・ 塗装工事(建築塗装)　・ 内装工事(・ ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上工事 ・ ｶｰﾍﾟｯﾄ系床仕上 ・ ﾎﾞｰﾄﾞ仕上工事 ・壁装)
・ 排水工事(建築配管)　・舗装工事（・ 溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事 ・ 加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ工事）
・ 植栽工事(造園工事)　・ 外壁改修工事(樹脂接着剤注入施工)
・ ダクト板金作業（建築板金）　・ 冷凍空気調和機器施工作業（冷凍空気調和機器施工）
・ 建築配管作業（配管）　・ 保温保冷工事作業または熱絶縁工事作業（熱絶縁施工）

⑨.建築材料等
建築材料等は、極力県内産品を選定することとし、製品等は特記されたものまたは同等品以上とする。
ただし、同等品以上とする場合は監督職員の承諾を受けること。
工事で使用する各種塗料類、接着剤類、その他の材料のホルムアルデヒド放散量はＦ☆☆☆☆とする。
あわせて、その他室内空気汚染（揮発性有機化合物）対策として、その原因となる物質の含有量が低濃度である材料を極力選定する。（標仕を参考とすること。）
さらに、環境配慮の視点から、以下の材料の利用に努めること。
(1) グリーン購入法に基づくエコマーク商品
(2) 建設リサイクル法により再資源化されたリサイクル製品、材料
(3) 滋賀県リサイクル製品認定制度に基づく滋賀県リサイクル製品
（参考URL https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kankyoshizen/haikibutsu/13431.html）
工事に使用する材料は、アスベストを含有しないものとすること。
製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（林野庁　平成18年2月15日）に準拠した証明書を、監督職員に提出すること。

⑩.材料の検査に伴う試験
試験は、原則として公的試験場で行うものとし、その場所の決定にあたっては監督職員の承諾を受けること。

⑪.特殊な材料の工法
標仕に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。

⑫.各種検査合格書等
各種検査を必要とするもの、責任施工のもの等は、各合格書又は保証書およびその写し各１部を提出すること。
なお、責任施工のものは、受注契約者・施工下請業者・材料製造所の連名書とする。

⑬.設備工事との取合
各設備工事によるコンクリート部分の梁、壁、床の貫通補強及び仕上げ部分、軽量鉄骨天井下地、同壁下地の開口補強は建築工事とする。その他、工事区分表による。

⑭.下請け業者の選定
各種下請業者、製造所等県下で供給出来るものについては、極力県内業者を選定すること。

⑮.公害対策
工事着手前に付近の状況を調査し、騒音、振動、塵埃の発生、土壌汚染、排水汚染等公害発生のなきよう、工事竣工まで万全の対策を講ずること。

⑯.産業廃棄物の処理
※受注者は、産業廃棄物を適正に処理するにあたり、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）、資源の有効な利用の促進に関する法律（資源有効利用促進法）、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（産業廃棄物処理法）その他関係法令等に基づくほか、建設副産物適正処理推進要綱を踏まえ、下記事項を含めて、施工計画書を作成し事前に監督職員に提出して承諾を受けること。また、適切に処理した後、監督職員に報告すること。
(1) 本工事に使用する特定建設資材（建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律施行令で定められた建築資材）および排出する特定建設資材廃棄物の分別解体および再資源化等を実施すること。
(2) 建設副産物の発生抑制および再利用の促進に努めること。
(3) 請負金額100万円以上の工事においては、再生資源利用［促進］計画書（「建設リサイクルガイドライン」、「建設リサイクル法第11条通知別表」対応版）を添付するとともに、実施後、同実施書を作成し速やかに報告すること。
(4) 産業廃棄物処理法第12条の３によるマニフェストシステムにより的確に実施すること。
※資源有効利用促進法において、再生資源利用［促進］計画書の作成対象となる工事の受注者は、当該計画書について、作成後、発注者に説明するとともに、工事現場の見やすい場所に掲示すること。

17.発生材の処理
引渡しを要するもの：

⑱.保険
受注者は工事の内容に応じた火災保険、建設工事保険等を工事目的物に付するものとする。

⑲.保険の付与及び事故の補償（法定外の労災保険の付保）
本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。

⑳.安全対策
※　工事車両の出入りについては、速度制限を厳守し、危険防止に努めること。また、必要に応じて交通整理員を配置するとともに、近隣家屋に騒音、振動等の公害が発生しないよう留意し、工事全般に万全の対策を講ずること。また、施設運営についても担当者と協議を行い、支障のないよう努めること。
※　別添仮設計画図・配置図等により示された仮設計画を参考に、受注者にて構造、施工方法について十分検討のうえ、関係法令に従い安全堅固に設置すること。

㉑.総括安全衛生管理義務者
労働安全衛生法第３０条第２項の総括安全衛生管理義務者には、（※建築工事　・ 電気設備工事　・ 機械設備工事）の受注者を指名する。

㉒.シンナー等の保管
シンナー等については、工事現場に放置することなく、保管を厳重に行い盗難を防止するとともに、保管数量についても、作業前、作業終了後の確認等確実な管理を行うものとする。

㉓.火気の管理
火元責任者を配すること。

㉔.過積載防止の措置
受注者は過積載等の違法運行防止を図るため、道路交通法を遵守する旨を記載した施工計画書を提出すること。

㉕.騒音振動の防止
受注者は、「低騒音・低振動型建設機械の指定に関する規程（平成13年国土交通省告示第487号）」に基づき指定された建設機械（'97ラベル）を使用すること。

㉖.CORINSへの登録
受注者は、受注時または変更時において工事請負代金額が500万円以上の工事について、工事実績情報システム（CORINS）に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として作成した「登録のための確認のお願い」をコリンズから監督職員にメール送信し、監督職員の確認を受けたうえ、標仕類の期間内（訂正時は適宜）に、登録機関に登録をしなければならない。
なお、変更登録時は、工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、工事請負代金のみ変更の場合は、原則として登録を必要としない。
また、変更時と工事完成時の間が10日間（土曜日、日曜日、祝日等を除く）に満たない場合は、変更時の登録申請を省略できる。

㉗.施工体制点検
「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」に従い、施工体制を講じること。

㉘.設計ＧＬ
※ 図示　・ 監督職員が現場にて決定する。 ⊙既設建築物ＦＬから導き出されるＧＬ

29.揮発性有機化合物の室内濃度測定
・ 測定する　　・ 測定しない

測定対象室及び箇所数	※　仕上表による　・　図示
測定対象物質	※　室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン スチレン、エチルベンゼン

※　測定はパッシブ型採取機器により行う。
測定対象物質の濃度を測定し、報告すること。

㉚.不法無線局の排除
受注者は電波法を遵守し、不法無線局を搭載した工事車両を使用しないものとし、工事現場において、不法無線局を搭載していると疑わしい車両を発見したときは、速やかに監督職員にその旨報告すること。

31.近隣住民等への説明
受注者は、施工に先立ち地元自治会、近隣住民等に工事施工内容の説明を行うこと。

32.近隣家屋の調査
受注者は、工事の着手前および完了後に、図示部分の近隣家屋・工作物等の調査を実施し、工事に起因する損傷等の有無を確認すること。万一、損傷等が生じた場合は受注者の責任において現状に復旧すること。また、受注者自ら必要と思われる図示以外の近隣家屋・工作物等についても調査を行うこと。

㉝.ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ
バリアフリー化にあたっては、「だれもが住みたくなる福祉滋賀のまちづくり条例」を遵守すること。

34.住宅性能評価
受注者は、「住宅の品質確保の促進等に関する法律」を遵守し、住宅性能評価書に示された品質を確保すること。

㉟.各種申請業務
工事に必要な各種申請業務は、受注者の責任において申請を行うこと。
許可申請・届出書等の変更が必要な場合は、本工事において手続きを行うこと。

㊱.暴力団員等による不当介入の排除
滋賀県の発注する建設工事等における暴力団員等による不当介入の排除について（「不当介入に関する通報制度」の徹底について）
1．受注者は、暴力団員等（暴力団の構成員および暴力団関係者、その他県発注工事等に対して不当介入をしようとするすべての者をいう。）による不当介入(不当な要求または業務の妨害）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うものとする。
2．受注者は、前項により通報を行った場合には、速やかにその内容を記載した通報書(別記様式第１号)により所轄警察署に届け出るとともに、監督職員に報告するものとする。
また、受注者は、以上のことについて、下請負人に対して十分に指導を行うものとする。
3．受注者は、暴力団員等による不当介入を受けたことが明らかになり、工程等に被害が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

37.環境配慮指針
公共建築に係る環境配慮指針実施要領に基づく、チェックシートを作成し提出しなければならない。

38.週休2日取組促進型工事の実施(発注者指定方式)
本工事は、受注者が工事着手前から工事完了日までのうち、非対象期間を除いた期間において4週8休以上の現場閉所に取組む事を指定する週休２日取組促進型工事(発注者指定方式)である。費用の計上等の運用にあたっては、「（営繕工事版）週休２日取組促進型工事実施要領」により行う。
４週８休以上の現場閉所（現場休息）を前提に労務費を補正して予定価格を作成しており、４週８休に満たない場合は、請負代金額のうち労務費補正分を減額変更する。
受注者が明らかに週休2日に取組む姿勢が見られず、発注者からの再三の指示に対しても従う意思が見られなかった場合は、実施状況に応じて工事成績を減ずる措置を行うものとする。
なお、本工事が単独発注の場合は「現場閉所」とし、分離発注工事の場合は「現場休息」とするものとする。
また、本工事が分離発注工事である場合、受注者は、分離発注工事である他工事の全ての受注者と協力し、工事の進捗に影響が出ないよう現場閉所（現場休息）の予定日等を調整したうえで「実施工程表」等を作成するものとする。

39.余裕期間制度 任意着手方式
1.本工事は、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間（契約締結日から工事開始日の前日までの期間）を設定した工事であり、発注者が示した工事開始期限日までの間で、受注者は工事開始日を任意に設定することができる。なお、受注者は、契約を締結するまでの間に、所定の様式により、工事開始日を通知すること。取り扱いについては、滋賀県ホームページ掲載の「工事における余裕期間制度実施要領（令和２年２月）（滋賀県）」および「建設工事における余裕期間制度 運用マニュアル（令和３年３月）（滋賀県土木交通部）」に基づくものとする。
滋賀県ホームページ
滋賀県＞事業者の方＞入札・売却・指定管理＞公共工事＞記事一覧「余裕期間制度について」
https://www.pref.shiga.lg.jp/zigyousya/nyusatsubaikyaku/kouzi/
2.余裕期間内は、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入、仮設物の設置等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。
3.余裕期間内は、主任技術者または監理技術者を配置することを要しない。また、現場代理人は工事現場に常駐しないものとする。
4.コリンズへ登録する技術者の従事期間は、実工期の範囲で従事する期間を登録するものとする。（余裕期間を含まないことに留意するものとする。）
5.受注者は工事開始日の前日までに現場代理人等を定め、所定の様式により届け出るものとする。
6.実工期：工事開始日から○○○日間
（ただし、令和○○年○○月○○日（工事開始期限日）までに工事を開始すること。）
契約締結後において、工事開始日の変更の必要が生じた場合は、監督職員と協議の上、工期に係る契約を変更することにより、工事開始日の変更をすることができる。なお、低入札価格調査等により、上記の工事開始期限日以降に契約締結となった場合には、余裕期間は適用しない。

㊵.施工計画
受注者は、施工計画書の作成にあたり、「その他」の事項として新型コロナウィルス感染症の感染防止対策を記載するものとする。必要と認める拡大防止対策のうち共通仮設および現場管理の範囲を超え、受注者が追加で費用を要する拡大防止対策を行う場合は、受発注者間で設計変更の協議を行うこととする。
協議における資料は、受注者の負担により作成することとする。

41.デジタル工事写真の小黒板情報電子化
本工事でデジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督職員の承諾の得たうえでデジタル工事写真の小黒板情報電子化対象工事とすることができる。

42.情報共有システムの利用
1.本工事は、滋賀県工事管理情報システム（以下「本システム」という）の利用対象工事であり、原則本システムを使用することとし、工事着手時に監督職員と協議のうえ運用するものとする。
2.受注者は、工事着手前に、監督職員に、現場代理人および主任技術者等のメールアドレスを報告するとともに、本システムの規約（https://www.sct.or.jp/asp/）に従い手続きを実施すること。
3.本システムの利用料金は、共通仮設費の率計上分に含まれており、利用期間および利用の有無は、設計変更の対象としない。
4.受注者は、電子データによる交換・共有に適さない書類について、事前の協議時に監督職員にその旨を報告し、紙等による提出を行うことができる。
5.受注者は、監督職員と協議の上、本システム以外の情報共有システムを利用できるものとする。ただし、利用するシステムを変更した場合においても、システムの利用料金は、共通仮設費の率計上分に含まれているため、設計変更の対象としない。

43.創意工夫
自ら立案実施した創意工夫や地域社会への貢献（以下「創意工夫等」という。）として評価できる項目について、工事完成時までに請負工事成績評定実施要領に定める様式により、監督職員に提出することができる。
工事成績評定においての創意工夫等に対する評価は、施工計画書にそのことが記載され、または事前に受注者から自主的に創意工夫等にかかる資料が監督職員あて提出され、その項目が創意工夫等に該当すると判断し、施工等に反映されていた場合に評価するものとし、実施前に施工計画書に記載または資料等の提出がなされていない場合は評価しないものとする。

44.請負代金内訳書
1.請負代金内訳書
受注者は、契約約款第３条に基づく請負代金内訳書（以下「内訳書」という。）を、監督職員を通じて発注者に提出しなければならない。
2.内訳書の内容説明
監督職員は、内訳書の内容に関し受注者の同意を得て、説明を受けることができる。ただし、内容に関する協議等は行わないものとする。

㊺.特例監理技術者
1.本工事において、建設業法第26条第３項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「特例監理技術者」という。）の配置を行う場合は以下の (1) ～ (8) の要件を全て満たさなければならない。
(1) 建設業法第26条第３項ただし書による監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。
(2) 監理技術者補佐は、一級施工管理技士補であって主任技術者の資格を有する者または一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。
なお、監理技術者補佐の建設業法第２７条の規定に基づく技術検定種目は、特例監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。
(3) 監理技術者補佐は入札参加者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。
(4) 同一の特例監理技術者が配置できる工事の数は、本工事を含め同時に２件までとする。
（ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるもの（当初の請負契約以外の請負契約が随意契約により締結される場合に限る。）については、これら複数の工事を一の工事とみなす。）
(5) 特例監理技術者が兼務できる工事は管内（土木事務所、支所）の工事でなければならない。
(6) 特例監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回および主要な工程の立会等の職務を適正に遂行しなければならない。
(7) 特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。
(8) 監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。
2.本工事の監理技術者が特例監理技術者として兼務する事となる場合、
前項 (1) ～ (8) の事項について確認できる書類を下記により提出すること。
(1) 監理技術者補佐の資格を有する書類（一級施工管理技士等の国家資格者などの合格証など）
(2) (1)の提出書類と同じ
(3) 監理技術者補佐の直接的かつ恒常的な雇用関係を証明する書類
（３カ月以上の雇用関係を証明できる健康保険被保険者証の写しなど）
(4) 特例監理技術者が兼務する工事のＣＯＲＩＮＳの写し等
(5) (4)の提出書類と同じ
(6) 業務分担、連絡体制等を記載した書類（施工計画書など）
(7) (6)の提出書類と同じ
(8) (6)の提出書類と同じ
3.本工事において、特例監理技術者および監理技術者補佐の配置を行う場合、または配置を要さなくなった場合は適切にＣＯＲＩＮＳへの登録を行うこと。

46.遠隔臨場（受注者希望型）
本工事は、契約後、受注者が希望する場合に、「営繕事業の建設現場における遠隔臨場に関する実施要領（滋賀県版）」に従い、「建設現場の遠隔臨場」の対象工事とすることができる。
「建設現場の遠隔臨場」とは、工事受注者における「監督職員の立会い等に伴う手待ち時間の削減や確認書類の簡素化」や発注者（監督職員）における「従来の臨場の削減による効率的な時間の活用」等を目指し、動画撮影用のカメラ 等により撮影した映像と音声をWeb会議システム等を利用して、公共建築工事標準仕様書、公共建築改修工事標準仕様書、公共建築木造工事標準仕様書及び建築物解体工事共通仕様書（以下「標準仕様書等」という。）に定める「監督職員の立会い」、「監督職員と協議」、「監督職員の検査」及び「関連工事等の調整」を行うものである。なお、「建設現場の遠隔臨場」を実施するにあたり必要となる経費は、共通仮設費に含むものとする。

㊼.改修工事の分類
・全館無人改修　⊙執務並行改修

48.契約後ＶＥ方式に関する特記事項
本工事は、契約締結後に施工方法等の提案を受け付ける契約後ＶＥ方式の工事であり、次によることとする。
1.定義
「ＶＥ提案」とは、契約約款第１９条の２の規定に基づき、設計図書に定める工事目的物の機能、性能等を低下させることなく請負代金額の低減を可能とする工事材料、施工方法等に係る設計図書の変更について、受注者（以下「乙」という。）が発注者（以下「甲」という。）に行う提案のことをいう。
2.ＶＥ提案の範囲
乙がＶＥ提案を行う範囲は、設計図書に定められている内容のうち工事材料および施工方法等に係る変更により請負代金額の低減を伴うものとするが、以下の提案は原則として含めないこととする。
① 施工方法等を除く工期の延長等の施工条件の変更を伴う提案。
② 契約約款第１８条に規定された条件変更等に該当する事実との関係が認められる提案。
③ 提案の実施に当たり、関係機関協議等、第三者との調整等を要する提案。
3.ＶＥ提案書の提出
(1) 乙は前項のＶＥ提案を行う場合は、次に掲げる事項をＶＥ提案書（様式１～４）に記載し、甲に提出しなければならない。
①設計図書に定める内容とＶＥ提案の内容の対比および提案理由。
②ＶＥ提案の実施方法に関する事項。（当該提案に係る施工条件等を含む）
③ＶＥ提案が採用された場合の工事代金額の概算低減額および算出根拠。
④甲が別途発注する関連工事がある場合は、それとの関係。
⑤工業所有権等の排他的権利を含むＶＥ提案である場合、その取扱いに関する事項。
⑥その他ＶＥ提案が採用された場合に留意すべき事項。
(2) 甲は、提出されたＶＥ提案書に関する追加資料、図書その他の書類の提出を乙に求めることができる。
(3) 乙は、ＶＥ提案を契約の締結日より、当該ＶＥ提案に係る部分の施工に着手する３５日前までに提出できるものとする。
(4) ＶＥ提案の提出にかかる費用は、乙の負担とする。
4.ＶＥ提案の審査・採否等
提出されたＶＥ提案は、施工の確実性、安全性が確保され、かつ、設計図書に定める工事目的物と比較し、機能、性能が同等以上で経済性が優位であると判断されるものについては、ＶＥ提案として採用することを原則として審査を行い、当該提案の採否を決定する。
5.ＶＥ提案の採否の通知
ＶＥ提案の採否については、ＶＥ提案の受領後１４日以内に書面により通知するものとする。ただし、乙の同意を得たうえでこの期間を延長することができるものとする。また、ＶＥ提案を採用しなかった場合には、その理由を付して通知するものとする。
6.ＶＥ提案を採用した場合の設計変更等
(1) ＶＥ提案を採用した場合において、必要があるときは、契約約款第１９条の２の規定に基づき設計図書の変更を行うものとする。
(2) 前項の規定により設計図書の変更が行われた場合において、必要があるときには契約約款第２４条の規定に基づき請負代金額を変更するものとする。
(3) 前項の変更を行う場合においては、ＶＥ提案により請負代金額が低減すると見込まれる額の10分の5に相当する金額（以下「ＶＥ管理費」という。）を削減しないものとする。
(4) ＶＥ提案を採用した後、契約約款第１８条の条件変更が生じた場合のＶＥ管理費については、変更しないものとする。ただし、双方の責に帰することができない理由（不可抗力や予測することが不可能な事由等）により、工事の続行が不可能、又または著しく工事低減額が減少した場合においては甲乙協議して定める。
(5) ＶＥ提案を採用した後、契約約款第１８条の条件変更が生じた場合において、甲がＶＥ提案に対する変更案を求めた場合、乙はこれに応じるものとする。
7.ＶＥ提案の活用と保護
評定の結果、当該ＶＥ提案内容の活用が効果的であると認められた場合は、他の工事においても積極的に活用を図るのでその場合は無償で使用できるものとする。ただし、工業所有権等の排他的権利を有する提案については当該権利の保護に留意している。
8.責任の所在
甲がＶＥ提案を採用し、設計図書の変更を行った場合においても、ＶＥ提案を行った乙の責任が否定されるものではない。

49.低入札価格調査制度に基づく措置
本工事は、低入札価格調査制度対象工事である。
1.配置技術者の増員
建設工事等入札執行要領第１７条第１項ただし書きの規定に基づく基準に満たない価格で落札した場合においては、監理（主任）技術者とは別に、入札公告に定める監理（主任）技術者の要件と同一の要件を満たす技術者を専任で１名現場に配置しなければならない。
なお、当該技術者は、監理（主任）技術者を補助し、監理（主任）技術者と同様の職務を行うものとする。
また、当該技術者を求めることになった場合には、その指名その他必要な事項を監理(主任)技術者と同様の方法により届け出ること。
2.施工体制台帳および施工計画書にかかる内容の説明
建設工事等入札執行要領第１７条第１項ただし書きの規定に基づく基準に満たない価格で落札した場合においては、受注者は施工体制台帳および施工計画書の提出に際して、監督職員からその内容の説明を求められたときは、応じなければならない。
3.材料、下請負代金等の支払い状況等の説明
建設工事等入札執行要領第１７条第１項ただし書きの規定に基づく基準に満たない価格で落札した場合においては、毎月の下請負代金の支払い状況が確認できる資料を履行報告に追加して提出すること。
また、監督職員から材料費、労務費、下請負代金、その他経費（以下「経費等」という。）の支払いの状況について説明を求められた場合は、これまでに要した経費等の支払いを確認できる資料ならびに今後必要とする経費等とこれにかかる資金の調達方法の資料を提示するとともに、それらの内容について説明を求められた場合は、応じなければならない。
4.工事コスト調査への協力
建設工事入札執行要領第17条第１項ただし書きの規定に基づく基準に満たない価格で落札した場合においては、工事コスト調査に協力をしなければならない。（概要は滋賀県ホームページ参照）
受注者は、下請負人の協力を得て、共通費実態調査票の作成を行い、完了届提出後１週間以内に発注者に提出するものとする。なお、調査票等については、別途、監督職員から指示するものとする。
共通費実態調査票について、費用の内訳についてヒアリング調査に応じるものとする。この場合において、元請者は、下請者についてもヒアリングに参加させるものとする。

50.総合評価方式に関する特記事項
本工事は、総合評価方式の工事であり、詳細は入札説明書によることとする。

(51).その他
本工事に関連して実施される国、県または関係団体の調査等に協力すること。

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	
工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No.	共通特記
図面名称	共通　特記仕様書1　　S = NOSCALE	設計日	2025年3月

滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事

図面リスト

番号	図面名称	縮尺
共通特記	共通_特記仕様書１	NOSCALE
A-01	建築改修工事特記仕様書２	NOSCALE
A-02	建築改修工事特記仕様書３	NOSCALE
A-03	建築改修工事特記仕様書４	NOSCALE
A-04	建築改修工事特記仕様書５	NOSCALE
A-05	建築改修工事特記仕様書６	NOSCALE
A-06	工事区分表	NOSCALE
A-07	配置図　附近見取図	1/1500,4000
A-08	人間文化学部棟　1階平面図	1/300
A-09	人間文化学部棟　2階平面図	1/300
A-10	人間文化学部棟　3階平面図	1/300
	D1　研究A棟	
A-11	D1 1階ﾎｰﾙ(2-2)、学生自習室、回廊 天井伏図（改修前・改修後）	1/50
A-12	D1 2階便所平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
A-13	D1 3階便所平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
A-14	D1 2階便所展開・天井伏図（改修前）	1/50
A-15	D1 2階便所展開・天井伏図（改修後）	1/50
A-16	D1 3階便所展開・天井伏図（改修前）	1/50
A-17	D1 3階便所展開・天井伏図（改修後）	1/50
A-18	D1 矩計図（改修前・改修後）	1/50
	D2　研究B棟	
A-19	D2 1階便所平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
A-20	D2 1階便所展開・天井伏図（改修前）	1/50
A-21	D2 1階便所展開・天井伏図（改修後）	1/50
A-22	D2 矩計図（改修前・改修後）	1/50
	D6　実習棟	
A-23	D6 1階便所平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
A-24	D6 1階便所展開・天井伏図（改修前）	1/50
A-25	D6 1階便所展開・天井伏図（改修後）	1/50
A-26	D6 矩計図（改修前・改修後）	1/50
A-27	建具リスト１	1/50
A-28	建具リスト２	1/50
A-29	建具詳細図	1/5
A-30	ピクトサイン詳細図(1)	1/2
A-31	ピクトサイン詳細図(2)	1/2

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント		工事名称 滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-00
								図面名称 建築図面リスト　S = NOSCALE	設計日 2025年3月

章	項目	特記事項
② 仮設工事	1.監督職員事務所	・設ける ・設けない [2．4．1] ・構内 ・構外 規模（・10m2 ・20m2 ・35m2 ・65m2 ・100m2） 程度 監督職員事務所の備品等 机、いす、書棚、白板、ゴム長靴、雨がっぱ、保護帽、安全帯、 衣類ロッカー、冷暖房機器、消火器等、監督職員の指示による。
	② 工事用水	構内既存の施設 ⊙利用できる（※ 有償 ⊙ 無償 ） ・利用できない （但し現場事務所にかかるものは有償）
	③ 工事用電力	構内既存の施設 ⊙利用できる（※ 有償 ⊙ 無償 ） ・利用できない （但し現場事務所にかかるものは有償）
	④ 仮囲い等	図示による他、万能塀、フェンスバリケード等の仮設計画を立案し、監督職員と協議する。
	⑤ 仮設間仕切り	[2．3．2] 仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ※図示 ・ 仮設間仕切りの種別と材質等（・A種 ※B種 ・C種） [表2．3．1] 仮設間仕切りに設ける仮設扉の材質等 （※合板張り 木製 ・ ）
	⑥ 足場等	[2．2．1] 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
	7.騒音・粉じん等の対策	[2．1．3] ・防音パネル ・防音シート 防音パネル等を取り付ける足場等の設置位置 ・
	⑧ 既存部分の養生	[2．3．1] 養生方法等 ・既存部分 養生の方法（※ビニールシート、合板等 ・ ） ・既存家具、既存設備等 養生方法（※ビニールシート等 ・ ） ・既存ブラインド、カーテン等 養生方法（ ・ ビニールシート等 ・ ） 保管場所（ ・図示による ・ ） ・固定された備品、机、ロッカー等の移動 ・図示による ・ 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。 溶接作業を行う場所については防炎シートを使用し防火対策等を講ずる。
	⑨ 交通誘導員	・工事車両出入口等必要な箇所に配置すること（延べ 30 人程度）
3 土工事	1.建設発生土の処理	・場内指定場所に堆積 ・場内指定場所に敷き均し （3．2．5） ※場外指定場所に搬出(運搬・処分費を含む) 搬出場所 ／ 受入条件 名称： 住所： 受入可能な土質区分： その他： 搬出場所、受入条件等は発注時点のものであるため、施工計画や実施工程により確認し、監督職員に報告する。併せて、近隣の受入先を調査の上、搬出場所、受入条件等が確認できる資料を監督職員に提出し、搬出場所について協議するものとし、必要に応じて設計変更の対象とする。 搬出後、監督職員へ搬出場所での受入を証明する資料を提出する。
	2.埋戻し及び盛土	材料及び工法 （3．2．3） 種別 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 不足分は良土搬入する。 ・材料（ ） 工法（ ）
4 地業工事	1.砂利地業	材料 ※再生クラッシャラン ・切込砂利 ・切込砕石 （4．6．2．3） 砂利厚さ ※60mm ・図示による 範囲 ※基礎下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ・図示による（ ）
	2.砂地業	（4．6．2．3） 材料 ※山砂 ・川砂 ・砕砂 砂厚さ ※30mm ・図示による 範囲 ※基礎下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ・図示による（ ）
	3.捨コンクリート地業	範囲 ※基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下 ・図示による（ ） （4．6．4） 厚さ ※50mm ・図示による 設計基準強度 ※18N/mm2 ・ スランプ ※15cm又は18cm ・
	4.床下防湿層	範囲 ・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 （ピット下を除く。） （4．6．2．5） 材料 ※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 ・ ・図示による
⑤ 鉄筋工事	1.鉄筋	鉄筋の種類等 （5．2．1） ※異形鉄筋(JIS G 3112) 種類の記号 ／ 呼び径（mm） ／ 備考 ・SD295 D16以下 ・SD345 D19以上 ・建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けた鉄筋
	2.溶接金網	鉄線の形状等 （5．2．2） 種類 ／ 網目の形状、網目、寸法、鉄線の経（mm） ／ 使用部位 ・溶接金網 6φ 100×100 丸鉄線 保護コンクリート ・溶接金網 6φ 150×150 丸鉄線 コンクリート舗装 ・鉄筋格子

章	項目	特記事項
⑤ 鉄筋工事	③鉄筋の継手	鉄筋の継手の方法等 （5．3．4)(5．5．3)(5．6．3) 部位 ／ 接手の方法 ／ 呼び径(mm) 柱、梁の主筋 ・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手 ・重ね継手 耐力壁の鉄筋 ・重ね継手 ・ その他の鉄筋（ ） ・重ね継手 ・ 継手位置 ・構造関係共通事項（配筋標準図） ・図示による（ ） ・ 柱及び梁主筋の重ね継手の長さ ※標準仕様書 表5.3.2による ・図示による（ ） ・ 40d以上 耐力壁の重ね継手の長さ ・構造関係共通事項（配筋標準図） ・図示による（ ） ・
	4.鉄筋の定着	鉄筋の定着の長さ （5．3．4） ・構造関係共通事項（配筋標準図） ・柱梁仕口の定着は40d以上 ・図示による（ ） 機械式定着工法 ・適用する 適用箇所 ・図示による（ ） ・ 種類
	⑤鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網を含む。)	最小かぶり厚さ （5．3．5） ⊙構造関係共通事項（配筋標準図） ・図示による（ ） ・軽量コンクリートを適用した場合 適用箇所（ ） ・最小かぶり厚さに加える厚さ （ ）mm ・耐久性上不利な箇所（塩害等を受けるおそれのある部分等） 適用箇所（ ） ・最小かぶり厚さに加える厚さ （ ）mm
	⑥各部配筋	各部配筋 ※図示による（ ） ・ （5．3．7） 鉄筋の折曲げ内法直径（90°未満） （表5．3．2） 折り曲げ角度 ／ 折曲げ内法直径（D） SD295、SD345、SD390 ／ D16以下 ／ D19～D25 ／ D29～D38 90°未満 ／ 4d以上(5d以上) ／ 6d以上(6d以上) ／ 8d以上(8d以上) SD390は（ ）内寸法を適用する。
	7.ガス圧接継手	圧接完了後の圧接部の試験 （5．4．10） ※超音波探傷試験 ・引張試験
	8.機械式継手	適用箇所 ・図示による（ ） ・ （5．5．2） H12建設省告示第1463号に適合する性能 ・A級 ・ 種 類 ・ねじ式鉄筋継手 充填方式 ・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式 ・端部ねじ加工継手 ・モルタル充填式継手 ・ 工法 ※第三者機関の評定等を取得している工法 鉄筋相互のあき ※評定等の評価内容による 施工完了後の継手部の試験 ・外観試験 対象 ※全数 試験項目 ・評定等の評価内容による 試験方法 ・評定等の評価内容による ・超音波測定試験 試験対象 ・抜取り ロット ・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする ・ 試験箇所数 1ロットに対して（ ）箇所 ・全数 不合格となった場合の措置 ・
	⑨溶接継手	適用箇所 ⊙図示による（ ） ・ （5．6．3） H12建設省告示第1463号に適合する性能 ・A級 溶接継手の工法 ⊙図示による（ ） ・ 鉄筋相互のあき ・(5.3.5(4)) による ・評定等の評価内容による ・図示による（ ） 施工完了後の溶接部の試験 ・外観試験 対象 ※全数 試験項目 ・評定等の評価内容による 試験方法 ・評定等の評価内容による ・超音波測定試験 試験対象 ・抜取り ロット ・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする ・ 試験箇所数 1ロットに対して（ ）箇所 ・全数 不合格となった場合の措置 ・
	10.土間コンクリート補強	※入れる 入れない

章	項目	特記事項
⑥ コンクリート工事	①コンクリートの種類	コンクリートの類別 （6．2．1） ※Ⅰ類 ・Ⅱ類
	②コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等	・普通コンクリート （6．2．1～4)(6．3．2)(6．10．1，2) 設計基準強度(N/mm2) ／ スランプ(cm) ／ 気乾単位容積質量(t/m3) ／ 適用箇所 ・18 ・21 ・24 ・30 ／ ・15 ・18 ／ 2.3程度 ・ ・ 構造体強度補正値 ・ ※（表6.3.2）による ・軽量コンクリート 設計基準強度(N/mm2) ／ スランプ(cm) ／ 気乾単位容積質量(t/m3) ／ 種類 ／ 適用箇所 ・ ／ ※21 ・ ／ ・1種 ・2種 ・
	③セメント	種 類 （6．3．1） ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメント A種 適用箇所（ ） ・高炉セメントB種 適用箇所（ ） ・フライアッシュセメントB種 適用箇所（ ）
	④骨 材	アルカリシリカ反応性による区分 （6．3．1） ※A ・B
	5.寒中コンクリート	適用期間 ・図示 ・ （6．11．1，2） 構造体強度補正値 ・(6.11.2(3)(ｱ)) による ・積算温度による
	6.暑中コンクリート	構造体強度補正値 ※6N/mm2 ・ （6．12．2）
	7.マスコンクリート	適用箇所 ・図示による（ ） ・ （6．13．1，2） セメントの種類 ・普通ポルトランドセメント ・中庸熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント
	8.無筋コンクリート	コンクリートの種類 ※普通コンクリート ・ （6．14．1） セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 設計基準強度 ※18N/mm2 ・ スランプ ※15cm又は18cm ・ 適用箇所 ※図示による以外は（6.14.1(4)(ｱ)～(ｶ)）による ・
	9.流動化コンクリート	適用箇所 ・図示による（ ） ・ （6．15．1）
	10.打継ぎの位置、打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地	打継ぎの位置 ※梁及びスラブ スパンの中央又は端から1/4 （6．6．4)(6．8．1) ※柱及び壁 スラブ、壁梁又は基礎の上端 ・図示による（ ） 目地寸法 ※幅 20mm 深さ10mm 程度 ・図示による（ ） ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法 ・図示による（ ）
	11.構造体コンクリートの仕上り	合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ （6．2．5） 種 別 ／ 適用箇所 ・A種 ・B種 ・C種 コンクリートの仕上りの平たんさ 種 別 ／ 適用箇所 ・a種 ・b種 ・c種
	12.打増し厚さ（打放し仕上げ部）	・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) （6．8．1） ・20mm ・ ・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る) ・10mm ・20mm ・
	⑬型枠	せき板の材料及び厚さ （6．8．2） ・合板（※12mm ・ ） ・ ・断熱材を兼用した型枠材 適用箇所 ・図示 ・ ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示 ・ スリーブの材種及び規格等 ・つば付き鋼管（外壁の地中部分等水密を要する部分） ・硬質ポリ塩化ビニル管（地中部分で水密を要しない部分） ・溶融亜鉛めっき鋼管（端気以外の円形スリーブ） ・鋼管 押え金物の材質、形状及び寸法
⑦ コンクリートブロック	1.補強コンクリートブロック造	ブロックの種類等 （8．2．2，3，5） 断面形状及び圧縮強さによる区分 ／ 正味厚さ(mm) 長さ ／ 高さ ／ 化粧の有無 ／ 適用箇所 ／ 備考 ・C種(16) ・無 ・有 ・C種(16W) ・無 ・有 ・無 ・有 各部の配筋 ※図示による ・ 目地仕上げ ・押し目地仕上げ ・化粧目地仕上げ まぐさを受ける開口部両側のブロックのモルタル又はコンクリートで充填する範囲 ※図示による ・
	2.コンクリートブロック帳壁及び塀	ブロックの種類等 （8．3．2～4） 断面形状及び圧縮強さによる区分 ／ 正味厚さ(mm) 長さ ／ 高さ ／ 化粧の有無 ／ （表8．3．1）以外の適用箇所 ／ 備考 ・空洞ブロック C(16) ・無 ・有 ・型枠状ブロック 20 ・無 ・有 ・ ・無 ・有 塀に用いるブロックの正味厚さ(mm) ※高さ2m以下の場合 120mm 2mを超える場合 150mm ・図示による（ ）

章	項目	特記事項
7 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事		鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 ※図示による ・ 各部の配筋 ※図示による ・
	3.ALCパネル	ALCパネルの区分等 （8．4．2～5） 区分 ／ 単位荷重(N/mm2) 正荷重 ／ 負荷重 ／ 厚さ(mm) ／ 幅及び長さ ／ 耐火性能(時間) ／ 構法の種別 ・外壁用 ・一般 ・コーナー ・平 ・意匠 ・ ・ ・100 ・120 ・ 図示による ・なし ・1 ・A種 ・B種 ・間仕切壁用 ・一般 ・コーナー ・平 ・意匠 — — ・100 ・ 図示による ・なし ・1 ・C種 ・D種 ・E種 ・屋根用 — — ・ ・ ・100 ・ 図示による ・0.5 ・1 ※F種 ・床用 — — ・ — ・100 ・ 図示による ・1 ・2 パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材 （8．4．2） ・図示による（ ） ・ ・外壁パネル構法、屋根及び床パネル構法 （8．4．3，5） 耐風圧性能（ ） 耐震性能（ ） ・間仕切壁パネル構法 （8．4．4） 耐震性能（ ） パネル幅の最小限度（mm） （8．4．3～5） ・300未満（・図示 ・ ） パネルの短辺小口相互の接合部、出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと多部材との取り合い部の伸縮目地の目地幅（mm） （8．4．3，4） ※10～20 ・図示による 伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する ・適用しない （8．4．3、4）
	4.押出成形セメント板（ECP）	（8．5．2～5） パネルの種類 ／ 形状 ／ 厚さ(mm) ／ 幅(mm) ／ 工法の種別 ／ 備考 ・外壁パネル ・F ・D ・T ・50 ・60 ・50 ・60 60 ※600 ・ ・A種 ・B種 ・間仕切壁パネル ・F ・D ・T ・50 ・60 ・50 ・60 60 ※600 ・ ・B種 ・C種 注）F：フラットパネル、D：デザインパネル、T：タイルベースパネル ・外壁パネル工法 （8．5．3） 耐風圧性能（ ） 耐震性能（ ） ・間仕切壁パネル構法 （8．5．4） 耐震性能（ ）
		耐火構造以外の目地及び隙間の処理 （8．5．3，4） ※パネルの製造所の仕様による ・ パネル幅の最小限度(mm) （8．5．3，4） ・300未満（・図示 ・ ） パネルの相互間の目地幅(mm) （8．5．3，4） 長辺の目地幅 ・10以上 ・図示による 短辺の目地幅 ・15以上 ・図示による 出隅及び入隅のパネル接合部の伸縮目地の目地幅(mm) （8．5．3，4） ※15程度(シーリング材を充填) ・図示による 溝堀及び開口部の措置 やむを得ず穴き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出する。 ／ ／ 孔あけ及び欠き込みの大きさ ／ 切断後のパネルの残り部分の幅 パネルに孔あけを設ける場合 ／ 短辺 ／ パネル幅の 1/2 以下、かつ、300mm以下 ／ 150mm以下 ／ 長辺 ／ 500mm以下 ／ 300mm以下 パネルに欠き込みを設ける場合 ／ 短辺 ／ パネル幅の 1/2 以下、かつ、300mm以下 ／ 300mm以下 ／ 長辺 ／ 500mm以下 ／ 300mm以下
⑧ 防水改修工事	①シーリング	[3．1．4][3．7．2、3、7、8] シーリング改修工法の種類 ・シーリング充填工法 ・シーリング再充填工法 ・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法 ボンドブレーカー張り ・適用する ・適用しない エッジング材張り ・適用する ・適用しない シーリング材の種類、施工箇所 シーリング材の種類（記号） ／ 施工箇所 ポリウレタン系（PU－2） ／ 変成シリコン系（MS－2） ／ 換気扇フード周囲 SR－1 ／ 内部壁洗面カウンター取合い、ﾗｲﾝﾝｸﾞ天板 シーリング材のノンブリード性能 ※有り ・無し 仕上げを行わない施工箇所(・図示による ・) シーリング材の目地寸法 ※図示による ・ 図中 ＼ 印箇所に施工 ただし、印なき箇所も必要に思われる所は施工すること。 シーリング材の接着性試験 ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験
⑨ 建具改修工事	①改修工法	[5．1．3] 建具の種類 ／ かぶせ工法 ／ 撤去工法 ／ 適用箇所 ・アルミニウム製建具 ・ ・ ・建具表による ・ ・樹脂製建具 ・ ・ ・建具表による ・ ・鋼製建具 ・外部 ・ ・ ・建具表による ・ ・内部 ・ ・ ・建具表による ・ ⊙鋼製軽量建具 ・ ・ ⊙建具表による ・ ・ステンレス製建具 ・ ・ ・建具表による ・ ⊙木製建具 ・ ・ ⊙建具表による ・ 新規に建具を設ける場合 壁部分の開口の開け方 ※図示による ・ 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※図示による ・

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改後期工事	図面No. A-01
図面名称	建築工事特記仕様書２ NOSCALE	設計日 2025年3月

章	項目	特記事項

⑨ 建具改修工事

2.防火戸 [5．1．4]

・指定する　適用箇所（・建具表による　・　　）
・指定しない
防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動
・連動させる（・建具表による　・　　）
・連動させない

3.見本の製作等 [5．1．5]

建具見本の製作　　・行う（建具符号：　　）　※行わない
建具見本製作の目的等　・
特殊な建具の仮組　　・行う（建具符号：　　）　※行わない

4.防犯建物部品 [5．1．7]

・適用する（※建具表による　・　　）
・適用しない

5.アルミニウム製建具 [5．2．2～5][表5．2．2]

性能値等
耐風圧性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
気密性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
水密性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
外部に面する建具の種別　・A種（※建具表による　・　　）
・B種（※建具表による　・　　）
・C種（※建具表による　・　　）
枠の見込み寸法（・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ　遮音性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ　断熱性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
形状及び仕上げ
表面処理
外部に面する建具
種別　・BB-1種　・BB-2種　・（表14.2.1）
着色　・標準色（　　）　・特注色（　　）
屋内の建具
種別　・BB-1種　・BB-2種　・（表14.2.1）
着色　・標準色（　　）　・特注色（　　）
結露水の処理方法　・水貯め式　・排水式
工法
水切り板、ぜん板　※図示による　・

6.網戸等 [5．2．3、5．3．3]

種類	材質	線径	網目
・防虫網	・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ※ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

7.樹脂製建具 [5．2．2][5．2．2～5]

性能値等
耐風圧性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
気密性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
水密性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
外部に面する建具の種別　・A種（※建具表による　・　　）
・B種（※建具表による　・　　）
・C種（※建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ　遮音性の等級（・T-1　・T-2）
（・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ　断熱性の等級（・H-4　・H-5　・H-6　・H-7　・H-8　・　　）
（・建具表による　・　　）
外部 に面する建具の日射熱取得性の等級　・
枠の見込み寸法　・建具表による　・
形状及び仕上げ
表面色　・標準色（　　）　・特注色（　　）
工法
水切り板、ぜん板　※図示による　・

8.鋼製建具 [5．2．2][5．4．2～4][表5．4．2]

性能値等
簡易気密型ドアセット・適用する（・建具表による　・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性　耐風圧性の等級　（・　　）
（・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ　遮音性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ　断熱性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
・耐震ドアとする場合　面内変形追従性の等級（・　　）
点検口の類のくつずりの材料　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ　※[表5.4.2]による　・
・　mm　使用箇所（　　）
標準型鋼製建具の形式及び寸法
※建具表による
・

⑨ 鋼製軽量建具 [5．2．2][5．4．2～4]

性能値等
簡易気密型ドアセット・適用する（・建具表による　・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性　耐風圧性の等級　（・　　）
（・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ　遮音性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ　断熱性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
・耐震ドアとする場合　面内変形追従性の等級（・　　）

材料
鋼板　※亜鉛めっき鋼板　・ビニル皮覆鋼板　・カラー鋼板　・ステンレス鋼板

⑨ 建具改修工事

10.ステンレス製建具 [5．2．2][5．4．2][5．6．2～5]

性能値等
簡易気密型ドアセット・適用する（・建具表による　・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性　耐風圧性の等級　（・　　）
（・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ　遮音性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ　断熱性の等級（・　　）
（・建具表による　・　　）
・耐震ドアとする場合　面内変形追従性の等級（・　　）
形状及び仕上げ
表面仕上げ　※HL　・鏡面仕上げ　・

12.木製建具 [5．7．2～4]

建具材の加工、組立時の含水率　※A種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板	表面の樹種　・ 板面の品質（※広葉樹1等　・　　） 接着の程度（・1種　・2種）	
・天然木化粧合板	樹種名（　　） 接着の程度（・1種　・2種）	
・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 ※プリント　・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 接着の程度（・1種　・2種）	
・MDF	表裏面の状態による区分（　　） 曲げ強さによる区分（　　） 接着剤による区分（　　） 難燃性による区分（　　） ・（　　）	

表面板の厚さ　・　※[表5．7．6]による
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用　・適用する　・適用しない
・かまち戸
かまち樹種（　　）　鏡板樹種（　　）
見込み寸法　※36mm　・建具表による　・
・ふすま
張りの種別（・I型　・II型）
上張り（押入等の裏側以外）　・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ　・塗り縁　・生地縁（素地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※19.5mm　・建具表による　・
・戸ぶすま
表面板の仕上げ　・建具表による
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
枠、くつずりの材料　・建具表による　・

⑬ 建具用金物 [5．7．1～3]

握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置
⊙建具表による　・
鍵
マスターキー　⊙製作する（既存のマスターキーに合わせる　・　）　・製作しない
鍵の製作本数　※各室　3本1組（室名札付き）　・
鍵箱　※有り　・無し

14.自動ドア開閉装置 [5．9．2、3]

戸の開閉方式　・建具表による　・
駆動装置及び検出装置の性能
・引き戸用駆動装置
性能値　※[表5.9.1]による（防錆　・適用する　・適用しない）
・
・車椅子使用者用便房出入り口引き戸用駆動装置
性能値　※[表5.9.2]による（防錆　・適用する　・適用しない）
・
・引き戸用検出装置
性能値　※[表5.9.3]による（防錆　・適用する　・適用しない）
・
引き戸用検出装置の種類[表5.9.4]　※建具表による　・
タッチスイッチの種類　・無線式タッチスイッチ　・光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便房スイッチの種類　・大形押しボタンスイッチ　・非接触スイッチ
凍結防止措置　・行う　・行わない

15.重量シャッター [5．11．2、3]

シャッターの種類　・管理用シャッター
・外壁用防火シャッター
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度　（　）pa
開閉方式の種類　※電動式（手動併用）　・手動式
安全装置
電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
電動式シャッターの障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
屋内用防火シャッター又は防煙シャッターの危害防止装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
管理用シャッターのシャッターケース　・設ける　・設けない

16.軽量シャッター [5．12．2～4]

開閉方式の種類　※手動式　・電動式（手動併用）
耐風圧強度（　）pa
安全装置
電動シャッターの障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
スラットの形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形

⑨ 建具改修工事

16.オーバーヘッドドア [5．13．2、3]

形式及び機構

セクション材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・50 ・75 ・100 ・125	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板 (※SUS04、SUS430J1L又はSUS443J1 ・　　)

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）

18.ガラス 適用は以下によるほか，ガラスの種類・厚さは建具表による。 [3．7][5．14．2～4]

・合わせガラス

品種	構成種類	性能
・フロート合わせガラス	・フロート板合わせガラス ・熱線吸収，フロート板合わせガラス	・I類
・網入磨き合わせガラス	・網入磨き，フロート板合わせガラス ・網入磨き，熱線吸収板合わせガラス	・II-1類　・II-2類 ・III類

・強化ガラス

材料板ガラスによる種類	種類	性能
・フロートガラス	・フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・I類　・III類
・型板ガラス	・型板強化ガラス	

・熱線吸収板ガラス

品種	性能	色調
・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収網入磨き板ガラス	・1種　・2種	・ブルー　・グレー　・ブロンズ

・複層ガラス

品類	断熱性	日射熱遮へい性
・断熱複層ガラス	・1種	U1
	・2種	U2
	・3種	・U-3-1　・U-3-2
・日射熱遮へい複層ガラス	・4種以上	E4

・熱線反射ガラス

品類	日射遮へい性	耐久性
・熱線反射ガラス 色調（・ブルー　・グレー）	・1種	A種
	・2種	・A種　・B種
・高性能熱線反射ガラス 色調（・ブロンズ　・シルバー）	・3種	B種

反射被膜面　・内面　・外面
映像調整　・行わない　・行う

・倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
・フロート倍強度ガラス ・熱線吸収倍強度ガラス	・グレー　・ブルー　・ブロンズ

・学校用強化ガラス

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製建具	※シーリング材 ・グレイジングチャンネル	※建具の製造所の仕様による ・図示による ・
鋼製及び鋼製軽量建具	※シーリング材 ・	※建具の製造所の仕様による ・図示による ・
ステンレス製建具	※シーリング材 ・	※建具の製造所の仕様による ・図示による ・
樹脂製建具	※グレイジングガスケット	※建具の製造所の仕様による ・図示による ・

ガラスブロック積み [5．13．5]

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 クリア	色調 乳白	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整 目地(mm)	防火性能
・正方形	・125×125	80	・	・	※8～15 ・15～25 ・	外側 ※15以下 ・ 内側 ※6以上 ・	※6m以下 ごとに 幅10～25 ・図示による	※無し ・あり
	・160×160	・95 ・125	・	・				
	・200×200	・95 ・125						
	・320×320	95						
・長方形	・250×125	80						
	・320×160	95						

壁用金属枠及び補強材　・図示による
化粧目地モルタルの色（　・白　　・グレー　）

シーリングの種類　（・SR-1　・PS-1）
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
寸法　・図示による　・
形状　・図示による　・
工法
建築基準法に基づく風圧力の（※1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

⑩ 内装改修工事

①.改修範囲 [6．1．3]

既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う　⊙図示による
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う　⊙図示による
既存天井の撤去に伴う取合い部の壁面の改修　※既存のまま　・図示による

⑩ 内装改修工事

②.既存床仕上材の撤去及び下地補修 [6．2．2]

改修範囲の既存床及び下地モルタルの浮き及び欠損の補修を行うこと。
ビニル床シート等の撤去　※仕上げ材のみ（接着剤とも）
・下地モルタルとも（・図示による　・仕上材の撤去範囲全て）
合成樹脂塗床材の除去工法　・機械的除去工法　・目荒し工法

③.施工一般 [6．5．2]

材料のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆又は改修標準仕様書6.5.2(1)(ウ)(b)による

4.製材

・JAS 1083-5　製材・第5部に基づく下地用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	びわこ材の適用
		・　※2級	※A種　・B種　・		・
		・　※2級	※A種　・B種　・		・
		・　※2級	※A種　・B種　・		・

・JAS 1083-2　製材・第2部に基づく造作用製材

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	含水率	保存処理	びわこ材の適用
見え掛り面		・　※上小節	※A種　・B種　・		・
		・　※小節以上	※A種　・B種　・		・
			※A種　・B種　・		・

・JAS 1083-6　製材・第6部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	びわこ材の適用
		※1等	※10%以下 ・A種　・B種　・		・
		※1等	※10%以下 ・A種　・B種　・		・
		※1等	※10%以下 ・A種　・B種　・		・

・JAS 1083（製材）以外の製材

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	含水率	びわこ材の適用
		（　　） 造作材の場合 (※A種・B種)	・適用する ・適用しない	・A種　・B種　・	・
		（　　） 造作材の場合 (※A種・B種)	・適用する ・適用しない	・A種　・B種　・	・
		（　　） 造作材の場合 (※A種・B種)	・適用する ・適用しない	・A種　・B種　・	・

5.造作用集成材 [6．5．2]

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面	見付け材面の品質	びわこ材の適用
				※1等　・2等	・
				※1等　・2等	・
				※1等　・2等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面	見付け材面の品質	びわこ材の適用
	化粧薄板： 芯材：				※1等　・2等	・
	化粧薄板： 芯材：				※1等　・2等	・
	化粧薄板： 芯材：				※1等　・2等	・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	びわこ材の適用
				※15%以下　・	・
				※15%以下　・	・
				※15%以下　・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	びわこ材の適用
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下　・	・
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下　・	・
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下　・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	びわこ材の適用
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下　・	・
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下　・	・
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下　・	・

6.造作用単板積層材 [6．5．2]

・JAS 0701 に基づく製材造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の品質	防虫処理	びわこ材の適用
		・有り （加工　・天然木化粧加工 ・塗装加工） ・無し（等級：　）	・適用する ・適用しない	・
		・有り （加工　・天然木化粧加工 ・塗装加工） ・無し（等級：　）	・適用する ・適用しない	・

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称：滋賀県立大学D棟トイレ改後期工事
							図面名称：建築工事特記仕様書3　NOSCALE
							図面No.：A-02
							設計日：2025年3月

章	項目	特記事項
⑩ 内装改修工事	7.合板等	・JAS 0701 以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理	びわこ材の適用
		・有り (加工　・天然木化粧加工 　　・塗装加工) ・無し(等級:　)	※14%以下 ・	・適用する ・適用しない	・
		・有り (加工　・天然木化粧加工 　　・塗装加工) ・無し(等級:　)	※14%以下 ・	・適用する ・適用しない	・

・JAS 3079 に基づく直交集成材

施工箇所	品名	曲げ強度(強度等級)	種別	接着性能(使用環境)	樹種	寸法	びわこ材の適用

・「合板の日本農林規格」による普通合板　[6. 5. 2]

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	びわこ材の適用
	※5.5 ・		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上　・1等 針葉樹 ※C－D以上　・	・適用する ・適用しない	・
	・			・		・
	・			・		・

・「合板の日本農林規格」による構造用合板　[6. 8. 2]

施工箇所	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ(mm)	防虫処理	強度等級	びわこ材の適用
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C－D以上 ・	※12 ・	・適用する ・適用しない	・適用する (　　) ・適用しない	・
			※1類 ・特類	・	・	・適用する ・適用しない	・適用する (　　) ・適用しない	・
			※1類 ・特類	・	・	・適用する ・適用しない	・適用する (　　) ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	びわこ材の適用
			・1類　・特類	・適用する ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理	びわこ材の適用
			・1類　・2類	・適用する	・

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理の適用	びわこ材の適用
		・1類・2類			・適用する	・

・パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ ・	※P又はM ・		※15 ・

・JAS 0360 に基づく構造用パネル

施工箇所	等級	寸法(mm)
	・1級　・2級　・3級　・4級	
	・1級　・2級　・3級　・4級	

・MDF

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

	8. 接着剤	[6. 5. 3、4] 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆　・ 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別 ・図示による　・
	9. 防腐・防蟻処理	・防腐・防蟻処理を省略できる樹種による製材　[6. 5. 3] 適用部位(　　)

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※薬剤の製造所の仕様による	※JISK1571に適合又は同等品
	・	
	・	

・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理
適用部位(　　)
・合板等の加圧注入処理等適用
適用部位(　　)

章	項目	特記事項
⑩ 内装改修工事	10. 防虫処理	・　[6. 5. 5] ・ラワン材等 ※JAS1083-6(製材-第6部:広葉樹製材)に基づく保存処理性能区分K1の防虫処理を行う
	11.RC造等の内部間仕切軸組及び床組み	[6. 5. 6] ・間仕切軸組に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合) ※杉又は松　・ ・床組に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合) ※杉又は松　・
	12.窓、出入口その他	[6. 5. 7] ・窓、出入口その他に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合) ※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は松又は杉
	13.床板張り	[6. 5. 8] ・縁甲板及び上がりかまちに用いる木材の樹種名(製材を用いる場合) ※ひのき　・
	14.壁及び天井下地	[6. 5. 9] ・壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合) ※杉　・松　・
	⑮ 軽量鉄骨天井下地	[6. 6. 2～4] 野縁等の種類　屋外　※25形　・19形　屋内　※19形　・25形 屋外形式及び寸法 野縁受、つりボルト及びインサートの間隔　・図示による　・ 周辺部の端からの間隔　・図示による　・ 野縁の間隔　・図示による　・ 既存の埋込みインサート　・使用する　・使用しない あと施工アンカーの施工後の確認試験 ⊙行う 試験個所数　※屋内の場合、当該階において3箇所 ・(　　)箇所 引張試験にて確認する強度 ※吊りボルト受け等の間隔が900mm程度以下かつ天井面構成部材等の単位面積あたりの質量が20kg/m²以内の天井の場合は400N程度) ・(　　)N ・行わない ・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合 補強方法　※図示による　・ ・天井のふところが3.0mを超える場合 補強方法　※図示による　・ ・天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強方法　※図示による　・ 補強箇所　・図示による　・ ・屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強 補強方法　※図示による　・ 補強箇所　・図示による　・
	⑯ 軽量鉄骨壁下地	[6. 7. 3、4][表6. 7. 1] スタッド、ランナーの種類 ・[表6.7.11]によるスタッドの高さにより区分に応じた種類　・ ※図示による スタッドの高さが5.0mを超える場合　※図示による　・ 出入口及びこれに準ずる開口部の補強　※[6.7.4(5)]による　・
	⑰ ビニル床シート	[6. 8. 2、3] 種類の記号 / 色柄 / 厚さ(mm) / 備考 ※FS ・ ・ / ・無地 ・マーブル柄 ・柄物 / ※2.0 ・ /
		接合部の処理　※熱溶接工法　・ ・超防汚性ビニル床シート　ロンシール工業㈱　サニタリウム アルファ　SLA-8002(抽象柄)　同等品
	18.ビニル床タイル	[6. 8. 2] 種類の記号 / 色柄 / 寸法(mm) / 厚さ(mm) / 備考 ※KT(ｺﾝﾎﾟｼｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) / ・無地 ・柄物 / ・300×300 ・450×450 ・ / ※2.0 ・3.0 /
		・TT(単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) / ・無地 ・柄物 / ・300×300 ・450×450 ・ / ・2.0 ・ /
		・FT(複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) / ・無地 ・柄物 / ・300×300 ・450×450 ・ / ・2.0 ・2.5 ・3.0 /
		・FOA(置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) / ・無地 ・柄物 / ・500×500 ・ / ・4.0 ・ /
		・FOB(薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) / ・無地 ・柄物 / ・ / ・ /
	19.特殊機能床材	[6. 8. 2] 材料 シート・タイルの種別 / 種類 / 性能 / 厚さ、寸法、形状(mm) ・帯電防止床シート / / / 厚さ: ・帯電防止床タイル / / / 寸法:　厚さ: ・視覚障害者用床タイル / / － / 形状: ・耐動荷重性床シート / / － / 厚さ: ・防滑性床シート / / － / 厚さ: ・防滑性床タイル / / － / 寸法:　厚さ:
	⑳ ビニル幅木	材質の種類　・軟質　・硬質 高さ(mm)　※60　・75　⊙100 厚さ(mm)　・　※1.5以上
	21.ゴム床タイル	[6. 8. 2] 種類　・単層品　・積層品 色柄　(　　) 厚さ(mm)・3.0　・4.5　・6.0　・9.0 寸法(mm)(　　)
	22.カーペット敷き	・織じゅうたん　[6. 9. 2、3][表6. 9. 1] 織り方 / パイル形状 ・ウィルトンカーペット / ・カットパイル ・ダブルフェースカーペット / ・ループパイル ・アキスミンスターカーペット / ・カット/ループパイル 色柄(※模様のない無地　・　) パイル糸の種類等 ※無地の織りじゅうたんの種別(・A種　・B種　・C種)

章	項目	特記事項
⑩ 内装改修工事		帯電性　・適用する　・適用しない 織じゅうたんの接合方法　※ヒートボンド工法　・つづり縫い 下敷き材　※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種1号　呼び厚さ 8mm

・タフテッドカーペット

パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・カットパイル	・5～7　・	・全面接着工法	・適用する	
・ループパイル	・4～6　・	・グリッパー工法	・適用しない	
・カット、ループ併用	・	・		

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ　8mm　・

・タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法(mm)	総厚さ(mm)	備考
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カット、ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	

タイルカーペットの敷き方　平場　※市松敷き　・模様流し
階段部分　※模様流し　・市松敷き
見切り、押え金物
材質　(　　)
種類　(　　)
形状等　※図示による

	23.合成樹脂塗床	[6. 10. 2、3] 種別 / 施工箇所 / 工法 / 仕上げの種類 ・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床 / / / ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ ・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床 / / ・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂モルタル工法 / ・平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・薄膜型塗床材 / / / ※平滑仕上げ 塗床材のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・
	24.フローリング張り	[6. 11. 2～6] フローリングは JAS 1073 による工場塗装品とする。 フローリングのホルムアルデヒドの放散量等 ※[6.11.2(2)]による　・ びわこ材の適用 ・適用する　・適用しない

単層フローリング　[6. 11. 2～5]

種類	工法	樹種	厚さ、幅及び長さ
・フローリングボード1等	・釘留め工法 (根太張り)		※(表19.5.1)による ・
	・釘留め工法 (根太張り)	・	※(表19.5.3)による ・
	・接着工法	・	※(表19.5.5)による ・
・フローリングブロック1等	・接着工法	・	・

複合フローリング　[6. 11. 2～5]

種類	工法	樹種	厚さ、幅及び長さ
・複合フローリング (天然木化粧)	・釘留め工法 (根太張り)		※(表19.5.2)による ・A種　・B種　・C種
	・釘留め工法 (根太張り)	・	※(表19.5.4)による ・A種　・B種　・C種
	・接着工法	・	※(表19.5.6)による ・A種　・B種　・C種

接着工法の場合の不陸緩和材　※合成樹脂発泡シート　・
・現場塗装仕上げ
※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地のままワックス塗り

	25.畳敷き	[6. 12. 2][表6. 12. 1] 種別　・A種　・B種　・C種　・D種(D種の畳床:・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ　・KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-N) 下地の種類　・(表12.6.1)による床組 ・ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロン) 衝撃緩和型畳　(畳表:・C1　・C2)
	㉖ せっこうボードその他ボード及び合板張り	[6. 13. 2、3] MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆　・ 合板のホルムアルデヒド放散量 ※[6.13.2(2)(イ)]の(a)～(d)のいずれか　・ 表面への化粧張り等の加工 ※図示による　・

種類	JISの記号	厚さ(mm)、規格等
・硬質木毛セメント板	HW	※図示による　・15　・20　・25　・
・中質木毛セメント板	MW	※図示による　・15　・20　・25　・
・普通木毛セメント板	NW	※図示による　・15　・20　・25　・
・硬質木片セメント板	HF	※図示による　・12　・15　・18　・21　・30　・
・普通木片セメント板	NF	※図示による　・12　・15　・18　・21　・30　・
・火山性ガラス質複層板 種類　※図示による		※図示による
⊙けい酸カルシウム板(ﾀｲﾌﾟ2)	0.8FK	・図示による　⊙6　⊙8
⊙ロックウール化粧吸音板	DR	⊙フラットタイプ(・9(不燃)⊙2(不燃)・　) ・凹凸タイプ(・12(不燃)・15(不燃)・　)
・ロックウール吸音ボード 1号	RW-B	・25　・
・グラスウール吸音ボード32K	GW-B	・25(ガラスクロス包)　・
⊙せっこうボード	GB-R	・12.5(不燃)・15(不燃)
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5(不燃)　・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラバーチン模様)
・ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうボード	GB-S	12.5(不燃)
・強化せっこうボード	GB-F	・12.5(不燃)・15(不燃)
・せっこうラスボード	GB-L	9.5

章	項目	特記事項

・化粧せっこうボード(木目)	GB-D(W)	12.5(不燃)　幅440mm程度 模様(・柾目　・板目)専用下地材有り	
・化粧せっこうボード(トラバーチン模様)	GB-D	9.5(準不燃)	
・普通合板		表面の材種 生地、透明塗料塗り (※ラワン程度　・　) 不透明塗料塗り (※しな程度　・　) 板面の品質(　) 厚さ(mm)(※図示による　・　) ・防虫処理	
・耐水合板		・特類　・1類　・2類	
・天然木化粧合板		樹種名(　) 厚さ(mm)(※図示による　・　) 防虫処理　・行う　・行わない	
・特殊加工化粧合板		化粧加工の方法 (・オーバーレイ　・プリント　・塗装) 表面性能(　)タイプ 厚さ(mm)(・図示による　・　) 防虫処理　・行う　・行わない	
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903 による厚さ(※1.2・　)	
・ポリエステル樹脂化粧板			
・ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・図示による　・3　・7　・9　・12　・	
・単板張りパーティクルボード		・無研磨板(VN)　・研磨板(VS) ・図示による　・10　・12　・15　・18　・	
・化粧パーティクルボード		・単板オーバーレイ(DV) ・プラスチックオーバーレイ(DO) ・塗装(DC) ※図示による　・10(難燃)・12(難燃)・	
・ハードボード(素地)	HB	・未研磨板(RN)(・スタンダード　・テンパード) ・研磨板(RS)(・スタンダード　・テンパード)	
・ハードボード(化粧)		・内装用(DI)　・外装用(DE) ※図示による　・2.5　・3.5　・5　・7	
・インシュレーションボード	IB	A級(・天井仕上　・内装仕上　・　) ※図示による　・9　・12　・15　・18	

		合板類の張付け　・A種　・B種 せっこうボードの目地工法等 目地工法の種類　※仕上表による 突付け工法及び目透し工法のエッジの種類　・ベベルエッジ　・スクェアエッジ 天井ボードの重ね張り ⊙メラミン系不燃化粧板　t=3mm　(出隅専用見切共)　目地・取合部シール アイカ　セラール、セラール消臭 綴目地シリコンシーリング(SR-I　防カビ) 色:一般色(白)FKM60032MN 指定色(緑または橙)FKM6600ZNN-74又はFKJ6502NN74 柄(桃)FDA1995ZMN 既設下地　タイル貼　:ONﾀｲﾙ工法 その他(ﾎﾟｰﾄﾞ系、ﾓﾙﾀﾙ塗)貼:M工法　下地調整を行うこと。 合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
	27.壁紙張り	[6. 14. 2、3] ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・

施工箇所	壁紙の種類							防火性能	備考
	紙	繊維	塩化ビニル	プラスチック	無機質	その他			
	・	・	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃	

	28.モルタル塗り	モルタル及びプラスター面の素地ごしらえの種別　※B種　・A種 コンクリート面の素地ごしらえの種別　※B種　・A種 せっこうボード面の素地ごしらえの種別　※B種　・A種　[6. 15. 3、5、6] モルタル　・現場調合材料 ・既調合材料 既製目地材　・設ける　施工箇所(　)　形状(※図示による　・　) ・設けない 床の目地　※設ける　目地割り　※2㎡程度(最大目地間隔3m程度)　・ 種類　※押し目地　・ ・設けない
	29.タイル張り	壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理 [6. 16. 2～4] 伸縮調整目地の位置　床タイル　(※縦、横とも 4m 以内ごと　・図示による　・　) 床タイル以外　(・図示による　・　) 見本焼き ・行う(施工箇所:　)　・行わない 試験張り ・行う(範囲、仕様等は図示による)　・行わない ・セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り タイルの形状、寸法等

施工	形状寸法(mm)	再生材料の適用	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性	備考
			Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無		
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

		標準的な曲がりの役物は一体成形とする 既調合モルタル 壁タイル張りの工法 内装タイル　・密着張り　・改良圧着張り 内装タイル以外のユニットタイル　・マスク張り　・モザイクタイル張り ・有機系接着剤によるタイル(セラミックタイル)張り タイルの形状、寸法等

施工	形状寸法(mm)	再生材料の適用	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性	備考
			Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無		
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

		標準的な曲がりの役物は一体成形とする 内外装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	

工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改後期工事	図面No.	A-03
図面名称	建築工事特記仕様書4　NOSCALE	設計日	2025年3月

章	項目	特記事項
	30.セルフレベリング材塗り	塗厚(mm)　・　[6．17．2、3]
(1)塗装改修工事	①.材料	[7．1．3] 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆　・ ・防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・次の箇所を除き防火材料とする。(箇所：　　)
	②.下地調整	[7．2．1～7] ※既存塗膜への付着状況が不明な場合は塗装の密着性試験を行うこと。 塗替えで下地調整の種別がRB種の場合の既存塗膜の除去範囲 ※劣化部分は除去し、活膜部分は残す　・図示による　・

下地面の種類	下地調整の種別 塗替え
木部	※　不透明塗料塗りの場合はRB種 ・
鉄鋼面	※　RB種　・
亜鉛めっき鋼面	※　RB種　・
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具等）	※　RB種　・
モルタル及びせっこうプラスター面	※　RB種　・
ｺﾝｸﾘｰﾄ面（DP以外）及びALCﾊﾟﾈﾙ面	※　RB種　・
押出成形セメント板面	・　RA種　・　RB種　・　RC種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面（DPのみ）	・　RA種　・　RB種　・　RC種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面及びその他ﾎﾞｰﾄﾞ面	※　RB種　・

③.素地ごしらえ　[7．3．2～7]

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面（DP以外）		※C種　・A種　・B種
鉄鋼面（DPのみ）		※B種　・A種　・C種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※B種　・A種
押出成形セメント板面		・A種　・B種
コンクリート面（DPのみ）		・A種　・B種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※A種　・A種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	※B種　・A種

④. 錆止め塗料塗り　[7．4．2、3]

錆止め塗料塗りの種別

素地面	塗装の種類		塗装の種別	工程の種別
鉄鋼面	SOP (工程の種別は表7.4.3)	塗替え	A種	※C種　・
		新規見え掛り	A種	※A種　・
		新規見え隠れ	A種	※B種　・
	EP-G (工程の種別は表7.4.3)	塗替え	※B種　・A種	※C種　・
		新規見え掛り	※B種　・A種	※A種　・
		新規見え隠れ	※B種　・A種	※B種　・
	DP (工程の種別は表7.4.4)	塗替え	7.4.2(1)(イ) (b)による。	・B種(下地調整RB種) ・C種(下地調整RC種)
		新規	7.4.2(1)(イ) (a)による。	・A種
亜鉛めっき鋼面	SOP (工程の種別は表7.4.5)	塗替え	※A種　・B種	※C種　・
		新規 鋼製建具等	※A種　・B種	※A種　・
		新規 その他	※B種　・	※B種　・
	EP-G (工程の種別は表7.4.5)	塗替え	C種　・	※C種　・
		新規 鋼製建具等	C種　・	※A種　・
		新規 その他	C種　・	※B種　・
	DP (工程の種別は表7.4.6)	塗替え	B種　・	ー
		新規	B種　・	ー

⑤.塗装　[7．5．2～7.13.2]

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	工程 新規
⊙合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）	木部屋外	※ B種　・	※ A種　・
	木部屋内	※ B種　・	※ B種　・
	鉄鋼面	※ B種　・	・ B種　・A種
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※ A種　・	※ B種　・
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具以外）	※ B種　・	※ B種　・
・クリヤラッカー塗り（CL）		※ B種 ・A種 (着色塗料の種類：　)	※ B種 ・A種 (着色塗料の種類：　)
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD）		※ B種　・A種	※ B種　・A種
・耐候性塗料塗り（DP）	鉄鋼面　上塗り等級（ ）級	・	
	亜鉛めっき鋼面　上塗り等級（ ）級	・	
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・	・A-1種　・B-1種 ・C-1種
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G）	コンクリート面等	※ B種　・	・ B種　・ A種
	屋内の木部	※ B種　・	※ A種　・
	屋内の鉄鋼面	※ B種　・	・ B種　※ A種
	屋内の亜鉛めっき鋼面	※ A種　・	※ A種　・ B種
・合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）		※ B種　・	・ B種　・ A種
・ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）		※ B種　・	※ B種　・ A種
・ステイン塗り		・ピグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り(OS)	
・木材保護塗料塗り（WP）		※ B種　・ A種	※ B種　・ A種

つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(コンクリート面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面、その他ボード面）の塗替えの場合のしみ止め
※B種又はD種の場合は、[表7．9．1]の工程１の下塗りをしみ止めシーラーとする　・
合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め
※B種又はC種の場合は、[表7．10．1]の工程１の下塗りをしみ止めシーラーとする　・

クリヤラッカー塗りA種の工程２の適用
・適用しない
・適用する(着色剤：・溶剤系着色剤　・油性染料着色剤)
ウレタン樹種ワニス塗りの工程１の着色の適用
・適用する
・適用しない
オイルステイン塗りの工程等
・

章	項目	特記事項
(2)ユニット及びその他工事	1.フリーアクセスフロア	(20．2．2) 施工箇所：・置敷式・支柱調整式 構法：・500×500 寸法(mm)：・ 高さ： 耐震性能：・1.0G・0.6G 所定荷重：・3,000N・5,000N 表面仕上材：・帯電防止床タイル・タイルカーペット 備考： 帯電防止性能　・クラス1（U≧1.2）　・クラス2（U≧0.6） 感電防止性能　漏えい抵抗（R）≧1×10⁶ Ω 構成材の材質　・アルミニウム製　・鋼製（仕上げ：　　）　・ スロープ及びボーダー　・製造所の仕様による　・図示 配線用取り出しパネル フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　・20～30パーセント 配線取り出し開口　・パネル1枚につき，40mm×80mm　程度の開口1箇所以上 ・図示 空調用吹き出し（吸い込み）パネル　・なし　・あり（形式、施工箇所：図示）
	2.可動間仕切	(20．2．3) 構造形式：・スタッド式（内蔵）・スタッド式（露出）・スタッドパネル式・パネル式 構成基材の種類：スタッド／パネル 表面仕上材 パネル表面仕上げ：・メラミン樹脂焼付又はアクリル脂肪焼付・壁紙張り 遮音性(dB/500Hz)：・0・12・20・28・36 防火性能：・不燃 パネル内に取付ける建具　・あり（※図示による　・　）　・なし パネル内に取り付ける建具のドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、メーカ標準仕様とする パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆
	3.移動間仕切	(20．2．4) 走行方向：・平行方向移動式・二方向移動式 操作方法による種類：・手動式・電動式・部分電動式 パネル圧接装置の操作方法：・プッシュ式・ハンドル式・ 総厚さ(mm)： パネル表面材 材質：・鋼板・ パネル表面材 仕上げ：・焼付塗装・壁紙張り・ 遮音性(dB/500Hz)：・36未満・36以上 あと施工アンカー ・使用する 種類：　材質：　寸法： ・使用しない
	4.トイレブース	(20．2．5) 表面材の材料：⊙メラミン樹脂系化粧板・ポリエステル樹脂系化粧板・ 脚部 種類：・脚金物タイプ ※幅木タイプ ドアエッジ 形状：・標準・R ドアエッジ 材質：※製造所の仕様・アルミニウム製・ステンレス製・ パネル材料のホルムアルデヒド放散量　JIS A 6512 によりF☆☆☆☆以上
	5.視覚障害者用床タイル	(11．2．2)（19．2．2） 施工箇所：屋内／屋外 種類：・塩化ビニル製・セラミックタイル・レジンコンクリート製・コンクリート製 寸法(mm)：・300×300　・ 厚さ(mm)：・7.0　・ ブロックパターンはJIS T 9251 による
	6.手すり	材料の種類及び仕上げ ・SUS304（表面処理　※HL程度　・　） ・鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき　（※（表14.2.2）による種別（・　　）種） ・アルミニウム　表面処理　※（表14.2.1）による種別 ・集成材　表面仕上げ（・クリアラッカー　・　　） ・樹脂 ・
	7.階段滑り止め	(20．2．6) 材種　・ステンレス製　・黄銅製押出型材 ・アルミニウム製押出型材　・ 滑り止め材　形状　・タイヤ型　・　・ひも型 材質　ゴム又は合成樹脂 取付け工法　※接着工法　・埋め込み工法 幅(mm)　・　・約35　・図示による
	8.黒板及びホワイトボード	(20．2．8) ・黒板 区分　※焼き付け　・ 種類　・鋼製黒板　・ほうろう黒板　・ 色　※緑　・ ・ホワイトボード
	9.鏡	(20．2．9) 取付箇所（　　） 枠　・有　・無 寸法(mm)　・図示による　・ 厚さ(mm)　※5　・

章	項目	特記事項
(2)ユニット及びその他工事	10.表示	衝突防止表示　(20．2．10) ※図示　（市販品　※ステンレス製 径 30mm　・　　） ・無 室名札 厚さ(mm)：※5・ 材質：※アクリル板・ 取付け形式：・平付型・持出型 備考： 寸法(mm)　・50×250　・60×250　・図示による ピクトグラフ（便所、車いす、階段等）) 厚さ(mm)：※5・ 材質：⊙アクリル板・アルミ板 取付け形式：※平付型⊙持出型 備考： 寸法(mm)　・150×150　⊙図示による 案内板（館内、各階、便所） 厚さ(mm)：※5・ 材質：・アクリル板・アルミ板 取付け形式：※平付型・持出型 備考： 寸法(mm)　・600×600　・100×600　・200×200　・図示による
	11.タラップ	材質及び仕上げ　(20．2．12) ・SUS304（スリップ止め加工　※あり　・なし　）
	12.煙突ライニング	適用安全使用温度　・　(20．2．13) 工法　※鋼製ユニット煙突(煙突用成形ライニング材 ）　・
	13.ブラインド	(20．2．12) 形式：・横形 操作方法：・手動 種類：※ギヤ式・コード式・操作棒式 スラットの材質：※アルミニウム合金製・ スラット幅(mm)：※25・ ボックス・レールの材種：※鋼製・ 幅・高さ取付箇所：・図示による・ ・電動　ー ・縦形　・手動　※２本操作コード式・１本操作コード式 ・アルミスラット・クロススラット・ ・80・100 アルミニウム合金製 ・電動　ー
	14.ロールスクリーン	(20．2．13) 操作方式：・スプリング式・チェーン式・電動式 スクリーンの材種：・ガラス繊維製・合成・天然繊維製・木製 その他の材料：※製造所の仕様 幅・高さ取付箇所：・図示による・ 品質等：
	15.カーテンレール	(20．2．14) 材料による区分　※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材 ・ステンレス製 強さによる区分　※10-90　・ 仕上げ　※アルマイト　・ 形状　※角形　・ カーテン付属物　フック（ひるかん） ※鋼製　・樹脂製
	16.ブラインドボックス及びカーテンボックス	溝幅×深さ(mm)　・ 材種　・集成材（仕上げ：　　） ・アルミニウム製　押出し型材（市販品） 種別（表14.2.1）による種別　・BC-1種　・BC-2種 色合い　・標準色（　　）　・特注色（　　） ・鋼製（仕上げ：　　）
	17.天井点検口	材種：⊙アルミニウム製 寸法：⊙450×450・600×600・ 形式：・一般形・気密形 ⊙屋内外用・屋内用 外枠：・額縁タイプ・目地タイプ 内枠：・額縁タイプ・目地タイプ
	18.床点検口	材種：・アルミニウム製・⊙ステンレス製・鋼製 寸法：・450×450 ⊙600×600・ 形式：⊙一般形・密閉形 ・屋内外用・屋内用 備考：・鍵付き 密閉型とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。
	19.くつふきマット	材種：・塩化ビニル又はゴム製・硬質アルミニウム合金製・ステンレス鋼(SUS304)製・ 受け枠：・ステンレス鋼(SUS304)・硬質アルミニウム合金・ 備考：
	20.プレキャストコンクリート	(20．3．3．4) 取付け方法 ※図示による ・
	21.間知石及びコンクリート間知ブロック積み	(20．4．2．3) ・間知石：材種：・花こう岩・凝灰岩／種類：ー／質量区分：ー／備考： ・コンクリート間知ブロック：材種：ー／種類：／質量区分：・A・B／備考： 積み方　※谷積み　・布積み 目塗り　・図示による　・ 伸縮目地　材種　・図示による　・ 厚さ　・図示による　・
	22.消火器	種類　※ 粉末ＡＢＣ消火器（ ・ ４型 ・ ６型 ※ １０型 ・ ２０型） ・ なお、申請手続きも本工事にて行うこととする
	23.消火器ボックス	・　半埋込み型　Ｗ３００×Ｈ９００　鋼製焼付塗装仕上 取扱表示付　既製品（　　）ヶ所 ・　全埋込み型　Ｗ３００×Ｈ９００　鋼製焼付塗装仕上 取扱表示・扉部アクリル板マグネットキャップ付　既製品（　　）ヶ所

章	項目	特記事項
(3)あと施工アンカー工事	①.あと施工アンカー	[8．2．4] 材料等 ⊙金属系アンカー ・引張耐力　・　Kn　・図示による(　　) ・せん断耐力　・　kN　・図示による(　　) アンカー本体の径及び埋込み長さ　※図示による(　　) ・接着系アンカー ・引張耐力　・　Kn　・図示による(　　) ・せん断耐力　・　kN　・図示による(　　) アンカー筋の径及び埋込み長さ ※図示による(　　)　・ アンカー筋の種類 ・ アンカー筋の新設壁内への定着の長さ ※図示による(　　)　・
	2.穿孔	[8．12．4] 埋込み配管等の探査範囲 ※あと施工アンカー施工部分全て　・図示による(　　) 埋込み配管等の探査方法 ※鉄筋探知器（金属探知器）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる
	3.施工確認試験	[8．12．7] 試験方法　※引張試験機による引張試験 確認強度 (D10=　　) N/本 (D13=　　) N/本 (D16=　　) N/本 (D19=　　) N/本
14 排水工事	1.屋外雨水排水	(21．2．1，2)（表21．2．1，2） 材料 ・遠心力鉄筋コンクリート管：材種／種類・記号：外圧管（１種）／形状：・B形管・／呼び径：・図示による　・／備考： ・硬質ポリ塩化ビニル管：種類・記号：・ＲＳ－ＶＵ・ＶＰ・ＶＵ／形状／呼び径：・図示による　・／備考： 基床の厚さ及び種類　・図示による　・ 硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※接着剤　・ゴム輪　・ 側塊の形状及び寸法　・図示による　・ 排水桝の種類　・図示による　・ 砂地業に用いる材料　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂 砂利地業に用いる材料　・再生クラッシャラン　・切込砂利　・切込砕石 現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度　※18N/mm2　・ スランプ　※15cm 又は 18cm　・ 現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　※SD295 現場打ちの場合の足掛け金物　※（21.2.2(6)(ｵ)） 材質　・ステンレス製　・鋼製　・合成樹脂被覆加工されたもの 凍上抑制層に用いる材料　・ （砂を用いる場合の粒度試験）　・行う　・行わない
	2.鋳鉄製ふた	(21．2．1) 名称：鋳鉄製マンホールふた 種類：・水封形・簡易密閉形(パッキン式)・密閉形(テーパ・パッキン式)・中ふた付き密閉形（テーパ・パッキン式）・ 適用荷重：・T-2用・T-6用・T-20用 鍵：・有り・無し 備考：左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による。
	3.グレーチング	(21．2．1) 材質：・鋼製 形式：・受枠付き、ボルト固定・ 用途：・溝ふた(横断用)・溝ふた(側溝用)・桝ふた用・U字溝用 適用荷重：・歩行用 メインバーピッチ：・細目 亜鉛めっき(付着量)：・(　) 上面形状：・凹凸形・ ・T-2用・T-6用・T-14用・T-20用 ・普通目・細目 ・(　) ・平形・ 材質：・ステンレス製 形式：・受枠付き、ボルト固定・ 用途：・溝ふた(横断用)・溝ふた(側溝用)・桝ふた用・U字溝用 適用荷重：・歩行用 メインバーピッチ：ー 亜鉛めっき(付着量)：ー 上面形状：・凹凸形・ ・T-2用・T-6用・T-14用・T-20用 ー ー ・平形・
	4.街きょ、縁石及び側溝	(21．3．1，2)（表21．3．1） 街きょ、縁石、側溝 種類：・縁石／・L形側溝／・U形側溝／・U形側溝ふた／・ 形状、寸法：・図示による　・／・図示による　・／・図示による　・／・図示による　・／・図示による　・ 砂地業に用いる材料　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂 砂利地業に用いる材料　・再生クラッシャラン　・切込砂利　・切込砕石 砂利地業の厚さ　※100 (mm)　・図示による ・現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度　※18N/mm2　・ スランプ　※15cm 又は 18cm 現場打ちの場合の鉄面種類の記号　※SD295 凍上抑制層に用いる材料　・ （砂を用いる場合の粒度試験）　・行う　・行わない
	5.埋戻し土	(21．2．1) ※B種　・

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称：滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改後期工事
							図面名称：建築工事特記仕様書５　NOSCALE
							図面No.：A-04
							設計日：2025年3月

章	項目	特記事項

15 舗装工事

1.路床 （２２．２．２，３，５）（表２２．２．１）

路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　・B種　・C種 ・D種　・建設汚泥から再生した処理土	・図示による ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン　・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂((表21.2.2)による)	・図示による ・
・フィルター層	※砂((表22.2.3(3))による) ・	・図示による ・

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験 ）
・行う　・行わない
・路床安定処理
安定処理の方法　・置き換え工法　・安定処理工法
路床安定化処理用添加材料
種類　・普通ポルトランドセメント　・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・生石灰（・特号・1号 ）　・消石灰（・特号・1号 ）
添加量　・　kg/m³（CBR　・3以上　・　）

試験
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験　・行う　・行わない
路床締固め度の試験　・行う　・行わない
現場ＣＢＲ試験　・行う　・行わない

2.路盤 （２２．３．２，３，５）（表２２．３．１）

路盤の厚さ　・図示による　・
路盤材料((表22.3.1)による種別)
・クラッシャラン
・粒度調整砕石
※再生クラッシャラン
・再生粒度調整砕石
・クラッシャラン鉄鋼スラグ
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

3.アスファルト舗装 （２２．４．２～６）（表２２．４．４）

アスファルト舗装の構成及び厚さ　※図示による　・
材料及び種類
アスファルト　・再生アスファルト　（・60～80　・80～100）
・ストレートアスファルト
加熱アスファルト混合物の種類
・密粒度アスファルト混合物(13)
・細粒度アスファルト混合物(13)
・密粒度アスファルト混合物(13F)

試験　アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない

4.コンクリート舗装 （２２．５．２～４，６）（表２２．５．１，３）

コンクリート舗装の構成及び厚さ

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	車路及び駐車場	・図示による	・図示による　・
	歩行者用通路	・図示による	※70　・

寒冷地の縁部立下り寸法等　・図示
材料
コンクリート　・（表22.5.1）による　・
早強セメント　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ
目地
種類、間隔、構造　※（表22.5.3及び図22.5.1）による　・図示

5.カラー舗装 （２２．６．２～４）

・加熱系カラー舗装
構成及び厚さ　・図示による
加熱系混合物の結合材
・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物　顔料の添加量　（　%）
添加材
着色骨材　（　）
自然石　（　）
・常温系カラー舗装
工法
・ニート工法（配合その他：　）
・塗布工法　（配合その他：　）
着色部の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装　・

6.透水性アスファルト舗装 （２２．７．２，３，６）

舗装の構成　・図示による
材料及び種類
アスファルト　・再生アスファルト　（・60～80　・80～100）
・ストレートアスファルト
加熱アスファルト混合物の種類
・密粒度アスファルト混合物(13)
・細粒度アスファルト混合物(13)
・密粒度アスファルト混合物(13F)

試験　開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない

7.ブロック系舗装 （２２．８．２，３）

・コンクリート平板舗装

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
・普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	・300角 ・	※60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

クッション材　※砂　・空練りモルタル
普通平板は（再生材１料を用いた舗装用ブロック）、透水平板は（透水性コンクリート）とする。

・インターロッキングブロック舗装

種類	部位	形状寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm2)	備考
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P) ・保水性ブロック(M)	車路	・図示 ・	※80	※5.0 ・	表面加工 ・
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P) ・保水性ブロック(M)	歩行者用通路	・図示 ・	※60	※3.0 ・	

クッション材　※砂　・空練りモルタル

歩行者用通路に使用する普通ブロックは（再生材料を用いた舗装用ブロック）、透水性ブロックは（透水性コンクリート）とする。

・錆石舗装

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	張り方	基層	基層の厚さ(mm)
・花崗岩 ・	・割石 ・図示による ・	・	・	・コンクリート版	※70 ・
				・アスファルト混合物	※50 ・

クッション材　※砂　・空練りモルタル

8.砂利敷き （２２．９．２）

種別　・A種（施工範囲：※通路　・図示による　・　）
・B種（施工範囲：※建物周囲その他　・図示による　・　）

9.路面標示用塗料

路面標示用塗料は JIS K 5665 による。

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
※３種１号	溶融	粉体状	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・

16 石綿含有建材の除去等

①一般仕様

本特記仕様書及び図面による他、建設省監修日本建築センター発行「既存建築物の吹付アスベスト粉塵飛散防止処理技術指針・同解説」、厚生労働省「建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する技術上の指針」による。

②技術管理

建設省労働災害防止協会「建築物の解体工事における石綿粉じんのばく露防止マニュアル」を参考とする。厚生労働省「石綿飛散漏洩防止対策徹底マニュアル[2.20版]」を参考とする。

③請負人の責任

受注者は、アスベストの撤去及び処分に当たっては、本特記仕様書に基づき完全に履行する事。関係法令を遵守し、労働安全及び環境汚染の防止に努める事。又、関係官庁へ必要な届出を遅延なく行う事。

④石綿含有建材の事前調査 ［９．１．１、３～５］

※石綿含有建材の事前調査
1. 大気汚染防止法、労働安全衛生法、石綿障害予防規則、その他石綿処理に関する諸法令に基づき実施すること。
2. 石綿の事前調査は、建築物石綿含有建材調査者講習登録規程に規定する建築物石綿含有建材調査者等有資格者によるものとすること。
3. 事前調査結果は書面で発注者に説明すること。
4. 事前調査結果を作業場に備え付け、事前調査結果及び作業内容等を掲示すること。
5. 工事に係る部分の床面積の合計が80㎡以上の建築物の解体工事、請負金額100万円以上の建築物の改修工事等の事前踏査を実施したときは、その結果を工事開始前までに石綿事前調査報告システムにより労働基準監督署及び県（大津市内は大津市）に報告するとともに、発注者に書面で報告すること。

分析による石綿含有建材の調査　・行う　・行わない
分析対象
アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト
分析方法

採取箇所	部位	材料名
	・壁　・天井　・	
	・壁　・天井　・	
	・壁　・天井　・	
	・壁　・天井　・	

サンプル数　１箇所あたり３サンプル

工事前の調査、分析等

種別	調査範囲	調査、分析結果概要等

5.石綿粉じん濃度測定

測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）
・	測定１	処理作業前	処理作業室内	・　計　点
・	測定２		調査対象室外部の付近	・　計　点
・	測定３	処理作業中	処理作業室内	・　計　点
・	測定４		セキュリティゾーン入口	・　計　点
・	測定５		集じん・排気装置の排出口（処理作業室外の場合）	出口吹出し風速1m/s以下の位置 ・　計　点
・	測定６		処理作業室外 ・施工区画周辺 ・敷地境界	・　計　点
・	測定７	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	・　計　点
・	測定８	処理作業後シート撤去後１週間以降	処理作業室内	・　計　点
・	測定９		調査対象室外部の付近	・　計　点

専門測定機関
※特定計量証明事業者認定を許可登録しているものとし、かつ、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。計数分析は、第１種作業環境測定士とする。

6.石綿含有建材の処理

作業主任者の選出 ［９．１．２(2)］
石綿作業主任技能講習又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者技能講習を終了したものの中から、「石綿作業主任者」を選任しなければならない。
除去作業者の教育 ［９．１．２(3)］
作業者は、終業時に石綿則第27条に基づく教育を受けたものとする。
また、一般健康診断、石綿健康診断及びじん肺健康診断を受信したものとし、肺機能に異常のないものとする。
特別管理産業廃棄物管理責任者の選出 ［９．１．２(4)］
排出業者は、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有するものを選任し管理しなければならない。
ただし、アスベスト含有成形板の処理工事を除く。
表示及び掲示 ［９．１．２(6)］
作業従事者が見やすい箇所に次の表示及び掲示を行う。
※石綿含有建材の有無の事前調査結果の概要
※石綿を取り扱う作業場であること
※石綿の人体に及ぼす作用
※石綿取扱い上の注意事項及び使用すべき保護具
※喫煙及び飲食の禁止
※関係者以外の立入禁止
周辺住民の見やすい箇所に以下の掲示を行う。
※「建築物等の解体等の作業に関するお知らせ（労働基準監督署への届出内容、粉じん飛散抑制措置装置、暴露防止措置等）」
※事前調査結果
保護具、保護衣 ［９．１．２(9)］
※作業内容に応じた、呼吸用保護具、保護めがねを使用すること。
除去したアスベスト含有物の保管、運搬等 ［９．１．３～５(3)］
※他の内装材、廃棄物等と分別保管
※保管場所での飛散防止を施す。また、アスベスト成形板を運搬する場合は、運搬車両の荷台全体をシートなどで覆い、飛散防止に努める。
※アスベスト等の保管場所である旨の標示を行う。

・石綿含有吹付け材の除去
※（財）日本建築センター、（財）建築保全センターの技術審査を受けた除去工法によるものとし、専門業者による責任施工とする。
除去対象範囲

材料名	使用箇所	厚さ(mm)	処理を行う範囲
			※図示　・全て
			※図示　・全て
			※図示　・全て
			※図示　・全て

除去工法　※［９．１．３(2)(7)］による　・

除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置
※湿潤化　・固形化
除去した石綿含有吹付け材等の処分（廃石綿等）
※埋立処分(管理型最終処分場)　・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

・石綿含有保温材等（石綿含有けい酸カルシウム板第二種含む）の除去
除去対象範囲

材料名	使用箇所	厚さ(mm)	処理を行う範囲
			※図示　・全て
			※図示　・全て
			※図示　・全て
			※図示　・全て

除去工法
・切断等を伴う除去
※（財）日本建築センター、（財）建築保全センターの技術審査を受けた除去工法とする
・非石綿含有部での切断
除去した石綿含有保温材等の飛散防止
※湿潤化　・固形化
除去した石綿含有吹付け材等の処分（廃石綿等）
※埋立処分(管理型最終処分場)　・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

・石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第一種)の除去
除去対象範囲

材料名	使用箇所	厚さ(mm)	処理を行う範囲
			※図示　・全て
			※図示　・全て
			※図示　・全て
			※図示　・全て

除去工法　※手ばらし　・切断等
隔離養生（負圧不要）方法
・図示による　・
足場
・図示による　・
除去した石綿含有けい酸カルシウム板第一種の処分（石綿含有産業廃棄物）
※埋立処分(管理型最終処分場)　・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
・

・石綿含有成形板(石綿含有ケイ酸カルシウム板第一種以外)の撤去
除去対象範囲

材料名	使用箇所	厚さ(mm)	処理を行う範囲
			※図示　・全て
			※図示　・全て
			※図示　・全て
			※図示　・全て

除去した石綿含有成形板の処分（石綿含有産業廃棄物）
・石綿含有せっこうボード
※埋立処分(管理型最終処分場)
・石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板
※埋立処分(安定型最終処分場)　・中間処分(溶融施設又は無害化処理施設)

・石綿含有仕上塗材（下地調整材含む）の除去
吹付タイル、吹付リシン除去
除去対象範囲

材料名	使用箇所	厚さ(mm)	処理を行う範囲
			※図示　・全て
			※図示　・全て
			※図示　・全て
			※図示　・全て

除去工法
国立研究開発法人建築研究所
「建築物の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術」に示される下記撤去工法より選定する。
・水洗い工法
・手工具ケレン工法
・集じん装置併用手工具ケレン工法
・高圧水洗工法（15MPa以下、30～50MPa 程度）
・集じん装置付き高圧水洗工法（15MPa以下、30～50MPa 程度）
・超高圧水洗工法（100MPa以上）
・集じん装置付き超高圧水洗工法（100MPa以上）
・集じん装置付き超高圧水洗工法（100MPa以上）・同時吸引式
・超音波ケレン工法
・超音波ケレン工法（HEPA フィルター付き掃除機併用）
・剥離剤併用手工具ケレン工法
・剥離剤併用高圧水洗工法（30～50MPa 程度）
・剥離剤併用超高圧水洗工法（100MPa以上）
・剥離剤併用超音波ケレン工法
・ディスクグラインダーケレン工法
・集じん装置付ディスクグラインダーケレン工法
・
・
養生方法
・
・

7.石綿含有建材除去後の仕上げ工事

・図示による

17 ユニット及びその他の工事

①	天井点検口	材　質　アルミニウム製（※額縁タイプ　・目地タイプ）　⊙450mm角　・600mm角
②	床点検口(化粧蓋)	材　質　オールステンレス製　600mm角　ボルト固定式　密閉型（防水・防臭型）
3	壁点検口	材　質　塩ビ製　300mm角　ケンドンシ式
④	パブリック用手摺	本体：機械設備工事　取付下地補強：本工事
⑤	室名札・ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ	室名札　・面付型　・点字型　※文字書入共 材質　⊙ アクリル製　⊙ アルミ製　・ステンレス製
6	エキスパンション・ジョイント金物	材質　・アルミ（内部壁、天井）　・ステンレス（屋根-外壁、外壁-外壁、内部床） クリアランス　・50　・100　・150 耐火性能　・有り（外部のみ）　・無し 防水型　・適用する　・適用しない
7	鏡	※クリアーミラー　t=5mm（耐食鏡）　四方ステンレスフレーム仕様　(20.2.9) 施工箇所　男女便所　手洗流し前
⑧	人工大理石製甲板	施工箇所　配管ライニング天板 材質、形状　ポリエステル系人工大理石　寸法、形状は図示による TOTO　マーブライトカウンター　甲板　MLK　又は同等品
9	造り付け家具	家具詳細図による　(12.2.2),(19.7.2) 家具製作所にて製作するものとし、製作に先立ち施工図作製のうえ、監督職員の承諾を得る。 ヤガミ　又は同等品
10	生徒用仮設ﾄｲﾚ設備	生徒用仮設トイレ機器　リース（４カ月） トイレハウス（水洗式）　小便器×　棟、洋便器×　棟 ステンレス流し№1600（３水栓）×　台
11	ｶｳﾝﾀｰ面台	カウンター・棚：アイカ　ＭＤメラミン板仕上　ＫＥＡタイプ　又は同等メーカー品 面台：アイカ　ＭＤメラミン板仕上　ＫＥＡタイプ　又は同等メーカー品
⑫	汚垂石	ＴＯＴＯ　ハイドロセラ・フロＰＵ（薄型）　ｔ＝７　又は同等メーカー品 （材料は機械設備工事より支給、取付は建築工事）
13	床見切	㈱アシスト　バスタライン　20-412S　又は同等品

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改後期工事
図面No.	A-05
図面名称	建築工事特記仕様書６　NOSCALE
設計日	2025年3月

工事区分表

下記の項目は○印部分を区分して施工する。但し図面その他に特記のあるものは、それに従う。

No	工事項目	建築	電気	機械			別途	備考
1	躯体貫通スリーブ入・箱入、躯体貫通コア抜き、開口新設	○	○	○				・貫通ｺｱ抜きは鉄筋探査実施後施工すること
2	躯体貫通孔・箱入れ部の施工後の孔埋め	○	○	○				
3	設備用躯体貫通の補強筋及び開口部補強筋	○						
4	ＡＬＣ板の補強を要しない貫通用の穴開け							
5	ＡＬＣ板の設備貫通用の開口補強、機器取付用下地補強							
6	ＬＧＳ壁下地の設備貫通用の開口補強、機器取付用下地補強	○						手摺・衛生器具取付下地補強含む
7	地下ピットの躯体内外防水仕上、マンホール、タラップ並びに連通管							
8	点検口の製作取付（床、壁、天井）	○						
9	吹出口、吸込口等の埋込器具取付のための墨出し							
10	吹出口、吸込口等の埋込器具取付のための孔開・補強							
11	建物外壁に取付く給・排気ガラリの製作取付							
12	建具ガラリの製作取付	○						
13	機械・機器類の基礎（建築図面記載のものに限る）							
14	機器用アンカーボルト（　〃　）							
15	消火用充水槽							
16	受水槽・消火用充水槽基礎							
17	流し台							
18	便所廻りの手摺			○				取付下地補強建築工事 補強はメーカー仕様による
19	換気機器			○				
20	同上取付枠							
21	天井扇・ダクト・ガラリ・ベントキャップ			○				
22	フードの製作・取付	○		○				取付は建築工事
23	電動シャッターの一次側配管配線							
24	電動シャッターの二次側配管配線・調整							
25	防火・防煙シャッターの煙感知器・連動装置・制御盤							
26	防火扉の一次側配管配線							
27	防火扉の二次側配管配線・調整、開放装置							
28	同上煙感知器・連動装置・制御盤							
29	液面電極棒の取付及び調整(消火用充水槽)							
30	加圧ポンプユニット 電源配管配線							
31	同上 制御・警報用配管配線							
32	給湯設備の一次側配管配線及びリモコン用配管							
33	同上二次側配管配線及びリモコン用配線・調整							
34	洗面カウンター	○						取付下地補強建築工事 補強はメーカー仕様による
35	洗面カウンター用洗面器			○				
36	消火ポンプユニット 電源配管配線							
37	同上 制御・警報用配管配線							
38	照明器具・配管・ライティングダクト等吊ボルト用インサート		○					
39	ダクト・給排水管等吊りボルト用インサート			○				
40	厨房器具							
41	同上接続配管・電源接続工事							
42	消火器							
43	消火器ボックス							
44	化粧鏡(一般単体鏡　既製品)			○				新設全て
45	化粧鏡(大型鏡)	○						新設全て
46	電気錠の取付							

No	工事項目	建築	電気	機械			別途	備考
47	電気錠の操作盤・制御盤							
48	電気錠の電源・配管・配線							
49	昇降機の一次側配管配線							
50	昇降機の出入口・三方枠・カゴ内インターホン取付・制御盤・二次側配管配線							
51	鉄骨構造階の出入口三方枠・敷居・押しボタン等の固定用鋼材の設置							
52	鉄骨構造階の出入口機器と壁面の耐火処理							
53	鉄骨構造階における中間ビームの設置							
54	鉄骨構造階におけるレールブラケット・ポストアングル固定用ファスナの設置及び錆止メ塗装							
55	昇降機のインターホン用配線							
56	昇降機のインターホン用配管（シャフト内）							
57	昇降機のインターホン用配管（シャフト外）							
58	昇降機監視室等のインターホン取付調整							
59	昇降機監視用モニターの設置							
60	昇降機ピット内点検用コンセント							
61	昇降路・ピットモルタル防水仕上げ							
62	昇降機機械室内ホイスティングフック							
63	昇降機各出入口・インジケーター押ボタン等の孔明工事							
64	昇降機機械室床嵩上げコンクリート打設及び防塵塗装							
65	空調機への電源配管配線工事							
66	同上内～外機への渡り配線（冷媒配管共巻き）							
67	空調機及び全熱交換器のリモコン用配線・取付・調整							
68	既設土間コンクリートはつり、復旧	○						設備図記載のものは除く。
69	犬走り・側溝部分の撤去及び復旧							
70	設備配管改修に伴う下階既設天井仕上の撤去、復旧	○						
71	建具に設置する換気扇取付または配管貫通用のアルミパネル							(建)…配管貫通用ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙ(開口共) (機)…換気扇取付
72	既存換気扇開口部の閉塞							
73	機械警備用空配管（既設配管利用）							
74	構内舗装の撤去及び仮復旧	○						
75	構内舗装復旧	○						
76	既存汚水貯留槽　汚泥抜取り・清掃消毒							
77	既存浄化槽　機器・配管・槽撤去							
78	既存グリストラップ　土工事・躯体撤去							
79	既存浄化槽　一次側電源撤去							
80	諸官庁等検査･申請手続き及び、それに伴う費用	○	○	○				
81	監督員事務所							
82	工事範囲の仮囲い、ゲ-ト及び敷き鉄板等	○						
83	工事中に於ける水道、下水、ガス、電気の使用料金	○						現場事務所のみ適用
84	既設高圧受変電設備・非常用発電機廻りフェンス工事							
85	生徒用仮設トイレ本体工事							
86	生徒用仮設トイレ照明器具及び電源工事							
87	生徒用仮設トイレ給排水配管及び接続工事							
88								
89								
90								

設備用の開口補強数量表

1．設備用躯体貫通補強筋及び開口補強筋

1）梁貫通補強筋（貫通孔Ｄ／３以下、梁巾＝４００以下の場合、Ｄは梁せい）

貫通内径（φ）	数　量	備　考
100＜H≦200		
200＜H≦300		
300＜H≦400		

※貫通内径１００φ未満の時は補強を必要としない。　H：貫通内径㎜

2）スラブ開口補強筋

開口面積（㎡）	数　量	備　考
Ａ≦０．３		
０．３＜Ａ≦１．０		
１．０＜Ａ≦２．５		

※スラブ筋を切断しない場合は補強を必要としない。　Ａ：開口面積㎡

3）壁開口補強

開口寸法（㎜）	数　量	備　考

※壁面を切断しない場合は補強を必要としない。

2．設備用下地材開口補強

1）壁開口補強　軽量鉄骨下地、木軸等

開口寸法（㎡）	数　量	備　考
0.0 ～ 0.5 （床）		
0.0 ～ 0.5 （壁）		
1.1 ～ 1.5		
1.6 ～ 2.0		
2.0 ～ 2.5		

2）天井開口補強

開口面積（㎡）	数　量	備　考
0.0 ～ 0.5	５２	電気設備用（ダウンライト）
0.0 ～ 0.5	１	埋め込み照明（600角）
0.0 ～ 0.5	２３	機械設備用
0.6 ～ 1.0		埋め込み照明
1.1 ～ 1.5		天井カセットエアコン
600×600　天井点検口		
450×450　天井点検口	７	

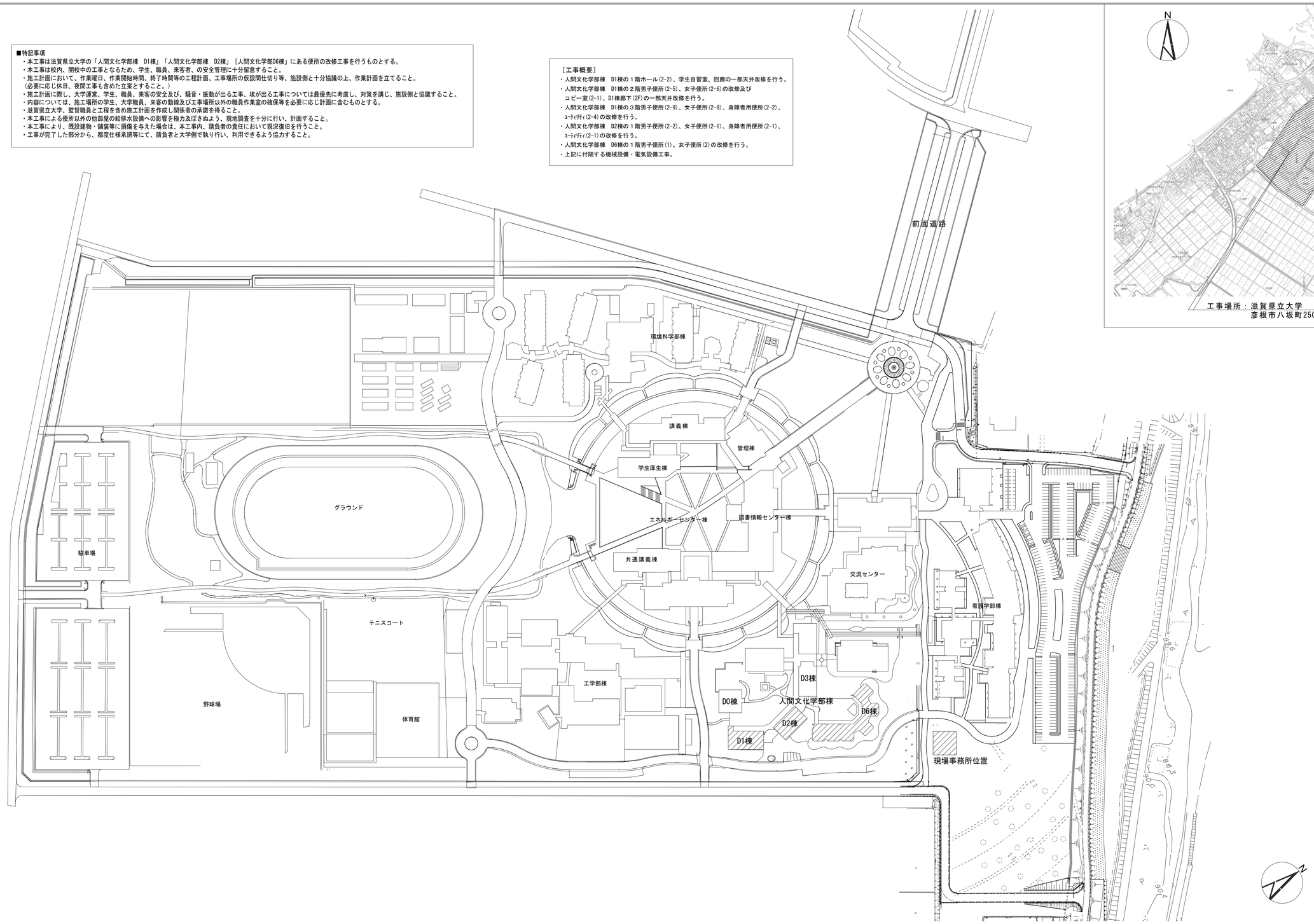
特記事項

１．この表（工事区分表）及び図面その他に記載がなく工事区分が不明なもの、または必要な工事については、協議の上監督員の指示により区分を決定する。　この場合、工事費の増減の対象とはしない。

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称 滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-06
			図面名称 工事区分表　NOSCALE	設計日 2025年3月

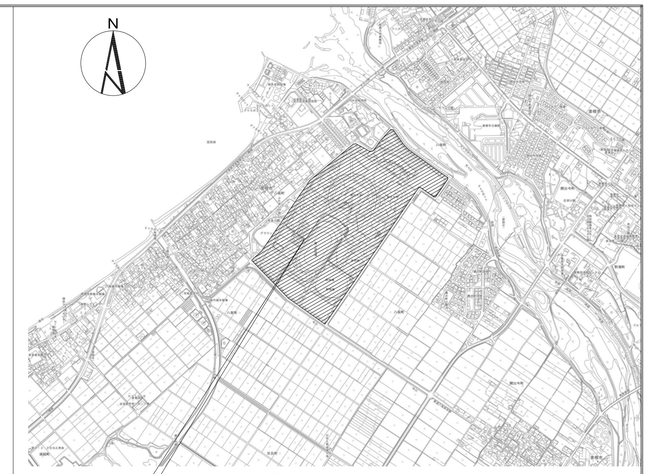
■特記事項
・本工事は滋賀県立大学の「人間文化学部棟　D1棟」「人間文化学部棟　D2棟」［人間文化学部D6棟］にある便所の改修工事を行うものとする。
・本工事は校内、開校中の工事となるため、学生、職員、来客者、の安全管理に十分留意すること。
・施工計画において、作業曜日、作業開始時間、終了時間等の工程計画、工事場所の仮設間仕切り等、施設側と十分協議の上、作業計画を立てること。
（必要に応じ休日、夜間工事も含めた立案とすること。）
・施工計画に際し、大学運営、学生、職員、来客の安全及び、騒音・振動が出る工事、埃が出る工事については最優先に考慮し、対策を講じ、施設側と協議すること。
・内容については、施工場所の学生、大学職員、来客の動線及び工事場所以外の職員作業室の確保等を必要に応じ計画に含むものとする。
・滋賀県立大学、監督職員と工程を含め施工計画を作成し関係者の承諾を得ること。
・本工事による便所以外の他部屋の給排水設備への影響を極力及ぼさぬよう、現地調査を十分に行い、計画すること。
・本工事により、既設建物・舗装等に損傷を与えた場合は、本工事内、請負者の責任において現況復旧を行うこと。
・工事が完了した部分から、都度仕様承諾等にて、請負者と大学側で執り行い、利用できるよう協力すること。

［工事概要］
・人間文化学部棟　D1棟の１階ホール(2-2)、学生自習室、回廊の一部天井改修を行う。
・人間文化学部棟　D1棟の２階男子便所(2-5)、女子便所(2-6)の改修及び
コピー室(2-1)、D1棟廊下(2F)の一部天井改修を行う。
・人間文化学部棟　D1棟の３階男子便所(2-9)、女子便所(2-8)、身障者用便所(2-2)、
ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ(2-4)の改修を行う。
・人間文化学部棟　D2棟の１階男子便所(2-2)、女子便所(2-1)、身障者用便所(2-1)、
ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ(2-1)の改修を行う。
・人間文化学部棟　D6棟の１階男子便所(1)、女子便所(2)の改修を行う。
・上記に付随する機械設備・電気設備工事。



配置図　1/1500

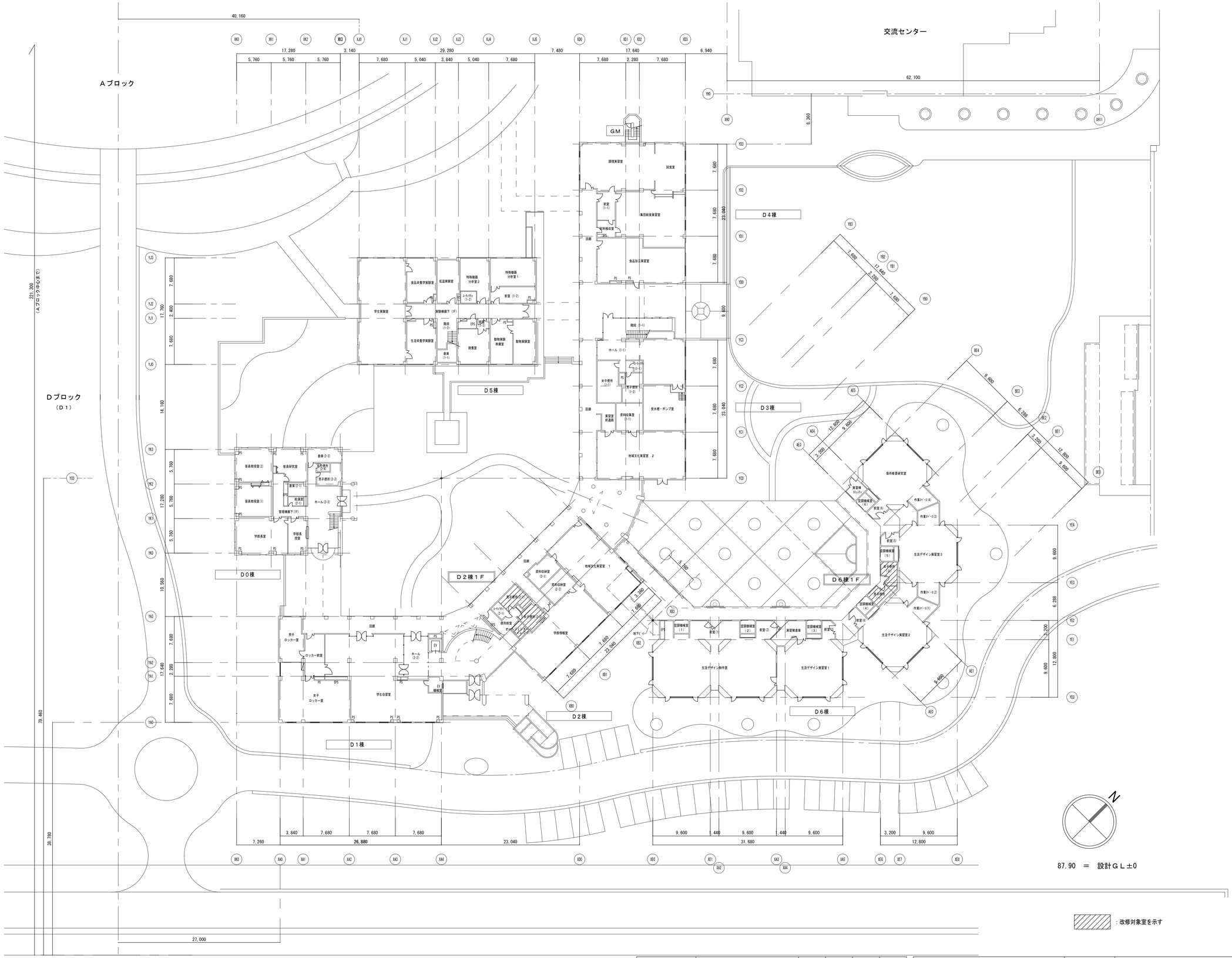
：改修棟を示す



工事場所：滋賀県立大学
彦根市八坂町2500

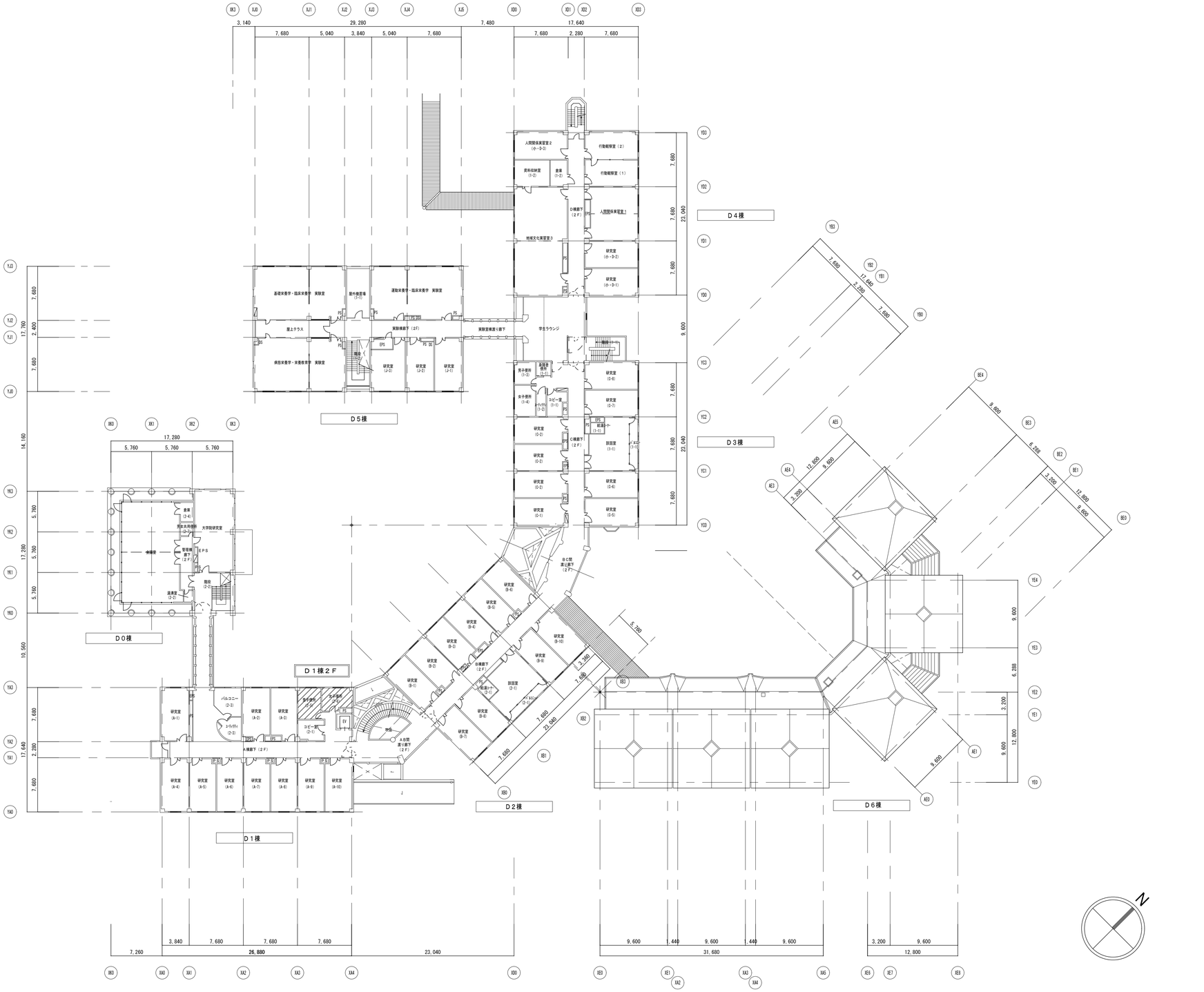
附近見取図　1/4000

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-07
							図面名称	配置図　附近見取図　S = 1/1500	設計日 2025年3月



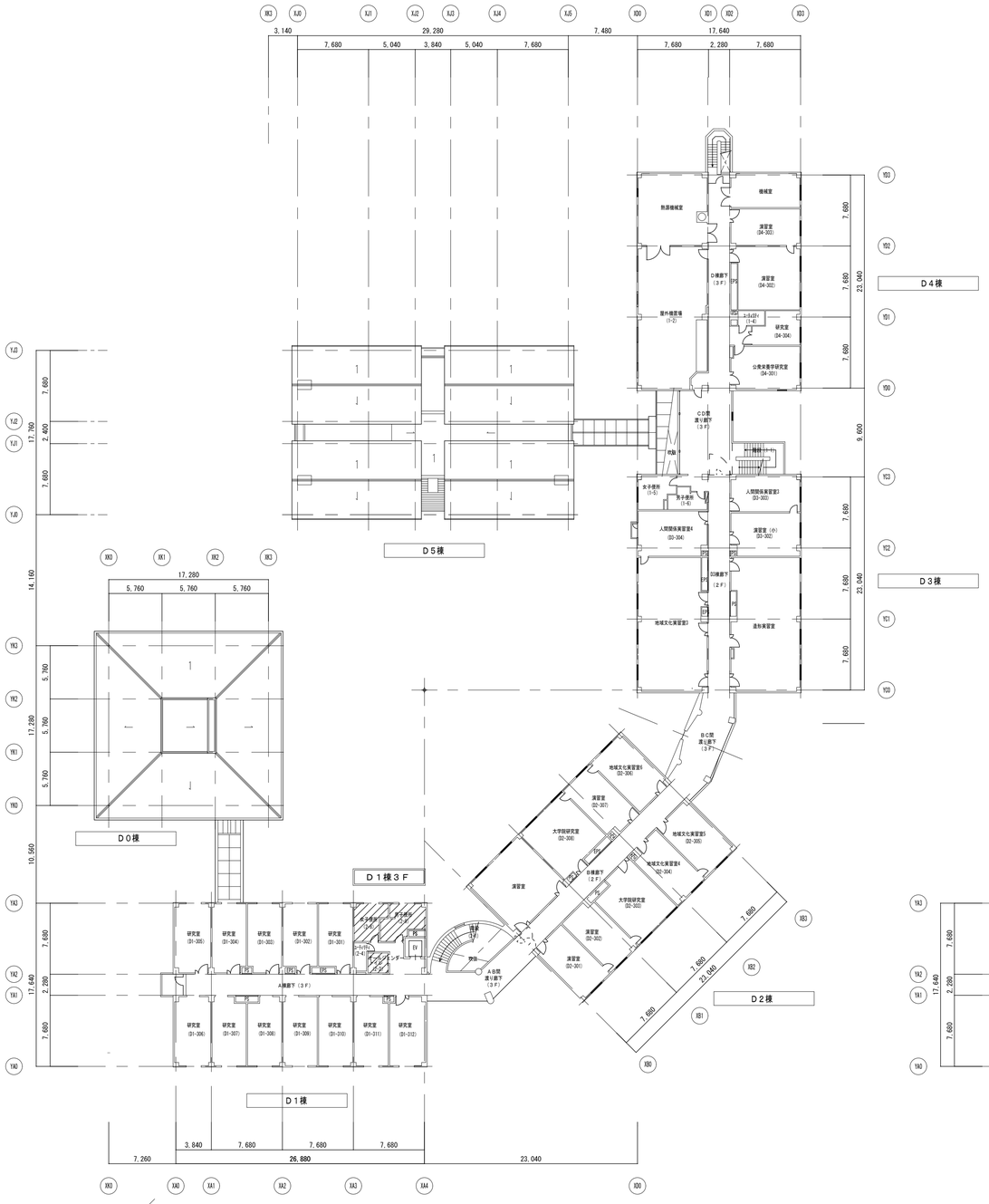
：改修対象室を示す

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課			株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-08
					図面名称	人間文化学部 1階平面図 S =1/300	設計日 2025年3月

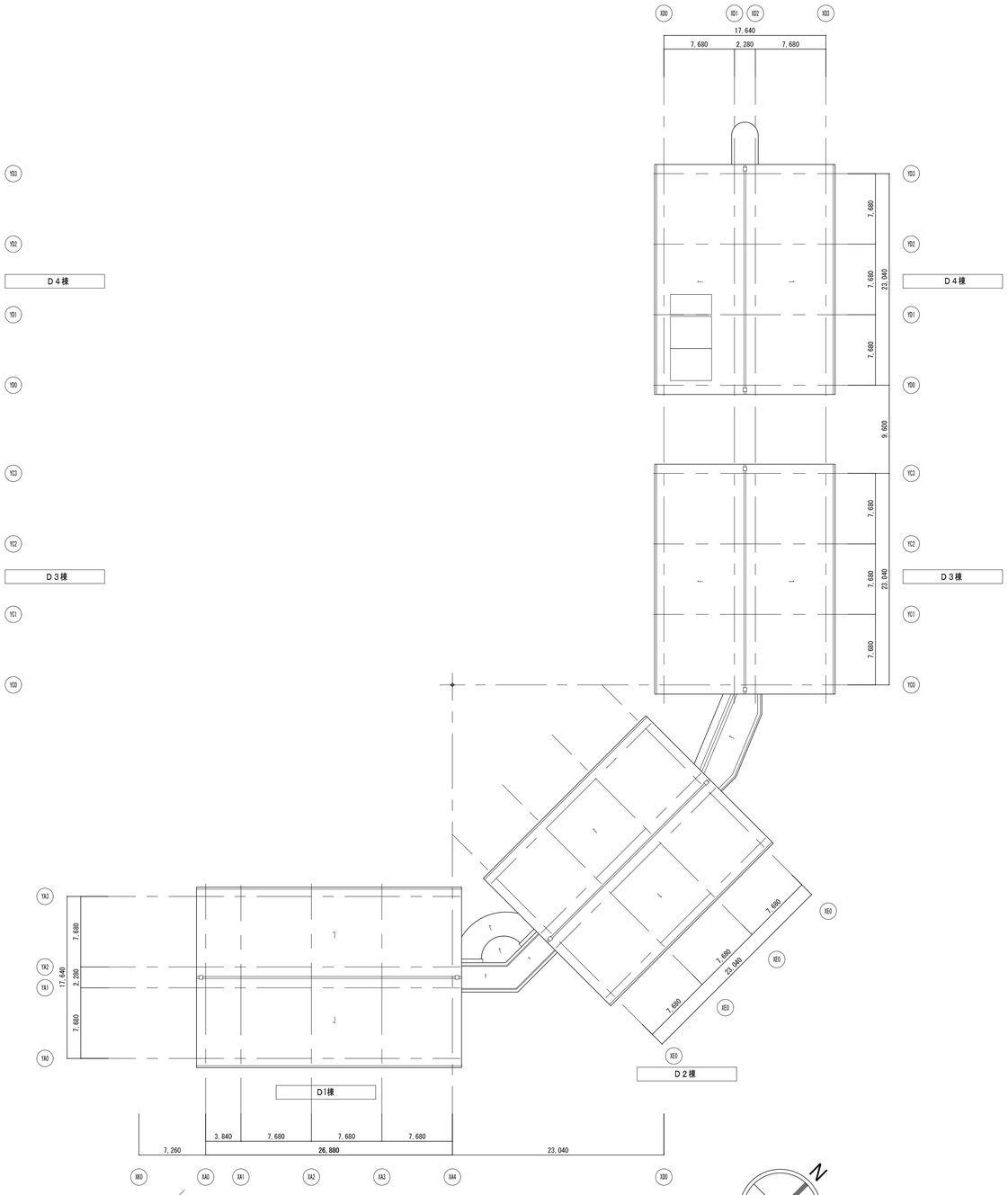


：改修対象室を示す

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-09
						図面名称	人間文化学部　2階平面図　S =1/300	設計日 2025年3月



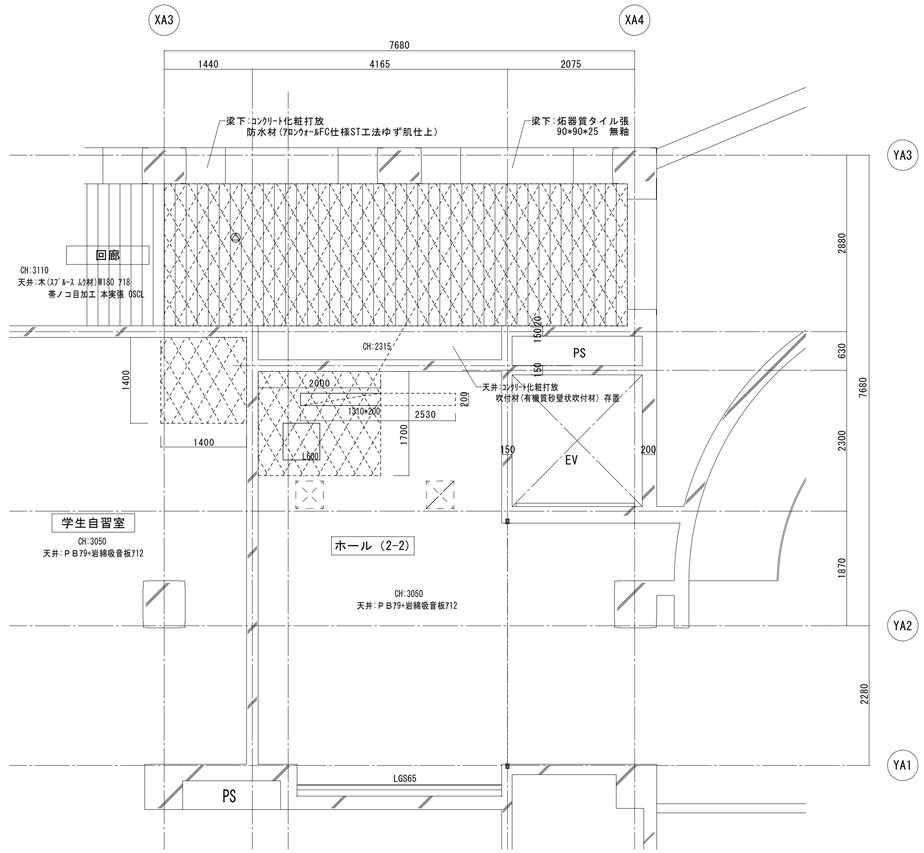
3階平面図



屋根伏図

：改修対象室を示す

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-10
						図面名称	人間文化学部　3階平面図　S =1/300	設計日 2025年3月



D1　1階天井伏図（改修前・改修後）　S=1/50

解体・復旧撤去範囲を示す（天井下地共）

天井点検口　アルミ製４５０角（開口補強共）を示す

機械設備用天井開口（開口補強共）を示す
（寸法は図示）

電気設備用天井開口φ１５０（開口補強共）を示す

電気設備用天井開口φ１５０（開口補強共）を示す

埋込照明用天井開口 600角（開口補強共）を示す

既設天井点検口を示す（特記なき限り450角）

内部仕上表

階数	室名		床高 基準FL±	天井高 FL±	床 下地	床 仕上	巾木 仕上	腰壁 下地	腰壁 仕上	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	廻り縁 仕上	室名		備考
1階	ホール(2-2)	改修前	±0	3,050	C							LGS(撤去)	ＰＢ 厚９+岩綿吸音板７１２（一部撤去）	塩ﾋﾞ製(撤去)	ホール(2-2)		
		改修後	±0	3,050								LGS(新設)	ＰＢ 厚９+岩綿吸音板７１２（一部新設）	塩ﾋﾞ製(新設)			
	学生自習室	改修前	±0	3,050	C							LGS(撤去)	ＰＢ 厚９+岩綿吸音板７１２（一部撤去）	塩ﾋﾞ製(撤去)	学生自習室		
		改修後	±0	3,050								LGS(新設)	ＰＢ 厚９+岩綿吸音板７１２（一部新設）	塩ﾋﾞ製(新設)			
	回廊	改修前	±0	3,110	C							LGS(撤去)	ﾎ(ｽｷﾞﾙｰｽ ﾑｸ材)W180 厚１８ 帯ノコ目加工 本実張 OSCL 板張下地45*60@720共（一部撤去）	木製OSCL(一部撤去)	回廊		
		改修後	±0	3,110								LGS(新設)	ﾎ(ｽｷﾞﾙｰｽ ﾑｸ材)W180 厚１８ 帯ノコ目加工 本実張 OSCL 板張下地45*60@720共（一部新設）	木製OSCL(一部新設)			

下地凡例

C	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地		
MO	ﾓﾙﾀﾙ塗		
LGS	軽量鉄骨下地		
CB	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ		
SL	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ		
W	木下地		

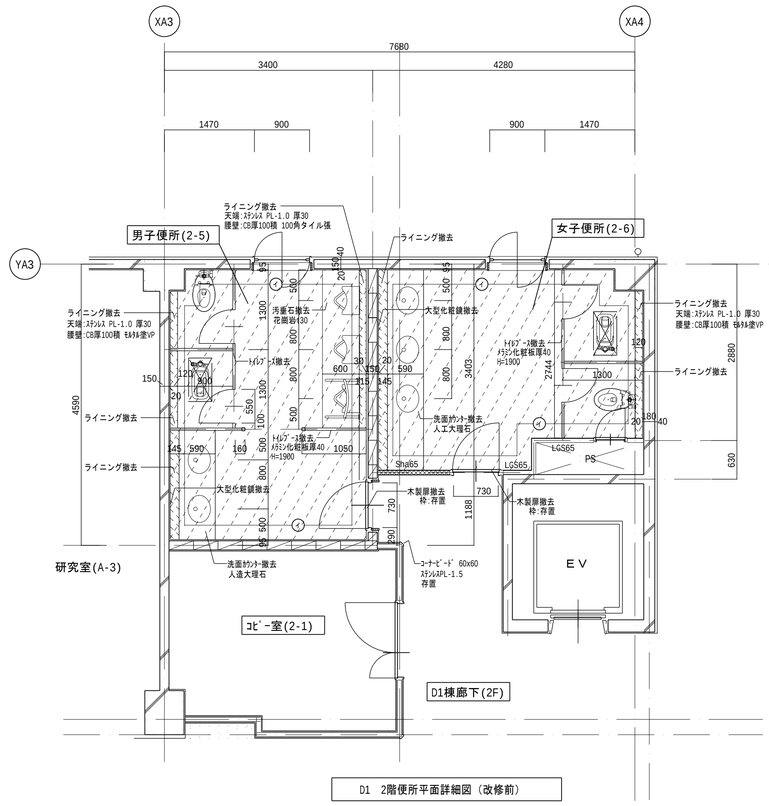
防火材料認定番号(認定番号は参考)

EP塗・EP-G塗	不燃　NM-8585		
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚9.5	準不燃　QM-9828		
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚12.5	不燃　NM-8619		
岩綿吸音板 厚12	不燃　NM-8599		
ﾒﾗﾐﾝ化粧板 厚3.0	不燃　NM-2183		

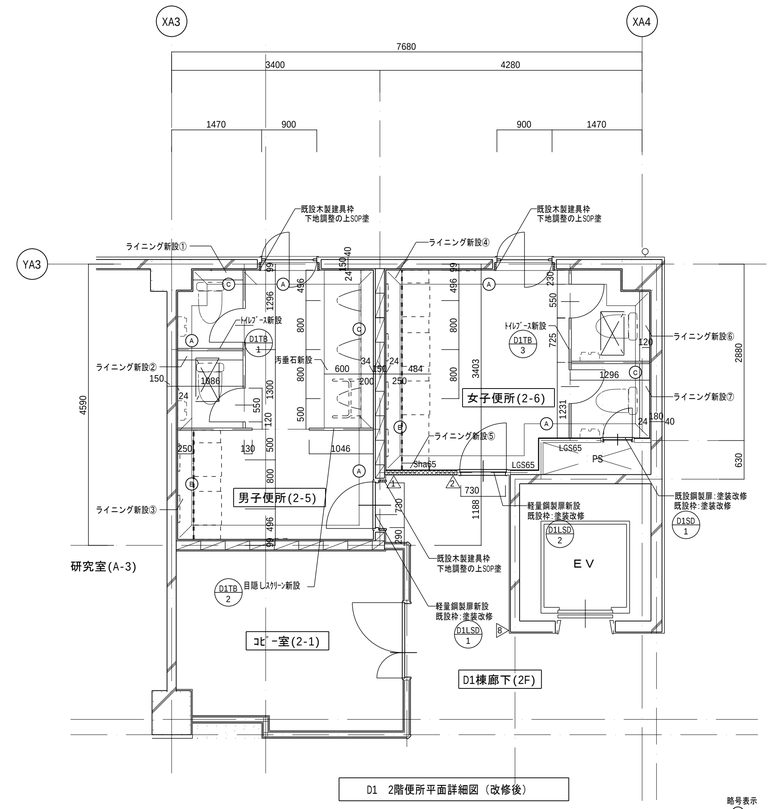
特記事項

床既設面下地調整については、速硬型調整材にて下地を行うこと。	天井点検口450角を適宜設けること。	天井点検口　内部450角とする。
塩ﾋﾞ製廻り縁はコの字ﾀｲﾌﾟとする。	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板下地材については十分な養生期間を持ち、施工要領による乾燥状態にて施工を行うこと。	手洗部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB　厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板　厚３貼（一般色）
ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼端部及び巾木取合部にはｱﾙﾐ製見切りを取り付けること。	内装仕上げ材は、F☆☆☆☆仕様とする。	大便器部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB　厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板　厚３貼（柄）
衛生器具等の壁取付部分には補強材またはGB-Sに替え構造用合板にて補強を行うこと。	天井裏・小屋裏の使用材料は、F☆☆☆仕様とする。	

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課		株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-11
				図面名称	D1　1階ホール(2-2)、学生自習室、回廊　天井伏図（改修前・改修後）　S = 1/50	設計日 2025年3月



D1 2階便所平面詳細図（改修前）



D1 2階便所平面詳細図（改修後）

略号表示

Ⓐ 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼（一般色）(新設)

Ⓑ 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼（指定色）(新設)

Ⓒ 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼（柄）(新設)

※ﾗｲﾆﾝｸﾞ新設

① ８１６×１５０×Ｈ ９００ ×１箇所
②１０６６×１５０×Ｈ ９００ ×１箇所
③１７７６×２５０×Ｈ ９００ ×１箇所
④３２５９×２５０×Ｈ ９００ ×１箇所
⑤ ４５０×１００×Ｈ ９００ ×１箇所
⑥１１３６×１５０×Ｈ ９００ ×１箇所
⑦１２１１×１５０×Ｈ ９００ ×１箇所

△ サイン設置位置を示す（サイン詳細図参照）

和便器撤去部開口閉塞（７１０×３８０）
ｺﾝｸﾘｰﾄ(21N/m3)厚１５０直押え
後施工アンカー（差筋アンカー Ｄ１３
薬液固定型）＠２００（１ヵ所につき１４本）

Sha** 既設遮音仕様壁を示す（**は壁厚）
[- 30*60*10*2.3 グラスウール厚50充填

略号表示

ⓥ VP塗(塗膜除去)

解体撤去範囲を示す

ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端天端:ｽﾃﾝﾚｽ PL-1.0,CB 厚120下地 ﾀｲﾙ張

和便器撤去部
ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ 厚１５０斫り撤去
（７１０×３８０）を示す（四周カッター切）

Sha** 既設遮音仕様壁を示す（**は壁厚）
[- 30*60*10*2.3 グラスウール厚50充填

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ全撤去、洗面カウンター撤去、大型化粧鏡撤去
※衛生器具等撤去(機械設備)
（衛生陶器、配管、手摺）
※照明器具等撤去(電気設備)
※仮設間仕切壁（LGS50 GB-R t12.5程度）、
工事用出入口を係員と協議の上適宜設置する事

内部仕上表

階数	室名		床高 基準FL±	天井高 FL±	床 下地	床 仕上	巾木 仕上	腰壁 下地	腰壁 仕上	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	廻り縁 仕上	室名		備考
2階	男子便所(2-5)	改修前	±0	2,400 一部2,600	MO	ビニールシート厚2.8(撤去) 小便器下:花崗岩水磨き t 30	ｽﾃﾝﾚｽPL-1.5H=60(撤去)	MO	小便器前：100角タイル貼（撤去）	MO	パーライトモルタル ＶＰ(塗装撤去) 一部 ＶＰ(塗装撤去)	LGS(撤去)	ケイカル板 厚６ ＶＰ（撤去） 見切:木製OP 45*45(撤去)	塩ﾋﾞ製(撤去)	男子便所(2-5)		建築：ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ、洗面カウンター、大型化粧鏡、ﾗｲﾆﾝｸﾞCB積撤去 機械設備：衛生器具、小便器手摺撤去
		改修後	±0	2,400 一部2,600	MO	超防汚性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0貼(新設) 汚垂石（新設）	床材巻上げ巾木 H=100(新設)	-	-	下地調整	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼 M工法（新設）	LGS(新設)	ＧＢ 厚９．５捨貼、岩綿吸音板 厚１２(新設) 見切:塩ﾋﾞ製	塩ﾋﾞ製(新設)			建築：ﾗｲﾆﾝｸﾞ天板 人工大理石甲板t12、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ新設 機械設備：衛生器具、小便器手摺、化粧鏡
	女子便所(2-6)	改修前	±0	2,400 一部2,600	MO	ビニールシート厚2.8(撤去)	ｽﾃﾝﾚｽPL-1.5H=60(撤去)	-	-	MO	パーライトモルタル ＶＰ(塗装撤去) 一部 ＶＰ(塗装撤去)	LGS(撤去)	ケイカル板 厚６ ＶＰ（撤去） 見切:木製OP 45*45(撤去)	塩ﾋﾞ製(撤去)	女子便所(2-6)		建築：ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ、洗面カウンター、大型化粧鏡、ﾗｲﾆﾝｸﾞCB積撤去 機械設備：衛生器具撤去
		改修後	±0	2,400 一部2,600	MO	超防汚性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0貼(新設)	床材巻上げ巾木 H=100(新設)	-	-	下地調整	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼 M工法（新設）	LGS(新設)	ＧＢ 厚９．５捨貼、岩綿吸音板 厚１２(新設) 見切:塩ﾋﾞ製	塩ﾋﾞ製(新設)			建築：ﾗｲﾆﾝｸﾞ天板 人工大理石甲板t12、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ新設 機械設備：衛生器具、化粧鏡
	ｺﾋﾞｰ室(2-1)	改修前	±0	2,400								LGS(一部撤去)	化粧ＰＢ厚９(一部撤去)	塩ﾋﾞ製(一部撤去)	ｺﾋﾞｰ室(2-1)		建築： 機械設備：
		改修後	±0	2,400								LGS(一部新設)	化粧ＰＢ厚９．５(一部新設)	塩ﾋﾞ製(一部新設)			建築： 機械設備：
	D1棟廊下(2F)	改修前	±0	2,285								LGS(一部撤去)	ＰＢ厚９+岩綿吸音板厚１２(存置) 見切:木製OP 45*45(存置)	塩ﾋﾞ製(存置)	D1棟廊下(2F)		建築： 機械設備：
		改修後	±0	2,285								LGS(一部新設)	ＰＢ厚９+岩綿吸音板厚１２(既設のまま) 見切:木製OP 既設のまま	塩ﾋﾞ製(既設のまま)			建築： 機械設備：

下地凡例

C	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地		
MO	ﾓﾙﾀﾙ塗		
LGS	軽量鉄骨下地		
CB	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ		
SL	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ		
W	木下地		

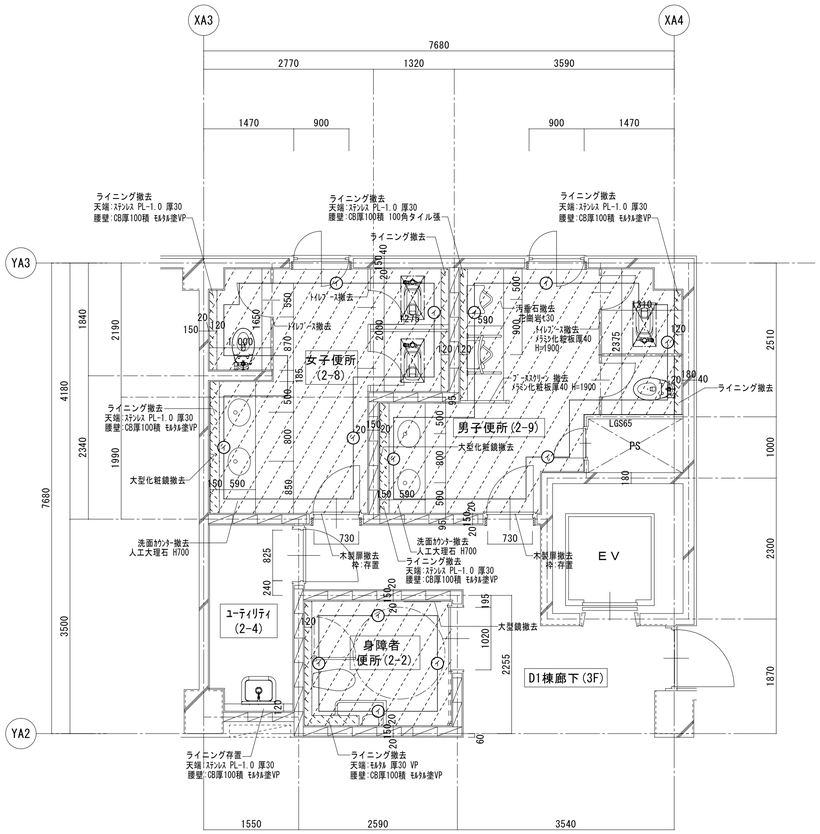
防火材料認定番号(認定番号は参考)

EP塗・EP-G塗	不燃 NM-8585		
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚9.5	準不燃 QM-9828		
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚12.5	不燃 NM-8619		
岩綿吸音板 厚12	不燃 NM-8599		
ﾒﾗﾐﾝ化粧板 厚3.0	不燃 NM-2183		

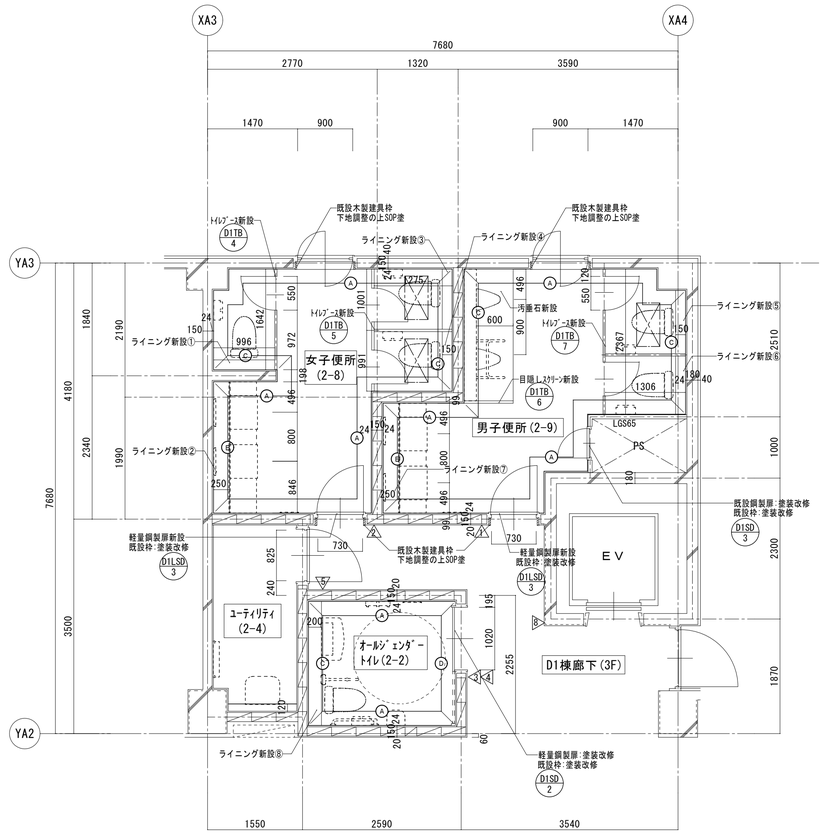
特記事項

床既設面下地調整については、速硬型調整材にて下地を行うこと。	天井点検口450角を適宜設けること。	天井点検口 内部450角とする。	【ﾒﾗﾐﾝ化粧板 M工法】 既設ﾓﾙﾀﾙ面及びボード系下地の仕上塗装等を撤去の上、プライマー処理を行いﾒﾗﾐﾝ化粧板の施工にあたること。
塩ﾋﾞ製廻り縁はコの字ﾀｲﾌﾟとする。	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板下地材については十分な養生期間を持ち、施工要領による乾燥状態にて施工を行うこと。	手洗部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB 厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板 厚３貼（一般色）	
ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼端部及び巾木取合部にはｱﾙﾐ製見切りを取り付けること。	内装仕上げ材は、F☆☆☆☆仕様とする。	大便器部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB 厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板 厚３貼（柄）	
衛生器具等の壁取付部分には補強材またはGB-Sに替え構造用合板にて補強を行うこと。	天井裏・小屋裏の使用材料は、F☆☆☆仕様とする。		

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称 滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-12
						図面名称 D1 2階便所平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2025年3月



D1 3階便所平面詳細図（改修前）



D1 3階便所平面詳細図（改修後）

略号表示

Ⓐ 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼（一般色）（新設）

Ⓑ 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼（指定色）（新設）

Ⓒ 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼（柄）（新設）

Ⓓ 壁下地調整の上化粧シート貼 （新設）

※ライニング新設

① ９６６×１５０×Ｈ ９００ ×１箇所
②２１４２×２５０×Ｈ ９００ ×１箇所
③ ９８１×１５０×Ｈ ９００ ×１箇所
④ ９７１×１５０×Ｈ ９００ ×１箇所
⑤１０３０×１５０×Ｈ ９００ ×１箇所
⑥ ９４６×１５０×Ｈ ９００ ×１箇所
⑦１７９２×２５０×Ｈ ９００ ×１箇所
⑧２０２２×２００×Ｈ ９００ ×１箇所

△ サイン設置位置を示す（サイン詳細図参照）

和便器撤去部開口閉塞（７１０×３８０）
ｺﾝｸﾘｰﾄ(21N/m2)厚１５０直押え
後施工アンカー（差筋アンカー Ｄ１３
薬液固定型）＠２０（１ヵ所につき１４本）

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ全撤去、洗面カウンター撤去、大型鏡撤去
※衛生器具等撤去(機械設備)
（衛生陶器、配管、手摺）
※照明器具等撤去(電気設備)
※仮設間仕切壁 (LGS50 GB-R t12.5程度)、
工事用出入口を係員と協議の上適宜設置する事

略号表示

Ⓐ AEP塗(塗膜除去)

解体撤去範囲を示す

ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端ｽﾃﾝﾚｽ PL-1.0(一部ﾓﾙﾀﾙ 厚30 VP),CB 厚120下地 ﾀｲﾙ張

和便器撤去部
ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ 厚１５０斫り撤去
（７１０×３８０）を示す（四周カッター切）

内部仕上表

階数	室名		床高 基準FL±	天井高 FL±	床 下地	床 仕上	巾木 仕上	腰壁 下地	腰壁 仕上	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	廻り縁 仕上	室名		備考
1階	女子便所(2-8)	改修前	±0	2,400 一部2,600	MO	ビニールシート厚2.8(撤去)	ｽﾃﾝﾚｽPL-1.5H=60(撤去)	MO	－	MO	パーライトモルタル ＶＰ(塗装撤去) 一部 ＶＰ(塗装撤去)	LGS(撤去)	ケイカル板 厚６ ＶＰ（撤去） 見切:木製OP 45*45(撤去)	塩ﾋﾞ製(撤去)	女子便所(2-8)		建築：ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ、洗面カウンター、大型化粧鏡、ﾗｲﾆﾝｸﾞCB積 撤去 機械設備：衛生器具撤去
		改修後	±0	2,400 一部2,600	MO	超防汚性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0貼(新設)	床材巻上げ巾木 H=100(新設)	－	－	下地調整	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼 M工法（新設）	LGS(新設)	ＧＢ 厚９．５捨貼、岩綿吸音板 厚１２(新設) 見切:塩ﾋﾞ製	塩ﾋﾞ製(新設)			建築：ﾗｲﾆﾝｸﾞ天板 人工大理石甲板t12、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ新設 機械設備：衛生器具、化粧鏡 新設
	男子便所(2-9)	改修前	±0	2,400 一部2,600	MO	ビニールシート厚2.8(撤去) 小便器下:花崗岩水磨き t30	ｽﾃﾝﾚｽPL-1.5H=60(撤去)	MO	小便器前：100角タイル貼（撤去）	MO	パーライトモルタル ＶＰ(塗装撤去) 一部 ＶＰ(塗装撤去)	LGS(撤去)	ケイカル板 厚６ ＶＰ（撤去） 見切:木製OP 45*45(撤去)	塩ﾋﾞ製(撤去)	男子便所(2-9)		建築：ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ、洗面カウンター、大型化粧鏡、ﾗｲﾆﾝｸﾞCB積 撤去 機械設備：衛生器具、小便器手摺撤去
		改修後	±0	2,400 一部2,600	MO	超防汚性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0貼(新設) 汚垂石（新設）	床材巻上げ巾木 H=100(新設)	－	－	下地調整	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼 M工法（新設）	LGS(新設)	ＧＢ 厚９．５捨貼、岩綿吸音板 厚１２(新設) 見切:塩ﾋﾞ製	塩ﾋﾞ製(新設)			建築：ﾗｲﾆﾝｸﾞ天板 人工大理石甲板t12、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ新設 機械設備：衛生器具、化粧鏡、小便器手摺 新設
	身障者便所(2-2)	改修前	±0	2,400	MO	ビニールシート厚2.8(撤去)	ｽﾃﾝﾚｽPL-1.5H=60(撤去)	MO	－	MO	パーライトモルタル ＶＰ(塗装撤去) 一部 ＶＰ(塗装撤去)	LGS(撤去)	ケイカル板 厚６ ＶＰ（撤去）	塩ﾋﾞ製(撤去)	身障者便所(2-2)		建築：ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ、洗面カウンター、ﾗｲﾆﾝｸﾞ CB積 大型鏡 撤去 機械設備：衛生器具、化粧鏡、L型手摺、可動手摺 撤去
	ｵｰﾙｼﾞｪﾝﾀﾞｰﾄｲﾚ(2-2)	改修後	±0	2,400	MO	超防汚性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0貼(新設)	床材巻上げ巾木 H=100(新設)	－	－	下地調整	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼 M工法（新設）	LGS(新設)	ＧＢ 厚９．５捨貼、岩綿吸音板 厚１２(新設)	塩ﾋﾞ製(新設)	ｵｰﾙｼﾞｪﾝﾀﾞｰﾄｲﾚ(2-2)		建築：ﾗｲﾆﾝｸﾞ天板 人工大理石甲板t12新設 機械設備：衛生器具、L型手摺、はね上げ手摺、化粧鏡、ﾌｨｯﾃｨﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ、ﾍﾞﾋﾞｰﾁｪｱ 新設

下地凡例

C	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地		
MO	ﾓﾙﾀﾙ塗		
LGS	軽量鉄骨下地		
CB	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ		
SL	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ		
W	木下地		

防火材料認定番号(認定番号は参考)

EP塗・EP-G塗	不燃	NM-8585	
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚9.5	準不燃	QM-9828	
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚12.5	不燃	NM-8619	
岩綿吸音板 厚12	不燃	NM-8599	
ﾒﾗﾐﾝ化粧板 厚3.0	不燃	NM-2183	

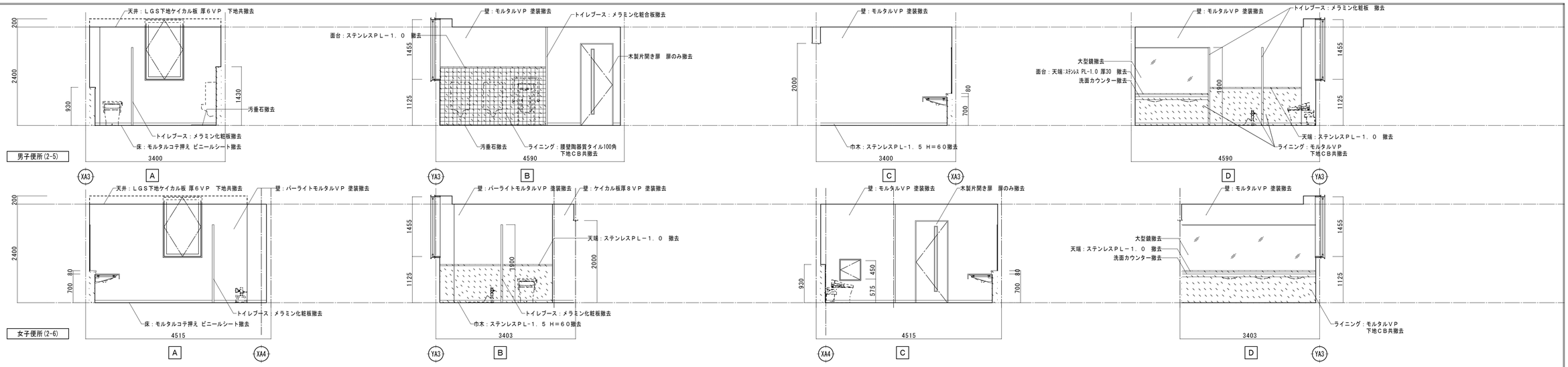
特記事項

床既設面下地調整については、速硬型調整材にて下地を行うこと。	天井点検口450角を適宜設けること。	天井点検口 内部450角とする。	【ﾒﾗﾐﾝ化粧板 M工法】 既設ﾓﾙﾀﾙ面及びボード系下地の仕上塗装等を撤去の上、プライマー処理を行いﾒﾗﾐﾝ化粧板の施工にあたること。
塩ﾋﾞ製廻り縁はコの字ﾀｲﾌﾟとする。	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板下地材については十分な養生期間を持ち、施工要領による乾燥状態にて施工を行うこと。	手洗部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB 厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板 厚３貼（一般色）	
ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼端部及び巾木取合部にはｱﾙﾐ製見切りを取り付けること。	内装仕上げ材は、F☆☆☆☆仕様とする。	大便器部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB 厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板 厚３貼（柄）	
衛生器具等の壁取付部分には補強材またはGB-Sに替え構造用合板にて補強を行うこと。	天井裏・小屋裏の使用材料は、F☆☆☆仕様とする。		

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				

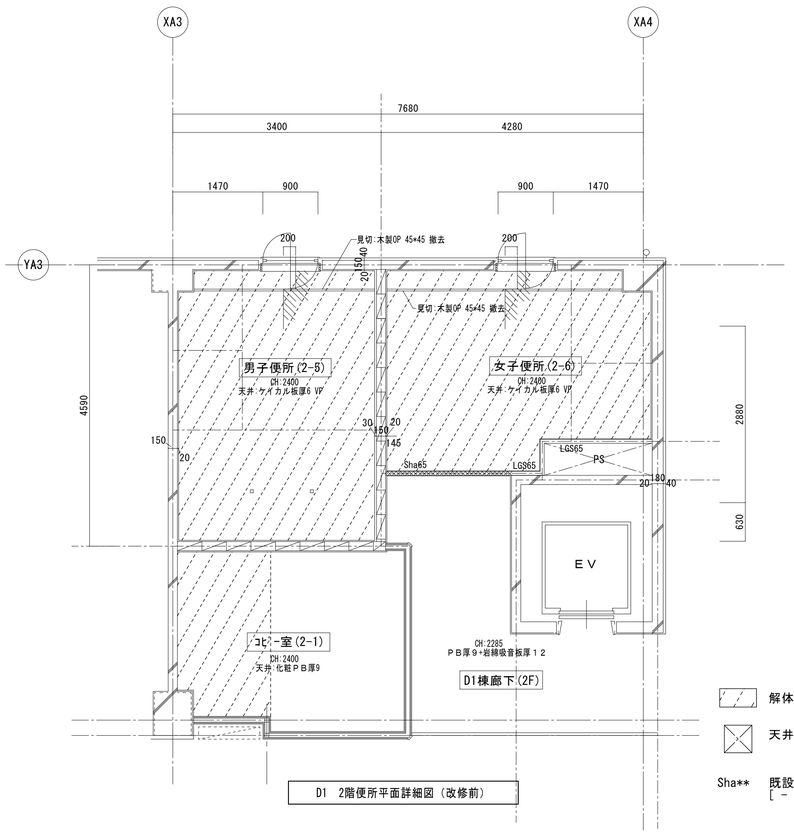
株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-13
図面名称	D1 3階便所平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2025年3月



ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端人工大理石、CB厚100下地

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽは全撤去、洗面ｶｳﾝﾀｰ、大型鏡撤去
※衛生器具等撤去（機械設備）
（衛生陶器、配管、手摺）
※照明器具等撤去（電気設備）



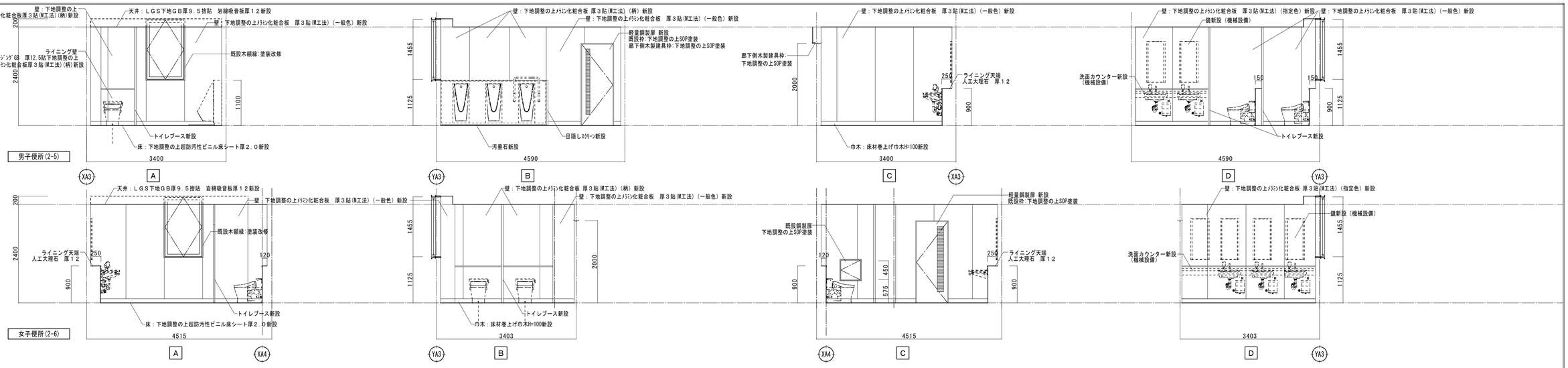
D1　2階便所平面詳細図（改修前）

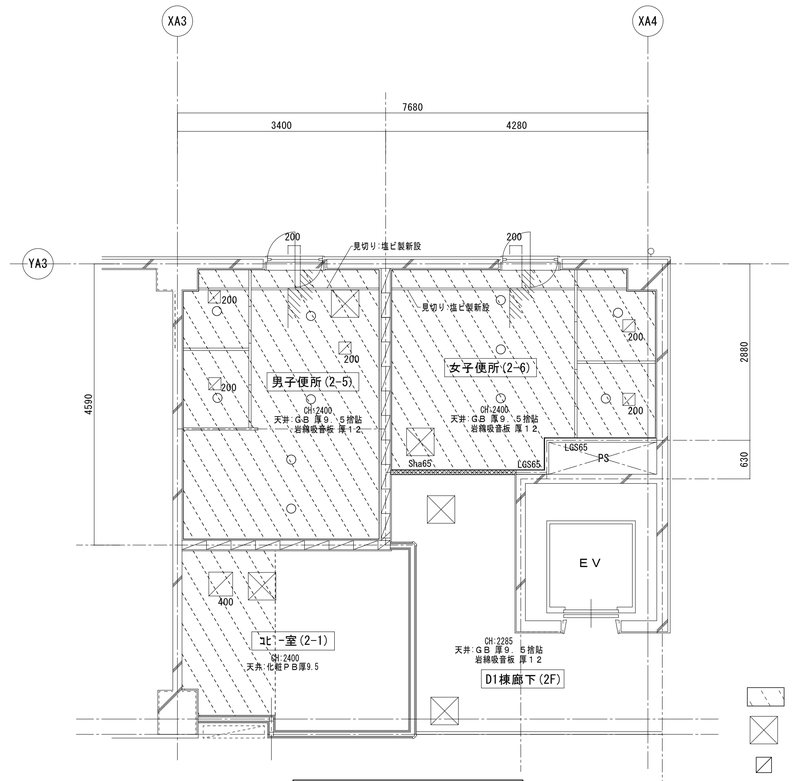
解体撤去範囲を示す

天井点検口を示す（特記なき限り450角）

Sha**　既設遮音仕様壁を示す（**は壁厚）
[－ 30*60*10*2.3　グラスウール厚50充填

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-14
						図面名称	D1　2階便所展開図・天井伏図（改修前）　S = 1/50	設計日 2025年3月





D1　2階便所平面詳細図（改修後）

新設範囲を示す

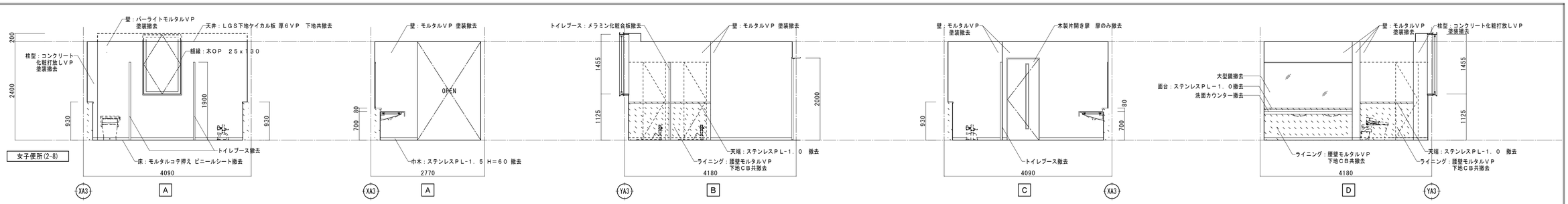
天井点検口　アルミ製４５０角（開口補強共）を示す

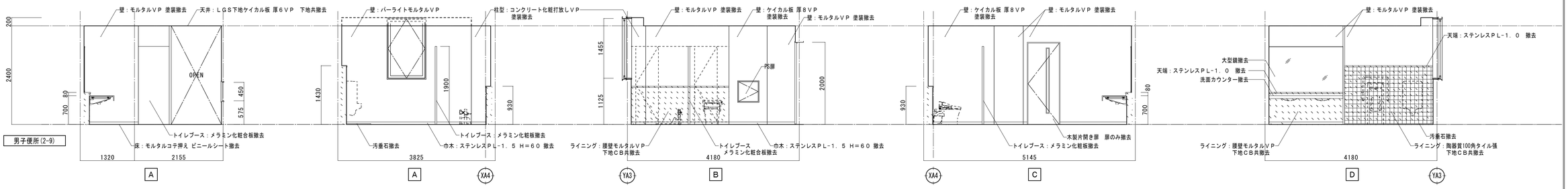
機械設備用天井開口（開口補強共）を示す
（寸法は図示）

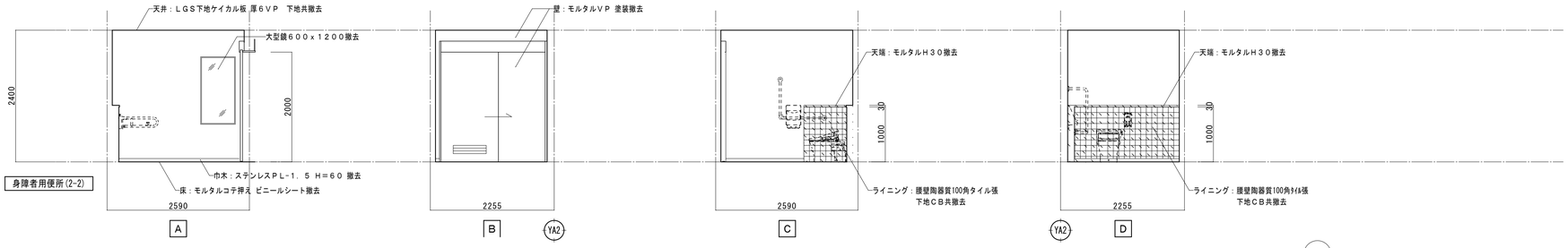
電気設備用天井開口φ１５０（開口補強共）を示す

Sha**　既設遮音仕様壁を示す（**は壁厚）
［－30*60*10*2.3　グラスウール厚50充填

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				
株式会社 総合設備コンサルタント		工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No.	A-15
		図面名称	D1　2階便所展開図・天井伏図（改修後）　S = 1/50	設計日	2025年3月

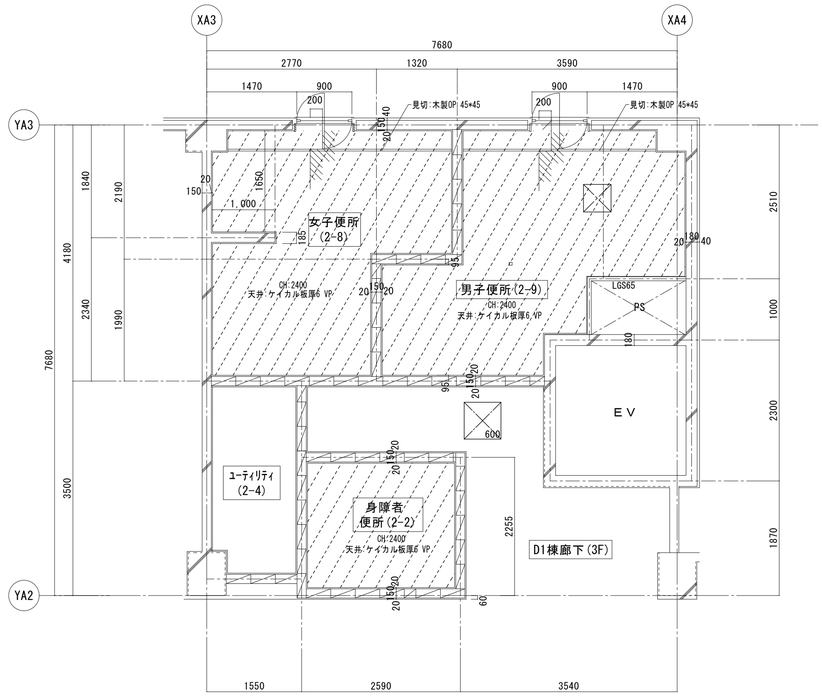






ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端人工大理石（一部モルタル塗）、CB厚100下地

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽは全撤去、洗面ｶｳﾝﾀｰ、大型鏡撤去
※衛生器具等撤去（機械設備）
　（衛生陶器、配管、手摺）
※照明器具等撤去（電気設備）

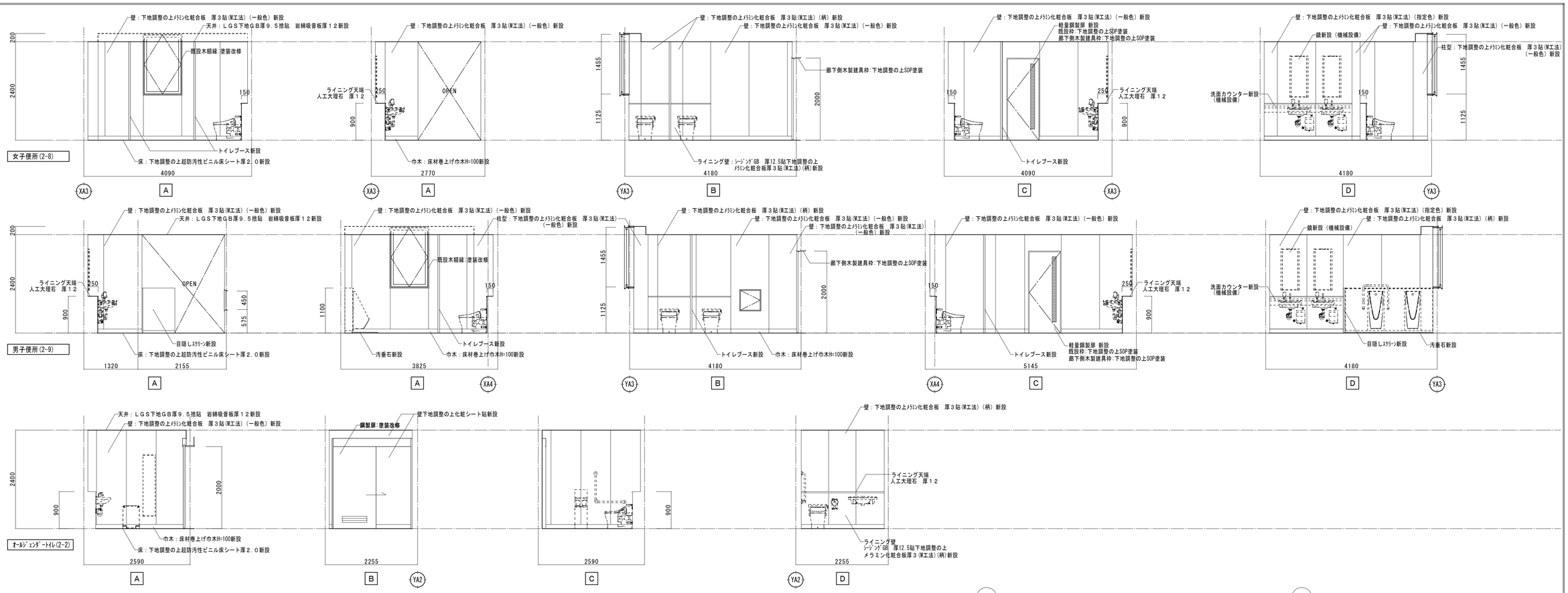


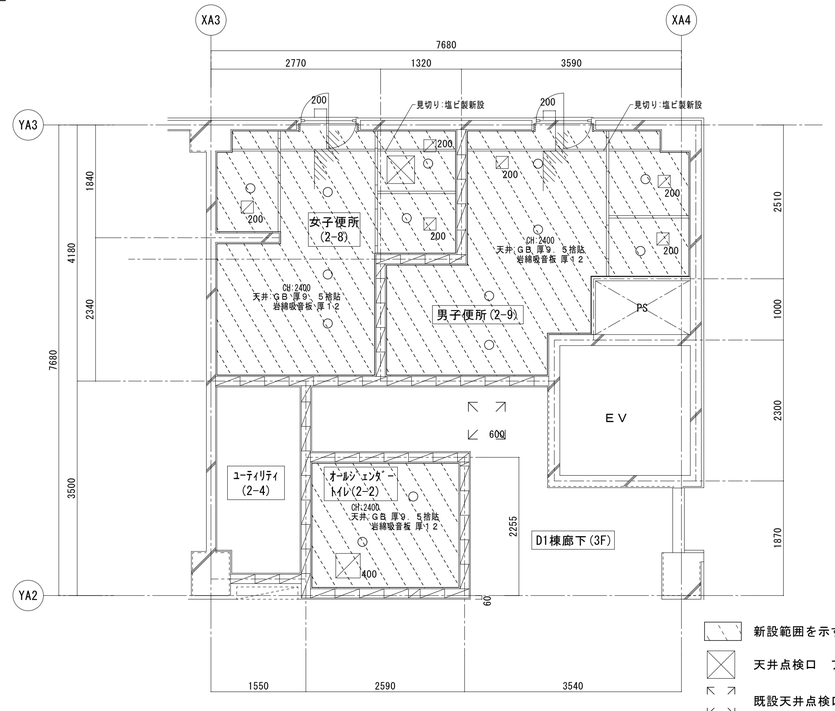
D1　3階便所平面詳細図（改修前）

解体撤去範囲を示す

天井点検口を示す（特記なき限り450角）

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課		株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No.	A-16
				図面名称	D1　3階便所展開図・天井伏図（改修前）　S = 1/50	設計日	2025年3月





D1　3階便所天井伏図（改修後）

新設範囲を示す

天井点検口　アルミ製４５０角（開口補強共）を示す

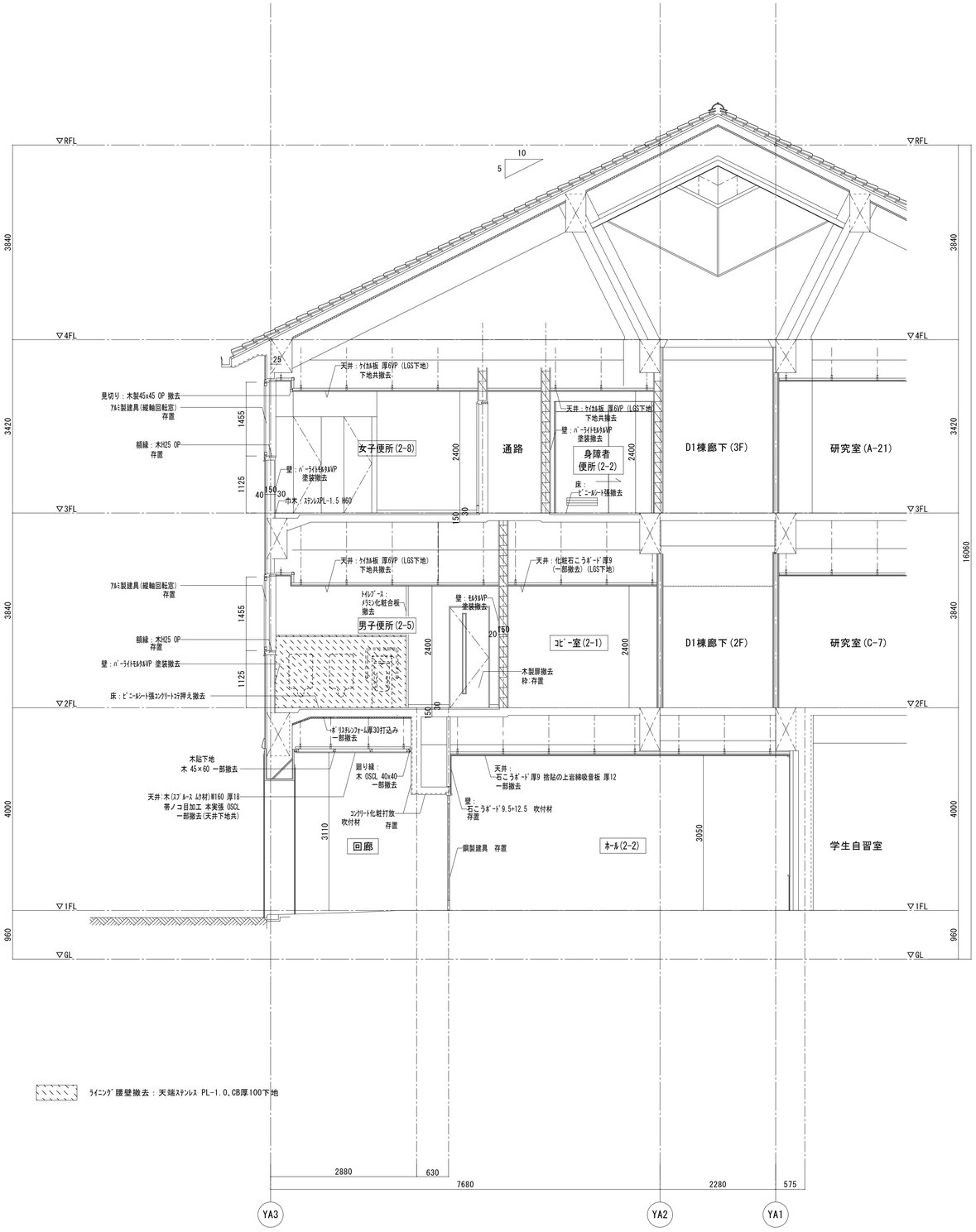
既設天井点検口を示す（特記なき限り450角）

機械設備用天井開口（開口補強共）を示す
（寸法は図示）

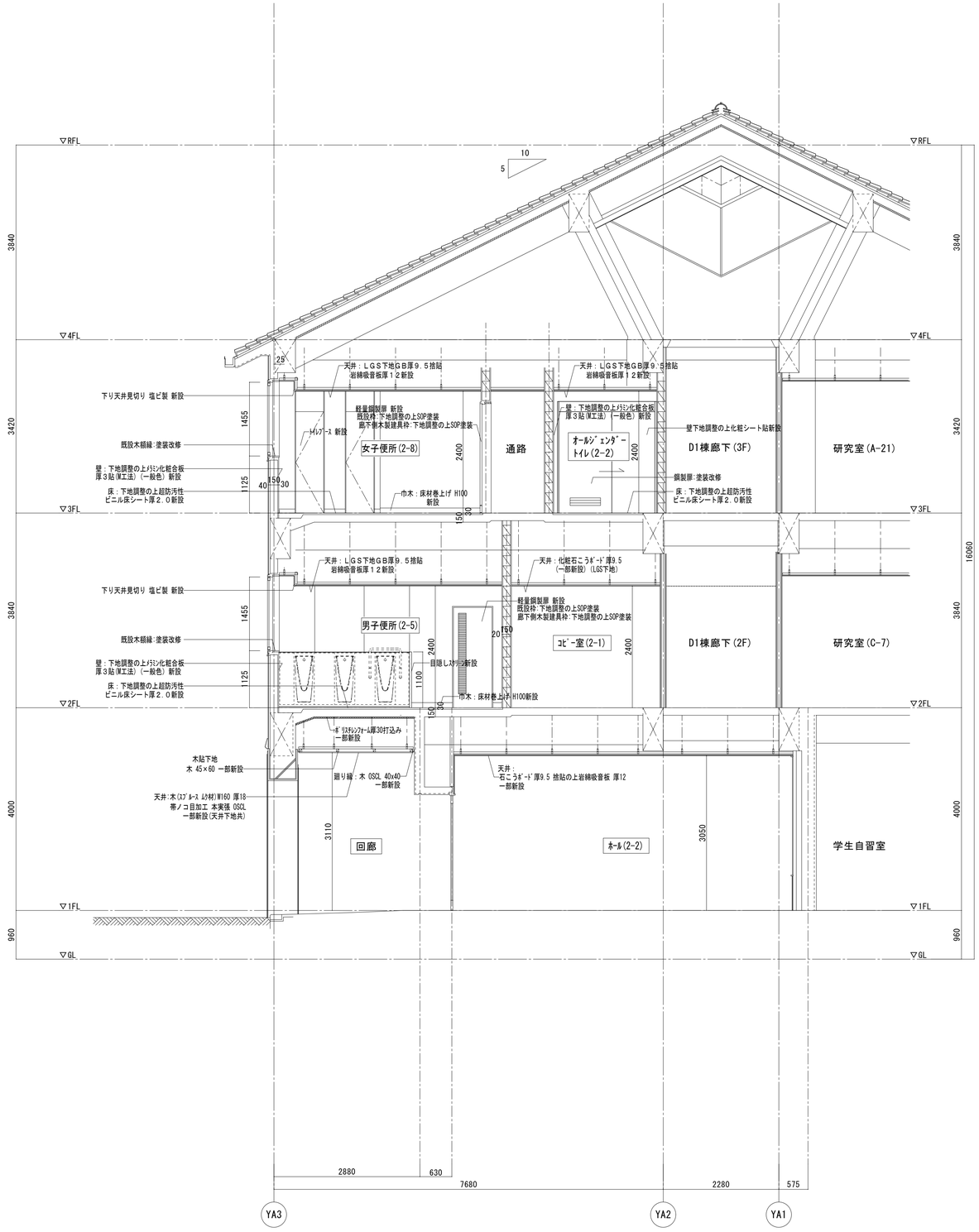
電気設備用天井開口φ１５０（開口補強共）を示す

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-17
						図面名称	D1　3階便所展開図・天井伏図（改修後）　S = 1/50	設計日 2025年3月

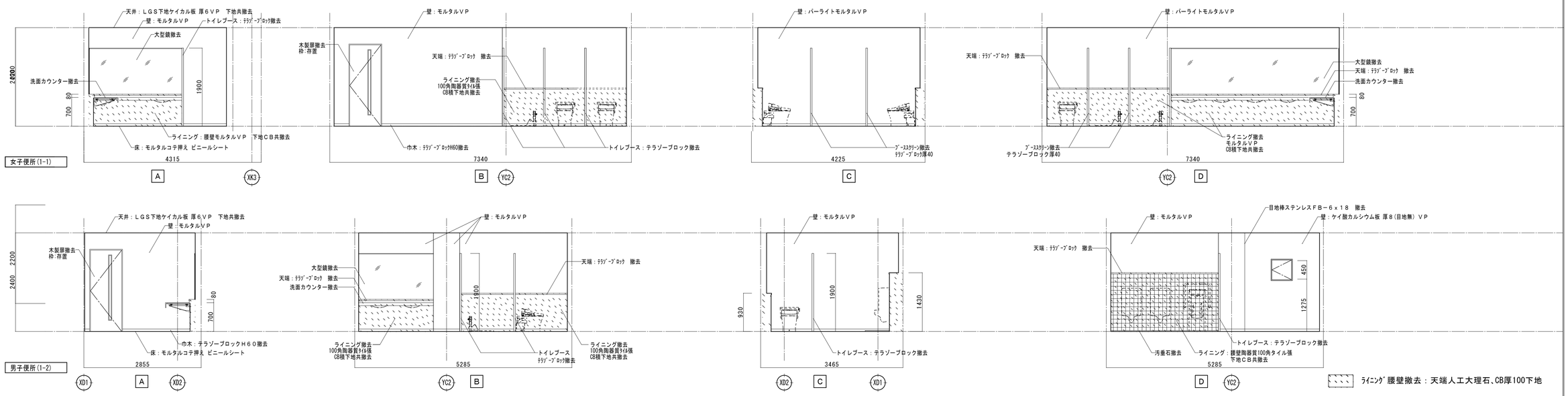
改修前　矩計図　　S=1/50

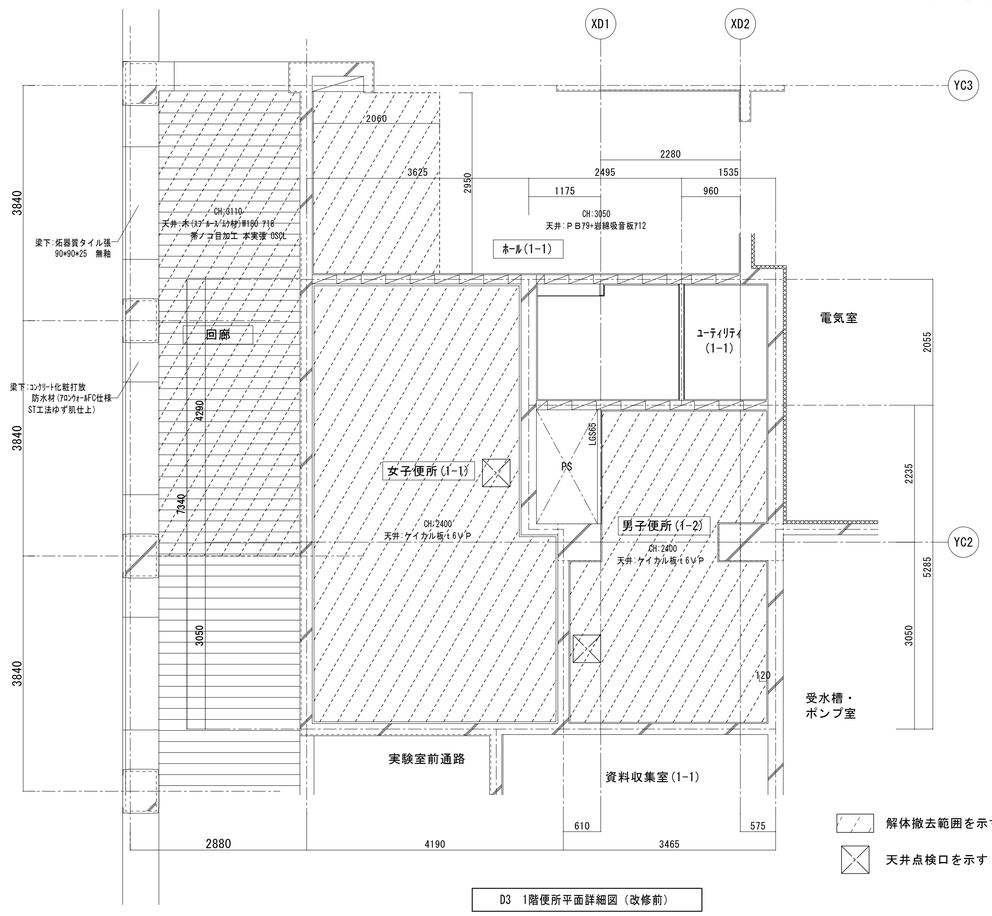


改修後　矩計図　　S=1/50



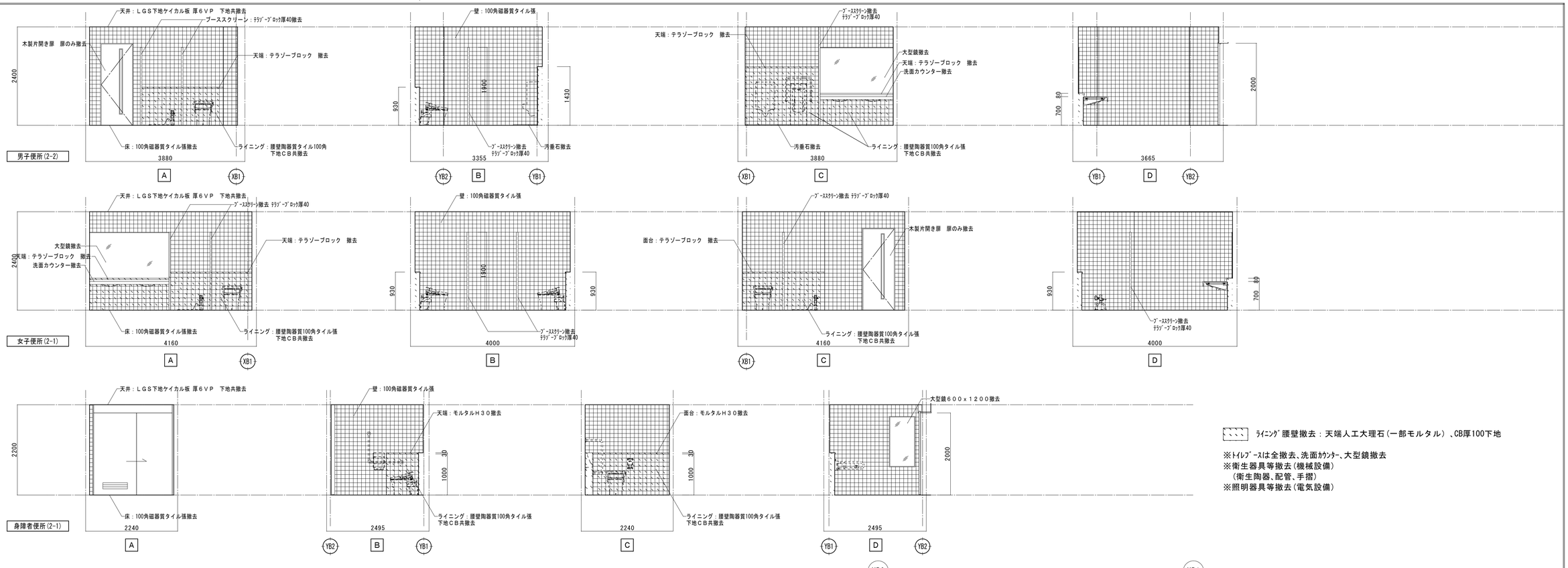
令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称：滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事 / 図面名称：D1　矩計図（改修前・改修後）　S = 1/50 / 図面No.：A-18 / 設計日：2025年3月

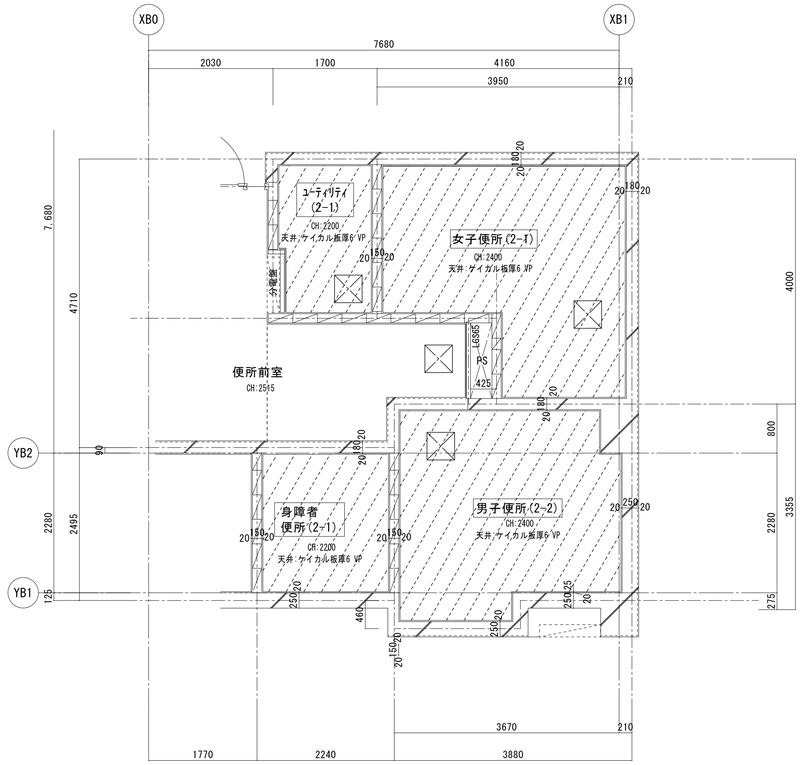




D3　1階便所平面詳細図（改修前）

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修前期工事	図面No. A-19
						図面名称	D3　1階便所展開図・天井伏図（改修前）　S = 1/50	設計日 2025年3月



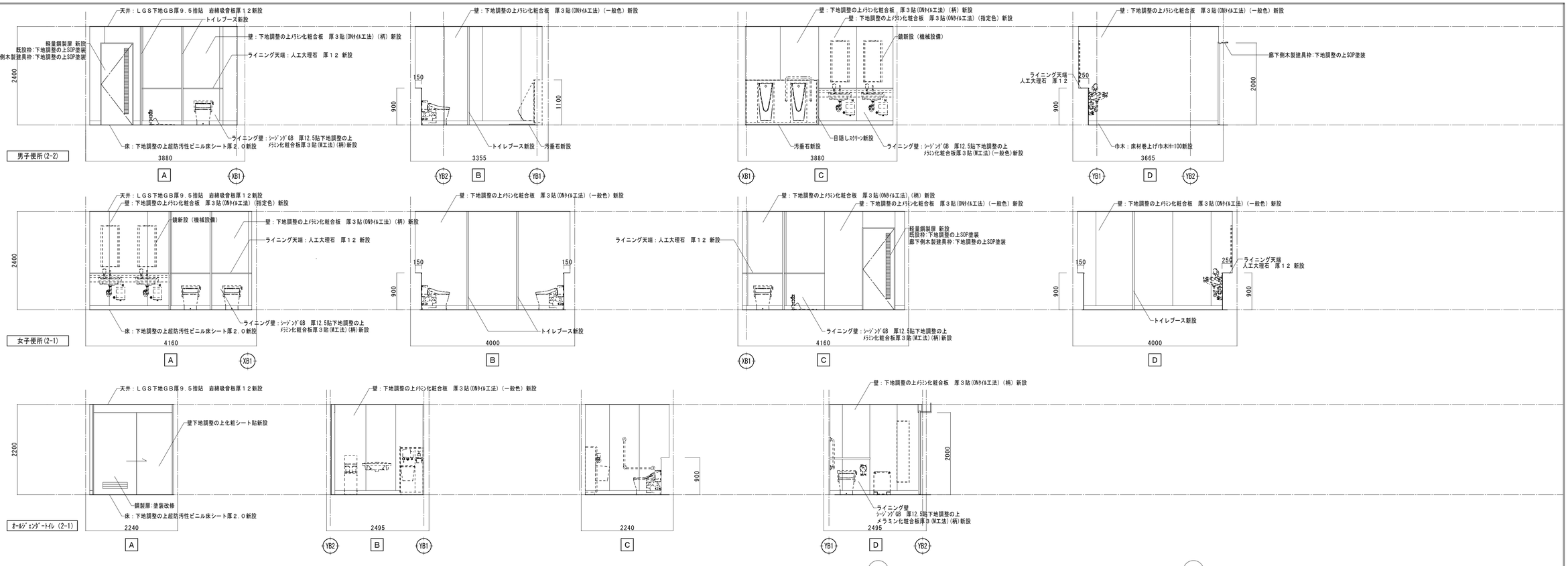


D2　1階便所平面詳細図（改修前）

解体撤去範囲を示す

天井点検口を示す（特記なき限り450角）

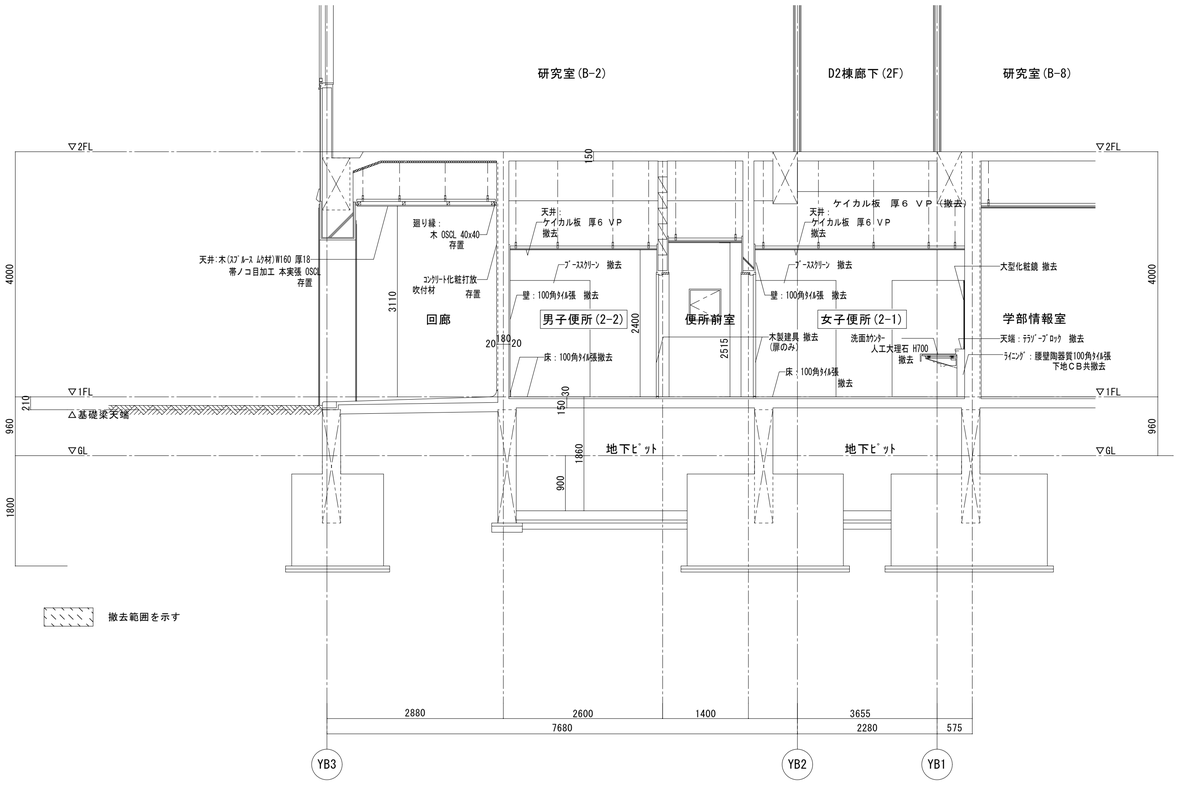
令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-20
						図面名称	D2　1階便所展開図・天井伏図（改修前）　S = 1/50	設計日 2025年3月



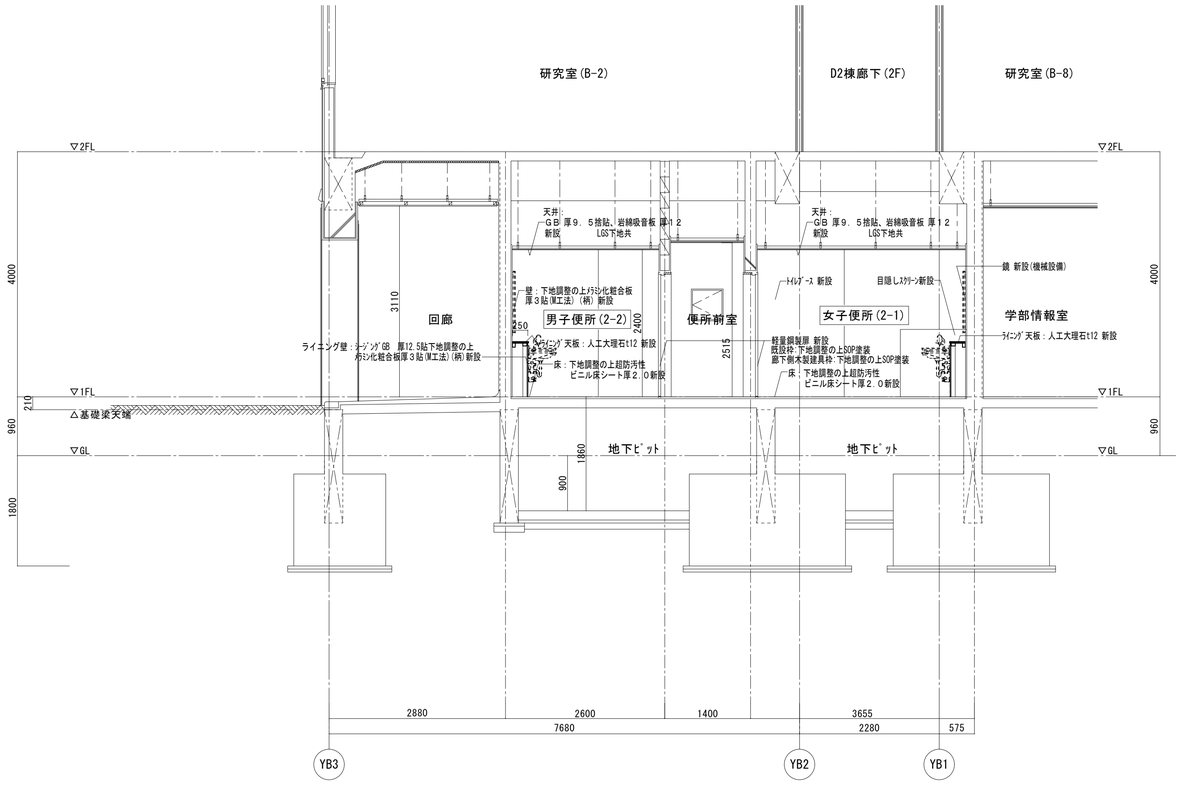
D2　1階便所天井伏図（改修後）

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-21
						図面名称	D2　1階便所展開図・天井伏図（改修後）　S = 1/50	設計日 2025年3月

改修前　矩計図　　S=1/50



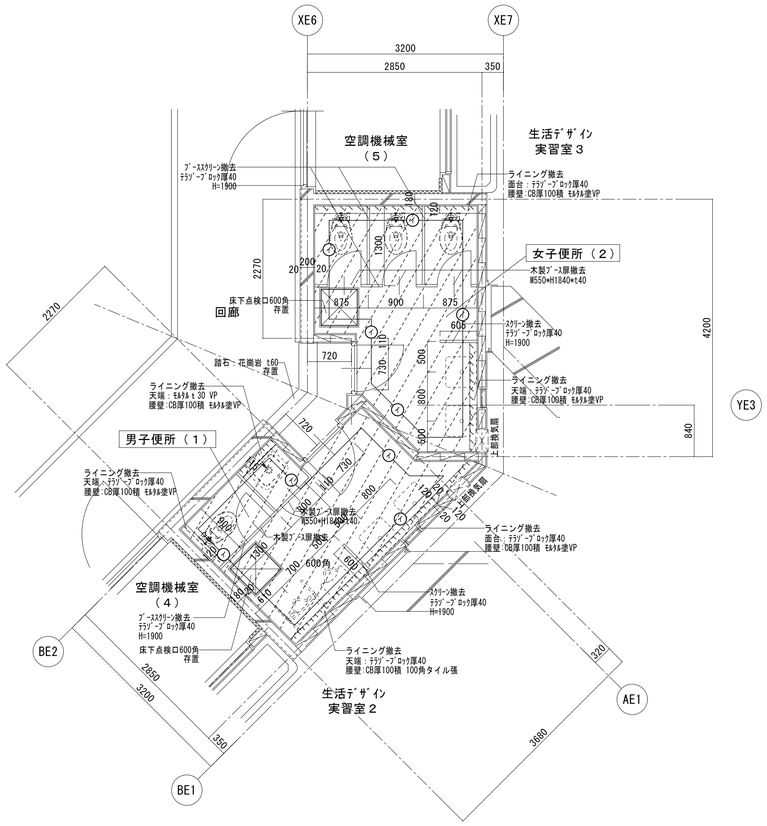
改修後　矩計図　　S=1/50



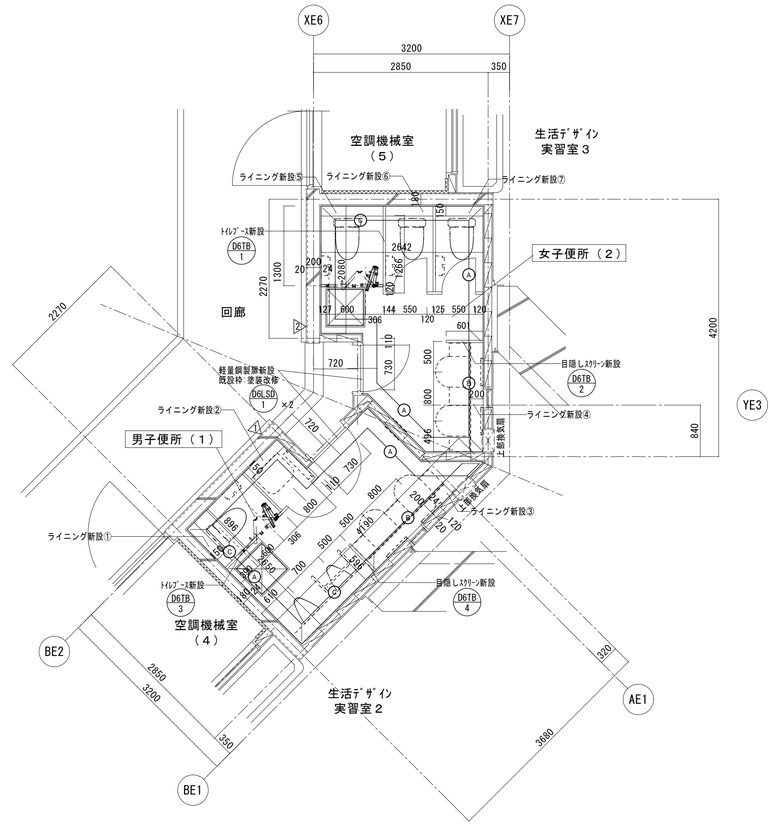
令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. A-22
図面名称	D2　矩計図（改修前・改修後）　S = 1/50	設計日 2025年3月



D6 1階便所平面詳細図（改修前）



D6 1階便所平面詳細図（改修後）

略号表示

Ⓐ 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼（一般色）（新設）

Ⓑ 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼（指定色）（新設）

Ⓒ 壁下地調整の上ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼（柄）（新設）

※ﾗｲﾆﾝｸﾞ新設
① 876×150×H 900 ×1箇所
② 756×150×H 900 ×1箇所
③1755×200×H 900 ×1箇所
④1776×200×H 900 ×1箇所
⑤1013×150×H 900 ×1箇所
⑥ 774×150×H 900 ×1箇所
⑦ 775×150×H 900 ×1箇所

△ サイン設置位置を示す（サイン詳細図参照）

略号表示

Ⓐ AEP塗（塗膜除去）

解体撤去範囲を示す

ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端人工大理石、CB 厚120下地 ﾓﾙﾀﾙ塗VP
（SK天端：ﾓﾙﾀﾙ塗厚30 VP）
（小便器壁仕上：ﾀｲﾙ張）

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ全撤去、洗面カウンター撤去
※衛生器具等撤去（機械設備）
（衛生陶器、配管、手摺、鏡）
※照明器具等撤去（電気設備）
※仮設間仕切壁（LGS50 GB-R t12.5程度）、
工事用出入口を係員と協議の上適宜設置する事

内部仕上表

階数	室名		床高 基準FL±	床高 FL±	天井高	床 下地	床 仕上	巾木	腰壁 下地	腰壁 仕上	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	廻り縁 仕上	室名		備考
1階	男子便所(1)	改修前	±0	2,150	MO	145角磁器質タイル張 （存置）	ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ厚20ﾓｻﾞｲｸ付H=60（存置、一部撤去）	MO	小便器前：100角タイル貼（撤去）	MO	VP（塗装撤去）パーライトモルタル VP（塗装撤去）	LGS(撤去)直天	ケイカル板厚６（撤去）VP塗（塗装撤去）	塩ﾋﾞ製(撤去)	男子便所(1)		建築：ﾌﾞｰｽｽｸﾘｰﾝ撤去、木製扉撤去、ﾗｲﾆﾝｸﾞCB積撤去 機械設備：衛生器具、小便器手摺、鏡撤去
		改修後	±0	2,150	既設のまま	既設のまま	既設のまま 一部ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ厚20 H=60 新設	－	－	下地調整	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼 M工法（新設）	LGS(新設)直天	GB 厚９．５捨貼、岩綿吸音板 厚１２(新設)下地調整の上VP塗	塩ﾋﾞ製(新設)			建築：ﾗｲﾆﾝｸﾞ天板 人工大理石甲板t12、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ新設 機械設備：衛生器具、化粧鏡、小便器手摺
	女子便所(2)	改修前	±0	2,150	MO	145角磁器質タイル張 （存置）	ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ厚20ﾓｻﾞｲｸ付H=60（存置、一部撤去）			MO	VP（塗装撤去）パーライトモルタル VP（塗装撤去）	LGS(撤去)直天	ケイカル板厚６（撤去）VP塗（塗装撤去）	塩ﾋﾞ製(撤去)	女子便所(2)		建築：ﾌﾞｰｽｽｸﾘｰﾝ撤去、木製扉撤去、ﾗｲﾆﾝｸﾞCB積撤去 機械設備：衛生器具、鏡撤去
		改修後	±0	2,150	既設のまま	既設のまま	既設のまま 一部ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ厚20 H=60 新設			下地調整	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 厚３貼 M工法（新設）	LGS(新設)直天	GB 厚９．５捨貼、岩綿吸音板 厚１２(新設)下地調整の上NAD塗	塩ﾋﾞ製(新設)			建築：ﾗｲﾆﾝｸﾞ天板 人工大理石甲板t12、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ新設 機械設備：衛生器具、化粧鏡

下地凡例

C	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地		
MO	ﾓﾙﾀﾙ塗		
LGS	軽量鉄骨下地		
CB	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ		
SL	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ		
W	木下地		

防火材料認定番号（認定番号は参考）

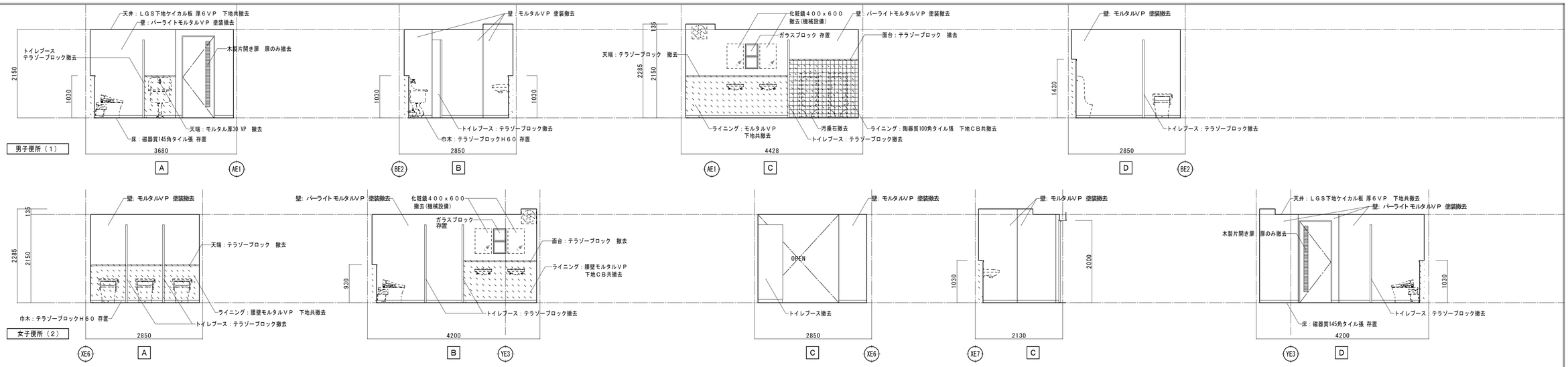
EP塗・EP-G塗	不燃 NM-8585		
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚9.5	準不燃 QM-9828		
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R) 厚12.5	不燃 NM-8619		
岩綿吸音板 厚12	不燃 NM-8599		
ﾒﾗﾐﾝ化粧板 厚3.0	不燃 NM-2183		

特記事項

床既設面下地調整については、速硬型調整材にて下地を行うこと。	天井点検口450角を適宜設けること。	天井点検口 内部450角とする。
塩ﾋﾞ製廻り縁はコの字ﾀｲﾌﾟとする。	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板下地材については十分な養生期間を持ち、施工要領による乾燥状態にて施工を行うこと。	手洗部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB 厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板 厚３貼（一般色）
ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼端部及び巾木取合部にはﾌﾛﾐ製見切りを取り付けること。	内装仕上げ材は、F☆☆☆☆仕様とする。	大便器部ライニング腰壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞGB 厚12.5貼下地調整の上メラミン化粧合板 厚３貼（柄）
衛生器具等の壁取付部分には補強材またはGB-Sに替え構造用合板にて補強を行うこと。	天井裏・小屋裏の使用材料は、F☆☆☆仕様とする。	

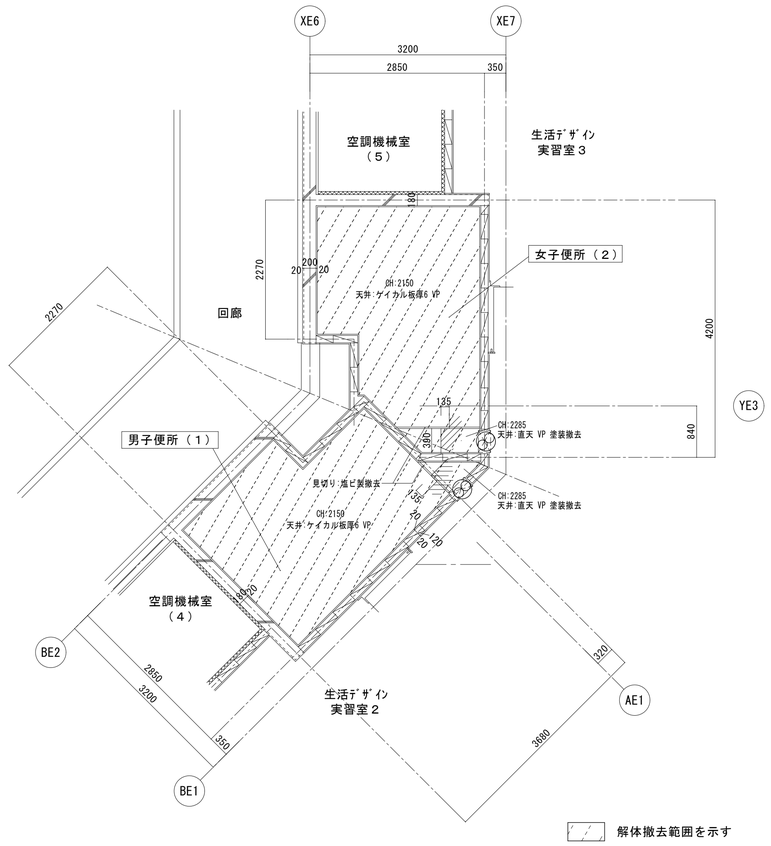
【ﾒﾗﾐﾝ化粧板 M工法】
既設ﾓﾙﾀﾙ面及びボード系下地の仕上塗装等を撤去の上、プライマー処理を行いﾒﾗﾐﾝ化粧板の施工にあたること。

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No.	A-23
			図面名称	D6 1階便所平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日	2025年3月



ﾗｲﾆﾝｸﾞ腰壁撤去：天端人工大理石、CB厚100下地

※ﾄｲﾚﾌﾞｰｽは全撤去、洗面ｶｳﾝﾀｰ、大型鏡撤去
※衛生器具等撤去（機械設備）
　（衛生陶器、配管、手摺）
※照明器具等撤去（電気設備）

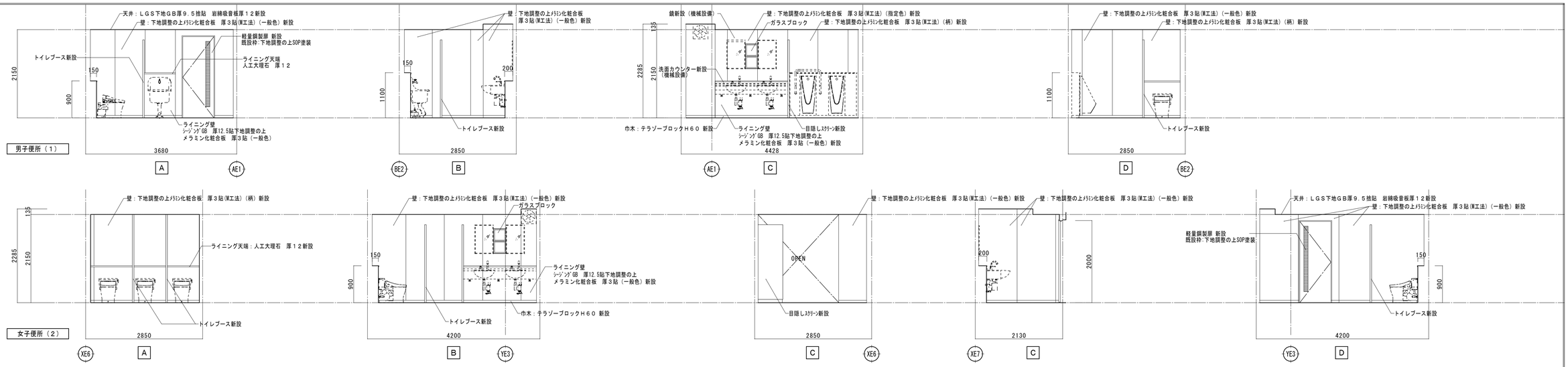


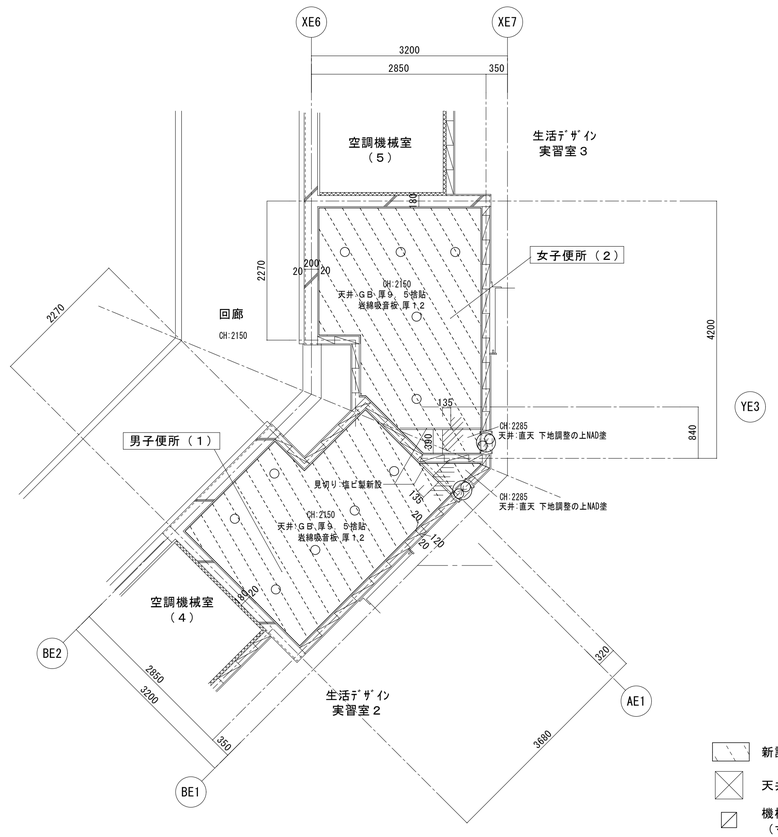
解体撤去範囲を示す

天井点検口を示す（特記なき限り450角）

D6　1階便所天井伏図（改修前）

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-24
							図面名称	D6　1階便所展開図・天井伏図（改修前）　S = 1/50	設計日 2025年3月





新設範囲を示す

天井点検口　アルミ製４５０角（開口補強共）を示す

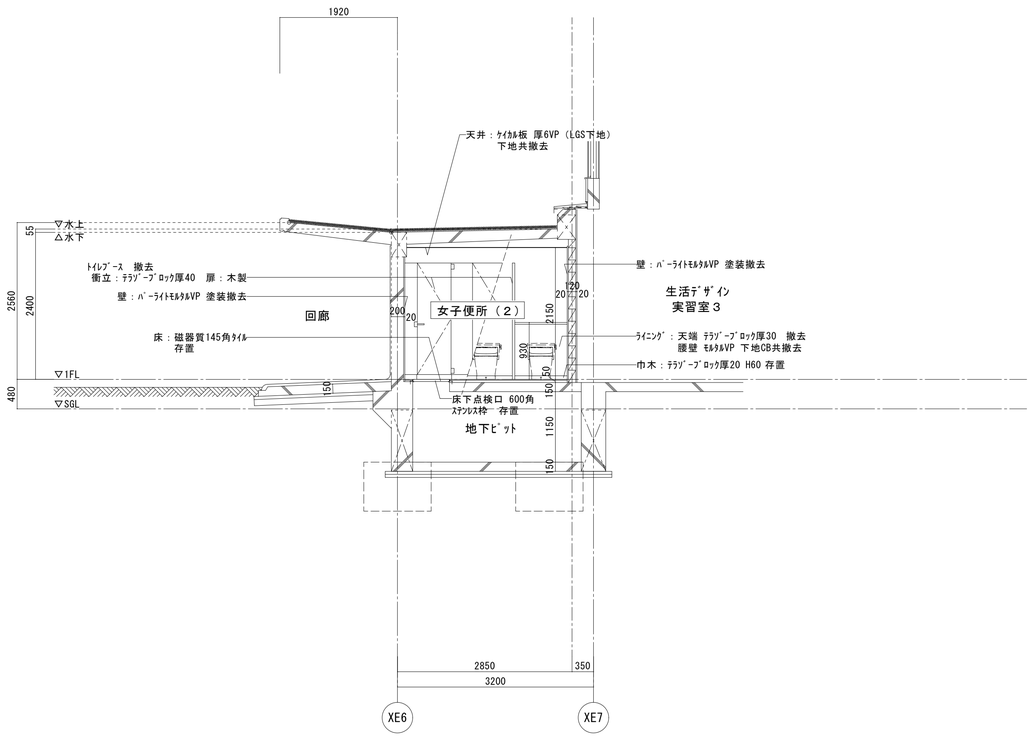
機械設備用天井開口（開口補強共）を示す
（寸法は図示）

電気設備用天井開口φ１５０（開口補強共）を示す

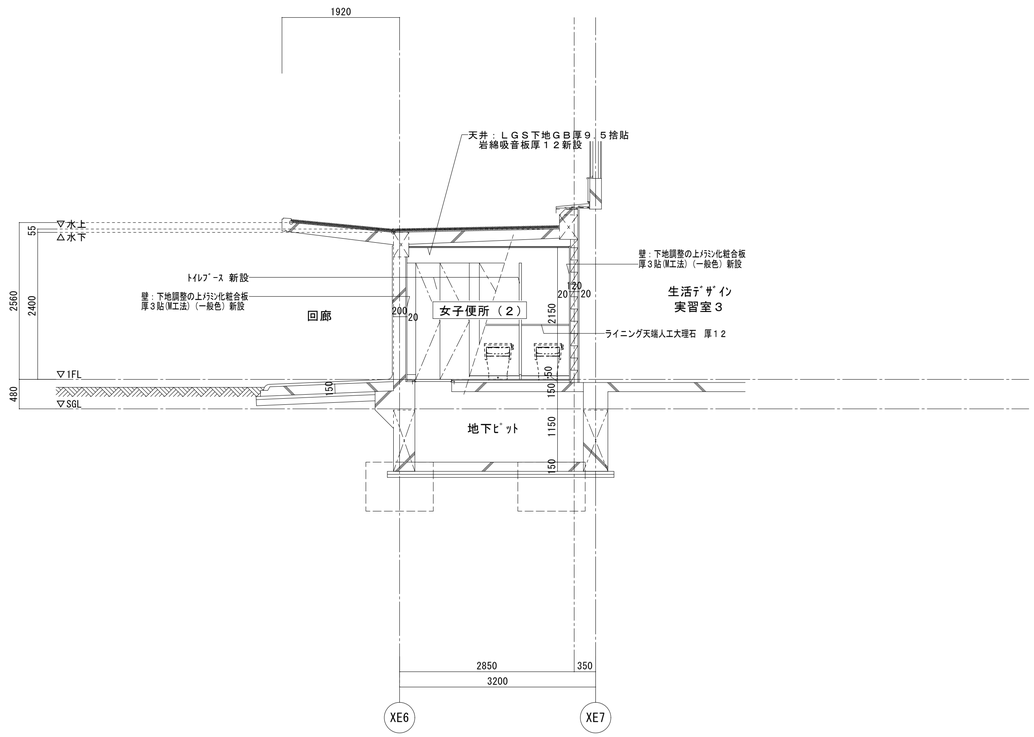
D6　1階便所天井伏図（改修後）

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-25
							図面名称	D6　1階便所展開図・天井伏図（改修後）　S = 1/50	設計日 2025年3月

改修前　矩計図　　S=1/50



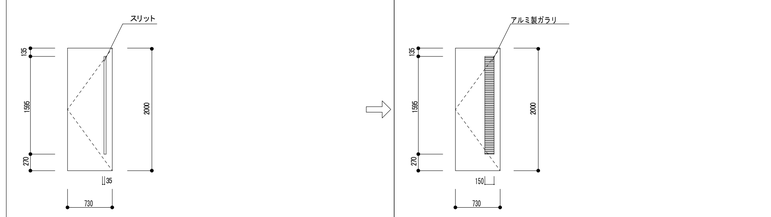
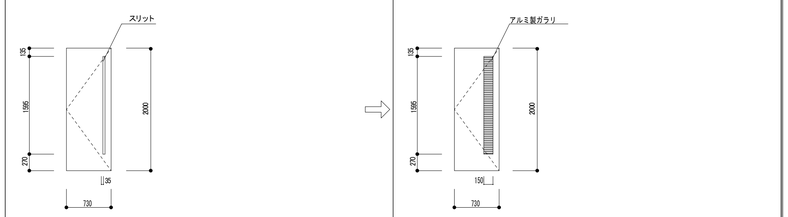
改修後　矩計図　　S=1/50

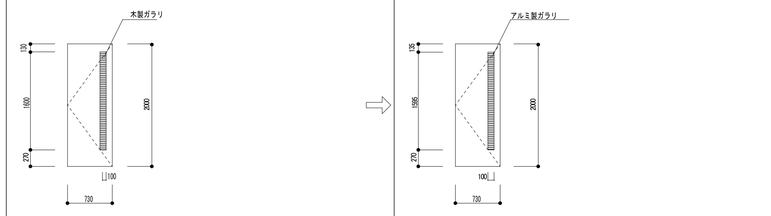


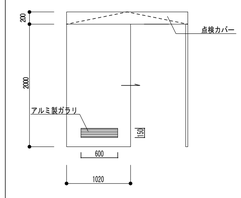
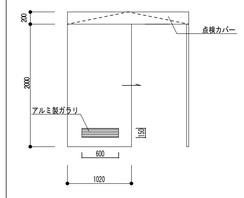
令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

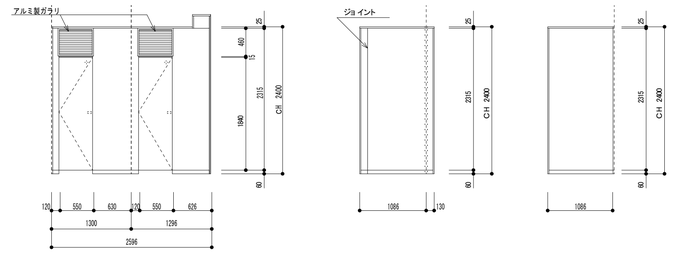
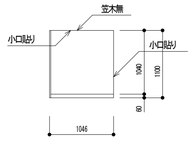
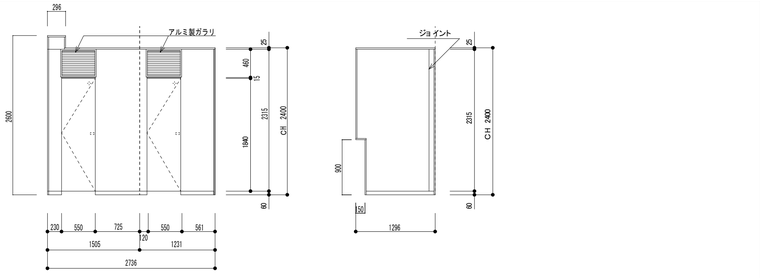
株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. A-26
図面名称	D6　矩計図（改修前・改修後）　S = 1/50	設計日 2025年3月

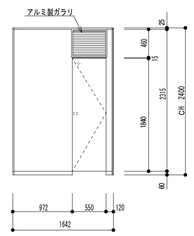
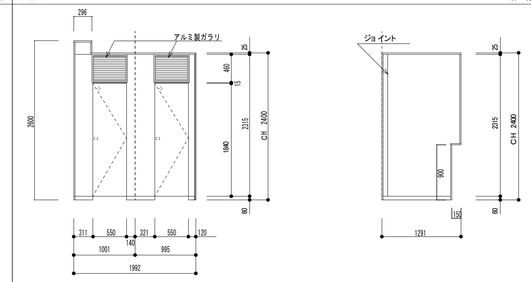
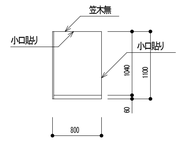
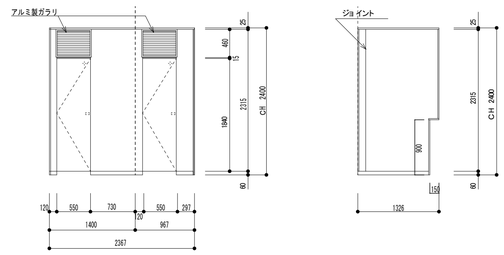
符合・数量	D1LSD-1　1ヶ所	D1LSD-2　1ヶ所	D1LSD-3　2ヶ所	
形式・使用箇所	木製扉 ⇨ 軽量鋼製扉　D1 2階 男子便所(2-5)	木製扉 ⇨ 軽量鋼製扉　D1 2階 女子便所(2-6)	木製扉 ⇨ 軽量鋼製扉　D1 3階 男子便所(2-9)、3階 女子便所(2-8)	
姿図				
改修内容	既設木製扉 撤去　軽量鋼製扉 新設 既設スチール製建具枠 塗装改修、既設木製額縁 塗装改修	既設木製扉 撤去　軽量鋼製扉 新設 既設スチール製建具枠 塗装改修、既設木製額縁 塗装改修	既設木製扉 撤去　軽量鋼製扉 新設 既設スチール製建具枠 塗装改修、既設木製額縁 塗装改修	
見込	40	40	40	40
材質・仕上	扉：木製　塩化ビニール貼　撤去	扉：化粧鋼板	扉：木製　塩化ビニール貼　撤去	扉：化粧鋼板
ガラス	－ ⇨	－	－ ⇨	－
金物	ドアチェック　撤去、丁番（3本吊）撤去、外:押板撤去、内:引手撤去、 ＳＵＳ容摺 既設のまま 、床付戸当り 既設のまま	ドアチェック、丁番（3本吊）、外:押板、内：引手、アルミ製ガラリ（開口率35%）　新設 ＳＵＳ容摺 既設のまま、床付戸当り 既設のまま	ドアチェック　撤去、丁番（3本吊）撤去、外:押板撤去、内:引手撤去、 ＳＵＳ容摺 既設のまま 、床付戸当り 既設のまま	ドアチェック、丁番（3本吊）、外:押板、内：引手、アルミ製ガラリ（開口率35%）　新設 ＳＵＳ容摺 既設のまま、床付戸当り 既設のまま
備考	枠：スチール製　w95ｔ2.3 アングル付　既設のまま	枠：スチール製 w95ｔ2.3 アングル付 下地調整の上OP塗	枠：スチール製　w101ｔ2.3 既設のまま	枠：スチール製 w101ｔ2.3　下地調整の上OP塗

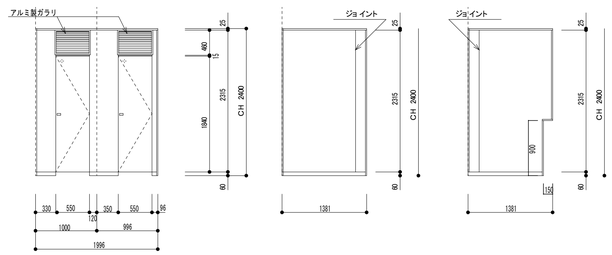
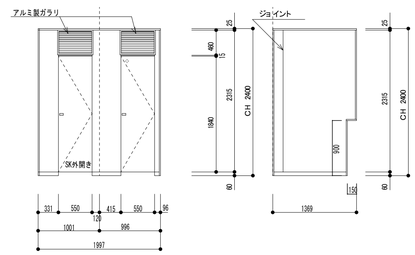
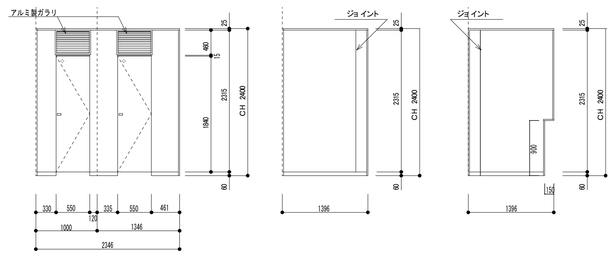
符合・数量	D2LSD-1　2ヶ所	D6LSD-1　2ヶ所		
形式・使用箇所	木製扉 ⇨ 軽量鋼製扉　D2 1階 女子便所(2-1)、1階男子便所(2-2)	木製扉 ⇨ 軽量鋼製扉　D6 1階 男子便所(1)、女子便所(2)		
姿図		姿図は1階 男子便所(1)、1階女子便所(2)は開き方向反転 		
改修内容	既設木製扉 撤去　軽量鋼製扉 新設 既設スチール製建具枠 塗装改修、既設木製額縁 塗装改修	既設木製扉 撤去　軽量鋼製扉 新設 既設スチール製建具枠 塗装改修、既設木製額縁 塗装改修		
見込	40	40	40	
材質・仕上	扉：木製　塩化ビニール貼　撤去	扉：化粧鋼板　枠：溶融亜鉛メッキ鋼板加工 SOP塗	扉：木製　塩化ビニール貼　撤去	扉：化粧鋼板
ガラス	－ ⇨	－	－ ⇨	－
金物	ドアチェック　撤去、丁番（3本吊）撤去、外:押板 撤去、内：引手撤去、ＳＵＳ容摺 既設のまま 床付戸当り 既設のまま	ドアチェック、丁番（3本吊）、外:押板、内：引手、アルミ製ガラリ（開口率35%）　新設 ＳＵＳ容摺 既設のまま、床付戸当り 既設のまま	ドアチェック　撤去、丁番（3本吊）撤去、外:押板撤去、内:引手撤去、 ＳＵＳ容摺 既設のまま 、床付戸当り 既設のまま	ドアチェック、丁番（3本吊）、外:押板、内：引手、アルミ製ガラリ（開口率35%）　新設 ＳＵＳ容摺 既設のまま、床付戸当り 既設のまま
備考	枠：スチール製　w104ｔ2.3 アングル付　既設のまま	枠：スチール製 w104ｔ2.3 アングル付 下地調整の上OP塗	枠：スチール製　w95ｔ2.3　既設のまま	枠：スチール製 w95ｔ2.3　下地調整の上OP塗

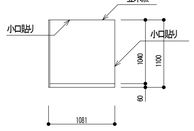
符合・数量	D1SD-1　1ヶ所	D1SD-2　1ヶ所	D1SD-3　1ヶ所	D2SD-1　1ヶ所
形式・使用箇所	スチール製ＰＳ扉　D1 2階女子便所(2-6)	スチール製ハンガー戸　D1棟 3階オールジェンダートイレ(2-2)	スチール製ＰＳ扉　D1 3階男子便所(2-9)	スチール製ハンガー戸　D2棟 1階オールジェンダートイレ(2-1)
姿図				
改修内容	既設スチール製ＰＳ扉 塗装改修 既設建具枠　塗装改修	既設スチール製ハンガー引戸 塗装改修 既設建具枠　塗装改修	既設スチール製ＰＳ扉 塗装改修 既設建具枠　塗装改修	既設スチール製ハンガー引戸 塗装改修 既設建具枠　塗装改修
見込	35	40	35	40
材質・仕上	扉：スチール製片面フラッシュ戸　下地調整の上OP塗	扉：スチール製　下地調整の上OP塗	扉：スチール製片面フラッシュ戸　下地調整の上OP塗	扉：スチール製　下地調整の上OP塗
ガラス	－	－	－	－
金物	丁番、平面ハンドル錠、付属金物一式 既設のまま	ハンガーレール、吊車、把手・引手、レール受座、アルミ製ガラリ、付属金物一式　既設のまま スチール製点検カバー 既設下地調整の上OP塗	丁番、平面ハンドル錠、付属金物一式 既設のまま	ハンガーレール、吊車、把手・引手、レール受座、アルミ製ガラリ、付属金物一式　既設のまま スチール製点検カバー 既設下地調整の上OP塗
備考	四方枠：スチール製　下地調整の上OP塗	枠：スチール製　下地調整の上OP塗	四方枠：スチール製　下地調整の上OP塗	枠：スチール製　下地調整の上OP塗

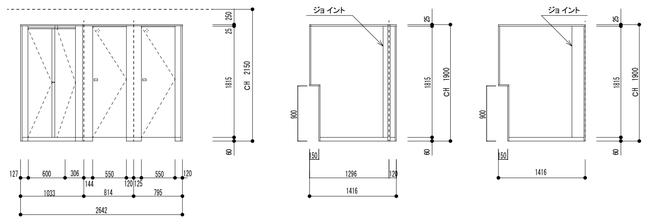
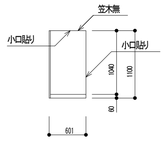
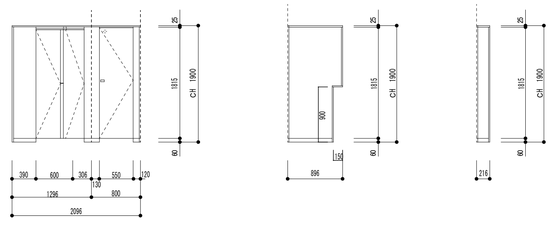
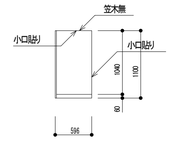
符合・数量	D1TB-1　1ヶ所	D1TB-2　1ヶ所	D1TB-3　1ヶ所	
形式・使用箇所	トイレブース　D1棟 2階男子便所(2-5)	トイレブース　D1棟 2階男子便所(2-5)	トイレブース　D1棟 2階女子便所(2-6)	
姿図				
見込	40	40	40	
材質・仕上	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN　扉:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T)　パネル:K-6600KN　扉:K-6600KN	
ガラス	－	－	－	
金物	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り 巾木・床レール	天井レール・目板 巾木・床レール	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り 巾木・床レール	
備考	小松ウオール工業 TB-TP 同等品	小松ウオール工業 TB-TP 同等品	小松ウオール工業 TB-TP 同等品	

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称：滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事
			図面名称：建具リスト１　S = 1/50
			図面No.：A-27
			設計日：2025年3月

符合・数量	D1TB-4 1ヶ所	D1TB-5 1ヶ所	D1TB-6 1ヶ所	D1TB-7 1ヶ所
形式・使用箇所	トイレブース D1棟 3階女子便所(2-8)	トイレブース D1棟 3階女子便所(2-8)	トイレブース D1棟 3階男子便所(2-9)	トイレブース D1棟 3階男子便所(2-9)
姿図				
見込	40	40	40	40
材質・仕上	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T) パネル:K-6600KN 扉:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T) パネル:K-6600KN 扉:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T) パネル:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T) パネル:K-6600KN 扉:K-6600KN
ガラス	－	－	－	－
金物	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り 巾木・床レール	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り 巾木・床レール	天井レール・目板 巾木・床レール	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り 巾木・床レール
備考	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	**小松ウオールエ業 TB-TP 同等品**	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品

符合・数量	D2TB-1 1ヶ所	D2TB-2 1ヶ所	D2TB-3 1ヶ所
形式・使用箇所	トイレブース D2棟 1階女子便所(2-1)	トイレブース D2棟 1階女子便所(2-1)	トイレブース D2棟 1階男子便所(2-2)
姿図			
見込	40	40	40
材質・仕上	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T) パネル:K-6600KN 扉:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T) パネル:K-6600KN 扉:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T) パネル:K-6600KN 扉:K-6600KN
ガラス	－	－	－
金物	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り・巾木・表示錠 付属金物一式	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り 巾木・床レール	天井レール・中心吊ヒンジ・目板・戸当り 巾木・床レール
備考	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品

符合・数量	D2TB-4 1ヶ所
形式・使用箇所	トイレブース D2棟 1階男子(2-2)
姿図	
見込	40
材質・仕上	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T) パネル:K-6600KN
ガラス	－
金物	天井レール・目板 巾木・床レール
備考	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品

符合・数量	D6TB-1 1ヶ所	D6TB-2 1ヶ所	D6TB-3 1ヶ所	D6TB-4 1ヶ所
形式・使用箇所	トイレブース(一部折り戸) D6棟 1階女子便所(2)	トイレブース D6棟 1階女子便所(2)	トイレブース(一部折り戸) D6棟 1階男子便所(1)	トイレブース D6棟 1階男子便所(1)
姿図				
見込	40	40	40	40
材質・仕上	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T) パネル:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T) パネル:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T) パネル:K-6600KN	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF2.5T) パネル:K-6600KN
ガラス	－	－	－	－
金物	中心吊ヒンジ・目板・戸当り・巾木・表示錠・付属金物一式 レール・ガイドローラー・中心吊ヒンジ・目板・マグネット戸当り・ガイドローラー・マグネット受け・円筒戸当り・折り戸ヒンジ・直線ハンドル・折り戸用ロック・付属金物一式	天井レール・目板 **巾木・床レール**	中心吊ヒンジ・目板・戸当り・巾木・表示錠・付属金物一式 レール・ガイドローラー・中心吊ヒンジ・目板・マグネット戸当り・ガイドローラー・マグネット受け・円筒戸当り・折り戸ヒンジ・直線ハンドル・折り戸用ロック・付属金物一式	目板・戸当り 巾木・床レール
備考	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品	小松ウオールエ業 TB-TP 同等品

令和7年 3月 日

滋賀県立大学財務課

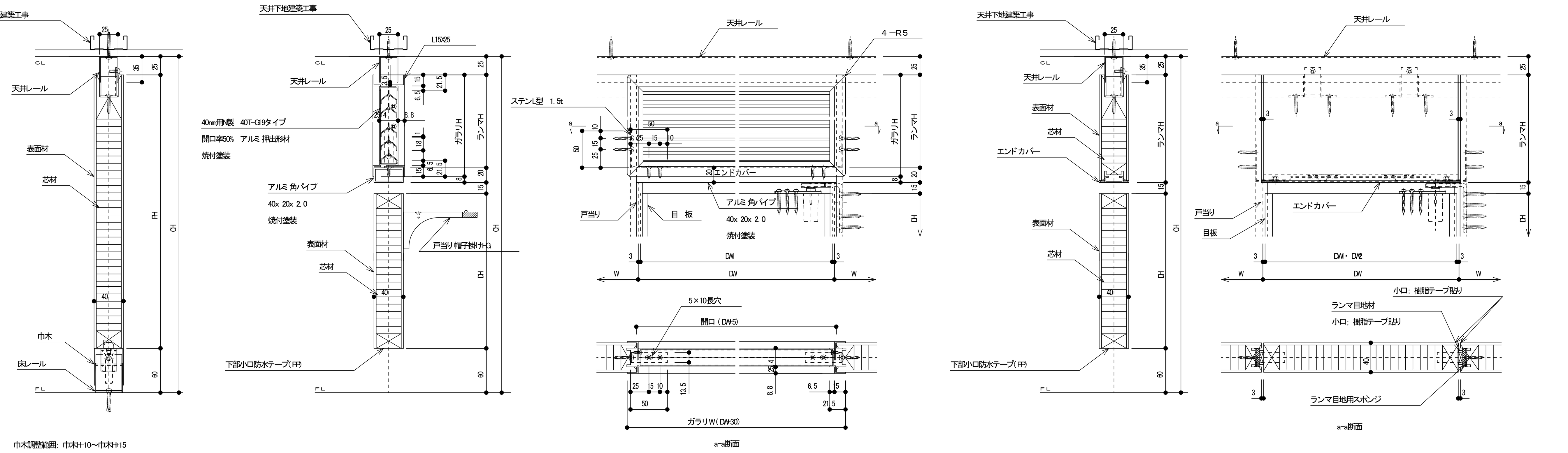
株式会社 総合設備コンサルタント

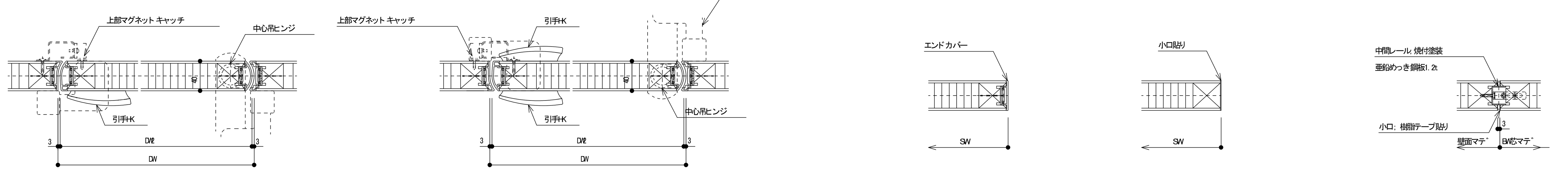
工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事
図面名称	建具リスト２ S = 1/50
図面No.	A-28
設計日	2025年3月

トイレブース　詳細図

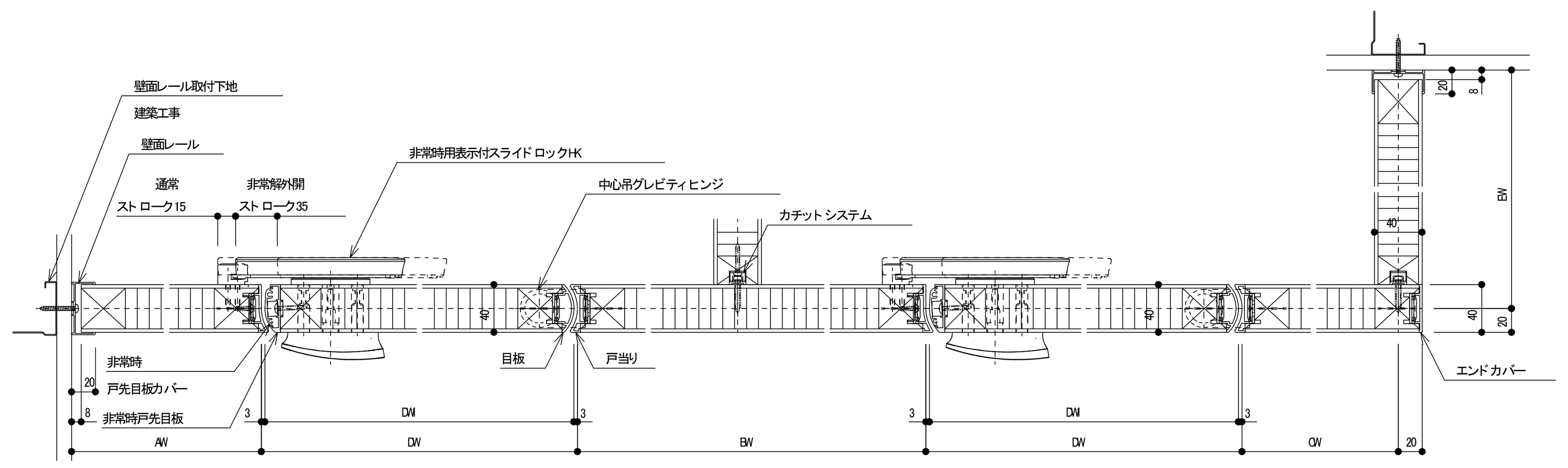
トイレブース（一般）　詳細図

パネル詳細　　扉詳細　　扉詳細





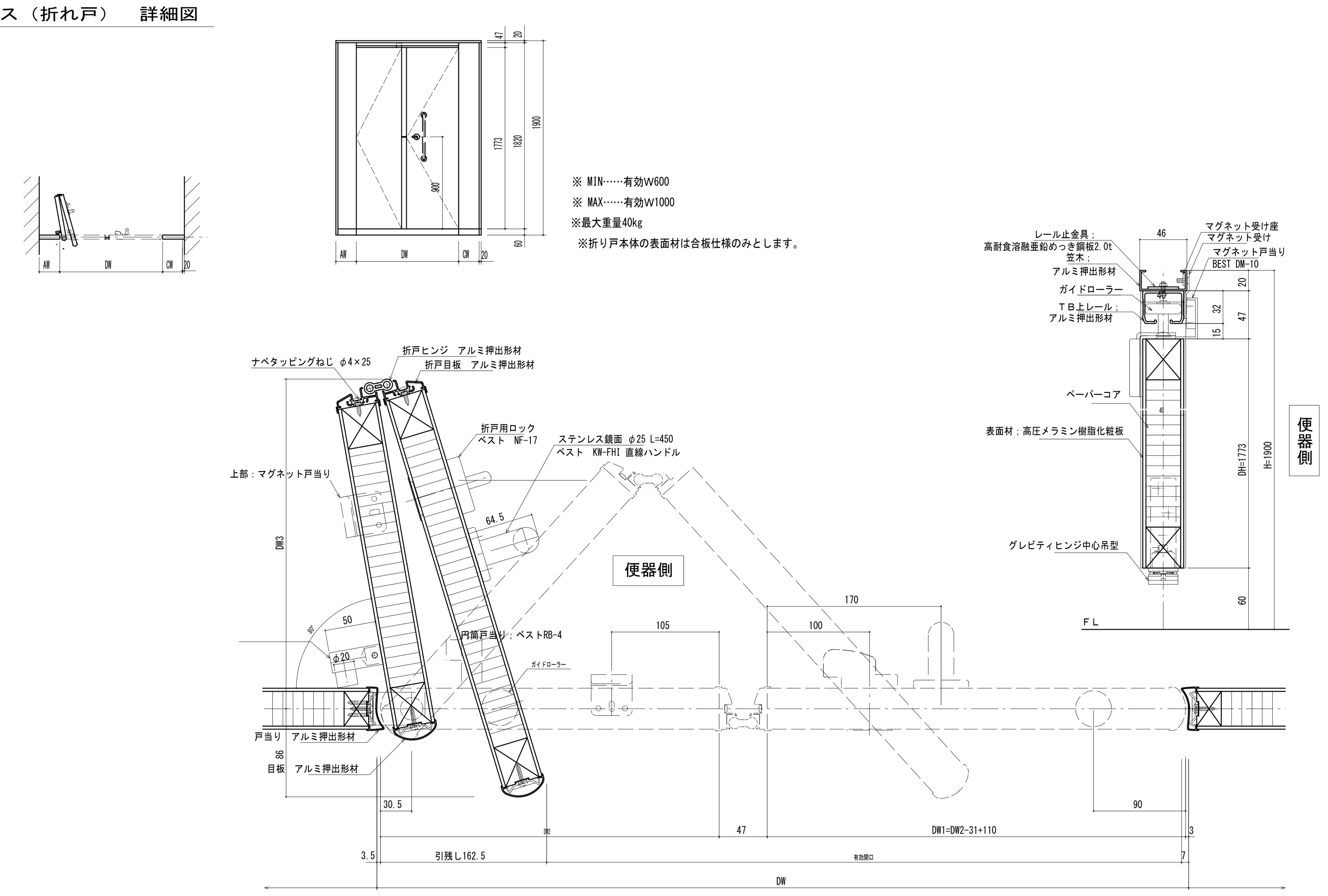
SK・物入れ用外開き扉　　SK・物入れ用内開き扉　　スクリーン端部　　スクリーン端部　　ジョイント



内開きトイレ用扉
非常時外開き対応ドア

内開きトイレ用扉
非常時外開き対応ドア

トイレブース（折れ戸）　詳細図



※　扉は常開タイプです。

折れ戸　詳細図　1/5

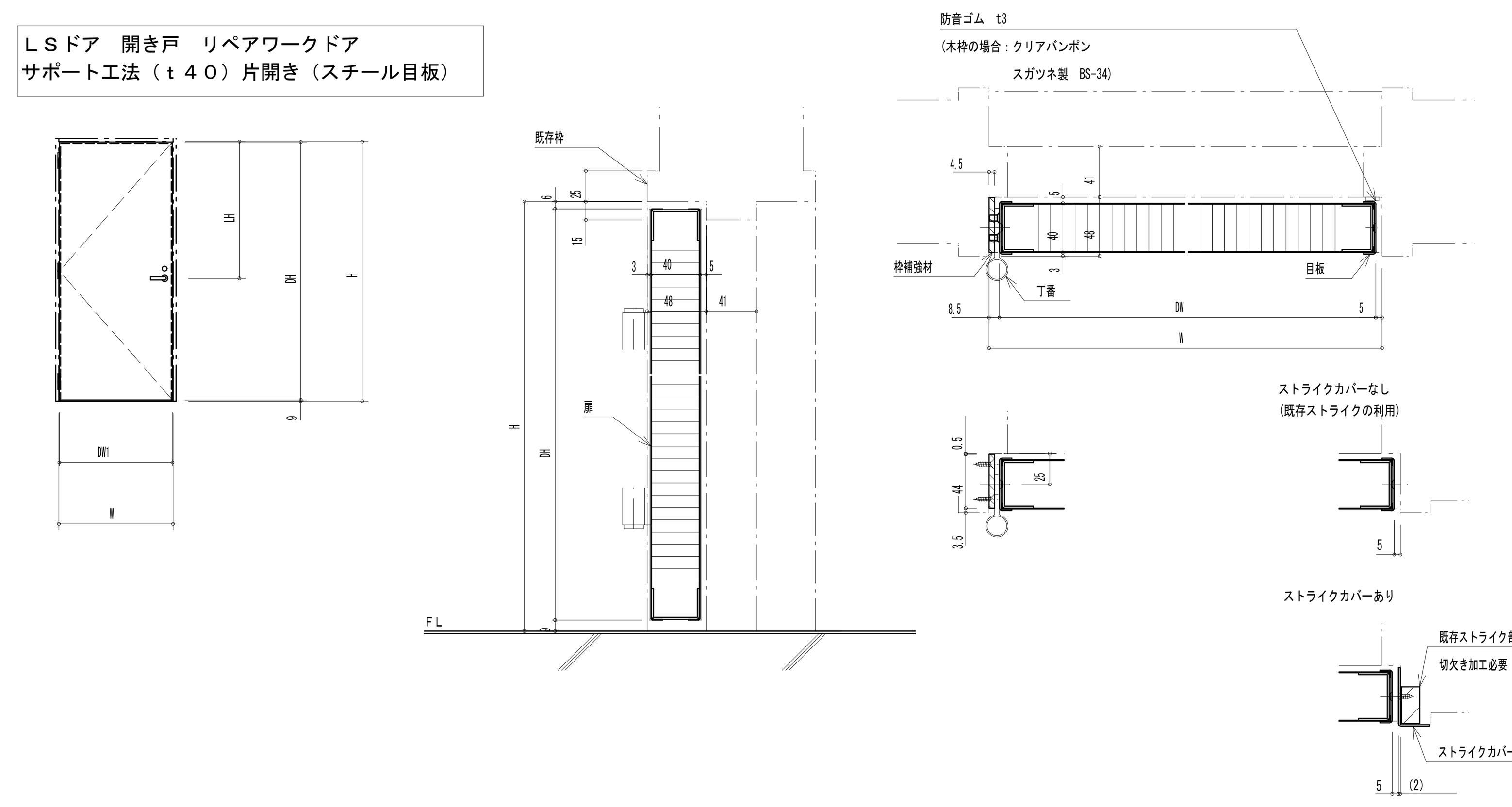
◇トイレブース共通仕様表

（小松ウオール　サニティＴＢ－ＴＰタイプ又は同等品）

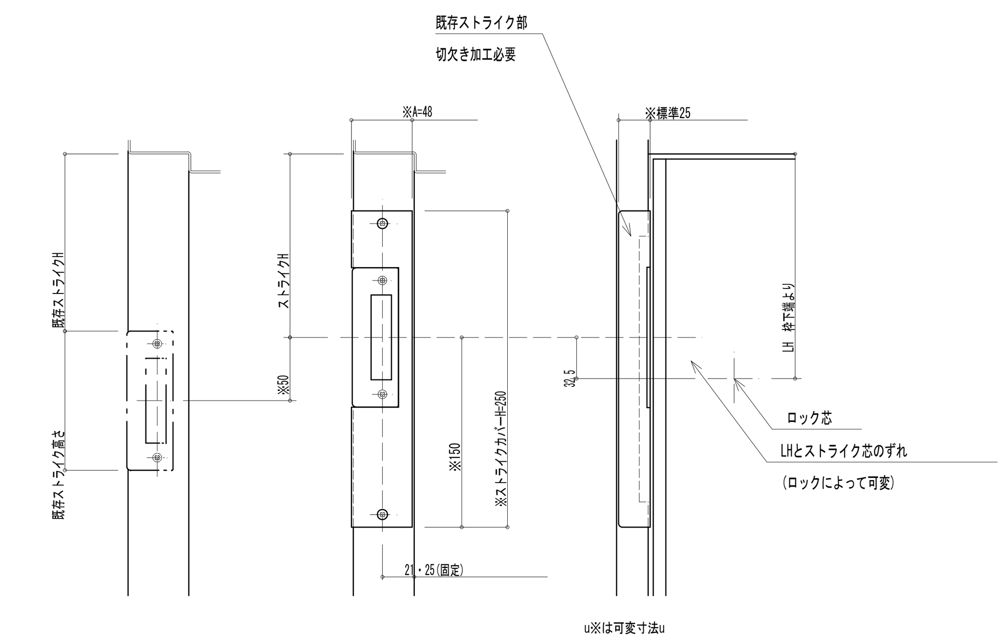
項　目	部　材	材　料（板厚mm）
パネル	パネル表面材	高圧メラミン樹脂化粧板(下地: MDF)
		単色・木目共　20色以上
	芯　材	ペーパーコア
	目板／戸当り	アルミ押出形材　〈焼付塗装仕上〉
付属品	巾木／床レール	ステンレス　0.8mm　〈ヘアライン仕上〉
	天井レール	亜鉛めっき鋼板　1.2mm　〈焼付塗装仕上〉
	壁面レール／エンドカバー	アルミ押出形材　〈焼付塗装仕上〉
	ヒンジ　／SKヒンジ	中心吊グレビティヒンジ　　　／中心吊ヒンジ
	ロック	非常時用表示付スライドロックHK
	その他金物	戸当り帽子掛けHG　　　／引手HK
カーム	パネル表面材(ドアパネル)	高圧メラミン樹脂化粧板(下地: MDF)
		単色・木目共　20色以上
	芯　材(ドアパネル)	ペーパーコア
	フロントゴム	ポリ塩化ビニル(PVC)
	ベース板	亜鉛めっき鋼板2.3mm
	点検カバー	冷間圧延鋼板1.2mm　〈焼付塗装仕上〉
	ロック	非常解錠付樹脂製サムターン〈SLB-20SW〉
	引手	ステンレス鏡面ハンドルφ25

軽量鋼製ドア　詳細図

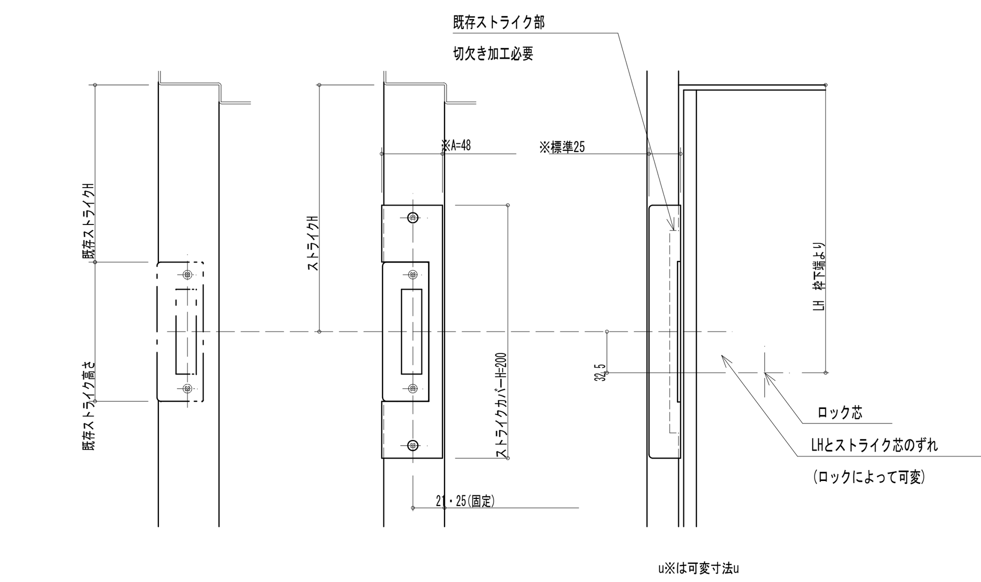
ＬＳドア　開き戸　リペアワークドア
サポート工法（ｔ４０）片開き（スチール目板）



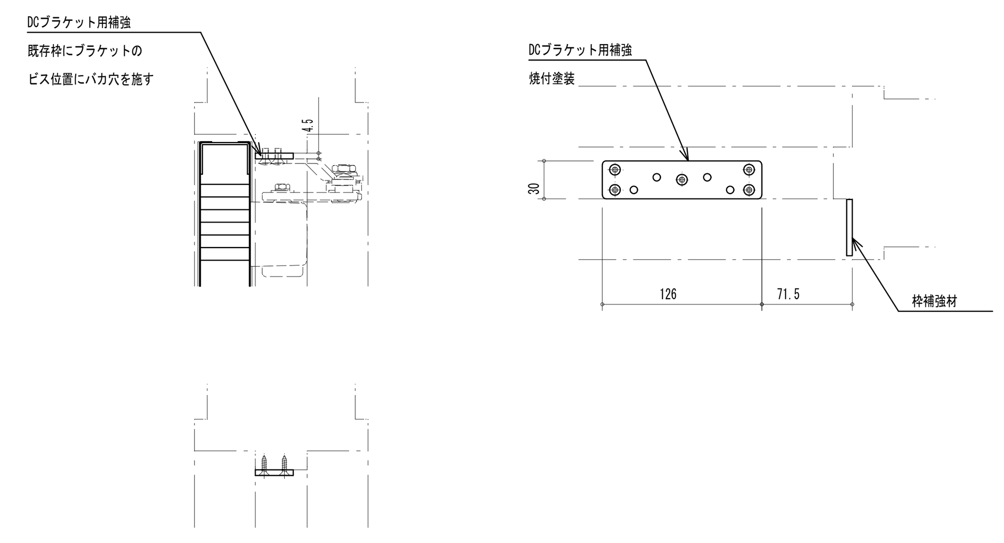
※ロック種類		
	MIWA	GOAL
レバーハンドル	LA	LX
握玉	MA	AS
インテグラル錠	HM	UC
電気錠	AUT/AUR	EUT/EUR
面付電気錠	TK4L	JCLM



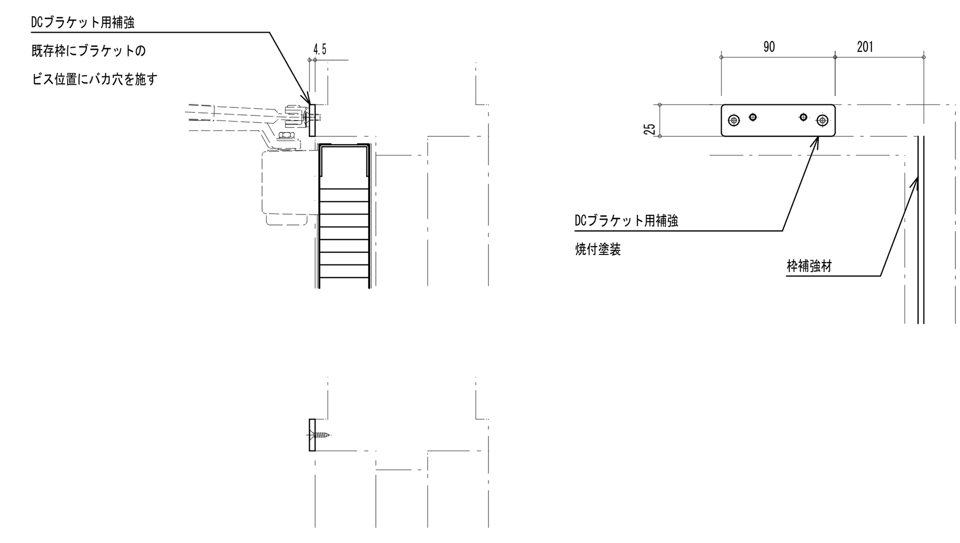
美和　LA、MA、TK4L
ストライクカバー　納まり詳細図
（既存ロック高さと変更する場合）



美和　LA、MA、TK4L
ストライクカバー　納まり詳細図
（既存ロック高さと同じ高さの場合）



ニュースター　7000シリーズ、リョービ　1000シリーズ
ＤＣブラケット補強　納まり詳細図
（パラレル付け場合）



ニュースター　7000シリーズ、リョービ　1000シリーズ
ＤＣブラケット補強　納まり詳細図
（正規付け場合）

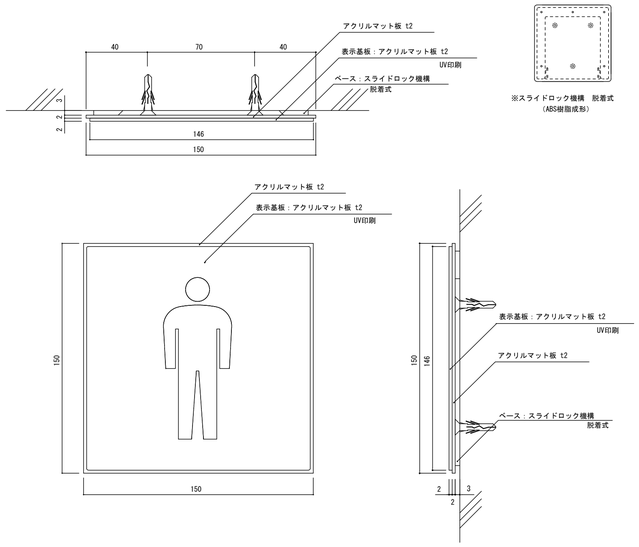
ＬＳドア　開き戸　リペアワークドア
サポート工法　片開き　ドアクローザー補強詳細

◇仕様表

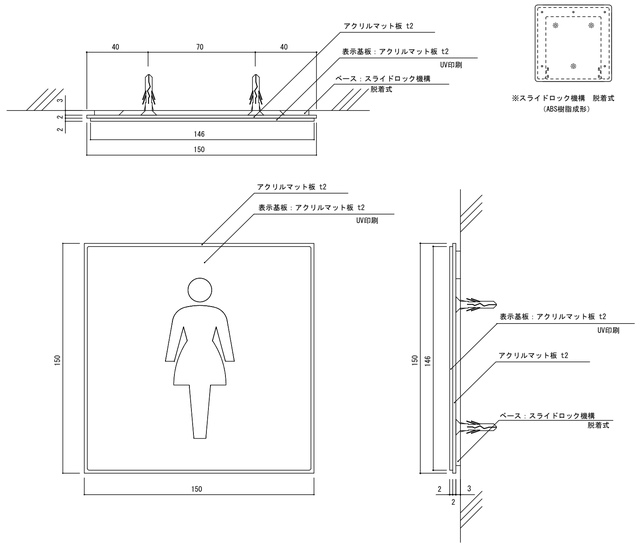
項　目	部　材	材　料（板厚mm）
枠	枠補強材	一般構造用圧延鋼板　4.5mm 〈焼付塗装仕上〉
	金物取付け用補強	一般構造用圧延鋼板　4.5mm 〈焼付塗装仕上〉
	ストライクカバー	亜鉛めっき鋼板　1.6mm、2.3mm　〈焼付塗装仕上〉
扉	パネル表面材	亜鉛めっき鋼板　0.6mm 〈焼付塗装仕上〉
	芯　材	ペーパーコア
	目　板	亜鉛めっき鋼板　1.2mm 〈焼付塗装仕上〉
金物	ロック	一覧表　参照
	ドアクローザ	ニュースター 7000シリーズ、リョービ　1000シリーズ
	吊り金物	旗丁番（ステンレス）
	フランス落し	RDフランス落し（ステンレス）
	戸当り	床付け戸当り
切窓 ガラリ	切窓・ガラリ	アルミ押出形材 〈焼付塗装仕上〉
	ガラス押え	ポリ塩化ビニル　対応ガラス厚3～6mm〈グレー色〉

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課	株式会社　総合設備コンサルタント	工事名称　滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No.　A-29
			図面名称　建具詳細図　S = 1/5	設計日　2025年3月

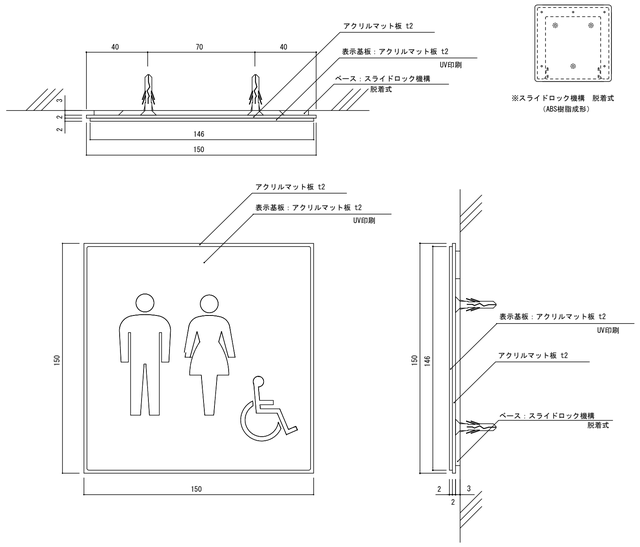
1	平付型男子トイレサイン	縮尺 1:2	数量 4



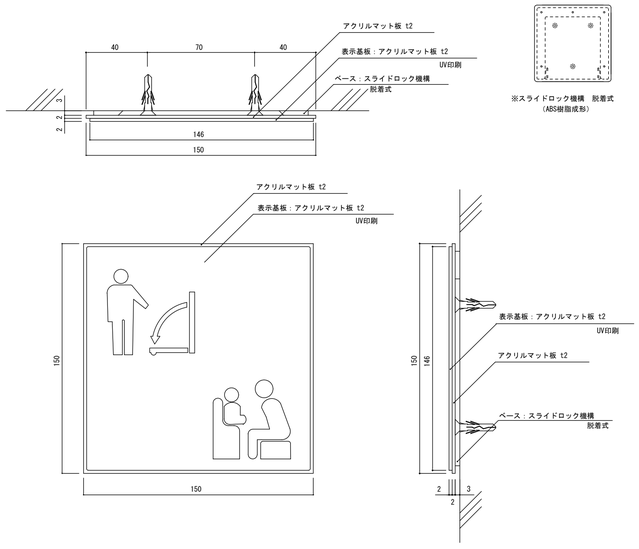
2	平付型女子トイレサイン	縮尺 1:2	数量 4



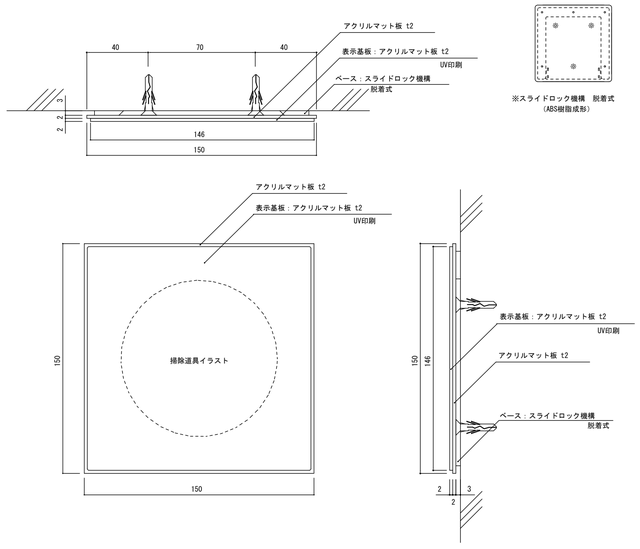
3	平付型オールジェンダートイレサイン１	縮尺 1:2	数量 2



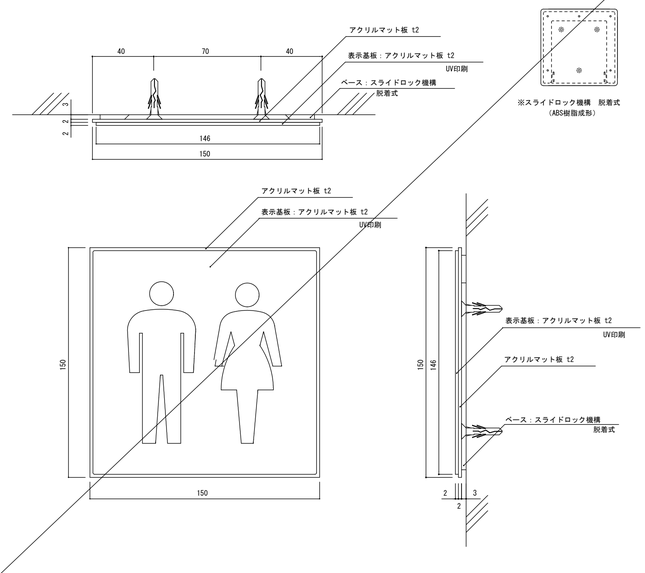
4	平付型オールジェンダートイレサイン２	縮尺 1:2	数量 2



5	平付型ユーティリティーサイン	縮尺 1:2	数量 2



6	平付型共用トイレサイン	縮尺 1:2	数量



■サイン特記仕様

（1）使用材料
- a．木材　：ＶＯＣ商品（ホルムアルデヒド基準Ｆ☆☆☆対応）とする。
- b．アルミ　：ＪＩＳ－Ｈ４１００　Ａ－６０６３　Ｓ－Ｔ５（アルミ押出型材）
- c．アクリル　：ＪＩＳ－Ｋ－６７１８
- d．ステンレス　：ＪＩＳ－Ｇ４３０５　ＳＵＳ３０４、ＨＬ仕上

（2）フォント
- a．書体については、丸ゴシックは「スーラＤＢ」、角ゴシックは「新ゴＭ」を基準とする。
  ※但し、係員より特定の書体の指示があった場合はこの限りではない。

（3）ピクトグラム
- a．図柄については、原稿を作成し係員の承認を受ける事。

（4）カラーユニバーサル
- a．ＵＤカラー認証取得業者での制作とする。

（5）取付位置・方法
- a．取付位置については、視認性を考慮し係員と協議の上決定する。
- b．取付方法については、取付位置の下地などを考慮し適切な方法で取付を行う事。
- c．障害者用サインについては、自治体福祉要綱に基づき、係員と協議の上決定する。

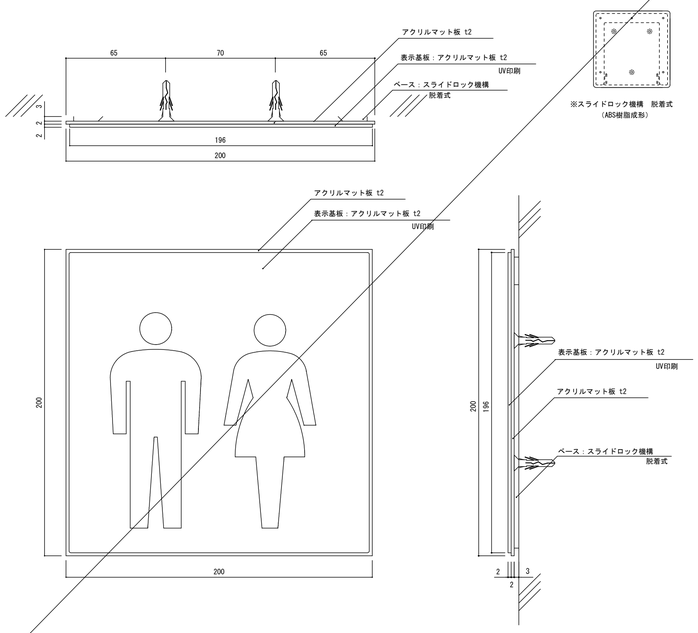
（6）その他
- a．室名札については、部屋の移動・名称変更に対応できるよう脱着式を基本とする。
  又、室名札脱着の際にはスライドロック機構、専用吸盤などを利用し
  商品の損傷等がなくスムーズに脱着できる仕様とする事。
- b．サイン計画については、当施設の他工事と充分に調整協議をする事。

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

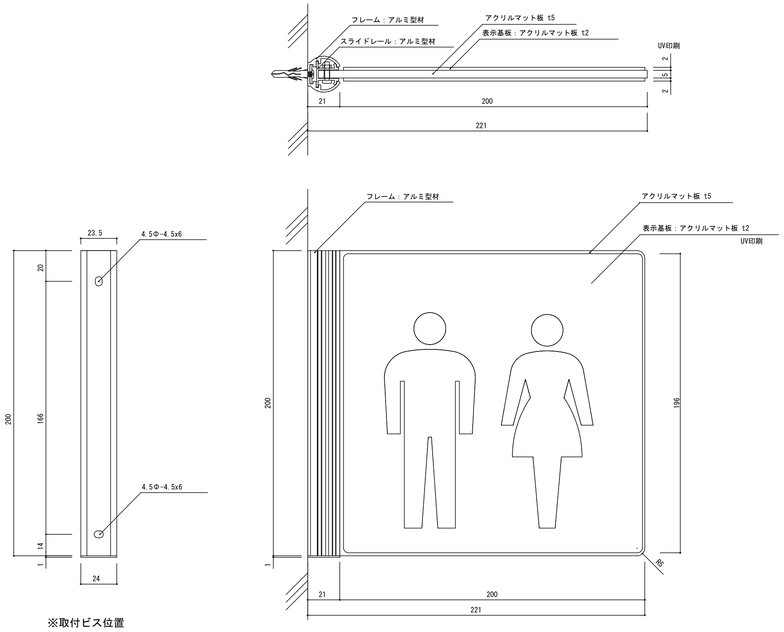
株式会社　総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No.	A-30
図面名称	ピクトサイン詳細図（１）　Ｓ＝1/2	設計日	2025年3月

7	平付型男女トイレ案内サイン	縮尺 1:2	数量



8	突出型男女トイレサイン	縮尺 1:2	数量 3



■サイン特記仕様
（1）使用材料
　a．木材　　：ＶＯＣ商品（ホルムアルデヒド基準Ｆ☆☆☆☆対応）とする。
　b．アルミ　　：ＪＩＳ－Ｈ４１００　Ａ－６０６３　Ｓ－Ｔ５（アルミ押出型材）
　c．アクリル　　：ＪＩＳ－Ｋ－６７１８
　d．ステンレス　：ＪＩＳ－Ｇ４３０５　ＳＵＳ３０４、ＨＬ仕上
（2）フォント
　a．書体については、丸ゴシックは「スーラＤＢ」、角ゴシックは「新ゴＭ」を基準とする。
　　※但し、係員より特定の書体の指示があった場合はこの限りではない。
（3）ピクトグラム
　a．図柄については、原稿を作成し係員の承認を受ける事。
（4）カラーユニバーサル
　a．ＣＵＤカラー認証取得業者での制作とする。
（5）取付位置・方法
　a．取付位置については、視認性を考慮し係員と協議の上決定する。
　b．取付方法については、取付位置の下地などを考慮し適切な方法で取付を行う事。
　c．障害者用サインについては、自治体福祉要綱に基づき、係員と協議の上決定する。
（6）その他
　a．室名札については、部屋の移動・名称変更に対応できるよう脱着式を基本とする。
　　又、室名札脱着の際にはスライドロック機構、専用吸盤などを利用し
　　商品の損傷等がなくスムーズに脱着できる仕様とする事。
　b．サイン計画については、当施設の他工事と充分に調整協議をする事。

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No.	A-31
図面名称	ピクトサイン詳細図（2）　S = 1/2	設計日	2025年3月

滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事

図面リスト

番号	図面名称	縮尺
共通特記	共通　特記仕様書1	NOSCALE
M-01	機械設備工事特記仕様書2	NOSCALE
M-02	機械設備工事特記仕様書3	NOSCALE
M-03	共通　給排水衛生設備　衛生器具リスト	NOSCALE
	D1　研究A棟	
M-04	D1　給排水衛生・換気設備　1階平面図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-05	D1　給排水衛生設備　2階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-06	D1　給排水衛生設備　3階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-07	D1　換気設備　2階平面詳細図（撤去・改修後）	1/50
M-08	D1　換気設備　3階平面詳細図（撤去・改修後）	1/50
	D2　研究B棟	
M-09	D2　給排水衛生設備　1階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-10	D2　換気設備　1階平面詳細図（撤去・改修後）	1/50
	D6　実習棟	
M-11	D6　給排水衛生設備　1階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）	1/50
M-12	D6　換気設備　1階平面詳細図（撤去・改修後）	1/50

機械設備工事特記仕様書２

工事種目（●印を適用し、各一式とする。）

工事種目＼建物及び屋外	D0棟	D3棟				屋外
空気調和設備	○	○	○	○	○	
換気設備	●	●	○	○	○	
排煙設備	○	○	○	○	○	
自動制御設備	○	○	○	○	○	
衛生器具設備	●	●	○	○	○	
給水設備	●	●	○	○	○	○
排水設備	●	●	○	○	○	●
給湯設備	●	●	○	○	○	
消火設備	○	○	○	○	○	○
ガス設備	○	○	○	○	○	○
雨水利用設備	○	○	○	○	○	○
浄化槽設備	○	○	○	○	○	
厨房機器設備	○	○	○	○	○	
撤去工事	●	●	○	○	○	
建築工事	●					
電気設備工事	●					

工事項目に建築工事及び電気設備工事を含む場合、その工事は当該図面による。

下記の項目は、●印のついたものを本工事に適用する。
下記の特記事項は、選択肢となっている場合は●印がついたものを本工事に適用する。ただし、●印のないものは※印を適用する。

一般共通事項

章	項目	特記事項
一般共通事項	● 施工基準	必要な関係諸官庁への申請手続き等は、全て受注者の負担とする。 本図は、工事の大要を示すものであるから、詳細位置等については監督職員と打合せの上、その指示に従い施工する。 その他関係諸法規に基づき完全に施工する。
	○ 施工監理チェックリスト	施工に際し、施工手引き書である機械設備工事施工監理チェックリスト（滋賀県土木交通部建築課　令和元年度版）に従う。
	○ 石綿含有建材の事前調査	1．大気汚染防止法、労働安全衛生法、石綿障害予防規則、その他石綿処理に関する諸法令に基づき実施すること。 2．石綿の事前調査は、建築物石綿含有建材調査者講習登録規程に規程する建築物石綿含有建材調査者等有資格者によるものとすること。 3．事前調査結果は書面で発注者に説明すること。 4．事前調査結果を作業場に備え付け、事前調査結果及び作業内容等を掲示すること。 5．工事に係る部分の床面積の合計が80㎡以上の建築物の解体工事、請負金額100万円以上の建築物の改修工事等の事前踏査を実施したときは、その結果を工事開始前までに石綿事前調査報告システムにより労働基準監督署及び県（大津市内は大津市）に報告するとともに、発注者に書面で報告すること。
	○ フロンの回収等	冷媒にフロンを使用している機器の撤去においては、フロン排出抑制法に基づきフロンガスを全量回収し、大気放出をしない処理を行うこと。また、施工に当たっては特定フロンを使用した材料、工法を用いないこと。
	● 設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとする。 但し別表１に示す設備機器等の製造者等は次の１）から６）の事項を満たすものとし、証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。 １）品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ２）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ３）安定的な供給が可能であること。 ４）法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 ５）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ６）販売、保守等の営業体制が整えられていること。
	● 機材の承諾	機材の承諾に際しては、原則として機械設備工事機材承諾図様式集（令和元年版）による。 ただし、これによらない場合は監督員との協議による。
	○ 機材などの検査及び試験	検査及び試験を行うべき機材等は、標準仕様書又は改修標準仕様書による。
	○ 電気工作物の種類	※事業用電気工作物　○一般用電気工作物
	○ 保安規程	当該施設の定める保安規定を（※適用　○準用）し、電気保安技術者が保安業務を行う。
	○ 電気保安技術者	標準仕様書又は改修標準仕様書に規定する電気保安技術者をおくものとする。
	○ 工事用電力設備の保安責任者	工事用電力設備の保安責任者として、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。 保安責任者は、適切な保安業務を行う。
	○ 技能士	適用する技能検定の職種及び作業の種別は以下による。 ○配管（配管工事）　○建築板金（ダクト製作及び取付け）　○熱絶縁施工（保温工事） ○冷凍空気調和機器施工（チリングユニット、パッケージ形空気調和機の据付け及び整備）
	● 施工調査	施工計画調査は、改修標準仕様書第１編第１章１．５．１による。 事前調査の内容は次による。 調査項目　改修対象建物及び同建物内設備配管・ダクト等・屋外埋設配管等埋設物 調査範囲　本工事との取り合いのある範囲及び本工事の施工により影響が及ぶ範囲 調査方法　スケール・レベル・目視による他、監督職員との協議による。
	○ 地中埋設物等	標準仕様書又は改修標準仕様書によるほか、下記による。 施工前に、当該工事に係わる地中埋設物等（建物内又は既設コンクリート内の既設配管・配線も含む）について事前調査を行う。既設構造物の位置及び既設埋設配管の経路等が不明な場合は、探査方法及び試験堀方法を監督職員と協議する。
	● 非破壊検査	はつり、穴開け及びあと施工アンカー等の施工にあたり、埋設物の事前調査を行う。 施工場所を鉄筋探査機（電磁波レーダー法）により探査し、鉄筋及び配管類の位置に墨出しを行うものとし、費用は本工事とする。放射線透過検査を用いる場合は監督職員と協議するものとし、費用は別途とする。
	○ 工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水等の費用及びそれらに関する官公署への諸手続き等の費用は、受注者の負担とする。
	● 工事用仮設物	構内につくることが　※できる　○できない
	○ 監督職員事務所	○設ける（規模：○10　○20　○35　○　　）m2 程度　※設けない 仕上げの程度は、下表を標準とする。

部位等	仕上げ
床	合板張り又はビニル床シート張り
内壁・天井	合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルションペイント塗り
屋根	塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り
休憩室	畳敷き

監督職員事務所の備品等　※設ける　○設けない
監督職員事務所の設置位置　※構内　○既存建築物の一部　○構外

章	項目	特記事項
一般共通事項	○ 交通誘導員	○設ける（延べ　　人・日）　※設けない
	○ 足場・桟橋類	別契約の関係受注者が定置したものは、無償で使用できる。 ※本工事で設ける場合は標準仕様書第２編第４章第１節４．１．１又は、改修標準仕様書第１編第２章第２節２．２．１によるほか、足場の設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の（２）手すり据置方式又は（３）手すり先行専用足場方式により行うこと。 また足場の種別については次による。なお、単管足場、枠組足場を用いる場合における設置場所については図示による。 内部足場　※Ａ種、Ｂ種、Ｃ種、Ｄ種　○Ｅ種（単管足場）　○Ｆ種（くさび緊結式足場）　○Ｇ種（枠組足場） 外部足場　○Ａ種（枠組足場）　○Ｂ種（くさび式緊結足場）　○Ｃ種（単管足場）　※Ｄ種、Ｅ種　○Ｆ種（高所作業車）
	○ 仮設間仕切り	屋内に仮設間仕切りを設ける場合は、改修標準仕様書第１編第２章第２節２．２．３による。
	● 官公署その他への手続き	工事の施工に必要な官公署その他への手続きは、標準仕様書第１編第１章第１節１．１．３又は改修標準仕様書第１編第１章第１節第１．１．３による。
	● 養生	養生を行う場合は、標準仕様書第１編第１章第３節１．３．１０又は改修標準仕様書第１編第３章による。 既存部分の養生　※行う　○行わない　養生の方法　※改修標準仕様書による　○（　　　） 固定された備品、机、ロッカー等移動・復旧　○行う　数量等（　　　）　※行わない
	● 撤去	機器・配管・ダクト等の撤去後のアンカーボルトや釣りボルトについて、保守に支障が無いように切断等の処理を行う
	● 発生材の処理等	１）標準仕様書第１編第１章第３節１．３．９又は改修標準仕様書第１編第５章による。 引渡しを要するもの　●なし　○あり（機器類・金属類等） フロン系冷媒使用機器の撤去　●なし　○あり （上記機器類の撤去は改修標準仕様書第３編第２章第４節２．４．２、２．４．３及び同第５編第２章第３節２．３．２による。） ２）冷媒については関係法令に従い適切に破壊処分を行う（家電リサイクル法対象機器を除く）。 積込み　※本工事　○別途　処分費　※本工事　○別途 運搬費　※本工事　○別途
	（石綿含有建材の事前調査　続き）	３）次に示す部位のうち、アスベスト含有分析調査の判断は以下による。 アスベスト含有調査の実施　○なし　○あり

部位	アスベスト含有調査の判断
ダクトパッキン	○含有をみなしとし調査は不要 ○含有を見なしとせず調査は必要
配管エルボ部保温材	○含有をみなしとし調査は不要 ○含有を見なしとせず調査は必要
煙道断熱材	○含有をみなしとし調査は不要 ○含有を見なしとせず調査は必要

分析対象資機材

部位	定性分析	定量分析	備考
ダクトパッキン	（試料数：　）	（試料数：　）	採取箇所は図示による
配管エルボ部保温材	（試料数：　）	（試料数：　）	採取箇所は図示による
煙道断熱材	（試料数：　）	（試料数：　）	採取箇所は図示による

４）アスベスト含有分析調査を行う場合の調査方法は以下による。
※JIS A 1481-2「建材製品中のアスベスト含有率測定方法－第２部：試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法」又はJIS A 1481-3「建材中のアスベスト含有測定方法－第３部：アスベスト含有率のＸ線回析定量分析法」による。
調査費用　※本工事　○別途
５）分析調査結果については、監督職員に報告すること。
６）次のアスベスト含有資機材は関係法令に従い適切に処理する。
○ダクトパッキン　○配管エルボ部保温材　○煙道断熱材
７）下記に示す発生材については工事補足説明事項による。
再生資源材　○コンクリート　○コンクリート２次製品　○木材　○アスファルト・コンクリート
その他発生材　○建設汚泥　○廃プラスチック　○保温材　○衛生陶器

章	項目	特記事項
一般共通事項	○ 建設発生土の処理	※場外指定場所に搬出（運搬及び処分費　※本工事　○別途） ○場内指示の場所にたい積　○場内指示場所に敷きならし

搬出場所	受入条件
名称：	受入可能な土質区分：
住所：	受入期間：
	受入時間：
	その他：

搬出場所、受入条件等は発注時点のものであるため、施工計画や実施工程により確認し、監督職員に報告する。併せて、近隣の受入先を調査の上、搬出場所、受入条件等が確認できる資料を監督職員に提出し、搬出場所について協議するものとし、必要に応じて設計変更の対象とする。
提出後、監督職員へ搬出場所での受入を証明する資料を提出する。

章	項目	特記事項
一般共通事項	○ 著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	● 施工上の留意事項等	イ　液化石油ガス設備工事を施工するものは、特定液化石油ガス設備工事事業者であること。 ロ　液化石油ガス設備工事の作業に従事する者は、液化石油ガス設備士であること。 ハ　液化石油ガスの各種検査は、供給者または保安機関の検査を受け合格すること(記録紙および検査写真を提出すること)。 ニ　給水配管の接合剤は、上水道用の接合剤とする(継手指定品を除く)。 ホ　地中埋設の鋼管類は防食処置を行う。また、コンクリート貫通箇所はプラスチックテープを巻きモルタル埋めする。 ヘ　建物内埋設配管は全てスラブより吊るものとし、その要領は標準仕様書の屋内配管の支持要領に準ずる。 ト　暖房給湯設備における試運転用油量は、オイルストレージタンクの1/3以上とする。 チ　空気調和設備における仕切弁については、100Ａ以上はバタフライ弁(JIS10K)とする。 リ　コンクリート製排水桝、汚水桝、浄化槽と硬質塩化ビニル管の接続部は砂付き加工の工場製品を使用し、漏水防止を図る。 ヌ　機械設備工事内に含まれる電気設備工事は、電気設備工事の基準に基づき施工する。 ル　機器の据付、配管支持については、『建築設備耐震設計施工指針』を参考とする。 ヲ　風量調整ダンパー、防排煙ダンパー類は、全て工場製作品とし、(財)日本建築センターの防災認定マークを貼付されたものとする。 ワ　配管には空気だまりの無いように施工し、図示以外で施工必要箇所には自動空気抜き弁を取付ける。 カ　保温工事については、極力滋賀県保温保冷事業協同組合員等県内業者とする。 ヨ　当該工事において、既設配管、既設埋設配管があった場合は監督職員の指示により、迂回等の工事を行い、軽微なものは本工事内とする。また撤去工事は特に既設配管の行先を確認の上、安全に処理する。 タ　環境配慮の視点から、以下の材料の利用に努めること。 (1)グリーン購入法に基づくエコマーク商品 (2)建設リサイクル法により再資源化されたリサイクル製品、材料 (3)滋賀県リサイクル製品認定制度に基づく滋賀県リサイクル製品 （参考URL http://www.pref.shiga.jp/d/haikibutsu/gomizero/h2112reeflet.pdf）
総合試運転調整	○ 空気調和設備	○風量調整（測定共）　○水量調整（測定共）　○室内外空気の室温度測定 ○室内気流及びじんあいの測定 ○騒音の測定（測定箇所及び規制値は図示による）
	● 換気設備	●風量調整（測定共）　○室内気流及びじんあいの測定 ○騒音の測定（測定箇所及び規制値は図示による）
	○ 排煙設備	○風量調整（測定共） ○騒音の測定（測定箇所及び規制値は図示による）
	○ 給水設備	○飲料水の水質の測定 ※平成１５年３月２５日付け厚生労働大臣告示１１９号第二の一の１の（４）による ○標準仕様書による ○雑用水の水質の測定 ※建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則 第四条の二による
共通適用項目	● 耐震措置	設備機器の固定は、施設の分類並びに機器の種別、重要度及び接地階に応じて、次の設計用水平地震力及び設計用鉛直地震力に対し、移動、転倒、損傷等が生じないように検討（計算等）を行い、監督員の承諾を受ける。 １）設計用水平地震力 機器の重量［ｋＮ］（水槽類は満水時の液体重量を含む設備機器総重量）に、地域係数１．０及び次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。 イ）設計用標準水平震度　※下表による　○図示による

	機器種別	特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階・屋上・塔屋	機器	２．０	１．５	１．５	１．０
	防振設備設置	２．０	２．０	２．０	１．５
	水槽類	２．０	１．５	１．５	１．０
中間階	機器	１．５	１．０	１．０	０．６
	防振設備設置	１．５	１．５	１．５	１．０
	水槽類	１．５	１．０	１．０	０．６
地階・１階	機器	１．０	０．６	０．６	０．４
	防振設備設置	１．０	１．０	１．０	０．６
	水槽類	１．５	１．０	１．０	０．６

耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設を、乙類の建物は一般の施設を適用する。
屋外に設置する機器は建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。
上層階・中間階の定義は次の通りとする。
上層階：２～６階建の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２層、１０～１２階建の場合は上層３層、１３階以上の場合は上層４階
中間階：地下階、１階を除く各階で上層階に該当しないもの
重要機器は、図示による。
２）設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の１／２とする。
３）中央監視装置及び操作卓
操作卓は本体を床又は壁にアンカーボルトで固定できるように固定金具を備えたものとし、卓上機器は、転倒防止用の措置を講じたものとする。

章	項目	特記事項
共通適用項目	● 配管材料等	配管材料は標準仕様書第２編第２章第１節又は改修標準仕様書第２編第２章第１節による。 また各設備において。リサイクル材料が指定された場合、規格サイズがないものについては、リサイクル材料を使用しなくてもよい。
	● 一般用弁	水道直結部及び図面特記部の耐圧はＪＩＳ又はＪＶ１０Ｋ、その他はＪＩＳ又はＪＶ５Ｋとする。
	○ 伸縮管接手	鋼管用伸縮管接手は下記による。 ※ベロース形　○スリーブ形
	○ フレキシブルジョイント	図中、フレキブルジョイントの略式記号は下記による。 ＦＪＢ：フレキシブルジョイント（ベロース形）　ＦＪＧ：フレキシブルジョイント（合成ゴム製）
	● 溶接接合	配管の溶接接合は標準仕様書第２編第２章第５節２．５．１５又は改修標準仕様書第２編第２章第３節２．３．１６による。 また、溶接部の非破壊検査は、 ※適用しない　○適用する（○放射線透過検査　○浸透探傷検査又は磁粉探傷検査）
	● 既設配管接合部の試験	既設配管を含む部分の試験　※要（試験項目は監督職員の指示による）
	○ 地中配管の埋戻し土	被覆管を地中配管する場合は、標準仕様書第２編第２章第７節２．７．１（５）又は改修標準仕様書第２編第２章第５節２．５．１（１２）による。 その他の管を地中配管する場合は、山砂等で管の周囲を埋め戻した後、掘削土の中の良質土を使用する。
	○ 埋設配管の防食処理	標準仕様書第２編第２章第７節２．７．３又は改修標準仕様書第２編第２章第５節２．５．３による。 ただし、地中配管の排水用塩ビライニング鋼管は、防食措置を行う。
	● 保温及び塗装	１）標準仕様書において、ロックウール保温材、グラスウール保温材及びポリスチレンフォーム保温材が併記されている箇所は、いずれかを使用する。 ２）屋外露出配管（冷媒管を除く）の保温外装材は次による。 ※溶融アルミニウム・亜鉛鉄板　○ステンレス鋼板 ３）屋内露出配管（冷媒管を除く）の保温外装材は、原則、合成樹脂製カバー１とする。 ４）弁・ストレーナなどの金属製カバー外装及びタンク類の保温外装材の種別は、次による。 ※溶融アルミニウム・亜鉛鉄板　○カラー亜鉛鋼板　○ステンレス鋼板 ５）車庫に露出のダクト及び配管の保温は、機械室による。 ６）各場所に露出の保温を施さないダクト及び配管の塗装は以下による。 ・外壁廻り　※要　○不要　○書庫、倉庫　○要　※不要 ・屋上階　○要　※不要　○機械室　○要　※不要 ・車庫　○要　※不要　○一般居室　※要　○不要 ・廊下　○要　○不要　○図示　○　　室　○要　※不要 ７）合成樹脂製支持受　※硬質ウレタンフォームに準ずるもの　○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの
	● 機器名称等の表示	標準仕様書第１編第１章第７節１．７．４又は改修標準仕様書第１編第１章第８節１．８．５によるほか機器に表示する内容は監督職員の指示による。
	○ ステンレス製ダクトの板厚	ステンレス製ダクトの板厚は、JIS A 4009 2017による。
	● 吹出口及び吸込口ボックス	ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合はJIS A 4009（空気調和及び換気用ダクトの構成部材）によるものとし、厚さ０．６ｍｍ以上の亜鉛鉄板で補強を施したものとする。 ボックスの吊りは３点支持を標準とし、重量物及びこれによらない場合は、監督職員と協議する。 なお大温度差空調等の場合は吹出口ボックス内に露出となる吊りボルトに結露対策を施すこと。
	○ 開放形膨張タンク等	開放形膨張タンク、補給水タンク及び消火用充水タンクの材質は次による。 ※鋼板製　○ステンレス鋼板製
	○ 電線及び電線管ボックス	電線及び電線管等については標準仕様書第４編第１章第５節による。 ＰＦ管で配管する場合は、ボックスを使用する。
	● 容量等の表示	機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は表示された数値以下とする。
	● 誘導電動機	電動機出力が０．７５ｋＷ以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、JIS C 4213（低圧三相かご形誘導電動機－低圧トップランナーモータ）による。
	○ スリーブ	柱、梁及び耐震壁以外の箇所で、開口補強が不要、かつ、スリーブ径が２００φ以下の部分にする場合は、紙製仮枠を使用してもよい。その場合は、変形防止の措置を講じ、かつ配管施工前に仮枠を必ず取り除く。
	● 鋼材工事	機器付属金属及び配管、ダクトの支持金物は標準仕様書第２編第４章第６節又は改修標準仕様書第２編第７章第５節による。
	● はつり及び穴開け	はつり及び穴開けを行う場合は、改修標準仕様書第２編第４章による。
	● インサート及びアンカー	あと施工アンカー等を行う場合は、改修標準仕様書第２編第５章による。 性能確認試験　○行う（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の建築改修工事監理指針（下巻）令和元年版）第８章１２節８．１２．７）による。 ※行わない 施工後確認試験　※行う（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成３１年版）第８章１２節８．１２．７）によるものとし、重要機器を取り付けるあと施工アンカーについて行う。 ○行わない
	○ 防煙ダンパー及び防火防煙ダンパー	復帰方式は　※遠隔復帰式 ○手動復帰式
	○ 消音内貼	ダクト及びチャンバー、消音エルボの内貼り（箇所図示）は次による。 １）消音内貼り部分の外部保温は　○要　※不要 ２）チャンバーの寸法は、外形寸法を示す。 （但し、ダクト及び消音エルボは、内形寸法を示す。） ３）点検口は内貼り仕様又は断熱戸とする。
	○ 取付枠	防火区画部に取り付ける吹出口、吸込口等で取付枠を必要とするものは鋼枠を使用する。
	○ 防火区画	○平面図　○図示　○
	○ 天井仕上区分	（　）書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
空気調和設備	○ 方式	※新設　○改設 ○全空気方式（○中央　○各階ユニット） ○ファンコイル・ダクト併用方式　○個別方式 ○既設 ○全空気方式（○中央　○各階ユニット） ○ファンコイル・ダクト併用方式　○個別方式
	○ 設計時の温湿度条件	（下表）

場所	屋外（　○○　市） 温度（ＤＢ）	屋外 湿度（ＲＨ）	屋内（調整目標値） 一般事務室 温度（ＤＢ）	一般事務室 湿度（ＲＨ）	○○○○室 温度（ＤＢ）	○○○○室 湿度（ＲＨ）
夏期	○○．○℃	○○．○％	２８℃	４５％	○○℃	○○％
冬期	○．○℃	○○．○％	１９℃	４０％	○○℃	○○％

章	項目	特記事項
空気調和設備	○ ダクトの種別	※低圧ダクト　○高圧１ダクト　○高圧２ダクト
	○ ダクトの工法	○アングルフランジ工法　○コーナーボルト工法
	○ ダクトの分岐方法	○割込み工法　○直付け工法
	○ 配管材料（図面特記部分は除く）	１）冷温水管・膨張管・エアー抜き管及び膨張タンクからボイラー等への補給水管　※配管用炭素鋼鋼管（白） ２）冷却水管　※配管用炭素鋼鋼管（白）　○硬質塩化ビニルライニング鋼管 ３）蒸気給水管　※配管用炭素鋼鋼管（黒）　○圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ４）蒸気還管　※圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ５）油管　※配管用炭素鋼鋼管（黒）［トラフ内共］ ６）空調用給水管　○ステンレス鋼鋼管（ＳＵＳ３０４） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＡ、ＳＧＰ－ＦＶＡ） ○ポリエチレン粉体ライニング鋼管（ＳＧＰ－ＰＡ、ＳＧＰ－ＦＰＡ） ステンレス鋼管の接合は以下による。 呼び径６０Ｓｕ以下　拡管式 呼び径７５Ｓｕ以上　溶接接合、ハウジング形管接手による接合又はフランジ接合 ７）空調用排水管　○配管用炭素鋼鋼管（白） ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ＲＦ－ＶＰ） （屋内地中配管）※リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ＲＦ－ＶＰ） （屋外地中配管）※硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） ８）冷媒管　※断熱材被覆銅管　○銅管　○鋼管 ９）パッケージ形空気調和機の２次側配線の仕様は製造者の標準仕様とする。
	○ 保温及び塗装（図面特記部分は除く）	標準仕様書又は改修標準仕様書の当該事項による。ただし、次の部分は本仕様とする。 １）パッケージ形空気調和機に用いる冷媒管の保温外装は次による。

［屋内］	隠ぺい部	露出部
単独配管の場合	※不要　○要	○保証化粧ケース（樹脂製）　○合成樹脂カバー１　○図示
集合配管の場合	※不要	○図示
［屋外］		
単独配管の場合	○溶融ｱﾙﾐﾆｳﾑ－亜鉛鉄板　○ステンレス鋼板　○図示	
	○保温化粧ケース（○樹脂製○溶融ｱﾙﾐﾆｳﾑ－亜鉛鉄板製○ステンレス鋼板製）	
集合配管の場合	○図示	

また、屋外における保温化粧ケースの下部カバーは　○要　※不要　とし、竪管部にはずれ止め固定を施す。
２）冷媒管における集合配管において、室外機との間が単独配管となった場合は、集合配管用保温外装と同材質にて外装を行う。テープ等での外装は行わない。
３）エアー抜き管の保温厚は２０ｍｍとし、仕様は当該配管の項に準ずる。又、保温を行う範囲はエアー抜き弁までとする。
４）油管の地中埋設管は標準仕様書第２編第２章第７節２．７．３（３）による。
５）保温を施す膨張タンク等のふた及びネック部分の保温は　※要　○不要とする。
６）暗渠内（ピット内を含む）の空調用ドレン管は保温（○有　※無）とする。

章	項目	特記事項
空気調和設備	○ 温度計	温度計は次による。 ※工業用バイメタル式温度計　○ガラス製棒状温度計　○ガラス製二重管温度計
	○ 鋼板製煙道	厚さ　※図示
	○ ばい煙濃度計	○設けない　○設ける（電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む） ※ファン付　○ファンなし
	○ ばいじん量測定口	煙道に８０φ以上のフランジ付きの検査口を設ける。
換気設備	● ダクトの種別	※低圧ダクト　○高圧１ダクト　○高圧２ダクト
	● ダクトの工法	○アングルフランジ工法　●コーナーボルト工法
	● ダクトの分岐方法	給気用ダクト　○割込み工法　○直付け工法 排気用ダクト　●割込み工法　○直付け工法
	○ 厨房用ダクトの板厚	厨房用のダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は次による。 ダクトの長辺　板厚 ４５０ｍｍ以下　０．６ｍｍ ４５０ｍｍを超え１２００ｍｍ以下　０．８ｍｍ １２００ｍｍを超え１８００ｍｍ以下　１．０ｍｍ １８００ｍｍを超えるもの　１．２ｍｍ
	○ 排気フード	排気フードの補強、支持金物、接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は次による。 ※ステンレス鋼板（補強共）
	○ 保温	浴室・厨房（多湿箇所）の外気取入ダクトの保温　※要　○不要 外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について）　※要　○不要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について）　※要　○不要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について）　○要　※不要 上記以外で外気取入ダクトに保温を行う室：　※図示による 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第２編第３章第１節による。
排煙設備	○ 排煙対象部分	○廊下　○事務室　○図示　最大面積　　m2
	○ ダクトの種別	○高圧１ダクト　○高圧２ダクト
	○ ダクトの工法	※アングルフランジ工法
	○ ダクトの材料	※亜鉛鉄板製　○普通鋼板製
	○ 排煙口	１）形状　○スリットフェース形　○パネル形　○ダンパー形 ２）排煙口の開放　○手動（○機械式　○電動式）　○煙感知器連動 ３）復帰装置　○手元復帰式（○手動式　○電気式）　○遠方復帰式 ４）ダンパー本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。
	○ 保温	廊下及び暗渠内の保温　○要（図示）　※不要
衛生器具設備	● 取付高さ	１）洗面器の取付高さ（床面より前縁上端まで）は次による。ただし、身体障害者用器具は除く。 洗面器　※８００　○７５０
給水設備	● 給水方式	○水道直結方式　●ポンプ直送方式（小型給水ポンプユニット）　○高置タンク方式 ○水道直結増圧方式（水道用直結加圧形ポンプユニット）
	● 配管材料（図面特記部分は除く）	１）屋内配管○ステンレス鋼鋼管（ＳＵＳ３０４）（※一般系統　○飲料水系統） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＡ、ＳＧＰ－ＦＶＡ）(※一般系統○雑用水系統) ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管（ＨＩＶＰ） ○ナイロンコーティング鋼管（ピット水槽内部） （地中配管）○水道用硬質ポリ塩化ビニル管（ＨＩＶＰ） ○ステンレス鋼鋼管（ＳＵＳ３１６） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＤ、ＳＧＰ－ＦＶＤ） ２）屋外配管○水道用硬質ポリ塩化ビニル管（ＨＩＶＰ） ○水道用ポリエチレン二層管（呼び径５０以下） ○水道配水用ポリエチレン管（ＪＷＷＡ　Ｋ　１４４）（呼び径７５以上） ○ステンレス鋼鋼管（ＳＵＳ３１６） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＤ、ＳＧＰ－ＦＶＤ） ステンレス鋼管の接合は以下による。 呼び径６０Ｓｕ以下　拡管式 呼び径７５Ｓｕ以上　溶接接合、ハウジング形管接手による接合又はフランジ接合
	○ 弁類	飲料水系統の弁類は厚生労働省基準に準じた鉛レスとする。
	○ 水栓柱	※合成樹脂製　○ステンレス製 特記なき場合、寸法は７０×７０×１３００Ｈ、取付け高さは約６００Ｈとする。
	○ 管の埋設深さ	１）一般敷地　※３００ｍｍ　○ ２）構内車両通路　※６００ｍｍ　○
	○ 加入金等	○要（○本工事　○別途工事）　○不要 名称：
排水設備	● 排水方式	汚水と雑排水　屋内　●分流式　○合流式 汚水・雑排水と雨水　屋外　●分流式　○合流式 ポンプ排水　○有り（○汚物　○雑排水　○雨水　○湧水　○浄化槽２次側）　●無し
	○ 放流先	１）汚水　※直放流下水管　○浄化槽 ２）雑排水　※直放流下水管　○浄化槽　○別途桝（建築工事） ３）雨水ポンプアップ　○直放流下水管　○雨水側溝（建築工事）　○雨水桝（建築工事） ４）湧水ポンプアップ　○直放流下水管　○雨水側溝（建築工事）　○雨水桝（建築工事）
	● 配管材料（図面特記部分は除く）	１）屋内汚水管　※排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 （地中配管）※リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ＲＦ－ＶＰ） ○ ２）屋内雑排水管　※排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 ○配管用炭素鋼鋼管（白） （地中配管）※リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ＲＦ－ＶＰ） ○ ３）屋外汚水・雑排水管　※硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） （樹脂製小口径桝との接続には、変換ソケットを使用する） ○コンクリート管 ４）通気管　※配管用炭素鋼鋼管（白） （地中配管）※リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ＲＦ－ＶＰ） ５）ポンプアップ排水管（汚水・雑排水）※硬質塩化ビニルライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＡ） 接手は圧送排水鋼管用可とう接手（JPF MDJ 003）による。 （湧水）※配管用炭素鋼鋼管（白） （ただし汚水・雑排水槽内は硬質塩化ビニルライニング鋼管（ＳＧＰ－ＦＶＤ）、屋外の地中配管は硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ）とする。） ６）衛生器具との接続管　※リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ＲＦ－ＶＰ）
	○ 加入金等	○要（○本工事　○別途工事）　○不要 名称：
給湯設備	● 給湯方式	○中央式　●局所式
	○ 配管材料（図面特記部分は除く）	○銅管（壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆銅管を使用してもよい。） ○ステンレス鋼鋼管（ＳＵＳ３０４）　○ステンレス鋼鋼管（ＳＵＳ３１６） ステンレス鋼管の接合は以下による。 呼び径６０Ｓｕ以下　拡管式 呼び径７５Ｓｕ以上　溶接接合、ハウジング形管接手による接合又はフランジ接合
	○ 保温	１）膨張管・補給水管の保温は冷温水管に準ずる。 ２）ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第２編第３章３．１．５の表２．３．５による。
消火設備	○ 消火設備の種類	○屋内消火栓　○スプリンクラー　○泡消火　○不活性ガス消火 ○連結送水管　○連結散水　○フード等用簡易自動消火装置　○屋外消火栓　○消防用水
	○ 配管材料（図面特記部分は除く）	１）一般配管　○配管用炭素鋼鋼管（白）　○圧力配管用炭素鋼鋼管（白）　○図示 ２）地中配管（屋内及び屋外）　※消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（ＳＧＰ－ＶＳ）
	○ 保温	消火用充水タンクの保温を　※施工する（膨張タンクによる）　○施工しない 消火用呼水タンクの保温を　※施工しない　○施工する（膨張タンクによる） 屋外露出管の保温を　※施工する（給水管の保温仕様に準ずる）　○施工しない
ガス設備	○ ガスの種類	○都市ガス発熱量　４５，０００ＫＪ／m3（Ｎ）　○液化石油ガス（※５０ｋｇ　○２０ｋｇ）
	○ 配管材料（図面特記部分は除く）	［屋内］　※配管用炭素鋼鋼管（白）　○ポリエチレン被覆鋼管（ピット内） ［屋外］　※ポリエチレン管
	○ 地下配管の接合方法	○ネジ工法　○ＳＧＭ工法　○ＰＥ管工法
	○ ピット内施工法	※溶接工法
	○ 負担金	○要（○本工事　○別途工事）　○不要

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称：滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. M- 01
			図面名称：機械設備特記仕様書2　S = NOSCALE	設計日 2025年3月

機械設備工事特記仕様書３

別表１＜機械＞

品目	細目
ボ　イ　ラ　ー	鋼製簡易ボイラー 鋳鉄製ボイラー 鋼製小型ボイラー 鋼製ボイラー
温 水 発 生 機	真空式温水発生機（鋼製・鋳鉄製） 無圧式温水発生機（鋼製・鋳鉄製）
冷　　凍　　機	チリングユニット 吸収冷温水機 吸収冷温水機ユニット 遠心冷凍機
冷　　却　　塔	冷却塔
空 気 調 和 機	ユニット形空気調和機 ファンコイルユニット及びカセット形ファンコイルユニット パッケージ形空気調和機 コンパクト形空気調和機 マルチパッケージ形空気調和機 ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機
空 気 清 浄 装 置	エアフィルター（パネル形、折込み形） 自動巻取形エアフィルター 電気集じん器
全 熱 交 換 器	全熱交換器（回転形、静止形）
送　風　機　類	遠心送風機（多翼形送風機） 斜流送風機 軸流送風機 消音ボックス付送風機
ポ　ン　プ　類	横形遠心ポンプ 水中モーターポンプ（汚水用、雑排水用、汚物用） 立形遠心ポンプ
ダ ク ト 付 属 品	風量ユニット（定風量、変風量）
自　動　制　御	自動制御システム
衛生器具ユニット	衛生器具ユニット
タ　　ン　　ク	ＦＲＰ製パネルタンク 密閉形隔膜式膨張タンク（空調用・給湯用） ステンレス鋼板製パネルタンク（溶接組立形） ステンレス鋼板製パネルタンク（ボルト組立形）
消　火　装　置	スプリンクラー消火システム 不活性ガス消火システム 泡消火システム ハロゲン化物消火システム
厨　房　機　器	厨房システム
鋳 鉄 製 ふ た	マンホールふた・弁桝ふた

使　用　機　材　製　造　者　指　定

本工事に使用する機器材料は、下記に指定する製造者のものを使用のこと。ただし、同等品を使用する場合には、建築課所定の様式により承諾を得て使用のこと。

適用	機　材　名	製　造　業　者					
●	配　管　類	ＪＩＳ規格等適合品製造者					
●	弁　　類	ＪＩＳ規格等適合品製造者					
	タ　ン　ク	ＪＩＳ規格等適合品製造者					
	ポ　ン　プ						
	量　水　器						
	防 振 継 手						
	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ(S/S)						
	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ(ｺﾞﾑ)						
●	排 水 金 物 類						
	マンホール類						
	グリストラップ						
●	衛 生 陶 器 類	TOTO	LIXIL				
	消　火　栓　箱						
	ボ　イ　ラ						
●	瞬 間 湯 沸 器	TOTO	LIXIL				
	給　湯　器						
	厨 房 機 器						
	ガス集合装置						
	ガスコック類						
	浄　化　槽						
●	送　風　機	三菱	テラル	荏原			
●	換　気　扇	三菱	ダイキン	東芝			
	全 熱 交 換 器						
	排　煙　機						
	防火・防煙・排煙ダンパー						
	冷　凍　機						
	冷温水発生機						
	冷　却　塔						
	空　調　機						
	放　熱　器						
	ファンコイルユニット						
●	吹出口・吸込口	協立エアテック	空研工業	有馬製作所			
	製　缶　類						
	自動制御機器						
	受　水　槽						

章	項　目	特　記　事　項	章	項　目	特　記　事　項	章	項　目	特　記　事　項

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称：滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事
							図面名称：機械設備特記仕様書3　S ＝ NOSCALE
							図面No.：M- 02
							設計日：2025年3月

（新設）衛生器具リスト

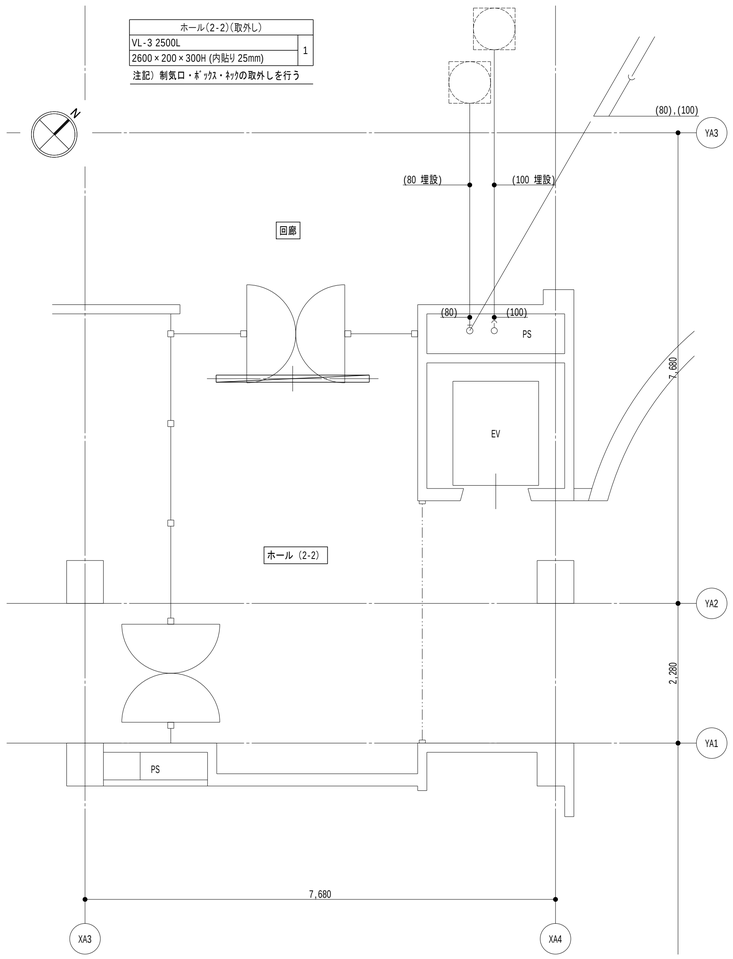
器具名	参考品番	付属品	合計	人間文化学部棟群											
				D1 研究A棟						D2 研究B棟				D6 実習棟	
				2階		3階				1階				1階	
	TOTO			女子便所 (2-6)	男子便所 (2-3)	女子便所 (2-8)	男子便所 (2-9)	ｵｰﾌﾟﾝｴﾝﾀﾞｰﾄﾚ (2-2)	ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ (2-4)	女子便所 (2-1)	男子便所 (2-2)	ｵｰﾌﾟﾝｴﾝﾀﾞｰﾄﾚ (2-1)	ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ (2-1)	女子便所 (2)	男子便所 (1)
洋風便器	CFS498BWT（フラッシュタンク式）	便座（TCF5514＝貯湯式、擬音装置、便蓋あり、AC100V電源、消費電力314W）、センサースイッチ（HE37）、SUS製棚付2連紙巻器（YH702）	17	2	2	3	2			3	1			3	1
洋風便器	CFS498BWT（フラッシュタンク式）	便座（TCF5514Y＝貯湯式、擬音装置、便蓋なし、AC100V電源、消費電力314W）、センサースイッチ（HE37）、SUS製棚付2連紙巻器（YH702）	2					1				1			
便座消毒ディスペンサー	CFS498BWT（フラッシュタンク式）	便器消毒ディスペンサー（サラヤ:SC-460C）	17	2	2	3	2	1		3	1	1		3	1
和風便器	C755VU（フラッシュバルブ式）	自動フラッシュバルブ（TEFV70UHA）、配管セット、電波受信ユニット（THE27）、タッチスイッチユニット（TES47WR）、擬音装置（YES412R　AC100V）、SUS製棚付き2連式紙巻器（YH702）	2							1	1				
壁掛小便器（2連）	XPU22B（マイクロ波センサー）	小便器（XPU22B）×2、ライニングパーツ（UAUNB2RA1W＝2連用）、小便器用手すり（T115CU3R#NW1）、ハイドロセラ・フロア（AB690BR#HB4）×2	3				1				1				1
壁掛小便器（3連）	XPU22B（マイクロ波センサー）	小便器（XPU22B）×3、ライニングパーツ（UAUNB3RA1W＝3連用）、小便器用手すり（T115CU3R#NW1）、ハイドロセラ・フロア（AB690BR#HB4）×3	1		1										
洗面器	L270CM、壁掛形	自動水栓（TLE33SB4A＝電気温水器付、AC100V電源、消費電力0.6kW）、水せっけん入れ（TS126AR）、ブラケット共、止水栓共、排水金具共	2					1				1			
ボウル一体型洗面器（2連）	L830CMRU、スタンダード、ボウル2連、樹脂タイプ	L=1770、樹脂タイプ　自動水栓（REAHO3B1RS26SK＝電気温水器付、AC100V電源、消費電力0.6kW）×2、水せっけん入れ（TS126AR）、ブラケット共、止水栓共、排水金具共	2											1	1
ボウル一体型洗面器（2連）	LS351CM、スタンダード、ボウル2連、陶器タイプ	L=1800、陶器タイプ　自動水栓（REAHO3B1RS26SK＝電気温水器付、AC100V電源、消費電力0.6kW）×2、水せっけん入れ（TS126AR）、ブラケット共、止水栓共、排水金具共	3		1		1				1				
ボウル一体型洗面器（2連）	LS351CM、スタンダード、ボウル2連、陶器タイプ	L=1930、陶器タイプ　自動水栓（REAHO3B1RS26SK＝電気温水器付、AC100V電源、消費電力0.6kW）×2、水せっけん入れ（TS126AR）、ブラケット共、止水栓共、排水金具共	1							1					
ボウル一体型洗面器（2連）	LS351CM、スタンダード、ボウル2連、陶器タイプ	L=2150、陶器タイプ　自動水栓（REAHO3B1RS26SK＝電気温水器付、AC100V電源、消費電力0.6kW）×2、水せっけん入れ（TS126AR）、ブラケット共、止水栓共、排水金具共	1			1									
ボウル一体型洗面器（3連）	LS351CM、スタンダード、ボウル3連、陶器タイプ	L=3150、陶器タイプ　自動水栓（REAHO3B1RS26SK＝電気温水器付、AC100V電源、消費電力0.6kW）×3、水せっけん入れ（TS126AR）、ブラケット共、止水栓共、排水金具共	1	1											
コンパクトオストメイトパック	UAS81DC2NWHNW1	自動水栓（REWF03＝電気温水器付、AC100V電源、消費電力0.6kW）、センサースイッチ（HE37）、小型化粧鏡付、紙巻器付、側板（UTR141）	1									1			
掃除用流し	SK22A	横水栓（T23AEQ20C）、リムカバー（TK22）、バックハンガー共、止水栓共、床排水金具共	3						1				1		1
モップ掛けパネル	UTR422S		3						1				1		1
化粧鏡	EL80017	洗面器用450×1000、取付金具共	17	3	2	2	2			2	2			2	2
化粧鏡	YMK50K	全身用300×16×1500、取付金具共	10	1	1	1	1	1		1	1	1		1	1
傾斜鏡	LM530		2					1				1			
フック	YKH22		4					1				1		1	1
手すり（L型）	T112CL9	L型、取付金具共	2					1				1			
手すり（はね上げ型）	T112HK6R	はね上げ型、取付金具共	2					1				1			
フィッティングボード	YKA41R		2					1				1			
ベビーチェア	YKA15S	平壁設置タイプ	2					1				1			

注記事項

1. 品番は便宜上、TOTO（株）とする
2. リストに記載なき必要な付属品は標準品を設置すること
3. ライニング、カウンター等の詳細図寸法について、建築施工図を確認したうえで発注すること
4. 色の選択が可能な器具類について、発注者と協議のうえで決定すること
5. 器具取付部分の補強は建築工事とするが、補強の必要箇所及び採用メーカーの取付要領を建築工事施工業者へ提示し、調整を行うこと
6. 採用するメーカーの仕様書を電気設備施工業者へ提示し、電源供給（器具の位置）等の調整を行うこと

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント		工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. M- 03
								図面名称	共通　給排水衛生設備　衛生器具リスト　S = NOSCALE	設計日 2025年3月

撤去



D1 給排水・換気設備 1階平面図（撤去） S=1/50

線種記号

記 号	名 称	備 考
— — —	給水配管	SGP-PA
———	雑排水配管	DVLP
—>—	汚水配管	DVLP
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

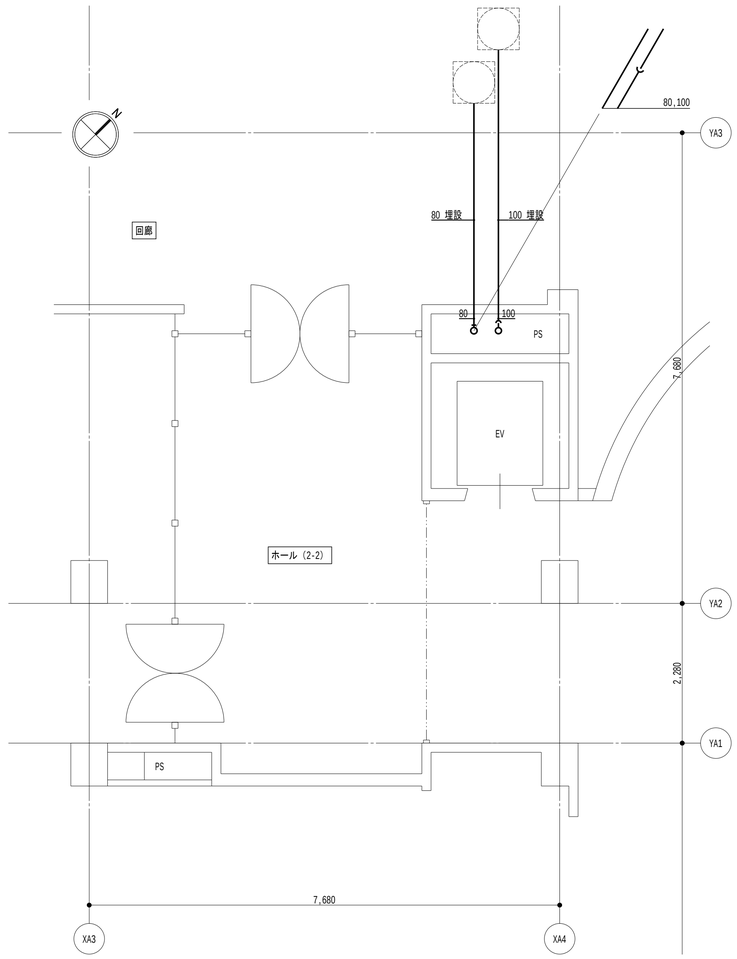
凡例

記 号	名 称	備 考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記

1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．　は既設穴埋め箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管はPS内配管とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



D1 給排水・換気設備 1階平面図（管更生） S=1/50

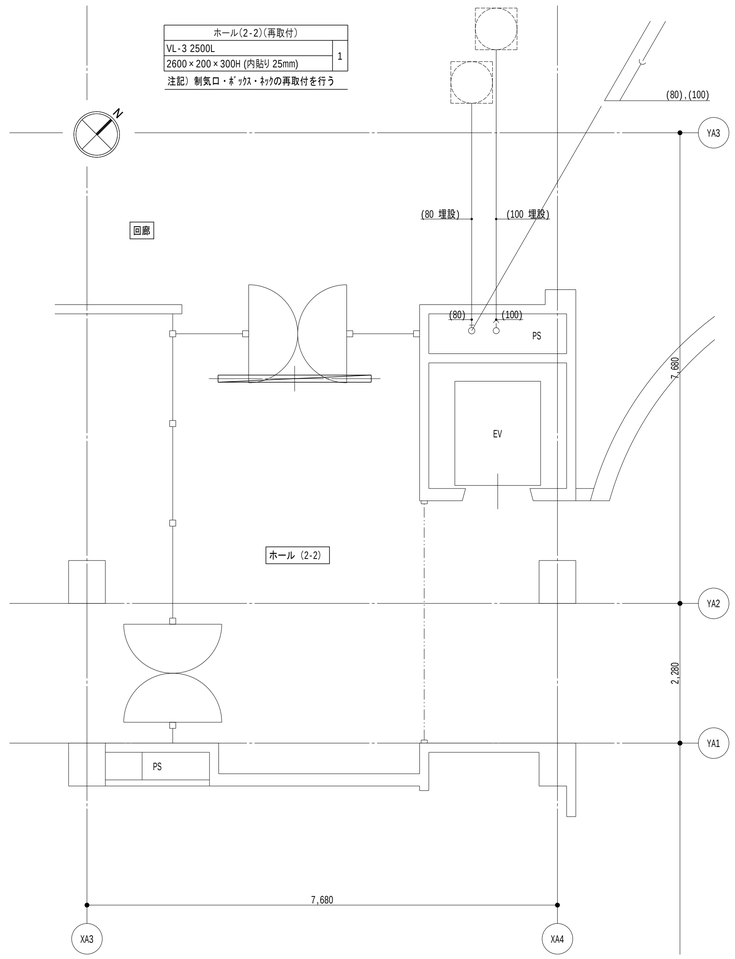
線種記号

記 号	名 称	備 考
———	雑排水配管	DVLP、管更生
—>—	汚水配管	DVLP、管更生
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

注記

1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管はPS内配管とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
　ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



D1 給排水・換気設備 1階平面図（改修後） S=1/50

線種記号

記 号	名 称	備 考
— — —	給水配管	既：SGP-PA 新：HIVP
———	雑排水配管	既：DVLP 新：FS-VP
—>—	汚水配管	既：DVLP 新：FS-VP
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

凡例

記 号	名 称	備 考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記

1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．　はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
　鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
　給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
　特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管はPS内配管とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. M- 04
図面名称	D1 給排水衛生・換気設備 1階平面図 (撤去・管更生・改修後) S = 1/50	設計日 2025年3月

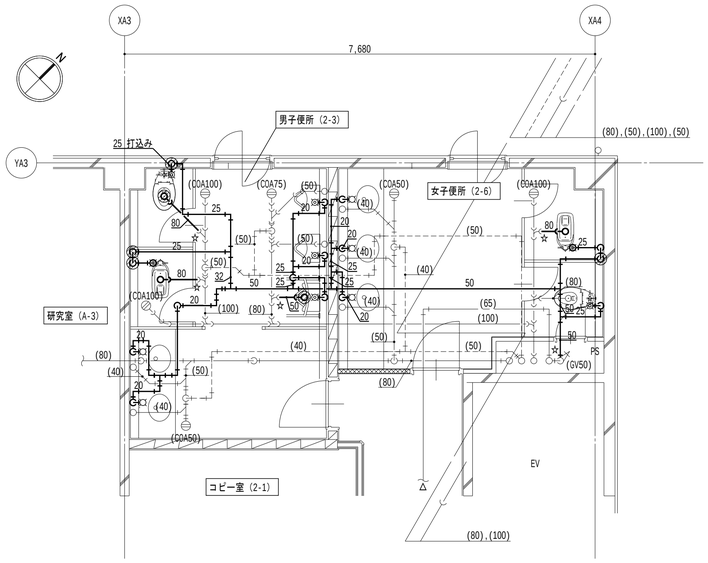
撤去

D1　2階

女子便所（2-6）		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洗面器	3連カウンター型（陶器のみ） 、水栓3個共	1
注記）付属品共、場外搬出処分とする		
和風便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする		

D1　2階

男子便所（2-3）		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
小便器	床置型	1
	壁掛型	2
洗面器	2連カウンター型（陶器のみ） 、水栓2個共	1
手すり	小便器用	1
注記）付属品共、場外搬出処分とする		
和風便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする		



D1　給排水設備　2階平面図（撤去）　S=1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	SGP-PA
―――	雑排水配管	DVLP
―>―	汚水配管	DVLP
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

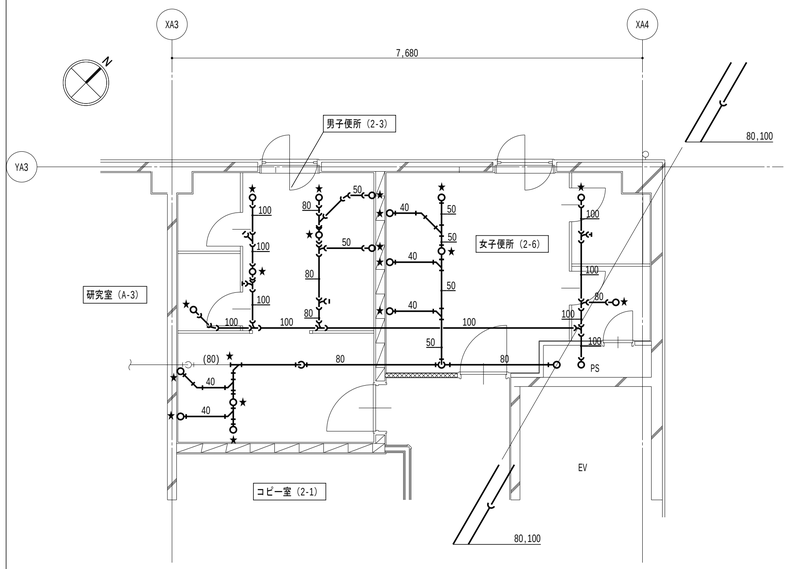
凡例

記　号	名　称	備　考
◎	洗浄弁	
⌑	水栓	
⦶	掃除口	

注記

1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．⊘ は既設穴埋の箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管は天井内、空隙壁内とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



D1　給排水設備　2階平面図（管更生）　S=1/50

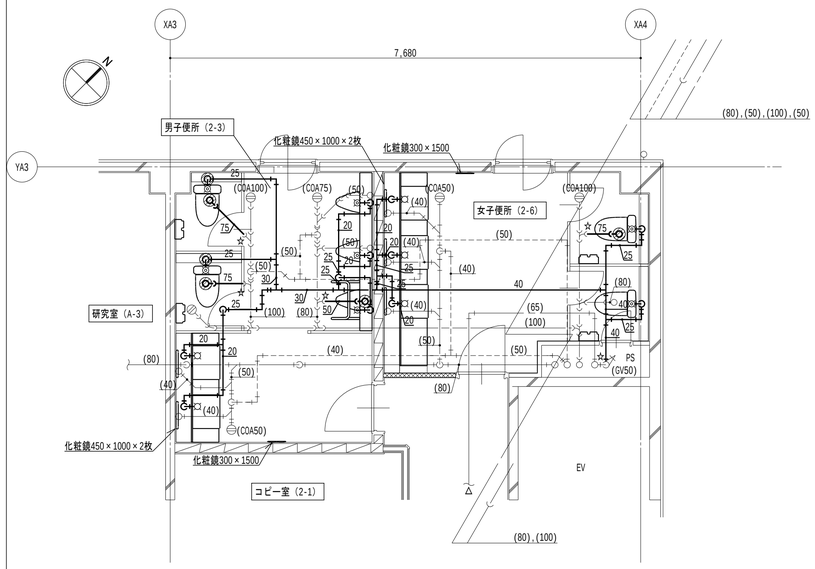
線種記号

記　号	名　称	備　考
―――	雑排水配管	DVLP、管更生
―>―	汚水配管	DVLP、管更生
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

注記

1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管は天井内、空隙壁内とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
　ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



D1　給排水設備　2階平面図（改修後）　S=1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	既：SGP-PA　新：HIVP
―――	雑排水配管	既：DVLP　新：FS-VP
―>―	汚水配管	既：DVLP　新：FS-VP
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
◎	洗浄弁	
⌑	水栓	
⦶	掃除口	

注記

1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．⊘ はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
　鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
　給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
　特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管は天井内、空隙壁内とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社　総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No.	M- 05
図面名称	D1　給排水衛生設備　2階平面詳細図　(撤去・管更生・改修後)　S = 1/50	設計日	2025年3月

撤去

D1 3階

女子便所（2-8）		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	2
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洗面器	2連カウンター型（陶器のみ） 、水栓2個共	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする

和風便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする

D1 3階

男子便所（2-9）		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
小便器	床置型	1
	壁掛型	1
洗面器	2連カウンター型（陶器のみ） 、水栓2個共	1
手すり	小便器用	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする

和風便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする

D1 3階

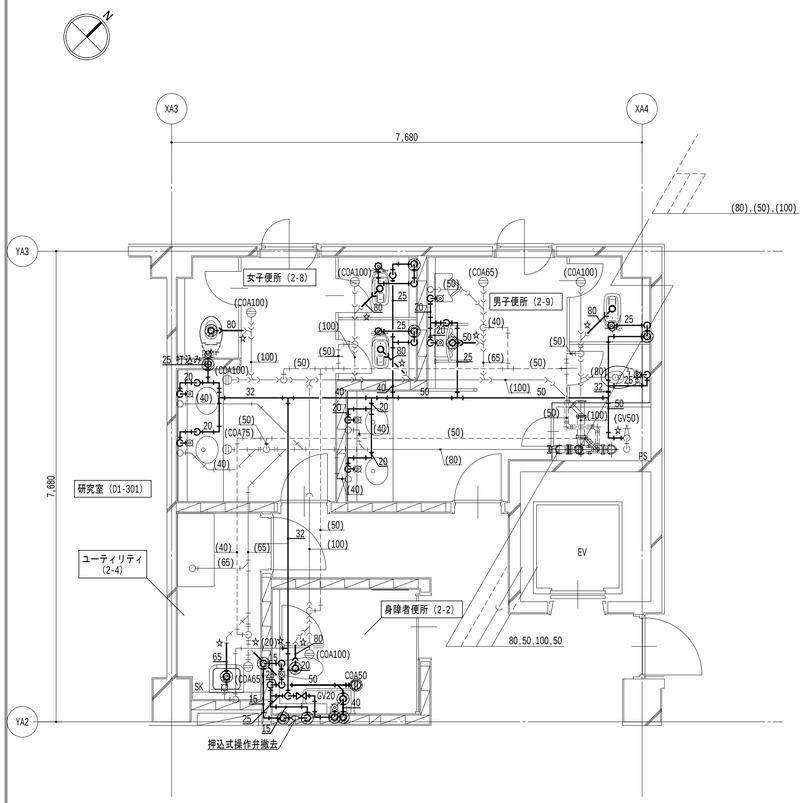
身障者便所（2-2）		撤去・処分
名称	仕様	数量
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洗面器	壁掛型、水栓共	1
手すり	L型	1
	水平可動型	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする

D1 3階

ユーティリティ（2-4）		撤去・処分
名称	仕様	数量
掃除用流し	水栓共	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする



D1 給排水設備 3階平面図（撤去） S=1/50

線種記号

記 号	名 称	備 考
― ― ―	給水配管	SGP-PA
―――	雑排水配管	DVLP
―→―	汚水配管	DVLP
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

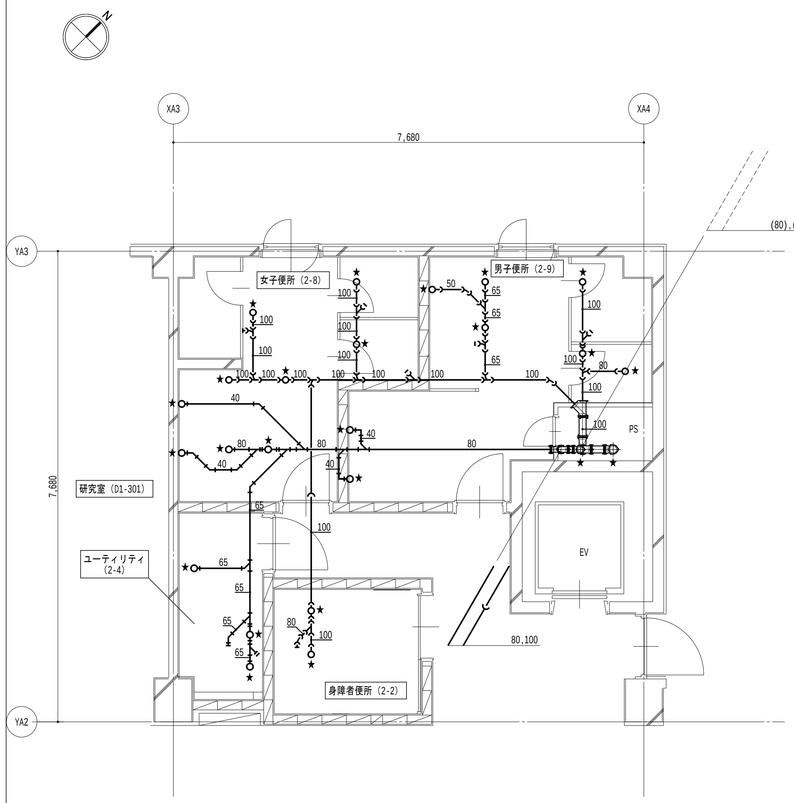
凡例

記 号	名 称	備 考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記

1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．　は既設穴埋め箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管は天井内、空隙壁内とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



D1 給排水設備 3階平面図（管更生） S=1/50

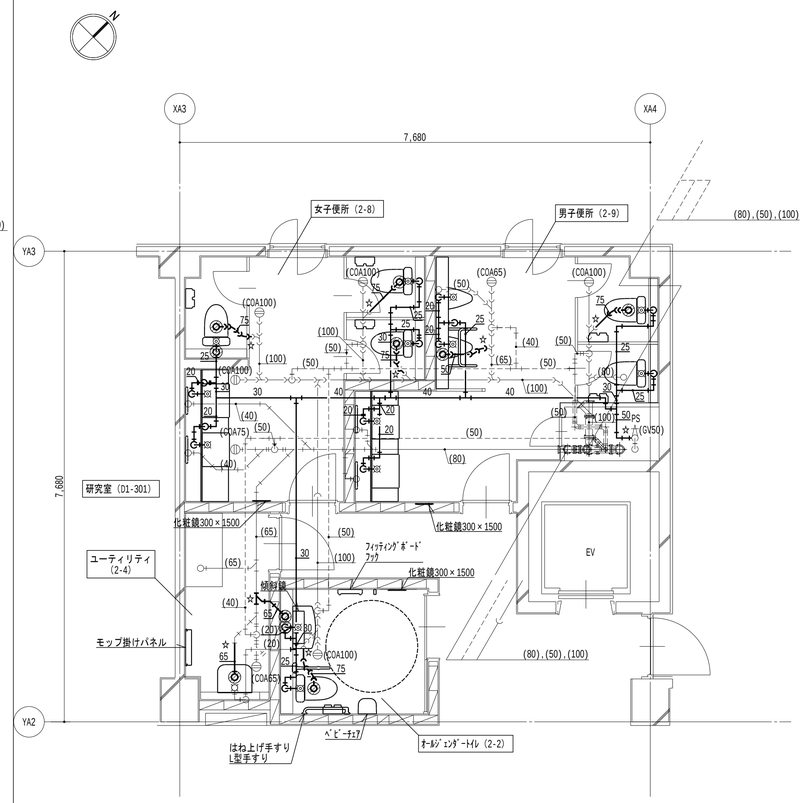
線種記号

記 号	名 称	備 考
―――	雑排水配管	DVLP、管更生
―→―	汚水配管	DVLP、管更生
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

注記

1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管は天井内、空隙壁内とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
　ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



D1 給排水設備 3階平面図（改修後） S=1/50

線種記号

記 号	名 称	備 考
― ― ―	給水配管	既：SGP-PA　新：HIVP
―――	雑排水配管	既：DVLP　新：FS-VP
―→―	汚水配管	既：DVLP　新：FS-VP
- - - - - -	通気配管	SGP(黒)

凡例

記 号	名 称	備 考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記

1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．　はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
　鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
　給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
　特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管は天井内、空隙壁内とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. M- 06
図面名称	D1 給排水衛生設備 3階平面詳細図 （撤去・管更生・改修後） S = 1/50	設計日 2025年3月

撤去

（撤去）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧 (φ-V)	動力 容量 (kW)	動力 始動方式	台数 (台)	設置室名	備考
FE-2	斜流送風機	型　式：天吊形	1-100	0.080	LS	1	D1　研究A棟　2階　女子便所（2-6）　×1	形状：543×434×543H　　重量：19.0kg
		仕　様：300φ　×　1200㎥/h　×　98Pa						

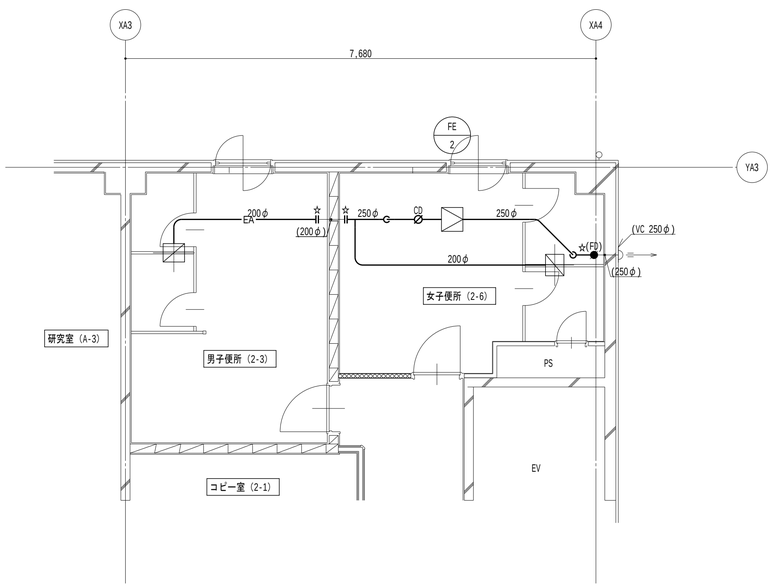
注）撤去送風機・換気扇共通事項
1.付属品共、場外搬出処分とする

女子便所(2-6)(撤去･処分)	
HS 350×300 [EA 600 m³/h]	1
550×500×300H (保温なし)	

注記）制気口・ﾎﾞｯｸｽ・ﾈｯｸの撤去を行う

男子便所(2-3)(撤去･処分)	
HS 350×300 [EA 600 m³/h]	1
550×500×300H (保温なし)	

注記）制気口・ﾎﾞｯｸｽ・ﾈｯｸの撤去を行う



D1　換気設備　2階平面図（撤去）　S=1/50

凡例

記　号	名　称	備　考
―EA―	ダクト	
VD	風量調整ダンパー	
CD	逆流防止ダンパー	
FD	防火ダンパー	

記　号	名　称	備　考
	吸込口	
	排気ガラリ	

注記
1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．特記なきダクトは天井内とする
4．☆は切断箇所を示す

改修後

（新設）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧 (φ-V)	動力 容量 (kW)	動力 始動方式	台数 (台)	設置室名	備考
FE-2	斜流送風機	型　式：天吊形	1-100	0.300	LS	1	D1　研究A棟　2階　女子便所（2-6）　×1	品番：（参考）JF-160SA2
		仕　様：325φ　×　1090㎥/h　×　190Pa						
		付属品：防振吊金具、他標準付属品一式						

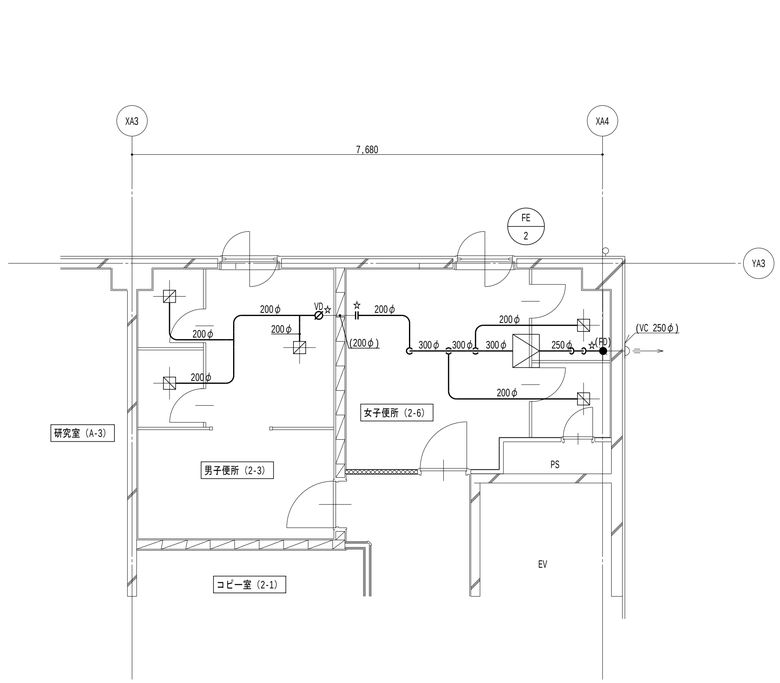
注）送風機・換気扇共通事項
1.電気容量は参考値とし、記載以下とする
2.ファンへの接続は、たわみ継手とする
3.機器表中記載の○○Paは機外静圧を示し、参考値とする
4.その他はメーカー基準とする
5.排気送風機、天井埋込型換気扇のスイッチは別途電気設備工事とする（配線、機器接続を含む）

女子便所(2-6)(新設)	
HS 200×200 [EA 260 m³/h]	2
350×350×350H (保温なし)	

注記）制気口・ﾎﾞｯｸｽ・ﾈｯｸの新設を行う

男子便所(2-3)(新設)	
HS 200×200 [EA 190 m³/h]	3
350×350×350H (保温なし)	

注記）制気口・ﾎﾞｯｸｽ・ﾈｯｸの新設を行う



D1　換気設備　2階平面図（改修後）　S=1/50

凡例

記　号	名　称	備　考
―EA―	ダクト	
VD	風量調整ダンパー	
CD	逆流防止ダンパー	
FD	防火ダンパー	

記　号	名　称	備　考
	吸込口	
	排気ガラリ	

注記
1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．特記なきダクトは天井内とする
4．☆は接続箇所を示す

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称 滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. M- 07
						図面名称 D1　換気設備　2階平面詳細図　(撤去・改修後)　S = 1/50	設計日 2025年3月

撤去

（撤去）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧 (φ-V)	動力 容量 (kW)	動力 始動方式	台数 (台)	設置室名	備考
FE-2	斜流送風機	型　式：天吊形	1-100	0.080	LS	1	D1　研究A棟　3階　男子便所（2-9）　×1	形状：450×400×450H　重量：15.0kg
		仕　様：300φ　×　1200㎥/h　×　98Pa						
VF-6	換気扇	型　式：天井埋込形	1-100	0.038	LS	1	D1　研究A棟　3階　女子便所（2-8）　×1	形状：390×390×240H　重量：3.5kg
		仕　様：150φ　×　325㎥/h　×　98Pa						
VF-7	換気扇	型　式：天井埋込形	1-100	0.026	LS	1	D1　研究A棟　3階　身障者便所（2-2）　×1	形状：330×330×200H　重量：2.6kg
		仕　様：100φ　×　325㎥/h　×　98Pa						

注）撤去送風機・換気扇共通事項

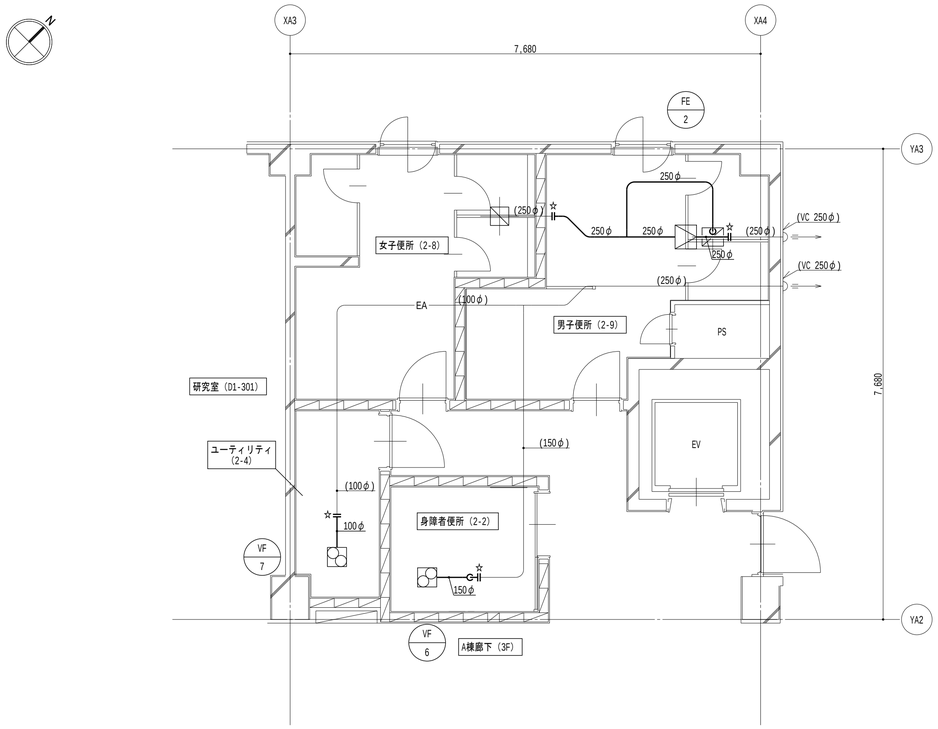
1.付属品共、場外搬出処分とする

女子便所(2-8)(撤去･処分)	
HS 300×300 [EA 600 m³/h]	1
500×500×350H (保温なし)	

注記）制気口・ﾎﾞｯｸｽ・ﾈｯｸの撤去を行う

男子便所(2-9)(撤去･処分)	
HS 350×300 [EA 600 m³/h]	1
550×800×200H (保温なし)	

注記）制気口・ﾎﾞｯｸｽ・ﾈｯｸの撤去を行う



D1　換気設備　3階平面図（撤去）　S=1/50

凡例

記　号	名　称	備　考
―EA―	ダクト	
VD	風量調整ダンパー	
CD	逆流防止ダンパー	
FD	防火ダンパー	

記　号	名　称	備　考
	吸込口	
	排気ガラリ	

注記

1．太線は撤去を示す

2．細線は残置を示す

3．特記なきダクトは天井内とする

4．☆は切断箇所を示す

改修後

（新設）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧 (φ-V)	動力 容量 (kW)	動力 始動方式	台数 (台)	設置室名	備考
FE-2	斜流送風機	型　式：天吊形	1-100	0.210	LS	1	D1　研究A棟　3階　男子便所（2-9）　×1	品番：（参考）JF-120SA2
		仕　様：300φ　×　1110㎥/h　×　130Pa						
		付属品：防振吊金具、他標準付属品一式						
VF-6	換気扇	型　式：天井埋込形	1-100	0.030	LS	1	D1　研究A棟　3階　女子便所（2-8）　×1	品番：（参考）VD-18ZC14
		仕　様：150φ　×　200㎥/h　×　40Pa						
VF-7	換気扇	型　式：天井埋込形	1-100	0.016	LS	1	D1　研究A棟　3階　身障者便所（2-2）　×1	品番：（参考）VD-15ZC14
		仕　様：100φ　×　60㎥/h　×　30Pa						

注）送風機・換気扇共通事項

1.電気容量は参考値とし、記載以下とする

2.ファンへの接続は、たわみ継手とする

3.機器表中記載の○○Paは機外静圧を示し、参考値とする

4.その他はメーカー基準とする

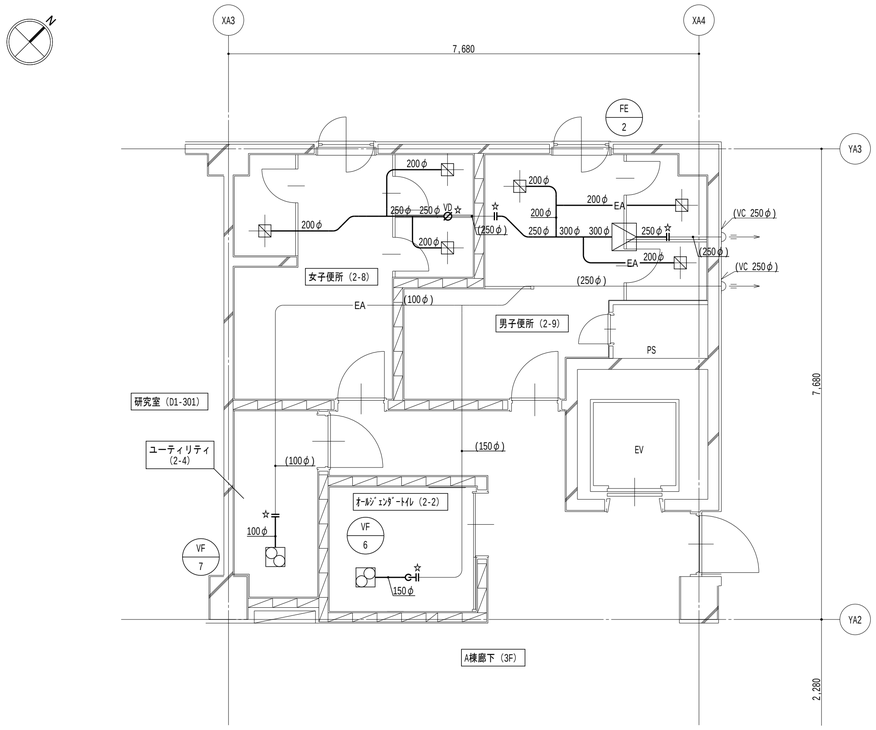
5.排気送風機、天井埋込型換気扇のスイッチは別途電気設備工事とする（配線、機器接続を含む）

女子便所(2-8)(新設)	
HS 200×200 [EA 180 m³/h]	3
350×350×350H (保温なし)	

注記）制気口・ﾎﾞｯｸｽ・ﾈｯｸの新設を行う

男子便所(2-9)(新設)	
HS 200×200 [EA 190 m³/h]	3
350×350×350H (保温なし)	

注記）制気口・ﾎﾞｯｸｽ・ﾈｯｸの新設を行う



D1　換気設備　3階平面図（改修後）　S=1/50

凡例

記　号	名　称	備　考
―EA―	ダクト	
VD	風量調整ダンパー	
CD	逆流防止ダンパー	
FD	防火ダンパー	

記　号	名　称	備　考
	吸込口	
	排気ガラリ	

注記

1．太線は新設を示す

2．細線は既設を示す

3．特記なきダクトは天井内とする

4．☆は接続箇所を示す

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					

株式会社　総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事
図面名称	D1　換気設備　3階平面詳細図　（撤去・改修後）　S = 1/50
図面No.	M- 08
設計日	2025年3月

撤去

D2　1階

女子便所（2-1）		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	2
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	2
洗面器	2連カウンター型（陶器のみ） 、水栓2個共	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする

和風便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする

D2　1階

男子便所（2-2）		撤去・処分
名称	仕様	数量
和風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
小便器	床置型	1
	壁掛型	1
洗面器	2連カウンター型（陶器のみ） 、水栓2個共	1
手すり	小便器用	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする

和風便器の撤去、穴埋め補修は建築工事とする

D2　1階

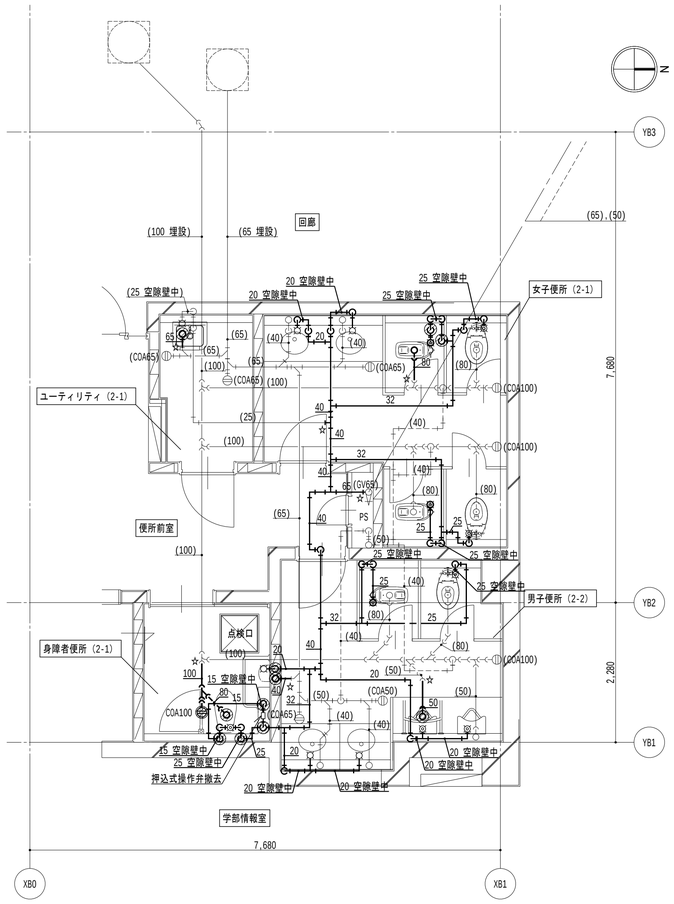
身障者便所（2-1）		撤去・処分
名称	仕様	数量
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
洗面器	壁掛型、水栓共	1
手すり	L型	1
	水平可動型	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする

D2　1階

ユーティリティ（2-1）		撤去・処分
名称	仕様	数量
排除用流し	水栓共	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする



D2　給排水設備　1階平面図（撤去）　S=1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	SGP-PA
―――	雑排水配管	DVLP
―>―	汚水配管	DVLP
------	通気配管	SGP(黒)

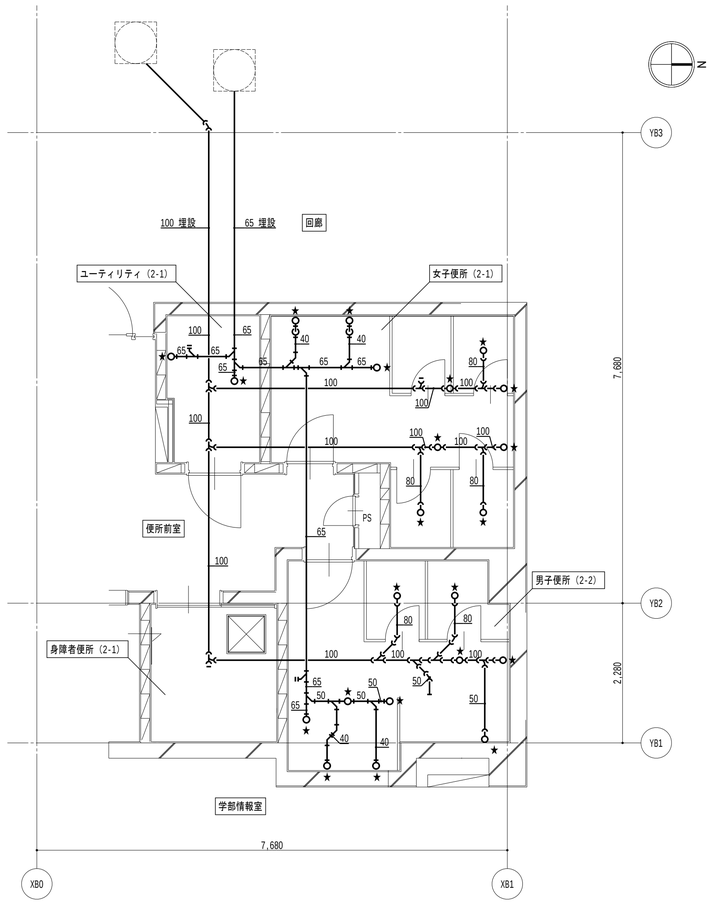
凡例

記　号	名　称	備　考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記

1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．　は既設穴埋め箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



D2　給排水設備　1階平面図（管更生）　S=1/50

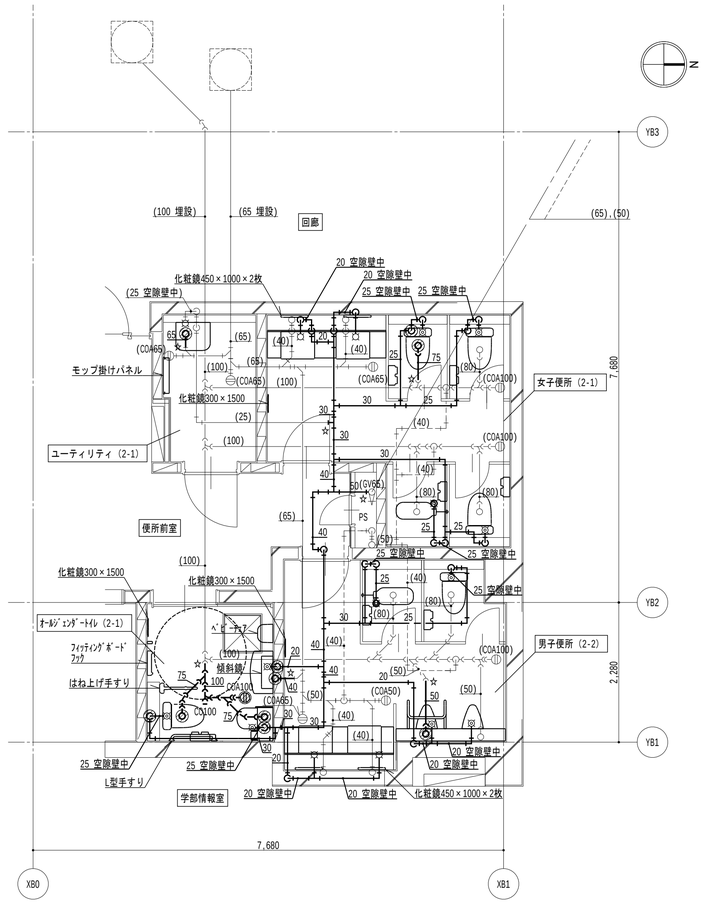
線種記号

記　号	名　称	備　考
―――	雑排水配管	DVLP、管更生
―>―	汚水配管	DVLP、管更生
------	通気配管	SGP(黒)

注記

1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
　ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



D2　給排水設備　1階平面図（改修後）　S=1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	既：SGP-PA　新：HIVP
―――	雑排水配管	既：DVLP　新：FS-VP
―>―	汚水配管	既：DVLP　新：FS-VP
------	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記

1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．　はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
　鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
　給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
　特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. M- 09
図面名称	D2　給排水衛生設備　1階平面詳細図（撤去・管更生・改修後）　S = 1/50	設計日 2025年3月

撤去

（撤去）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧 (φ-V)	動力 容量 (kW)	動力 始動方式	台数 (台)	設置室名	備考
FE-2	斜流送風機	型　式：天吊形	1-100	0.080	LS	1	D2　研究8棟　1階　ユーティリティ（2-1）　×1	形状：450×400×450H　重量：15.0kg
		仕　様：300φ　×　1200㎥/h　×　98Pa						
VF-6	換気扇	型　式：天井埋込形	1-100	0.038	LS	1	D2　研究8棟　1階　身障者便所（2-1）　×1	形状：390×390×240H　重量：3.5kg
		仕　様：150φ　×　325㎥/h　×　98Pa						
VF-7	換気扇	型　式：天井埋込形	1-100	0.026	LS	1	D2　研究8棟　1階　ユーティリティ（2-1）　×1	形状：330×330×200H　重量：2.6kg
		仕　様：150φ　×　325㎥/h　×　98Pa						

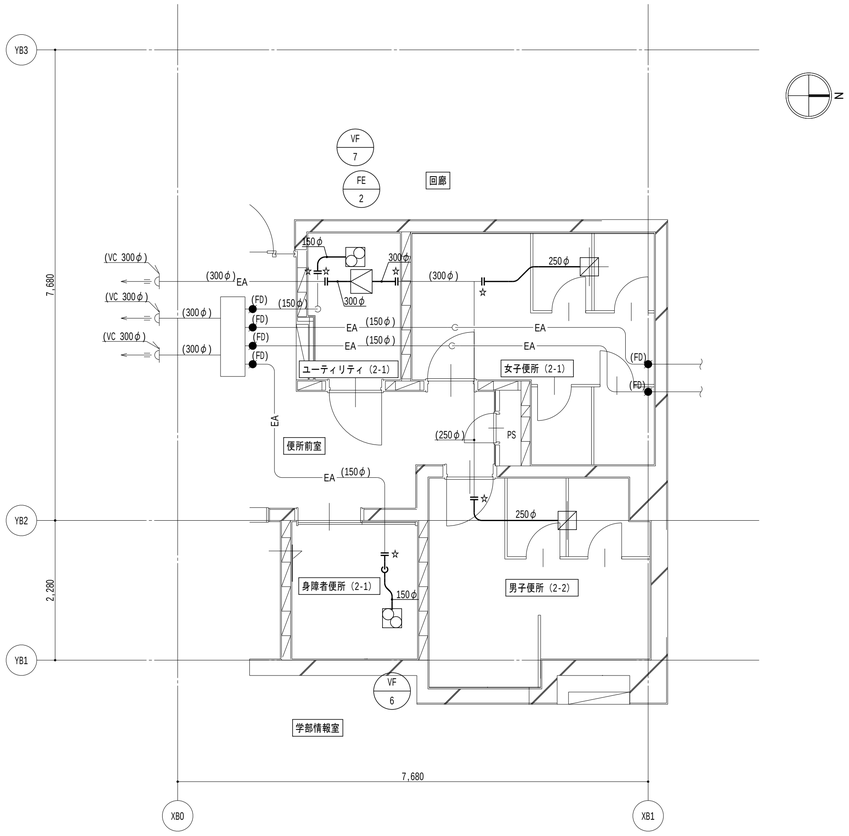
注）撤去送風機・換気扇共通事項
1.付属品共、場外搬出処分とする

女子便所(2-1)(撤去･処分)	
HS 300×300 [EA 600 m³/h]	1
500×500×400H (保温なし)	

注記）制気口・ﾎﾞｯｸｽ・ﾈｯｸの撤去を行う

男子便所(2-2)(撤去･処分)	
HS 300×300 [EA 600 m³/h]	1
500×500×400H (保温なし)	

注記）制気口・ﾎﾞｯｸｽ・ﾈｯｸの撤去を行う



D2　換気設備　1階平面図（撤去）　S=1/50

凡例

記号	名称	備考
―EA―	ダクト	
VD	風量調整ダンパー	
CD	逆流防止ダンパー	
FD	防火ダンパー	

記号	名称	備考
	吸込口	
	排気ガラリ	

注記
1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．特記なきダクトは天井内とする
4．☆は切断箇所を示す

改修後

（新設）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧 (φ-V)	動力 容量 (kW)	動力 始動方式	台数 (台)	設置室名	備考
FE-2	斜流送風機	型　式：天吊形	1-100	0.210	LS	1	D2　研究8棟　1階　ユーティリティ（2-1）　×1	品番：（参考）JF-120SA2
		仕　様：300φ　×　1070㎥/h　×　140Pa						
		付属品：防振吊金具、他標準付属品一式						
VF-6	換気扇	型　式：天井埋込形	1-100	0.030	LS	1	D2　研究8棟　1階　身障者便所（2-1）　×1	品番：（参考）VD-18ZC14
		仕　様：150φ　×　180㎥/h　×　60Pa						
VF-7	換気扇	型　式：天井埋込形	1-100	0.016	LS	1	D2　研究8棟　1階　ユーティリティ（2-1）　×1	品番：（参考）VD-15ZC14
		仕　様：100φ　×　60㎥/h　×　30Pa						

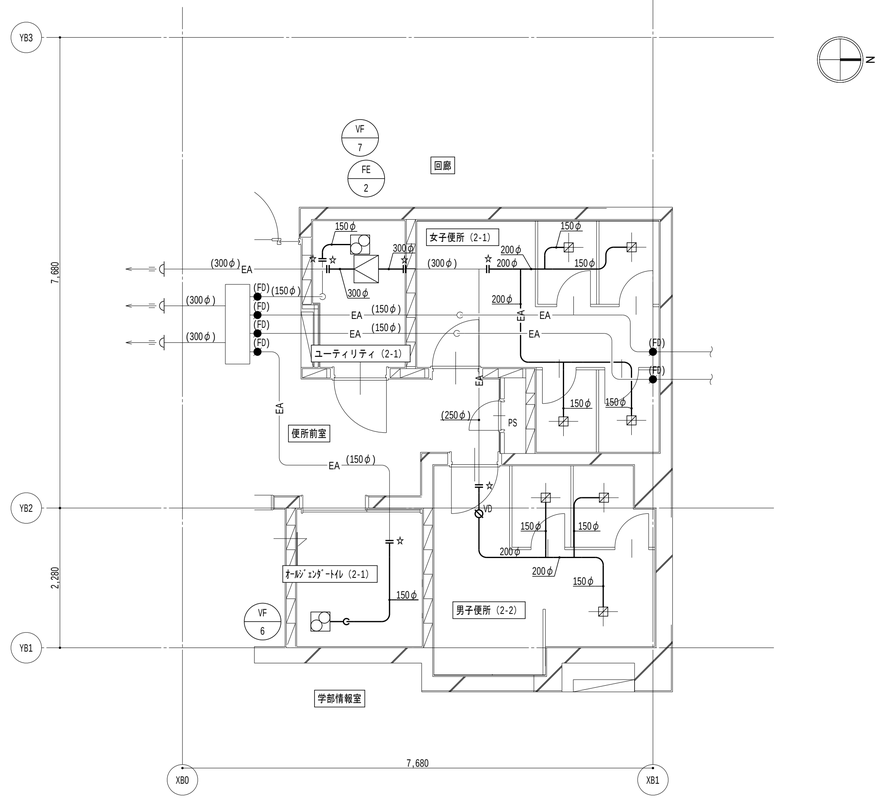
注）送風機・換気扇共通事項
1.電気容量は参考値とし、記載以下とする
2.ファンへの接続は、たわみ継手とする
3.機器表中記載の○○Paは機外静圧を示し、参考値とする
4.その他はメーカー基準とする
5.排気送風機、天井埋込型換気扇のスイッチは別途電気設備工事とする（配線、機器接続を含む）

女子便所(2-1)(新設)	
HS 150×150 [EA 140 m³/h]	4
350×350×350H (保温なし)	

注記）制気口・ﾎﾞｯｸｽ・ﾈｯｸの新設を行う

男子便所(2-2)(新設)	
HS 150×150 [EA 170 m³/h]	3
350×350×350H (保温なし)	

注記）制気口・ﾎﾞｯｸｽ・ﾈｯｸの新設を行う



D2　換気設備　1階平面図（改修後）　S=1/50

凡例

記号	名称	備考
―EA―	ダクト	
VD	風量調整ダンパー	
CD	逆流防止ダンパー	
FD	防火ダンパー	

記号	名称	備考
	吸込口	
	排気ガラリ	

注記
1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．特記なきダクトは天井内とする
4．☆は接続箇所を示す

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. M- 10
図面名称	D2　換気設備　1階平面詳細図　(撤去・改修後)　S = 1/50	設計日 2025年3月

撤去

D6　1階

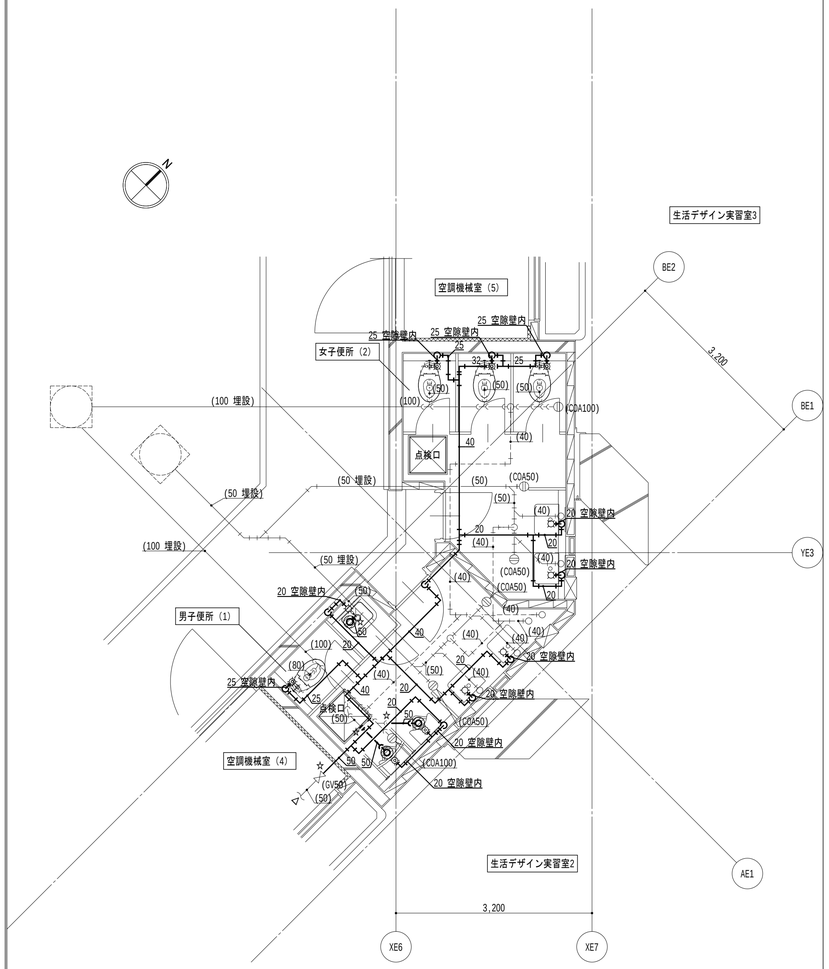
女子便所（2）		撤去・処分
名称	仕様	数量
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	3
洗面器	壁掛型、水栓共	2
化粧鏡	600×900	2

注記）付属品共、場外搬出処分とする

D6　1階

男子便所（1）		撤去・処分
名称	仕様	数量
洋風大便器	洗浄弁、紙巻器共	1
小便器	床置型	2
洗面器	2連壁掛型、水栓2個共	2
化粧鏡	600×900	2
手すり	小便器用	1
掃除用流し	水栓共	1

注記）付属品共、場外搬出処分とする



D6　給排水設備　1階平面図（撤去）　S=1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	SGP-PA
―――	雑排水配管	DVLP
―>―	汚水配管	DVLP
------	通気配管	SGP(黒)

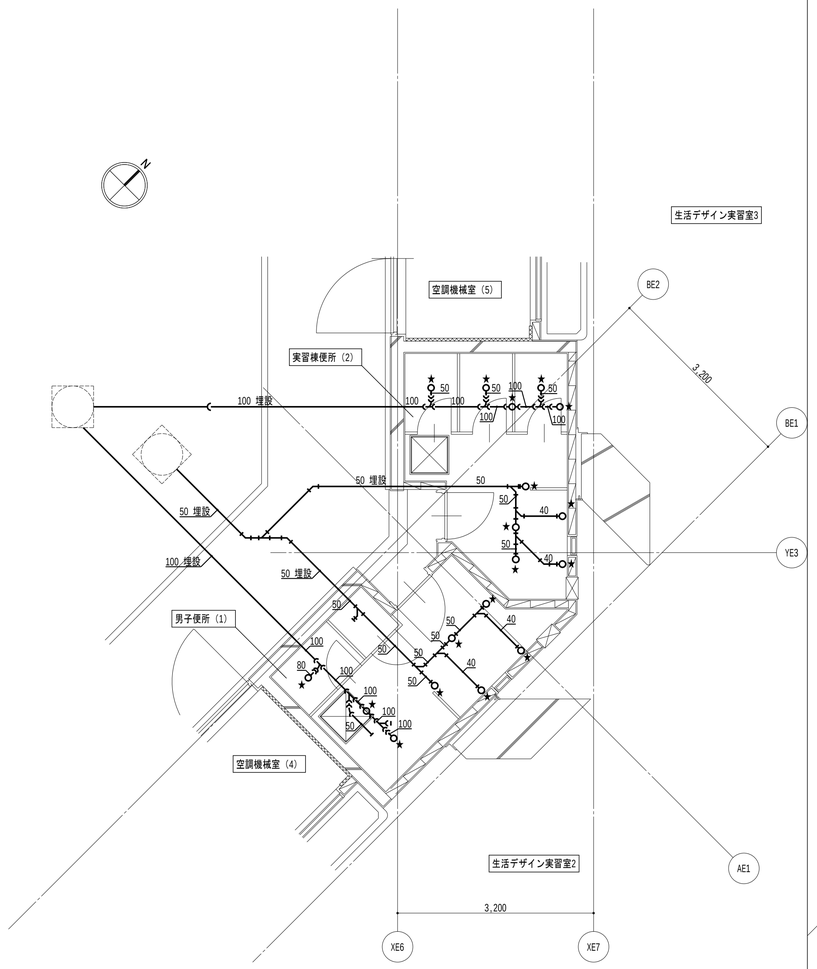
凡例

記　号	名　称	備　考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記

1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．　は既設穴埋め箇所を示し、給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
4．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
5．☆は切断プラグ止め箇所を示す

管更生



D6　給排水設備　1階平面図（管更生）　S=1/50

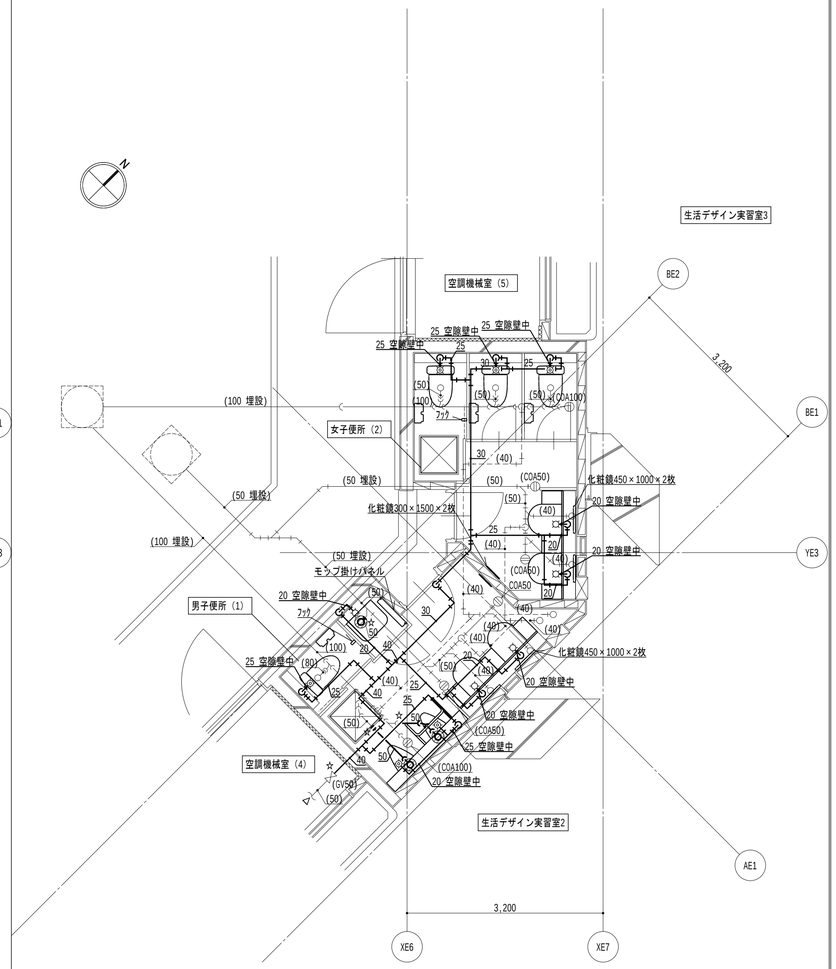
線種記号

記　号	名　称	備　考
―――	雑排水配管	DVLP、管更生
―>―	汚水配管	DVLP、管更生
------	通気配管	SGP(黒)

注記

1．太線はライニング管更生を示し、掃除口は蓋の清掃とする
2．細線は残置を示す
3．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
4．★は管更生時の切断プラグ止め箇所を示し、管更生後再接続すること
　ただし、通気配管は雑排水・汚水管接続部で切断プラグ止めとし、管更生後に再接続すること

改修後



D6　給排水設備　1階平面図（改修後）　S=1/50

線種記号

記　号	名　称	備　考
― ― ―	給水配管	既：SGP-PA　新：HIVP
―――	雑排水配管	既：DVLP　新：FS-VP
―>―	汚水配管	既：DVLP　新：FS-VP
------	通気配管	SGP(黒)

凡例

記　号	名　称	備　考
	洗浄弁	
	水栓	
	掃除口	

注記

1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．　はダイアモンドカッター穴あけ箇所を示し、鉄筋探査を行い、鉄筋を切断しないこと
　鉄筋を切断した場合、鉄筋をはつり出し、新設鉄筋をフレア溶接（100片面）とする
　給水管は150ｄ×50φ、排水管は150ｄ×125φとする
　特記なき給水配管のスラブ貫通部は既存穴利用とする
4．特記なき配管はピット内、暗渠内配管とする
5．☆は既設配管の接続箇所を示す

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				

株式会社　総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学Ｄ棟トイレ改修後期工事	図面No. M- 11
図面名称	D6　給排水衛生設備　1階平面詳細図　(撤去・管更生・改修後)　S = 1/50	設計日 2025年3月

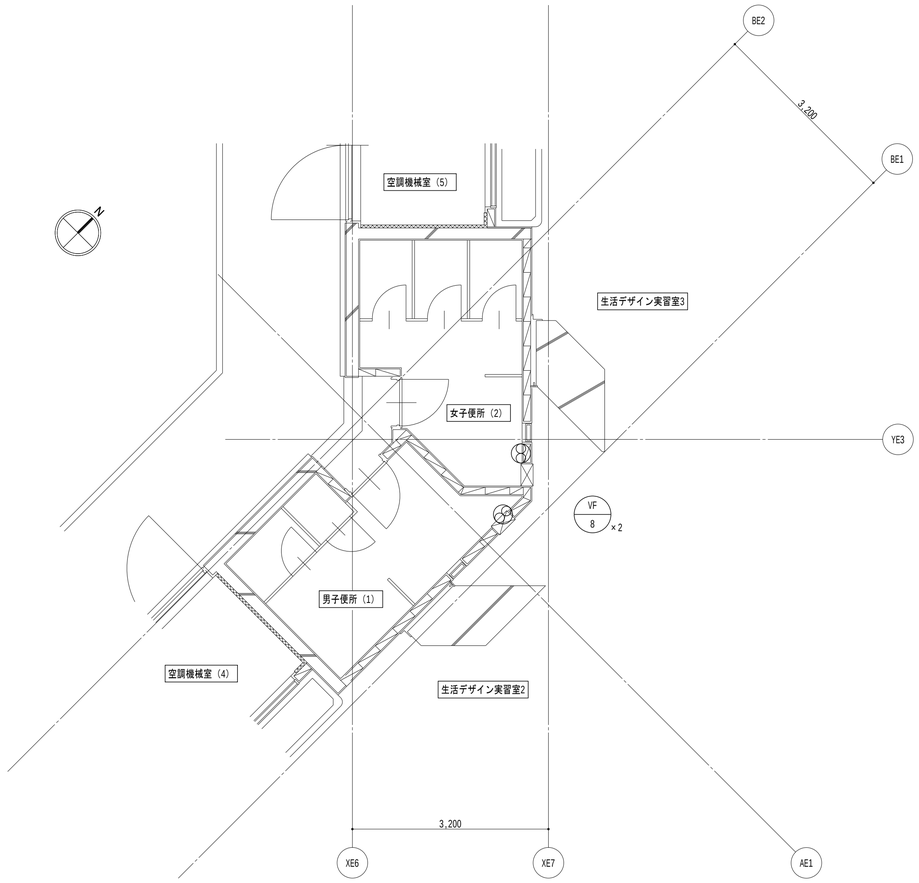
撤去

（撤去）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧 (φ-V)	動力 容量 (kW)	動力 始動方式	台数 (台)	設置室名	備考
VF-8	換気扇	型　式：壁埋込形	0-000	0.000	LS	2	D6　実習棟　1階　女子便所（2）　×1	形状：300×126×300H　　重量：2.9kg
		仕　様：200φ　×　340㎥/h					男子便所（1）　×1	

注）撤去送風機・換気扇共通事項

1.付属品共、場外搬出処分とする



D6　換気設備　1階平面図（撤去）　S=1/50

凡例

記　号	名　称	備　考
――――	ダクト	
⊘VD	風量調整ダンパー	
⊘CD	逆流防止ダンパー	
●FD	防火ダンパー	

記　号	名　称	備　考
	吸込口	
	排気ガラリ	

注記

1．太線は撤去を示す
2．細線は残置を示す
3．特記なきダクトは天井内とする
4．☆は切断箇所を示す

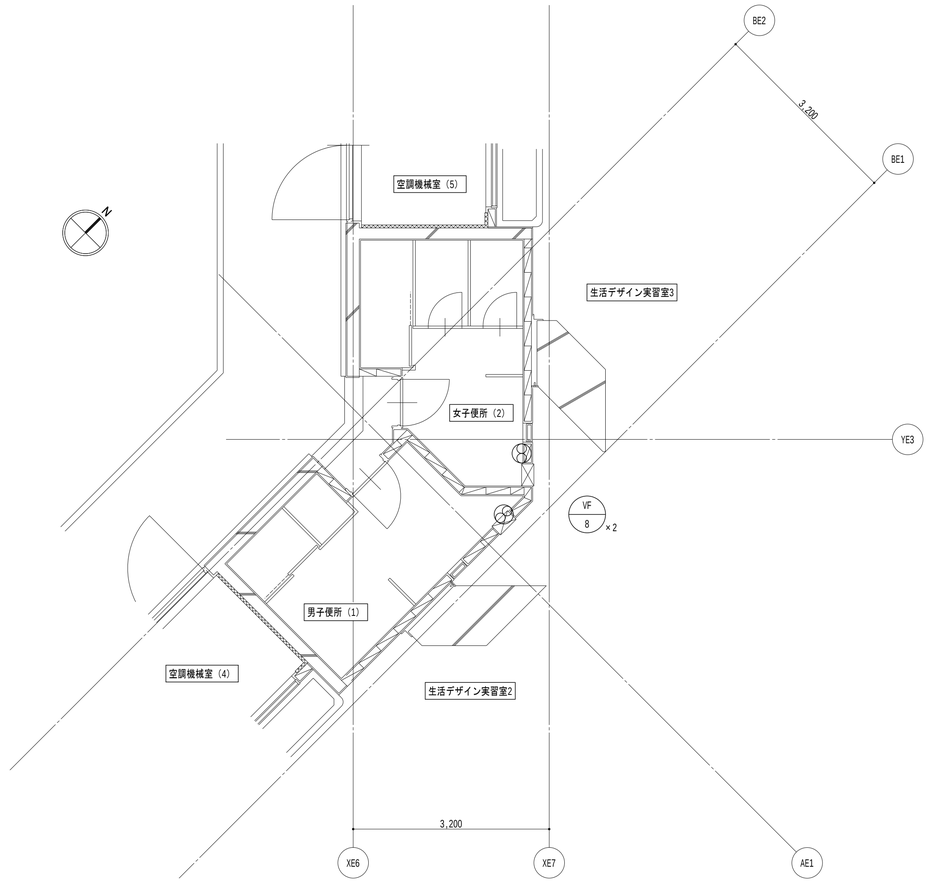
改修後

（新設）換気機器リスト

記号	機器名称	機器仕様	動力 電圧 (φ-V)	動力 容量 (kW)	動力 始動方式	台数 (台)	設置室名	備考
VF-8	換気扇	型　式：壁埋込形	1-100	0.017	LS	2	D6　実習棟　1階　女子便所（2）　×1	品番：（参考）EX-20EMP9
		仕　様：200φ　×　340㎥/h					男子便所（1）　×1	
		付属品：SUS製ウェザーカバー						

注）送風機・換気扇共通事項

1.電気容量は参考値とし、記載以下とする
2.ファンへの接続は、たわみ継手とする
3.機器表中記載の○○Paは機外静圧を示し、参考値とする
4.その他はメーカー基準とする
5.排気送風機、天井埋込型換気扇のスイッチは別途電気設備工事とする（配線、機器接続を含む）



D6　換気設備　1階平面図（改修後）　S=1/50

凡例

記　号	名　称	備　考
――――	ダクト	
⊘VD	風量調整ダンパー	
⊘CD	逆流防止ダンパー	
●FD	防火ダンパー	

記　号	名　称	備　考
	吸込口	
	排気ガラリ	

注記

1．太線は新設を示す
2．細線は既設を示す
3．特記なきダクトは天井内とする
4．☆は接続箇所を示す

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. M- 12
図面名称	D6　換気設備　1階平面詳細図　（撤去・改修後）　S = 1/50	設計日 2025年3月

滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事

図面リスト

番号	図面名称	縮尺
共通特記	共通　特記仕様書1	NO SCALE
E-01	電気設備特記仕様書	NO SCALE
E-02	共通 分電盤リスト・照明器具参考姿図・トイレ呼出機器参考姿図	NO SCALE
	D1　研究A棟	
E-03	D1　電灯設備　2階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-04	D1　電灯設備　3階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-05	D1　コンセント設備　2階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-06	D1　幹線・弱電設備　2階平面図（改修後）	1/50
E-07	D1　コンセント設備　3階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-08	D1　幹線設備　3階平面図（改修後）	1/50
E-09	D1　弱電設備　2階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-10	D1　弱電設備　3階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
	D2　研究B棟	
E-11	D2　電灯設備　1階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-12	D2　コンセント設備　1階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-13	D2　コンセント設備　1階平面図（改修後）	1/50
E-14	D2　弱電設備　1階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
	D6　実習棟	
E-15	D6　電灯設備　1階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-16	D6　電灯・コンセント・弱電設備　1階平面図（改修後）	1/50
E-17	D6　コンセント設備　1階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50
E-18	D6　弱電設備　1階平面詳細図（改修前・改修後）	1/50

滋賀県電気設備工事特記仕様書２

工事種目（●印を適用し、各一式とする。）

工事種目＼建物及び屋外	D0棟	D3棟				屋外
電灯設備	●	●	○	○	○	
動力設備	○	○	○	○	○	
電気自動車用充電設備	○	○	○	○	○	
電熱設備	○	○	○	○	○	○
雷保護設備	○	○	○	○	○	
受変電設備	○	○	○	○	○	○
電力貯蔵設備	○	○	○	○	○	
発電設備	○	○	○	○	○	○
構内情報通信網設備	○	○	○	○	○	
構内交換設備	○	○	○	○	○	
情報表示設備	○	○	○	○	○	
映像・音響設備	○	○	○	○	○	
拡声設備	●	●	○	○	○	
誘導支援設備	●	●	○	○	○	
テレビ共同受信設備	○	○	○	○	○	
テレビ電波障害防除設備	○	○	○	○	○	○
監視カメラ設備	○	○	○	○	○	
駐車場管制設備	○	○	○	○	○	
防犯・入退室管理設備	○	○	○	○	○	
火災報知設備	○	○	○	○	○	
中央監視制御設備	○	○	○	○	○	
撤去工事	●	●	○	○	○	○
仮設備工事	○	○	○	○	○	○
構内配電線路	（外灯も含む）					○
構内通信線路						○

建築工事 ○
機械設備工事 ○

工事項目に建築工事及び機械設備工事を含む場合、その工事は当該図面による。

下記の項目は、●印のついたものを本工事に適用する。
下記の特記事項は、選択肢となっている場合は●印がついたものを本工事に適用する。ただし、●印のないものは※印を適用する。

章	項目	特記事項
一般共通事項	● 施工基準	必要な関係諸官庁への申請手続き等は、全て受注者の負担とする。 本図は、工事の大要を示すものであるから、詳細位置等については監督職員と打合せの上、その指示に従い施工する。 その他関係諸法規に基づき完全に施工する。
	● 施工監理チェックリスト	施工に際し、施工手引き書である電気設備工事施工監理チェックリスト（滋賀県土木交通部建築課　令和元年度版）に従う。
	● 石綿含有建材の事前調査	1. 大気汚染防止法、労働安全衛生法、石綿障害予防規則、その他石綿処理に関する諸法令に基づき実施すること。 2. 石綿の事前調査は、建築物石綿含有建材調査者講習登録規程に規程する建築物石綿含有建材調査者等有資格者によるものとすること。 3. 事前調査結果は書面で発注者に説明すること。 4. 事前調査結果を作業場に備え付け、事前調査結果及び作業内容等を掲示すること。 5. 工事に係る部分の床面積の合計が80㎡以上の建築物の解体工事、請負金額100万円以上の建築物の改修工事等の事前踏査を実施したときは、その結果を工事開始前までに石綿事前調査報告システムにより労働基準監督署及び県（大津市内は大津市）に報告するとともに、発注者に書面で報告すること。
	○ 電気保安技術者	標仕または改修標仕に規定する電気保安技術者をおくものとする。
	○ 改修工事の仕様書適用範囲	○標準仕様書　（ ※全部　○庁舎　○　○　○　） ○改修標準仕様書（ ※全部　○別館　○　○　○屋外　）
	○ 電気工作物の種類	※事業用電気工作物　○一般用電気工作物
	○ 保安規程	当該施設の定める保安規定を（※適用　○準用）し、電気保安技術者が保安業務を行う。 また、この者は標準仕様書又は改修標準仕様書による電気保安技術者を兼務することができる。 なお、準用する場合、各書類等の宛先は主任技術者を総括監督員に読み替えるものとする。
	○ 電気工事士	最大電力５００ｋＷ以上の場合においても、第一種電気工事士により施工を行う。
	○ 工事用電力設備の保安責任者	工事用電力設備の保安責任者として、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。 保安責任者は、適切な保安業務を行う。
	○ 著作権等	施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	● 設備機材等	本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。また、別表１に示す設備機材等の製造者等は次の１）から６）の事項を満たす証明となる資料を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、次の１）から６）すべての事項を評価された事を示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承諾を受けた場合は、証明となる資料等の提出を省略することができる。とができる。 １）　品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ２）　生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ３）　安定的な供給が可能であること。 ４）　法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 ５）　製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ６）　販売、保守等の営業体制を整えていること。
	○ 施工調査	改修標準仕様書によるほか、下記による。 ○以下の撤去する機器類等の絶縁油へのＰＣＢ混入の有無について調査し、監督職員に報告する。 ○型式調査：○照明器具安定器　○変圧器　○高圧ｺﾝﾃﾞﾝｻ　○高圧ﾘｱｸﾄﾙ　○交流遮断器 ○絶縁油分析調査：変圧器　台　高圧ｺﾝﾃﾞﾝｻ　台　高圧ﾘｱｸﾄﾙ　台　交流遮断器　台 （分析は「絶縁油中の微量ＰＣＢに関する簡易測定法マニュアル」（環境省大臣官房廃棄物リサイクル対策部産業廃棄物課）により行うものとし、分析費用は本工事とする。） ○以下の撤去する機器類等へのアスベスト含有の有無について調査し、監督職員に報告する。 ○型式調査：○配線用遮断器 ○事前調査（事前確認は改修標準書による。） 調査項目（○既存資料調査　○　）　調査範囲（○図示　○　） 調査方法（○図示　○　）
	○ 埋設物等	改修標準仕様書によるほか、施工前に、当該工事に係わる地中埋設物等（建物内又は既設コンクリート内の既設配管配線も含む）について事前調査を行う。既設構造物の位置及び既設埋設配管の経路等が不明な場合は、探査方法及び試験堀方法を監督職員と協議する。
	○ 非破壊検査	はつり、穴開け及びあと施工アンカー等の施工にあたり、埋設物の事前調査を行う。 施工場所を鉄筋探査機（電磁波レーダー法）により探査し、鉄筋及び配管類の位置に墨出しを行うものとし、費用は本工事とする。放射線透過検査が必要な場合は監督職員と協議するものとし、費用は別途とする。
	○ 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ○風圧力　：　風速Ｖｏ（○３０　○３２　○３４）　地表面粗度区分（○Ⅰ　○Ⅱ　○Ⅲ　○Ⅳ） ○積雪荷重　：　平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域　別表（ ３２ ）
	○ 風圧力及び積雪荷重の検討	以下の設備に関して建築基準法に定めるところによる風圧力及び積雪荷重に対し、構造耐力上安全である旨の検討（計算等）を行い、監督職員に報告し承諾を得る。 ○受雷部及び引下げ導線　○太陽電池アレイ及び接続箱　○風車発電装置 ○テレビ共同受信用アンテナ及びアンテナマスト　○太陽電池式ポール形屋外時計　○
	○ 発生材の処理等	工事補足説明事項によるほか、以下による。 （１）引渡しを要するもの　※無 ○有（○金属類　○金属機器類　○電線、ケーブル　○鉛蓄電池　○　） （２）特別管理産業廃棄物　※無 ○有（○ＰＣＢ含有機器　○据置鉛蓄電池（廃酸）　○廃油　○石綿　○　） （運搬・処分費は　○本工事（ＰＣＢ含有機器を除く）　※別途） ＰＣＢを含有する電気機器等は、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適切な処理の推進に関する特別措置法（平成１３年法律第６５号）」によるほか、ＰＣＢが流出しない保管容器に収納し、引き渡す。（保管容器　※別途工事　○本工事） （３）放射性物質を含むイオン化式感知器　※無 ○有（運搬・処分費は　※本工事　○別途）（製造業者又は販売業者による処分。） （４）六ふっ化硫黄（ＳＦ６）ガス　※無 ○有（運搬・処分費は　※本工事　○別途）（ガス絶縁開閉器、ガス絶縁変圧器等、受変電機器に含まれるＳＦ６ガスは、製造者又はガス回収業者による再使用又は再資源化。） （５）再生資源化を図るもの ○特定建設資材（工事補足説明事項による。） ○蛍光ランプ、ＨＩＤランプ（運搬・処分費は　※本工事　○別途） ○小型二次電池（運搬・処分費は　※本工事　○別途）

章	項目	特記事項
一般共通事項		（６）建設発生土 ※構外搬出適切処理（運搬・処分費は　※本工事　○別途） ○構内指示の場所に敷きならし　○構内指示の場所にたい積 搬出場所 ／ 受入条件 名称：／ 受入可能な土質区分： 住所：／ 受入期間： ／ 受入時間： ／ その他： 搬出場所、受入条件等は発注時点のものであるため、施工計画や実施工程により確認し、監督職員に報告する。併せて、近隣の受入先を調査の上、搬出場所、受入条件等が確認できる資料を監督職員に提出し、搬出場所について協議するものとし、必要に応じて設計変更の対象とする。 提出後、監督職員へ搬出場所での受入を証明する資料を提出する。 （７）その他発生材　工事補足説明事項による。
	○ 基本料金	本受電後の、基本料金は受注者の負担とする。（※契約電力　kW　期間　ヶ月　を見込む）
	○ 工事用仮設物	構内につくることが（○できる　○できない）※全て受注者の負担とする。
	● 再使用機材	取外した上再使用する機材は、改修標準仕様書によるほか、絶縁状態を確認後に取付ける。 なお照明器具等の見えがかり部分は、洗剤を使用するなどして十分に清掃を行うこと。
	○ 監督職員事務所	※設けない　○設ける（規模：○10　○20　○35　○　平米 程度） 仕上げの程度は、下表を標準とする。 部位等 ／ 仕上げ 床 ／ 合板張り又はビニル床シート張り 内壁・天井 ／ 合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルションペイント塗り 屋根 ／ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り 監督職員事務所の備品等　※設ける（種数及び数量は監督職員の指示による）　○設けない
	○ 交通誘導員	延べ　人・日　を見込む。
	○ 養生	既存部分の養生　※行う　養生の方法（※ﾋﾞﾆﾙｼｰﾄ、合板等　○　）　○行わない 固定された備品、机、ロッカー等移動・復旧　○行う　数量等（　）　※行わない
	○ 足場・作業構台	別契約の関係受注者が定置したものは、無償で使用できる。 本工事で設ける場合は改修標準仕様書第１編２．２．２によるほか、足場の設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の（２）手すり据置き方式又は（３）手すり先行専用足場方式により行う。 内部足場　※脚立足場（脚立及び足場板の組合せによる。）　○移動式足場（ﾛｰﾘﾝｸﾞﾀﾜｰ） ○移動式昇降足場　○高所作業車　○単管足場　○くさび緊結式足場　○枠組足場 外部足場　※Ｄ種（仮設ｺﾞﾝﾄﾞﾗ）又はＥ種（移動式足場）　○Ａ種（枠組足場） ○Ｂ種（くさび緊結式足場）　○Ｃ種（単管本足場）　○高所作業車　○防護シート養生 Ａ種、Ｂ種、Ｃ種の設置場所は図示による。
	○ 耐震施工	１）設備機器の固定は、施設の分類並びに機器の種別、重要度及び設置階に応じて、次の設計用水平地震力及び設計用鉛直地震力に対し、移動、転倒、破損等が生じないように検討（計算等）を行い、監督職員に報告し承諾を得る。 ・設計用水平地震力：設計用標準水平震度に、機器の重量（ｋＮ）を乗じたものとする。 ・設計用鉛直地震力：設計用水平地震力の１／２とし、設計用水平地震力と同時に働くものとする。 ・設計用標準水平震度（※下表による　○図示による）

設置場所	特定の施設 重要 機器	特定の施設 重要 水槽類	特定の施設 一般 機器	一般の施設 重要 機器	一般の施設 重要 水槽類	一般の施設 一般 機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	2.0	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5	1.0 (1.5)
中間階	1.5 (1.5)	1.5	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0	0.6 (1.0)
１階及び地下階	1.0 (1.0)	1.5	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	1.0	0.4 (0.6)

注1）（ ）内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。
2）上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。
3）中間階とは地階、１階を除く各階で上層階に該当しないものとする。
4）屋外に設置する機器は、建物の耐震安全性の分類に準じる。
5）重要機器（水槽類含む）は、下記による。（水槽類にはオイルタンク等を含む。）
○配電盤　○発電装置（防災用）　○直流電源装置　○交流無停電電源装置
○構内交換装置　○自動火災報知受信機　○中央監視装置　○
２）横引き配管等の耐震支持は、施設の分類に応じたものとする。

章	項目	特記事項
一般共通事項	○ 建物への配管引込部の耐震処置	地盤変位への対応 （想定沈下量　○小規模 ０．２ｍ以下　○中規模 ０．６ｍ以下　○大規模 １．０ｍ以下）
	○ あと施工アンカー	性能確認試験　●行う　※行わない 試験方法　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の建築改修工事監理指針（下巻）（令和元年度）「8.12.7性能確認試験」による。 施工後確認試験　●行う　※行わない 試験方法　引張試験機による引張試験とし、国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成３１年版）「8.12.7施工確認試験」による。 確認強度　監督職員との協議による。
	● 施工上の留意事項等	イ　電線管について、図示ない限り屋内露出配管はねじなし電線管（Ｅ管）、屋内いんぺい配管は合成樹脂製可とう電線管(PF管)、屋外露出配管は薄鋼電線管（CP管）、屋外埋設配管は波付硬質ポリエチレン管（FEP管）を使用する。なお、高圧配線の地中埋設配管については、ポリエチレンライニング電線管（PE管）とする。 ロ　図示ない限り配線器具プレートは新金属製またはステンレス製とする。 ハ　スイッチが多数ある場合には監督職員と協議し、ネームスイッチを使用する。 ニ　建物EXPJ部分及び機器接続箇所に使用する可とう電線管は、ビニル被覆付きとする。 ホ　照明器具は原則として、LED器具及び公共施設用器具とすること。 ヘ　将来用予備空配管には、ビニル被覆鉄線(1.6㎜)を入線し、名札を取付ける。 ト　プルボックスは工場製作品を使用する。 チ　次に示す箇所以外の露出配管は、全て塗装する。（機械室、電気室内の塗装　要・否） リ　露出配管を行う場合は、施工前に素地ごしらえ（エッチングプライマー等）と下塗りを行い、配管施工後に仕上塗装を行う。 ヌ　機器据付・設置については、「建築設備耐震設計・施工指針」PS・EPS・共同溝内の塗装　要・否） ル　当該工事において、既設配管・既設埋設配管があった場合は、監督職員の指示により迂回等の工事を行い、軽微なものは本工事内とする。また、撤去工事は、特に既設配線の行先を調査確認の上、安全に処理する。 オ　環境配慮の視点から、以下の材料の利用に努めること。 (1)グリーン購入法に基づくエコマーク商品 (2)建設リサイクル法により再資源化されたリサイクル製品 (3)滋賀県リサイクル製品認定制度に基づく滋賀県リサイクル製品
	● 電線	特記なきものはＥＭ－ＩＥとする。
	● 電線類	ＥＭ電線、ＥＭケーブルで規格等の記載のないものは、ハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとする。
	● 電線管	１）電線管表示（１９）（２５）～（７５）で特記なき場合は、ねじなし電線管とする。 ２）コンクリート埋込配管は、（ＰＦ２２）以下、（Ｅ２５）以下とする。 ３）最上階天井スラブ（屋上スラブ）でモルタル防水及び樹脂防水の場合、埋込配管を行わない。
	● 寸法	盤その他機器類について図示した寸法は、約寸法とする。
	● 電線本数、管路等	分電盤、制御盤、端子盤等の２次側以降の配管配線経路、配線太さ、配線本数、管径等は、図面と相違しても差し支えない。ただし、相違する場合は監督職員の承諾を受ける。
	○ ボックス	樹脂配管の場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。（耐火間仕切部（軽量鉄骨下地）は図示による。）
	○ 予備配管	１）新設分電盤が埋込形の場合、予備の配線用遮断器が４個以下の場合（２５）を１本、５個以上の場合（２５）を２本天井内まで立上げる。 ２）ケーブルラックの床の防火区画貫通部に、（５１）を１本以上設ける。
	● フラッシュプレート	※金属製（ステンレス、新金属も含む）　○樹脂製
	○ 床用配線器具等	床用配線器具の形式は以下による。（図面特記のあるものを除く。） 二重床　※インナー形　○飛び出し形　○内部固定形　○外部固定形 二重床以外　※飛び出し形　○引出し形　○内部固定形　○外部固定形 （フロアベースは水平高低調整式（空転防止付リング付）　※砲金製　○アルミ製　とする。）
	● 機器取付高さ	図面に特記なき場合は、別表２による。
	● 機器内配線等	下記の機器内配線及びケーブルには、ＥＭ電線及びＥＭケーブルを使用する。（高圧主回路配線は除く。） 分電盤　ＯＡ盤　実験盤　開閉器箱　制御盤　キュービクル式配電盤　高圧スイッチギヤ 直流電源装置　交流無停電電源装置（簡易型を除く）
	○ 屋外盤類・開閉器箱プルボックス	屋外の盤類・開閉器箱・プルボックスの材質は、以下による。（図面特記のあるものを除く。） 材質　※ステンレス鋼板製　○溶融亜鉛めっき（※ＨＤＺ３５　○ＨＤＺ４５） 表面仕上げ　※製造者標準　○指定色塗装（※開閉器箱・プルボックスは除く。　○全て）
	○ 屋外露出配管	屋外の露出配管は以下による。（図面特記のあるものを除く。） ※鋼製電線管は指定色塗装を行う。（※屋上は指定色塗装を除く　○全て） ○厚鋼電線管に溶融亜鉛めっき（亜鉛付着量３００ｇ／m2 以上）を施したものとし、指定色塗装を行う。（※屋上は指定色塗装を除く　○全て）

章	項目	特記事項
電灯設備	● 照明制御装置	照明制御装置の各センサー設定は、監督職員と協議する。 ○センサー設定器を　１個　附属すること。
	○ 多重伝送制御システム	多重伝送制御システム（照明制御）の設定は、監督職員の指示による。 ○システム設定器を　１個　附属すること。
	○ ＬＥＤ制御装置の種類	図面特記があるものを除き、ＬＥＤ照明器具の制御装置の種類は、調光信号線が接続された器具にあってはＬＸ又はＬＺ、それ以外はＬＮ又はＬＪとする。
	● 分電盤等	○本工事の分電盤、ＯＡ盤、実験盤で、分岐に用いる配線用遮断器及び漏電遮断器の寸法は、JIS C8201-2-1「低圧開閉装置及び制御装置-第2-1部：回路遮断器（配線用遮断器及びその他の遮断器）」同付属書JC「電灯分電盤用協約形回路遮断器」、JIS C8201-2-2「低圧開閉装置及び制御装置-第２－２部：漏電遮断器」、同付属書JC「電灯分電盤用協約形漏電遮断器」による1極サイズのものとする。 ○ＳＰＤ分離器（配線用遮断器）は警報接点付きとする。 ○ＳＰＤ分離器は、監督職員の承諾を受けて、ＳＰＤと一体とすることができる。 ○ＯＡ盤の端子盤部に（※通気口　○冷却用ファン）を設ける。（端子盤部が端子のみの場合を除く。） ○照明制御用多重伝送信号用送り端子を設ける。（照明回路のあるものに限る。）
動力設備	○ 制御盤	○制御回路に用いる変圧器は絶縁変圧器とする。 ○インバータ発熱対策用冷却装置を扉面に取り付ける場合、開扉時に冷却装置を停止させる。 ○インバータ発熱対策用冷却装置の故障を、単位装置の故障に含める。
	○ 火災インターロック	自動火災報知受信機、連動制御器及びガス漏れ火災警報受信機と連動して制御盤で空調機を停止させる。
	○ インバータ装置の規約効率	可変速運転用インバータ装置の規約効率は、次の値以上とする。

電動機出力（kW）	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	18.5	22	30	37	45
規約効率（%）200V	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5
規約効率（%）400V	87.0	90.5	93.5	94.0	94.5	94.5	95.0	95.0	95.0	96.0	96.5	96.5	95.5	95.5

注1）規約効率は、JEM-TR 245「汎用インバータの規約効率の算出方法」により算出した値とする。
2）0.4ｋWの効率は、JIS C 4212　「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧200V（上段）400V（下段）、6極、50Jzの電動機を駆動したときの値とする。
3）0.75ｋW以上の効率は、JIS C 4213　「低圧三相かご形誘導電動機-トップランナーモーター」の定格電圧200V、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。

章	項目	特記事項
雷保護設備	○ 大地抵抗率測定用補助接地極	構造体底盤部の大地抵抗率測定のための大地抵抗率測定用補助接地極を構造体下部に設ける。
受変電設備	○ 変圧器の規格	１）変圧器（スコット結線変圧器、モールド変圧器でＨ絶縁材料を使用するもの、一次電圧が低圧または特別高圧のものを除く。）は、グリーン購入法による特定調達品目の判断基準を満たすものとする。 ２）ダイヤル温度計は、最高温度指針付とする。
	○ キュービクル式高圧受電設備	○屋内型は、押しボタン、ランプ、計器類を外扉の見やすい位置に配置する。 ○低圧配電盤の配線用遮断器は取付け板組込形で埋込形とする。（前面保守形を除く。） ○低圧配電盤の裏面に負荷側引出し用端子を設ける。（前面保守形の場合は図面特記による。） ○充電標示器は、断路器の１次側の適切な場所に設ける。 ○換気扇を設ける場合は回転センサ等の独立した検出装置をもつ故障警報装置を設け（盤面表示共）、盤内にサーモスタット（30℃～40℃可変形、35℃に設定）及びスイッチ（自動・手動・断）を設ける。 また、外部換気扇連動（※端子　○スイッチ）を設け、サーモスタットと連動させる。 ○予備限流ヒューズは収納ケース等に入れ、盤内に収納する。
電力貯蔵設備	○ 過放電防止保護装置	直流電源装置の過放電防止保護装置（直流不足電圧継電器）の設定電圧は、９０Ｖとする。
発電設備	○ 太陽電池アレイの架台	架台の材質が鋼材の場合は、ＪＩＳ Ｈ ８６４１「溶融亜鉛めっき」による（※ＨＤＺ３５　○ＨＤＺ４５　○ＨＤＺ５５）以上の溶融亜鉛めっきを施したもの又は同等以上の耐食性を有するものとする。
構内交換設備	○ 保安器用接地	電話回線引込用保安器の接地は（※本工事　○別途工事）とする。
情報表示設備	○ 子時計	特記なき子時計は、ＳＷＡ３３－ＧｐＢ２　とする。
拡声設備	○ 自動放送	自動放送はアッテネーターを経由した回路とする
	○ スピーカ	特記なきスピーカは、（※ＳＣ６Ｈｉ－１Ｖ３－Ｍ　○　）とする。
誘導支援設備	○ テレビインターホン	親機に子機カメラ角度調整機能（上下）を設ける。
	● トイレ等呼出装置	プルスイッチのひもの長さは０．２ｍ程度、握りボタンのコードの長さは１．２ｍ程度とする。
テレビ共同受信設備	○ テレビ受信調査	アンテナ取付け予定位置 及びその周辺の受信調査のチャンネルは、監督職員と協議する。
火災報知設備	○ 消火ポンプの始動	※開閉弁開放（易操作性１号消火栓及び２号消火栓）　○消火栓箱内押ボタン（１号消火栓） ○発信機と連動（総合盤に始動表示灯を設ける。）
	○ 自動閉鎖装置	○防火戸用（ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下　電磁式またはラッチ式） ○防煙ダンパ用　（別途工事　瞬時通電式または電動式ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下、遠方復帰機構（電動式）ＤＣ２４Ｖ　０．７Ａ以下） ○防火シャッタ用（別途工事　ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下　警報連動付）
構内配電線路	○ 地中管路の埋設深さ	特記なき場合は、ＧＬ（舗装がある場合は、舗装下面）から３００mm以上とする。
	○ 区分開閉器	外箱　ステンレス鋼板製　※避雷器内蔵 ＳＯＧ制御装置　※屋外形（ステンレス鋼板製収納箱・鍵付）　○屋内用埋込形
	○ マンホール及びハンドホール	構造、寸法は　（※標準図　○図示）による。　蓋の用途表示は（※電力／通信　○　）とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。（通信用は除く）
	○ 高圧ケーブル	○屋外に使用するEM-高圧架橋ポリエチレンケーブルは、JCS 4395「6600V 架橋ポリエチレンケーブル（3層押出型）」によるものとする。 ○屋外の高圧ケーブルの端末処理材は（○一般屋外用　○耐塩用　○重耐塩用）とする。 ○屋外で高圧ケーブル相互の接続又は端末処理を行う場合は、被覆の伸縮対策を施す。 ○高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1箇所以上で3m程度の余長を見込む。
	○ 装柱材	屋外のがいしは（○一般屋外用　○重耐塩形）とする。
	○ 屋外灯	基礎　※本工事　○別途工事 ○照明用ポールの材質が鋼製（ＳＰＣ）の場合で特記がない場合は、ＪＩＳ Ｈ ８６４１「溶融亜鉛めっき」に規定するＨＤＺ３５を施し、指定色塗装とする。 ○照明用ポールに配線用遮断器（引外し装置無し）又はｶｯﾄｱｳﾄｽｲｯﾁ（素通しﾋｭｰｽﾞ）を設ける。
	○ 接地極	接地極の材料は、特記がなければ別表３を標準とする。

使用機材製造者指定

本工事に使用する機器材料は、下記に指定する製造者のものを使用のこと。ただし、同等品を使用する場合には、建築課所定の様式により承諾を得て使用のこと。

適用	機材名	製造業者					
	電線類	ＪＩＳ規格等適合品製造者					
	ケーブル類	ＪＩＳ規格等適合品製造者					
	電線管類	ＪＩＳ規格等適合品製造者					
	気中開閉器						
	ガス開閉器						
	避雷器						
	高圧開閉器						
	高圧遮断器						
	変圧器						
	コンデンサ						
	キュービクル						
●	配分電盤	パナソニック	日東	内外電機	大正電機製造		
	配線用遮断器						
●	照明器具	パナソニック	東芝ライテック	三菱住環境ｼｽﾃﾑｽﾞ			
	配線器具						
	放送機器						
	電話装置						
	時計						
	インターホン						
●	表示器	パナソニック	ケアコム	アイホン			
	テレビ共聴機器						
	火災報知機器						
	ガス漏れ警報器						
	防火戸自閉機器						
	避雷針						
	自家発電機器						
	蓄電池						
	コンクリート柱	ＪＩＳ規格等適合品製造者					
	マンホール蓋						

図示記号

記号	内容	記号	内容
2	ＥＭ－ＥＥＦ１．６－２Ｃ	（白抜き矩形）	照明器具　一般回路
3	ＥＭ－ＥＥＦ１．６－３Ｃ	（斜線矩形）	照明器具　発電機回路
2E	ＥＭ－ＥＥＦ１．６－３Ｃ（内１Ｃ接地線）	（時計）	ＳＷＡ３３－ＧｐＢ２
3E	ＥＭ－ＥＥＦ１．６－２Ｃ×２（内１Ｃ接地線）	（スピーカ）	ＳＣ６Ｈｉ－１Ｖ０－Ｍ
4E	ＥＭ－ＥＥＦ１．６－２Ｃ＋３Ｃ（内１Ｃ接地線）	（スピーカ）	ＳＣ６Ｈｉ－１Ｖ３－Ｍ
2F2E	ＥＭ－ＥＥＦ２．０－３Ｃ（内１Ｃ接地線）	（スピーカ）	ＳＷ２Ｈｉ－１Ｖ３
2F3E	ＥＭ－ＥＥＦ２．０－２Ｃ×２（内１Ｃ接地線）		壁貫通補修（D=100φ 150㎜）
CP1	ＥＭ－ＦＣＰＥＥ１．２－１Ｐ（※数字は対数を示す）		防火区画処理（D=100φ）
FP2	ＥＭ－ＦＰ１．６－２Ｃ（※数字は芯数を示す）		壁はつり＋防火区画貫通処理（D=100φ 150㎜）
2FP2	ＥＭ－ＦＰ２．０－２Ｃ（※数字は芯数を示す）		
AE2	ＥＭ－ＡＥ１．２－２Ｃ（※数字は芯数を示す）		
HP3	ＥＭ－ＨＰ１．２－３Ｃ（※数字は芯数を示す）		
2.0(PF16)	２．０×２　Ｅ１．６（ＰＦ１６）		
2.0(E19)	２．０×２　Ｅ１．６（Ｅ１９）		
(管種)ト	塗装あり（金属管露出配管の場合）		

別表１ ＜電気＞

品目	細目	適用範囲
ＬＥＤ照明器具		一般屋内用
照明制御装置		
可変速運転用インバータ装置		
盤類	分電盤	
	制御盤	
	キュービクル式配電盤	
	高圧スイッチギア（CW形）	
	高圧スイッチギア（PW形）	
高圧機器	高圧交流遮断器	
	高圧進相コンデンサ	
	高圧限流ヒューズ	
	高圧負荷開閉器	
	高圧変圧器（特定機器）	
交流無停電電源装置		
太陽光発電装置	パワーコンディショナ及び系統連系保護装置	
監視カメラ装置		
中央監視制御	監視制御装置	

別表２ 機器標準取付高さ（天井高3,000㎜以上の場合及び機器の使用に支障がある場合は、監督職員と協議する。）

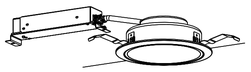
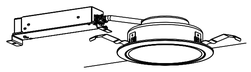
名称		測点	取付高（mm）
電力共通	取引用計器	地上～窓中心	1,800～2,000
	引込開閉器	床上～中心	1,800～2,200
	分電盤・壁掛形制御盤	床上～中心	1,500（上端1,900以下）
電灯	スイッチ（一般）	床上～中心	1,300
	スイッチ（多目的便所等）	床上～中心	1,100
	スイッチ（自動扉用）	床上～中心	1,700
	コンセント（一般）	床上～中心	300
	コンセント（和室）	床上～中心	150
	コンセント（台上）	台上～中心	150～300
	コンセント（車椅子用）	床上～中心	900
	コンセント（機械室・車庫）	床上～中心	800～1,300
	ブラケット（一般）	床上～中心	2,100～2,300
	ブラケット（踊場）	床上～中心	2,000～2,500
	ブラケット（鏡上）	鏡上端～下端	50
動力	開閉器箱	床上～中心	1,500
	操作用スイッチ	床上～中心	1,300
雷保護	試験用接続端子箱	床上～下端	800
受変電	接地端子箱	地上、床上～中心	500
発電	給油口ボックス	地上～給油口	1,100
構内情報通信網	壁付アウトレット（一般）	床上～中心	300
	壁付アウトレット（和室）	床上～中心	150
構内交換	壁掛形端子盤（室内）	床上～下端	300
	集合保安器箱	天井下～上端	200
	壁掛電話機	床上～中心	1,300
	壁付アウトレット（一般）	床上～中心	300
	壁付アウトレット（和室）	床上～中心	150
情報表示	壁掛形親時計	床上～中心	1,500（上端1,900以下）
	子時計	床上～中心	（天井高）×0.9
	情報・出退表示盤	床上～中心	（天井高）×0.9
	壁付発信器	床上～中心	1,300
	ベル・ブザー・チャイム	床上～中心	（天井高）×0.9
拡声	壁掛形スピーカ	床上～中心	（天井高）×0.9
	壁付アッテネータ	床上～中心	1,300
誘導支援	外部受付用インターホン（子機）	－	標準図による
	障害者用インターホン（子機）	床上～中心	1,000～1,100
	壁付インターホン（上記以外）	床上～中心	1,300
	壁付呼出表示器（トイレ等呼出）	床上～中心	1,500
	壁付呼出ボタン（ひも付）	便器座面～中心	400～550（JIS S 0026による）
	（トイレ等呼出）	床上～中心	400（便器前方横設置）
	壁付呼出表示灯（トイレ等呼出）	床上～中心	（天井高）×0.9
	壁付復帰ボタン（トイレ等呼出）	床上～中心	1,300
テレビ共同受信	機器収容箱	天井下～上端	200
	テレビ端子・直列ユニット（一般）	床上～中心	300
	テレビ端子・直列ユニット（和室）	床上～中心	150
火災報知	受信機・副受信機・連動制御器	床上～操作部	800～1,500
	機器収容箱	床上～操作部	800～1,500
	発信機	床上～中心	800～1,500
	警報ベル	床上～中心	2,300
	表示灯	床上～中心	2,100
	壁付ガス検知器（都市ガス用）	天井下～上端	300
	壁付ガス検知器（液化石油ガス）	床上～上端	300
その他	接地極埋設標	地上～中心	600

別表３　接地極一覧表

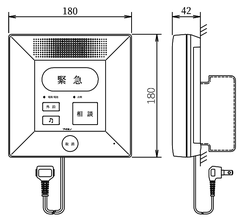
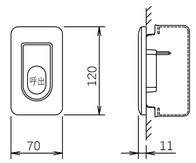
種	類	接地抵抗	規格・数量
Ａ種（共同接地を含む）	EA　EA，C，DEA，D	10Ω以下	ＥＢ D=14,L=1500 3連-2組
Ｂ種	EB	Ω以下	ＥＢ D=14,L=1500 2連-2組
Ｃ種	EC	10Ω以下	ＥＢ D=14,L=1500 3連-2組
Ｄ種	ED	100Ω以下	ＥＢ D=10,L=1000 1連-1組
Ｄ種（ＥＬＣＢ用）	ED（ＥＬＢ）	500Ω以下	ＥＢ D=10,L=1000 1連-1組
測定用補助	E0		ＥＢ D=10,L=1000 1連-1組
避雷器用	ＥＬＨ	10Ω以下	ＥＢ D=14,L=1500 3連-2組
交換機用	Ｅt	10Ω以下	ＥＢ D=14,L=1500 3連-2組
Ａ種（通信用）	ＥＡｔ	10Ω以下	ＥＢ D=14,L=1500 3連-2組
Ｄ種（通信用）	ＥＤｔ	100Ω以下	ＥＢ D=10,L=1000 1連-1組
電話引込み口の保安器	ＥＬｔ	100Ω以下	ＥＢ D=10,L=1000 1連-1組
雷保護用接地極			雷保護設備平面図による

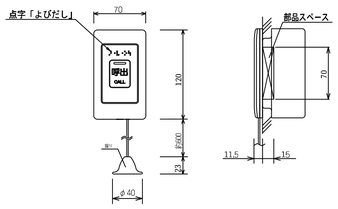
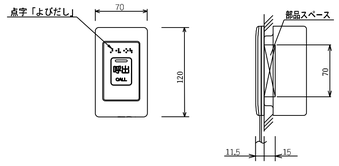
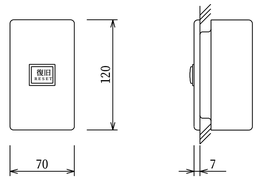
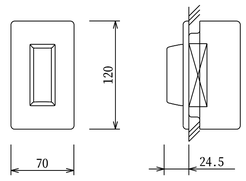
令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	
工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No.	E-01
図面名称	電気設備特記仕様書　S = NO SCALE	設計日	2025年3月

照明器具姿図

○	X１	LEDダウンライト	○	X２	LEDダウンライト　ブース内収納内
パナソニック　XND1567SA LE9			パナソニック　XND1067SA LE9		
 φ１５０			 φ１５０		
ＬＥＤ内蔵<ワンコア（ひと粒）タイプ>、電源ユニット内蔵、高演色タイプ ５０００Ｋ、Ｒａ９５、拡散タイプ 光源遮光角３０度、光源寿命４００００時間（光束維持率８５％） 器具光束：１３７５ｌｍ、消費電力：１１．６Ｗ、電圧：１００－２４２Ｖ 反射板（上部）：プラスチック（ホワイト） 反射板（下部）：アルミ（銀色鏡面仕上） 枠：鋼板（ホワイトつや消し仕上）、埋込穴φ１５０			ＬＥＤ内蔵<ワンコア（ひと粒）タイプ>、電源ユニット内蔵、高演色タイプ ５０００Ｋ、Ｒａ９５、拡散タイプ 光源遮光角３０度、光源寿命４００００時間（光束維持率８５％） 器具光束：８４５１ｌｍ、消費電力：７Ｗ、電圧：１００－２４２Ｖ 反射板（上部）：プラスチック（ホワイト） 反射板（下部）：アルミ（銀色鏡面仕上） 枠：鋼板（ホワイトつや消し仕上）、埋込穴φ１５０		

トイレ呼出機器姿図

✉	緊急通報装置	E	通報用ボタン　取付高さ H=1500
アイホン　ＦＥ－Ｍ（参考型番）		アイホン　ＱＥＷ－ＢＮＷ（参考型番）	
			
電源電圧	AC100V 50/60Hz	形　状	壁埋込型(JIS1個用スイッチボックス)
形　状	据置・壁取付型(JIS1個用スイッチボックス)	材　質	自己消火性樹脂
材　質	自己消火性樹脂	備　考	ノンロック式
通報先登録数	5ヵ所		防沫形
備　考	ワイヤレス機器 登録数 最大16個		

Np	トイレ呼出押ボタン　ひも付き　取付高さ H=900	N	トイレ呼出押ボタン　取付高さ H=1500	●	復旧ボタン　取付高さ H=1300	○	廊下灯　取付高さ H=2000
ケアコム　ＢＴ－３１２ＺＲ（参考型番）		ケアコム　ＢＴ－３１１ＺＲ（参考型番）		ケアコム　ＢＲ－３０２ＲＡＵ（参考型番）		ケアコム　ＢＴ－６７３Ｕ／８（参考型番）	
							
形　状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）	形　状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）	形　状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）	形　状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）
プレート／握り	抗菌樹脂	プレート／握り	抗菌樹脂	プレート	新金属	プレート／握り	新金属
確認灯	LED（赤）	確認灯	LED（赤）	表示灯	ノンロック式		表示灯カバー：ポリカーボネート
呼出ボタン	ノンロック式	呼出ボタン	ノンロック式			表示灯	LED（赤）,DC8V
点　字	よびだし	点　字	よびだし				
備　考	JIS C-0920 IPx5（防噴流形）適合	備　考	JIS C-0920 IPx5（防噴流形）適合				

D1（2F）　盤図

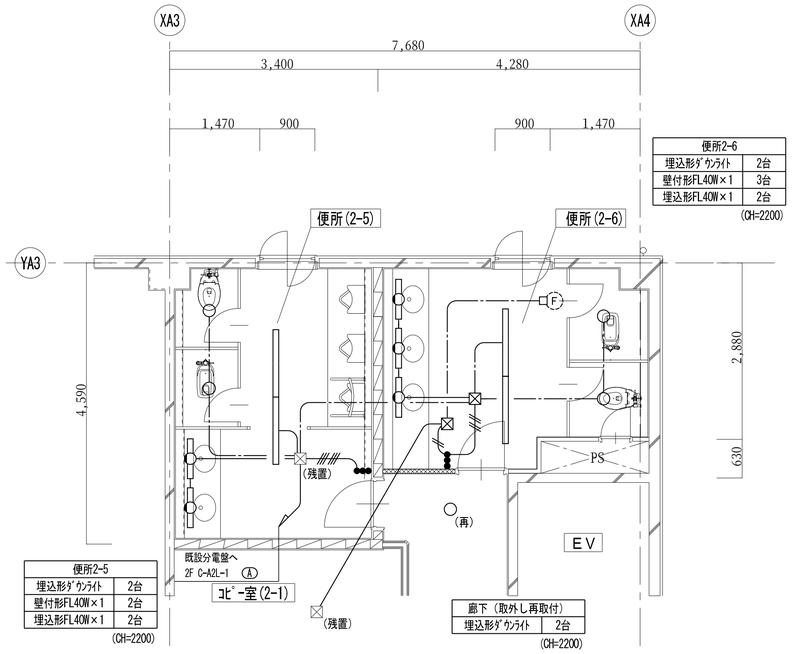
盤名称	結線	回路番号	分岐開閉器 MCCB	ELCB	P	AF	AT	電圧(V)	容量(VA)	R-RY Mgω	負荷名称	備考
C－A２L－１－１												
女子便所(2-6)												
EM－CET２２sq												
L-AC 1φ3W 200／100V												
	MCCB 3P 50AF / 50AT	101		○	2	50	20	100	400		男子・女子便所　電灯・排気ファン	
		301		○	2	50	20	100	1,200		女子便所 電気温水器,自動水栓	
		302		○	2	50	20	100	1,268		女子便所 便座,電気温水器,自動水栓	
		303		○	2	50	20	100	1,200		男子便所 電気温水器,自動水栓	
計：5．951kVA		304		○	2	50	20	100	683		男子便所 便座,自動水栓	
		305		○	2	50	20	100	(600)		予備	
		306		○	2	50	20	100	(600)		予備	
				○	2	50	20	100			予備スペース	
	●ED			○	2	50	20	100			予備スペース	
	●ED（ELB）											
												L＝　400　VA
												C＝　4,351　VA
												予備＝　1,200　VA
												合計＝　5,951　VA

D1（3F）　盤図

盤名称	結線	回路番号	分岐開閉器 MCCB	ELCB	P	AF	AT	電圧(V)	容量(VA)	R-RY Mgω	負荷名称	備考
C－A３L－１－１												
便所前廊下												
EM－CET２２sq												
L-AC 1φ3W 200／100V												
	MCCB 3P 50AF / 50AT	101		○	2	50	20	100	320		男子・女子便所　電灯・排気ファン	
		102		○	2	50	20	100	50		身障者便所　電灯・排気ファン	
		301		○	2	50	20	100	1,200		女子便所 電気温水器,自動水栓	
		302		○	2	50	20	100	1,002		女子便所 便座	
		303		○	2	50	20	100	1,200		男子便所 電気温水器,自動水栓	
計：6．584kVA		304		○	2	50	20	100	678		男子便所 便座,自動水栓	
		305		○	2	50	20	100	934		身障者便所 便座,電気温水器,自動水栓	
		306		○	2	50	20	100	(600)		予備	
	●ED	307		○	2	50	20	100	(600)		予備	
	●ED（ELB）			○	2	50	20	100			予備スペース	
				○	2	50	20	100			予備スペース	
												L＝　370　VA
												C＝　5,014　VA
												予備＝　1,200　VA
												合計＝　6,584　VA

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修前期工事
						図面名称	共通 分電盤リスト・照明器具参考姿図・トイレ呼出機器参考姿図　S= NO SCALE
						図面No.	E-02
						設計日	2025年3月

改修前



便所2-6	
埋込形ダウンライト	2台
壁付形FL40W×1	3台
埋込形FL40W×1	2台

(CH=2200)

便所2-5	
埋込形ダウンライト	2台
壁付形FL40W×1	2台
埋込形FL40W×1	2台

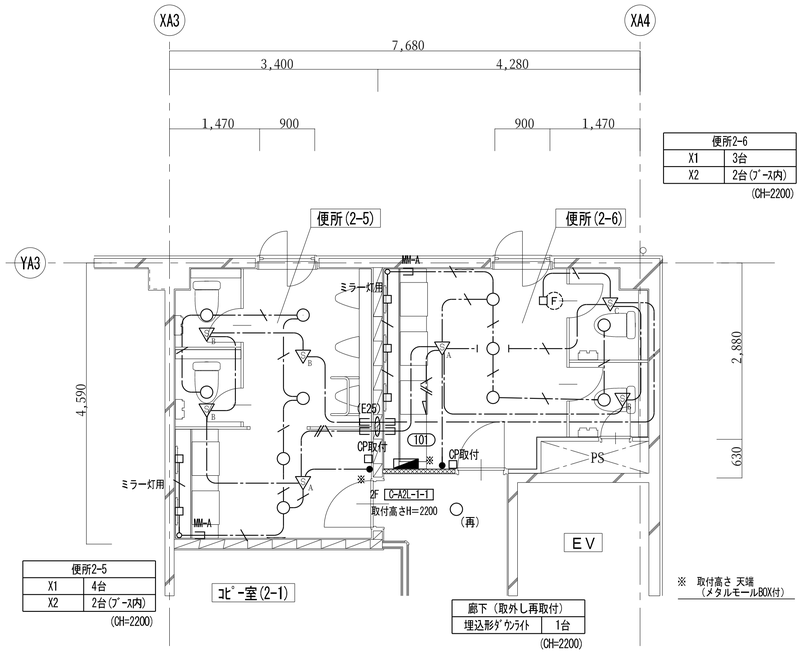
(CH=2200)

廊下（取外し再取付）	
埋込形ダウンライト	2台

(CH=2200)

D1 2階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



便所2-6	
X1	3台
X2	2台(ブース内)

(CH=2200)

便所2-5	
X1	4台
X2	2台(ブース内)

(CH=2200)

廊下（取外し再取付）	
埋込形ダウンライト	1台

(CH=2200)

D1 2階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　　例

記　号	名　　称	
●	埋込スイッチ	1P15Ax1
●	埋込スイッチ	1P15Ax4
⦶	天井コンセント	2P15Ax1
□	アウトレットボックス	
⊠	プルボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	
(残置)	残置を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	——-//—-——	VV-F 2.0-2C	(PF22)
	——-——-——	VV-F 2.0-3C	(PF22)
	——//—//-——	VV-F 2.0-2C x2	(PF22)
	——//—//-——	VV-F 2.0-3C x2	(PF22)x2
	——//—//—\——	IV 2.0×4 E2.0	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

——————— 天井内隠蔽配管配線工事　——-——-—— 天井内ころがし配線工事

— — — — — — — 床内隠蔽配管配線工事　····· 露出配管工事

——-·-——-·-—— ケーブルラック配線工事

凡　　例

記　号	名　　称	
●	埋込型スイッチ	1P15Ax1　ネーム付
●	埋込型スイッチ	1P15Ax2　ネーム付
▽A	天井付熱線センサ付自動スイッチ	親機・8Aタイプ・微動検知形
▽B	天井付熱線センサ付自動スイッチ	子機・微動検知形
▽C	天井付熱線センサ付自動スイッチ	子機・換気扇連動用・3系統連動形
▽D	天井付熱線センサ付自動スイッチ	親機・換気扇連動用
⦶ELT	天井コンセント（抜け止め・接地極付）	2P15AEx1
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
□CP取付	カバープレート取付	
□	アウトレットボックス	
⊠	プルボックス　200x200x200	
◪	電灯分電盤（既設）	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	——-——-——	EM-EEF 1.6-2C	(PF16)
	——-\—-——	EM-EEF 1.6-3C(1E)	(PF22)
	——-//\—-——	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

貫通穴はコンセント共用とする。

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

——————— 天井内隠蔽配管配線工事　——-——-—— 天井内ころがし配線工事

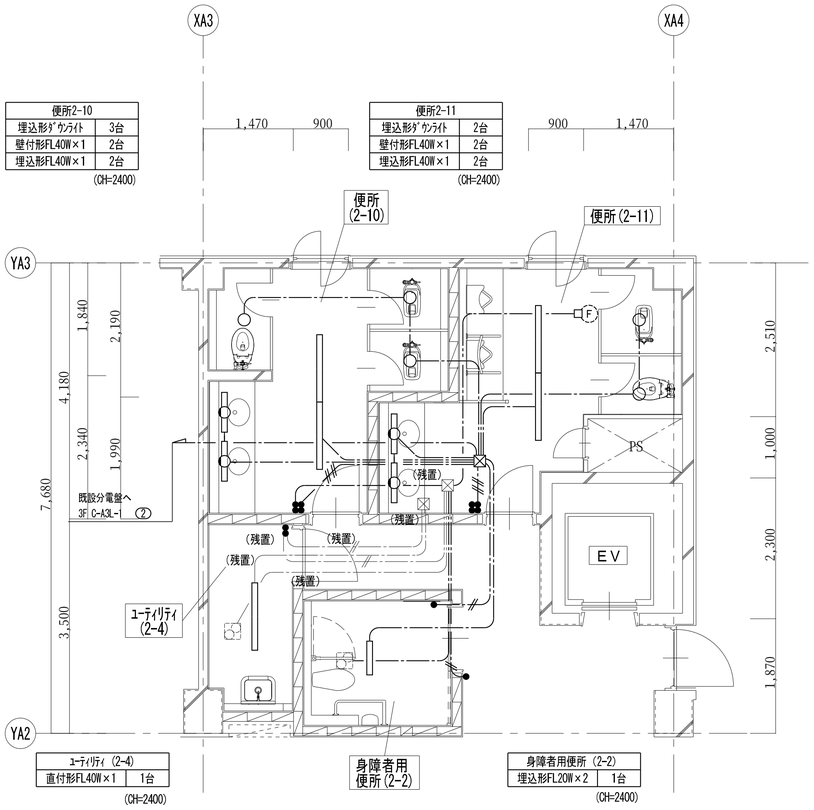
— — — — — — — 床内隠蔽配管配線工事　····· 露出配管工事

——-·-——-·-—— ケーブルラック配線工事

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント

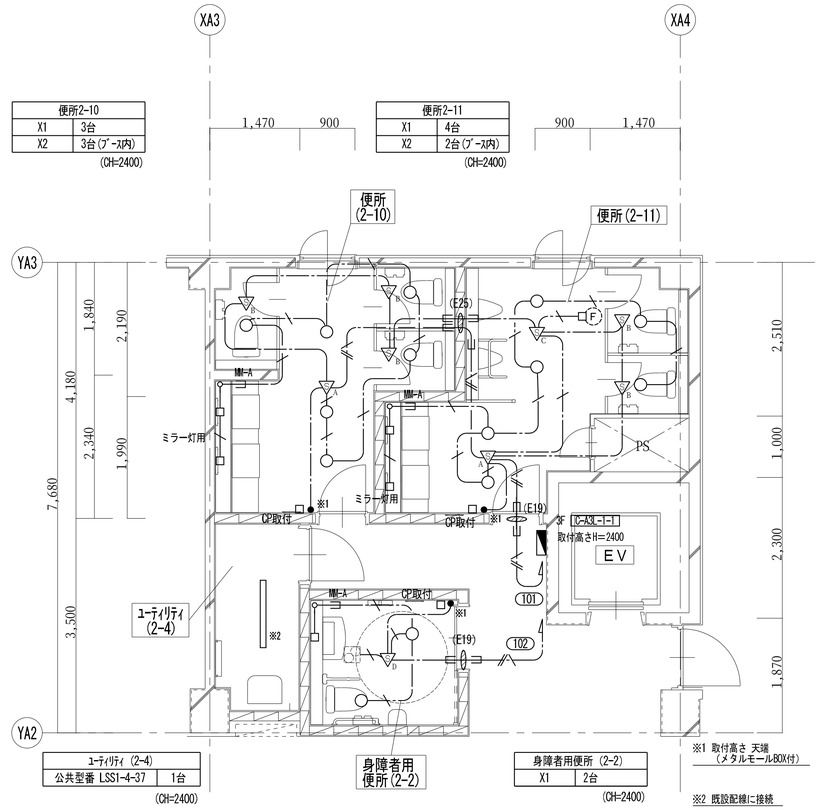
工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事		図面No. E-03
図面名称	D1 電灯設備 2階平面詳細図（改修前・改修後）	S = 1/50	設計日 2025年3月

改修前



D1 3階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



D1 3階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
●	埋込スイッチ	1P15Ax1
⁘	埋込スイッチ	1P15Ax4
⦶	天井コンセント	2P15Ax1
□	アウトレットボックス	
⊠	プルボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	
(残置)	残置を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	—·—//—·—	VV-F 2.0-2C	(PF22)
	—·—·—·—	VV-F 2.0-3C	(PF22)
	—·—//—//·—	VV-F 2.0-2C x2	(PF22)
	—///—///—	VV-F 2.0-3C x2	(PF22)x2
	—//—//—\·—	IV 2.0×4 E2.0	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

————————	天井内隠蔽配管配線工事	—·—·—·—	天井内ころがし配線工事
— — — — — — —	床内隠蔽配管配線工事	·····	露出配管工事
—··—··—··—	ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事		

凡　例

記　号	名　称	
●	埋込型スイッチ	1P15Ax1 ネーム付
⁘	埋込型スイッチ	1P15Ax2 ネーム付
▽A	天井付熱線センサ付自動スイッチ	親機・8Aタイプ・微動検知形
▽B	天井付熱線センサ付自動スイッチ	子機・微動検知形
▽C	天井付熱線センサ付自動スイッチ	子機・換気扇連動用・3系統連動形
▽D	天井付熱線センサ付自動スイッチ	親機・換気扇連動用
⦶ELT	天井コンセント（抜け止め・接地極付）	2P15AEx1
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
□CP取付	カバープレート取付	
□	アウトレットボックス	
⊠	プルボックス 200ｘ200ｘ200	
◪	電灯分電盤（既設）	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	—·—·—·—	EM-EEF 1.6-2C	(PF16)
	—·—\·—·—	EM-EEF 1.6-3C(1E)	(PF22)
	—·—//\·—	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

貫通穴はコンセント共用とする。

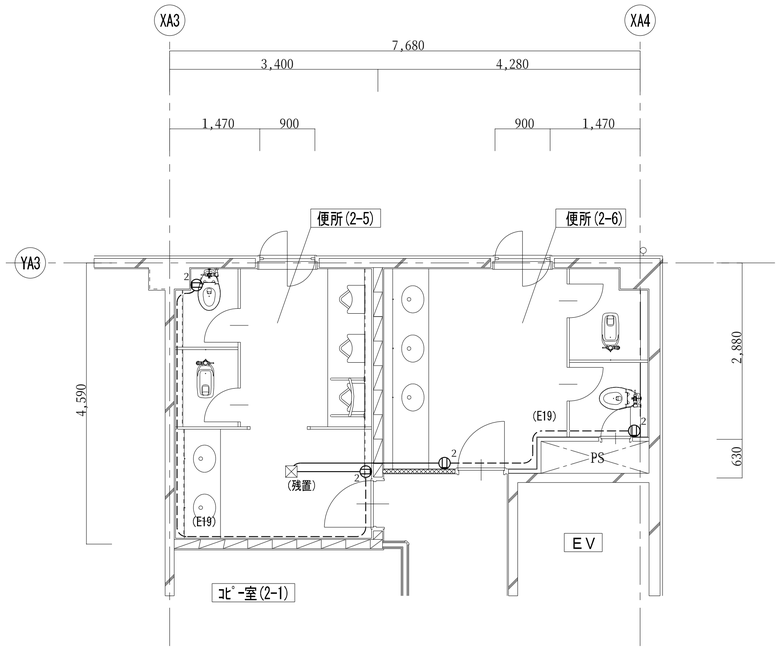
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

————————	天井内隠蔽配管配線工事	—·—·—·—	天井内ころがし配線工事
— — — — — — —	床内隠蔽配管配線工事	·····	露出配管工事
—··—··—··—	ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事		

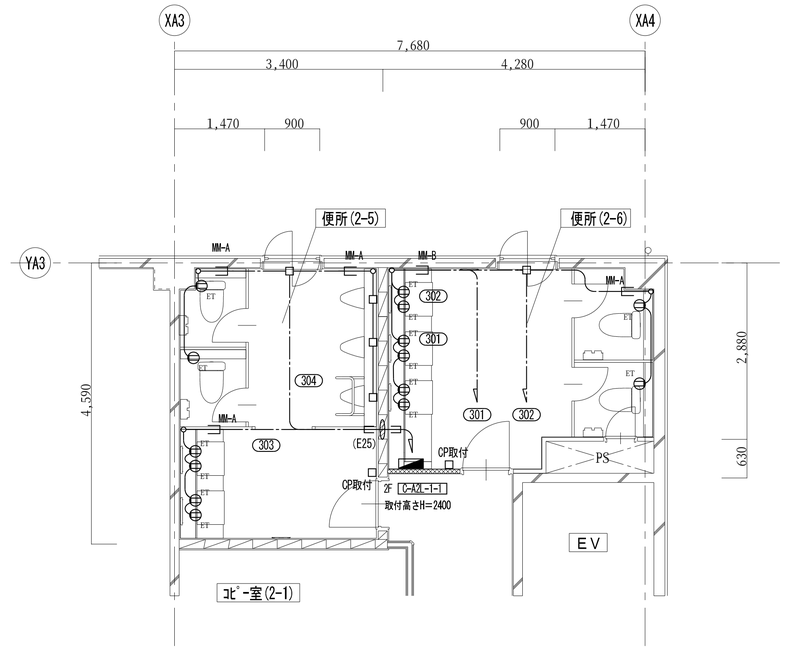
令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事
						図面名称	D1 電灯設備 3階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50
						図面No.	E-04
						設計日	2025年3月

改修前



D1 2階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



D1 2階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
⊕	防雨形コンセント（抜け止め）	2P15Ax1
⊕ 2	露出コンセント	2P15Ax2
⊕ ET	露出コンセント（接地端子付）	2P15Ax2
⊕ EET	露出コンセント（接地極接地端子付）	2P15Ax1
□	アウトレットボックス	
⊠	プルボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	
(残置)	残置を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	—·—·—	VVF 2.0-2C E2.0	(PF22)
	—·-/—·—	EM-EEF 2.0-3C	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- —·—·— 天井内ころがし配線工事
- — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称	
⊕ ET	埋込型コンセント（接地端子付）	2P15Ax1
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
□	アウトレットボックス	
□ CP取付	カバープレート取付	
⊠	プルボックス　200ｘ200ｘ200	
◪	電灯分電盤（既設）	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	—·—·—	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

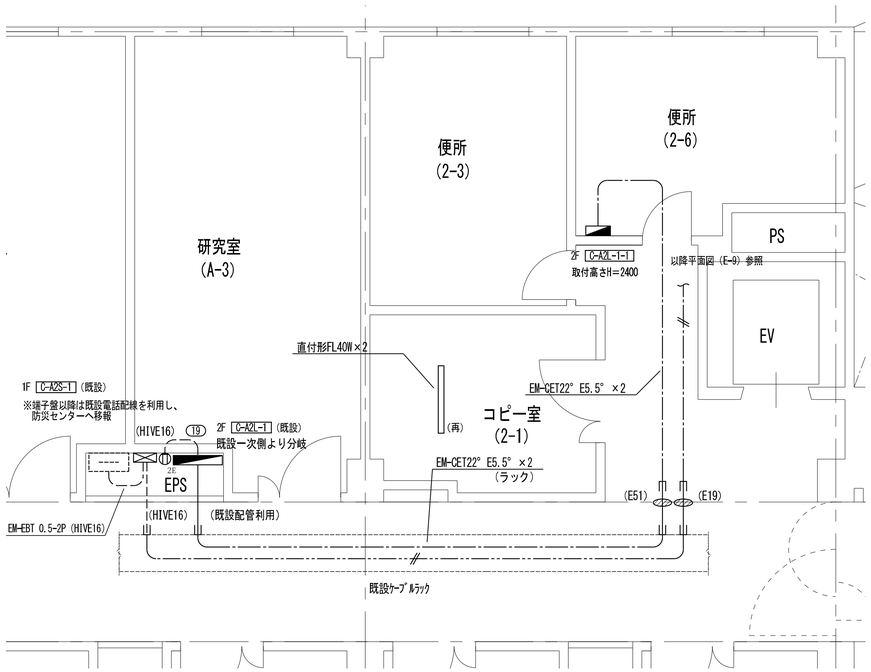
- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- —·—·— 天井内ころがし配線工事
- — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. E-05
図面名称	D1 コンセント設備 2階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2025年3月

改修後



D1 2階平面図（改修後） S = 1/50

凡　　例

記　号	名　　称
ET	埋込型コンセント（接地端子付） 2P15Ax1
ZE	露出コンセント（接地極付） 2P15Ax2
E	通報用ボタン
	緊急通報装置
	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）
	アウトレットボックス
	プルボックス 200ｘ200ｘ200
	電灯分電盤（新設）
	電灯分電盤（既設）
	弱電端子盤（既設）

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。		保護管
差 込 回 路	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)
呼 出 回 路	EM-AE 0.9−2C	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

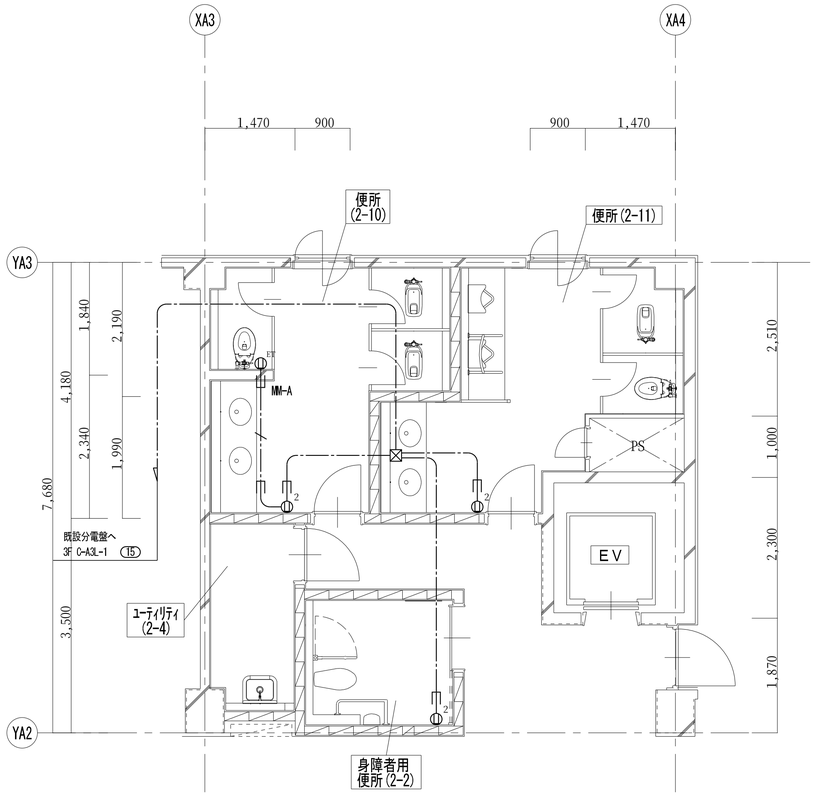
- 天井内隠蔽配管配線工事
- 天井内ころがし配線工事
- 床内隠蔽配管配線工事
- 露出配管工事
- ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

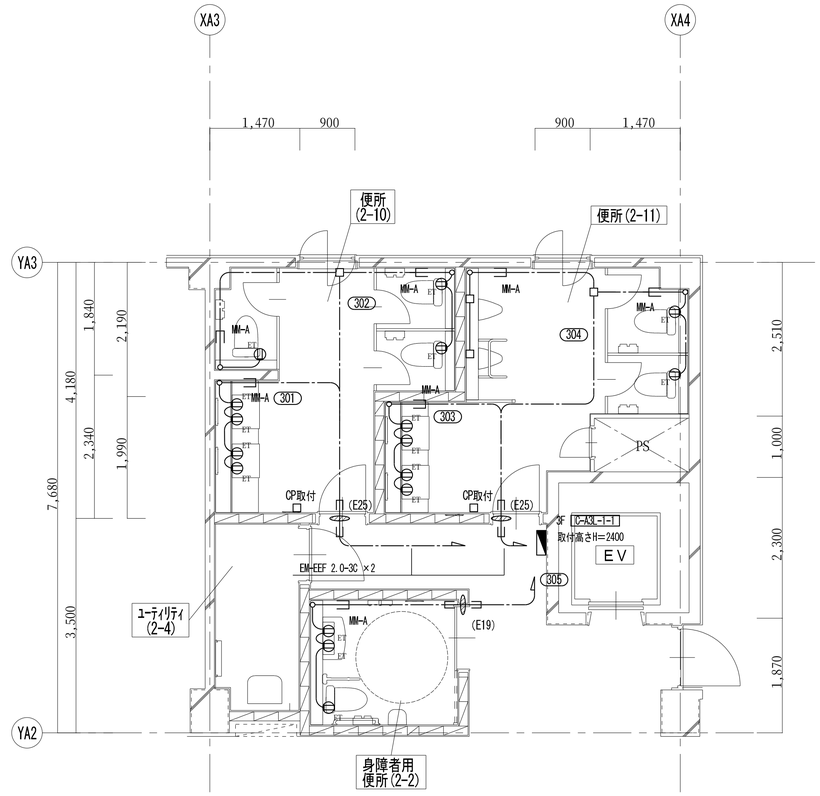
工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No.	E-06
図面名称	D1 幹線・弱電設備 2階平面図（改修後） S = 1/50	設計日	2025年3月

改修前



D1 3階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



D1 3階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
(1)	防雨形コンセント（抜け止め）	2P15Ax1
(1)Z	露出コンセント	2P15Ax2
(1)ET	露出コンセント（接地端子付）	2P15Ax2
(1)EET	露出コンセント（接地極接地端子付）	2P15Ax1
□	アウトレットボックス	
⊠	プルボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	
(残置)	残置を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	——·——·——	VVF 2.0-2C E2.0	(PF22)
	——·/——·——	EM-EEF 2.0-3C	(PF22)
二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。			
壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。			
特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）			

配管配線種別

- ———————— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——·——·—— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称	
(1)ET	埋込型コンセント（接地端子付）	2P15Ax1
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
□	アウトレットボックス	
□CP取付	カバープレート取付	
⊠	プルボックス　200ｘ200ｘ200	
◪	電灯分電盤（既設）	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	——·——·——	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)
二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。			
壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。			
MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）			
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。			

配管配線種別

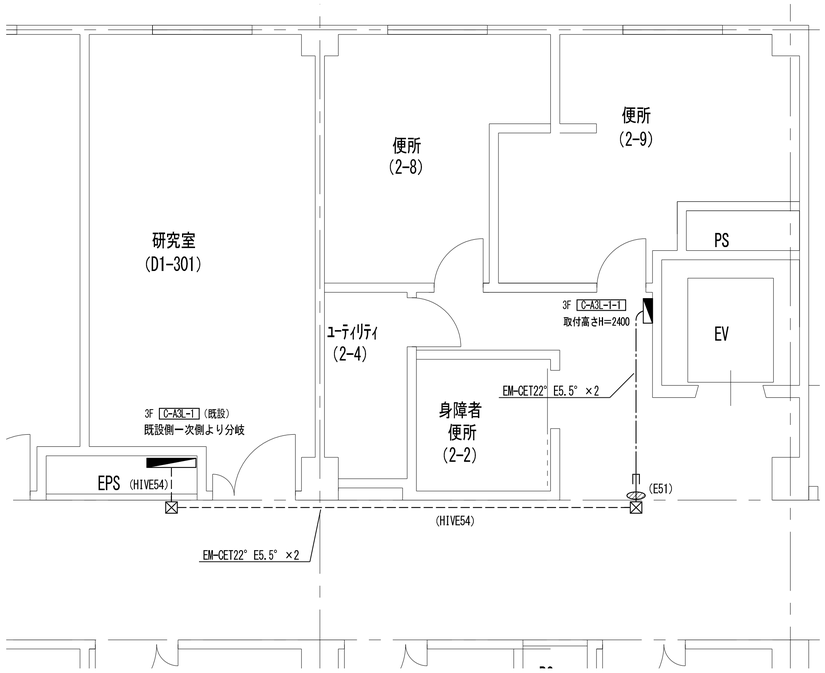
- ———————— 天井内隠蔽配管配線工事
- ——·——·—— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. E-07
図面名称	D1 コンセント設備 3階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2025年3月

改修後



D1 3階平面図（改修後） S = 1/50

凡　　例

記　号	名　　称	
ET	埋込型コンセント（接地端子付）	2P15Ax1
2E	露出コンセント（接地極付）	2P15Ax2
E	通報用ボタン	
	緊急通報装置	
	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
	アウトレットボックス	
	プルボックス　200ｘ200ｘ200	
	電灯分電盤（新設）	
	電灯分電盤（既設）	
	弱電端子盤（既設）	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	——·——·——	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)
呼 出 回 路	——·//—·——	EM-AE 0.9－2C	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

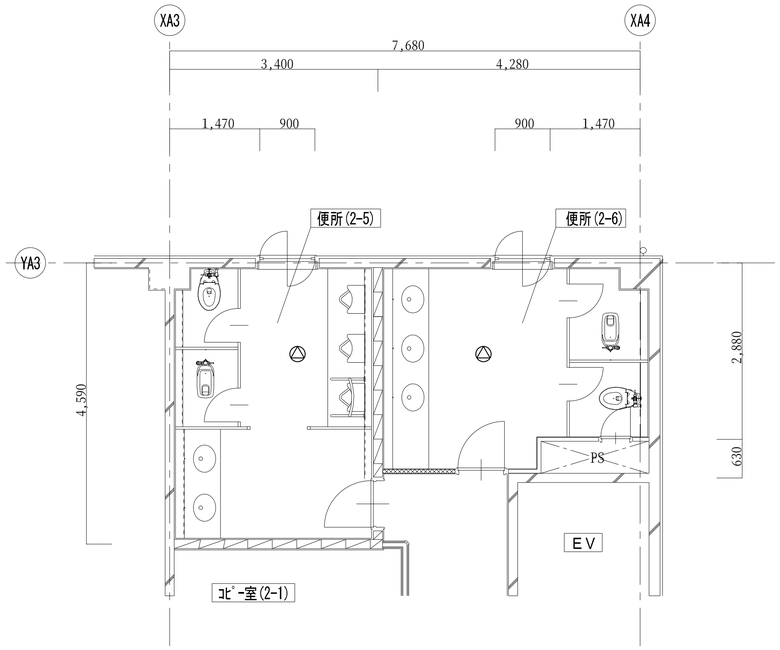
——————　天井内隠蔽配管配線工事　——·——·——　天井内ころがし配線工事

－－－－－－－　床内隠蔽配管配線工事　·····　露出配管工事

——··——··——　ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

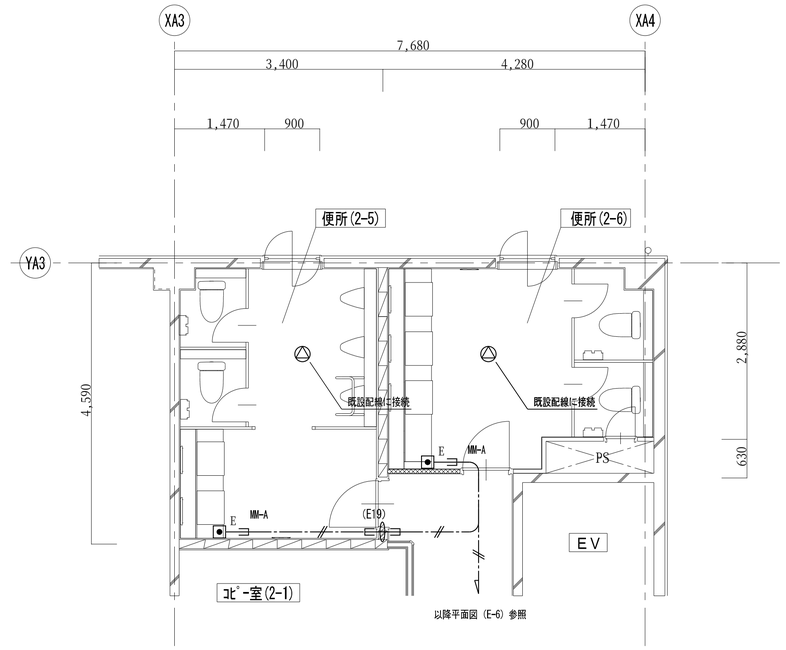
令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No.	E-08
							図面名称	D1　幹線設備　3階平面図（改修後）　S = 1/50	設計日	2025年3月

改修前



D1 2階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



D1 2階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　　例

記　号	名　　称
N	トイレ用呼出押しボタン
	廊下灯
	復旧ボタン
	天井埋込型スピーカー　3W
	壁掛型スピーカー　3W
	アウトレットボックス
	弱電端子盤
(再)	取外し再取付を示す

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
呼　出　回　路		IV 1.2 ×2	(PF16)
		IV 1.2 ×3	(PF16)
		IV 1.2 ×4	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- —·—·— 天井内ころがし配線工事
- — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　　例

記　号	名　　称
N	トイレ用呼出押しボタン
N P	トイレ用呼出押しボタン　ひも付き
	廊下灯
	復旧ボタン
E	通報用ボタン
	天井埋込型スピーカー　3W　(SC_6H_3-$3V_3$-M)
	壁掛型スピーカー　3W　(SW_2H_1-$3V_3$-K)
	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）
	アウトレットボックス
	弱電端子盤(既設)
(再)	取外し再取付を示す

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
呼　出　回　路		EM-AE 1.2−2C	(PF16)
		EM-AE 1.2−3C	(PF16)
		EM-AE 0.9−2C	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

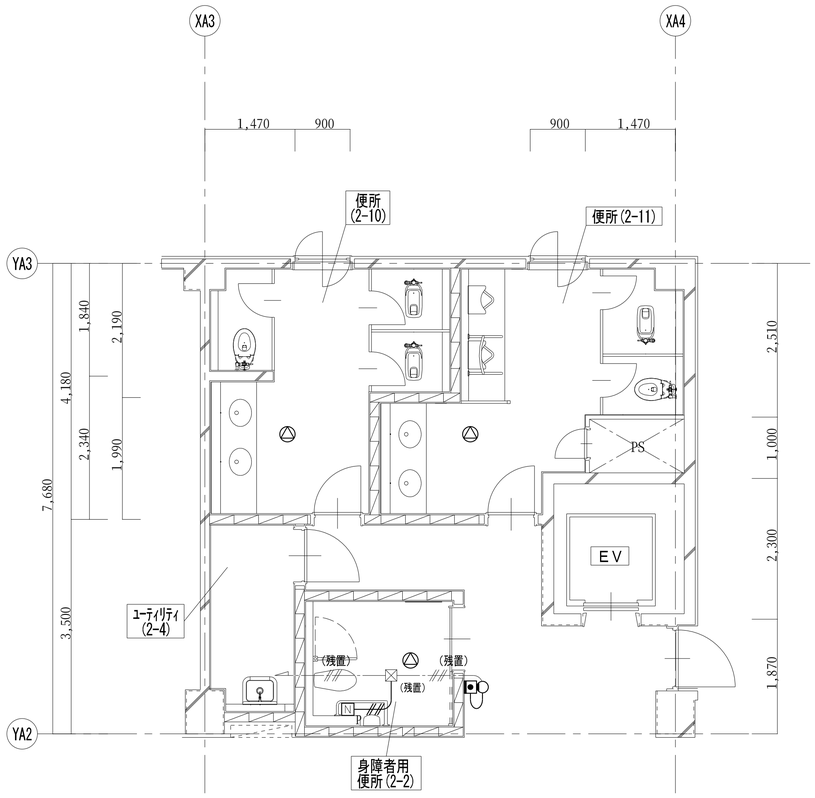
- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- —·—·— 天井内ころがし配線工事
- — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

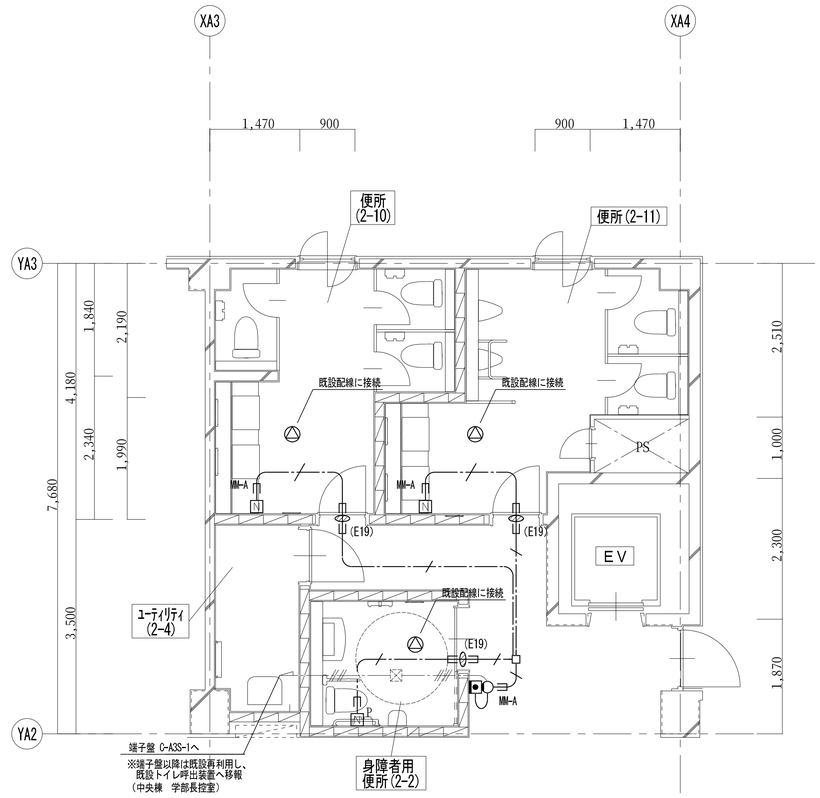
工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. E-09
図面名称	D1 弱電設備 2階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2025年3月

改修前



D1 3階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



D1 3階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称
N	トイレ用呼出押しボタン
	廊下灯
	復旧ボタン
	天井埋込型スピーカー　3W
	壁掛型スピーカー　3W
□	アウトレットボックス
—	弱電端子盤
(再)	取外し再取付を示す

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
呼　出　回　路	—·—·—	IV 1.2 ×2	(PF16)
	—·/·—	IV 1.2 ×3	(PF16)
	—·///·—	IV 1.2 ×4	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- —·—·— 天井内ころがし配線工事
- — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称
N	トイレ用呼出押しボタン
N p	トイレ用呼出押しボタン　ひも付き
	廊下灯
	復旧ボタン
E	通報用ボタン
	天井埋込型スピーカー　3W　(SC_6H_1-$3V_3$-M)
	壁掛型スピーカー　3W　(SW_2H_1-$3V_3$-K)
	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）
□	アウトレットボックス
	弱電端子盤(既設)
(再)	取外し再取付を示す

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
呼　出　回　路	—·—·—	EM-AE 1.2−2C	(PF16)
	—·/·—	EM-AE 1.2−3C	(PF16)
	—·//·—	EM-AE 0.9−2C	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

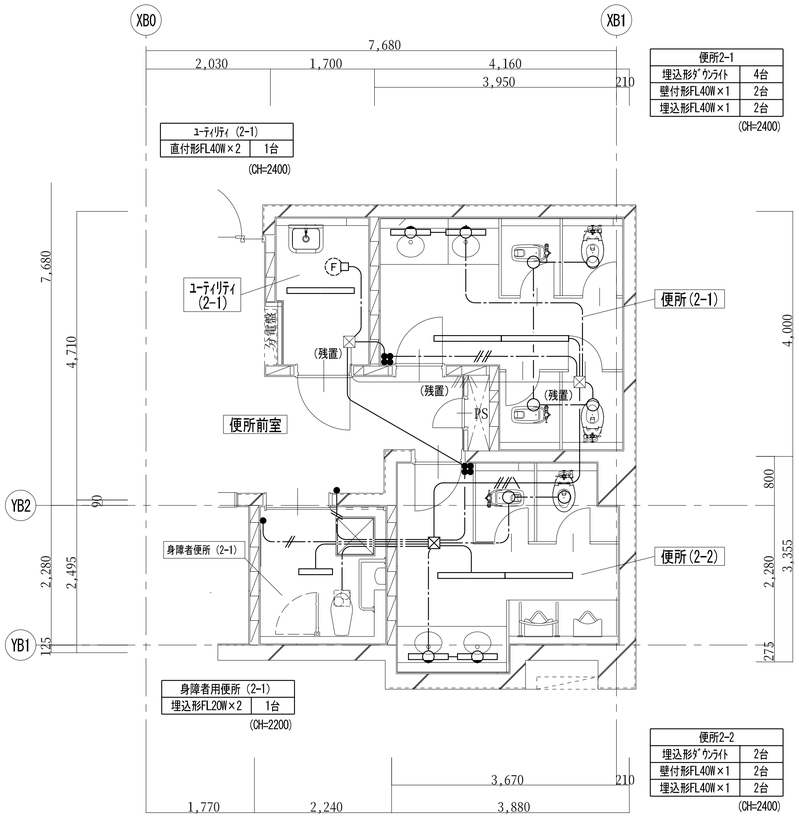
- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- —·—·— 天井内ころがし配線工事
- — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

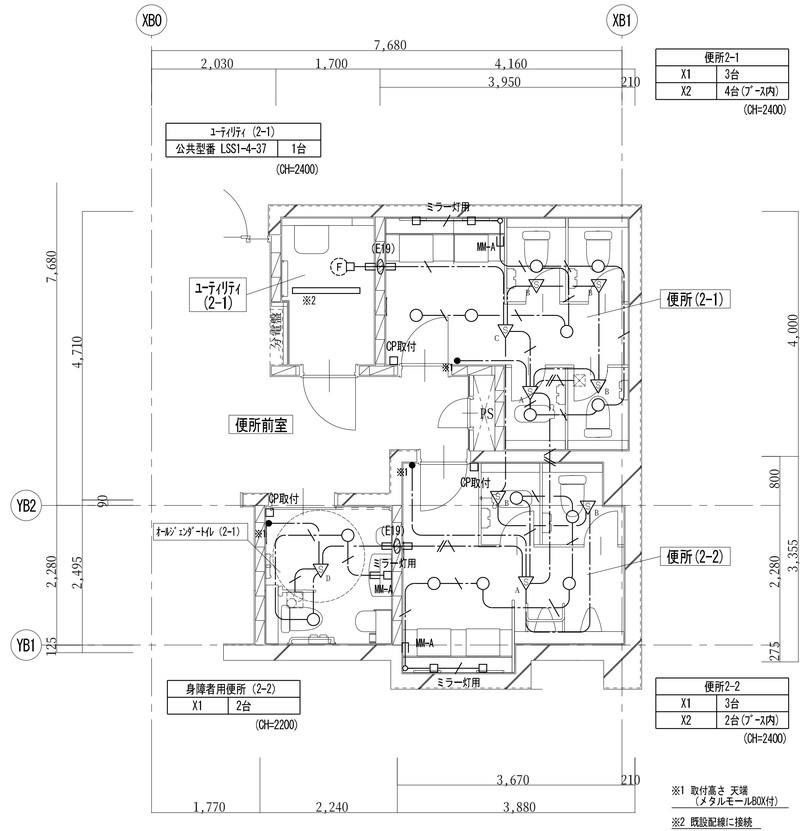
工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事		図面No. E-10
図面名称	D1 弱電設備 3階平面詳細図（改修前・改修後）	S = 1/50	設計日 2025年3月

改修前



D2 1階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



D2 1階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
●	埋込スイッチ	1P15Ax1
⁘	埋込スイッチ	1P15Ax4
⏀	天井コンセント	2P15Ax1
□	アウトレットボックス	
⊠	プルボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	
(残置)	残置を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電灯回路	——-//-·——	VV-F 2.0-2C	(PF22)
	——-·——-·——	VV-F 2.0-3C	(PF22)
	——//-//-·——	VV-F 2.0-2C x2	(PF22)
	——///-///-——	VV-F 2.0-3C x2	(PF22)x2
	——//-//-\-——	IV 2.0×4 E2.0	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

————	天井内隠蔽配管配線工事	——-·——-·——	天井内ころがし配線工事
— — — — —	床内隠蔽配管配線工事	·····	露出配管工事
——-·——-·——	ケーブルラック配線工事		

凡　例

記　号	名　称	
●	埋込型スイッチ	1P15Ax1　ネーム付
⁘	埋込型スイッチ	1P15Ax2　ネーム付
▽A	天井付熱線センサ付自動スイッチ	親機・8Aタイプ・微動検知形
▽B	天井付熱線センサ付自動スイッチ	子機・微動検知形
▽C	天井付熱線センサ付自動スイッチ	子機・換気扇連動用・3系統連動形
▽D	天井付熱線センサ付自動スイッチ	親機・換気扇連動用
⏀ ELT	天井コンセント（抜け止め・接地極付）	2P15AEx1
⬭	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
□CP取付	カバープレート取付	
□	アウトレットボックス	
⊠	プルボックス　200ｘ200ｘ200	
◪	電灯分電盤（既設）	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電灯回路	——-·——-·——	EM-EEF 1.6-2C	(PF16)
	——-\-——-·——	EM-EEF 1.6-3C(1E)	(PF22)
	——-//-\-——	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

貫通穴はコンセント共用とする。

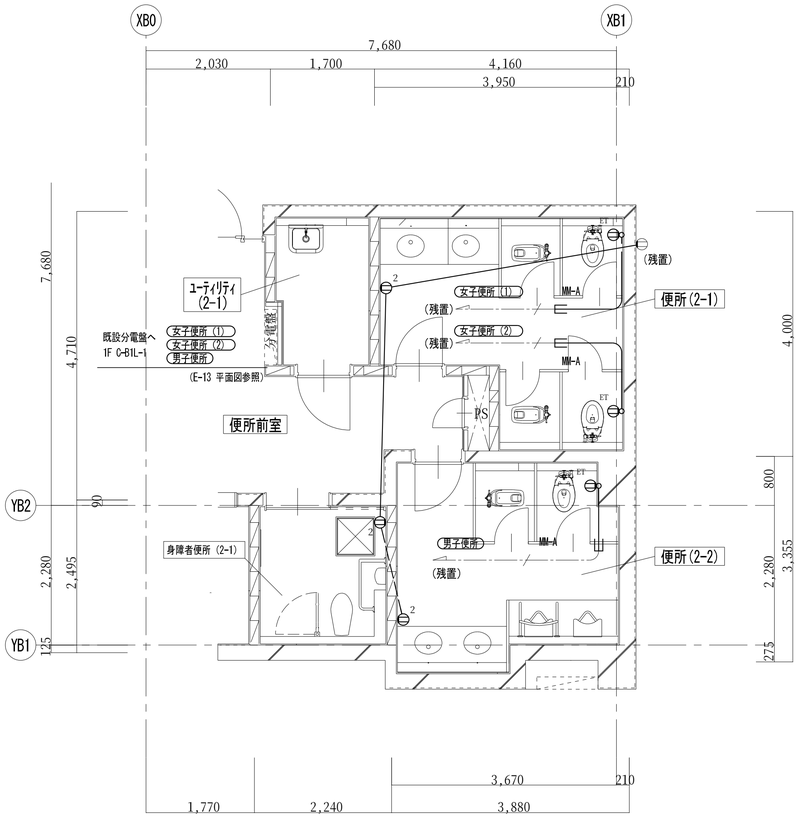
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

————	天井内隠蔽配管配線工事	——-·——-·——	天井内ころがし配線工事
— — — — —	床内隠蔽配管配線工事	·····	露出配管工事
——-·——-·——	ケーブルラック配線工事		

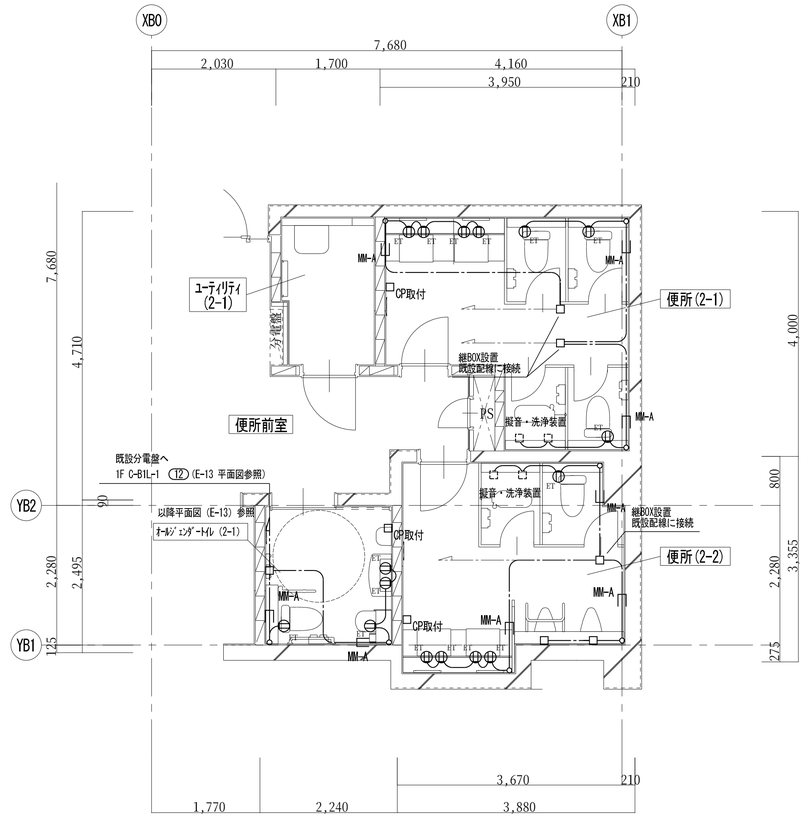
令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課	株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. E-11
			図面名称	D2 電灯設備 1階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2025年3月

改修前



D2 1階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



D2 1階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
⊕	防雨形コンセント（抜け止め）	2P15Ax1
⊕ 2	露出コンセント	2P15Ax2
⊕ ET	露出コンセント（接地端子付）	2P15Ax2
⊕ EET	露出コンセント（接地極接地端子付）	2P15Ax1
□	アウトレットボックス	
⊠	プルボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	
(残置)	残置を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	——·——·——	VVF 2.0-2C E2.0	(PF22)
	——·—/—·——	EM-EEF 2.0-3C	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- —·—·—·— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称	
⊕ ET	埋込型コンセント（接地端子付）	2P15Ax1
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
□	アウトレットボックス	
□ CP取付	カバープレート取付	
⊠	プルボックス 200ｘ200ｘ200	
◪	電灯分電盤（既設）	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	——·——·——	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

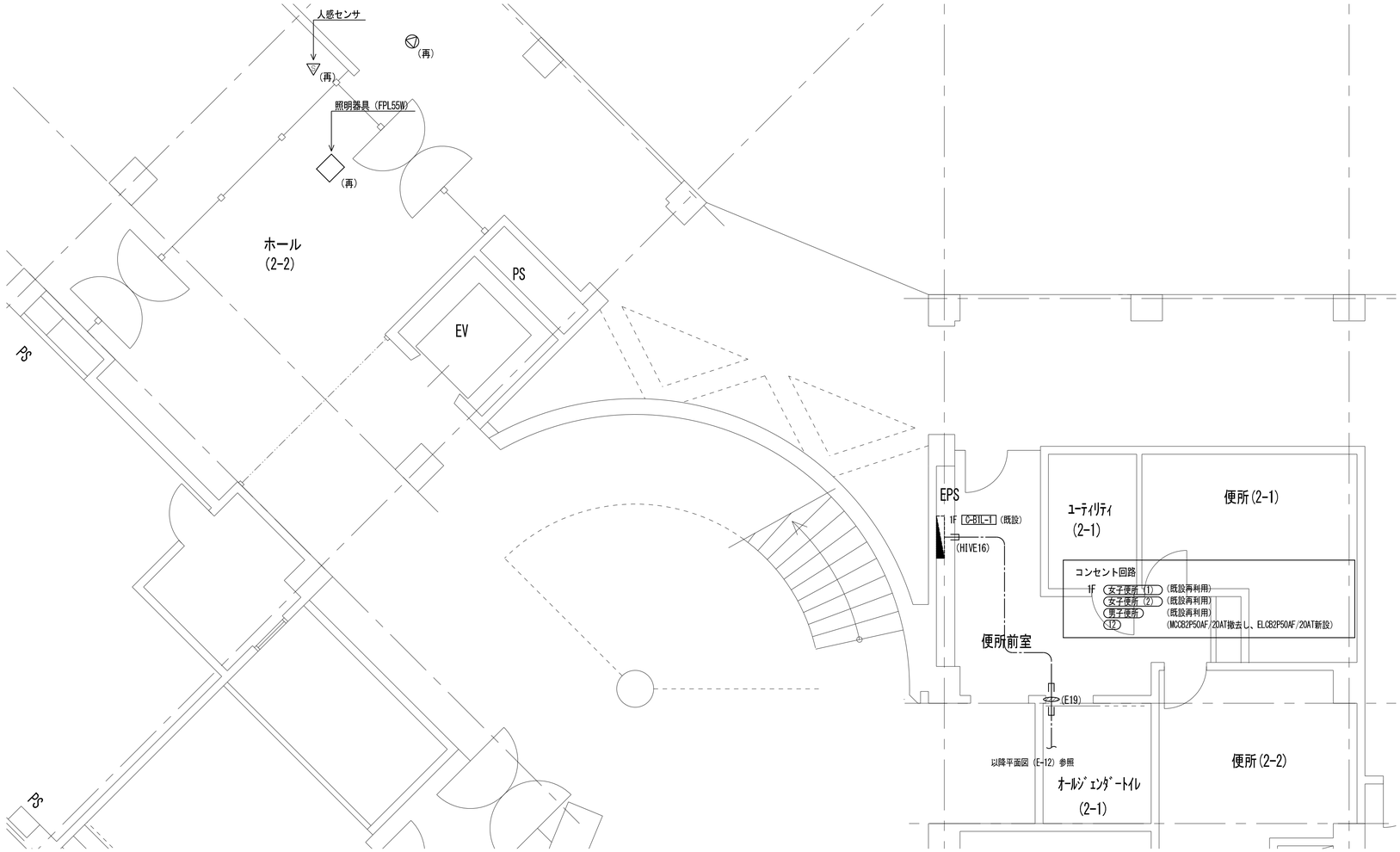
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- —·—·—·— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課					株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. E-12
							図面名称	D2 コンセント設備 1階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2025年3月

改修後



D2 1階平面図（改修後） S = 1/50

凡　　例

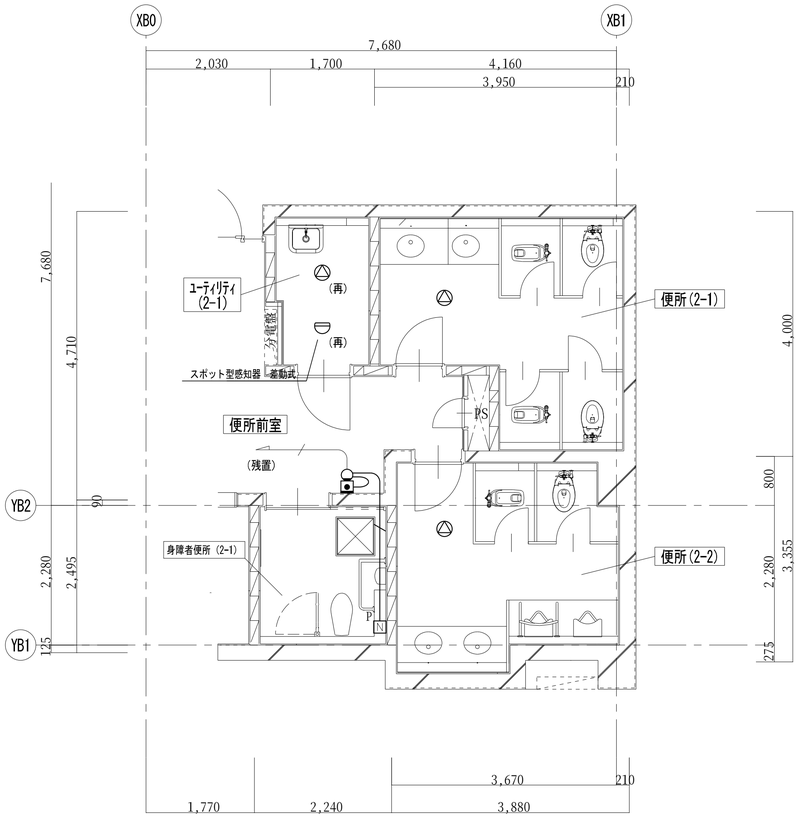
記　号	名　　称	
ET	埋込型コンセント（接地端子付）	2P15Ax1
2E	露出コンセント（接地極付）	2P15Ax2
E	通報用ボタン	
	緊急通報装置	
	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
	アウトレットボックス	
	プルボックス　200ｘ200ｘ200	
	電灯分電盤（新設）	
	電灯分電盤（既設）	
	弱電端子盤（既設）	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。		保護管
差 込 回 路	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)
呼 出 回 路	EM-AE 0.9－2C	(PF16)
二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。		
壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。		
MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）		
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。		
配管配線種別		
———————— 天井内隠蔽配管配線工事	—·—·— 天井内ころがし配線工事	
— — — — — — 床内隠蔽配管配線工事	····· 露出配管工事	
—··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事		

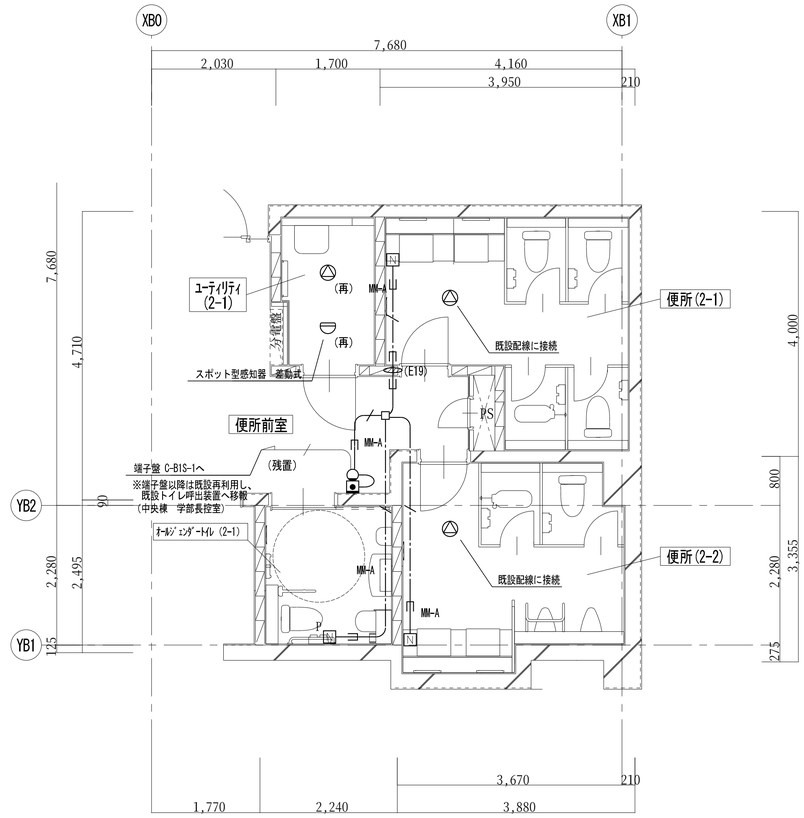
令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. E-13
						図面名称	D2 コンセント設備 1階平面図（改修後） S = 1/50	設計日 2025年3月

改修前



D2 1階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



D2 1階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称
N	トイレ用呼出押しボタン
	廊下灯
	復旧ボタン
	天井埋込型スピーカー　3W
	壁掛型スピーカー　3W
	アウトレットボックス
	弱電端子盤
(再)	取外し再取付を示す

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
呼　出　回　路		IV 1.2 ×2	(PF16)
		IV 1.2 ×3	(PF16)
		IV 1.2 ×4	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- 天井内隠蔽配管配線工事
- 天井内ころがし配線工事
- 床内隠蔽配管配線工事
- 露出配管工事
- ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称
N	トイレ用呼出押しボタン
N P	トイレ用呼出押しボタン　ひも付き
	廊下灯
	復旧ボタン
E	通報用ボタン
	天井埋込型スピーカー　3W　(SC_6H_1-$3V_3$-M)
	壁掛型スピーカー　3W　(SW_2H_1-$3V_3$-K)
	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）
	アウトレットボックス
	弱電端子盤(既設)
(再)	取外し再取付を示す

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
呼　出　回　路		EM-AE 1.2−2C	(PF16)
		EM-AE 1.2−3C	(PF16)
		EM-AE 0.9−2C	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

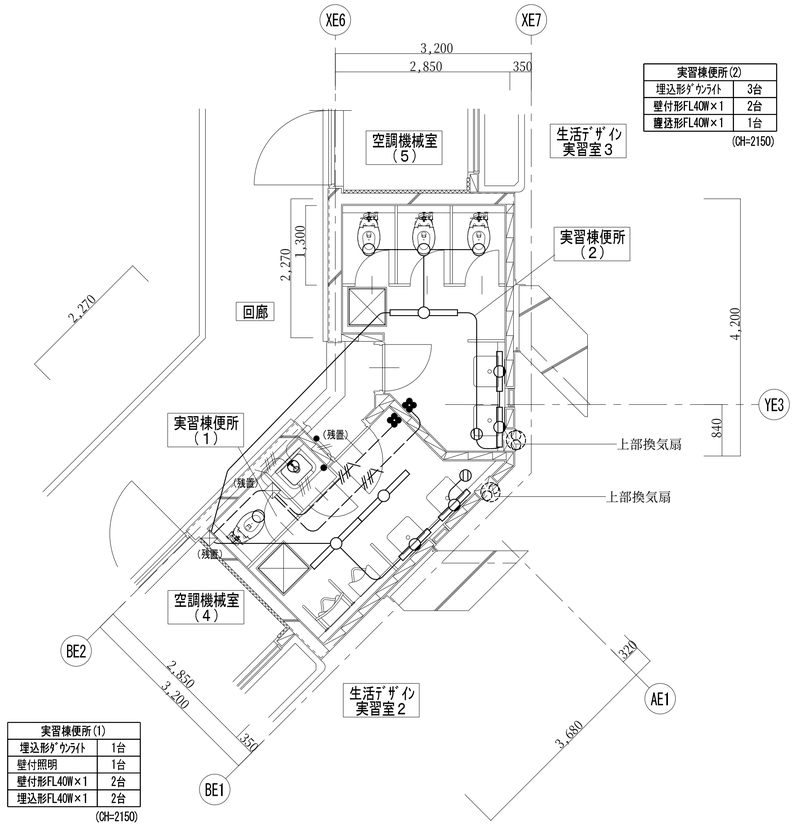
- 天井内隠蔽配管配線工事
- 天井内ころがし配線工事
- 床内隠蔽配管配線工事
- 露出配管工事
- ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. E-14
図面名称	D2 弱電設備 1階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2025年3月

改修前



実習棟便所(2)	
埋込形ﾀﾞｳﾝﾗｲﾄ	3台
壁付形FL40W×1	2台
壁埋形FL40W×1	1台

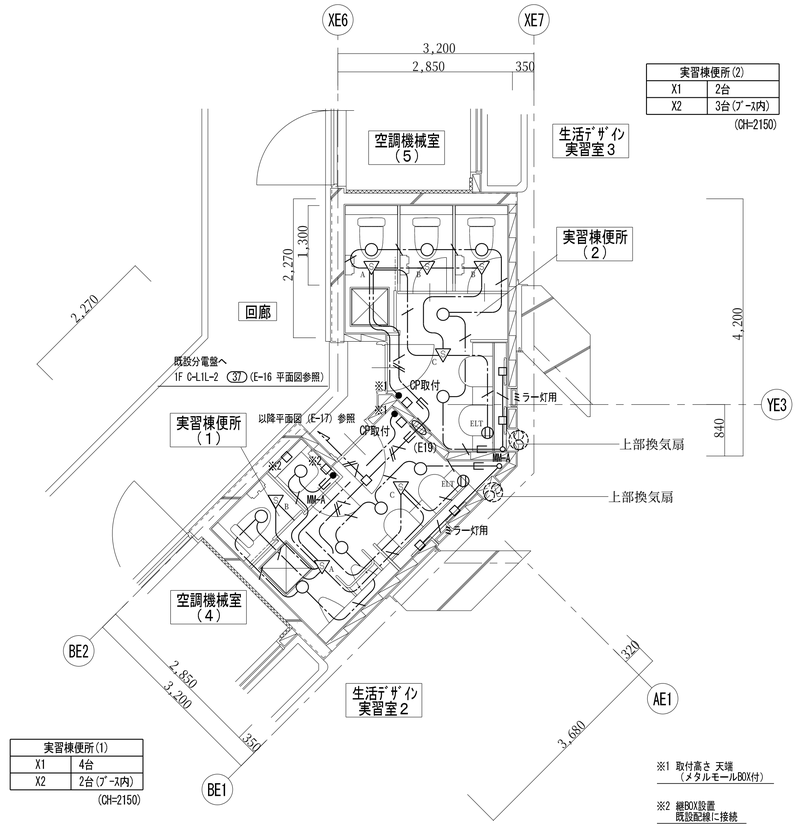
(CH=2150)

実習棟便所(1)	
埋込形ﾀﾞｳﾝﾗｲﾄ	1台
壁付照明	1台
壁付形FL40W×1	2台
埋込形FL40W×1	2台

(CH=2150)

D6 1階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



実習棟便所(2)	
X1	2台
X2	3台(ﾌﾞｰｽ内)

(CH=2150)

実習棟便所(1)	
X1	4台
X2	2台(ﾌﾞｰｽ内)

(CH=2150)

D6 1階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
●	埋込スイッチ	1P15Ax1
■	埋込スイッチ	1P15Ax4
⦶	天井コンセント	2P15Ax1
□	アウトレットボックス	
⊠	プルボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	
(残置)	残置を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	—·—//—·—	VV-F 2.0-2C	(PF22)
	—·—·—	VV-F 2.0-3C	(PF22)
	—·//—//·—	VV-F 2.0-2C x2	(PF22)
	—//—//—	VV-F 2.0-3C x2	(PF22)x2
	—//—//\·—	IV 2.0×4 E2.0	(PF16)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- —·—·— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

凡　例

記　号	名　称	
●	埋込型スイッチ	1P15Ax1　ネーム付
■	埋込型スイッチ	1P15Ax2　ネーム付
▽A	天井付熱線センサ付自動スイッチ　親機・8Aタイプ・微動検知形	
▽B	天井付熱線センサ付自動スイッチ　子機・微動検知形	
▽C	天井付熱線センサ付自動スイッチ　子機・換気扇連動用・3系統連動形	
▽D	天井付熱線センサ付自動スイッチ　親機・換気扇連動用	
⦶ELT	天井コンセント（抜け止め・接地極付）	2P15AEx1
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
□CP取付	カバープレート取付	
□	アウトレットボックス	
⊠	プルボックス　200x200x200	
◪	電灯分電盤（既設）	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
電　灯　回　路	—·—·—	EM-EEF 1.6-2C	(PF16)
	—·\·—	EM-EEF 1.6-3C(1E)	(PF22)
	—·//\·—	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)

二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。

壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。

MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）

貫通穴はコンセント共用とする。

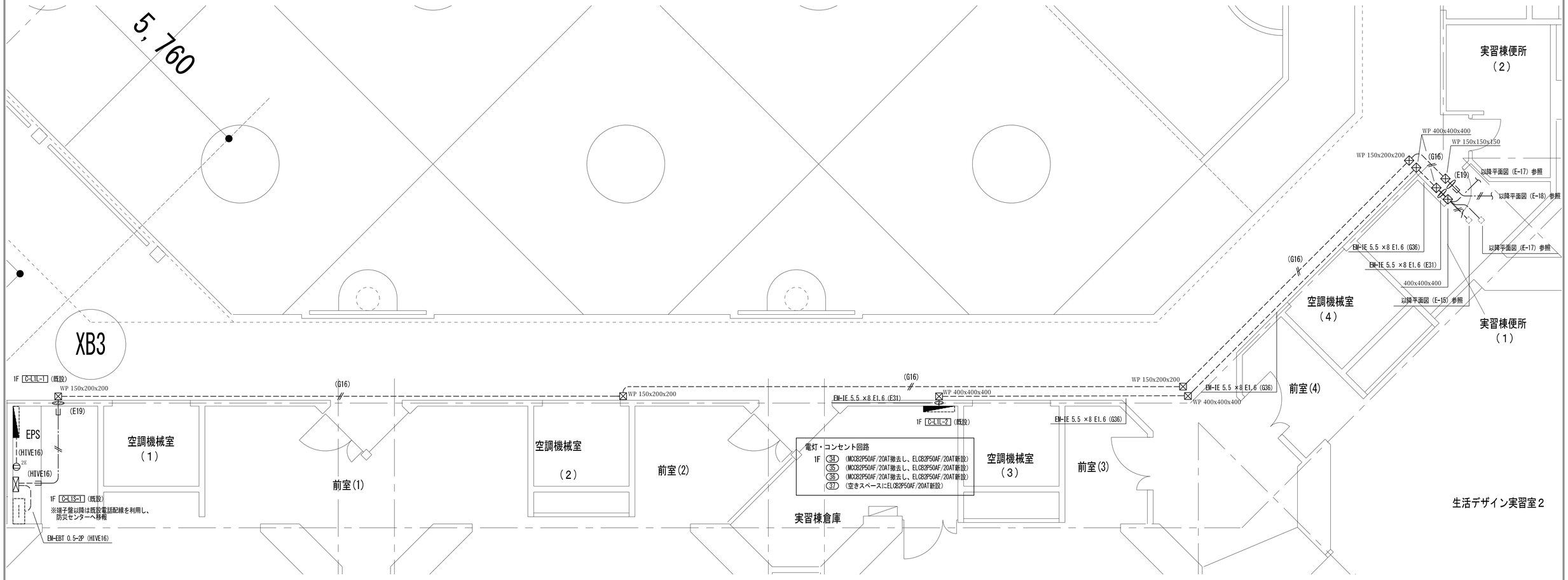
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。

配管配線種別

- ———— 天井内隠蔽配管配線工事
- —·—·— 天井内ころがし配線工事
- — — — — — 床内隠蔽配管配線工事
- ····· 露出配管工事
- —··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				
	株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No.	E-15
		図面名称	D6 電灯設備 1階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日	2025年3月

改修後



D6 1階平面図（改修後） S = 1/50

凡　　例

記　号	名　　称	
ET	埋込型コンセント（接地端子付）	2P15Ax1
2E	露出コンセント（接地極付）	2P15Ax2
E	通報用ボタン	
	緊急通報装置	
	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
	アウトレットボックス	
	プルボックス　200ｘ200ｘ200	
	電灯分電盤（新設）	
	電灯分電盤（既設）	
	弱電端子盤（既設）	

特　記　事　項

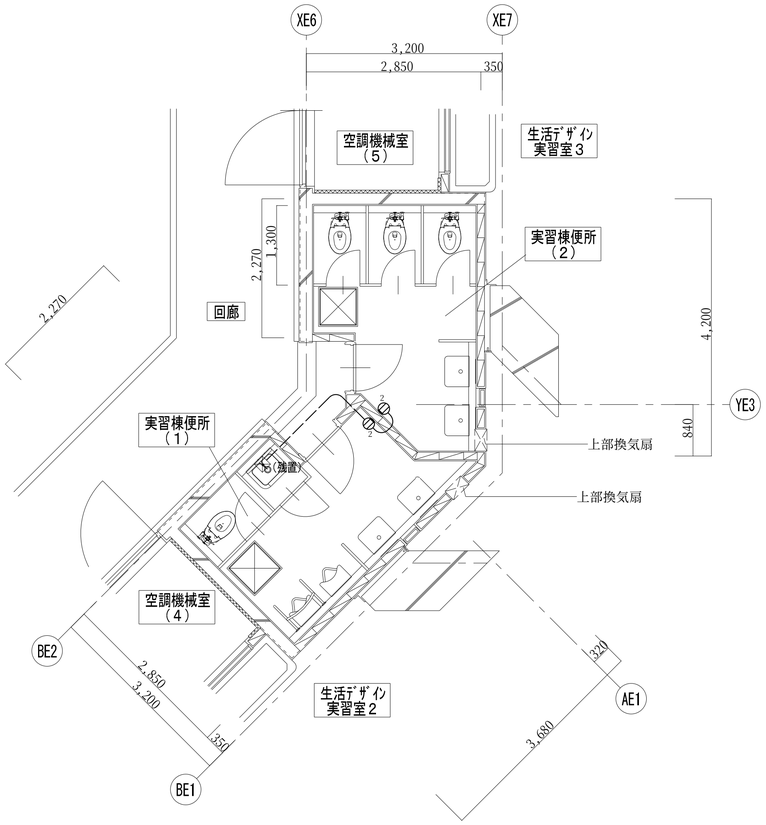
特記なき配管配線は下記とする。		保護管
差 込 回 路	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)
呼 出 回 路	EM-AE 0.9−2C	(PF16)
二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。		
壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。		
MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）		
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。		
配管配線種別		
———— 天井内隠蔽配管配線工事	—·—·— 天井内ころがし配線工事	
— — — — — 床内隠蔽配管配線工事	····· 露出配管工事	
—··—··— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事		

令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				

株式会社 総合設備コンサルタント

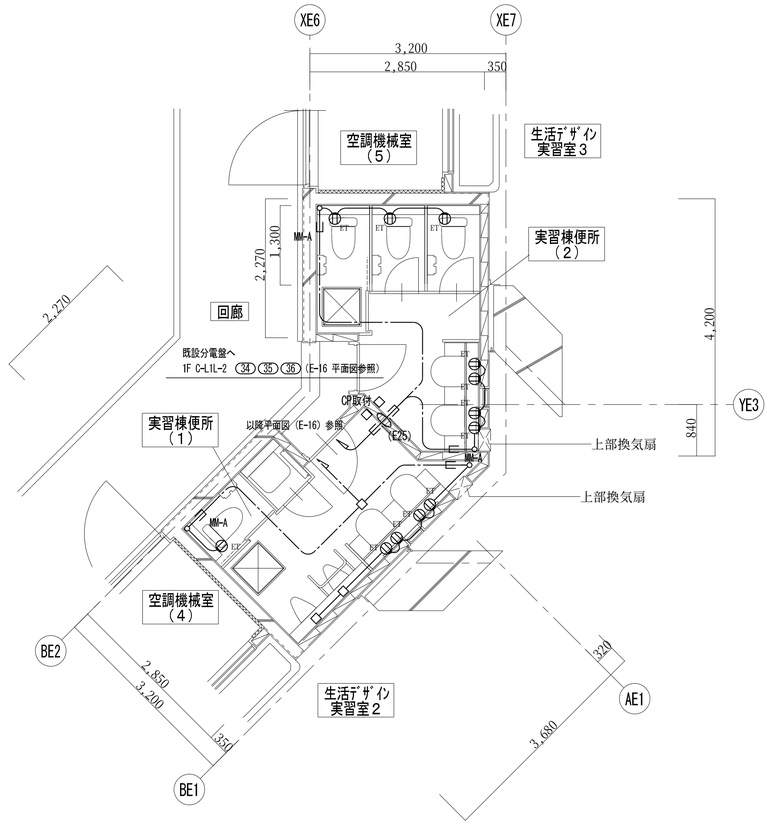
工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. E-16
図面名称	D6 電灯・コンセント・弱電設備 1階平面図（改修後） S = 1/50	設計日 2025年3月

改修前



D6 1階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



D6 1階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　例

記　号	名　称	
⊕	防雨形コンセント（抜け止め）	2P15Ax1
⊕ 2	露出コンセント	2P15Ax2
⊕ ET	露出コンセント（接地端子付）	2P15Ax2
⊕ EET	露出コンセント（接地極接地端子付）	2P15Ax1
□	アウトレットボックス	
⊠	プルボックス	
◪	電灯分電盤	
(再)	取外し再取付を示す	
(残置)	残置を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	——·——·——	VVF 2.0-2C E2.0	(PF22)
	——·—/—·——	EM-EEF 2.0-3C	(PF22)
二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。			
壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。			
特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）			
配管配線種別 ———— 天井内隠蔽配管配線工事　——·——·—— 天井内ころがし配線工事 — — — — — 床内隠蔽配管配線工事　····· 露出配管工事 ——··——··—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事			

凡　例

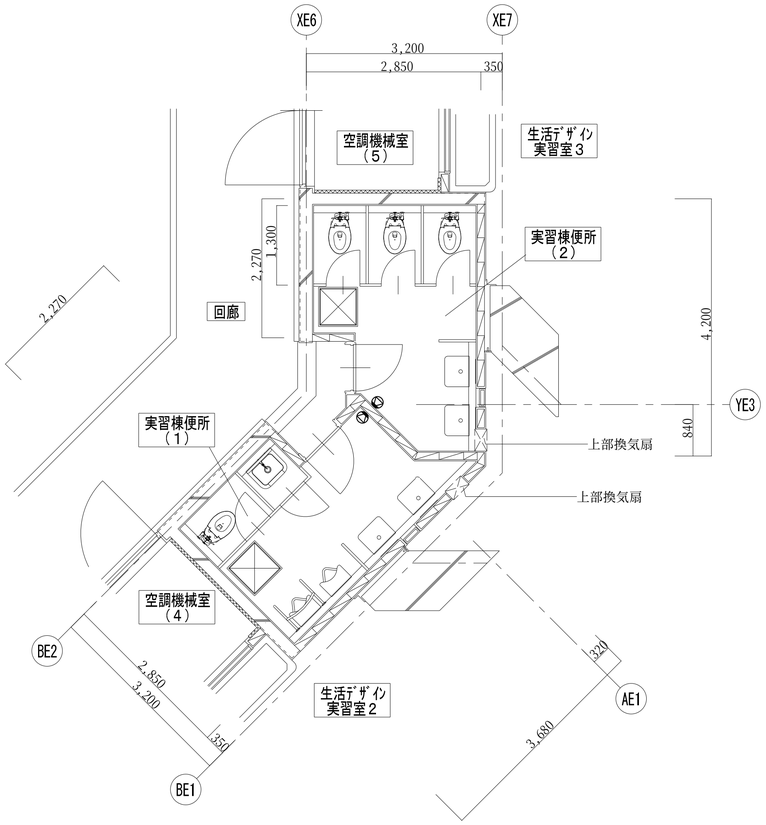
記　号	名　称	
⊕ ET	埋込型コンセント（接地端子付）	2P15Ax1
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）	
□	アウトレットボックス	
□ CP取付	カバープレート取付	
⊠	プルボックス　200ｘ200ｘ200	
◪	電灯分電盤（既設）	
(再)	取外し再取付を示す	

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
差 込 回 路	——·——·——	EM-EEF 2.0-3C(1E)	(PF22)
二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。			
壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。			
MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）			
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。			
配管配線種別 ———— 天井内隠蔽配管配線工事　——·——·—— 天井内ころがし配線工事 — — — — — 床内隠蔽配管配線工事　····· 露出配管工事 ——··——··—— ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事			

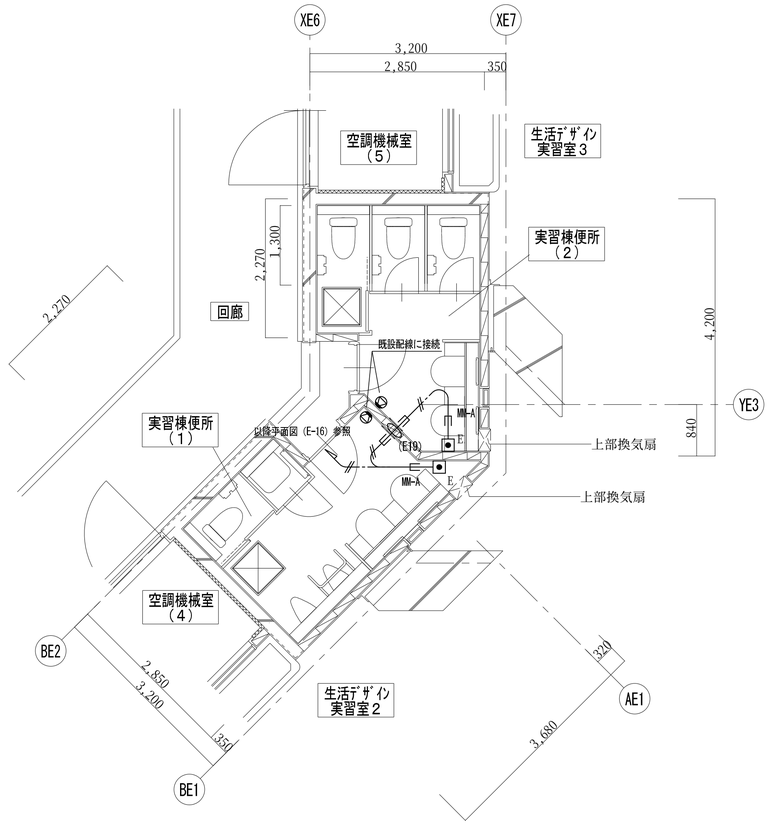
令和7年 3月 日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. E-17
						図面名称	D6 コンセント設備 1階平面詳細図（改修前・改修後） S = 1/50	設計日 2025年3月

改修前



D6 1階平面詳細図（改修前） S = 1/50

改修後



D6 1階平面詳細図（改修後） S = 1/50

凡　　例

記　号	名　　称
N	トイレ用呼出押しボタン
○	廊下灯
●	復旧ボタン
△	天井埋込型スピーカー　3W
▽	壁掛型スピーカー　3W
□	アウトレットボックス
▭	弱電端子盤
(再)	取外し再取付を示す

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
呼　出　回　路	——-——-——	IV 1.2 ×2	(PF16)
	——-/——-——	IV 1.2 ×3	(PF16)
	——-//——-——	IV 1.2 ×4	(PF16)
二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。			
壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。			
特記無き器具類、配管配線は全て撤去する。（打込配管の場合はケーブル類のみ撤去とする。）			

配管配線種別

————————	天井内隠蔽配管配線工事	——-——-——	天井内ころがし配線工事
— — — — — -	床内隠蔽配管配線工事	……	露出配管工事
——-·——-·——	ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事		

凡　　例

記　号	名　　称
N	トイレ用呼出しボタン
N p	トイレ用呼出押しボタン　ひも付き
○	廊下灯
●	復旧ボタン
●E	通報用ボタン
△	天井埋込型スピーカー　3W　(SC_6H_1-$3V_3$-M)
▽	壁掛型スピーカー　3W　(SW_2H_1-$3V_3$-K)
▨	既設コンクリート・床貫通を示す（防火区画貫通処理含む）
□	アウトレットボックス
▭	弱電端子盤(既設)
(再)	取外し再取付を示す

特　記　事　項

特記なき配管配線は下記とする。			保護管
呼　出　回　路	——-——-——	EM-AE 1.2−2C	(PF16)
	——-/——-——	EM-AE 1.2−3C	(PF16)
	——-//——-——	EM-AE 0.9−2C	(PF16)
二重天井内配線はケーブルころがし配線とする。			
壁内配線及び貫通部分はPF電線管にて保護すること。			
MM-A・B表記はメタルモールA型・B型を示す。（メタルモールボックス共）			
防火区画及び界壁貫通の場合は、建築設備・施工上の指導指針により施工すること。			

配管配線種別

————————	天井内隠蔽配管配線工事	——-——-——	天井内ころがし配線工事
— — — — — -	床内隠蔽配管配線工事	……	露出配管工事
——-·——-·——	ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ配線工事		

令和7年　3月　日	滋賀県立大学財務課				株式会社 総合設備コンサルタント	工事名称	滋賀県立大学D棟トイレ改修後期工事	図面No. E-18
						図面名称	D6 弱電設備　1階平面詳細図（改修前・改修後）　S = 1/50	設計日 2025年3月